東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書12

― 君津市鹿島台遺跡（C区）―

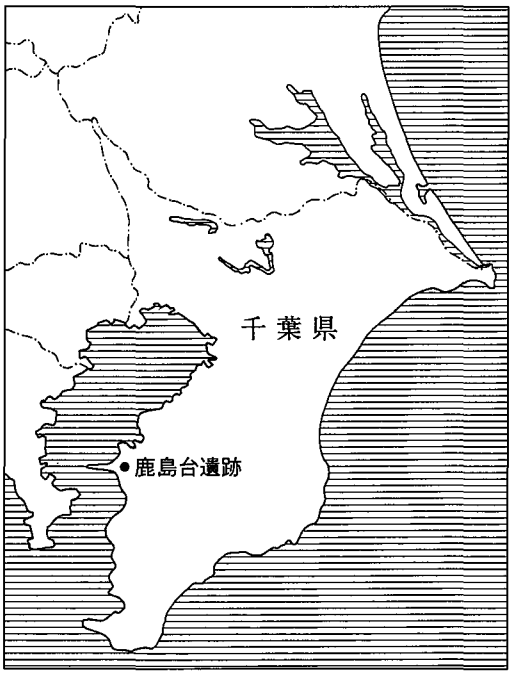
平成21年3月

東日本高速道路株式会社

財団法人　千葉県教育振興財団

東関東自動車道（木更津・富津線）
埋蔵文化財調査報告書12

―君津市鹿島台遺跡（C区）―



玉類

石製模造品・紡錘車

序　文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その結果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第614集として、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）関東支社の東関東自動車道千葉富津線（木更津・富津）建設事業に伴って実施した君津市鹿島台遺跡（Ｃ区）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、弥生時代から古墳時代に至るまでの竪穴住居跡を多数検出するとともに、鹿島台古墳群に属する古墳の一部を調査し、この地域の歴史を知る上で多くの貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、本書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年３月

財団法人　千葉県教育振興財団

理事長　　福　島　義　弘

凡　例

1　本書は、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）による東関東自動車道（木更津・富津線）建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は、千葉県君津市六手字鹿島台761－１ほかに所在する鹿島台遺跡Ｃ区（遺跡コード225－020）と鹿島台古墳群（遺跡コード225－021）の一部である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、東日本高速道路株式会社の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は、第２章第１節１の土器を安井健一、第２章第３節の竪穴住居跡を木島桂子、それ以外を栗田則久が担当した。編集は栗田が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、東日本高速道路株式会社及び君津市教育委員会の御指導、御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は、以下のとおりである。

　第２図　　国土地理院発行　1/25,000地形図「鹿野山」（N1－54－26－1－1）

8　周辺地形の航空写真は、京葉測量株式会社による平成42年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。測量については、日本測地系に基づいている。

本文目次

序文
凡例
第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査の概要…… 1
　　１　調査の経緯と経過…… 1
　　２　調査の方法…… 2
　第２節　遺跡の位置と環境…… 3
　　１　地理的環境…… 3
　　２　歴史的環境…… 4
第２章　遺構と遺物…… 21
　第１節　縄文時代…… 21
　　１　北側斜面部遺物集中地点…… 21
　　２　遺構外出土遺物…… 58
　第２節　弥生時代…… 93
　　１　竪穴住居跡…… 93
　　２　土坑…… 136
　　３　遺構外出土遺物…… 137
　第３節　古墳時代…… 142
　　１　古墳…… 142
　　２　竪穴住居跡…… 151
　　３　土坑…… 209
　　４　壷棺墓…… 209
　　５　溝状遺構…… 212
　　６　遺構外出土遺物…… 214
　第４節　奈良・平安時代以降…… 215
　　１　遺構外出土土器…… 215
第３章　まとめ…… 216
　第１節　出土土器の位置づけ…… 216
　　１　弥生時代…… 216
　　２　古墳時代…… 217
　第２節　祭祀遺物と遺構…… 219
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　グリッド名称例 …… 3
第 2 図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5
第 3 図　A ～ D区分割図 …… 8
第 4 図　C区確認調査設定図 …… 9
第 5 図　C区遺構分布図 …… 10
第 6 図　グリッド別遺構分布図（1）…… 11
第 7 図　グリッド別遺構分布図（2）…… 12
第 8 図　グリッド別遺構分布図（3）…… 13
第 9 図　グリッド別遺構分布図（4）…… 14
第 10 図　グリッド別遺構分布図（5）…… 15
第 11 図　グリッド別遺構分布図（6）…… 16
第 12 図　グリッド別遺構分布図（7）…… 17
第 13 図　グリッド別遺構分布図（8）…… 18
第 14 図　グリッド別遺構分布図（9）…… 19
第 15 図　グリッド別遺構分布図（10）…… 20
第 16 図　SX－001 …… 21
第 17 図　SX－001出土縄文土器（1）…… 22
第 18 図　SX－001出土縄文土器（2）…… 24
第 19 図　SX－001出土縄文土器（3）…… 25
第 20 図　SX－001出土縄文土器（4）…… 26
第 21 図　SX－001出土縄文土器（5）…… 27
第 22 図　SX－001出土縄文土器（6）…… 28
第 23 図　SX－001出土縄文土器（7）…… 30
第 24 図　SX－001出土縄文土器（8）…… 31
第 25 図　SX－001出土縄文土器（9）…… 32
第 26 図　SX－001出土縄文土器（10）…… 33
第 27 図　SX－001出土縄文土器（11）…… 34
第 28 図　SX－001出土縄文土器（12）…… 35
第 29 図　SX－001出土縄文土器（13）…… 36
第 30 図　SX－001出土縄文土器（14）…… 37
第 31 図　SX－001出土縄文土器（15）…… 38
第 32 図　SX－001出土縄文土器（16）…… 39
第 33 図　SX－001出土縄文土器（17）…… 40
第 34 図　SX－001出土縄文土器（18）…… 41
第 35 図　SX－001出土縄文土器（19）…… 42
第 36 図　SX－001出土縄文土器（20）…… 43
第 37 図　SX－001出土縄文土器（21）…… 44
第 38 図　SX－001出土縄文土器（22）…… 45
第 39 図　SX－001出土縄文土器（23）…… 46
第 40 図　SX－001出土土製品 …… 48
第 41 図　SX－001出土垂飾品 …… 48
第 42 図　SX－001出土石器（1）…… 50
第 43 図　SX－001出土石器（2）…… 51
第 44 図　SX－001出土石器（3）…… 52
第 45 図　SX－001出土石器（4）…… 53
第 46 図　SX－001出土石器（5）…… 54
第 47 図　SX－001出土石器（6）…… 55
第 48 図　SX－001出土石器（7）…… 56
第 49 図　SX－001出土石器（8）…… 57
第 50 図　SX－001出土石器（9）…… 58
第 51 図　遺構外出土縄文土器（1）…… 60
第 52 図　遺構外出土縄文土器（2）…… 61
第 53 図　遺構外出土縄文土器（3）…… 62
第 54 図　遺構外出土縄文土器（4）…… 63
第 55 図　遺構外出土縄文土器（5）…… 64
第 56 図　遺構外出土縄文土器（6）…… 65
第 57 図　遺構外出土土製品 …… 66
第 58 図　遺構外出土石器（1）…… 68
第 59 図　遺構外出土石器（2）…… 69
第 60 図　遺構外出土石器（3）…… 70
第 61 図　遺構外出土石器（4）…… 71
第 62 図　遺構外出土石器（5）…… 72
第 63 図　遺構外出土石器（6）…… 73
第 64 図　遺構外出土石器（7）…… 74
第 65 図　遺構外出土石器（8）…… 75
第 66 図　遺構外出土石器（9）…… 76
第 67 図　遺構外出土石器（10）…… 77
第 68 図　遺構外出土石器（11）…… 78

第69図　遺構外出土石器（12）…… 79
第70図　遺構外出土石器（13）…… 80
第71図　遺構外出土石器（14）…… 81
第72図　遺構外出土石器（15）…… 82
第73図　遺構外出土石器（16）…… 83
第74図　遺構外出土石器（17）…… 84
第75図　遺構外出土石器（18）…… 85
第76図　遺構外出土石器（19）…… 86
第77図　遺構外出土石器（20）…… 87
第78図　遺構外出土石器（21）…… 88
第79図　遺構外出土石器（22）…… 89
第80図　遺構外出土石器（23）…… 90
第81図　遺構外出土石器（24）…… 91
第82図　遺構外出土石器（25）…… 92
第83図　SI－009・SI－010・SI－013…… 94
第84図　SI－016・SI－017・SI－018…… 96
第85図　SI－023・SI－024・SI－037…… 97
第86図　SI－043・SI－072 …… 98
第87図　SI－063・SI－073・SI－089…… 100
第88図　SI－084・SI－098・SI－101…… 102
第89図　SI－090・SI－100・SI－118…… 103
第90図　SI－096・SI－121 …… 104
第91図　SI－133・SI－138・SI－151・SI－157 105
第92図　竪穴住居跡出土土器（1）…… 108
第93図　竪穴住居跡出土土器（2）…… 109
第94図　竪穴住居跡出土土器（3）…… 110
第95図　竪穴住居跡出土土器（4）…… 112
第96図　竪穴住居跡出土土器（5）…… 113
第97図　竪穴住居跡出土土器（6）…… 114
第98図　竪穴住居跡出土土器（7）…… 116
第99図　竪穴住居跡出土土器（8）…… 117
第100図　竪穴住居跡出土土器（9）…… 118
第101図　竪穴住居跡出土土器（10）…… 119
第102図　竪穴住居跡出土土器（11）…… 120
第103図　竪穴住居跡出土土器（12）…… 123
第104図　竪穴住居跡出土土器（13）…… 125
第105図　竪穴住居跡出土土器（14）…… 126
第106図　竪穴住居跡出土土器（15）…… 128
第107図　竪穴住居跡出土土器（16）…… 130
第108図　竪穴住居跡出土土器（17）…… 131
第109図　竪穴住居跡出土土器（18）…… 132
第110図　竪穴住居跡出土土器（19）…… 133
第111図　竪穴住居跡出土土器（20）…… 135
第112図　竪穴住居跡出土玉類・土製品 …… 136
第113図　SK－001・SK－007 …… 137
第114図　遺構外出土土器（1）…… 138
第115図　遺構外出土土器（2）…… 139
第116図　遺構外出土土器（3）…… 140
第117図　遺構外出土玉類 …… 141
第118図　6号墳現況図 …… 143
第119図　6号墳墳丘・周溝測量図 …… 144
第120図　6号墳墳丘断面図 …… 145
第121図　第1埋葬施設と出土遺物（1）…… 146
第122図　出土遺物（2）…… 147
第123図　第2埋葬施設と出土遺物 …… 148
第124図　6号墳墳丘内出土遺物 …… 149
第125図　10号墳周溝測量図 …… 150
第126図　10号墳周溝内出土遺物 …… 151
第127図　SI－001・SI－002 …… 152
第128図　SI－003・SI－005 …… 154
第129図　SI－004・SI－006 …… 155
第130図　SI－007・SI－008・SI－011・SI－025 157
第131図　SI－015・SI－028・SI－029…… 159
第132図　SI－030・SI－032・SI－034・SI－035 160
第133図　SI－038・SI－040・SI－044…… 162
第134図　SI－045・SI－051 …… 163
第135図　SI－052・SI－058・SI－059・SI－062
SI－064・SI－069 …… 165
第136図　SI－065・SI－067・SI－077
SI－083…… 166
第137図　SI－086・SI－093・SI－097…… 168
第138図　SI－115・SI－126・SI－127
SI－128…… 169
第139図　SI－129・SI－132 …… 171

第140図　SI－148・SI－155・SI－156…… 172
第141図　竪穴住居跡出土土器（1）…… 174
第142図　竪穴住居跡出土土器（2）…… 175
第143図　竪穴住居跡出土土器（3）…… 177
第144図　竪穴住居跡出土土器（4）…… 178
第145図　竪穴住居跡出土土器（5）…… 179
第146図　竪穴住居跡出土土器（6）…… 180
第147図　竪穴住居跡出土土器（7）…… 182
第148図　竪穴住居跡出土土器（8）…… 183
第149図　竪穴住居跡出土土器（9）…… 184
第150図　竪穴住居跡出土土器（10）…… 186
第151図　竪穴住居跡出土土器（11）…… 187
第152図　竪穴住居跡出土土器（12）…… 189
第153図　竪穴住居跡出土土器（13）…… 191
第154図　竪穴住居跡出土土器（14）…… 192
第155図　竪穴住居跡出土土器（15）…… 195
第156図　竪穴住居跡出土土器（16）…… 196
第157図　竪穴住居跡出土土器（17）…… 197
第158図　竪穴住居跡出土土器（18）…… 199
第159図　竪穴住居跡出土土器（19）…… 201
第160図　竪穴住居跡出土土器（20）…… 204
第161図　竪穴住居跡出土土器（21）…… 205
第162図　竪穴住居跡出土土製品（1）(SI－001)　206
第163図　竪穴住居跡出土土製品（2）…… 207
第164図　竪穴住居跡出土玉類・石製品 …… 208
第165図　竪穴住居跡出土転用羽口 …… 209
第166図　SK－003・SK－006・SK－008…… 210
第167図　SX－002・SX－003・SX－004…… 211
第168図　SD－002出土遺物 …… 212
第169図　遺構外出土土器（1） …… 213
第170図　遺構外出土土器（2） …… 214
第171図　遺構外出土玉類・石製品 …… 215
第172図　遺構外出土土製品 …… 215
第173図　遺構外出土奈良・平安時代土器 …… 215
第174図　弥生時代土器編年図 …… 221
第175図　古墳時代土器編年図 …… 222
第176図　ミニチュア・手捏ね土器・石製模造品編年図 …… 223

図版目次

図版1　鹿島台遺跡周辺航空写真
図版2　C区全景（北から）
C区全景（東から）
図版3　SI－001・遺物出土状況
SI－002・遺物出土状況
SI－003
図版4　SI－004・遺物出土状況
SI－005・遺物出土状況
SI－006・遺物出土状況
図版5　SI－007
SI－008・遺物出土状況
SI－010
図版6　SI－011・遺物出土状況
SI－015
SI－016・遺物出土状況
図版7　SI－017
SI－021・SI－026
SI－024
図版8　SI－027
SI－028
SI－037・炉状況
図版9　SI－040
SI－042
SI－043・遺物出土状況
図版10　SI－044・支脚出土状況
SI－045・遺物出土状況
SI－046
図版11　SI－051

SI－052
SI－059
図版12　SI－060
SI－070
SI－086
図版13　SI－090・遺物出土状況
SI－097
SI－103
図版14　SI－105
SI－116
SI－126
図版15　SI－132
SI－138
SI－141
図版16　SI－142
SI－147
SI－151
図版17　SK－001・SK－006
SK－007・SX－002
SX－004・SX－001
図版18　６号墳調査前全景
６号墳墳丘・周溝状況
第１施設全景・遺物出土状況
図版19　第２施設全景
第２施設木棺部
遺物出土状況
図版20　SX－001出土縄文土器（１）
図版21　SX－001出土縄文土器（２）
図版22　SX－001出土縄文土器（３）
図版23　SX－001出土縄文土器（４）
図版24　SX－001出土縄文土器（５）
図版25　SX－001出土縄文土器（６）
図版26　SX－001出土縄文土器（７）
図版27　SX－001出土縄文土器（８）
図版28　SX－001出土縄文土器（９）
図版29　SX－001出土縄文土器（10）
図版30　SX－001出土縄文土器（11）
図版31　SX－001出土縄文土器（12）
図版32　SX－001出土縄文土器（13）
図版33　SX－001出土縄文土器（14）
図版34　SX－001出土縄文土器（15）
図版35　SX－001出土縄文石器（１）
図版36　SX－001出土縄文石器（２）
図版37　SX－001出土縄文石器（３）
図版38　SX－001出土縄文石器（４）
遺構外出土縄文土器（１）
図版39　遺構外出土縄文土器（２）
図版40　遺構外出土縄文土器（３）
図版41　遺構外出土縄文土器（４）
図版42　遺構外出土縄文土器（５）
図版43　遺構外出土縄文土器（６）
図版44　遺構外出土土製品
図版45　遺構外出土石器（１）
図版46　遺構外出土石器（２）
図版47　遺構外出土石器（３）
図版48　遺構外出土石器（４）
図版49　遺構外出土石器（５）
図版50　遺構外出土石器（６）
図版51　遺構外出土石器（７）
図版52　遺構外出土石器（８）
図版53　遺構外出土石器（９）
図版54　竪穴住居跡出土弥生土器（１）
図版55　竪穴住居跡出土弥生土器（２）
図版56　竪穴住居跡出土弥生土器（３）
図版57　竪穴住居跡出土弥生土器（４）
図版58　竪穴住居跡出土弥生土器（５）
遺構外出土弥生土器
図版59　竪穴住居跡出土土師器（１）
図版60　竪穴住居跡出土土師器（２）
図版61　竪穴住居跡出土土師器（３）
図版62　竪穴住居跡出土土師器（４）
図版63　竪穴住居跡出土土師器（５）
図版64　竪穴住居跡出土土師器（６）
図版65　竪穴住居跡出土土師器（７）

図版66　竪穴住居跡出土土師器（８）
図版67　竪穴住居跡出土土師器（９）
図版68　竪穴住居跡出土土師器（10）
　　遺構外出土土師器
図版69　古墳出土鉄製品（１）
図版70　古墳出土鉄製品（２）
　　弥生時代・古墳時代玉類
図版71　石製模造品・紡錘車・土玉

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表…… 7
第２表　縄文石器属性表…… 224
第３表　弥生時代土器観察表…… 228
第４表　古墳時代土器観察表…… 234
第５表　土玉計測表…… 245
第６表　竪穴住居跡一覧表…… 246

第1章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）は、房総地域の発展および東京湾周辺の連携を強化する目的で、館山自動車道の建設を計画し、その一部（木更津・富津線）の建設事業が行われることとなった。

実施にあたって、日本道路公団から建設用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が、千葉県教育委員会あてに提出された。千葉県教育委員会ではこれを受けて、事業地内の現地踏査を実施し、事業地内に埋蔵文化財包蔵地及び鹿島台古墳群に属する古墳の一部が所在する旨の回答を行った。その取り扱いについて、千葉県教育委員会と日本道路公団との慎重な協議が重ねられた。その結果、現状保存が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることで協議が整い、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査に入るにあたり、南北に長い調査区を便宜的に区割りして呼ぶこととし、地形的特徴から北端の狭い平坦地をＡ区、谷を挟んで南側のやや広範囲な平坦地部分をＢ区、さらにその面から一段上がった地区をＣ区、そこから南の斜面部をＤ区とした。調査は平成12年4月、調査対象面積28,470㎡全域の上層確認調査から開始された。確認調査の結果、上層については遺跡南斜面部及び南東斜面部の急傾斜地を除く23、520㎡の範囲に、鹿島台古墳群に属する古墳をはじめ、縄文時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や土坑が著しく重複した状態で確認され、本調査が実施されることになった。上層の本調査はＡ区から開始され、続いてＢ区、Ｄ区、Ｃ区の順に行われた。それぞれ上層の本調査の後、下層の確認及び本調査が行われ、平成14年9月にすべての発掘調査が終了した。また、鹿島台古墳群の一部を構成する盛土が認められる古墳８基の調査についても、それぞれの古墳が所在している該当区の調査の際に併行して行った。

整理作業は平成14年に発掘調査と併行して始めた。各調査区の検出遺構数や出土遺物量を考慮して、報告書をＡ・Ｄ区、Ｃ区、Ｂ区の３分冊及び刊行順で計画され、その計画に従ってＡ・Ｄ区、Ｃ区、Ｂ区の順に整理作業が進められた。Ａ・Ｄ区については、平成18年度に報告書が刊行された。平成20年度現在はＢ区についての整理作業をが継続している。本書においては、平成14年度から平成19年度にかけて整理作業を行った鹿島台遺跡Ｃ区及び当該区に所在する鹿島台古墳群の一部について報告する。

鹿島台遺跡Ｃ区に関する発掘調査及び整理作業の組織・担当職員及び作業内容は以下のとおりである。

（１）発掘調査

平成12年度

調査期間：平成12年4月5日～平成13年3月30日

内容：（上層）確認調査（Ａ～Ｄ区）　28,470㎡のうち2,847㎡

組織：南部調査事務所長　高田　博

担当者：副所長　柴田龍司　　上席研究員　鈴木良征　　上席研究員　渡邉昭宏

平成14年度

調査期間：平成14年4月1日～平成14年9月30日

内容：（上層）本調査　　7,210㎡

組織：南部調査事務所長　鈴木定明

担当者：主席研究員　土屋治雄　　室長　小林清隆　　上席研究員　地引尚幸

上席研究員　田島　新

（2）整理作業

平成14年度

内容：水洗注記の一部と記録整理の一部

組織：南部調査事務所長　鈴木定明

担当者：主席研究員　土屋治雄

平成15年度

内容：水洗注記の一部と記録整理の一部

組織：調査部副部長兼整理課長　深澤克友　　南部調査事務所長　鈴木定明

担当者：上席研究員　植草　均　　上席研究員　中道俊一　　整理技術員　木島桂子

平成16年度

内容：分類から実測の一部

組織：調査部整理課長　及川淳一　　南部調査事務所長　高田　博

担当者：主席研究員　栗田則久　　上席研究員　中道俊一　　整理技術員　木島桂子

平成17年度

内容：実測の一部からトレース

組織：調査部整理課長　加藤修司

担当者：整理課長　加藤修司　　上席研究員　中道俊一　　整理技術員　木島桂子

平成18年度

内容：実測の一部から原稿執筆の一部

組織：調査研究部整理課長　郷田良一

担当者：上席研究員　豊田秀治・高木博彦・小林信一・四柳　隆　　整理技術員　木島桂子

平成19年度

内容：原稿執筆の一部から編集

組織：調査研究部整理課長　高田　博

担当者：整理課長　高田　博　主席研究員　石倉亮治　上席研究員　小林信一・四柳　隆・酒井　宏・

川勝里文　　整理技術員　木島桂子

平成20年度

内容：報告書刊行

組織：調査研究部整理課長　高田　博

担当者：主席研究員　栗田則久　上席研究員　安井健一　整理技術員　木島桂子

2　調査の方法

調査にあたっては、国土方眼座標（第Ⅸ座標系）に基づいたグリッドの設定を行っている。調査対象範囲を覆うように、20×20mの方眼網を設定し、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は、南北方向

を北から１、２、３…、東西方向は西からＡ、Ｂ、Ｃ…とし、この数字とアルファベットを組み合わせて大グリッド名とした。さらに、この大グリッドを２×２ｍの小グリッドに100分割し、北から00～90、西から00～09とした。この大グリッドと小グリッドを組み合わせて、例えば18N－45というように呼称した（第１図）。

上層の確認調査は、まず調査対象面積の10％について、トレンチを設定して遺構の種類や時期及び遺構の広がりを知るために行われた。このトレンチは、調査地の地形や調査範囲にあわせて設定し、状況に応じて拡張しながら全体の把握に努めた。その結果、Ｃ区からは、鹿島台古墳群に属する盛土を伴う古墳（鹿島台古墳群６号墳）をはじめ、盛土を失っている古墳の周溝、弥生時代から古墳時代中期にかけての竪穴住居跡及び土坑などを多数検出した。確認調査の結果を受けて、Ｃ区上層は全域について本調査となった。なお、下層については、ローム層の堆積がほとんど認められないため、確認調査及び本調査は行わなかった。

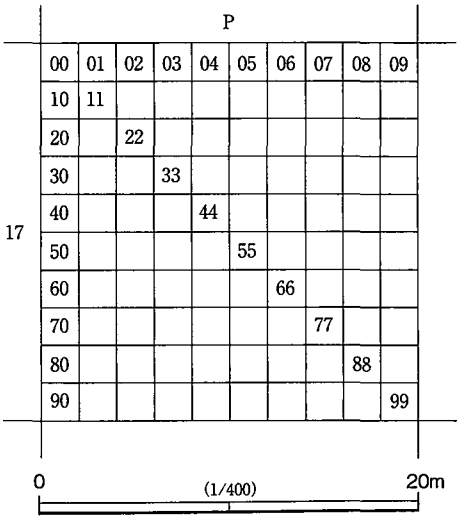
本調査にあたっては、Ａ～Ｄ区、それぞれの区に分けて、各遺構に種別ごとの通し番号を付した。各区各遺構の種別については、アルファベットの略称で、Ｃ区の竪穴住居跡にはＣＳＩ、土坑にはＣＳＫ、溝状遺構ＣＳＤ、盛土が現存せず、本調査段階で周溝が確認された古墳をＣＳＭ、その他の遺構はＣＳＸとし、これに通し番号を付した。なお、鹿島台古墳群として踏査の段階から確認されていた盛土を伴う古墳については、鹿島台古墳群での呼称（Ｃ区の場合６号墳）をそのまま用いることとした。整理作業においても調査時の遺構番号を踏襲している。

第２節　遺跡の位置と環境（第２図）

１　地理的環境

鹿島台遺跡が位置する君津市は、房総半島のほぼ中央部に位置し、北西端は東京湾に面している。東京湾に面する部分は、かつては約４㎞の海岸線であったが、1960年代に埋め立てられ、自然形成の海岸線は消滅している。台地が形成される北部は木更津市と接し、東部は標高200～300mの清澄山系、南部は三舟山、鹿野山、高宕山系の山地が所在する。清澄山に源流を発し君津から木更津を経て東京湾に注ぐ小櫃川と、高宕山に源流を発し君津市中心部を通り東京湾に注ぐ小糸川の二つの河川による沖積平野が東京湾に面する君津市北西部に形成されている。

君津市鹿島台遺跡は、小糸川が東京湾に注ぐ現在の河口から７ｋｍほど上流の南側河岸段丘上に位置する。遺跡周辺の地形は、蛇行する小糸川両岸に沖積地が形成され水田耕作が営まれており、その沖積地に向かって南北から河岸段丘が樹枝状に張り巡らされている様相を示す。その細長い丘陵部のひとつに鹿島台遺跡も所在している。遺跡北端部の丘陵先端から遺跡南端部まではおよそ500m。丘陵東側直下には、水源を鹿野山に発する小糸川の支流馬登川が流れる。標高は丘陵先端の北端部で45m、丘陵奥にあたる南端部で75mあり、河岸段丘状の地形変化を示し、遺跡内で約25mの比高差が認められる。



第１図　グリッド名称例

2　歴史的環境

鹿島台遺跡の所在する小糸川流域には、低地あるいは丘陵という立地条件に問わず、数多くの遺跡が分布・確認されている。縄文時代以降の主な遺跡を取り上げて、歴史的様相を概観してみる。

（1）縄文時代

縄文時代の遺跡としては、調査例が少ない中において小糸川対岸に所在する三直貝塚（56）が確認されている。本遺跡の小糸川対岸、直線距離にして約1.5ｋｍ北側の丘陵上に位置する三直貝塚では、縄文時代後期から晩期にかけての集落と盛土遺構が見つかっている。この三直貝塚より北側高地に位置する練木遺跡の調査では、縄文時代中期の集落と石鏃の製作跡が検出されている。これらの調査成果から、小糸川両岸の丘陵上･微高地上には､縄文時代中期から後晩期にかけての集落が数多く形成されていると思われる。

（2）弥生時代

弥生時代の遺跡としては、鹿島台遺跡の約2㎞西、小糸川左岸の沖積地に位置する常代遺跡（32）の成果があげられる。常代遺跡では、100基を越える方形周溝墓群の検出とともに多量の木製品が出土している。また、郡条里遺跡（30）からは中期の方形周溝墓の検出とともに条痕文土器が出土している。鹿島台遺跡が所在する丘陵直下の沖積地に所在する泉遺跡(9)では、後期の流路や木製の高杯が見つかっており、生活拠点の痕跡が伺える。小糸川上流部に位置する畝山遺跡では、鹿島台遺跡同様中期の環濠が検出されている。今後、調査例が増えれば、小糸川中流域の沖積地あるいは河岸段丘上の集落の展開が明らかにされよう。

（3）古墳時代

小糸川下流域から中流域にかけて数多くの古墳が所在している。小糸川流域というやや広い範囲においては、下流域の須恵国造の墓域とされる内裏塚古墳群があげられる。なかでも、５世紀中葉の築造の内裏塚古墳は千葉県内最大の墳丘を有する前方後円墳で、以後、九条塚古墳、稲荷山古墳、三条塚古墳と全長100m前後の大形前方後円墳が築造され、７世紀代の割見塚古墳に至るまで首長級の古墳が継続して営まれている。中流域では、４世紀末～５世紀初頭の前方後方墳である道祖神裏古墳（41)、中期の前方後円墳で盾形周溝をともなう八幡神社古墳（35）が特に著名で県史跡にも指定されている。６世紀代の前方後円墳星谷上古墳（43）では箱型石棺が発見され、他にも、花輪堂古墳（55）など中流沖積地に墳長40～60ｍ前後の前方後円墳が数多く築造されている。上流域に目を向けると、丘陵上に方墳2基、円墳22基が占地する大井戸八木古墳群をはじめ、前方後方墳２基を含む駒久保古墳群、金ケ谷古墳群など、丘陵上に円墳を中心とした群集墳が築かれている。

鹿島台遺跡周辺に目を向けると、本遺跡と同一台地上の埴輪を有する狐山古墳（2）をはじめとし、西山古墳群（3)、熊野前古墳（4)、奥中谷古墳群（5)、八幡神社古墳群（6）といった古墳群が集約的に分布している。また、遺跡東側を流れる馬登川上流域には、段丘上の縁辺に北から順に丹後塚（11)、南丹後塚（12)、北天王塚（13)、天王塚（14)、羽黒下（15)、天皇塚（16)、皿引古墳群（17）と古墳が連綿と築かれている。大半は未調査の古墳であるが、鹿島台遺跡が所在する丘陵の最先端に位置する狐山古墳は、６世紀中葉に築造された前方後円墳であり、小糸川流域の古墳調査では出土例が少ない埴輪が出土しており､本遺跡との関連が注目される。奥中谷古墳群(5)は､平成７年度に円墳２基の調査が行われており、６世紀初頭および７世紀前半の築造とされている。尾車地区に所在する天皇塚古墳は、貴人および陵墓(ミササギ）伝承が色濃く残っていることで知られる前方後円墳である。支谷を挟んだ鹿島台遺跡の東隣の丘

第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡

陵部には、君ヶ作古墳群（69)、白駒古墳群（68)、竹際古墳群（63)、上武勇古墳群（61）など10～20mの墳丘を持つ小形の円墳を中心とした群集墳が所在している。

古墳時代の集落遺跡は調査例が少ないが、本遺跡の丘陵北側直下に、後期の円形周溝跡などが検出された姥田遺跡（8）が所在する。出土遺物は、鹿島台遺跡内の古墳群の築造時期とほぼ同様であることから、鹿島台遺跡が所在する丘陵上を墓域とし、生活、生産の拠点を丘陵直下の低地に展開していた可能性が考えられる。馬登川を挟んだ姥田遺跡の対岸で、小糸川左岸沖積地に位置する泉遺跡（9）においても後期の集落跡が検出されている。沖積地の遺跡としては、他に天神台遺跡(59)、常代遺跡、三直中郷遺跡(37)が調査されている。泉遺跡の北東１ｋｍほどには、６世紀中葉から７世紀前半にかけての集落が確認された天神台遺跡が所在する。２㎞ほど下流の常代遺跡でも後期の集落の存在が明らかになっている。対岸の小糸川右岸には、鹿島台遺跡の北１㎞の沖積地に三直中郷遺跡（37）が広く展開している。ここでも古墳時代後期から中世に至るまでの集落跡が確認されている。今後、小糸川中流域沖積地での調査例が増えれば、古墳築造に携わった人々の生活・生産の実態も明らかになると思われる。

（４）奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡としては、鹿島台遺跡から北西約3.7kmの丘陵上に、8世紀はじめに建立されたとされる九十九坊廃寺（48）が所在する。九十九坊廃寺は、古代周淮郡の郡寺であったといわれ、講堂跡や塔跡が確認され、蓮華文の鎧瓦が出土している。沖積地に展開する郡条里遺跡の調査では、存在が推定される条里遺構の復元をおこなっている。「郡」という地名からも、早くから須恵郡衙推定地として注目されている地域でもあり、小糸川中･下流域は古代当該地域の中心的な役割を果たした地域であるといえる。

（５）中・近世

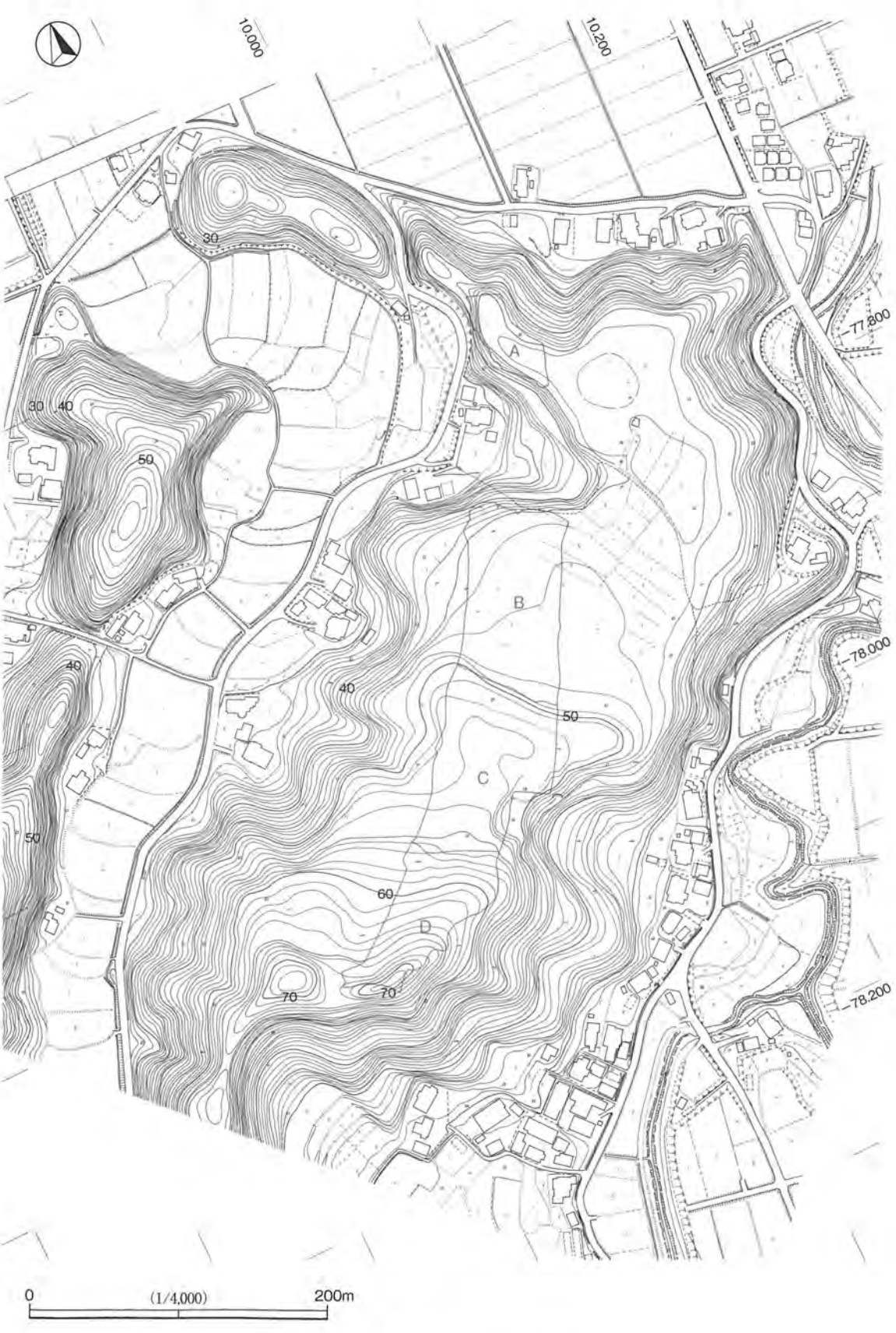
中世の遺跡となると、対岸台地上の外箕輪遺跡（36）から、鎌倉時代の小皿、コネ鉢、甕などが出土しているほか、掘立柱建物跡３棟、井戸１基が検出されており、13世紀の領主層の姿の一端が垣間見れる。この外箕輪遺跡の周辺は、13世紀末期に幕府から称名寺に寄進された荘園であったことから、集落と称名寺領との関係が注目される。鹿島台遺跡周辺では、狐山古墳との間に位置する狐山砦跡（7）で、曲輪の一部を確認している。他にも常代城跡（27)、北上砦跡（71)、荷倉砦跡、三舟山砦跡など、丘陵上には数多くの城や砦が築かれている。中でも三舟山砦跡は、永禄10年（1567）の三舟山合戦の折、相模の後北条氏が築いた砦跡である。

近世になると、馬登川上流、尾車地区に所在する尾車十三塚群(19)、西隣の丘陵地の宮下西谷塚群(21)をはじめとして、小糸川対岸でその数29基を数える三直B行人塚群などが築かれ、この地域の塚信仰の深さを物語っている。また、高間屋敷跡（22）の調査では、文献資料との両面から、江戸で商いを行っていた高間伝兵衛の足跡や、江戸時代の豪商の在地生活の一端が明らかにされている。

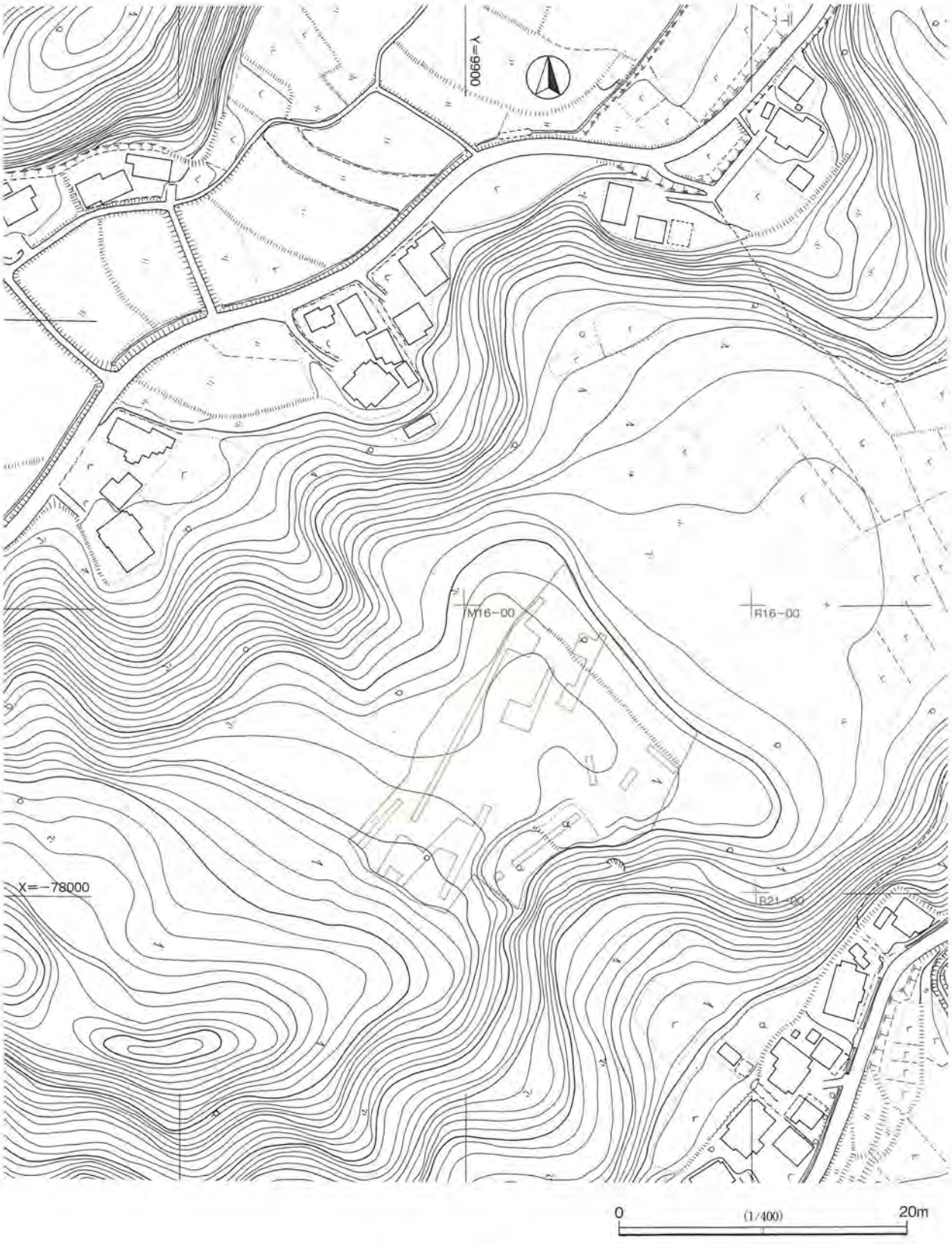
以上各時代を概観したように、鹿島台遺跡周辺及び小糸川中・下流域一帯は、縄文時代から近世に至るまで貴重な遺跡が数多く分布している地域である。

第１表　周辺遺跡一覧表

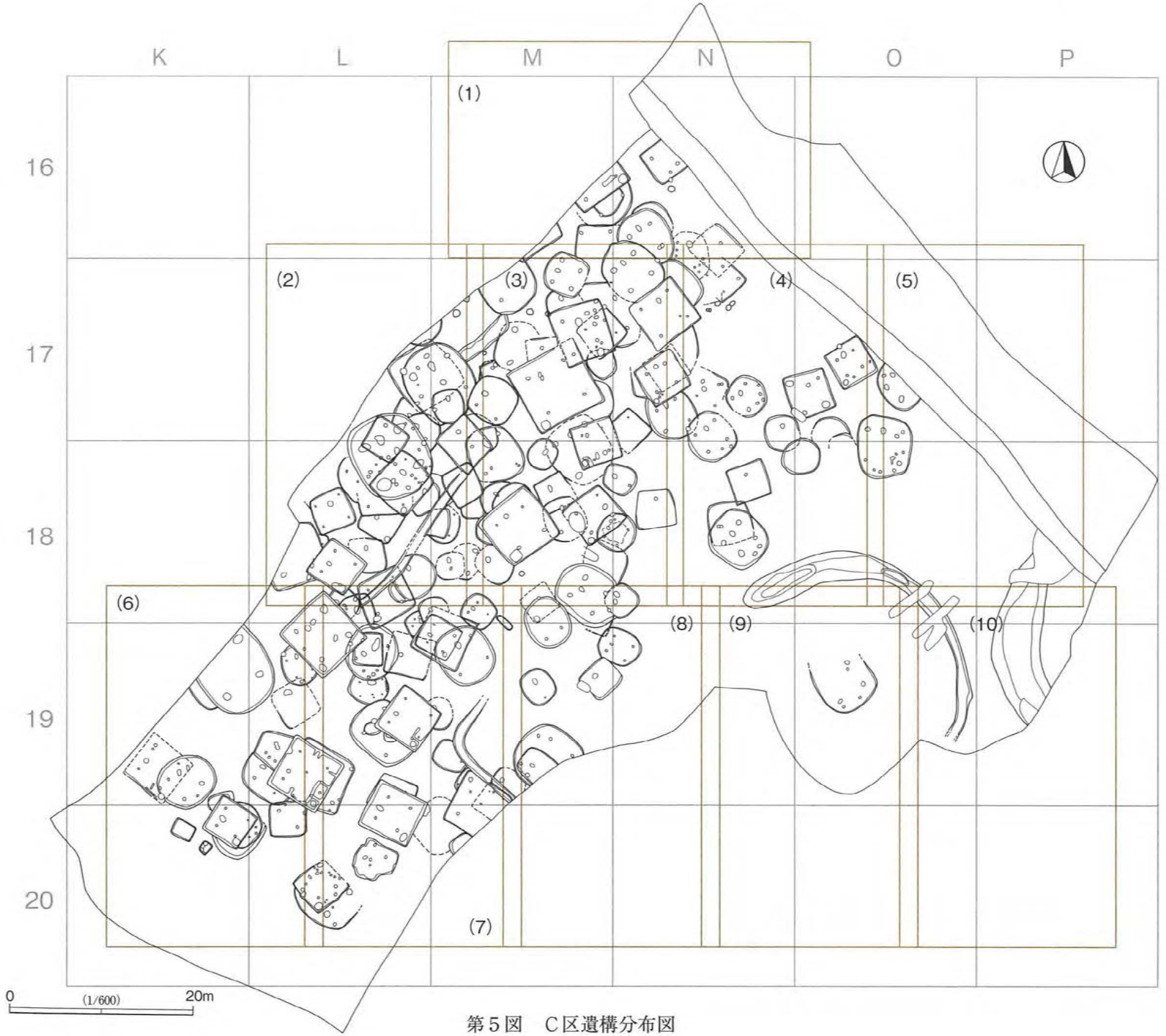
番号	県分布図番号	遺　跡　名	時　　代
1	127・128	鹿島台遺跡	旧石器、縄文、弥生、古墳
2	124	狐山古墳	古墳（前方後円墳）
3	126	西山古墳群	古墳
4	123	熊野前古墳	古墳（円墳）
5	115	奥中谷古墳群	古墳（円墳）
6	114	八幡神社古墳群	古墳（前方後円墳・円墳）
7	125	狐山砦跡	中世
8	136	姥田遺跡	古墳、奈良・平安
9	441	泉遺跡	縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中世
10	130	羽黒下遺跡	縄文、古墳
11	131	丹後塚古墳	古墳（前方後円墳）
12	132	南丹後塚古墳	古墳（円墳）
13	133	北天王塚古墳	古墳（円墳）
14	134	天王塚古墳	古墳（円墳）
15	135	羽黒下古墳	古墳（円墳）
16	172	天皇塚古墳	古墳（前方後円墳）
17	122	皿引古墳群	古墳（円墳）
18	121	大山野古墳群	古墳（円墳）
19	173	尾車十三塚	中近世
20	102	関谷遺跡	古墳
21	105	宮下西谷古墳群	古墳（円墳）
22	433	高間屋敷跡	近世
23	430	関ノ前古墳	古墳（円墳）
24	101	宮下九塚古墳	古墳（円墳）
25	116	奥中谷塚	中近世
26	111	常代神社古墳	古墳（円墳）
27	112	常代城跡	中世
28	98	胡摩伝古墳群	古墳（円墳）
29	91	郡遺跡	弥生、古墳、奈良・平安
30	40	郡条里遺跡	弥生、古墳、奈良・平安
31	93	中谷古墳群	古墳（円墳・方墳）
32	89	常代遺跡	旧石器、弥生、古墳、奈良・平安
33	90	郡西遺跡	弥生、古墳、奈良・平安
34	357	杢師古墳	古墳（円墳）
35	55	八幡神社古墳	古墳（前方後円墳）
36	421	外箕輪遺跡	古墳、奈良・平安、中世
37	478	三直中郷遺跡	奈良・平安、中世
38	376	法木作古墳群	古墳（円墳）
39	375	宇曽貝四ツ塚古墳群	古墳（円墳）
40	477	八重原古墳群	古墳（円墳）
41	54	道祖神裏古墳	古墳（前方後方墳）
42	371	野馬木戸古墳群	古墳（円墳）
43	49	星谷上古墳	古墳（前方後円墳）、旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中近世
44	51	畑沢遺跡	縄文、弥生、古墳
45	46	下新田遺跡	弥生、古墳
46	369	馬木戸古墳	古墳（円墳）
47	475	南子安金井崎遺跡	縄文、弥生、奈良・平安
48	47	九十九坊廃寺跡	奈良
49	42	子安坂古墳	古墳（円墳）
50	19	穴谷古墳群	古墳（前方後円墳・円墳）
51	360	下迫古墳	古墳（円墳）
52	361	馬門古墳	古墳（円墳）
53	362	南子安遺跡	古墳
54	363	南子安古墳	古墳（円墳）
55	38	花輪堂古墳	古墳（前方後円墳）
56	60	三直貝塚	縄文
57	62	沖込古墳	古墳（円墳）
58	426	籾山古墳群	古墳（前方後円墳・円墳）
59	440	天神台遺跡	古墳、奈良・平安
60	145	周東城跡	中世
61	144	上武勇古墳群	古墳（円墳）
62	143	竹際遺跡	古墳
63	142	竹際古墳群	古墳（前方後円墳・円墳）
64	384	白山裏古墳	古墳（帆立貝式）
65	385	反田古墳群	古墳（円墳）
66	388	熊野裏古墳群	古墳（円墳）
67	129	馬登泉遺跡	縄文
68	386	白駒古墳群	古墳（前方後円墳・円墳）
69	141	君ヶ作古墳群	古墳（円墳）
70	138	君ヶ作北古墳	古墳（円墳）
71	443	北上砦跡	中近世
72	174	御陵塚古墳	古墳（前方後円墳）



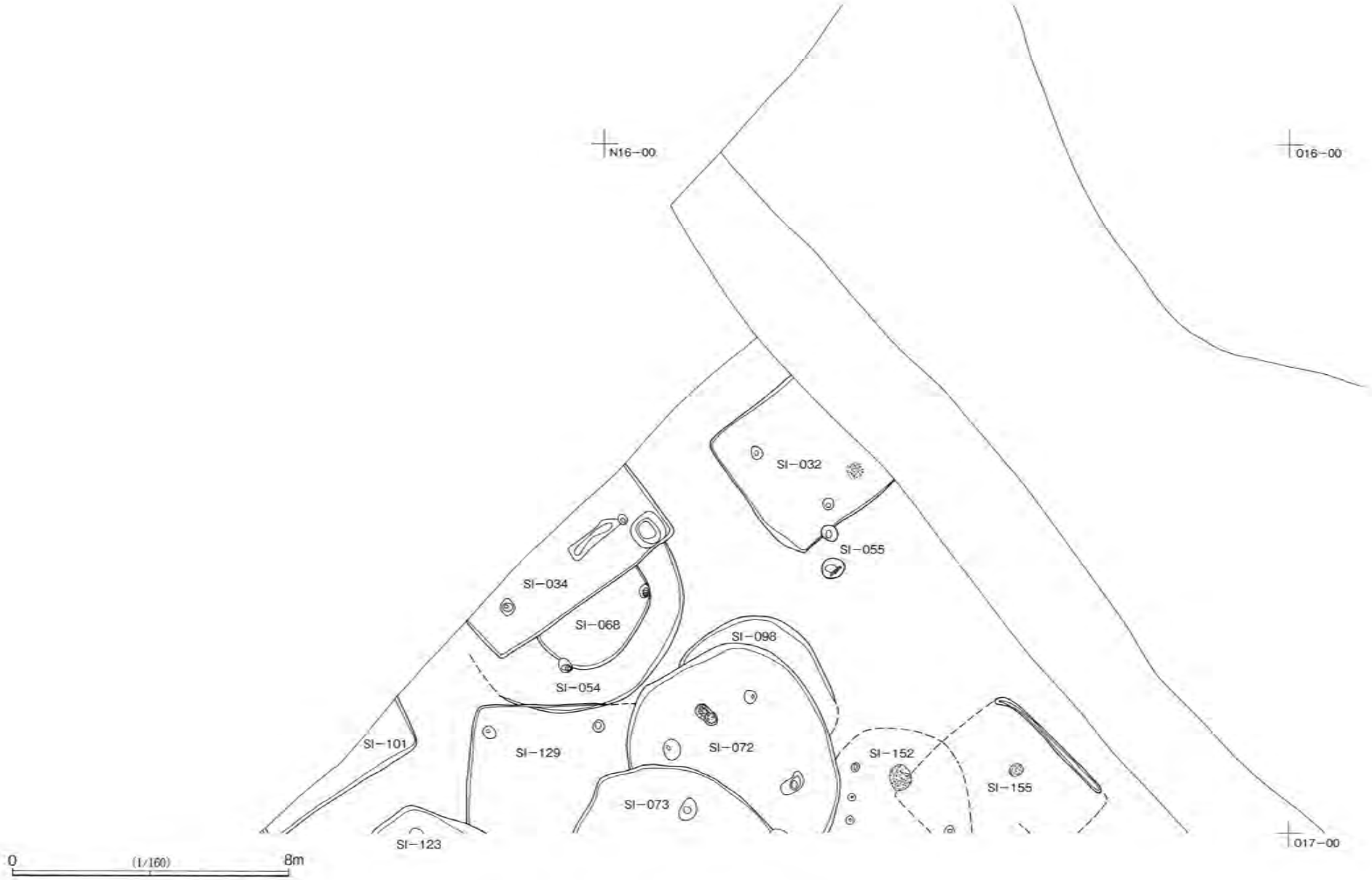
第３図　Ａ～Ｄ区分割図



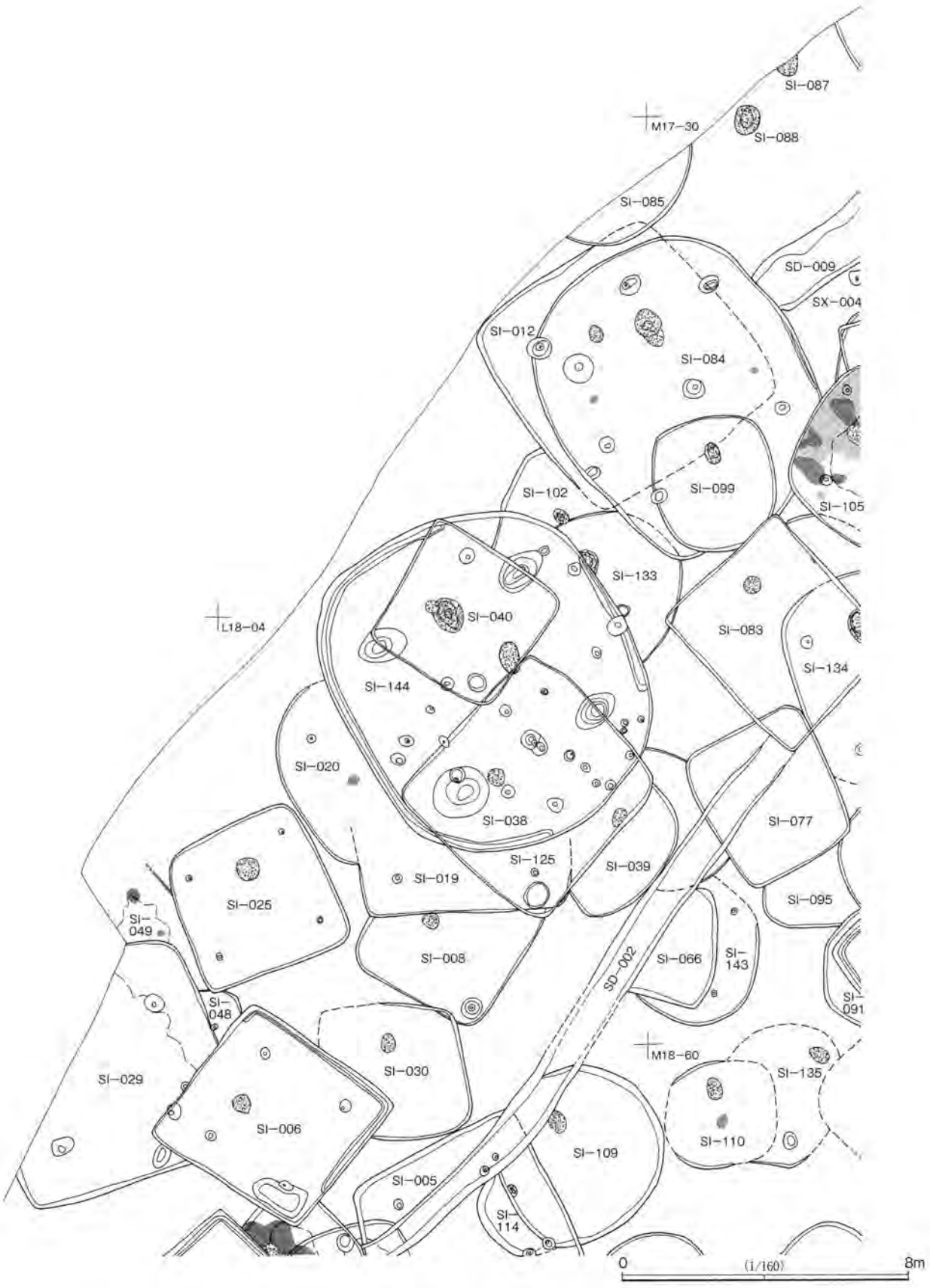
第４図　Ｃ区確認調査設定図



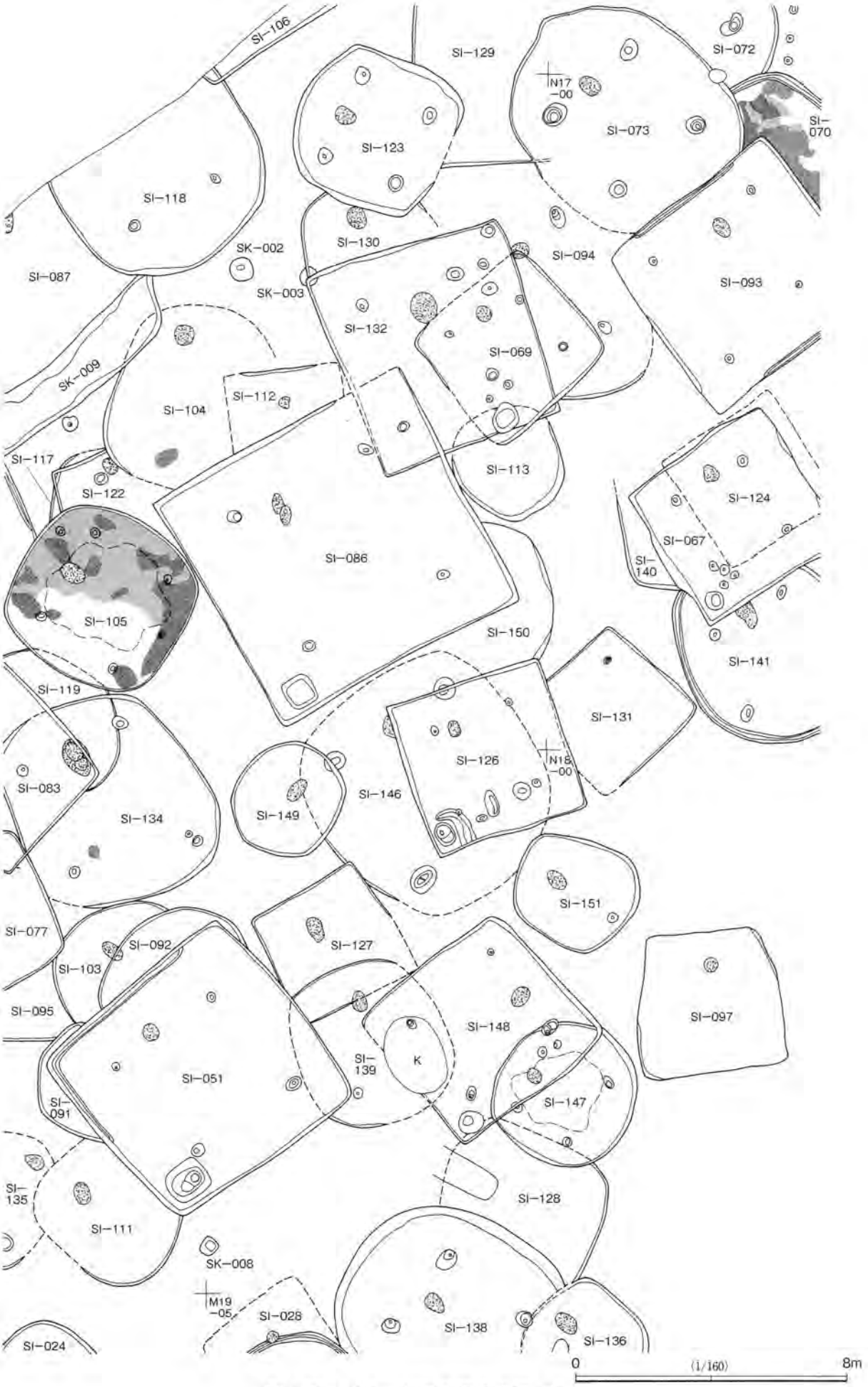
第５図　Ｃ区遺構分布図



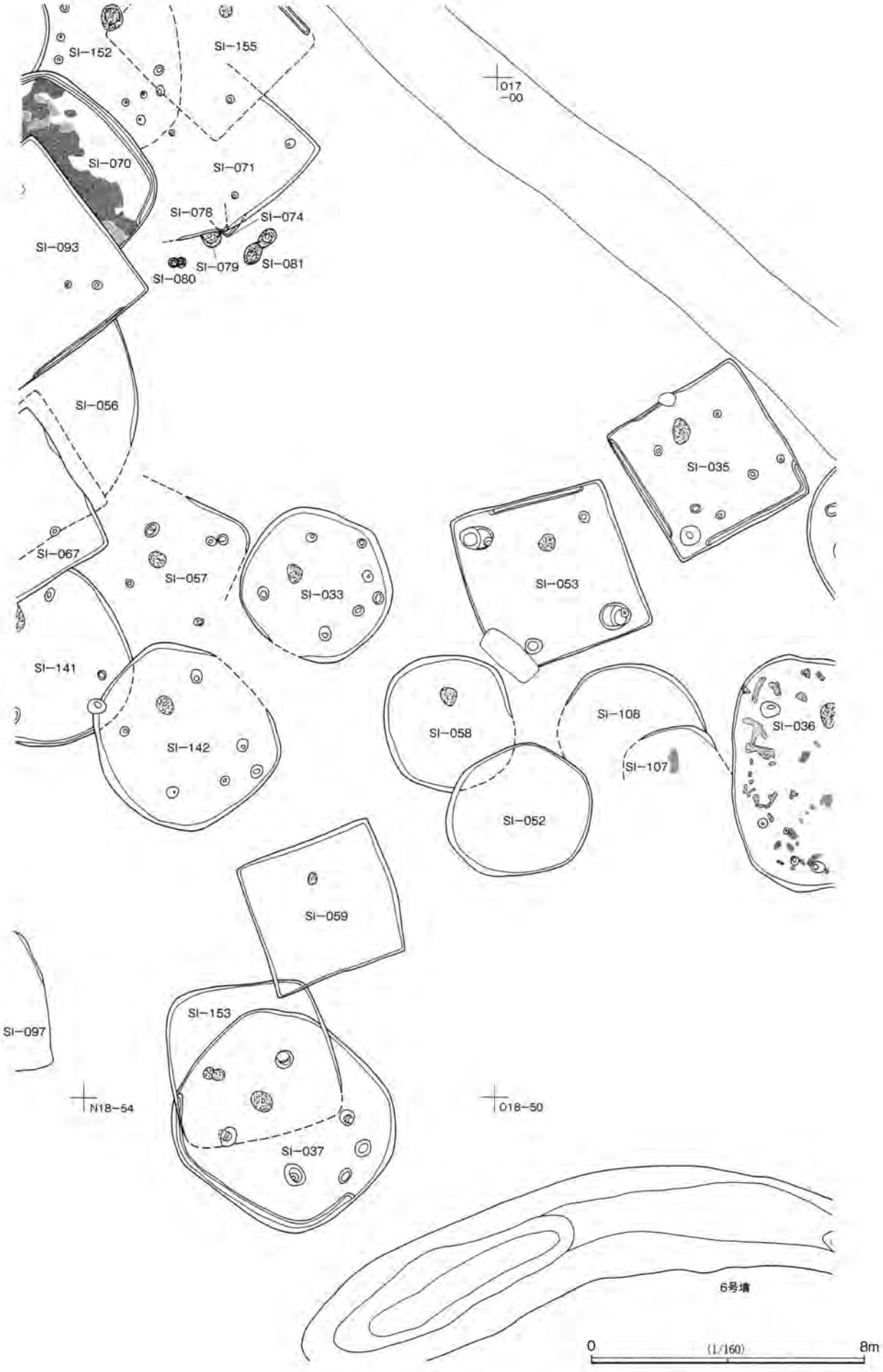
第６図　グリッド別遺構分布図（１）



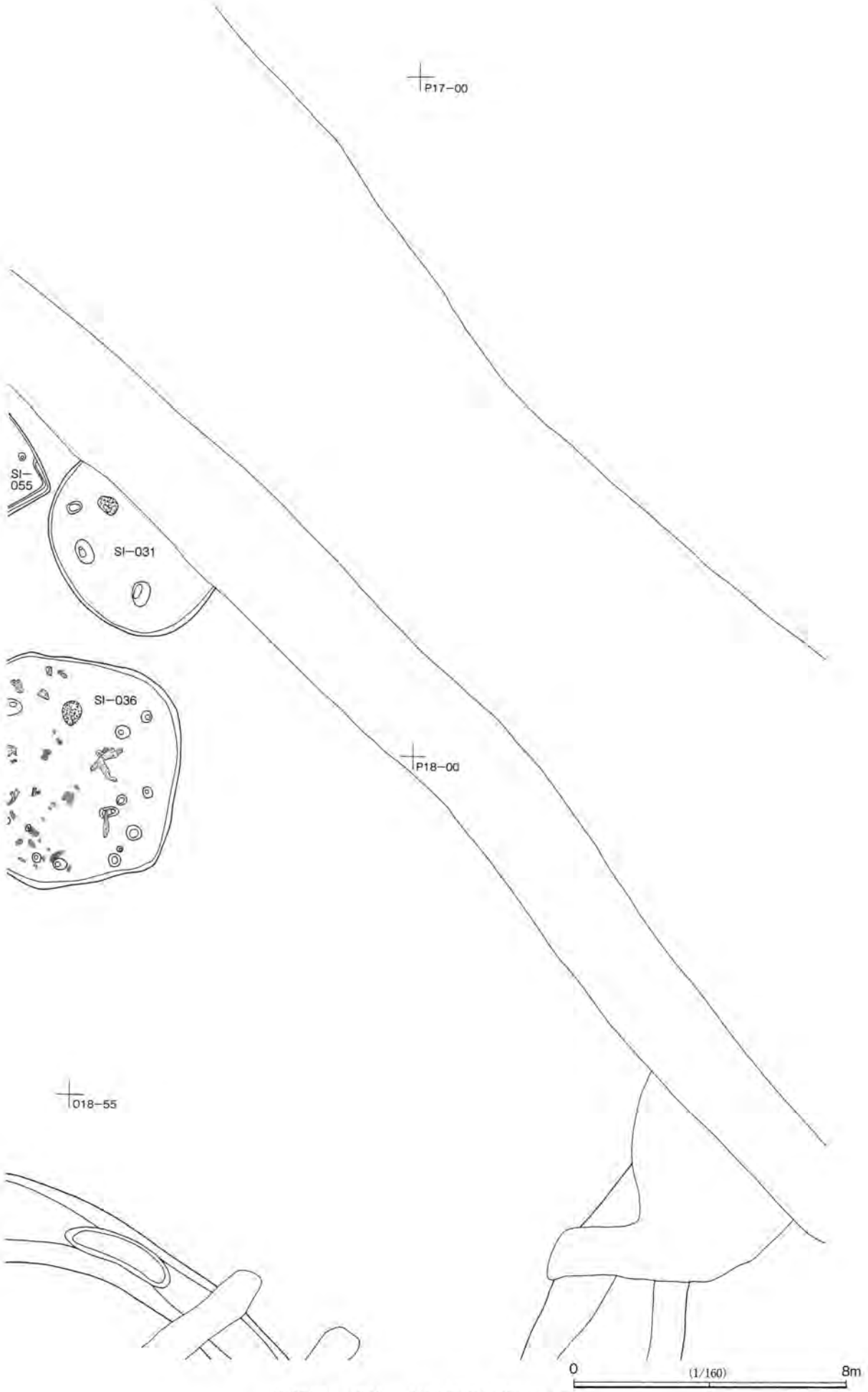
第７図　グリッド別遺構分布図（２）



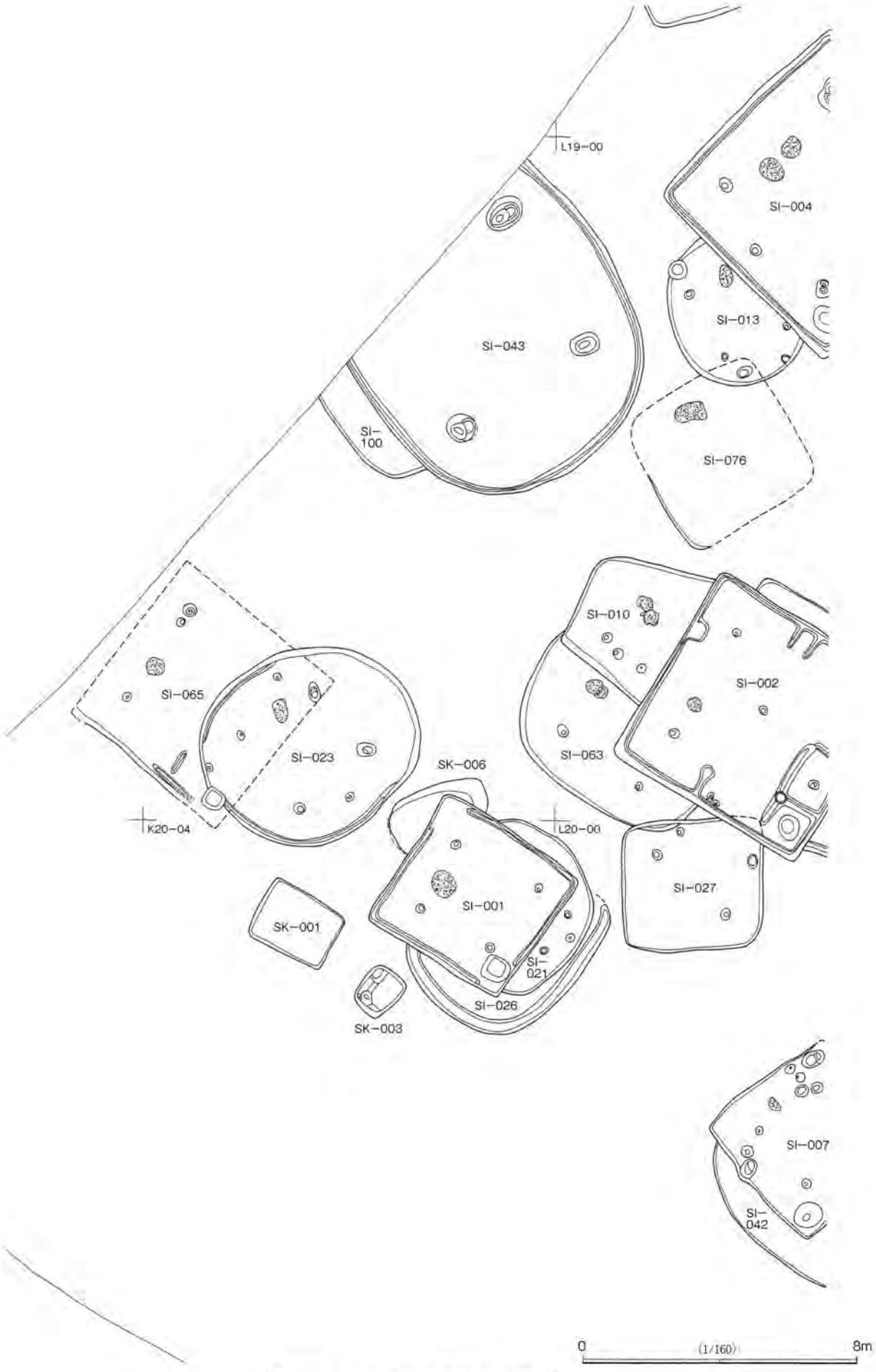
第８図　グリッド別遺構分布図（３）



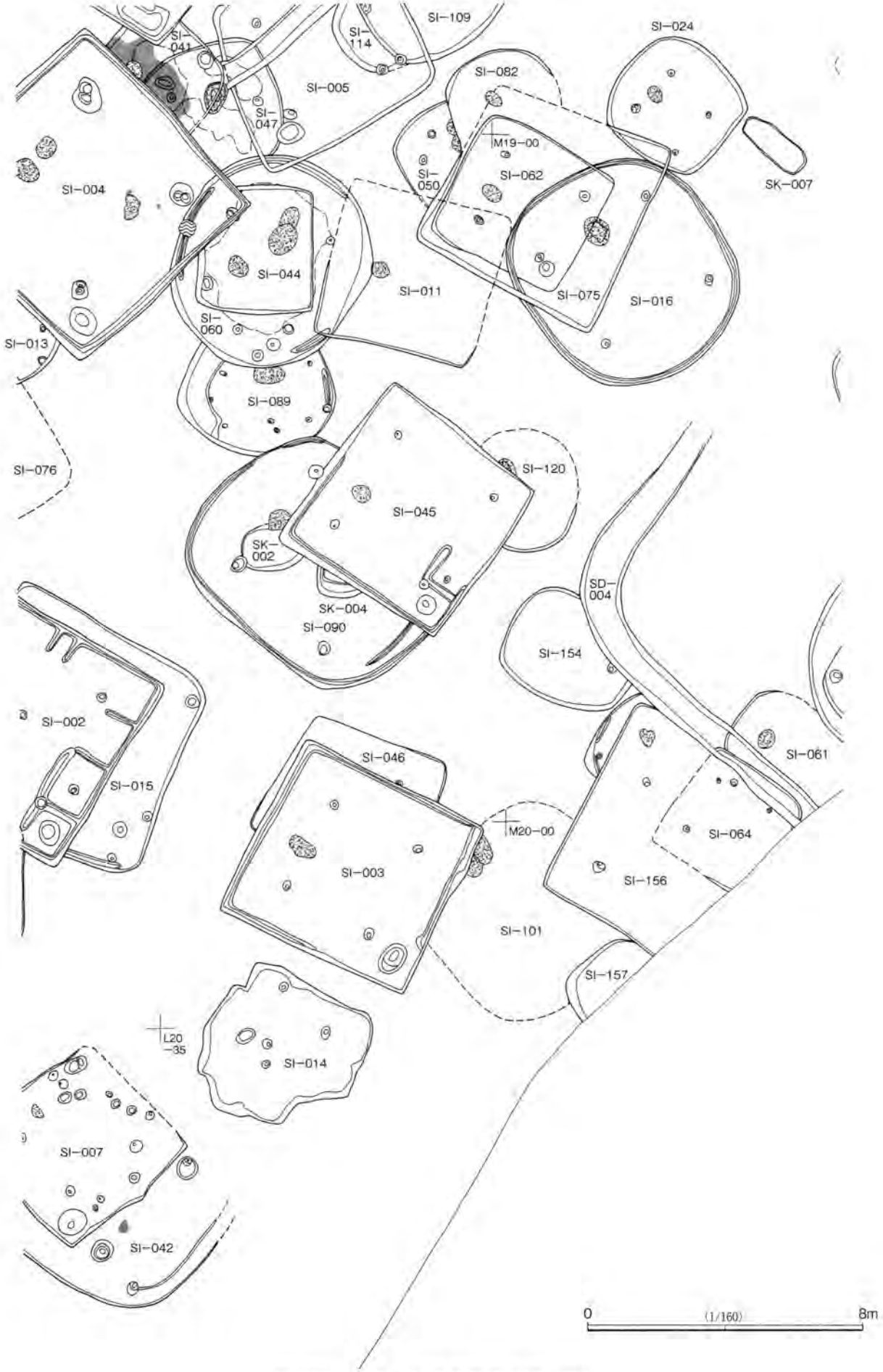
第９図　グリッド別遺構分布図（４）



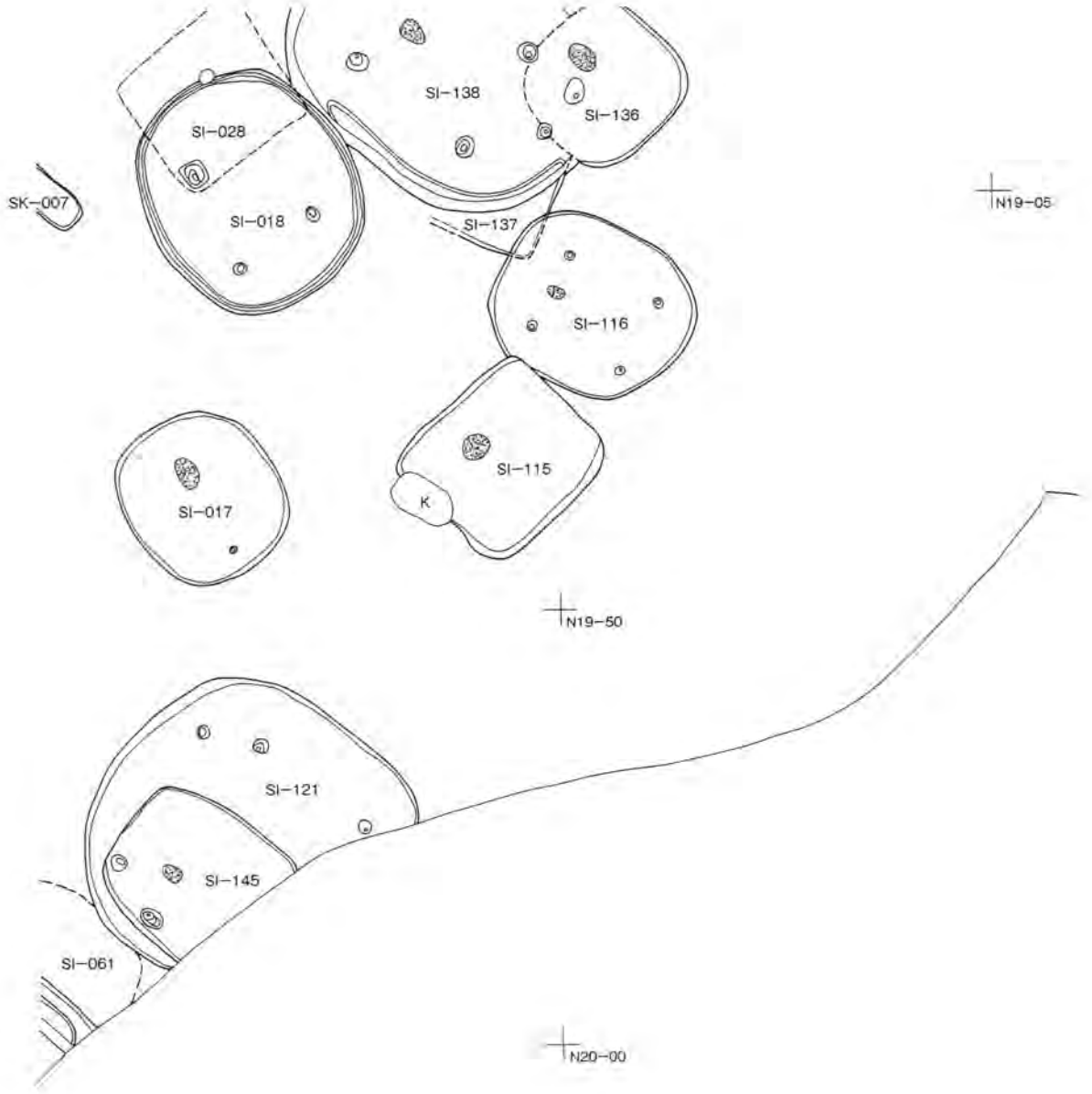
第10図　グリッド別遺構分布図（５）



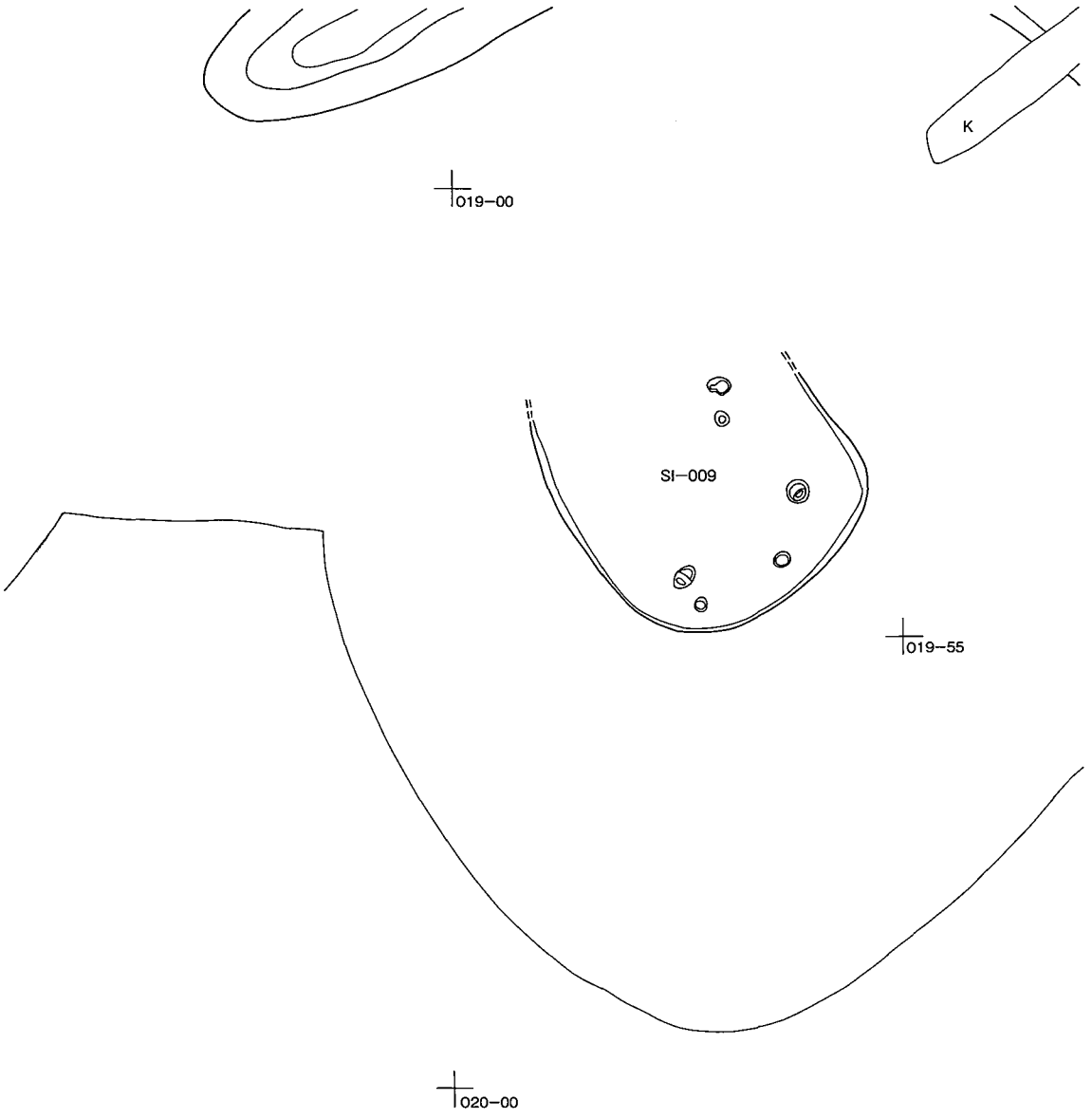
第11図　グリッド別遺構分布図（6）



第12図　グリッド別遺構分布図（7）

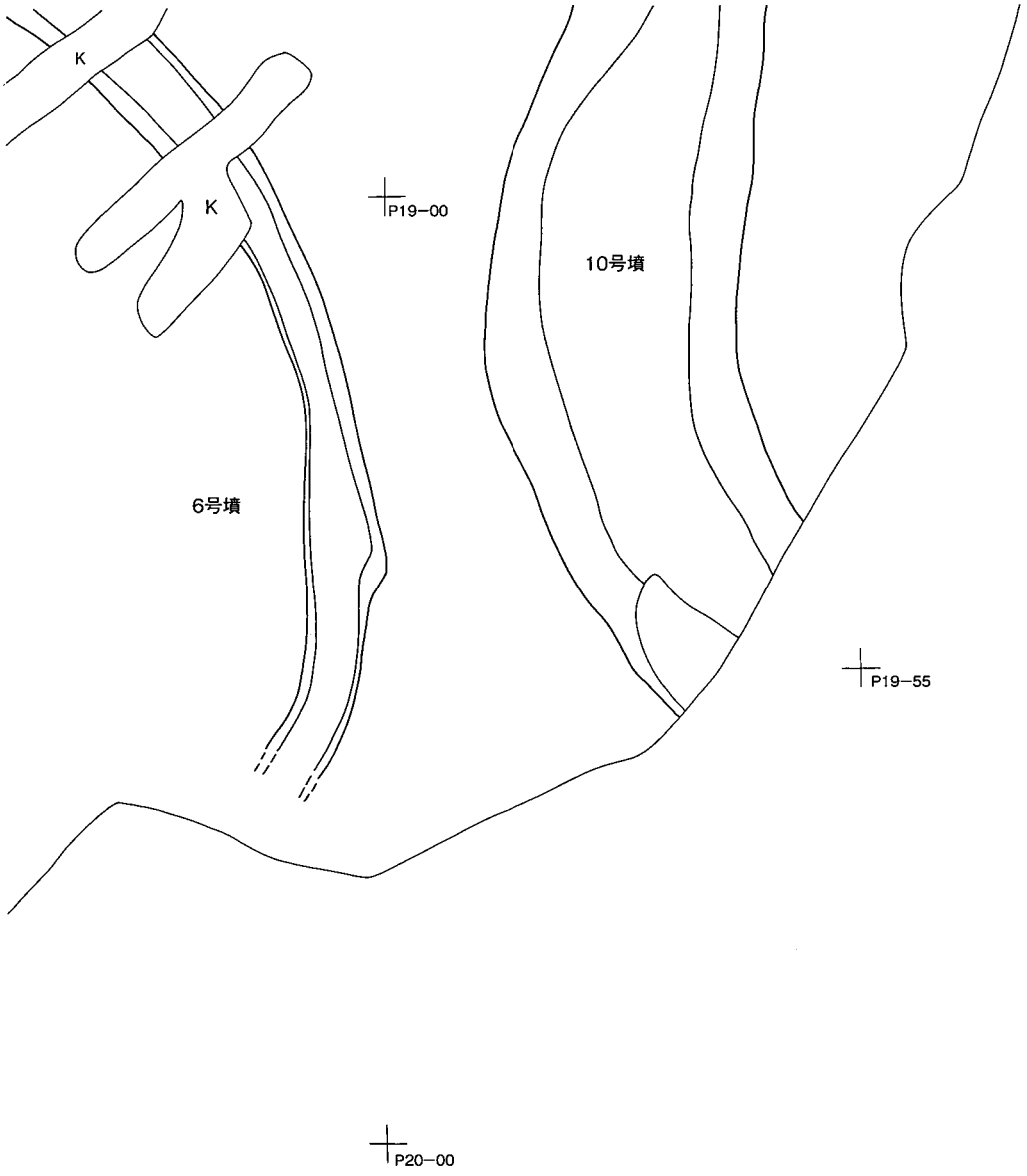


第13図　グリッド別遺構分布図（8）



0 (1/160) 8m

第14図　グリッド別遺構分布図（9）



0 (1/160) 8m

第15図　グリッド別遺構分布図（10）

第２章　遺構と遺物

第１節　縄文時代

縄文時代の遺物は比較的多く出土しているが、遺構は確認されなかった。ただ、Ｂ区との境界にある小さな斜面部から、縄文時代の土器や石器などが集中的に廃棄されたような状況で濃密に検出された。

１．北側斜面部遺物集中地点

SX－001（第16図）

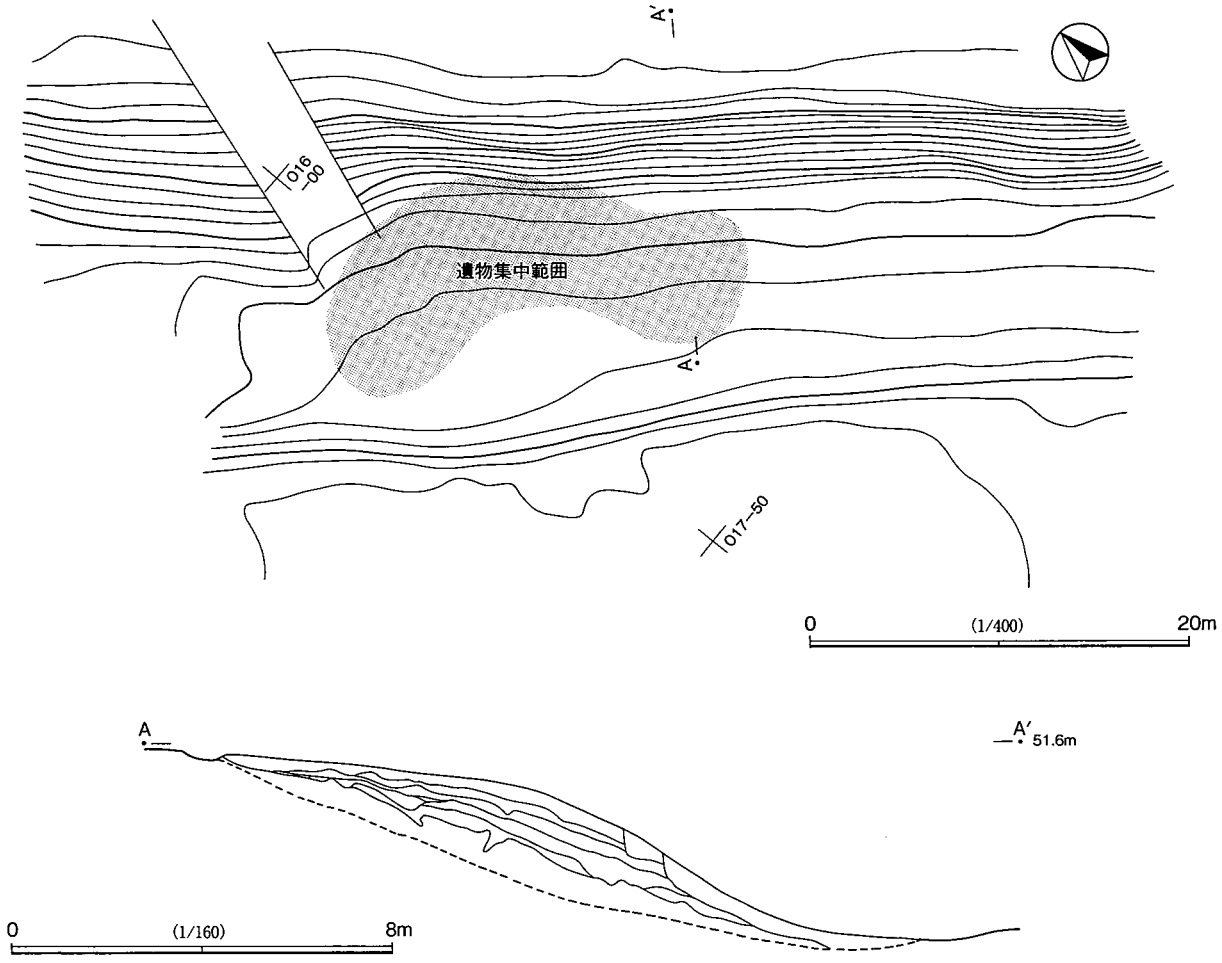
調査区北東端、Ｂ区との境界にあたる斜面部から、廃棄されたような状況で多量の土器や石器が検出された遺物集中地点である。斜面部は自然堆積層と思われ、３層からは後期前葉の土器群、４層からは後期中葉の土器群が主体となって出土している。

土器（第17～39図、図版20～34）

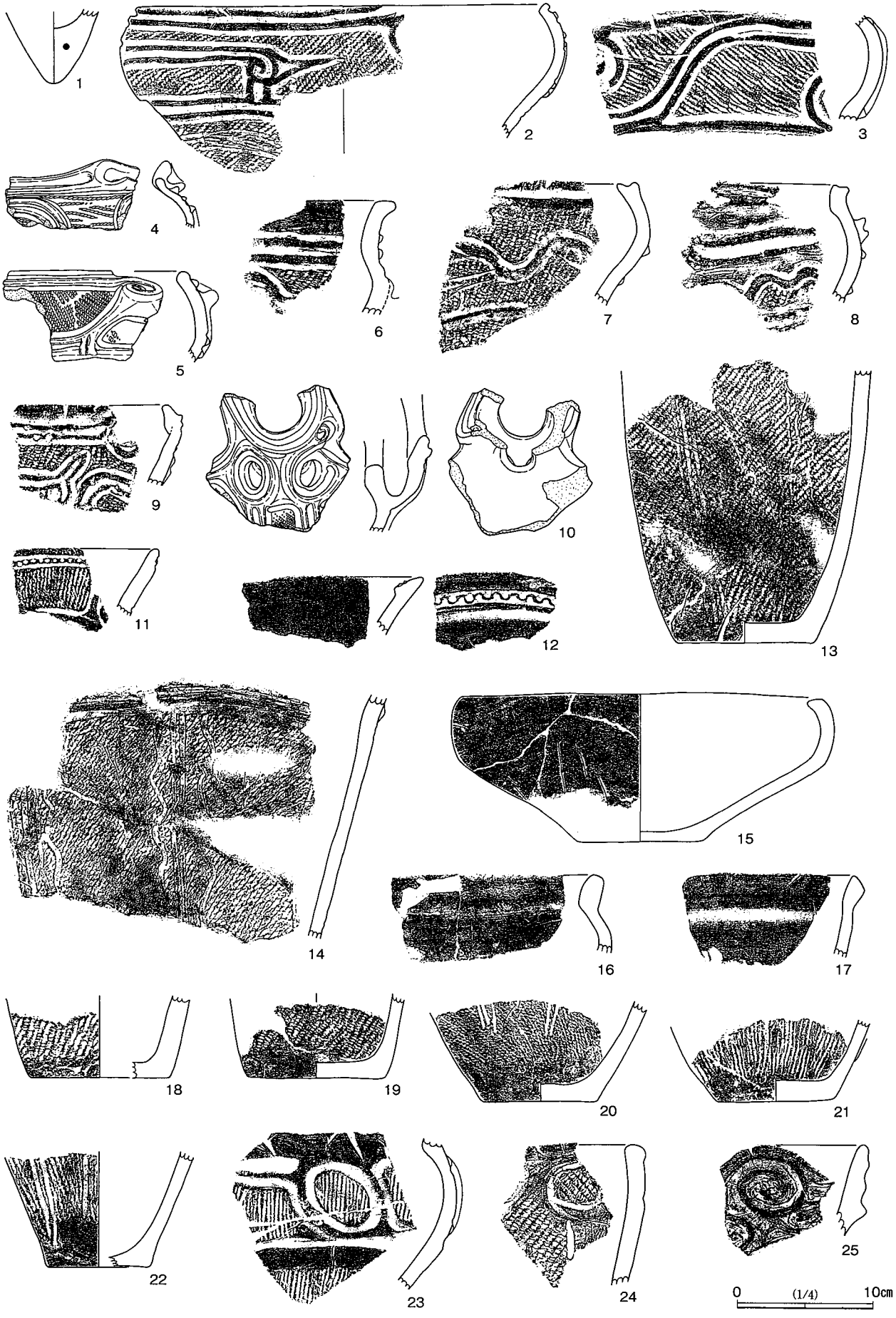
出土した土器は早期から晩期に及ぶが、後期前葉の堀之内１式が圧倒的多数を占める。

早期の遺物は少ない。１は尖底土器であり、胎土に繊維を含む。

２～10は中期加曽利Ｅ式のうち、キャリパー形を呈する深鉢の口縁部である。縄文地文に２本一組の隆



第16図　SX－001

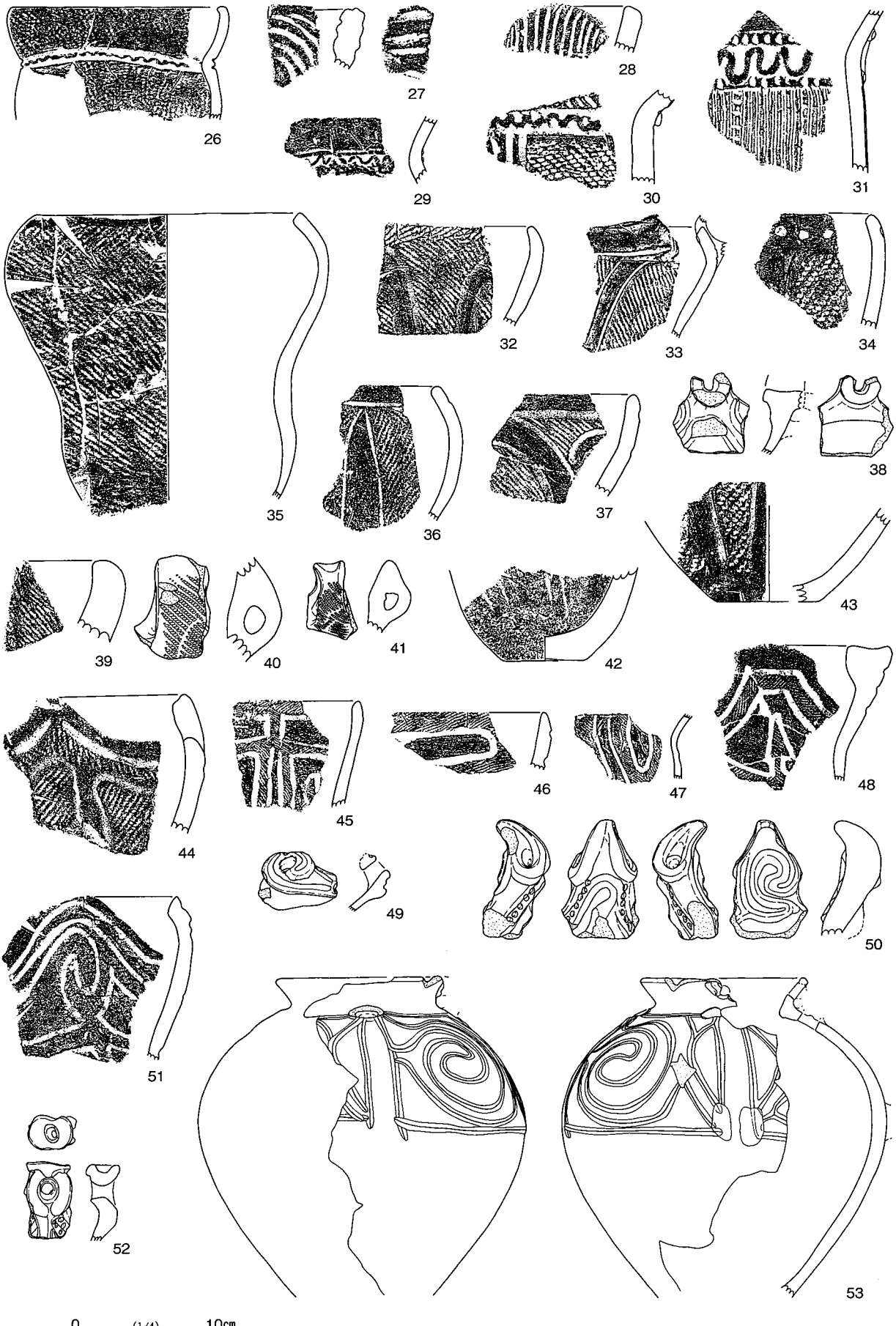


第17図　SX－001出土縄文土器（1）

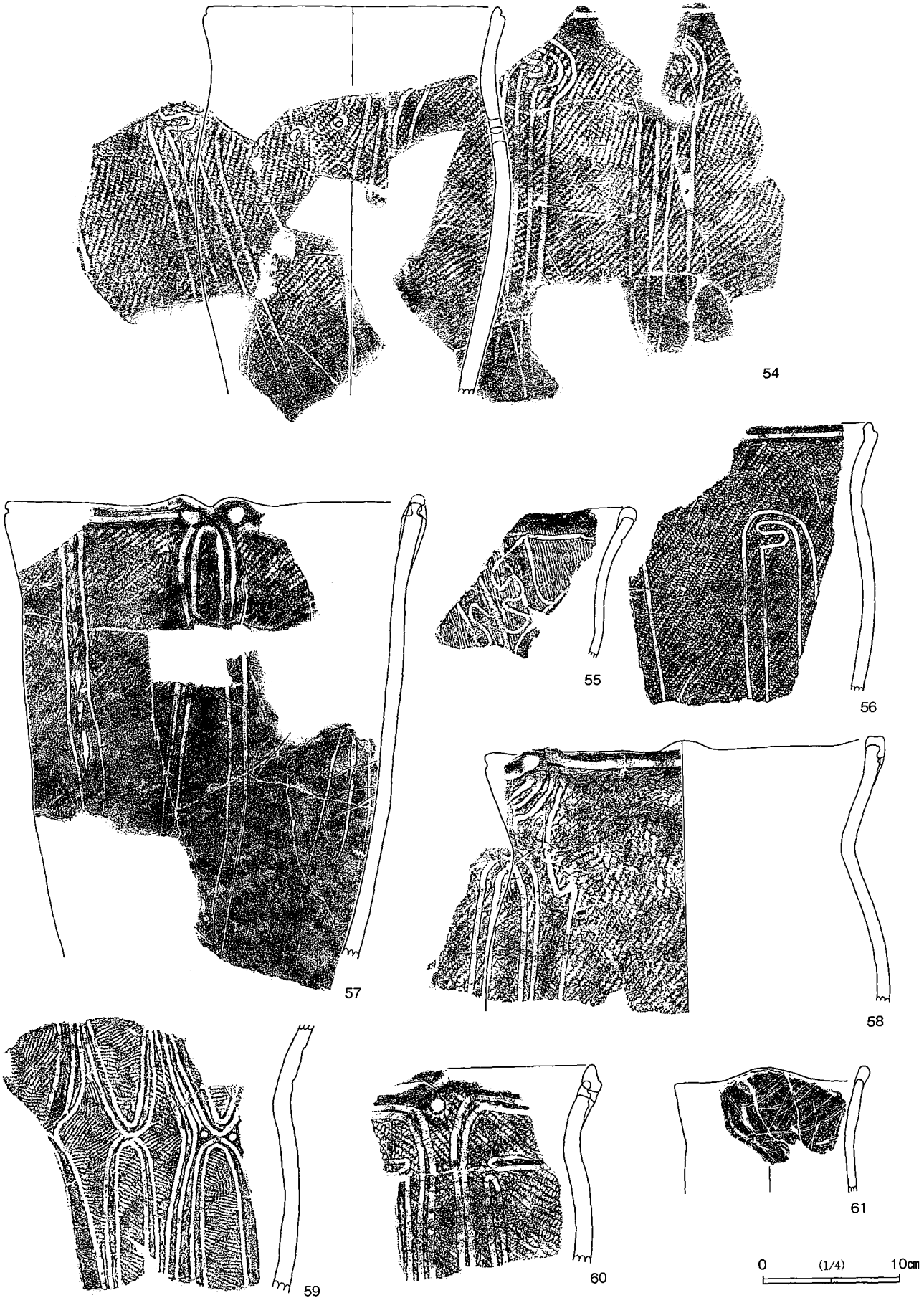
帯を配するものや、波状の太い隆帯を貼り付けるものを主体とする。いわゆる剣先モチーフを構成するものや、10のようにメガネ状把手となるものもある。加曽利Ｅ１式を中心とする。13・18～22は同時期と考えられるキャリパー形深鉢の胴部～底部である。いずれも地文の磨消は認められない。20～22は地文撚糸である。21はわかりにくいが縦位の隆帯が貼り付けられる。14は底部から直線的に外反し口縁部が無文帯となる深鉢と思われるもので、胴部縄文は反撚ＲＲである。やはり加曽利Ｅ１式期と考えられる。12・15～17は同時期と考えられる浅鉢である。12は口縁部内面に交互刺突が配される。11・23～25はキャリパー形深鉢でもより後出的なもので、隆帯による渦巻き文や円文などで構成される。24に至っては口縁部と胴部の区別がほとんどなくなっている。11・23は地文撚糸である。26～31は曽利式の影響を受けているものであるが、いずれもかなり在地化した様相を示している。30の口縁部は籠目文か。32～37は口縁部から胴部まで単一の文様帯となるもので、加曽利Ｅ式でも後半から末葉に位置づけられる。32・34はごく細い微隆起線によって区画される。38～41は把手である。42・43は加曽利Ｅ式期後半のキャリパー形深鉢の胴部～底部で、いずれも磨消懸垂文が配される。

44～52・185は称名寺式を中心とするものであるが、数は少ない。45・46は口縁部に２段の縄文帯を構成するもので、称名寺式でも古段階に位置づけられる。49は口縁上に鉤状モチーフが配される。50は鳥頭を思わせる形状である。51はかなりキメの粗い胎土で小礫が多量に混入する。搬入品か。53は注口土器で、頸部と胴部最大径の部分の間が区画され、微隆起線による意匠充填モチーフが描かれる。判断が難しいが東北地方の影響を受けた後期初頭の土器か。

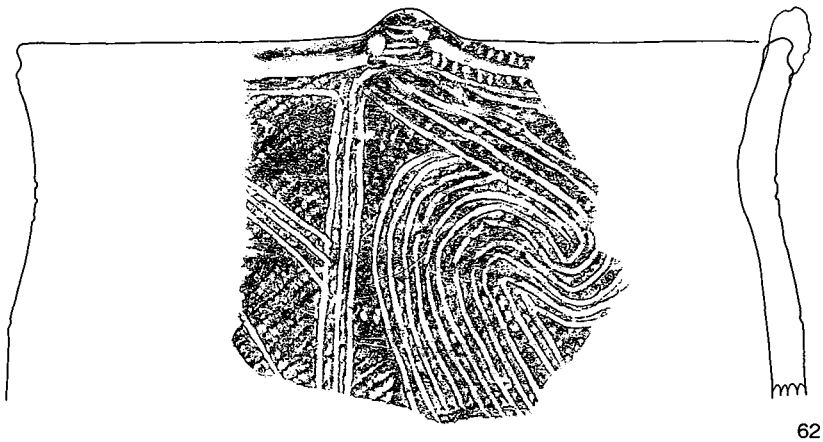
54～170は堀之内１式を中心とするものである。54～63・66は頸部が屈曲する器形であるが、口縁部から胴部下半まで単一の文様帯を構成するもの。ただし56は頸部での区画が意識されている可能性もある。55は地文が撚糸文で、蕨手状のモチーフの内側が磨消されている。綱取式に多用される手法である。57・59は２本一組の沈線による「Ｕ」字状のモチーフの内側が磨消されるもの。58も類似するモチーフをもつが、沈線が付加されるほか磨消技法はみられなくなる。54・56はいわゆる蕨手文の両側に沈線が付加されており、内側も磨消されない。60は頸部に横位の区画沈線がみられるが縦位の沈線が優先されているのでここに含めた。62・63は集合沈線を多用するもので、磨消技法は全く認められなくなる。64・65・67～90・140・162は屈曲する頸部を境に文様帯が上下に区画されるもので、口縁部が無文のものと縄文地文のものとに大きく分けられる。64・65・68は胴部に蕨手文が配されるが、ごくシンプルな形状であり付属する沈線が存在しないなど、古相を呈している。67は口縁部文様帯に円形刺突を頂点とする三角形の沈線が配される。70～76は胴部の沈線が集合化したもの。80は胴部文様帯を縦位に区画する意識が認められないもので、堀之内２式とするのが妥当かもしれない。84はＬＲ単節の軸縄にℓ撚糸を巻いた附加条縄文を地文とするもので、口縁部側が幅広く胴部に意匠文は施されない。86は口縁部と胴部を区画する沈線が省略されているもので、波頂部を起点とする沈線が口縁に沿って波底部まで引かれ、そこから底部に向かって垂下される。82・83・89・90は同じ器形を持つ小形品で、口径に比べ器高が低い。83は「８」字状貼付文が口縁部と胴部を区画する沈線の下に横位に貼り付けられるもの。162は頸部に把手がつくもの。91～139・141～149は屈曲がなく底部から口縁部に向かって直線状に開くものである。91・92は幅の狭い口縁部無文帯に両端に円形刺突を配した太い縦沈線が描かれるもの。綱取式の鉤状文の変容したものと考えられ、堀之内１式でも古相を呈するものであろう。93・95～99は刺突列を垂下させるもの。99は口縁部から「Ｊ」字状の沈線を垂下させ、内部を刺突列で充填する。126～130は文様帯を区画する沈線の間を短沈線



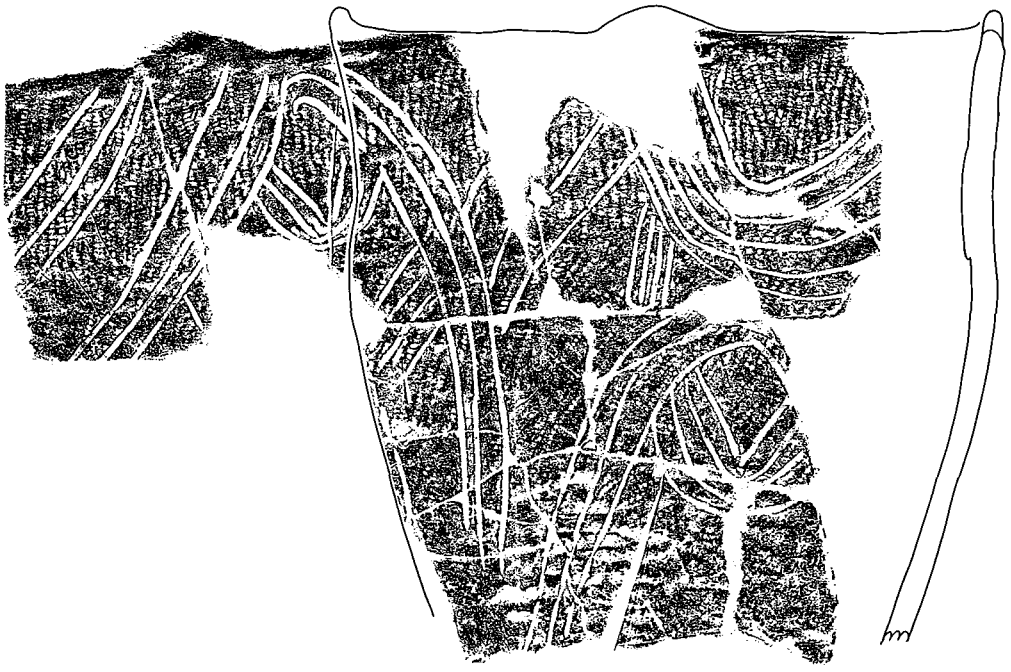
第18図　SX－001出土縄文土器（２）



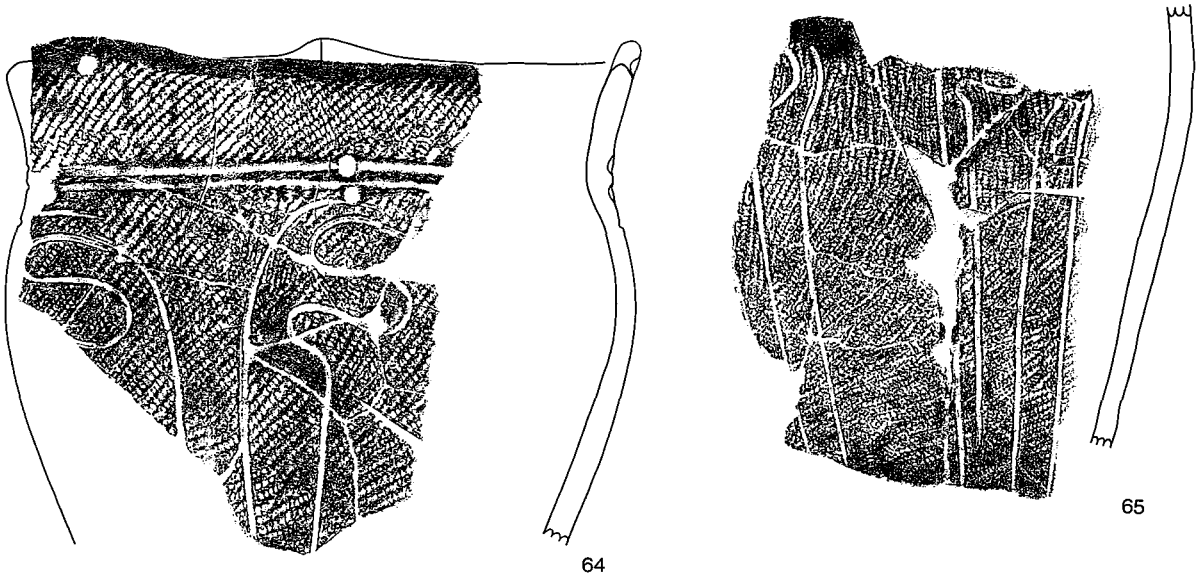
第19図　SX－001出土縄文土器（3）



62



63

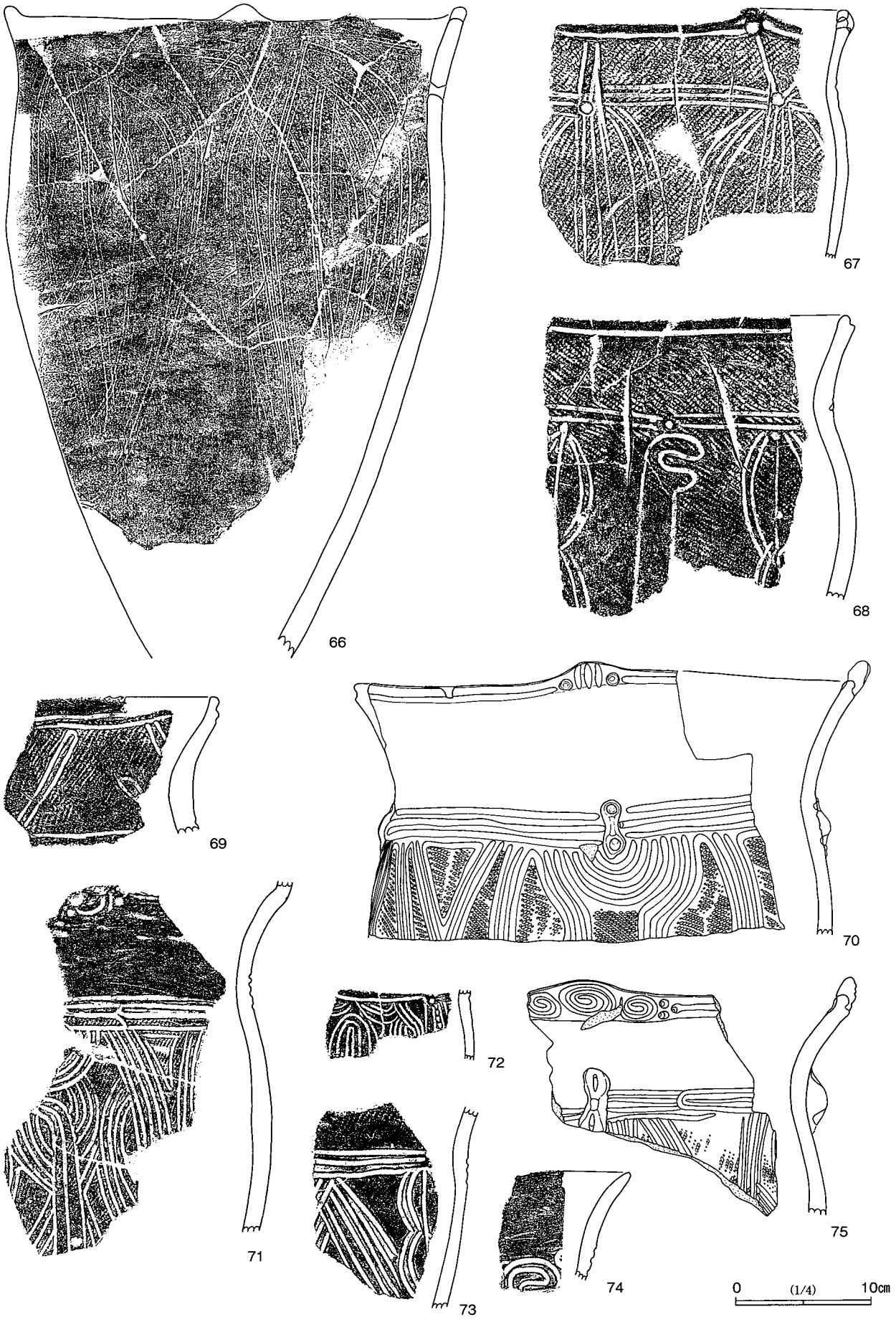


64

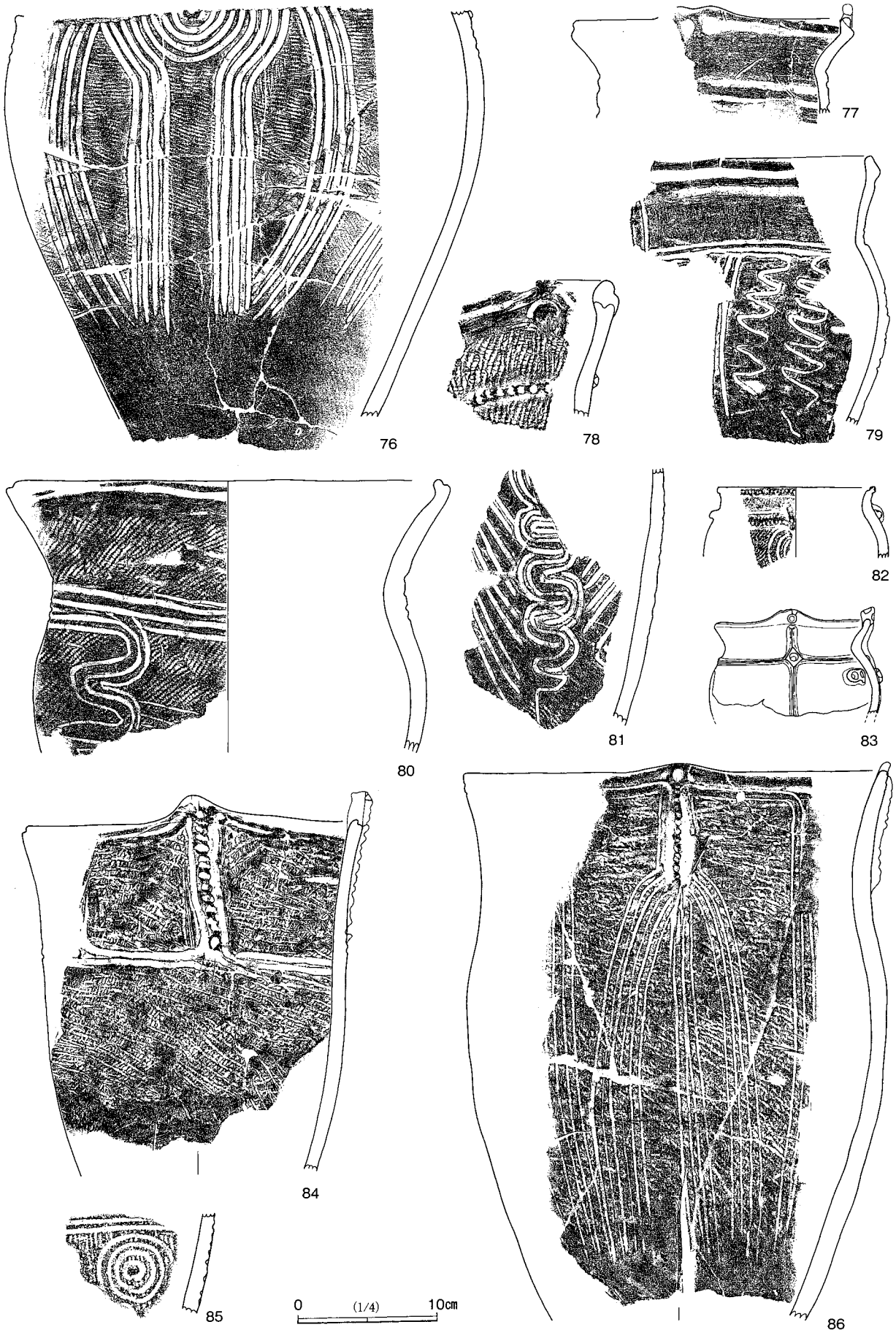
65

0 (1/4) 10cm

第20図　SX－001出土縄文土器（４）



第21図　SX－001出土縄文土器（５）



第22図　SX－001出土縄文土器（6）

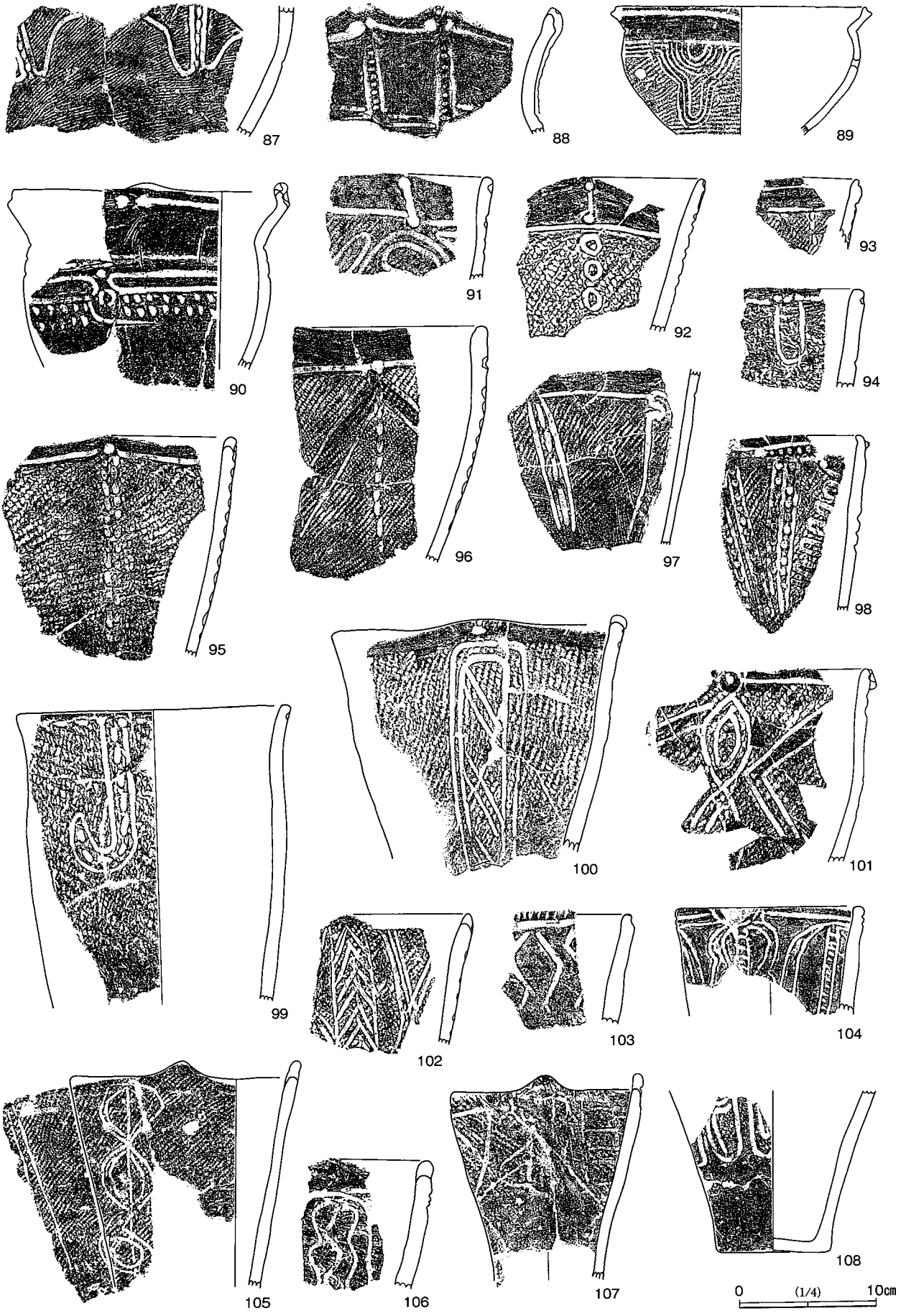
で充填するもので、綱取Ⅱ式の影響によるものか。141・142・146～149は特に意匠は認められないが、口縁部に無文帯を作出する意図があると認められるもので、堀之内１式に相当するものであろう。150～153は胴部～底部破片で胴部の文様からここに置いたもの。154・156・157は深鉢の把手である。155・158～161・163～170は堀之内１式の深鉢以外と考えられるもの。155・165・166・168・169は口縁部が内傾する鉢、158・160・161・163・164・167・170は口縁が直線上に外反する浅鉢である。内傾する鉢は胴部全面に文様が配されるが、外反する浅鉢は文様帯が口縁部に限定される。159は89と同様の器形の可能性もあるが、上下に顕著につぶれた器形を呈しているのでここに置いた。166は注口土器である。

174～183・185～196は堀之内２式を中心とし、一部加曽利Ｂ１式を含むもの、171～173はその可能性が強いものである。174～179・192～196は深鉢、180～183・185～188は浅鉢である。174～178・192～195は底部から口縁部に向かって直線的に開く器形を呈するもので、胴部上半分が上下で区画され磨消縄文技法による文様が配される。179は小さい底部から器壁が大きく外反し、胴部から上は直立するように立ち上がる器形を呈する。189・191は注口土器で、189は把手である。196は堀之内１式からの系統を継ぐ頸部に屈曲をもつ深鉢であるが、文様は堀之内２式に特徴的な幾何学的なものとなっている。197～199は加曽利Ｂ１式の粗製土器で、直線的に外反する器形をもち口唇直下に紐線文が貼り付けられる。197・199は地文縄文で、原体は精製土器と同じく節の細かいものを使用している。200・202～204は縄文のみ施される深鉢で、口縁内面の沈線から堀之内２式～加曽利Ｂ式に相当すると考えられる。特に203・204は沈線が太く、加曽利Ｂ２式以降の可能性が強い。201は無文の鉢で、口縁部内面の沈線からこの時期とした。

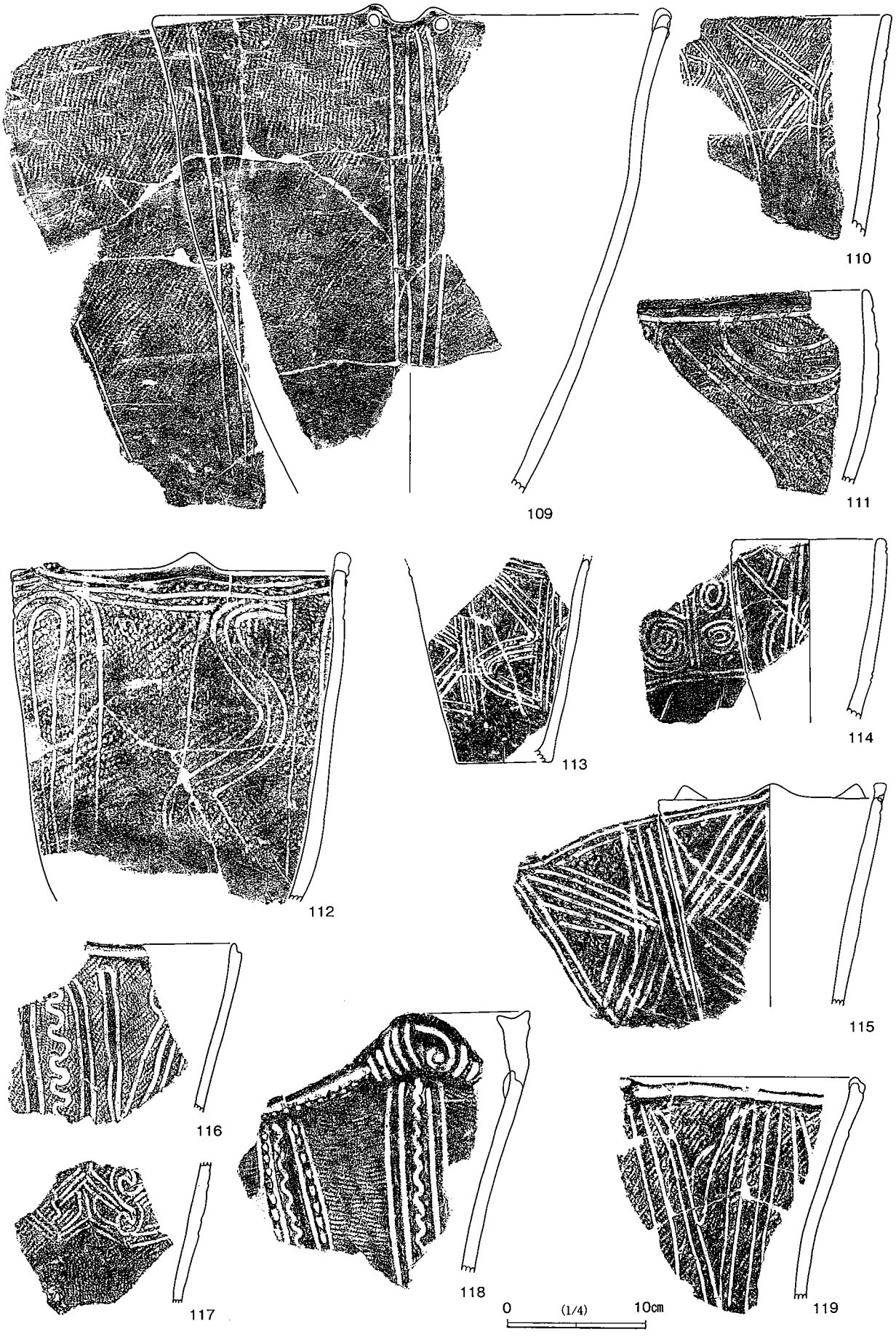
205～219は縄文のみ施文される深鉢で、ほとんどが堀之内１式期に属すると思われる。207は胴下半部に条線が施される。208は拓本では表現されていないが口端上に沈線が巡らされ、小突起上には円形刺突が施される。210は口縁部に粘土紐を２本捻らせた装飾突起をつける。220～224は無文土器で、220・223・224は深鉢、221・222は浅鉢である。225・226は縄文施文の浅鉢で226は沈線が施される。225は口縁部形状からもっと新しくなる可能性もある。227～251は底部破片である。234は浅鉢でそれ以外は深鉢である。縄文以外の文様がなく詳細は不明であるが、後期前葉を中心とするものであろう。

252～266は加曽利Ｂ１式を中心とするもので、252・254・256～258・260・262は深鉢、253・255・263は鉢、259・262・264・265は浅鉢である。266は注口土器と思われる。

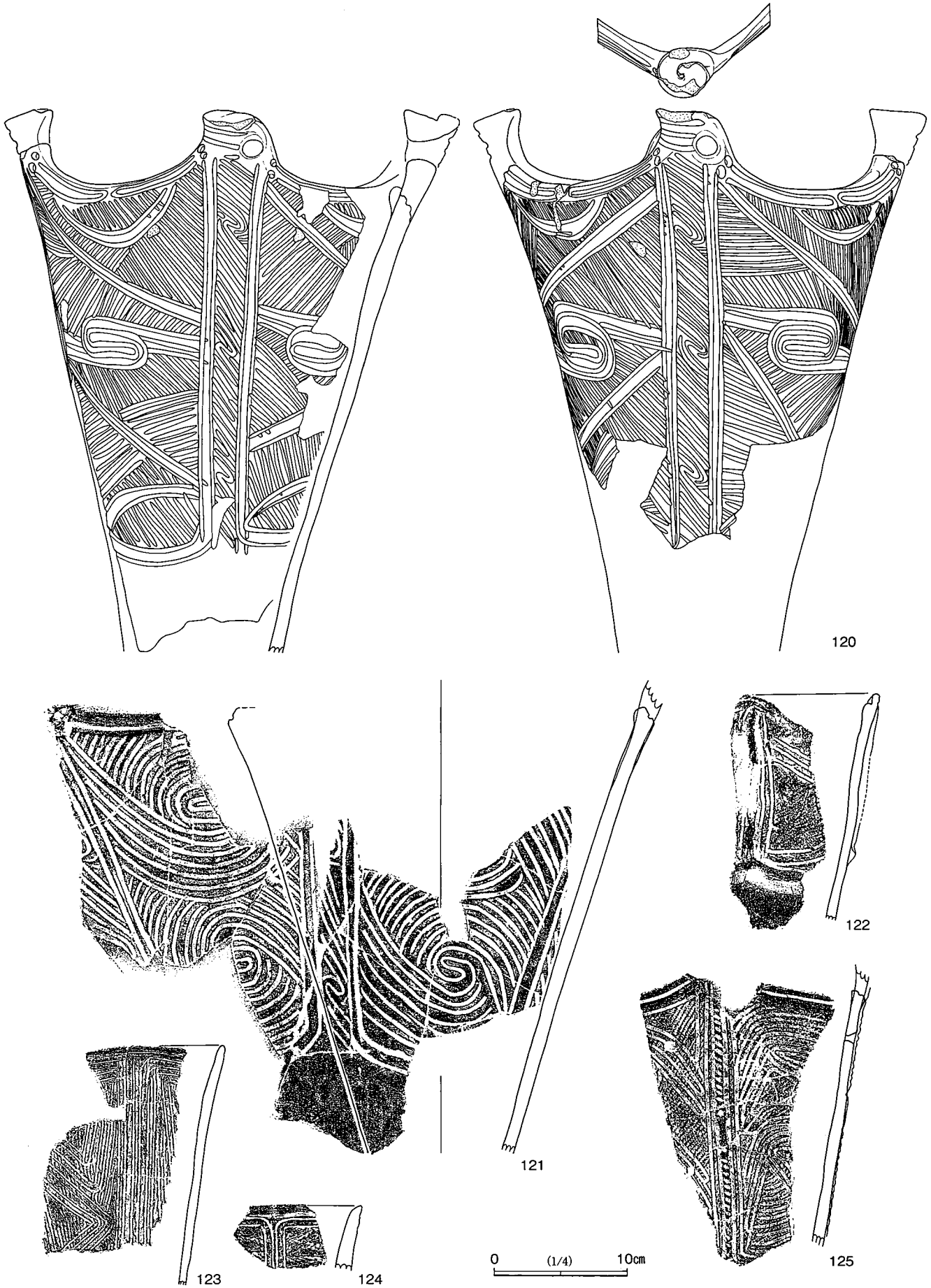
267～311は加曽利Ｂ２式を中心とする。267・270～272・274・275・303は縄文施文による精製深鉢・鉢類である。273は釣手土器で、円形刺突の多用は加曽利Ｂ２式を想起させるが、胴部下半の条線はより新しい様相を呈している。276・277は波状口縁深鉢の波頂部で、本体に対し極めて大形の角状を呈する突起である。278は内面にキザミ隆起線を巡らせる壺形土器である。280は口縁部に帯状の縄文帯、胴下半部に集合沈線を配する鉢である。281の浅鉢は内文が特徴的であり加曽利Ｂ２式であろう。283～288・290～296は集合沈線を文様の基本要素とする鉢類で、施文具に先端の鋭い工具を使用していることや、精粗はあるが文様がシンメトリカルな構成を保っていることから加曽利Ｂ２式に属するものであろう。289は無文であるが、図上端の屈曲から上側は集合沈線による文様が配されると考えられる。297～302は底部から大きく開く無文の浅鉢で、加曽利Ｂ２式を中心とするものである。304・305は縄文地文に斜格子状沈線を配するもの。305の沈線は施文具が細くて鋭く尖っており、頸部無文帯がしっかり区画されているのに対し304は施文具が幅広く丸くなり、無文帯の区画も曖昧になっている。時間差が想定できるかもしれない。306～311は粗製土器で、大柄な紐線文や胴部沈線がモチーフ的な要素を残していることなどから加曽利Ｂ



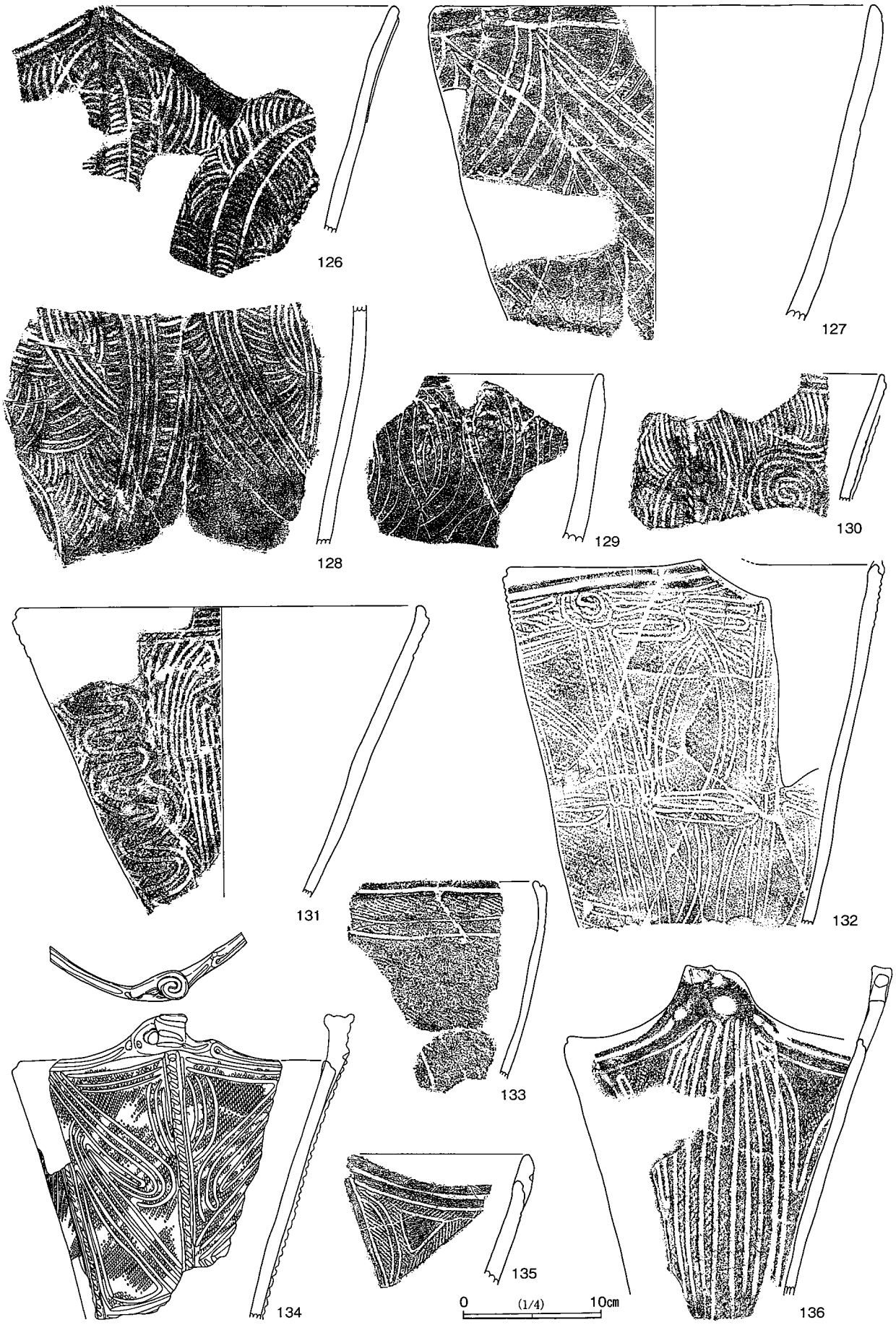
第23図　SX－001出土縄文土器（7）



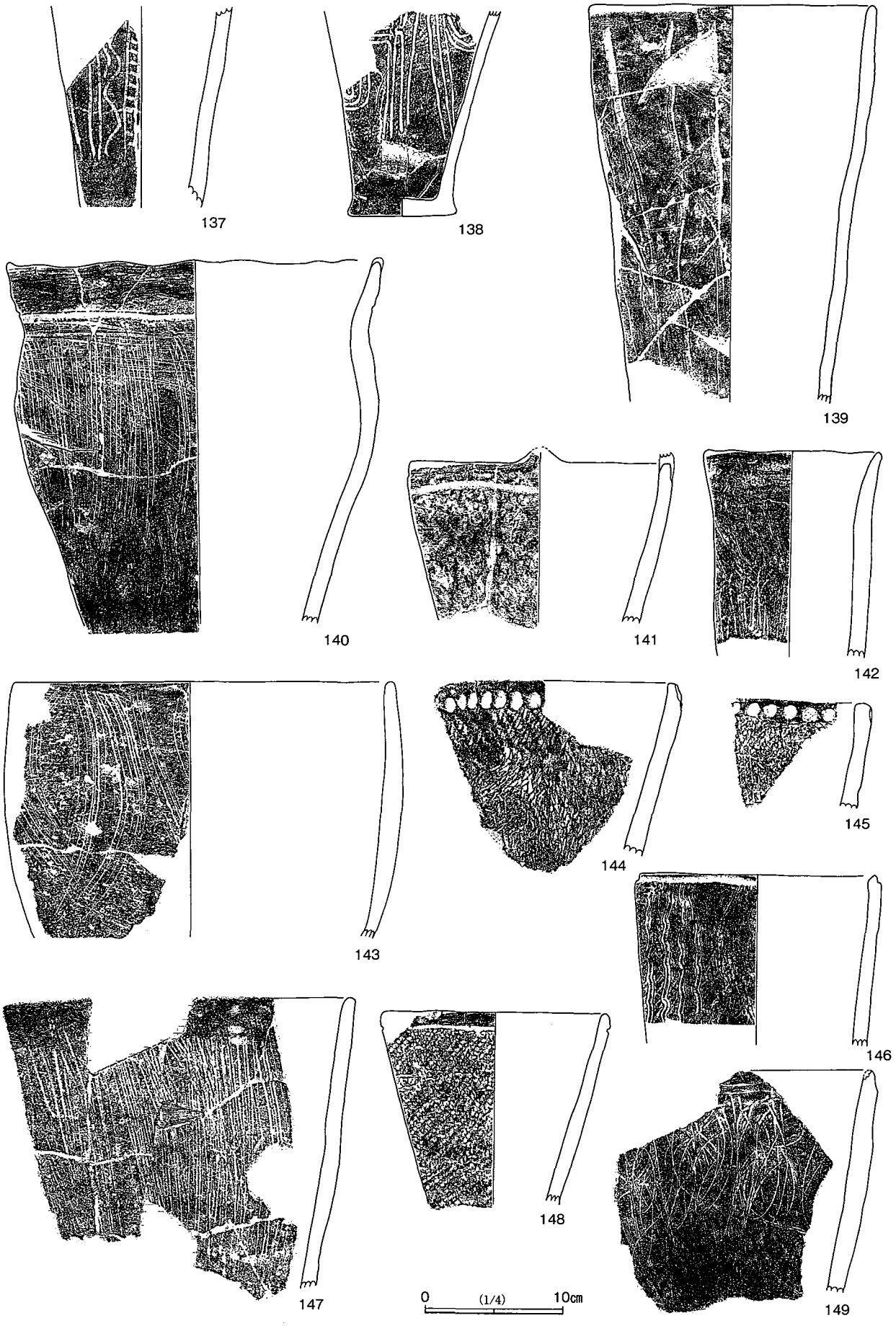
第24図　SX－001出土縄文土器（８）



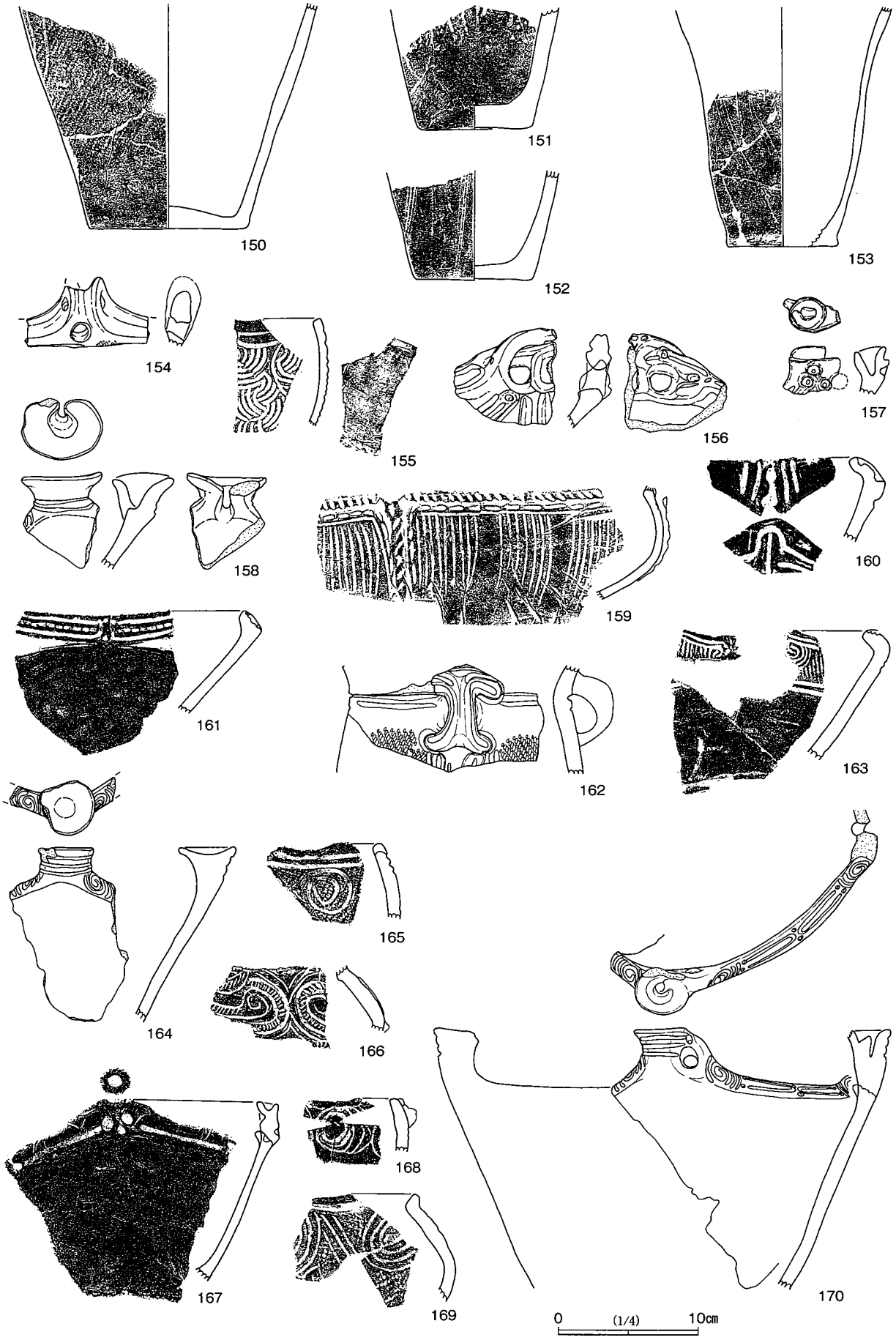
第25図　SX－001出土縄文土器（９）



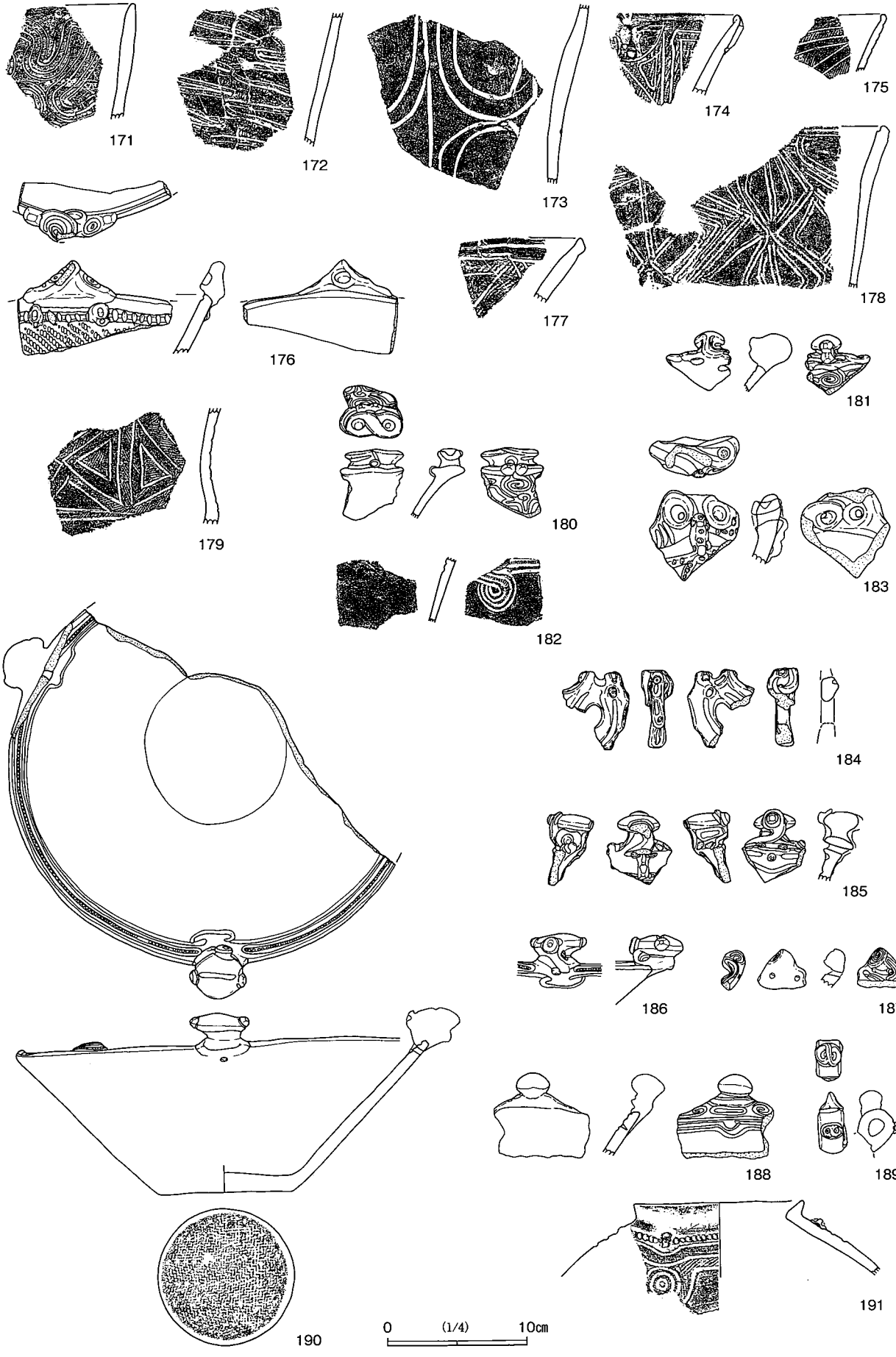
第26図　SX－001出土縄文土器（10）



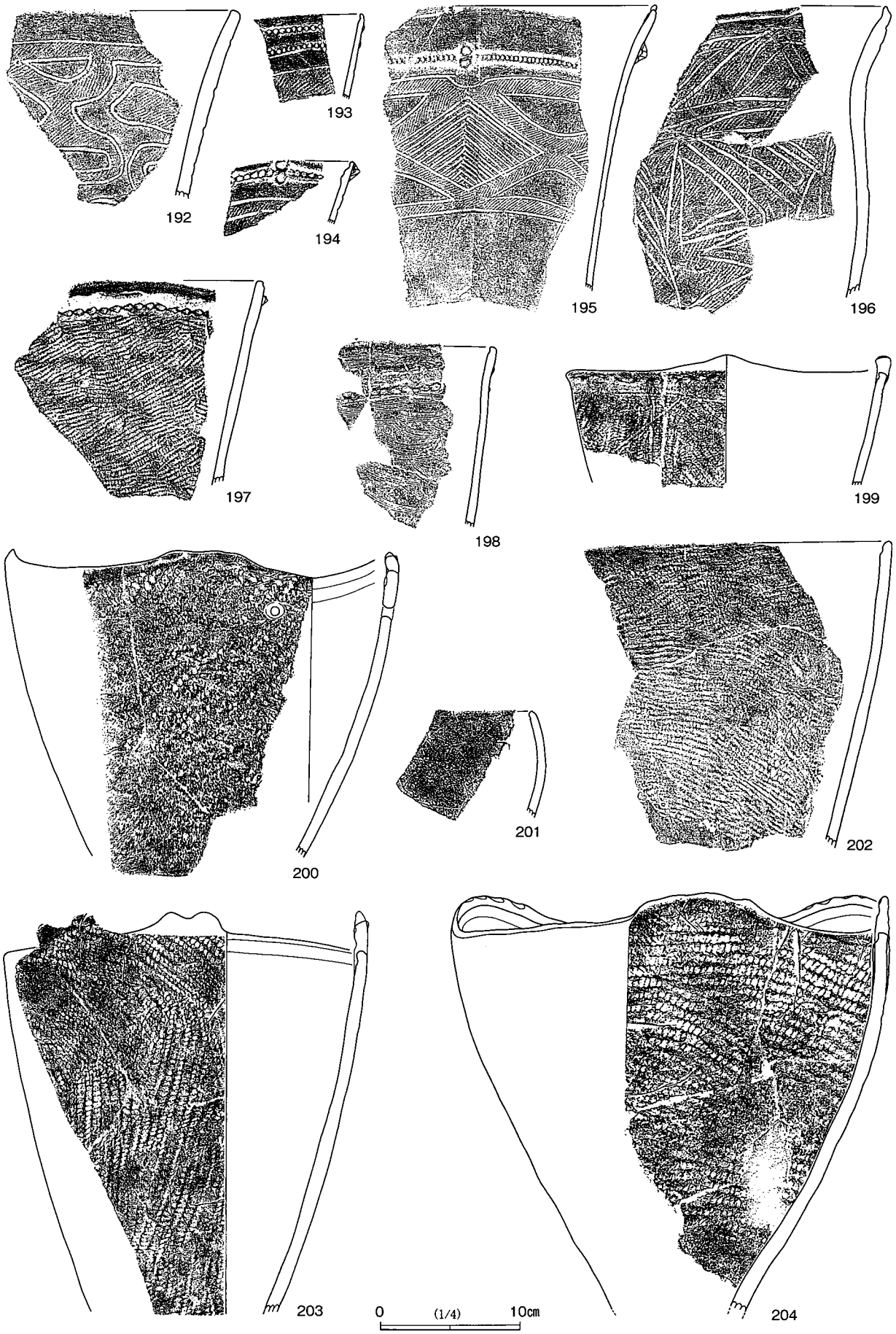
第27図　SX－001出土縄文土器（11）



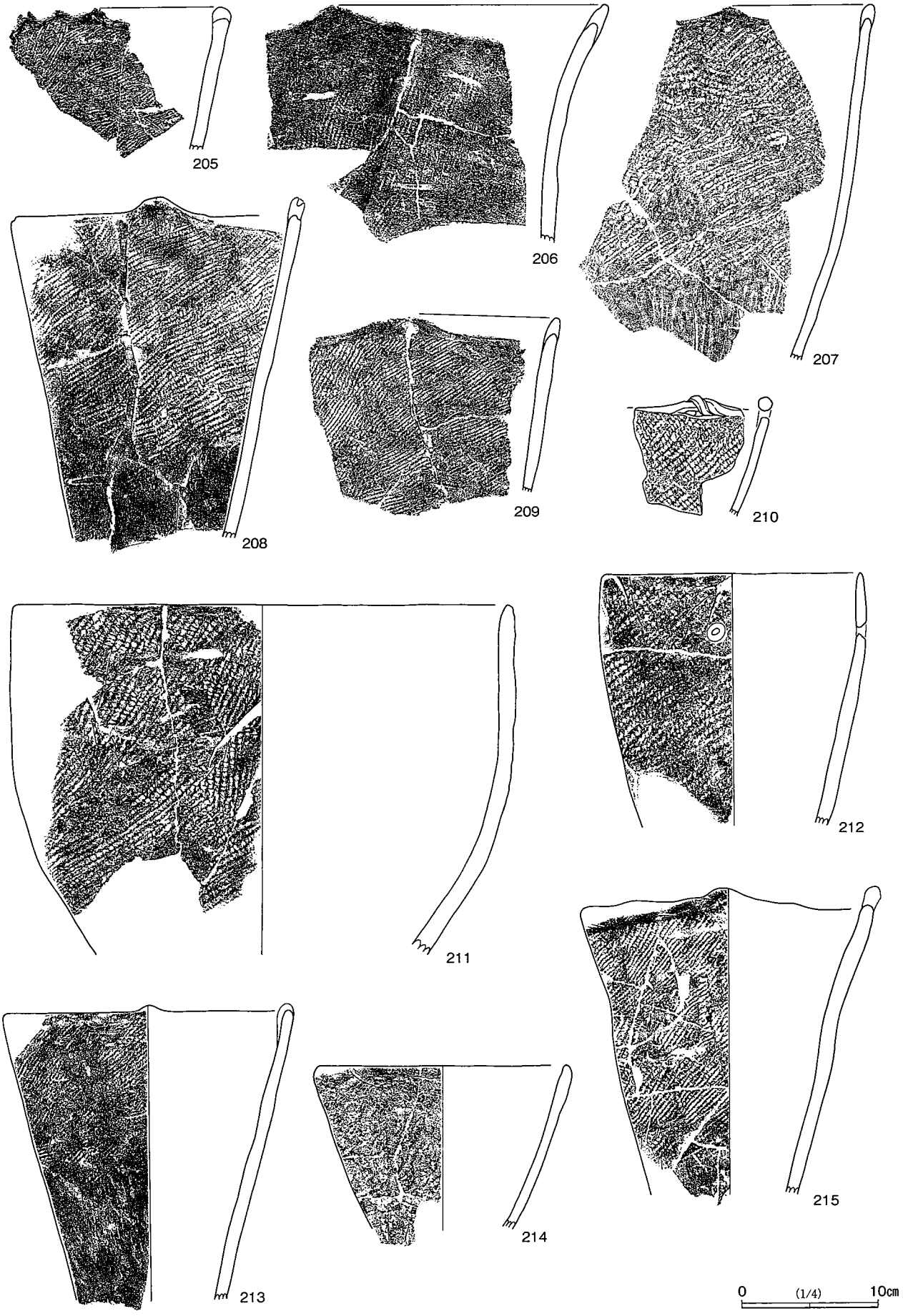
第28図　SX－001出土縄文土器（12）



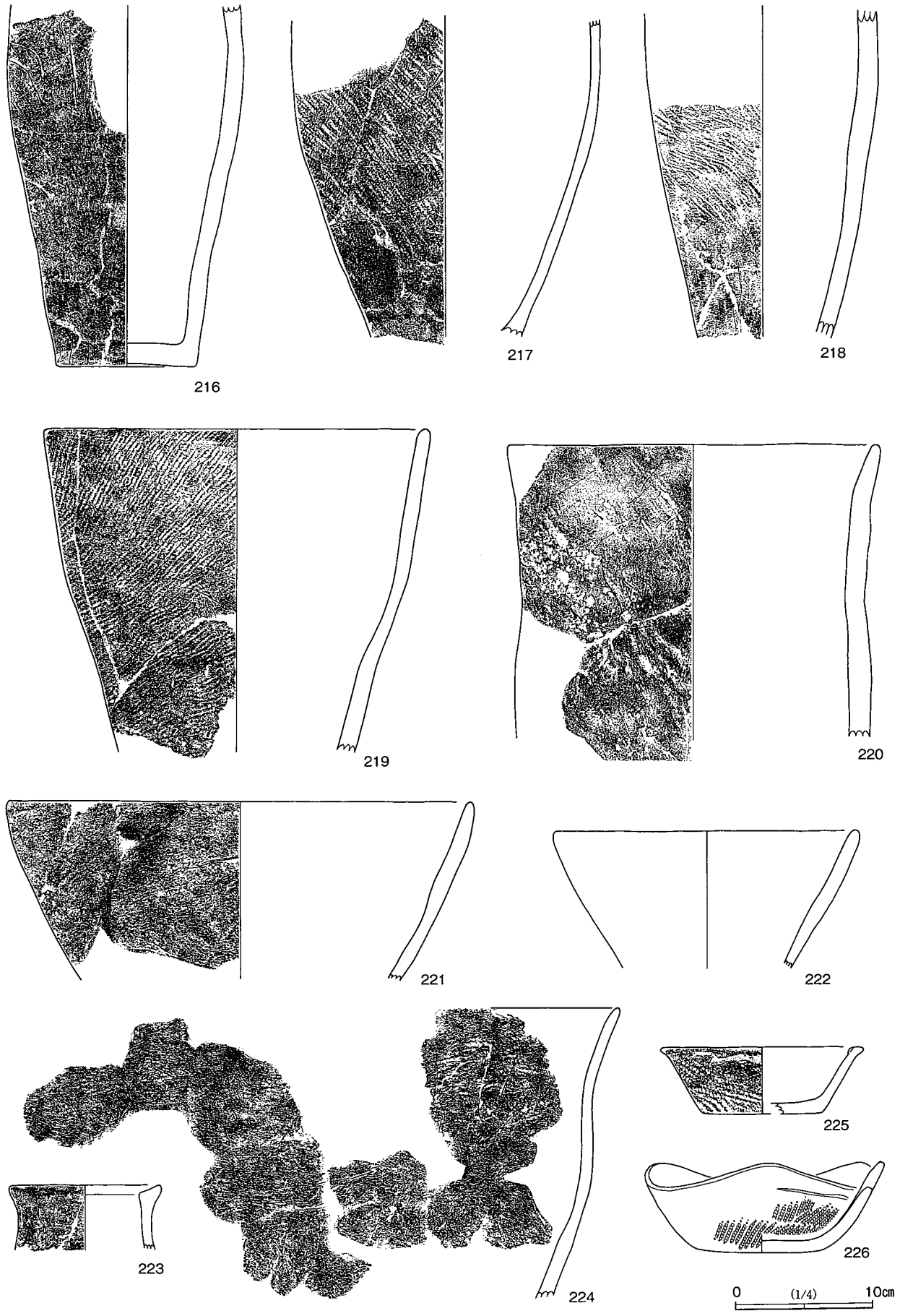
第29図　SX－001出土縄文土器（13）



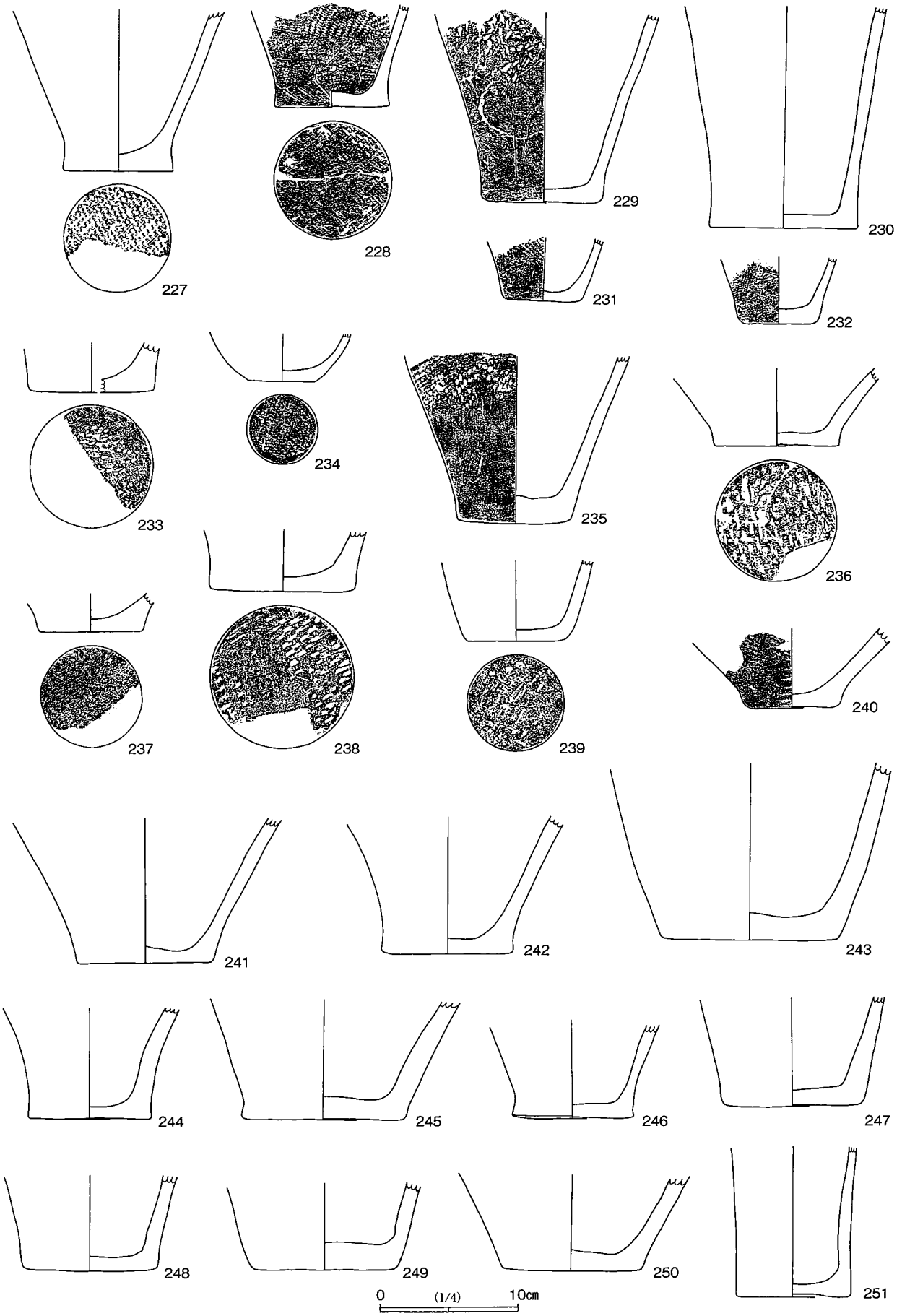
第30図　SX－001出土縄文土器（14）



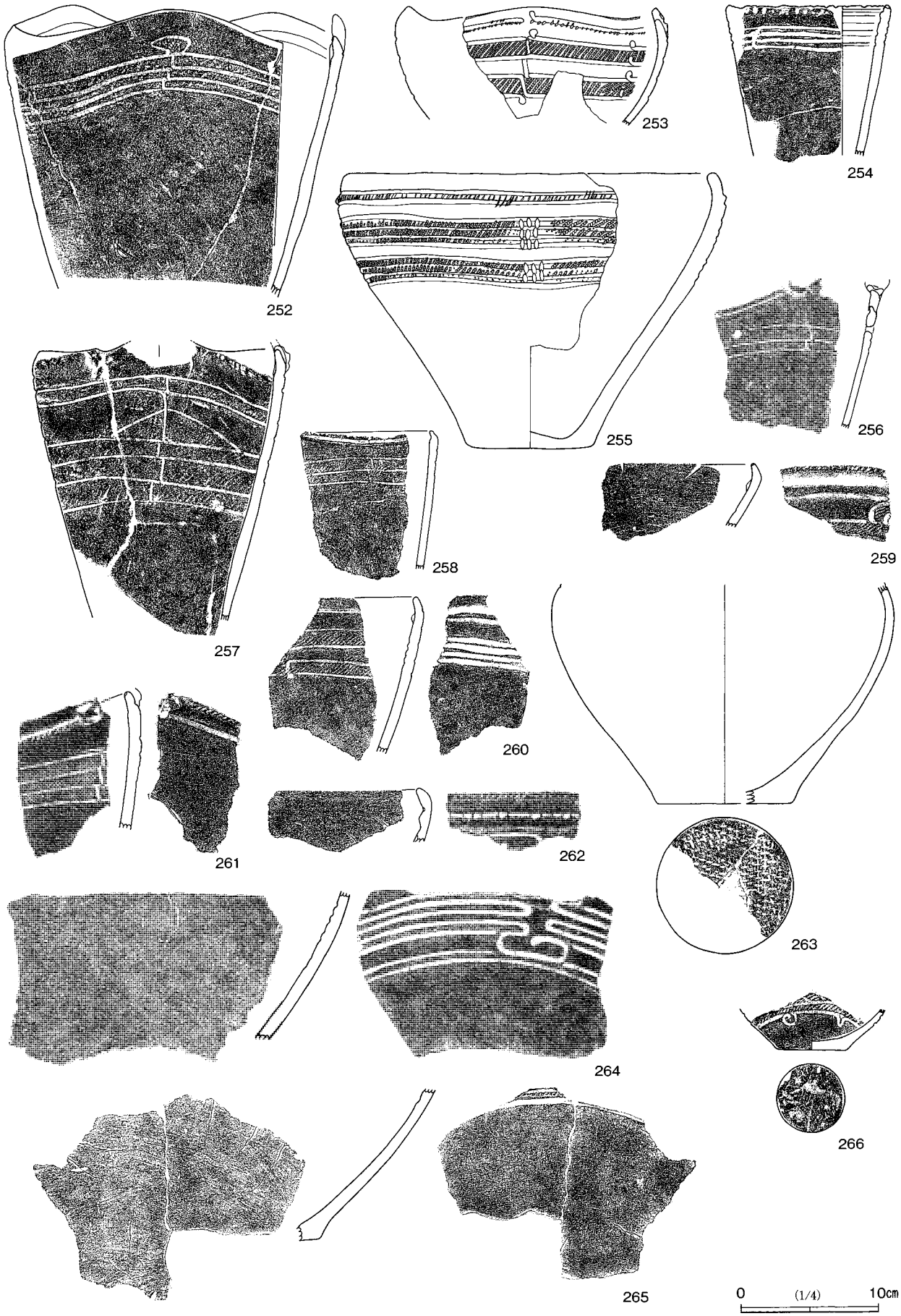
第31図　SX－001出土縄文土器（15）



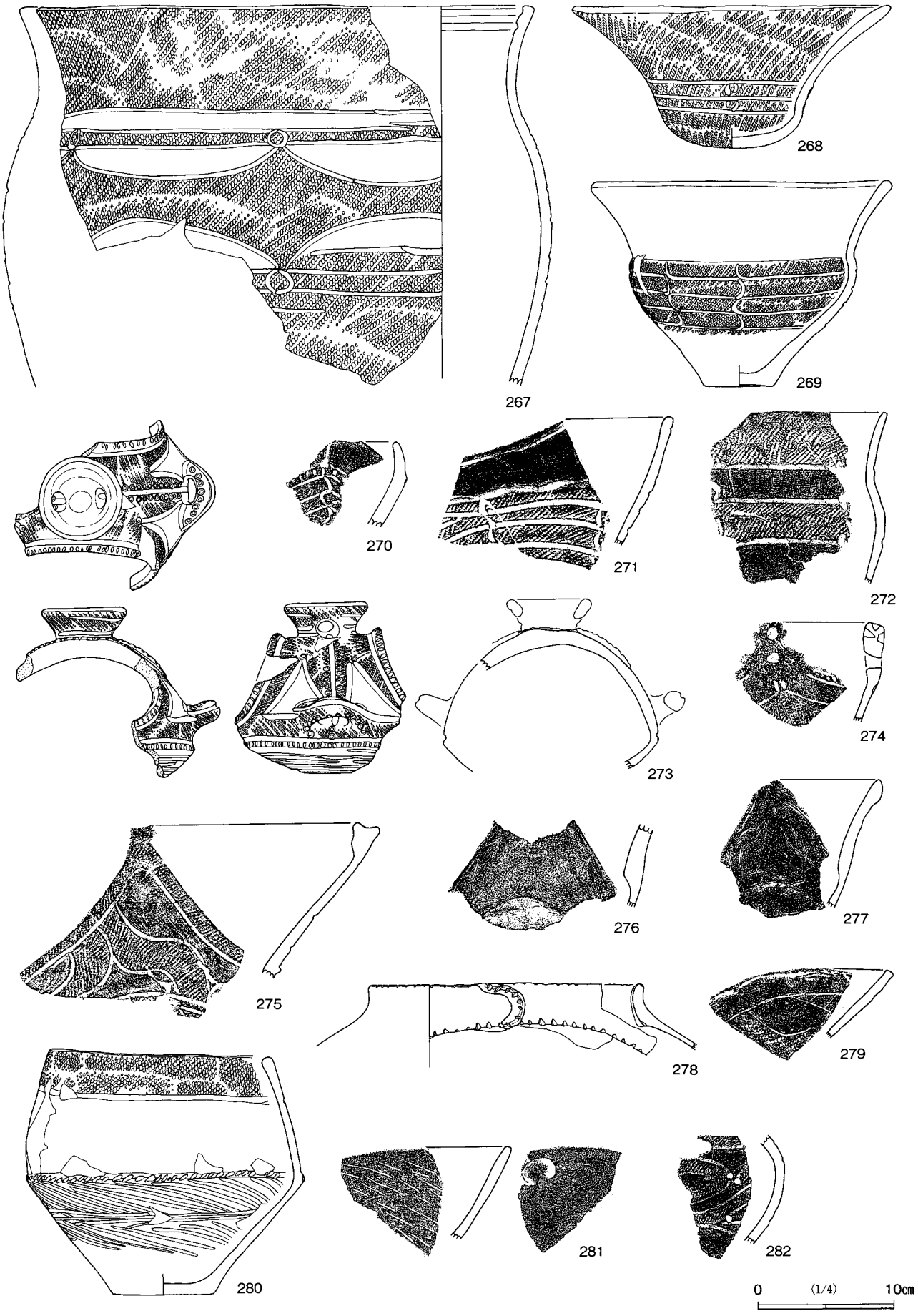
第32図　SX－001出土縄文土器（16）



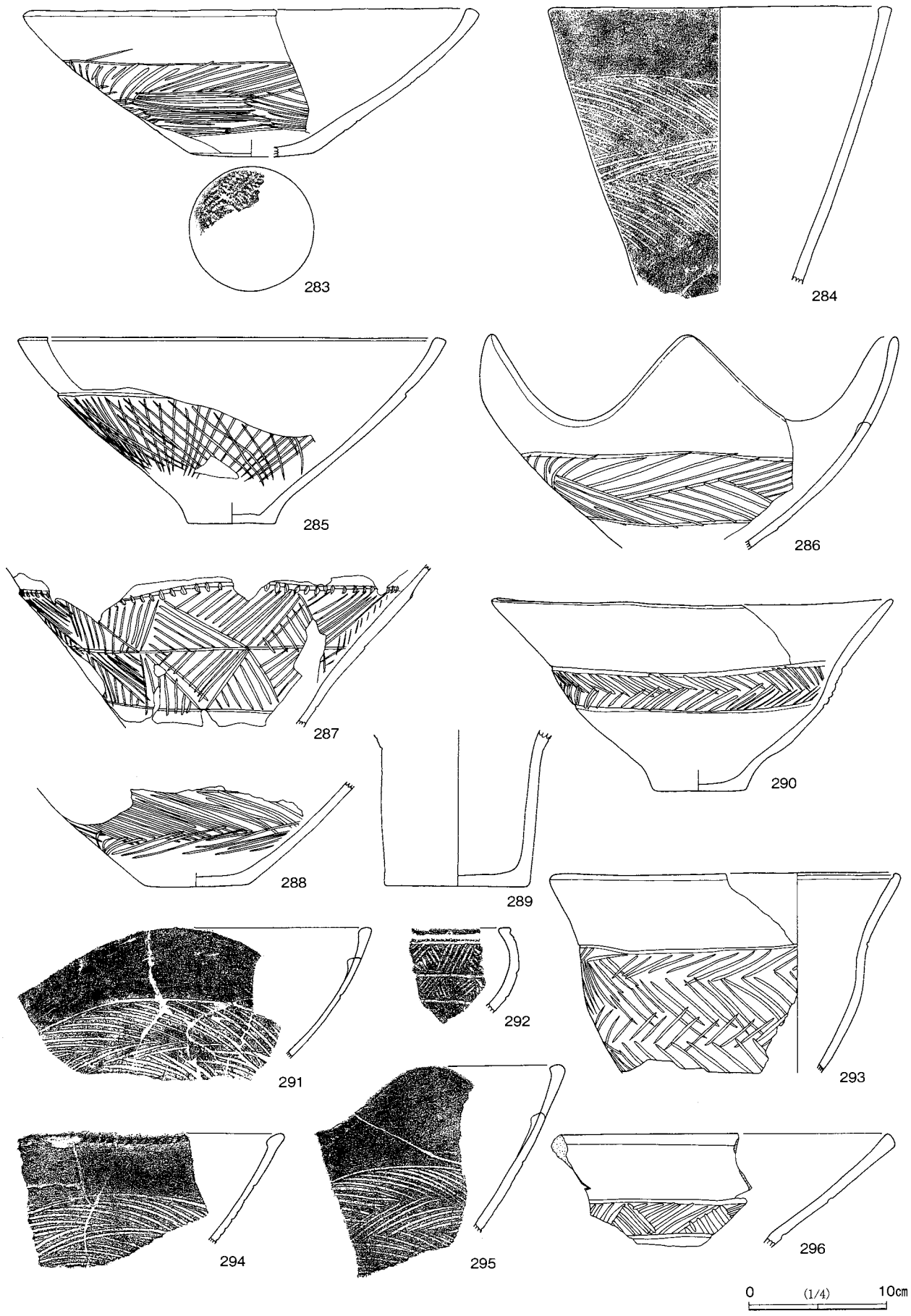
第33図　SX－001出土縄文土器（17）



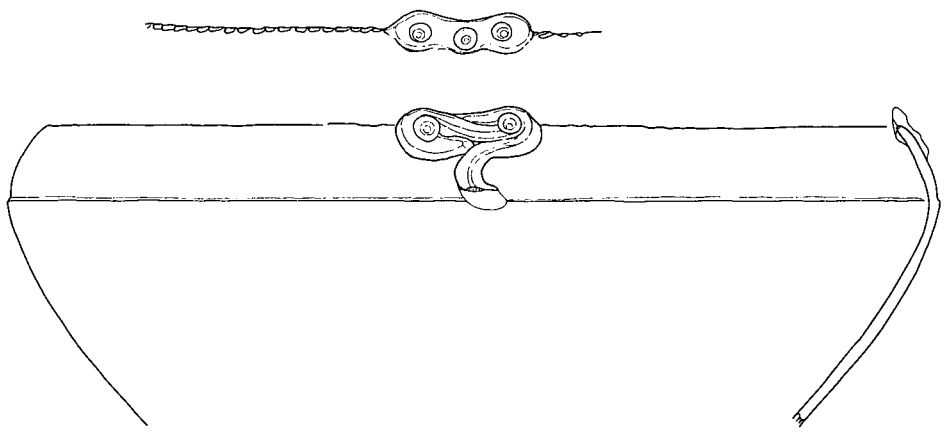
第34図　SX－001出土縄文土器（18）

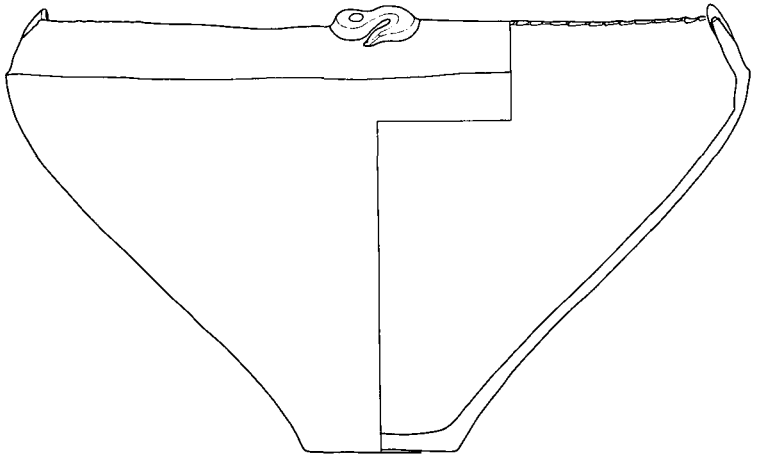


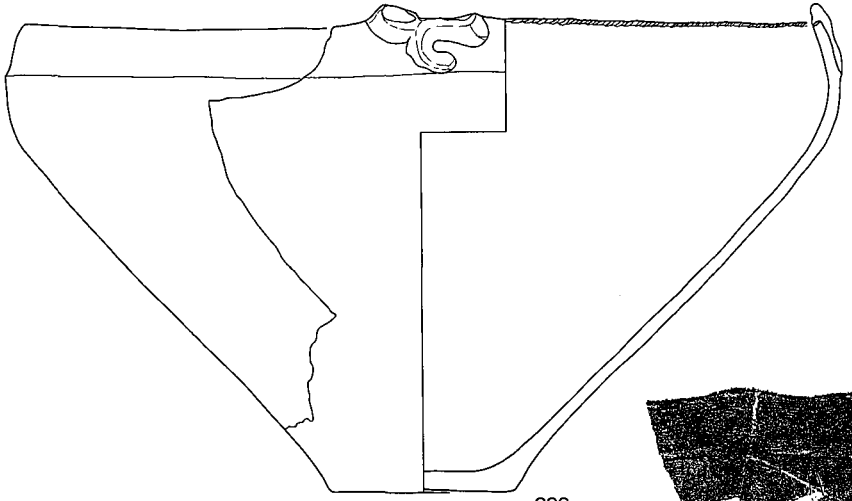
第35図　SX－001出土縄文土器（19）

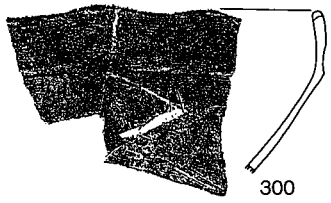


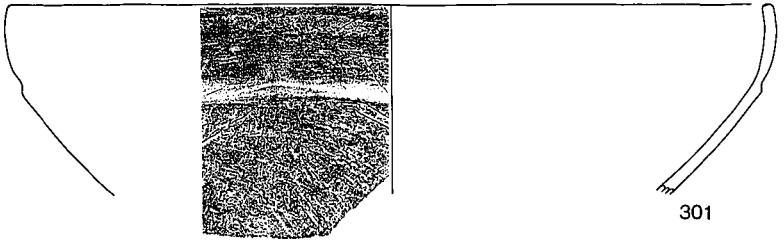
第36図　SX－001出土縄文土器（20）

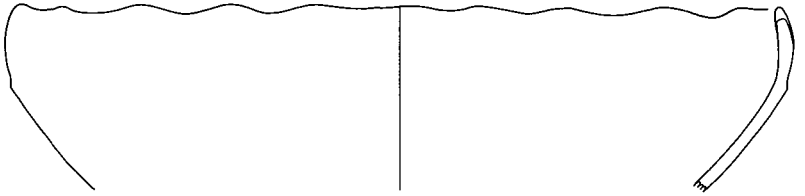

297


298


299

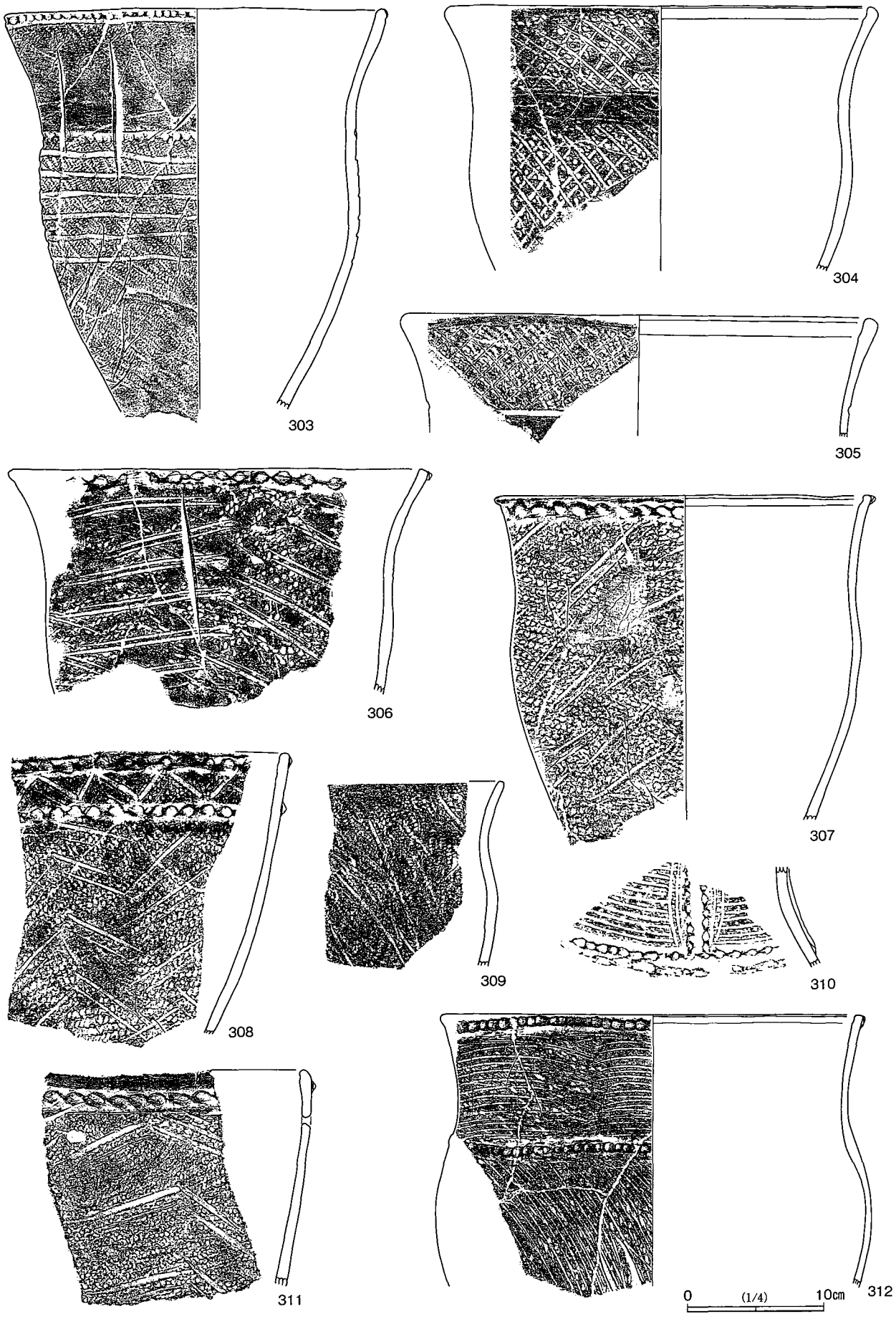

300


301

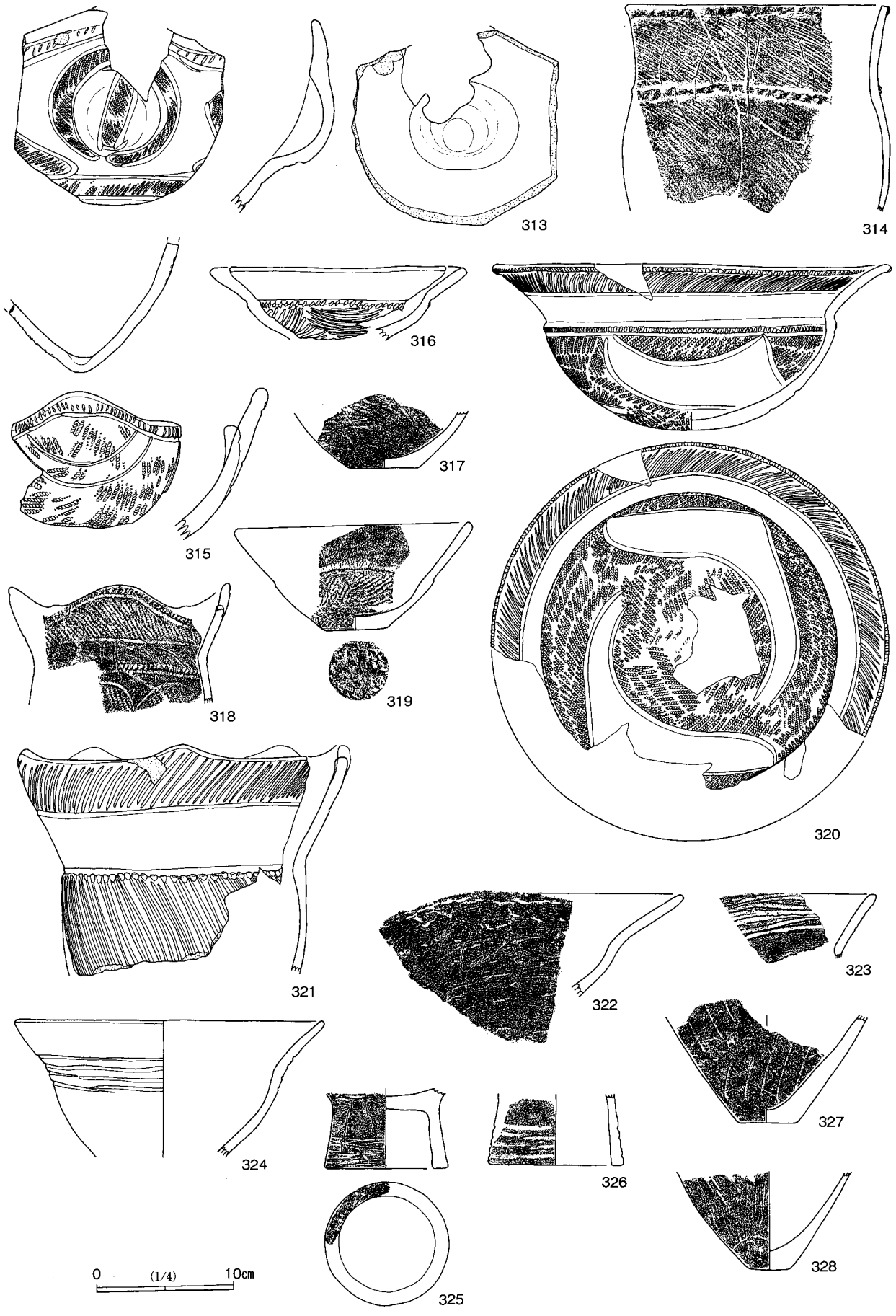

302

0 (1/4) 10cm

第37図　SX－001出土縄文土器（21）



第38図　SX－001出土縄文土器（22）



第39図　SX－001出土縄文土器（23）

２式を中心とすると考えられる。306・308は条線が鋸歯状に施されており古相を呈している。309は判断が難しいが地文縄文が粗く沈線も粗製土器の条線に類似することからここに含めた。310は頸部から口縁部に強く内傾する器形を呈する、いわゆる遠部第３類型と呼ばれる大形土器である。

312～328は加曽利Ｂ３式以降である。312は粗製土器であるが、紐線文の指頭圧痕が小刻みになり条線も密になることから加曽利Ｂ３式と考えられる。313は波状口縁深鉢の波頂部直下で外側に大きく突出する。加曽利Ｂ３式か。314は粗製土器で、縄文が施文されないことや紐線文貼り付けの前に条線が施されていることから、曽谷式以降であろう。315は舟形土器と考えられるもので、突出部に２本の弧状沈線が配される。316･317は胴部に条線が施される浅鉢である。318は磨消縄文を主体とする波状口縁の深鉢で、胴部は弧線で区画されている。319は浅鉢で胴部屈曲の下側に縄文が施される。320は大形の浅鉢で、底部の文様は「ト」の字文に由来するものであろう。321は条線を主体とする波状口縁の深鉢である。323は口縁部に平行沈線を配するもので、赤彩が施されている。325・326は台付浅鉢の台部である。327・328はまばらな条線が施される粗製深鉢で、晩期前葉と考えられる。

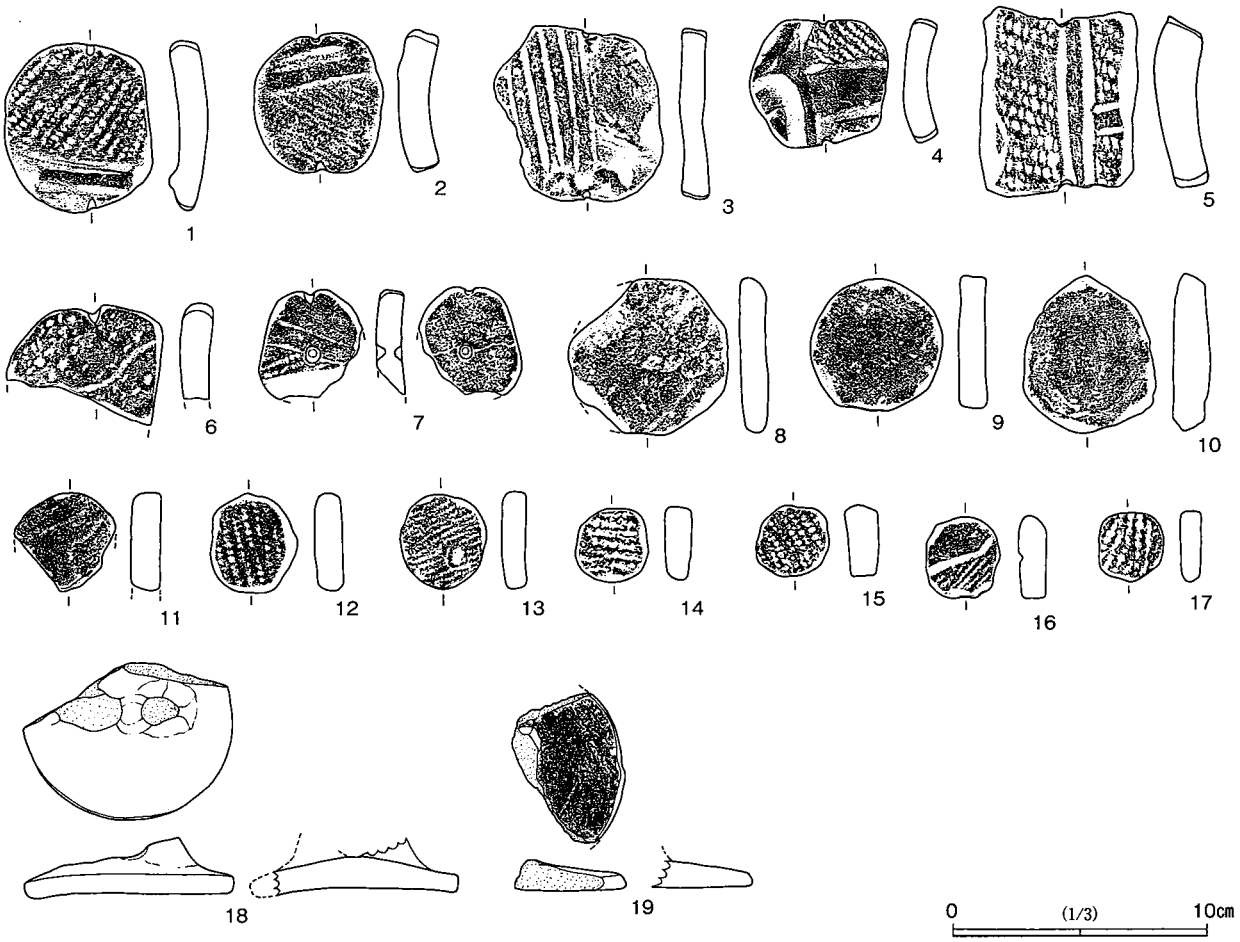
出土した土器をもとに、Ｃ区の縄文時代について簡単にまとめておく。量的にまとまっているのは中期中葉から後期中葉までで、ピークは堀之内１式にある。その中でも新段階に相当するものが多数を占める。これは東京湾東岸や古鬼怒川沿岸において大規模な貝塚集落が形成されるのと機を一にする。Ｃ区においてはこの時期の遺構は検出されていないが、存在したとしても弥生時代以降に破壊された可能性が強い。そこで他の調査区と比較すると、Ｄ区において加曽利Ｅ２～Ｅ３式期の集落が構築された後、空白期間をおいて加曽利Ｂ３式～曽谷式期に集落が構築されることが確認されている。特に堀之内１式期の遺構は全く検出されておらず、出土遺物もごく少ない。その間を埋めるようにＣ区においてこうした土器集中地点が存在したことで、Ｄ区の空白期間にＣ区に集落が存在した可能性が強いと指摘できる。遺物の時期に重複がみられることから同時期に竪穴住居が存在したかもしれない。鹿島台遺跡の縄文時代の様相については、残されたＢ区の整理が済んだ後総合的に検証されよう。

土製品（第40図、図版44）

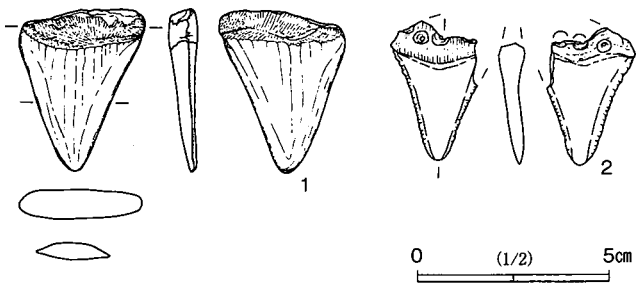
1～7は土器片錘で、比較的大形のものが多く、中期加曽利Ｅ式期に含まれるものが多い。8～17は土器片利用の円盤で、小形品が主体を占める。土器片錘同様中期のものがほとんどで、小形品のほうが側縁の研磨が丁寧である。18は蓋形土製品で、つまみ部を欠く。19も蓋形の破片と思われる。

垂飾品（第41図）

１・２はサメの歯を利用した垂飾品と思われる。1は長さ4.3cmを測り、頭部の穿孔は施されていない。２はやや小形となる。頂部に３ヵ所の穿孔の痕跡が伺えるが貫通していない。



第40図　SX－001出土土製品



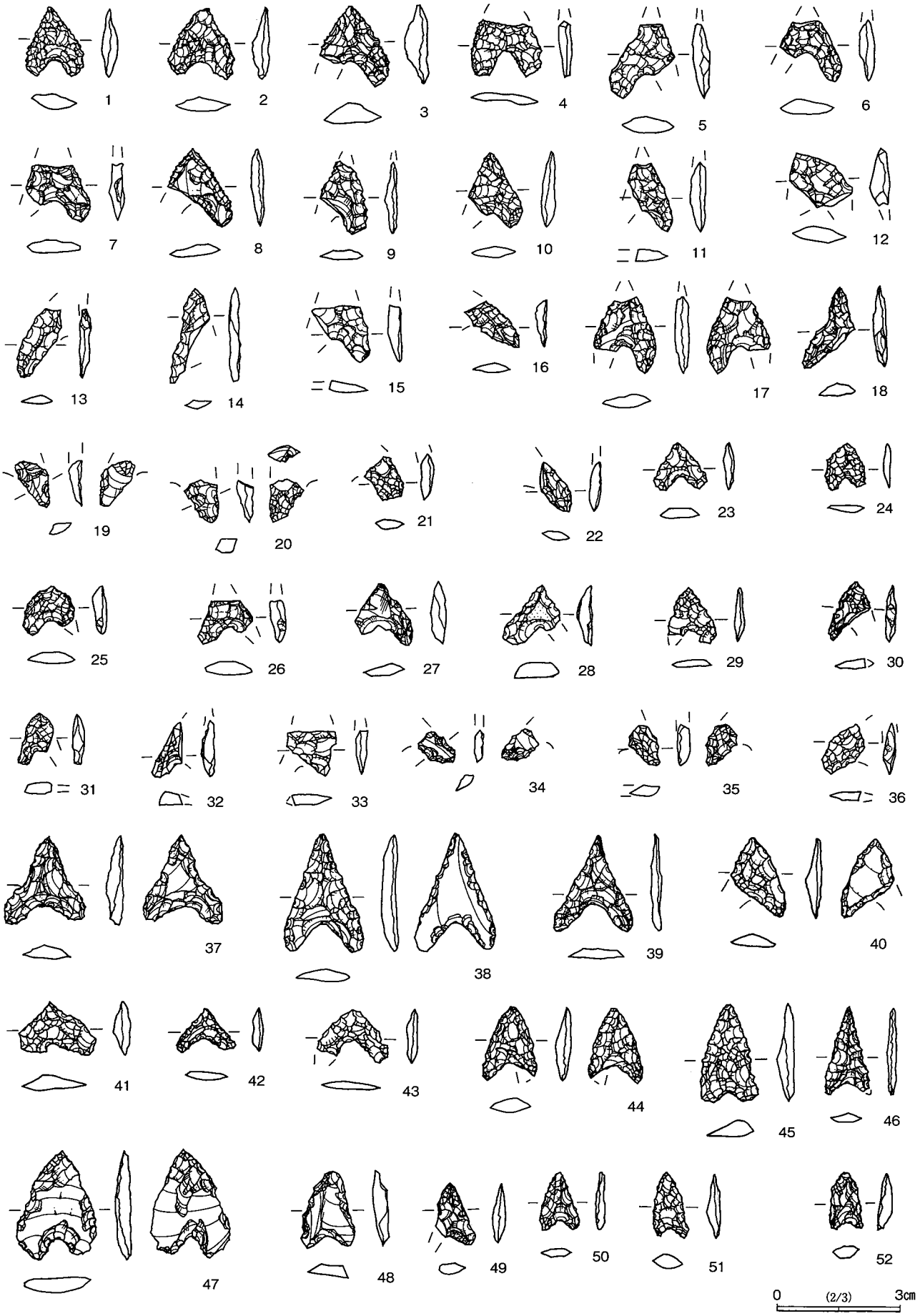
第41図　SX－001出土垂飾品

石器（第42～50図、第２表、図版35～38）

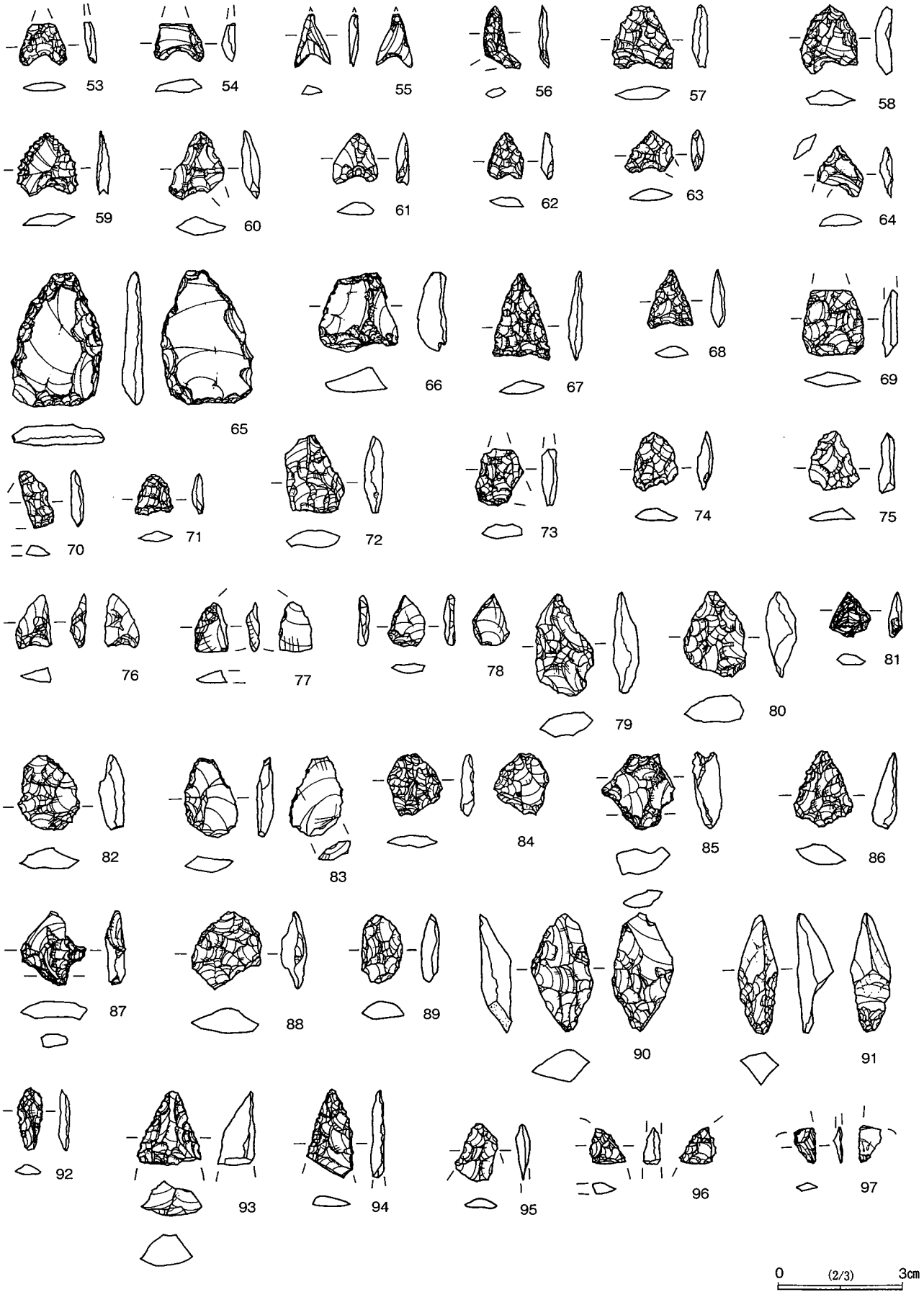
SX－001から出土した石器は、多量の土器とともに出土しており、その所属時期は、土器と同様、中期後半から後期後葉にかけてのものと思われる。

１～97は石鏃である。石材別にみると、黒曜石84点、チャート７点、安山岩３点、頁岩２点、変成岩１点で、黒曜石の占める割合が86.6％と圧倒的に多い。１～12・17は中形の正三角形鏃に含まれる形態で、抉りが半円状に比較的深くなる一群である。脚部が丸みを有するものもみられ、円脚鏃に分類される。13～16､19～22は脚部の破片資料であるが、同様の形態を示すものと思われる。18はやや特異な形態を示し、先端部が錐状を呈する。23～31は小形の正三角形鏃で、脚部の抉りがやや深いが、形態的にばらつきが認められる。32～36は小形正三角形鏃の脚部片であろう。33は製作途中の破損品の可能性もある。37～40は二等辺三角形を呈し、抉りが深い。いずれも円脚となる。38は裏面に剥離面を大きく残している。44～46も二等辺三角形形状を示すが、抉りが浅くやや小形となる。調整は全体に細かい。41～43は小形の正三角形で、抉りが深い。47・48は剥離面を残し、刃部及び基部に細かい調整を加える。49～55は小形の二等辺三角形鏃で、抉りは浅い。54・55には剥離面が残されている。56は錐状の刃部が形成され、18に近いものであろう。57～63は小形で、抉りがほとんど認められない一群である。65・66は平基で、剥離面を残し、縁辺部に調整が加えられる。67・68も平基となるが、小形で全体に丁寧な調整が施される。69～78は形状にばらつきが認められるが、平基のタイプに含まれるであろう。79～89は凸基鏃であるが基部の形状が異なり、円基となるものが多いが、86・87のように三角形状を呈するものもみられる。90～92は尖頭器状を呈する石鏃で、主に基部に細かい調整が加えられる。93・94は大形の石鏃と思われるが、基部を欠くため全体の形状は不明である。98はチャート製の石匙である。基部の形状はあまりはっきりしないが、側縁から微細な調整が加えられる。99～101は黒曜石製の石錐であろう。99･100は横長の剥片を利用しているが、側縁からの調整は比較的雑である。101は小形の完形品で、調整は比較的丁寧である。102は黒曜石製の削器である。103～138は剥片類と思われるが、103・106・107は石鏃の未製品の可能性もある。黒曜石が主体であるがチャート製も9点含まれる。103～127、129～131には部分的な調整痕がみられる。138は安山岩製の大形縦長剥片である。139～146は石核であろう。黒曜石３点、チャート３点で、145は石英、146は玉髄製である。146は自然面を多く残す。

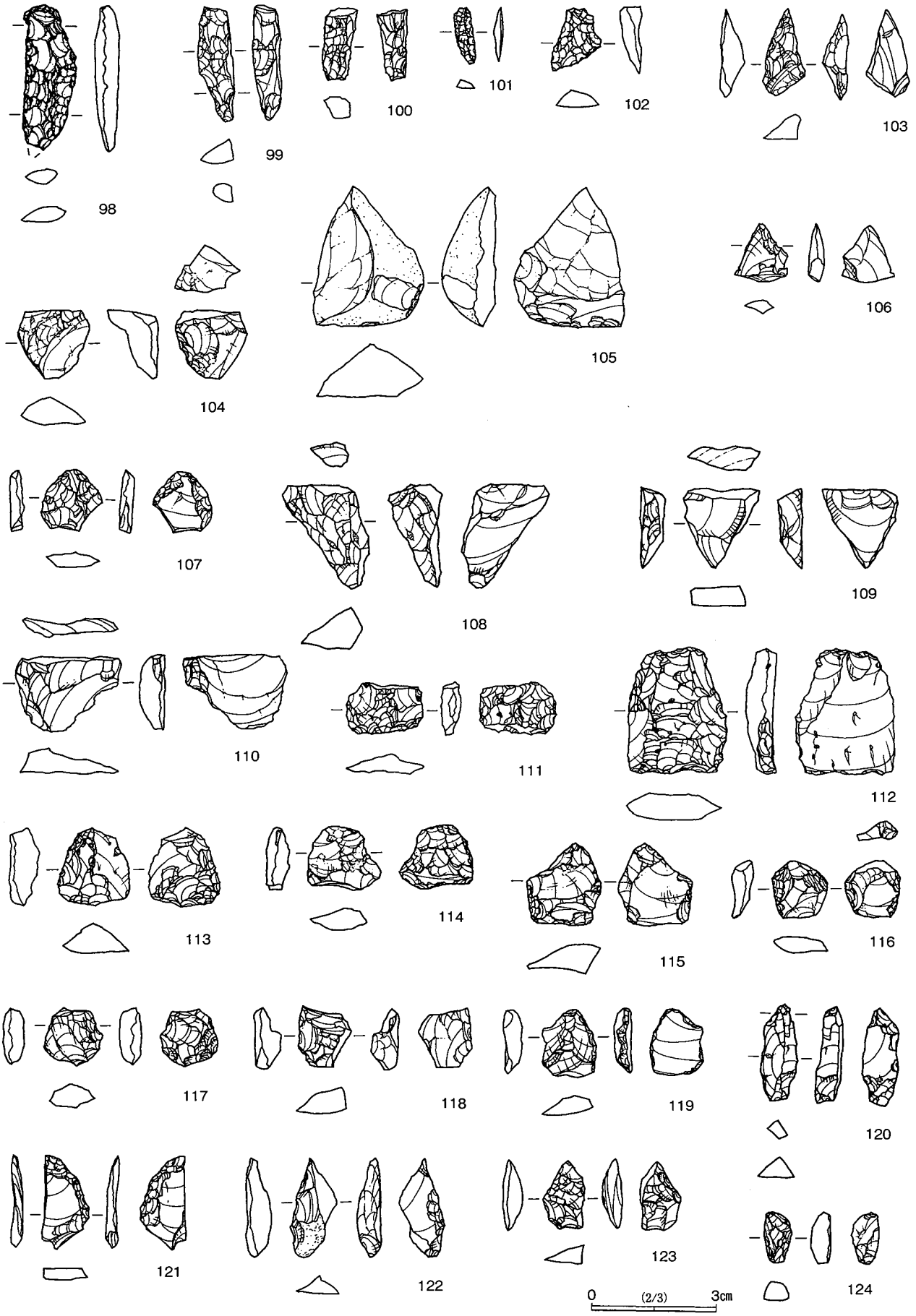
147～171は打製石斧である。石材は一定せず、変成岩(ホルンフェルス)9点、安山岩･砂岩6点、粘板岩･片麻岩・花崗岩・礫岩各1点である。147は両面に研磨痕が残り、側縁の抉りは、剥離調整ではなく研磨により形成される。148は自然面を多く残し、側縁及び刃部に細かい剥離を施す。149～152は分銅形を呈すると思われるが、3の頭部には切断面がみられる。149･150は横長、151･152は縦長の剥片を用いている。154～158は薄手の自然礫を用いた石斧で、側縁部及び刃部を剥離により作り出している。154は縦長の剥片に剥離を加え、158には研磨痕が観察される。164～166も小形の自然礫を素材に、刃部に剥離を加えている。169は横長、171は縦長剥片に調整を加える。172～183は磨製石斧で、石材は、安山岩4点、砂岩・凝灰岩2点、礫岩･蛇紋岩･変成岩･片麻岩各1点である。174･175は両面からの研磨により蛤歯状を呈する。176・177は側縁及び刃部に剥離を加えており、磨製石斧に調整を加えたものと考えられる。178・179・181は蛤歯を呈する小形品である。180・182・183の側縁部には剥離痕がみられる。184～188は磨石で、砂岩製が多い。185・187は角礫、184・186・188は円礫を用いている。189～194は敲き石である。189～191は円礫の端部に敲打痕が残る。192～194の端部には使用による剥離が認められる。195～198は凹石である。



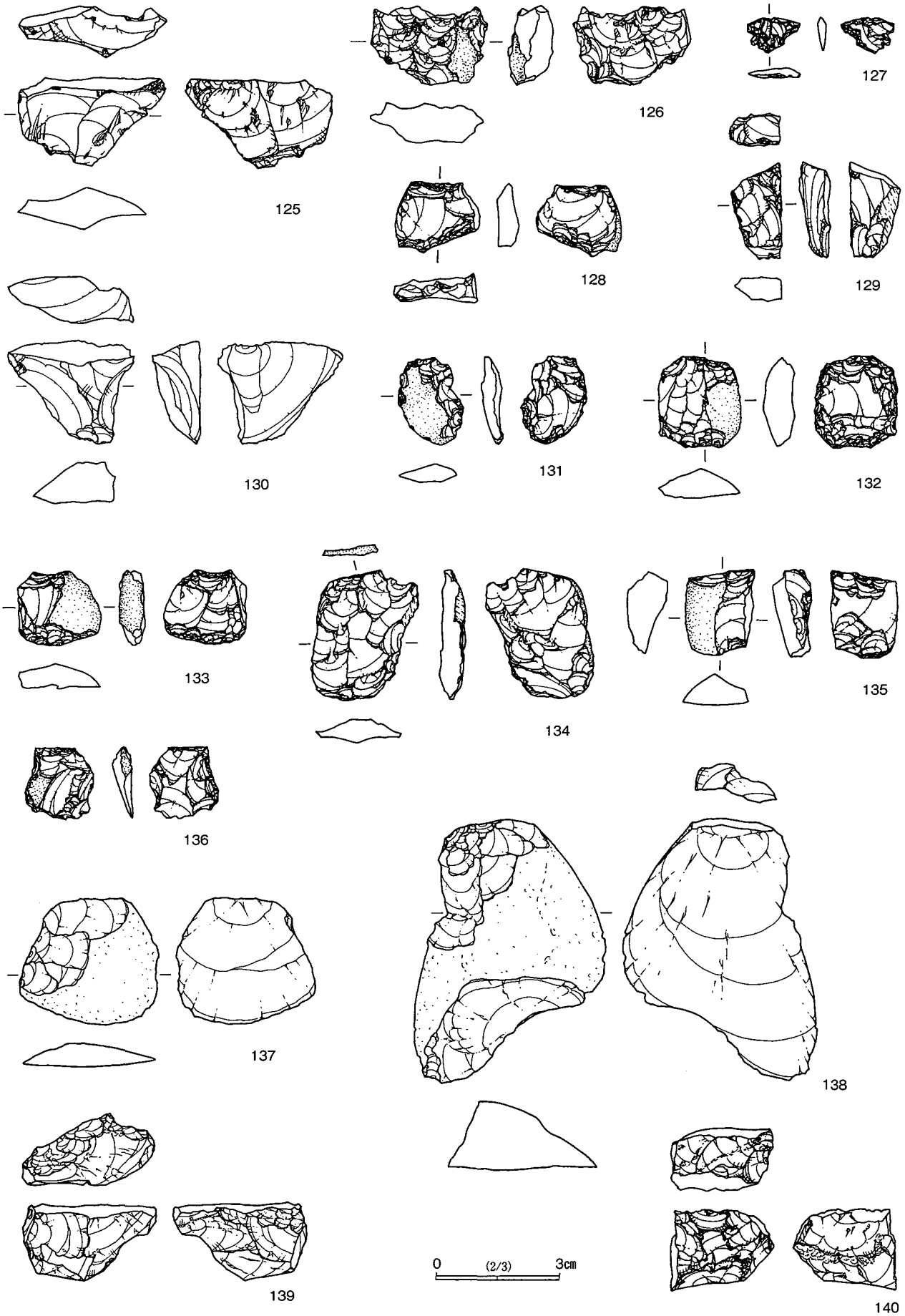
第42図　SX－001出土石器（1）



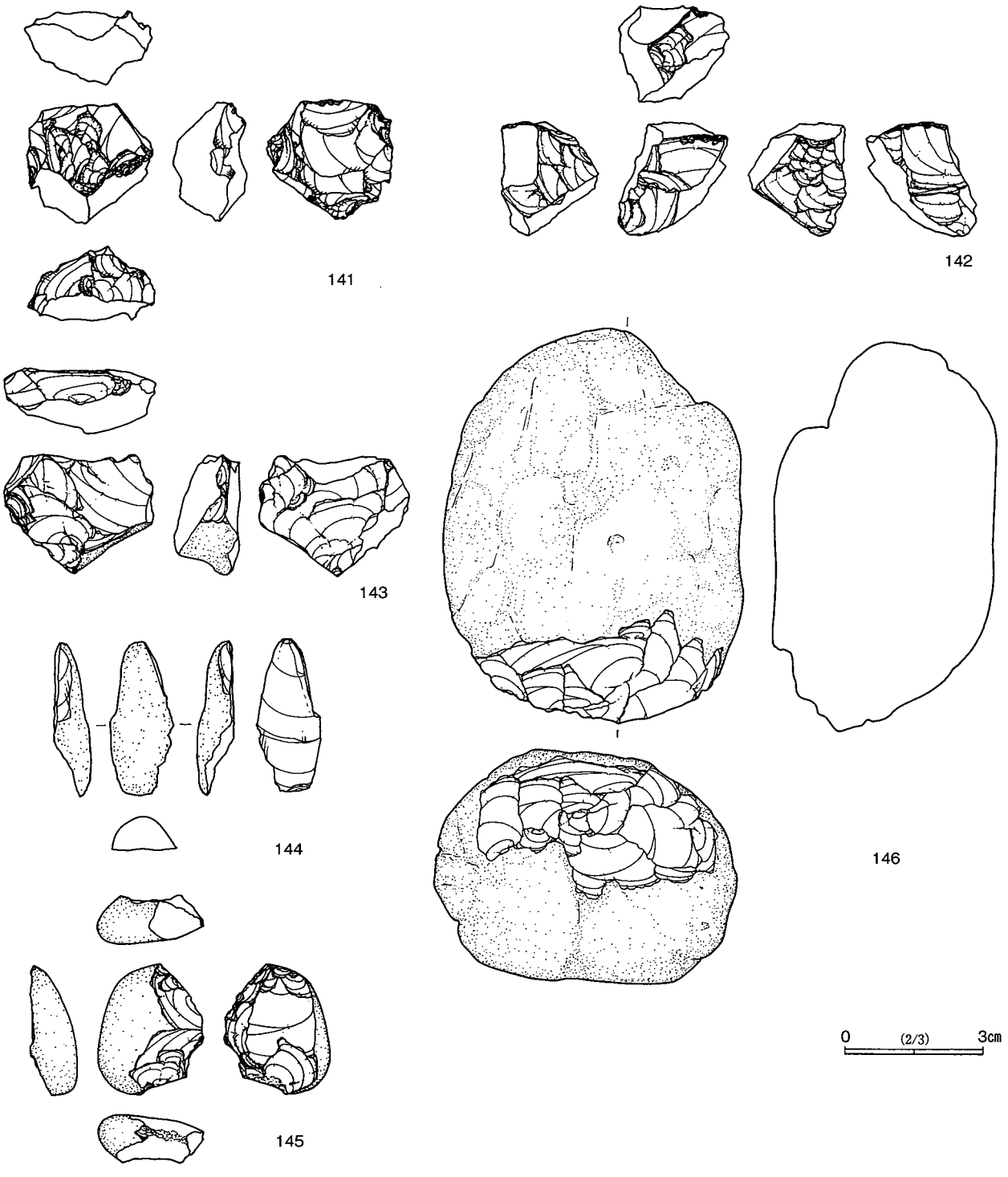
第43図　SX－001出土石器（２）



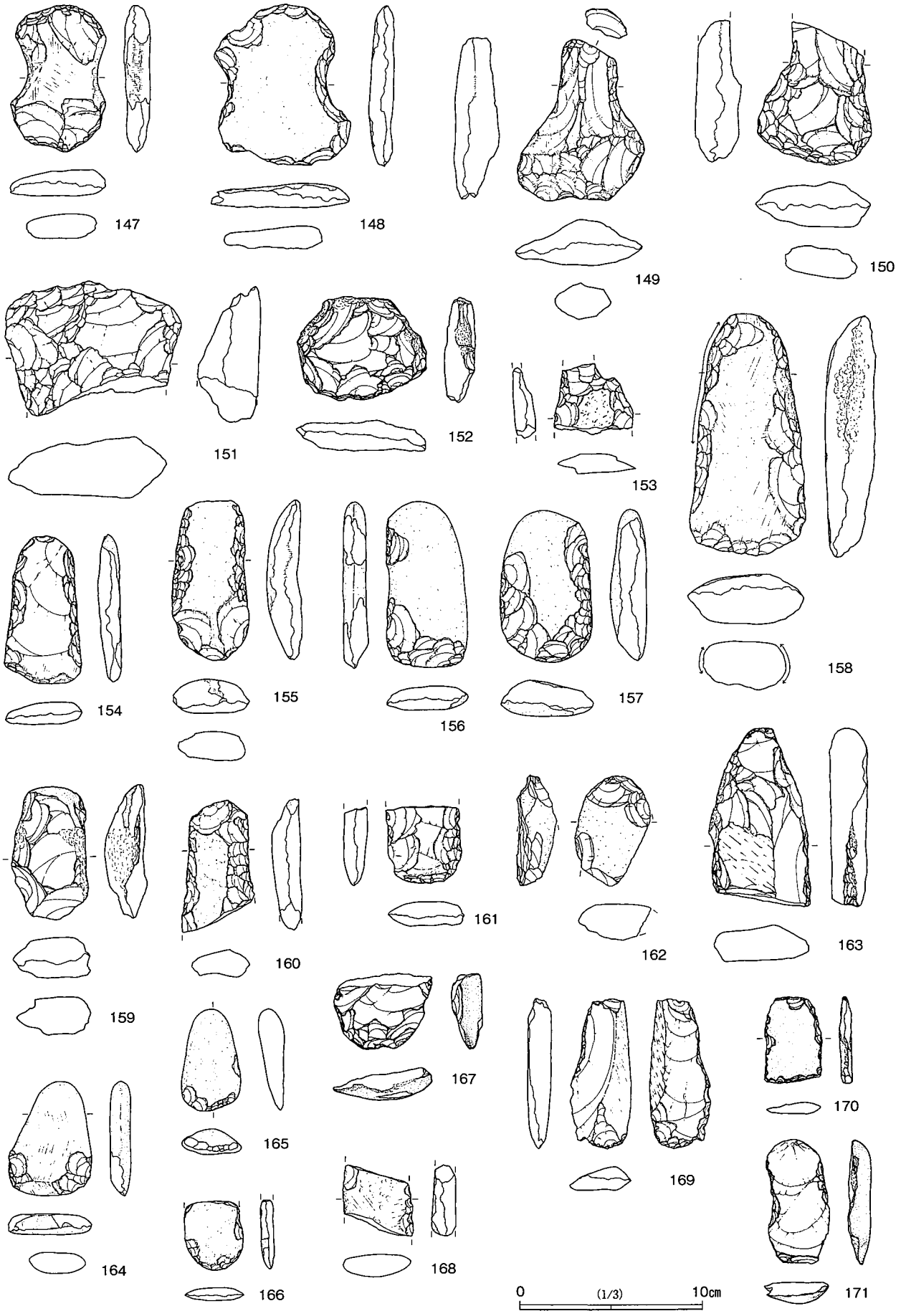
第44図　SX－001出土石器（3）



第45図　SX－001出土石器（４）

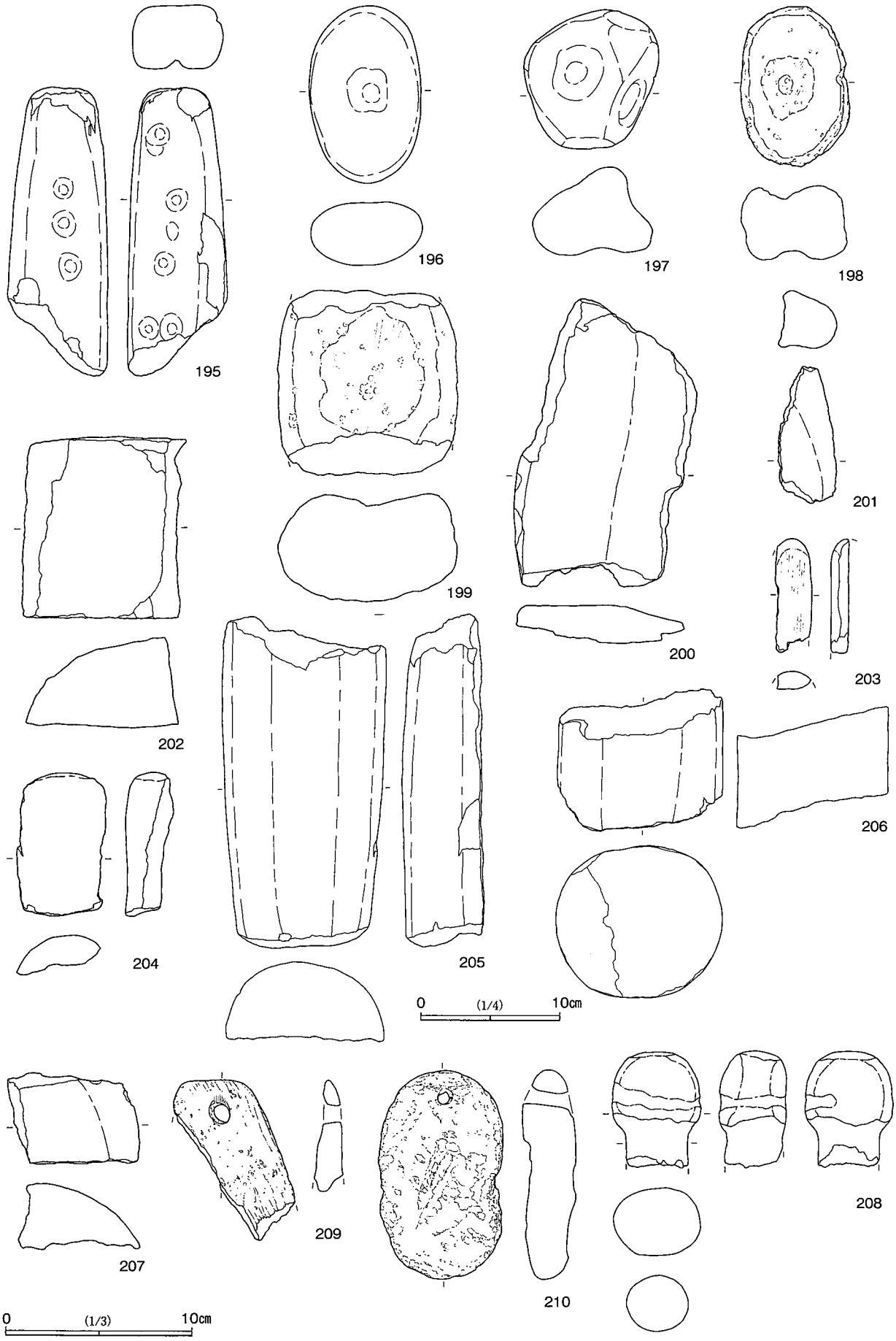


第46図　SX－001出土石器（5）

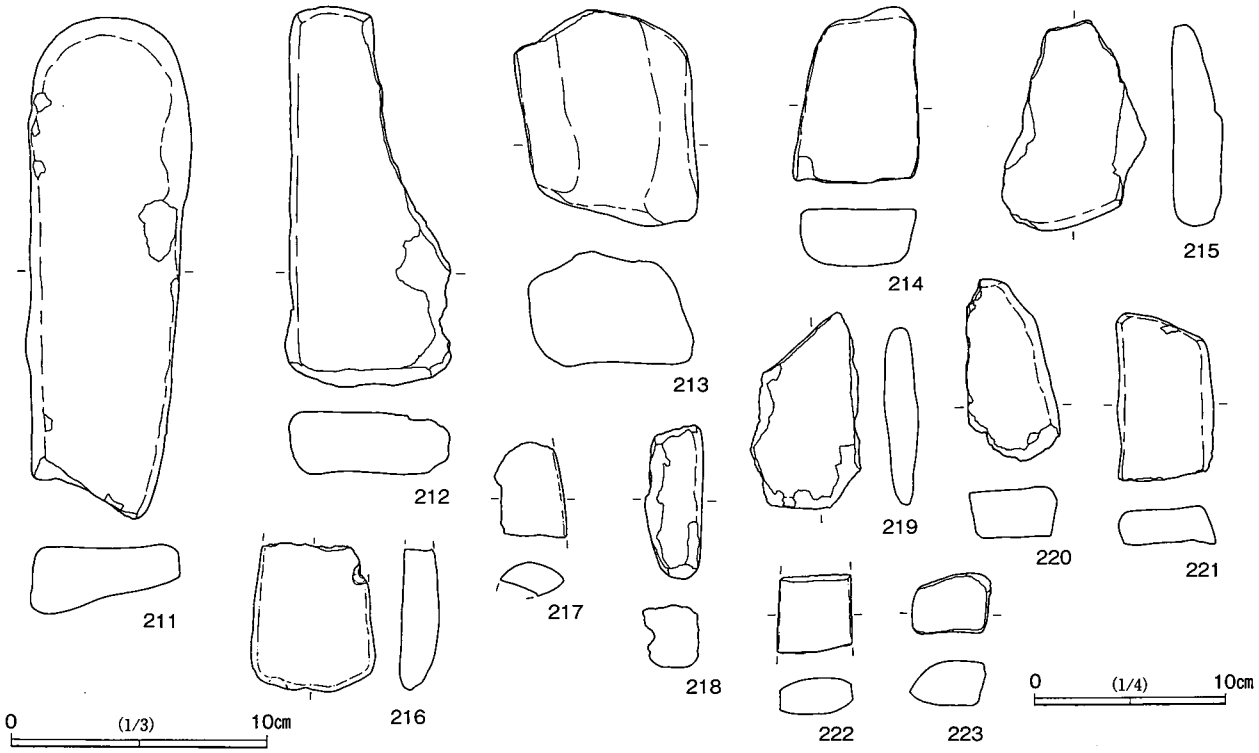


第47図　SX－001出土石器（6）

第48図　SX－001出土石器（7）



第49図　SX－001出土石器（8）



第50図　SX－001出土石器（９）

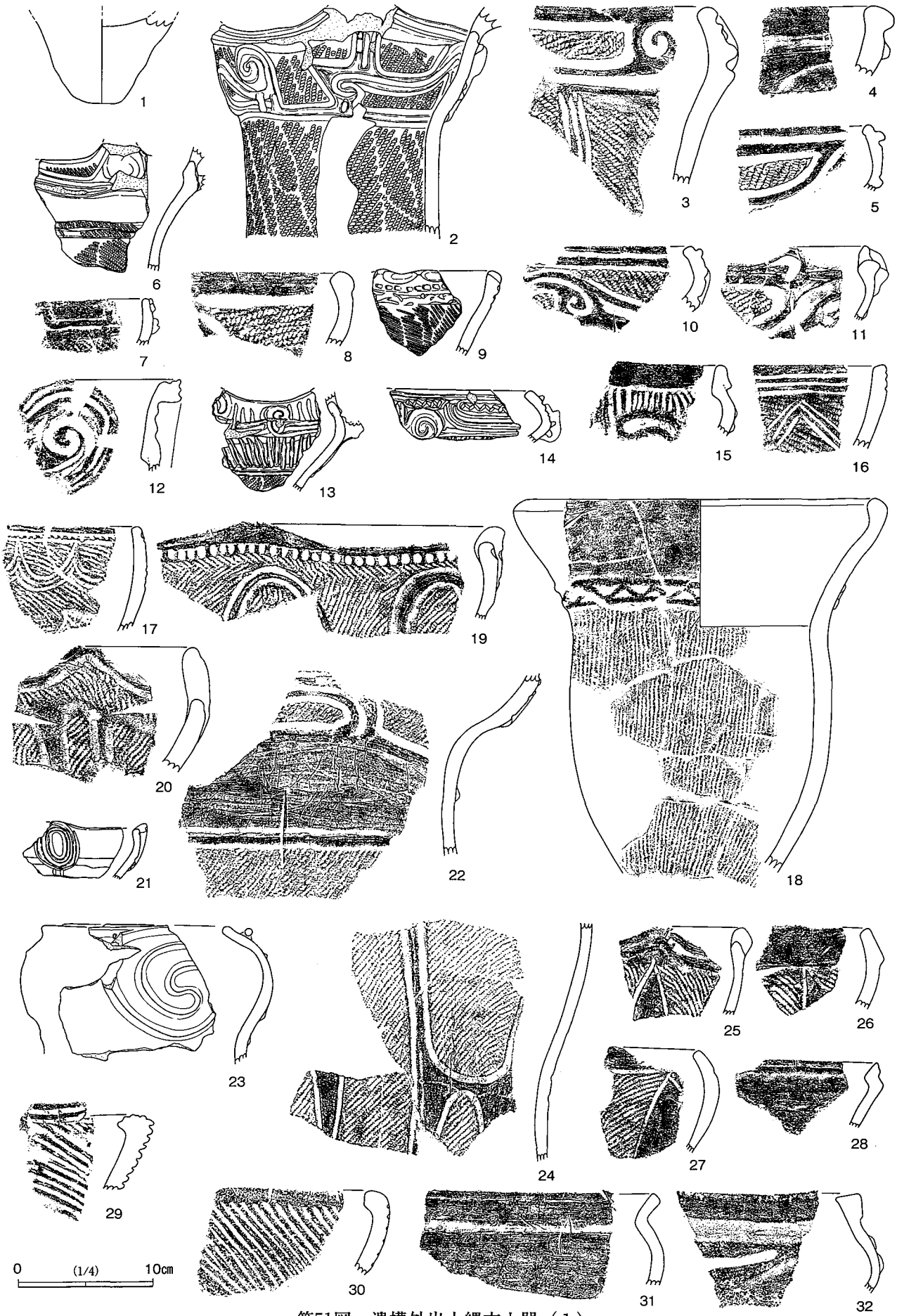
195は絹雲母片岩製の石棒を再利用し、両面に複数の凹みがみられる。196・197は砂岩製の磨石の再利用であろう。196の凹みはきわめて浅く痕跡程度である。199～201は石皿で、200は絹雲母片岩、199・201は安山岩製である。199は小形、200・201は大形品の破片であろう。202～208は石棒で、石材は絹雲母片岩と安山岩が主体である。203は絹雲母片岩製の小形品で、丁寧な研磨がみられる。205・206は大形石棒の一部であろう。側面の調整は比較的丁寧である。208は頭部片で、全体に丁寧な調整が施されるが、部分的な剥離がみられる。209・210は軽石製の浮子である。209は短冊形を呈するものと思われ、丁寧な加工が施される。頂部に片側からの穿孔が開けられる。210は楕円形を呈し、両側からの穿孔がみられる。211～223は砥石で、220が安山岩、他は砂岩製である。

２．遺構外出土遺物

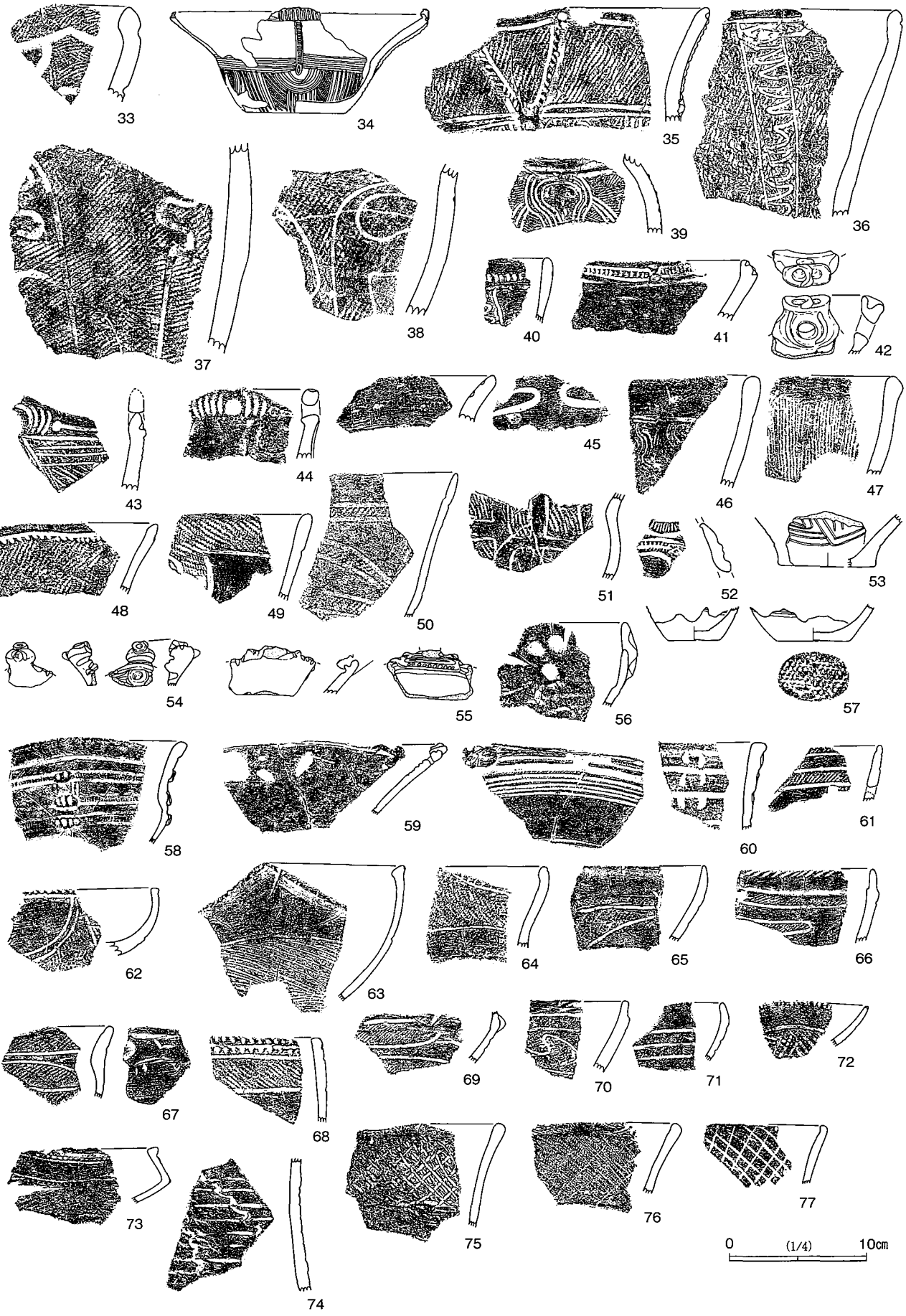
土器（第51～56図、図版38～43）

１は早期の尖底土器の底部片である。２～32は加曽利Ｅ式期の土器群である。２～15は加曽利Ｅ１式であろう。２は波状口縁で、波頂部及び下半部を欠く。ＬＲの単節縄文を地文とし、口縁部文様帯は、胴部を区画する隆帯上に渦巻き文や緩やかな波状文など幾何学的な隆帯で構成される。口縁部及び内面は丁寧にミガキが加えられる。３の口縁部は、隆帯と沈線による渦巻き文と長方形区画文で、内部にＬＲの単節縄文が充填される。胴部はＲＬの単節縄文を地文とし、３条の沈線が垂下する。５は隆帯と沈線による楕円形区画文がみられ、内部に単節縄文が充填される。６は橋状把手が付く深鉢で、地文にＬＲの単節縄文が施される。９は小さな波状口縁を呈し、刺突列が巡る。10・11は３同様隆帯と沈線による幾何学文が施され、11は波状を呈する。12は渦巻き状の突起であろう。13～15は短沈線を主文様とする一群で、13・15

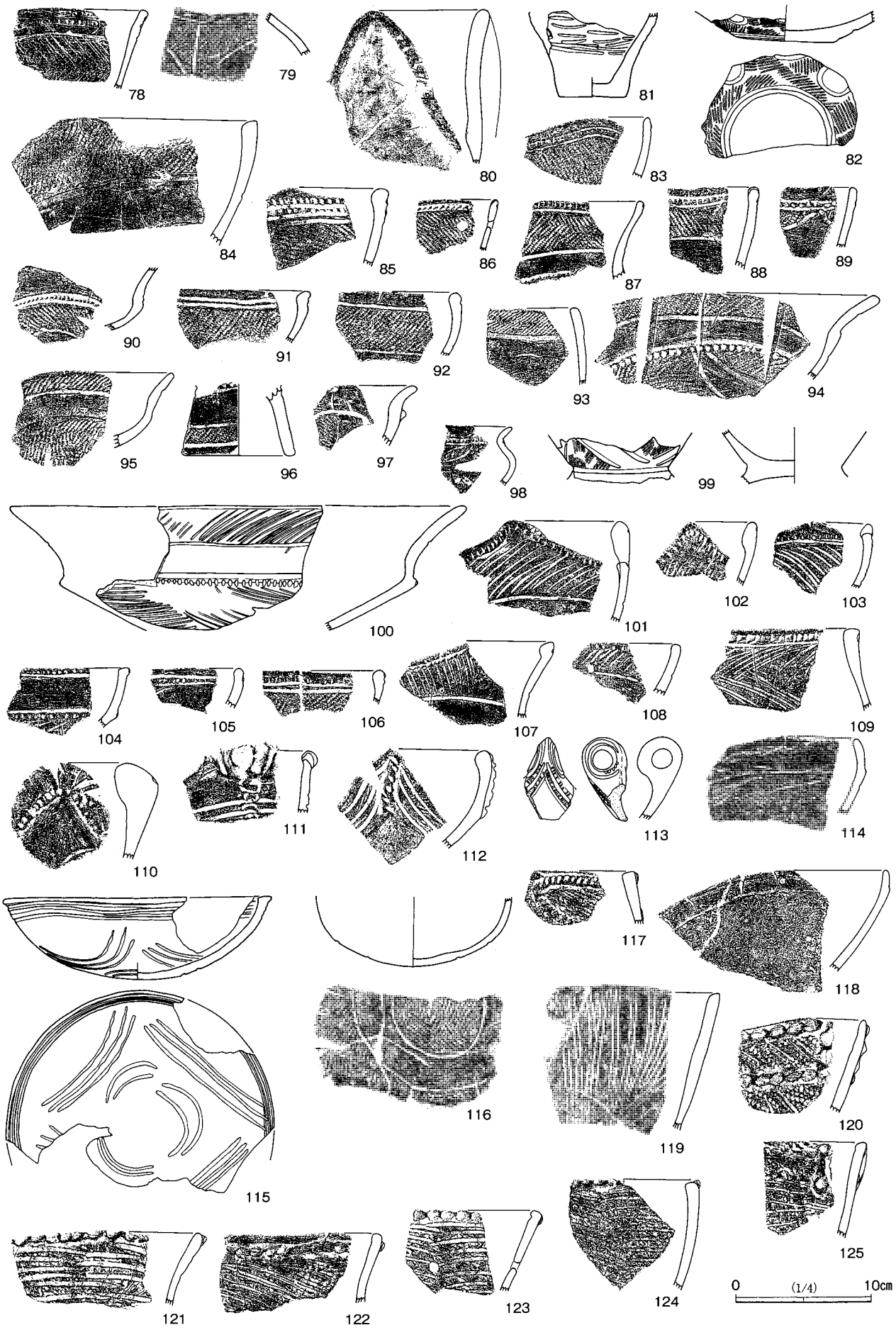
は平行沈線、14は鋸歯状となる。16～18は加曽利Ｅ２式期である。16・17はＬＲの単節縄文を地文とし、16は三角形、17は弧状の沈線が加えられる。18は推定口径28.4cmを測る深鉢で、括れ部に浮線文が施される。胴部の縄文は無節と思われる。19～24は加曽利Ｅ３式期である。19・20は波状口縁を呈し、19には刺突列が巡る。22は楕円の区画文と磨消部がみられる。23は推定口径14.3cmを測る小形の深鉢で、地文は無文で隆帯による渦巻き文が施される。25～27は加曽利Ｅ４式期で、沈線区画内が磨り消される。29・30は曽利式期で、いわゆる籠目文土器である。33は称名寺式期と思われ、幾何学的な沈線が加えられる。34～46は堀ノ内１式期の土器群である。34は口径18.8cmを測る浅鉢で、口唇部から口縁部にかけて低い隆帯が貼り付けられ、刻みが加えられる。胴部から底部には、ＲＬの縄文を地文とし、集合沈線がみられる。35も同様のタイプであろう。36～39は撚糸の地文に細沈線や太沈線で文様が構成される。40・41は無文で、口縁部に刻みが巡る。43・44は波頂部の孔の横に爪形文風の短沈線が加えられる。48～51は堀ノ内２式であろう。49・50は沈線区画内に縄文が充填され、51は無節と思われる縄文を地文とし、２本の沈線内が丁寧に磨り消される。54・55は堀ノ内２式から加曽利Ｂ１式期の浅鉢の突起部であろう。56～129は遺構外の主体を占める加曽利Ｂ式期の土器である。56～61はＢ１式期で、59は口唇部に球状突起を有し、下部が穿孔される。内面には太沈線と細沈線が施される。62～77はＢ２式期である。62～70は沈線により無文部と縄文部を区画する一群で、63には条線がみられる。また、口唇部に刻みが巡るものも確認される。72は押し引き状の沈線で施文される。75・76は無節縄文の地文上に格子状の条線が加えられる。77の口縁部内面には浅い凹線が１条巡る。78～82はＢ２～Ｂ３式期であろう。81は底部片で、雑な短沈線が不規則に施される。82は浅鉢で、LR縄文を地文とし、沈線区画内を磨り消している。83～114・118はＢ３式期である。83～95は無節及び単節縄文を沈線で区画する一群で、磨消は比較的丁寧である。83・85などには口縁部下の沈線間に刻みが施される。96は台付き鉢の台部であろう。沈線間にLRの単節縄文が充填される。98は小形土器である。文様構成は89などと同様である。99は台付き鉢で、三角形状の沈線区画に無節縄文が充填される。100は口径33.9cmを測る大形の浅鉢である。無文帯を挟んで口縁部及び胴部に条線文が施される。101・103・107も同様の施文である。105の沈線下にはLRの単節縄文がみられる。109は矢羽根状の条線と口縁部の刺突列が認められる。110～113は波状口縁で、112は紐状の貼り付け頂部に刺突が加えられる。111は頂部から弧状の沈線が垂下する。114・118は無文浅鉢であろう。115・116はＢ３から曽谷期にかけての浅鉢である。115は口径20.4cmを測り、沈線のみにより文様が構成される。116には弧状の磨消縄文帯がみられる。120～128は加曽利Ｂ式期の粗製土器で、口縁部に紐線文が巡り、縄文地文上に条線が加えられる。129はＢ３の底部片であろう。130・132～134、137は曽谷式土器である。130は注口土器で、注口部を欠く。132は口径10.7cm、器高13.6cmを測る小形の深鉢である。LRの単節縄文を地文とし、括れ部に刺突列を巡らす。口縁下には焼成後の穿孔が１か所施される。133・134の口縁下には瘤状突起が貼り付けられる。131・135・136・138～151は安行１式期の土器群である。135・136・138～142は沈線区画による縄文帯と無文帯が交互に施され、135・140には貼り付けがみられる。149は丁寧な作りで、縄文は施されず、細沈線区画と短沈線の充填で文様が構成される。151は条線文による粗製土器である。152～168は安行２式期である。152・153・157は異形台付き土器で、口縁部及び台部を欠く。短沈線により文様が表出される。154は平縁の台付き鉢で台部を欠く。口縁部にはLRの単節縄文が施され、隆帯上に刻みを加えた小突起が配置される。155・159は波状口縁で、沈線区画内は磨消縄文となる。口縁部及び直下には刻みを施した突起がみられる。158はヒレ状の突起が口唇部に貼り付けられ、２本の隆帯が垂下する。167・168は注口土



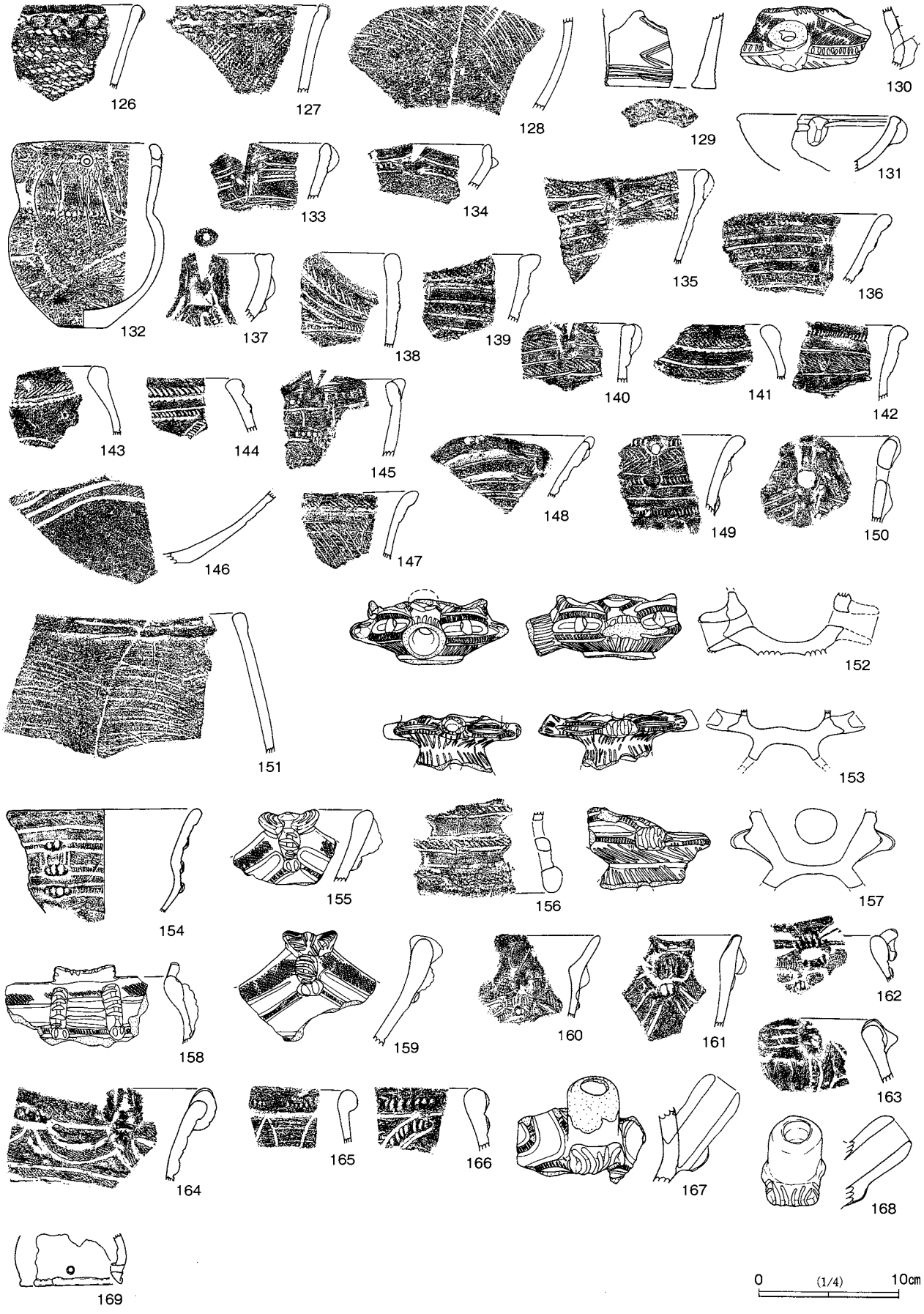
第51図　遺構外出土縄文土器（1）



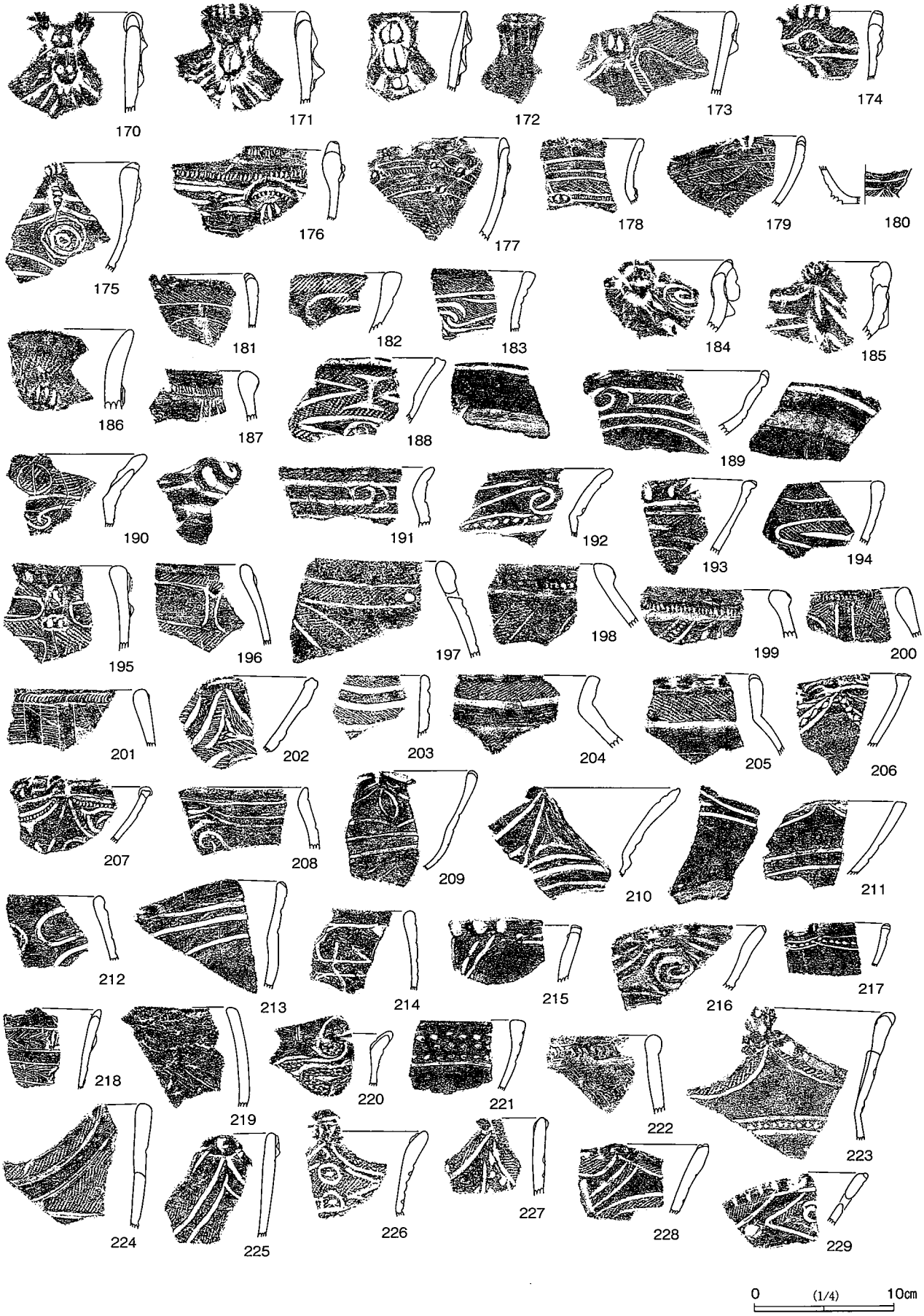
第52図　遺構外出土縄文土器（2）



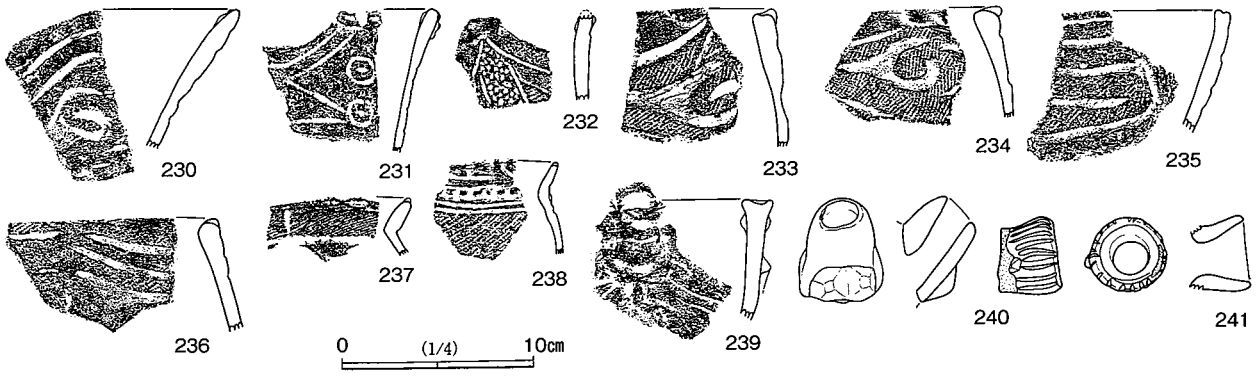
第53図　遺構外出土縄文土器（3）



第54図　遺構外出土縄文土器（4）



第55図　遺構外出土縄文土器（5）



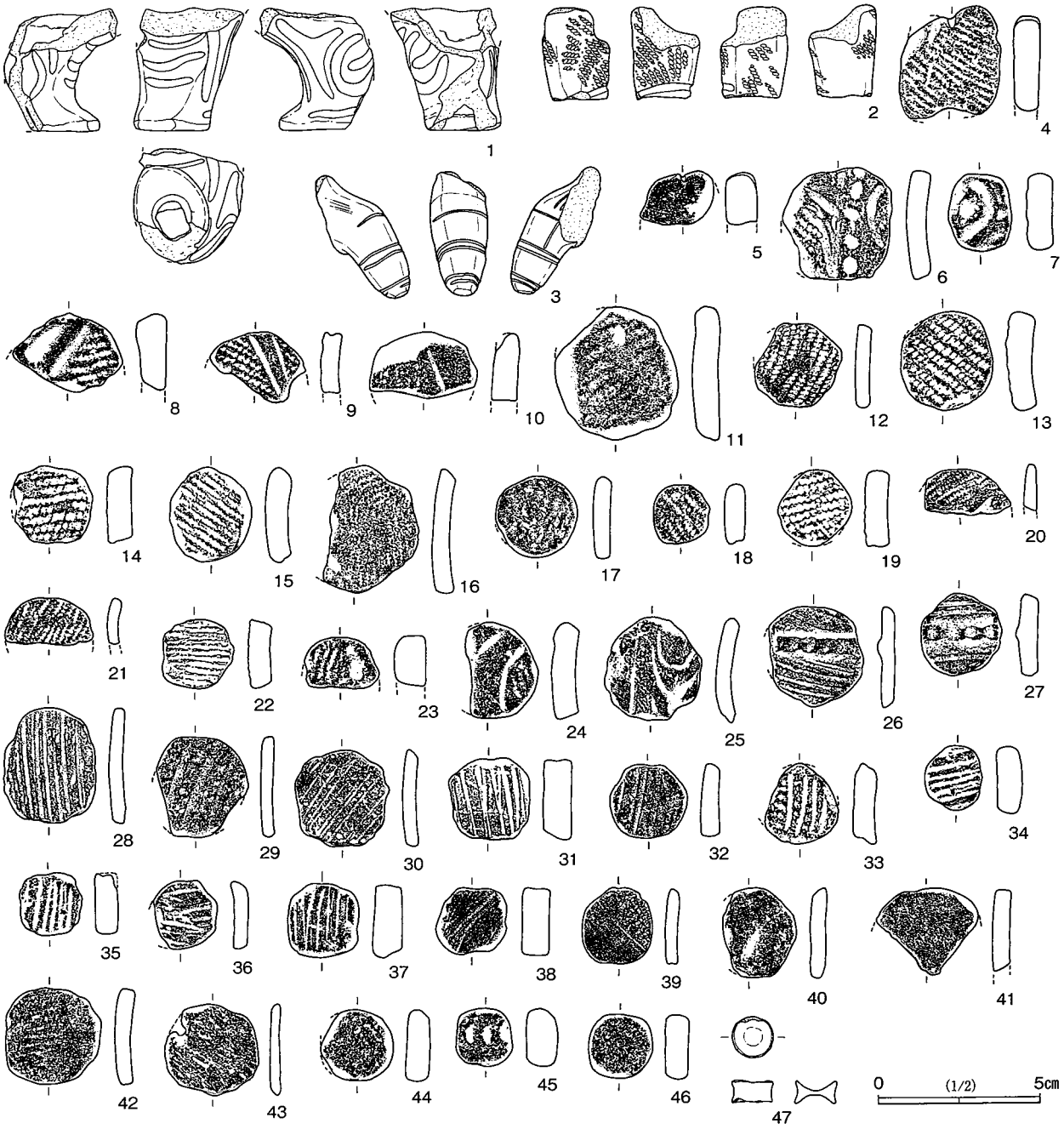
第56図　遺構外出土縄文土器（６）

器の注口部片である。169はミニチュア土器の台部であろうか。焼成前の穿孔が認められる。

170～187は安行３ａ式期の土器群である。170～174は波状口縁の波頂部で、頂部には刻みが施される。安行２式の可能性もある。175は弧状と同心円の沈線がみられ、177・178には瘤状の小突起が貼り付けられる。180は小形の台付き鉢であろう。182･183は縄文を地文とし沈線の組み合わせにより文様を表出する。187は口縁が肥厚し、爪形の刻みが巡る。188～219は安行３ｂ式である。188～192は、沈線と磨消縄文により文様が描かれ、188は工字文状の沈線となる。188～190の内面にも沈線が施される。195・196は枠状文がみられ、195には横位の豚鼻状の小突起が貼り付けられる。197・198は斜位の沈線区画内に縄文が充填される。199～201の口縁部は肥厚し、爪形の刺突が巡る。204・205は口縁部がほぼ直立し、細かな単節縄文が施文される。206～217は縄文がみられず、直線や曲線の沈線により文様が表出される一群である。210の内面にも沈線が認められる。218は波状口縁で、沈線区画内に矢羽根状の縄文が充填される。221は安行３ｃ式、222は安行式の粗製土器である。223～230は姥山Ⅱ式の土器群と思われる。いずれも波状口縁を呈する。223～225は沈線内部の縄文が磨り消される。226は刺突を加えた円文、227は刺突列が垂下する。228～230も沈線と磨消縄文の組み合わせとなる。231・232は姥山Ⅲ式で、231には縄文がみられない。233～237は前浦式であろう。233・234には三叉文、235には枠状文がみられ、237は無文となる。238は附加条縄文が施される大洞ＢからＣ式の口縁部片であろう。240は晩期の注口土器片、241は異形器台の把手である。

土製品（第57図、図版44）

１～３は土偶の脚部である。1は沈線の文様構成から、晩期に属すると思われる。4・5は土器片錘で、加曽利Ｅ式期と思われる。6～46は土製円盤である。文様から、加曽利Ｅ式から加曽利Ｂ式の土器片を利用したものがほとんどである。47は小形の耳栓である。

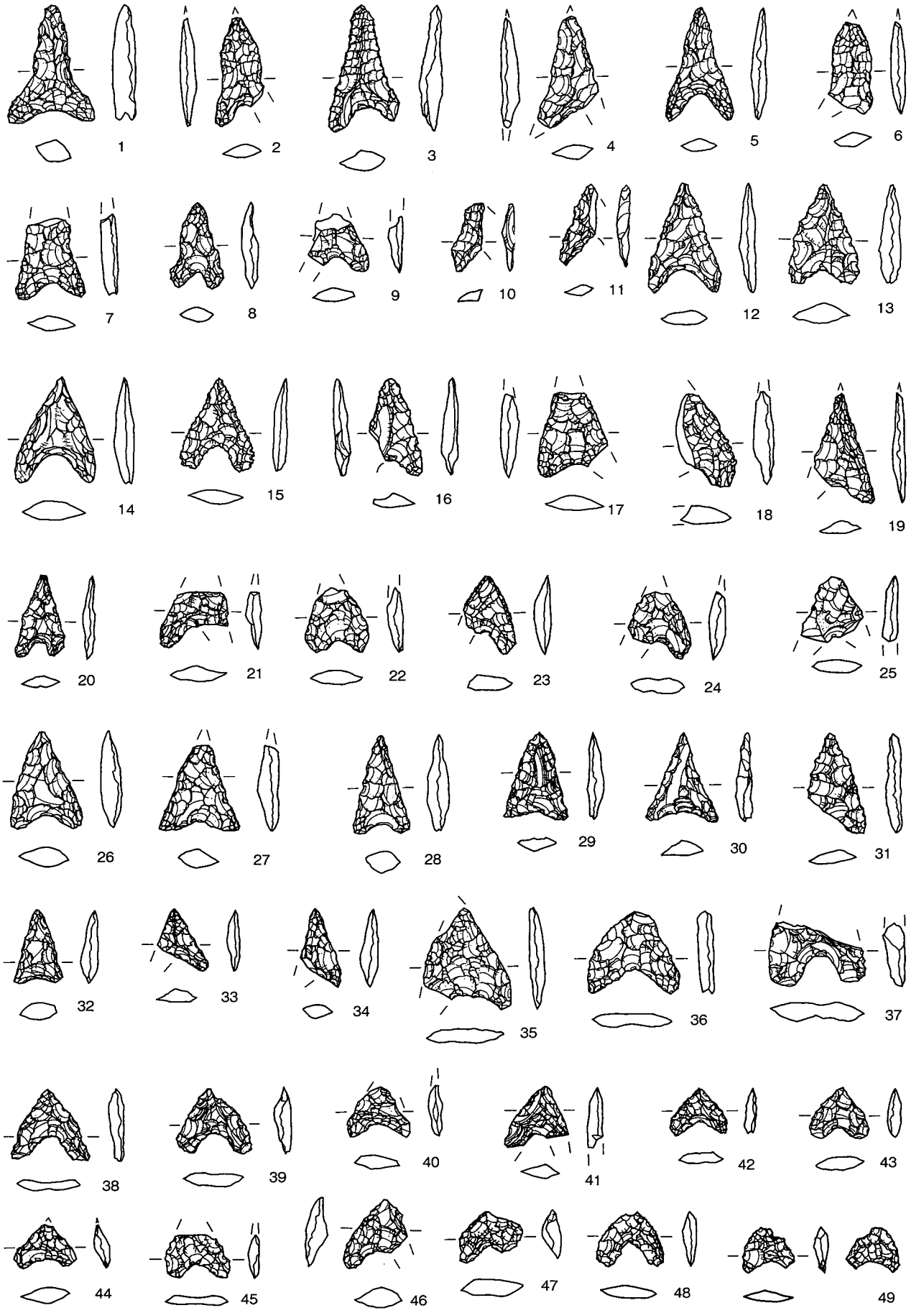


第57図　遺構外出土土製品

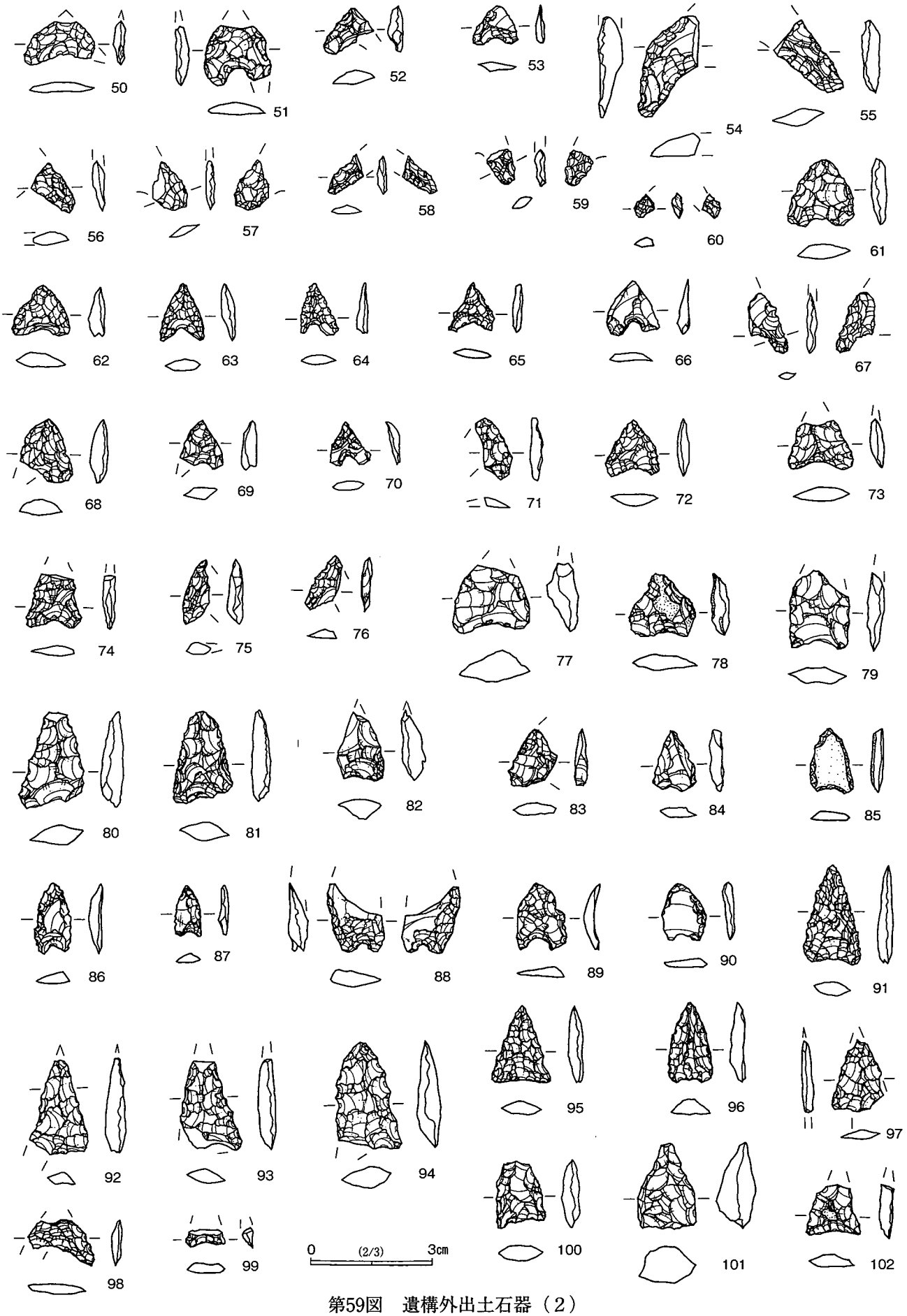
石器（第58～82図、第２表、図版45～53）

１～169は石鏃である。石材は多様で、内訳は黒曜石80点、チャート35点、頁岩37点、変成岩３点、安山岩２点、凝灰岩1点などである。１～34は基部に抉りを有する凹基の二等辺三角形鏃である。１・２は基部がスカート状に広がるタイプで、円脚となる。６も同様のタイプであろう。３は側縁からの微細な剥離が丁寧に施される。8～11はやや小形となり、やはり円脚を呈する。26～32は基部の抉りがやや浅くなる。35～53は正三角形に近い形状を呈する。35～37は大形で、35・36は角脚、37は円脚となる。36～53は中形及び小形品である。38・39・46は抉りが半円状に深く入り、丁寧な剥離が施される。48は脚部と刃部が同じ幅となるタイプである。53は小形の完形品で、側縁の剥離は雑である。54～60は脚部片である。61は剥離が大きく、脚部の作りもはっきりしない。62～74は小形の二等辺三角形鏃に含まれるタイプであろう。66は主要剥離面を残し、脚部に調整を加える。72は側縁からの微細な剥離調整がみられる。91～97、100～112は平基鏃に含まれる一群である。比較的大形で、二等辺三角形に近い形状である。91・95は表裏面とも微細な剥離調整が施され、刃部は鋸歯状を呈する。96も同様な調整がみられる。94は全体に分厚く、剥離面も比較的大きい。103は自然面を残し、基部は剥離により小さな抉り状となる。113～125は小形の平基鏃で、正三角形に近い。115は主要剥離面を中央に残し、縁辺に微細な剥離を施す。122・123も主要剥離面がみられる。126は縦長、127は横長の剥片をを利用し、片面のみに剥離調整を加える。128～140は基部が丸みを有する一群である。128・132のように自然面を残すものもあり、全体に分厚い作りである。134・135・140は破損品ではなく、小形のものであろう。141～163はいわゆる凸基鏃に含まれる。141・142は槍先状に長い刃部を有するが、基部を欠く。144・146～149・152～156は、刃部から基部への移行部が斜位となるが、150・151・157は水平に近くなる。159・160・163は基部の括れが形成されず、全体に菱形を呈する。164・165は先端部を欠くいわゆるアメリカ式石鏃で、断面三角形状を呈する。166～169は木葉形を呈しており、尖頭器の可能性もあるが、ここでは石鏃の範疇に含める。小形で、表裏面からの押圧剥離により側縁が波状となる。170～184はいわゆる剥片類であるが、石鏃の未製品あるいは破損品の可能性もある。185は木葉形の尖頭器、186は有舌尖頭器である。185は横長剥片を利用し、側縁に微細剥離を加える。186は先端部及び舌端部を欠くが、舌はほぼ直角に作り出される。187・189・190は石錐で、187は揉錐タイプであろう。188は頁岩製の大形石匙である。分厚い剥片を用い、自然面が部分的に残るが、頭部の調整は丁寧である。191～250は剥片で、石材は黒曜石15点、チャート11点、頁岩14点などである。191～229は調整痕がみられる剥片で、191・192には基部状の突起が形成される。石鏃の未製品の可能性もある。193には切断面が残り、195の縁辺にはノッチ状の微細な調整がみられる。198は半円形を呈し、剥離調整を施す。211～213は変成岩製の大形剥片で、自然面が残る。220は縦長の剥片を用い、片側の縁辺に微細な剥離調整を加える。226～250は調整痕が認められない剥片である。251～263は石核で、黒曜石3点、チャート2点などである。251・252は自然面を残し、両端から剥離が施される。253は流紋岩製で、打面を上端に有し、片面に自然面が残る。255・256は頭部に切断面が認められ、縦長剥片を剥いでいる。

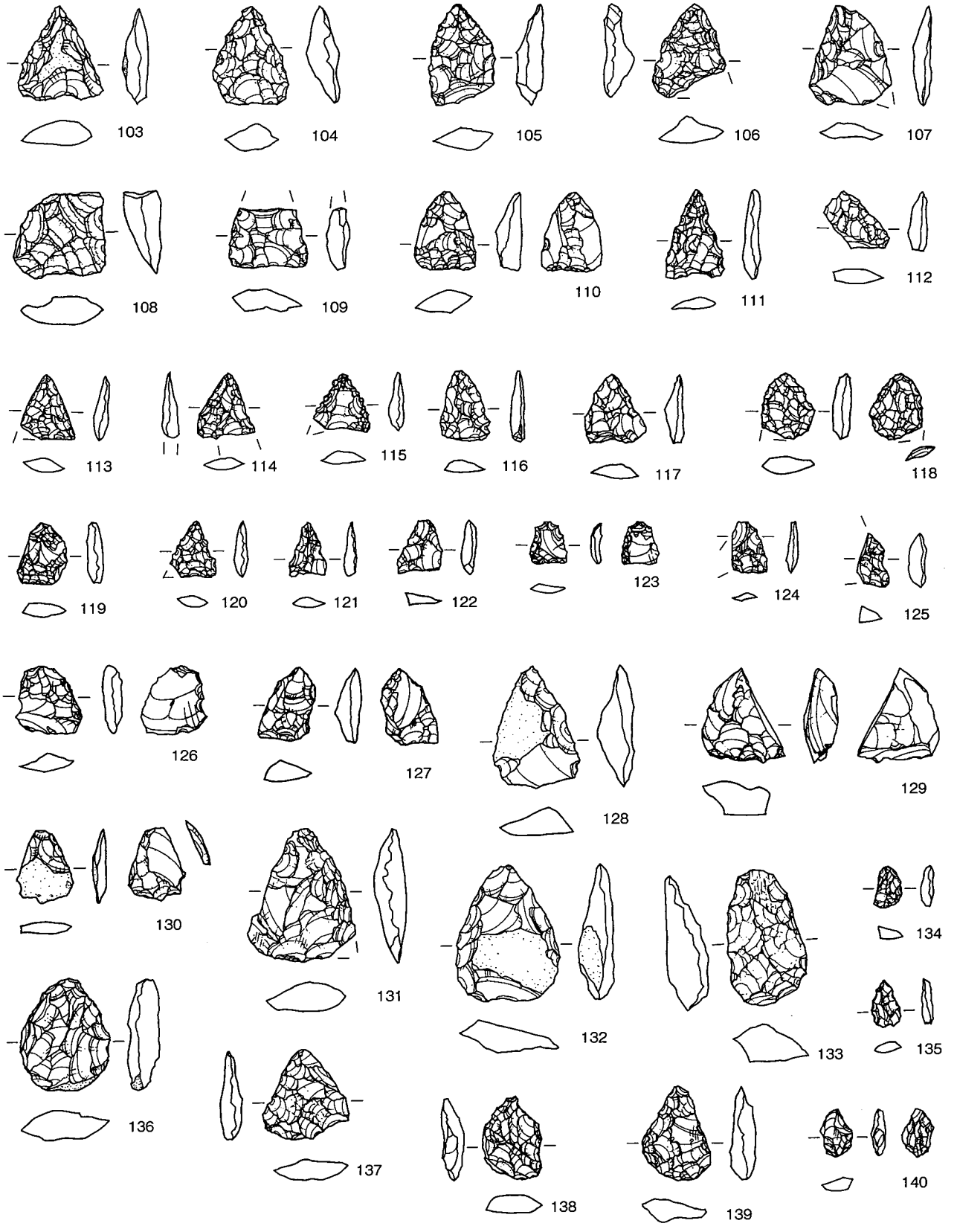
264～297は打製石斧で、石材は、変成岩13点、砂岩10点、安山岩5点などである。264は横長の剥片を用い、縁辺部及び刃部に調整剥離を加える。265は横長の刃部を有し、分銅形となる可能性がある。266は片麻岩製の自然礫を利用し、縁辺部のみに調整を施した石斧である。265の括れ部は、剥離と研磨により作り出している。269・270の括れ部には、敲打による潰れが認められる。273～275は自然面を大きく残し、縁辺のみに剥離を施して成形している。278は横長剥片を用い、両側からの剥離により刃部を作り出す。285は



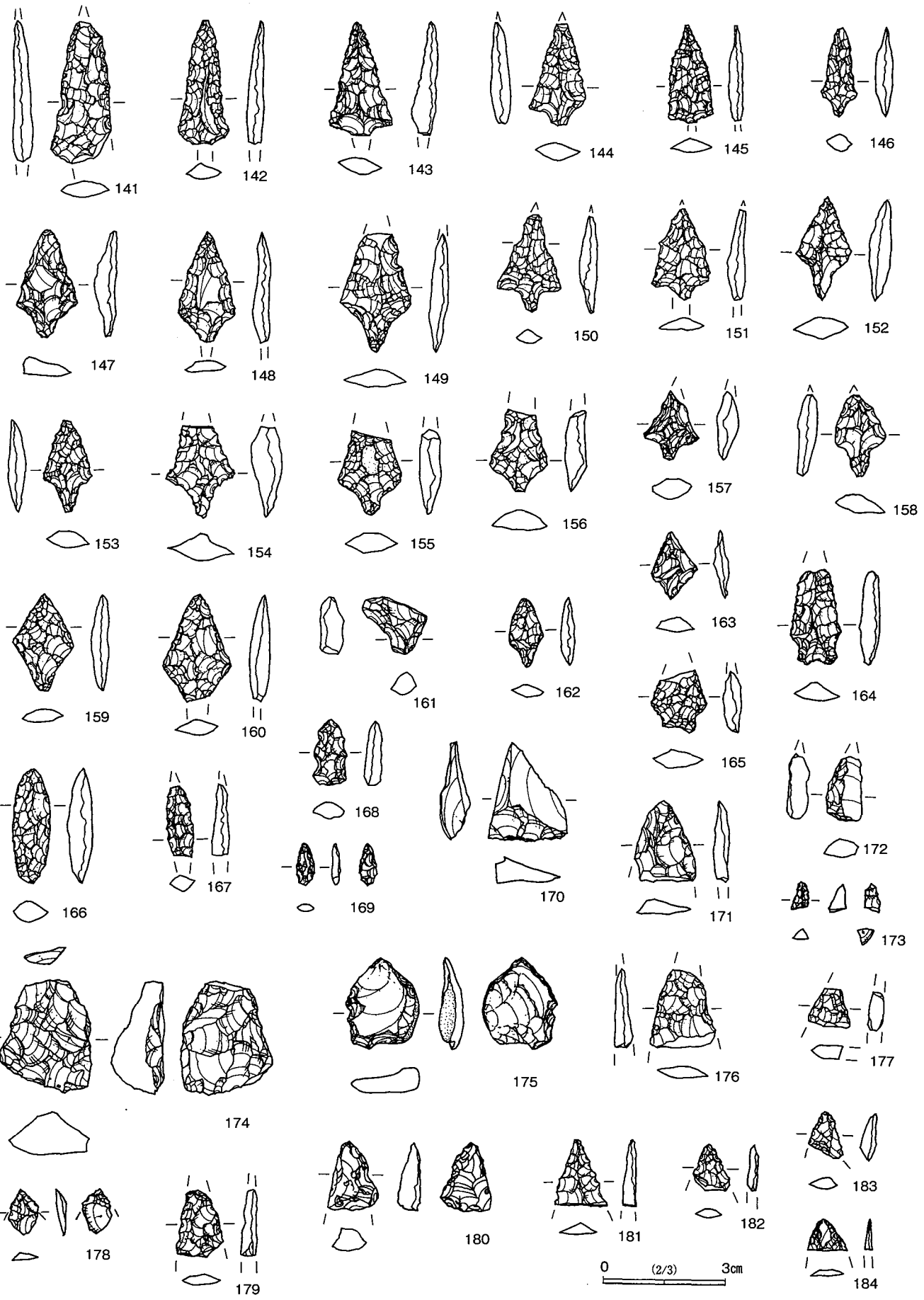
第58図　遺構外出土石器（1）



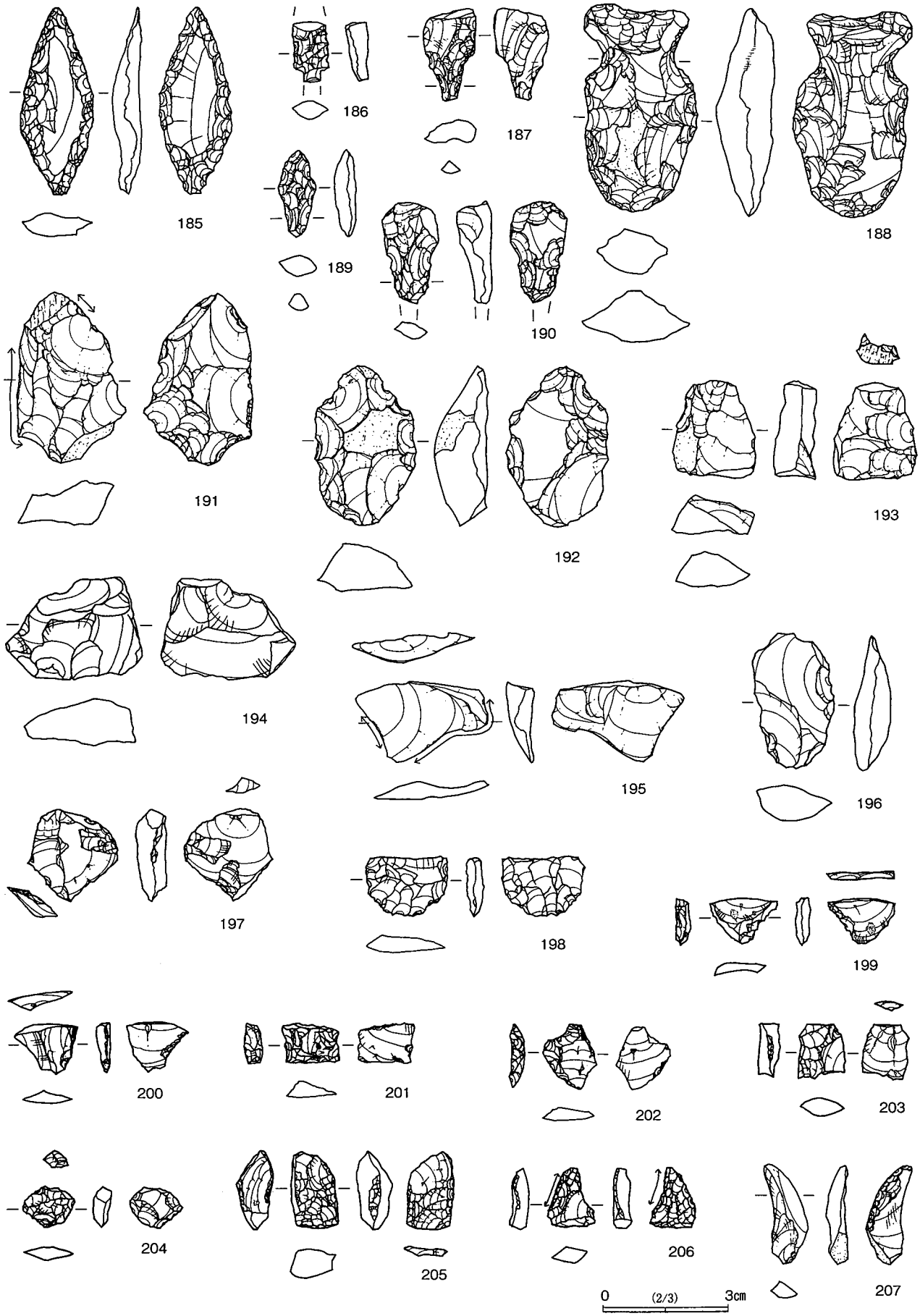
第59図　遺構外出土石器（2）



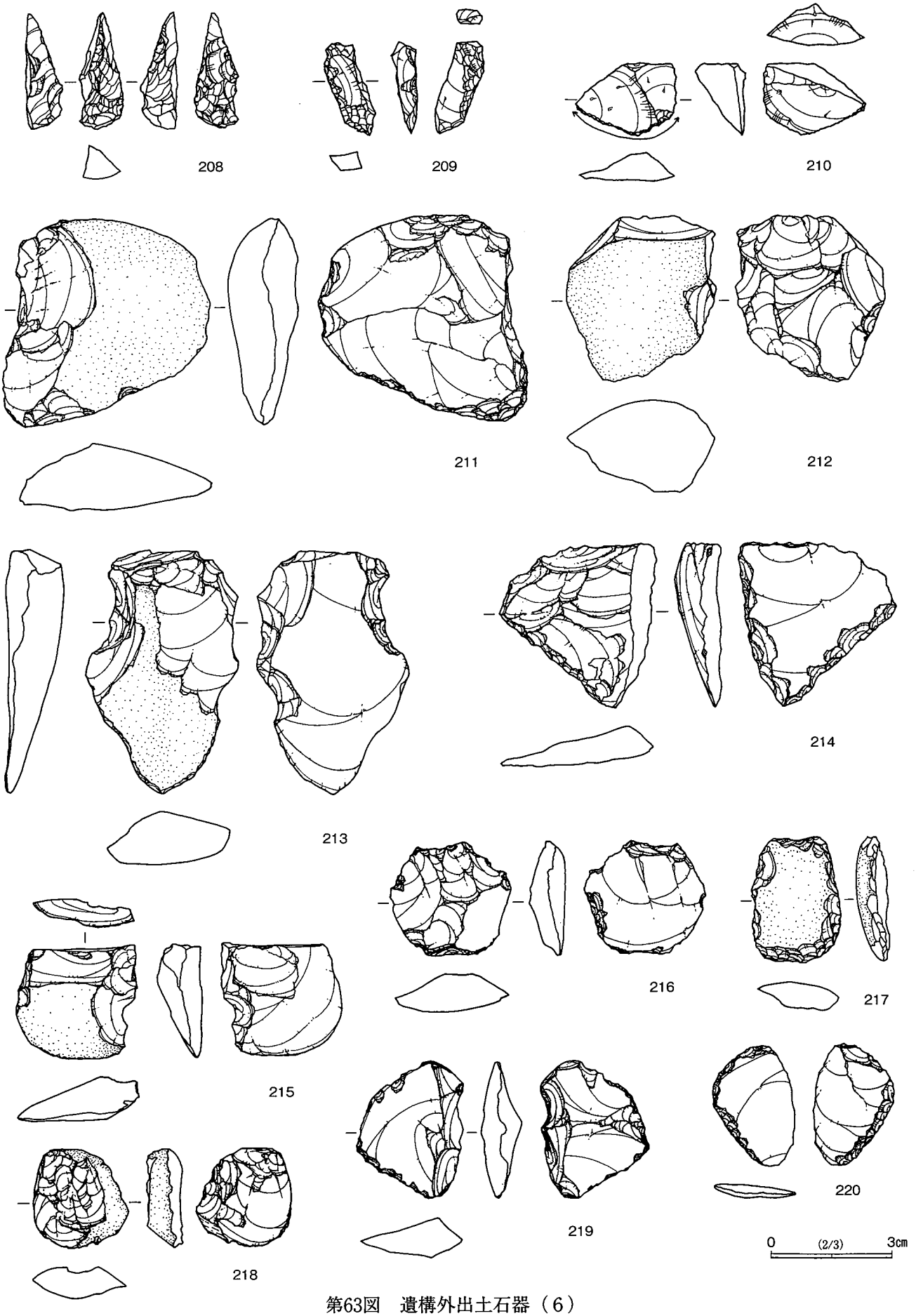
第60図　遺構外出土石器（3）



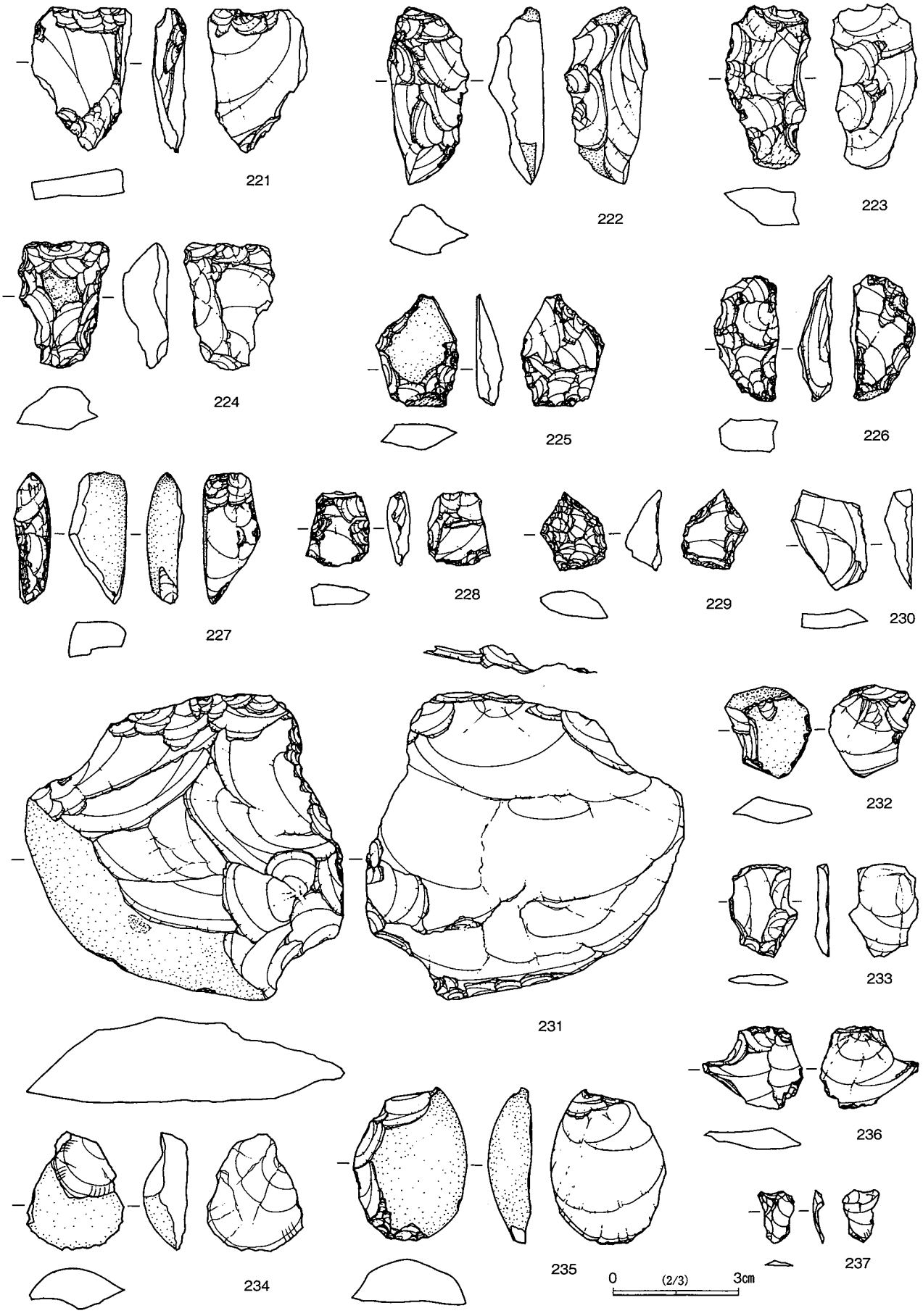
第61図　遺構外出土石器（4）



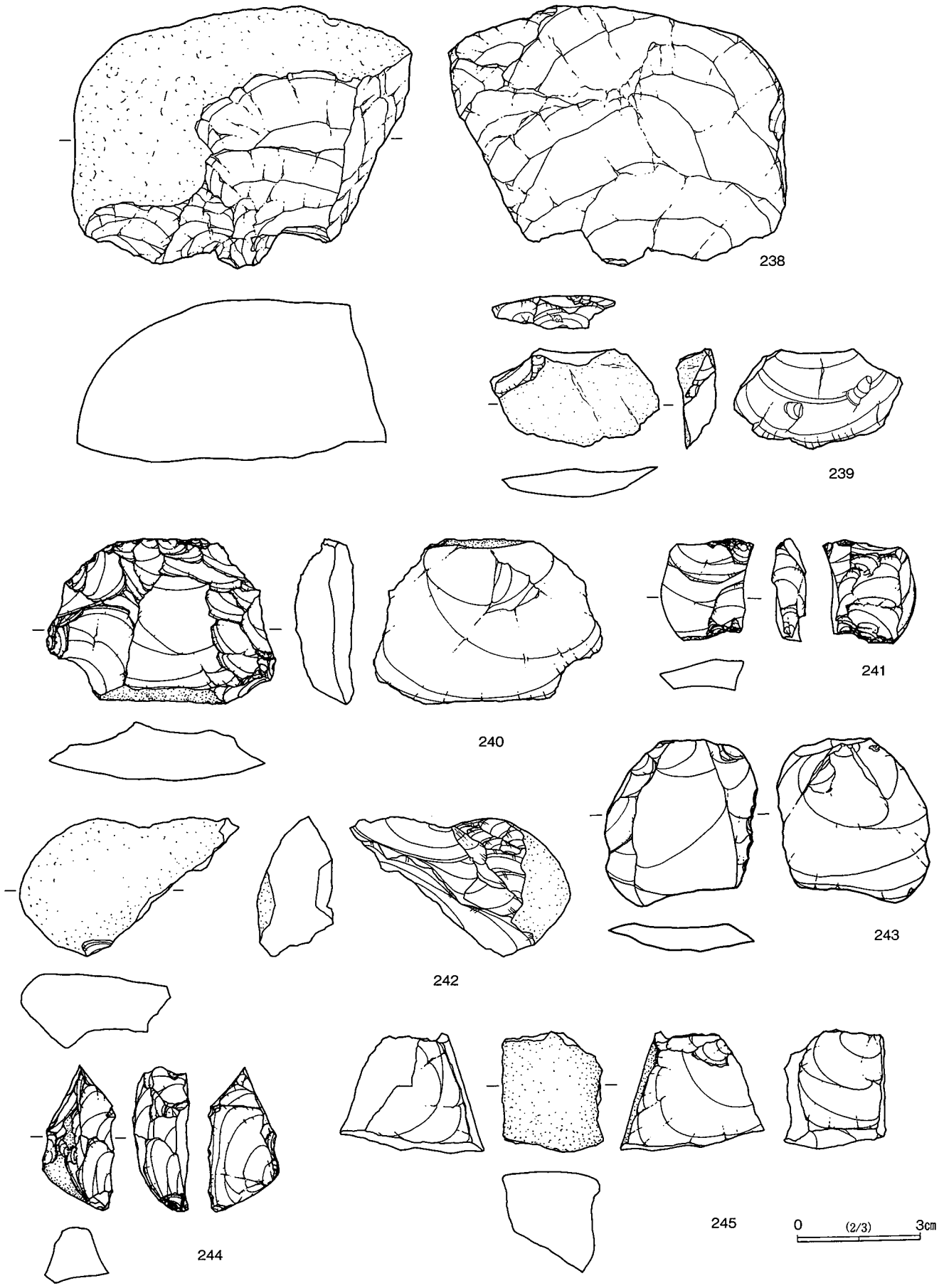
第62図　遺構外出土石器（5）



第63図　遺構外出土石器（6）

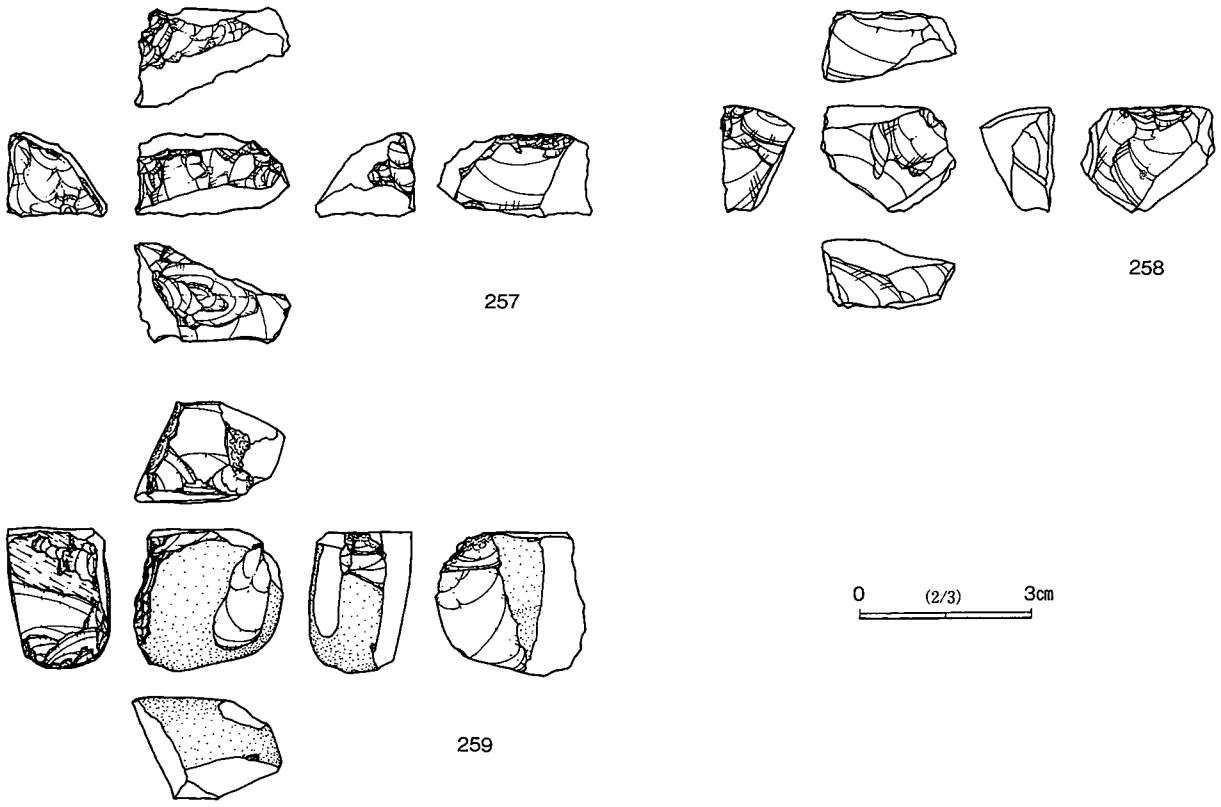


第64図　遺構外出土石器（7）



第65図　遺構外出土石器（8）

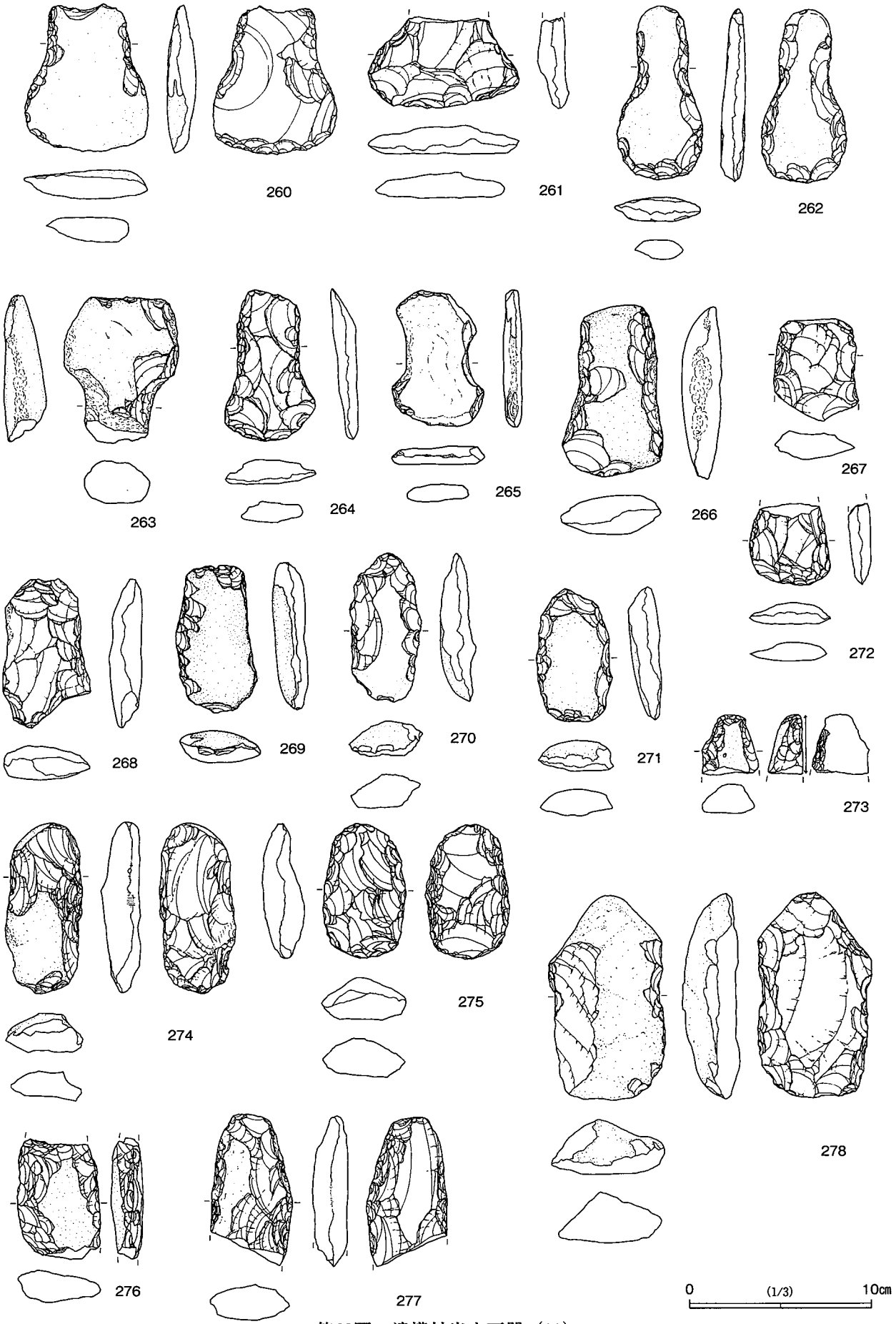
第66図　遺構外出土石器（9）



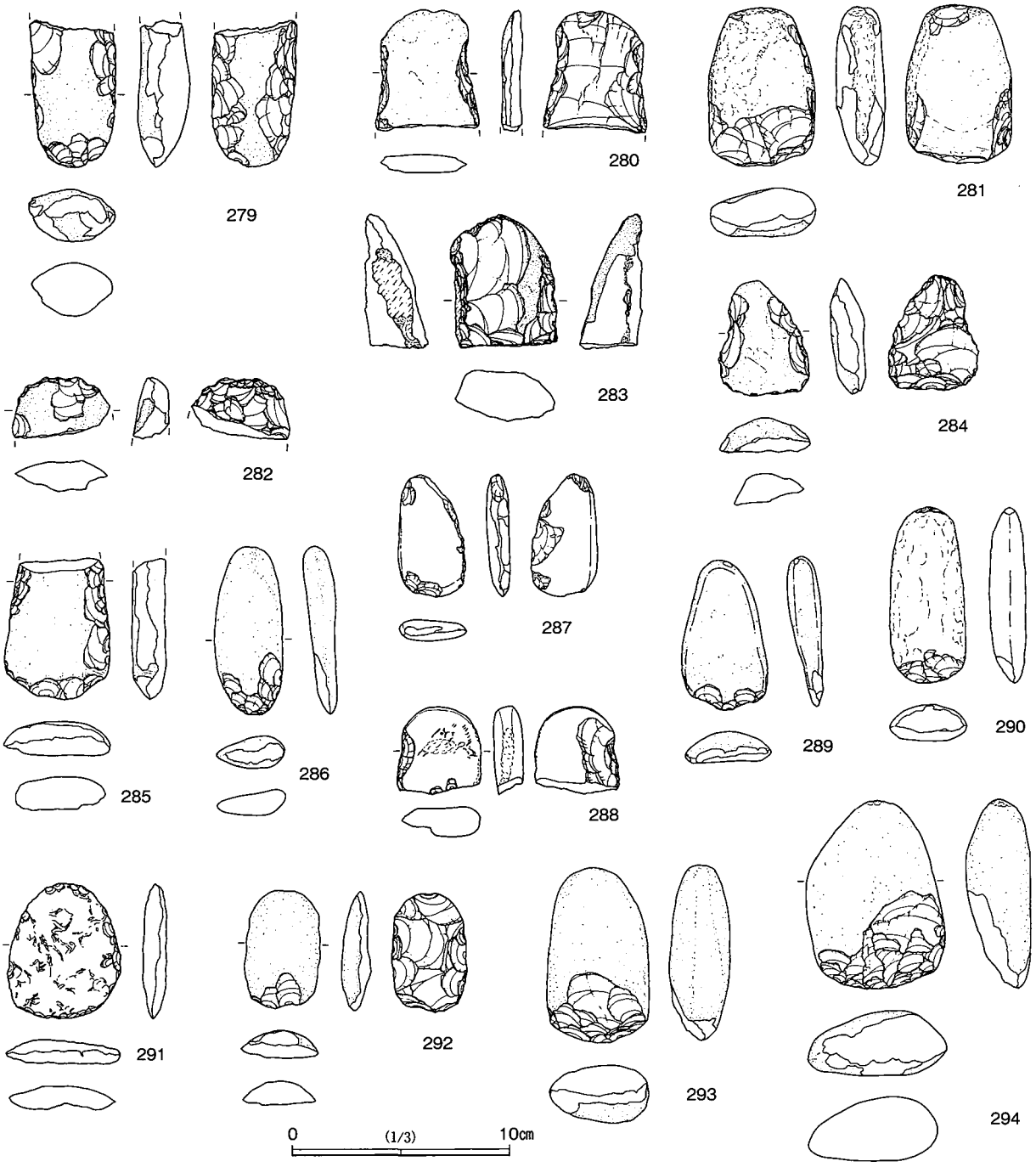
第67図　遺構外出土石器（10）

磨製石斧を再利用し、刃部に剥離を加えて打製石斧としたものであろう。288～293は小形の自然礫に剥離を加えて刃部を作り出している。296も同様のタイプである。298～342は磨製石斧である。石材は各種認められ、内訳は、安山岩10点、玄武岩11点、砂岩13点、蛇紋岩5点、変成岩2点などである。298・299・302～304は蛤歯状を呈し、研磨は比較的丁寧である。305は刃部が直線的で、細身となり、いわゆる楔形を呈する。刃部には使用による摩耗がみられる。307は砂岩製で、風化により研磨痕はほとんど認められない。310は蛇紋岩製の石斧の刃部片である。光沢があり、丁寧に磨き上げられる。310・312も蛇紋岩製で丁寧な仕上げが施されるが、刃部は曲線状となり、使用による擦痕がみられる。320～323は頭部片である。324は扁平な玄武岩を用い、鋭角な刃部を作り出している。326・327・329～331は小形品である。326の両側縁には剥離がみられ、327・329の研磨は丁寧である。331は砂岩製で、裏面が剥離している。340は変成岩製で、刃部に剥離を加え、打製としている可能性がある。333・334の両側縁には細かな剥離が施される。335～338は自然礫に僅かな調整を加えて石斧としている。344は絹雲母片岩製で、打製石斧に研磨を加えて、磨製としているようである。

345～363は石棒である。石材の内訳は、絹雲母片岩７点、粘板岩６点、片麻岩４点、緑泥片岩２点である。345は粘板岩、346は絹雲母片岩製で、頭部に線刻による文様が施される。345は縦位の平行線内に矢羽根状の線刻を充填する。346はやや太い沈線による、山形文が巡ると思われるが、半分欠損している。347は、敲打により括れ部を作り出している。355・356は絹雲母片岩製の大形石棒で、両端を欠く。360は緑泥片岩製の細身の石棒である。中央付近に敲打による括れが僅かに認められる。364～368は石剣であろう。絹雲母片岩4点、粘板岩1点である。364は頭部に２条の平行沈線を加える。368は粘板岩製で、頭部に

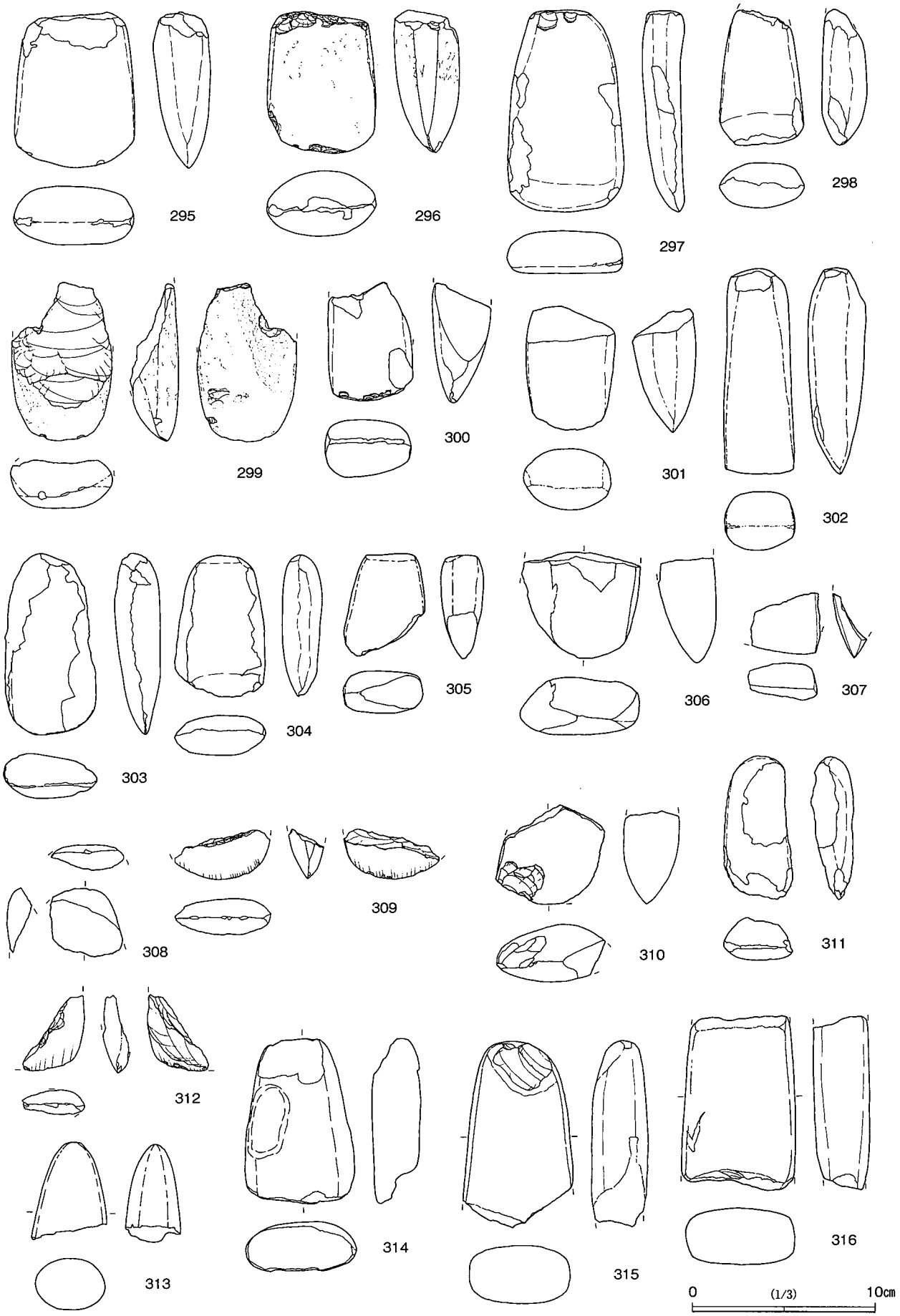


第68図　遺構外出土石器（11）

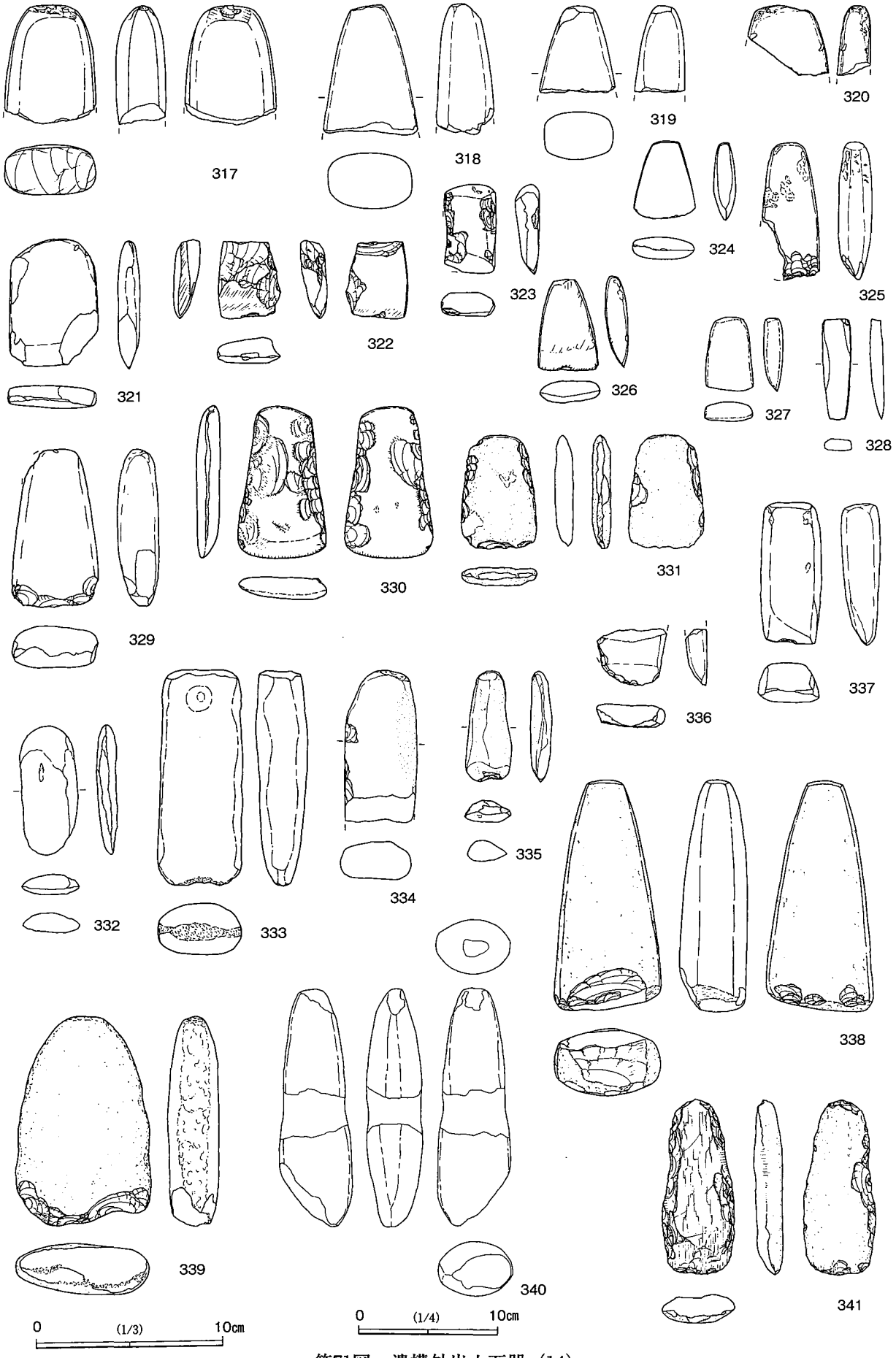


第69図　遺構外出土石器（12）

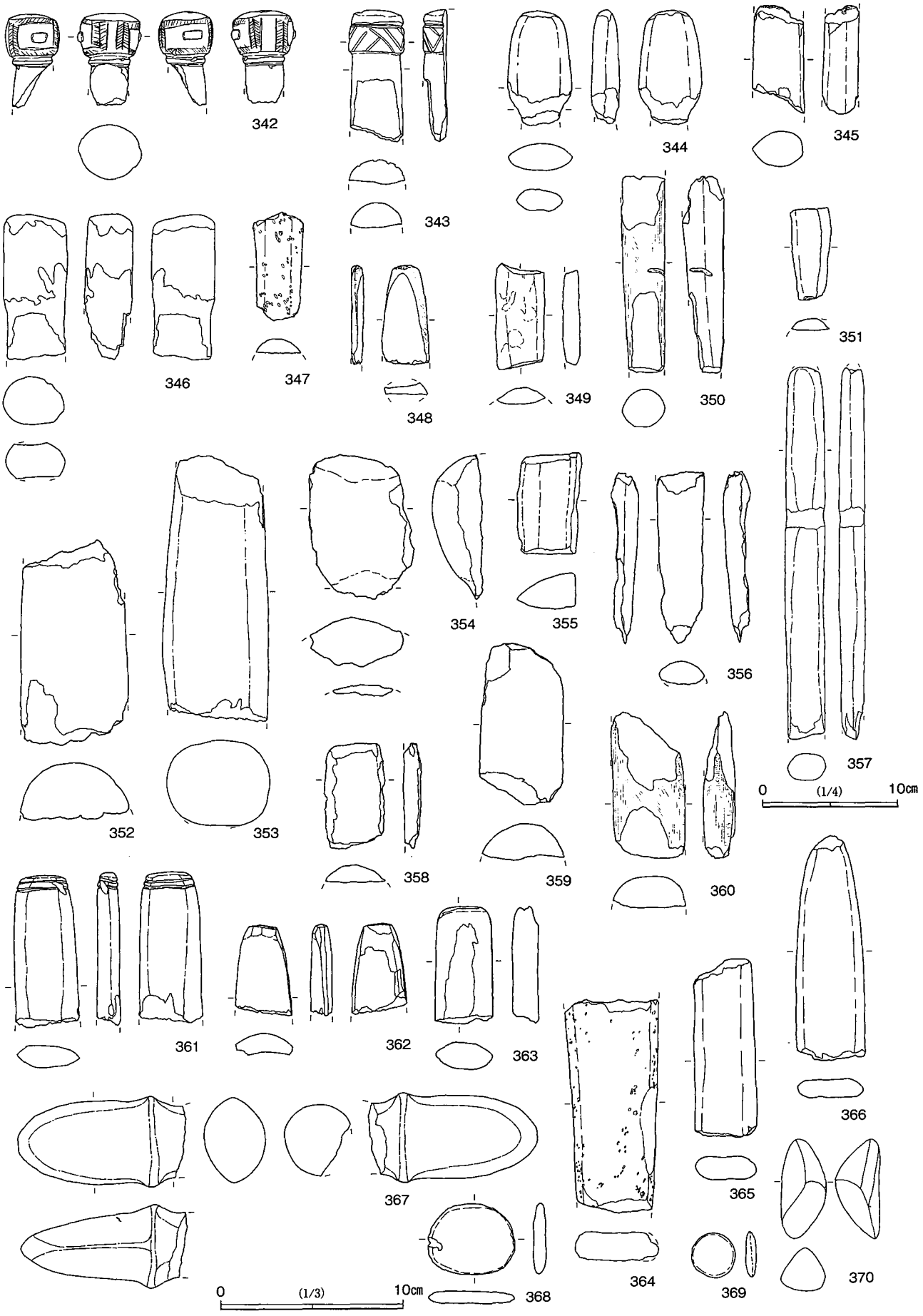
剥離を施して成形している。370は安山岩製の独鈷石で、中央部で欠損する。371は両側に抉りが施されており、石錘となろう。372は円盤状の小形品であるが性格不明である。373はヒスイ製垂飾品の未製品であろう。374～404は磨石である。石材は多様で、安山岩6点、砂岩9点、片麻岩3点などである。374はチャート、376は石英斑岩の大形礫を用いているが、磨りは弱い。374の先端部には敲打痕が確認される。375は安山岩の円礫で、摩耗は激しい。中央部に浅い凹みがみられる。379は軽石製で、全体が丁寧に磨られる。381～390は円形の礫、391～403は方形状の礫を用いる。404は凝灰岩製の磨石を再利用して石核とした可能性がある。405～463は敲石である。石材は、砂岩33点、安山岩8点、石英斑岩7点などで、砂岩製が主体であ



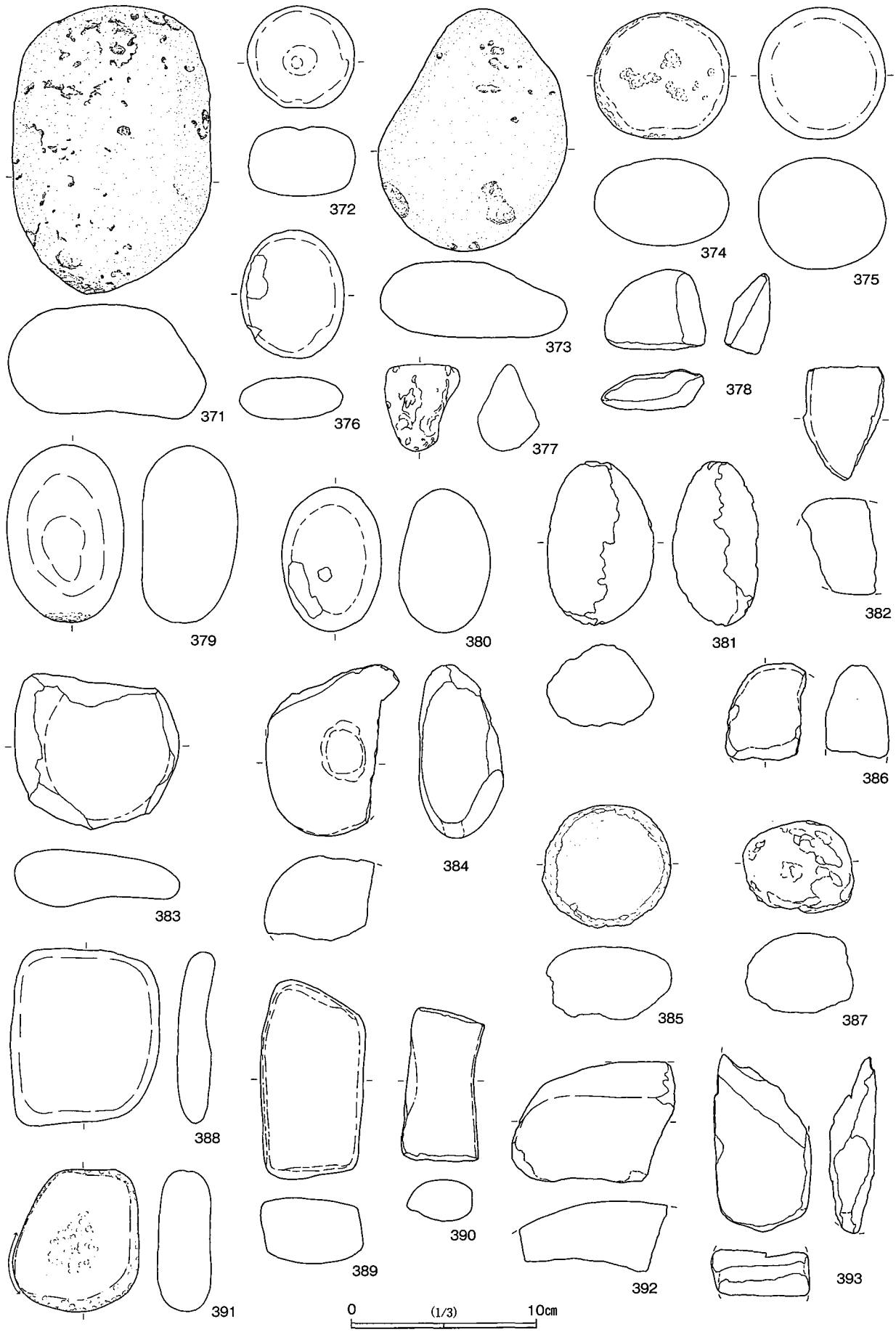
第70図　遺構外出土石器（13）



第71図　遺構外出土石器（14）

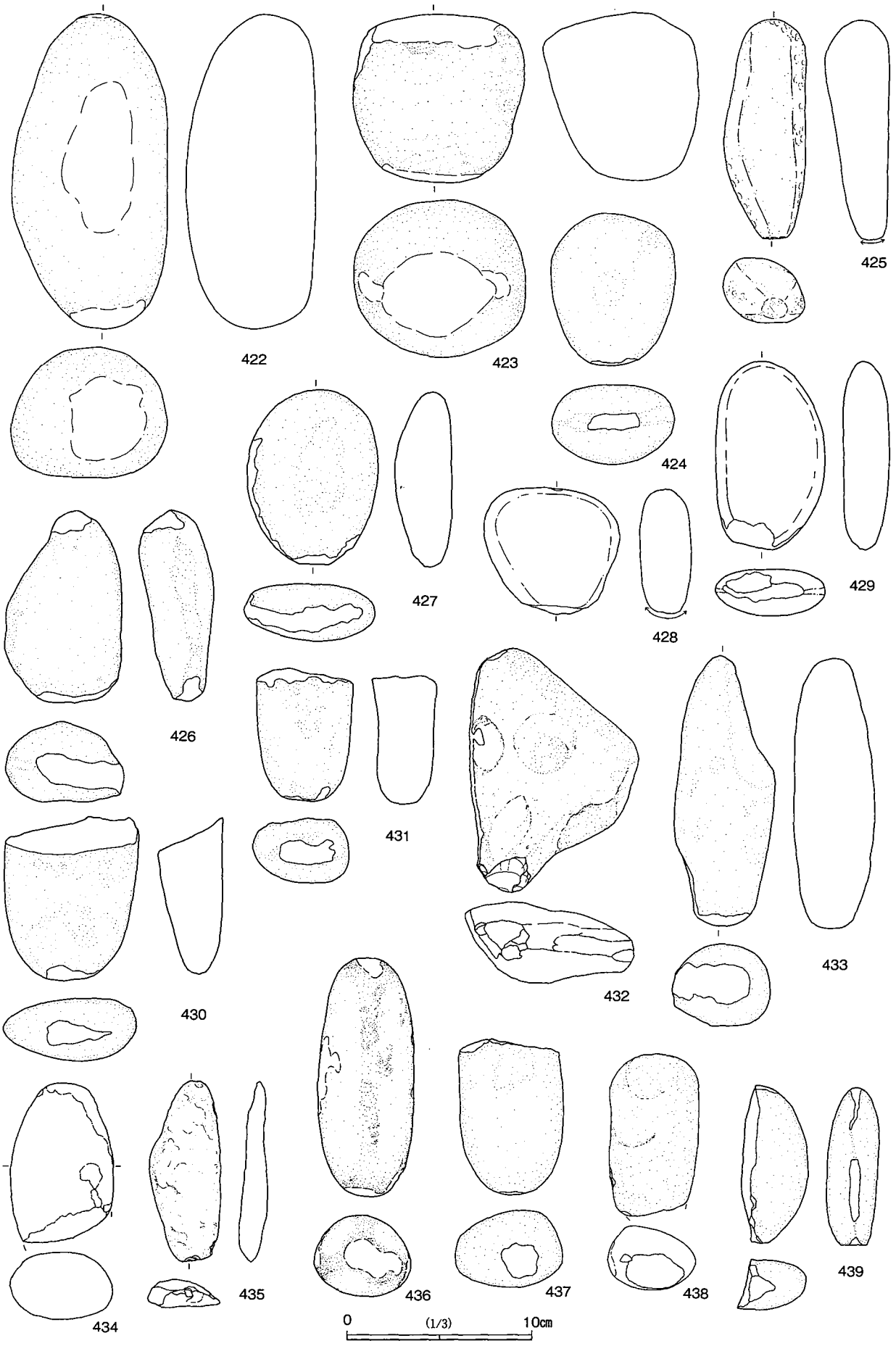


第72図　遺構外出土石器（15）

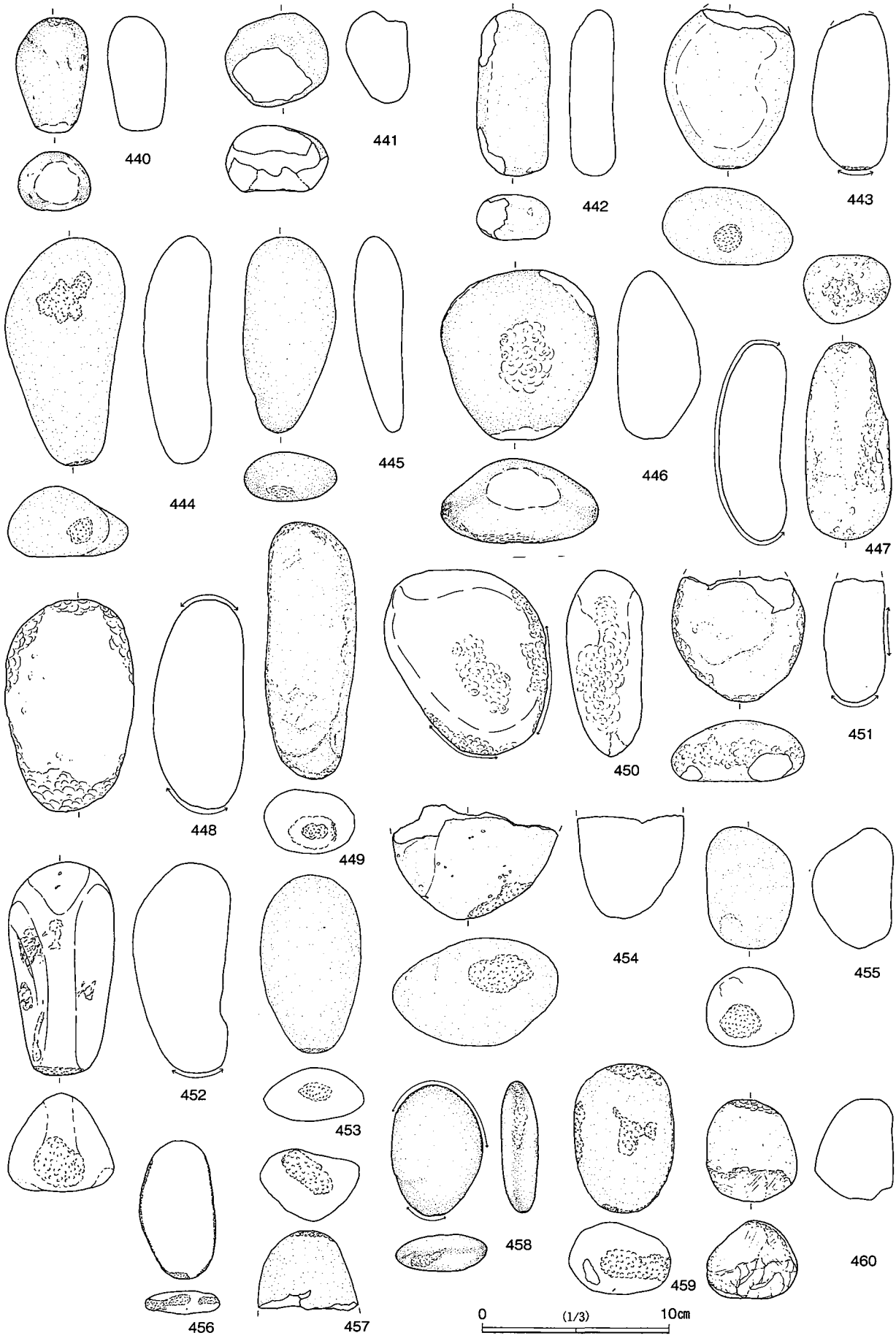


第73図　遺構外出土石器（16）

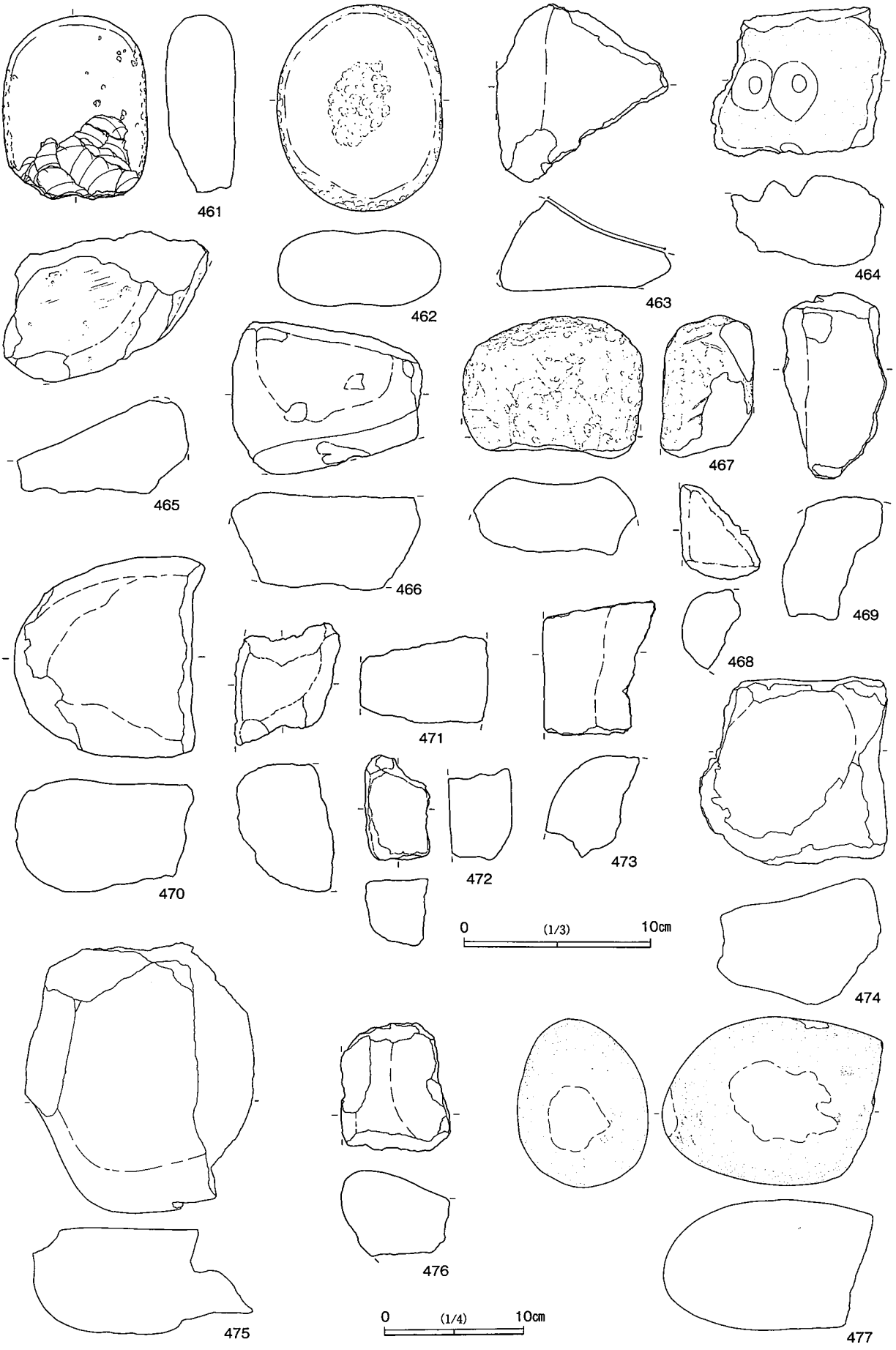
第74図　遺構外出土石器（17）



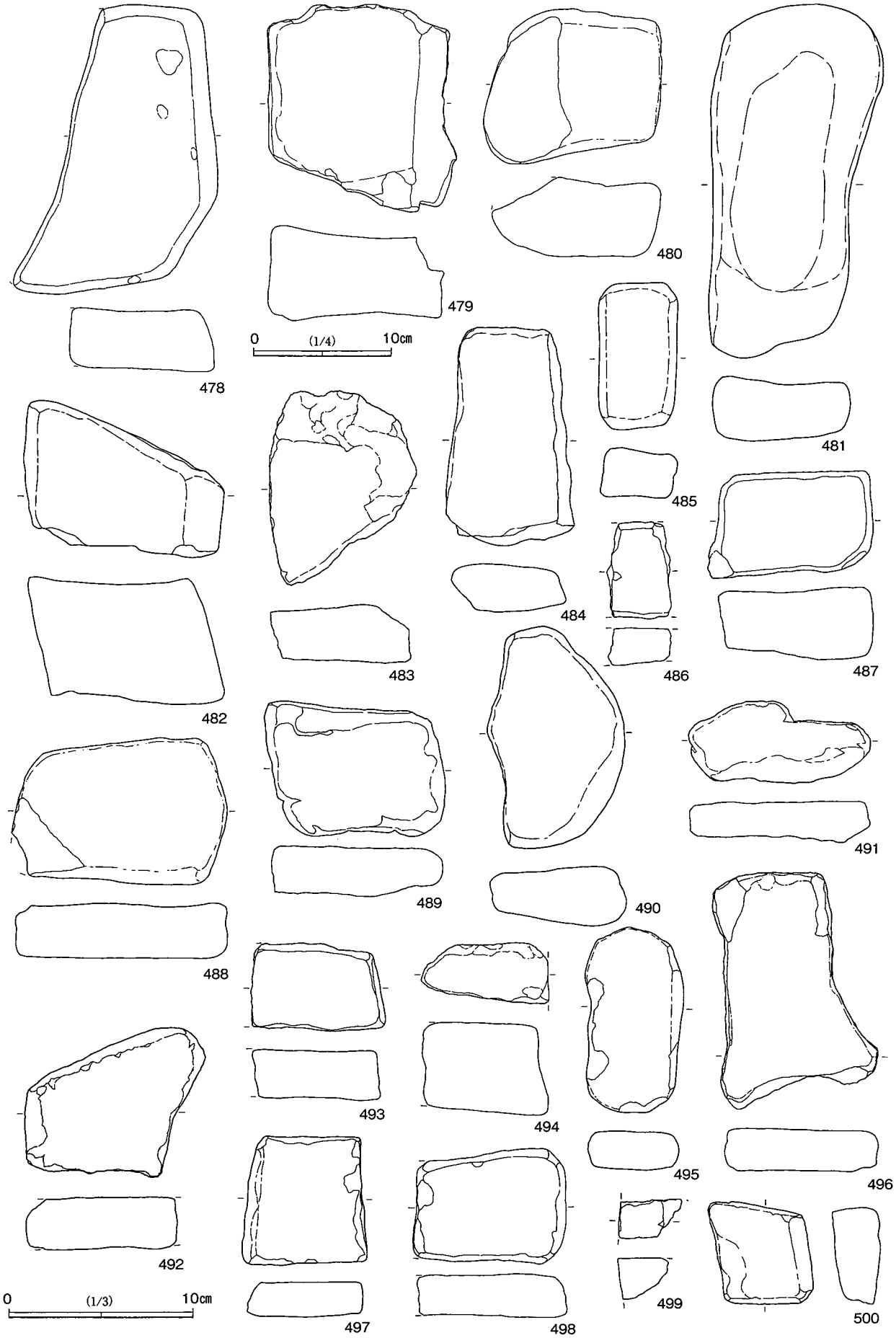
第75図　遺構外出土石器（18）



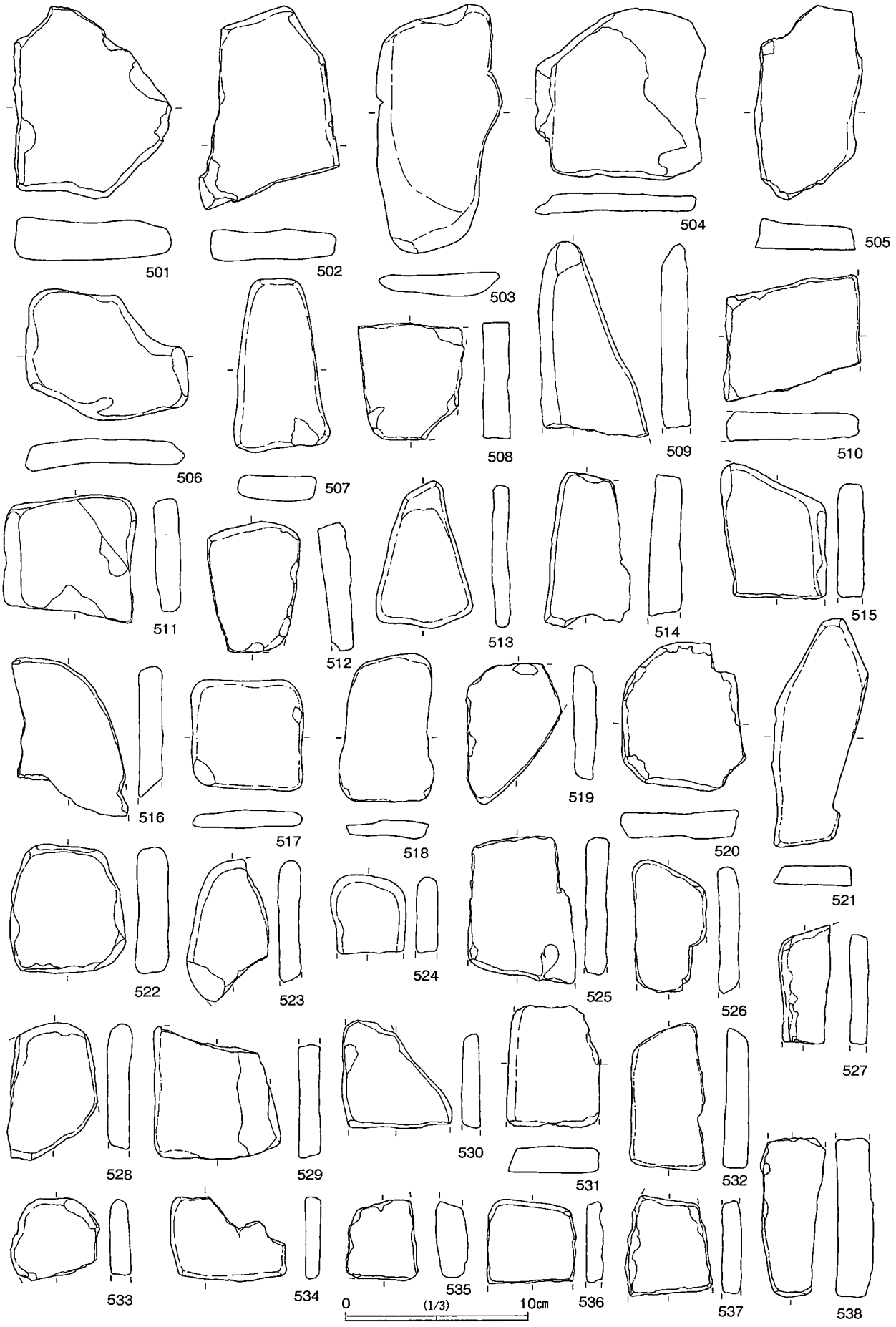
第76図　遺構外出土石器（19）



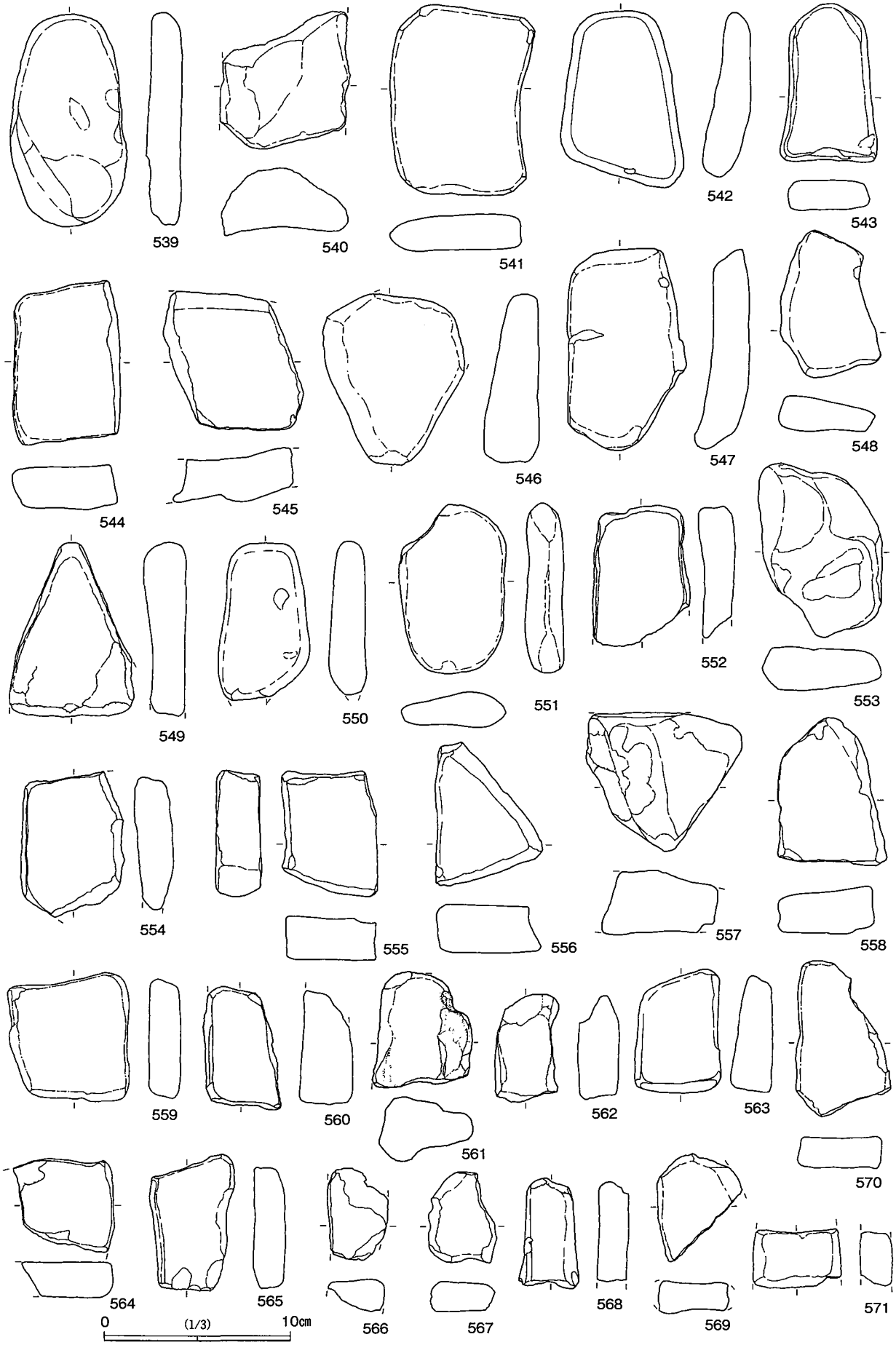
第77図　遺構外出土石器（20）



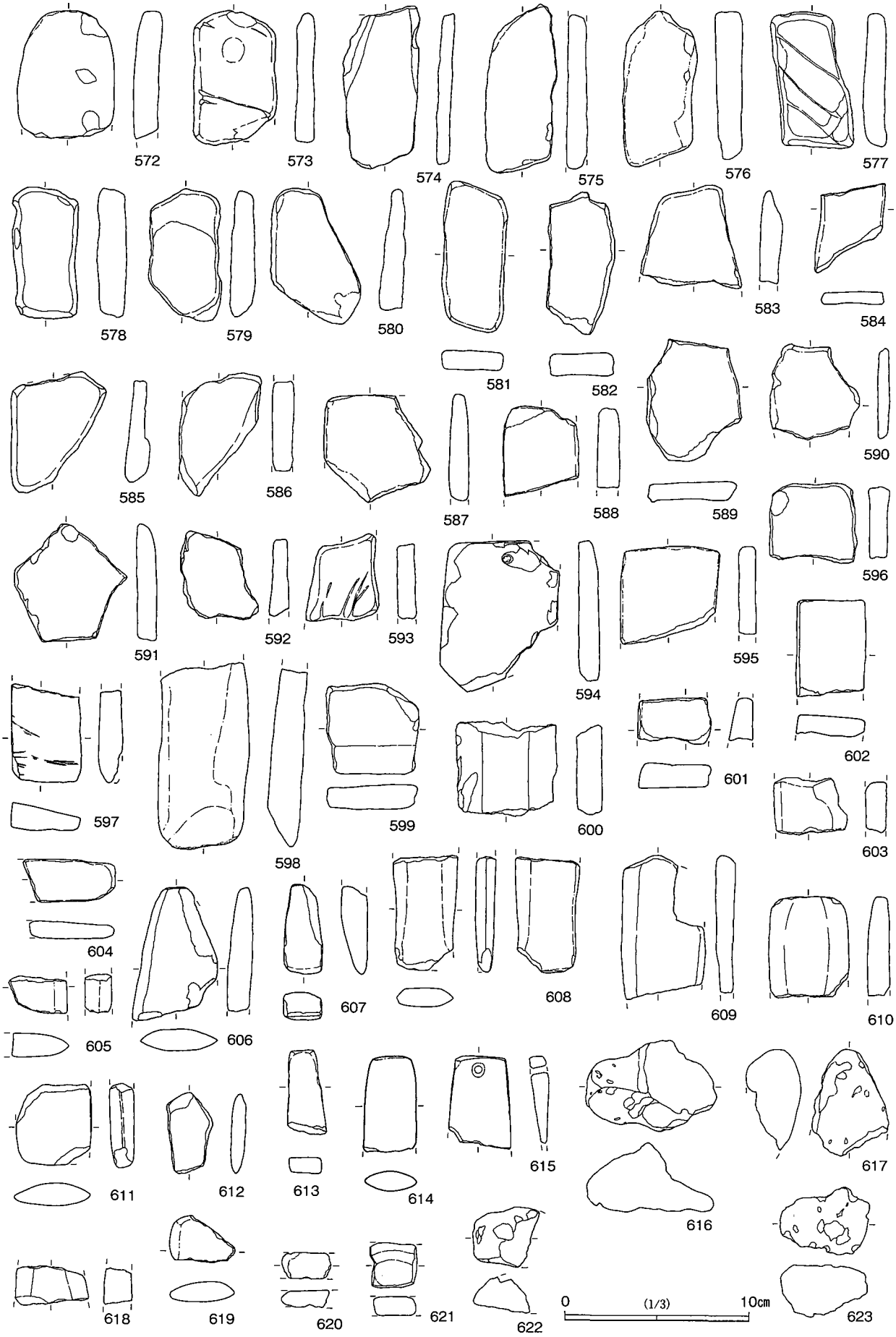
第78図　遺構外出土石器（21）



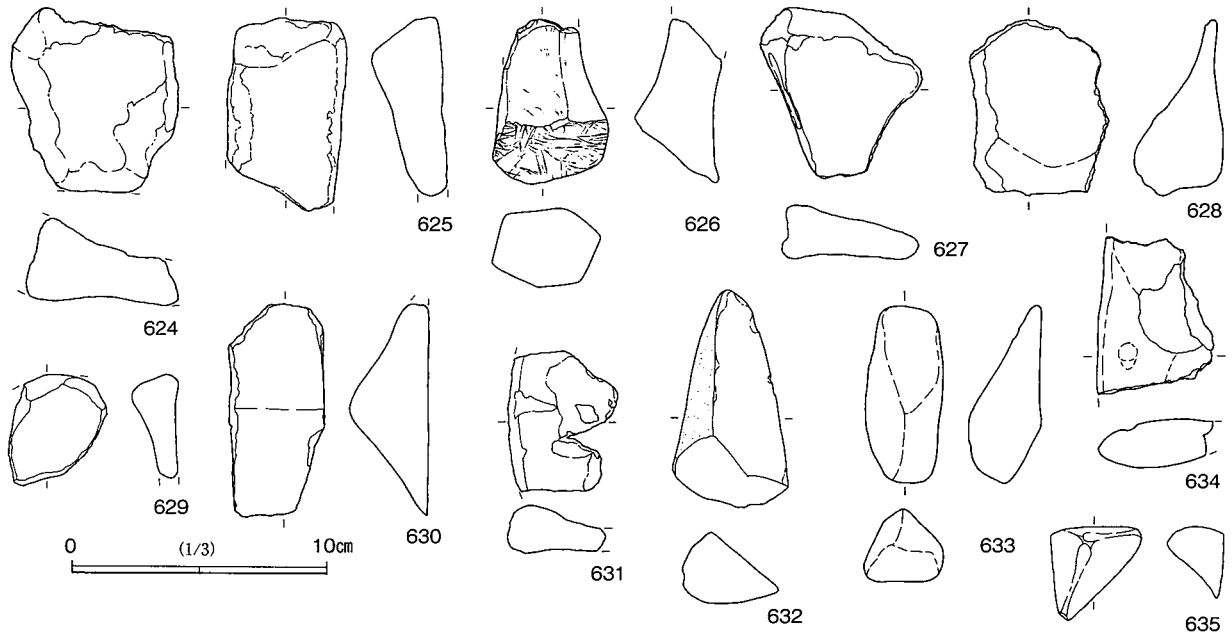
第79図　遺構外出土石器（22）



第80図　遺構外出土石器（23）



第81図　遺構外出土石器（24）



第82図　遺構外出土石器（25）

る。464・465は安山岩製の凹石であろう。464の凹みは不明瞭であるが、端部に剥離がみられる。465は磨石の再利用であろう。466～479は石皿片である。石材は、安山岩11点、軽石3点である。466・468は大形品と思われ、中央部の凹みは深い。467は凹石に再利用されたものであろう。470は軽石製で、凹みは浅く、大形とはならない。478は安山岩製で、かなり大形となろう。480は砂岩製の台石と思われる。側面及び上面に弱い敲打痕がみられる。

481～588は砥石である。その形状から、弥生時代以降の砥石も含まれていると思われるが、帰属時期を判断できる根拠を持たないため、ここでは一括して扱った。石材は、砂岩129点、安山岩10点、流紋岩8点などで、砂岩製がほとんどである。扁平な方形状を呈するものが多い。568は粘板岩製で、頭部に穿孔が施され、かなり使い込まれているようである。579～583はその形状から中世以降の所産と考えられる。

第２節　弥生時代

弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡71軒と土坑２基が検出された。住居跡は調査区全体に分布しているが、特に北東側に集中する傾向が認められる。６号墳周辺には古墳時代の竪穴住居跡も含めて検出されていないが、墳丘下で遺存している状況を考えると、６号墳築造に伴う地山整形などによって周囲の地山が削り取られた際に住居も削平されたものと思われる。

１．竪穴住居跡

SI－009（第83図）

調査区南東側、O19－21付近に位置する。６号墳の墳丘下で検出されたが、古墳構築時の地山整形などによって北壁側が削平されている。確認面からの深さはきわめて浅い。隅丸長方形状を呈し、規模は、短軸6.1mを測り、長軸方向は不明である。主軸方向はN－31°－Wを指し、床面積は40.3㎡と推測される。硬化面は確認されなかった。柱穴は３本検出され、北西側は根による撹乱のため確認できなかったが、ほぼ対角線上に配置されている。壁溝は検出されなかった。床面上で焼土が１か所確認されているが、炉とは判断できない。遺物の出土は少なく、散在している。

SI－010（第83図、図版5）

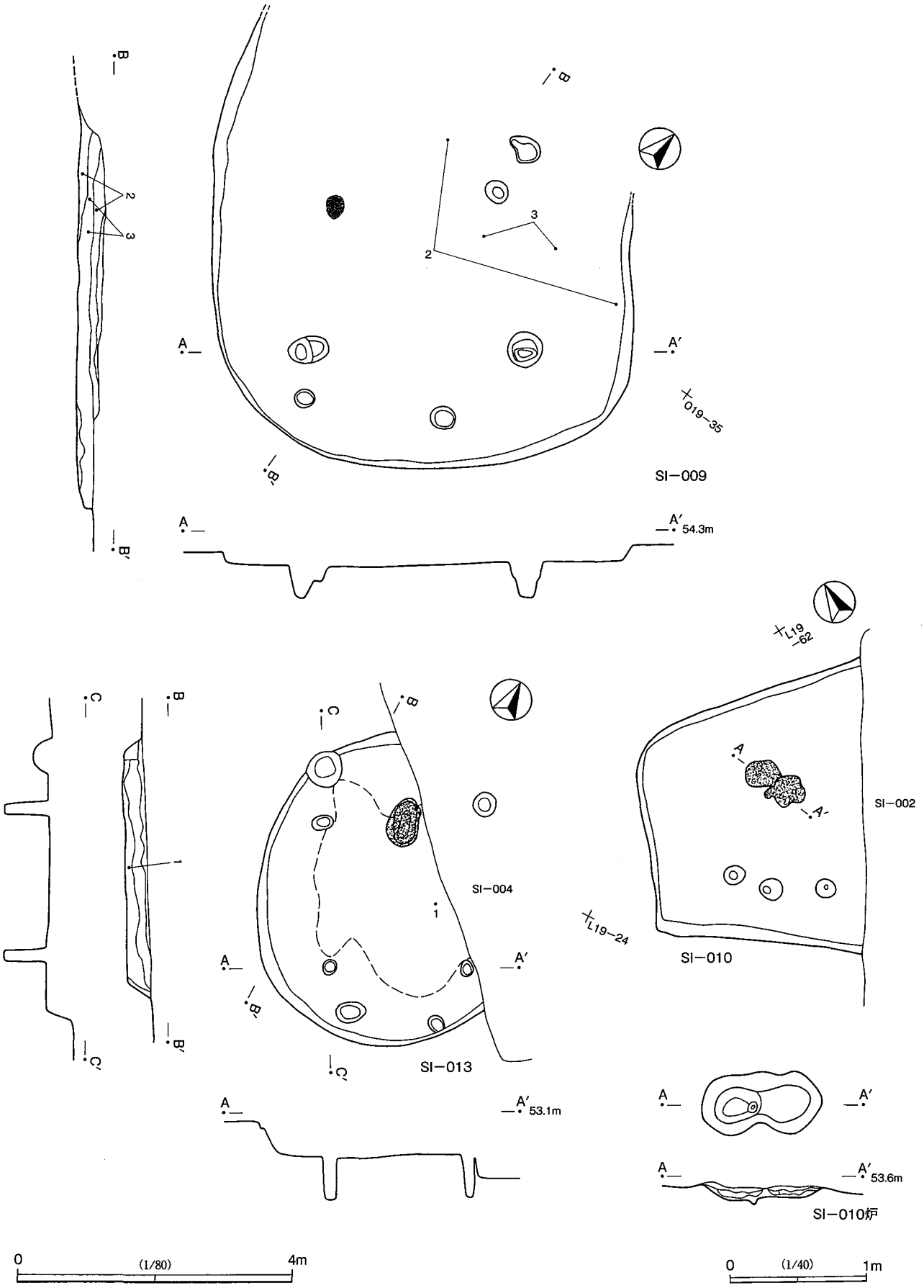
調査区南西側、O19－60付近に位置する。SI－002に切られ、SI－063を切っている。規模は短軸3.2mを測り、長軸になると思われる方向は不明である。平面形は不整形を呈し、主軸方向はN－26°－Wを指す。確認面からの深さ0.3mほどを測る。床面はあまり堅緻ではなく、硬化面は確認されなかった。ピットは３か所確認されたが、掘り込みが浅いため性格不明である。炉は床面北側に位置し、瓢箪形を呈する。焼土の堆積状況などから、２基の炉と思われるが、新旧関係は不明である。遺物は比較的多く出土しているが、集中する傾向はない。

SI－013（第83図）

調査区南西側、L19－12付近に位置し、SI－004に切られる。規模は長軸4.6mを測り、平面形は楕円形を呈する。主軸方向はN－30°－Wを指す。柱穴はほぼ対角線上に４本検出された。北東側の柱穴以外は、径0.25m前後と小規模であるにもかかわらず、深さは0.6mと深いことが特徴である。床面はほぼ平坦で、柱穴間には硬化面が確認できる。南西コーナーには、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ0.8mの楕円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西の柱穴間に位置する。長軸0.70m、短軸0.39mと楕円形を呈しており、他の住居に比べて掘り込みが深い。南東部の壁に接して掘り込まれているピットは、入口に伴うピットの可能性がある。

SI－016（第84図、図版6）

調査区南西側、M19－10付近に位置する。SI－062、SI－075に切られている。規模は長軸6.6m、短軸5.9mを測り、略楕円形状を呈する。確認面からの深さは0.6mと比較的深い。主軸方向はN－34.5°－Wを指す。床面はほぼ平坦で、床面積33.2㎡を測る。柱穴は対角線上に４本配置されている。径0.3m前後と小規模であるが、深さは0.5mほどと比較的深い。壁溝は、幅15cmほどで全周している。炉は北側の柱穴間に位置する。長軸0.9m、短軸0.7mと比較的大きいが、掘り込みはきわめて浅い。底面は赤く変色し、硬化している。覆土は砂やローム ブロックで一気に埋められたような状態を示している。炭化材や焼土が柱穴間の床面上で検出された。覆土中にも認められ、焼失した住居を埋めたことが考えられる。遺物は南西部の床面から



第83図　SI－009・SI－010・SI－013

比較的まとまって出土した。

SI－017（第84図、図版7）

調査区南側、M19－37付近に位置する。規模は長軸4.0m、短軸3.5mを測り、小形の隅丸長方形状を呈する。確認面からの深さは0.3～0.5mである。床面積は11.9㎡を測り、主軸方向はN－31.5°－Wを指す。柱穴は検出されなかったが、南東壁側に掘り込まれた小ピットは、出入口に伴うものの可能性がある。炉は主軸線上北西側に偏在して位置する。長軸0.8m、短軸07mの楕円形を呈し、僅かな掘り込みが認められる。火床部は赤く硬化している。遺物は住居全体から比較的多く出土している。

SI－018（第84図）

調査区中央部、M18－95付近に位置し、SI－028に切られている。規模は長軸5.6m、短軸4.9mを測り、楕円形を呈する。主軸方向はN－33.0°－Wを指す。柱穴は検出されなかった。炉はSI－028により削平されたと考えられ、検出されなかった。溝は全周している。遺物は住居全体から出土しているが、南西部に比較的まとまっている。

SI－023（第85図）

調査区南西地域、K19－85付近に位置する。SI－065に切られている。規模は長軸6.3m、短軸5.5mを測り、横広の小判型を呈する。主軸方向はN－45.0°－Wを指す。床面はほぼ平坦であるが、硬化面は確認されなかった。柱穴は対角線上に４本配置されている。溝は南西側半分で検出された。炉は北西の柱穴間に位置する。長軸0.69m、短軸0.43mの楕円形を呈している。掘り込みは認められない。南東側の柱穴間より、やや壁寄りにピットが検出されたが、入口に伴うものと考えられる。遺物は住居の南西部からまとまって出土した。

SI－024（第85図、図版7）

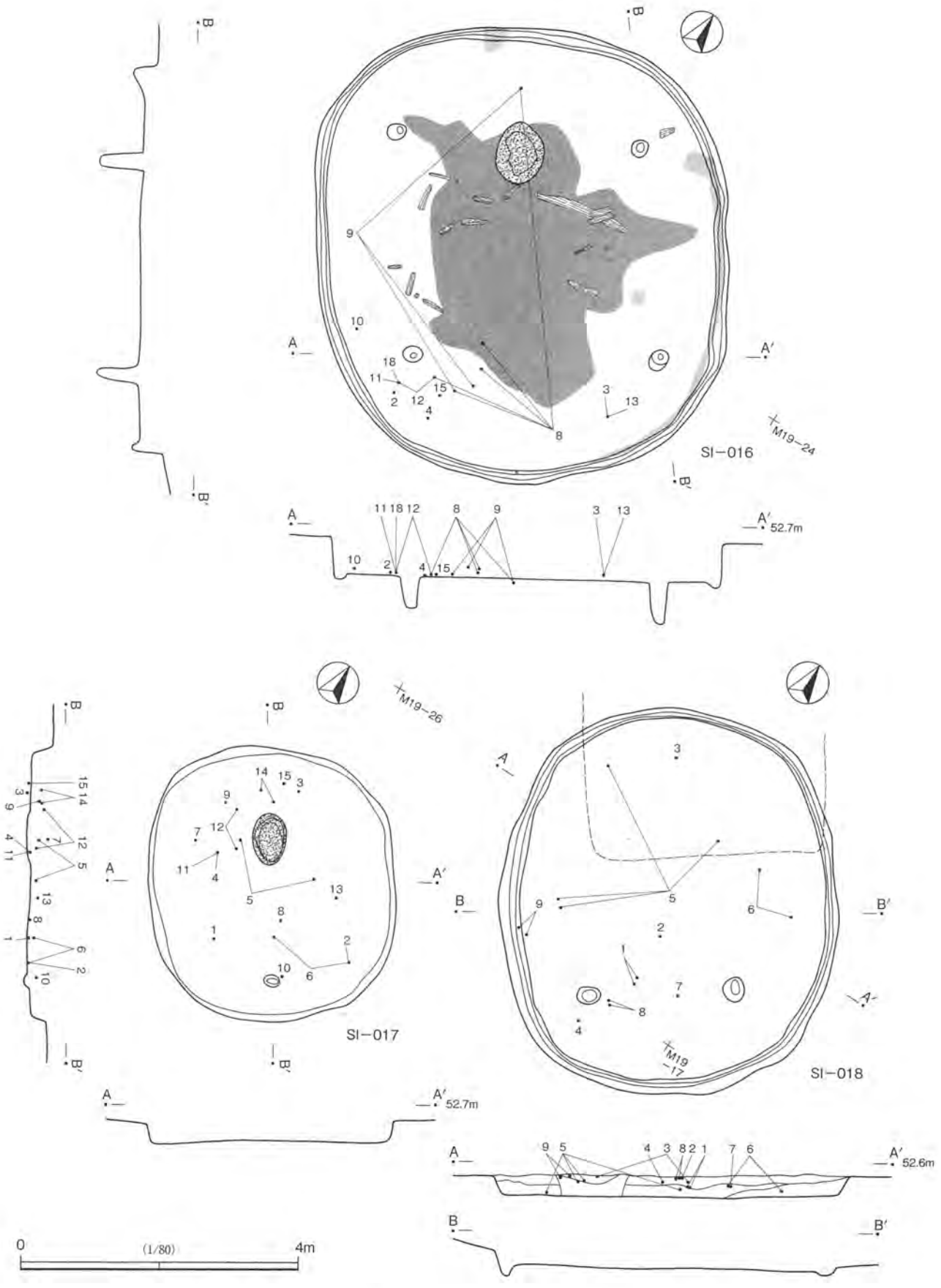
調査区中央、M18－91付近に位置する。SI－075に切られている。規模は長軸3.7m、短軸3.6mを測り、正方形を呈する。床面積は11.4㎡を測る。主軸方向はN－64.5°－Wを指す。柱穴は対角線上に4本配置されているが、深さが浅い。壁溝は検出されなかった。炉は北西の柱穴間に位置し、長軸0.51m、短軸0.40mの楕円形を呈している。火床部は赤く変色し硬化しているが、掘り込みは確認されなかった。床面は平坦であるが、硬化面は認められない。遺物は住居跡全体に散在して検出された。

SI－037（第85図、図版8）

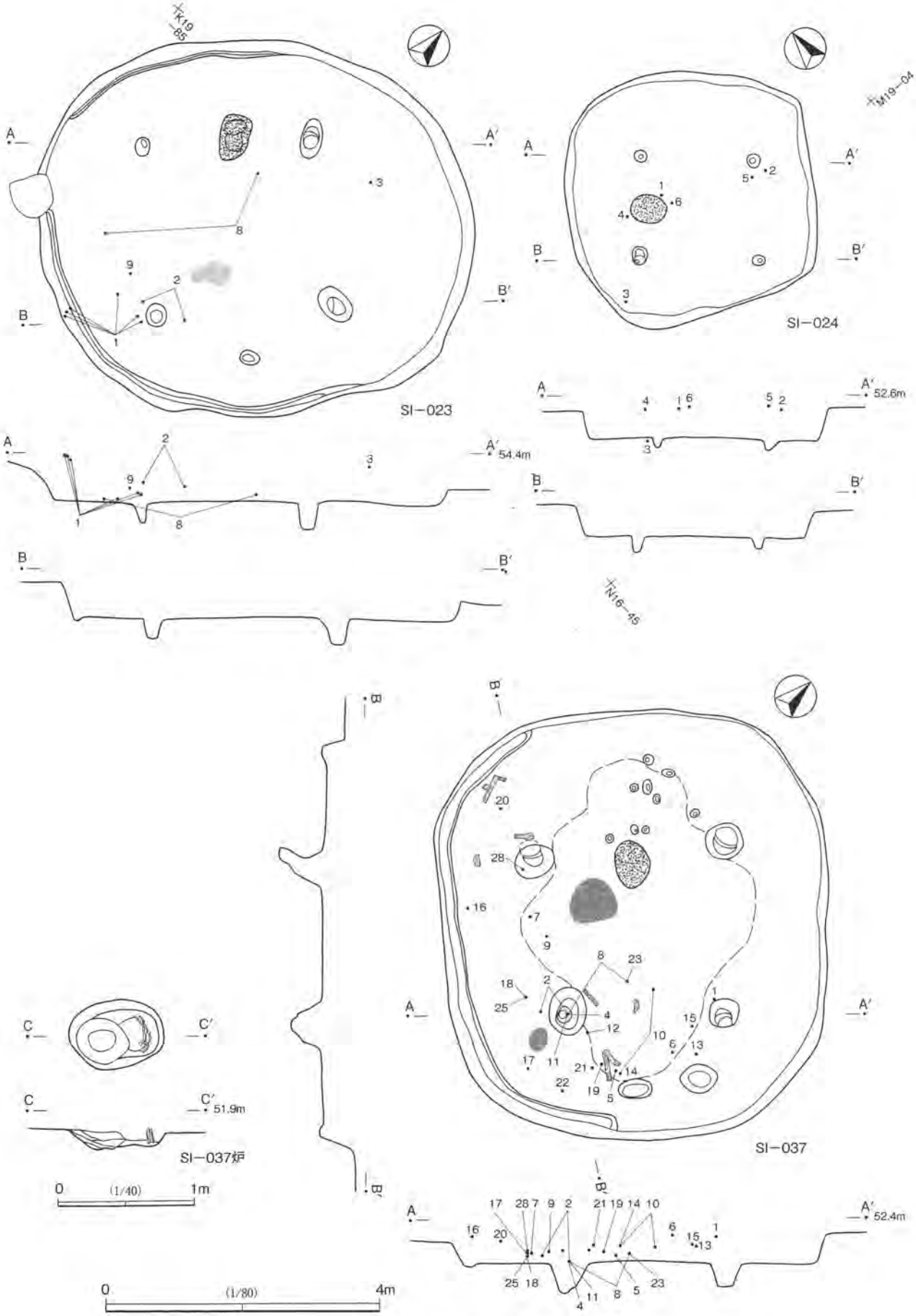
調査区中央、N18－48付近に位置する。SI－153に切られている。規模は長軸6.4m、短軸5.6mを測り、隅丸方形を呈する。床面積は31.5㎡を測る。主軸方向はN－54.0°－Wを指す。床面は僅かな凸凹が認められ、掘り込みは礫層に及んでいる。柱穴は対角線上に４本配置されており、掘り込みが大きく段が形成されている。壁溝は南西壁側にのみ検出された。炉は北西の柱穴間に位置し、長軸0.70m、短軸0.54mの楕円形を呈している。掘り込みは0.14mを測る。南東側に甕の破片を立てていることが確認された。住居の南側を中心に、焼土と炭化材が検出された。炭化材は床面からやや浮いた状態で確認され、遺物も炭化材の周辺で出土した。

SI－043（第86図、図版9）

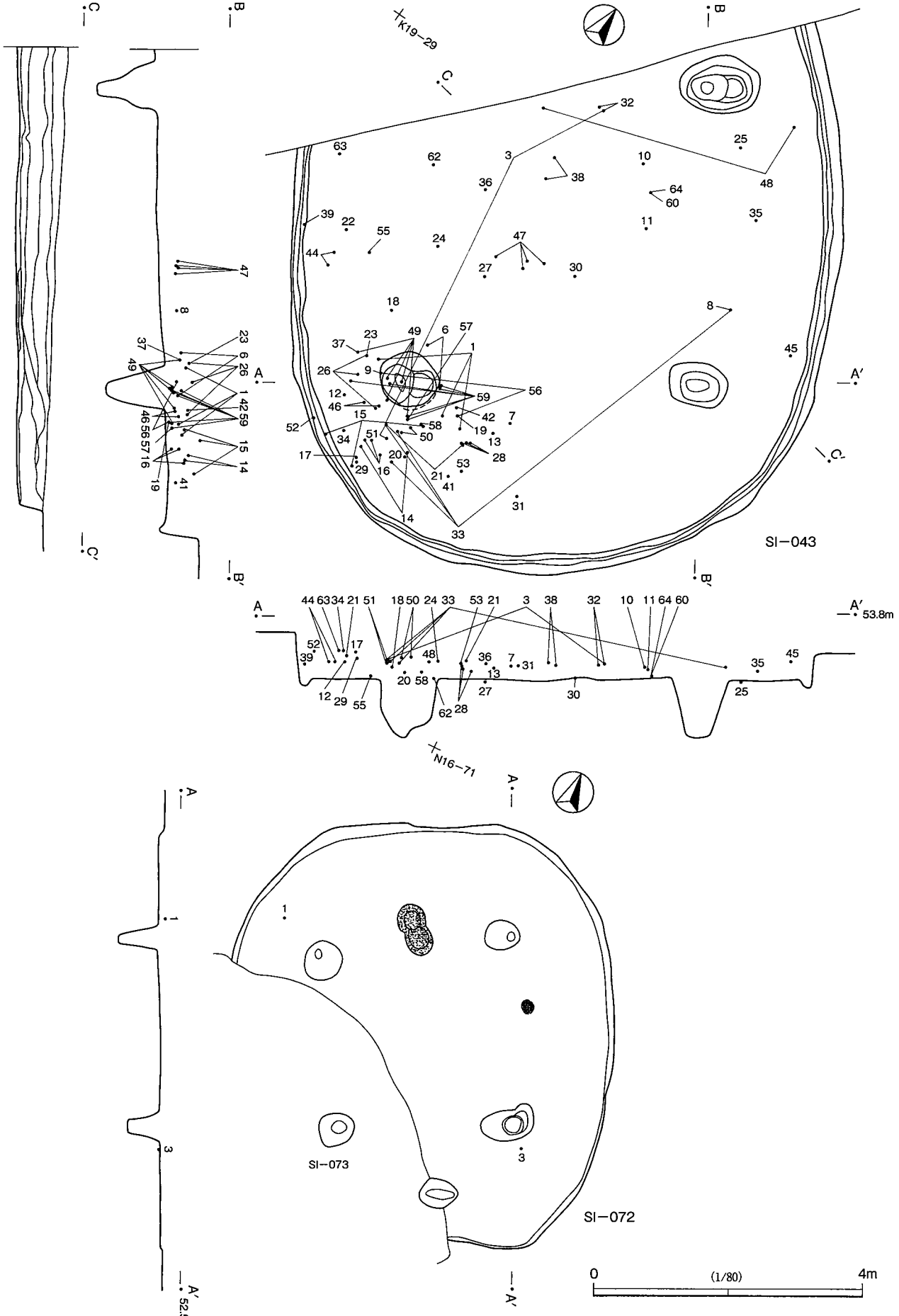
調査区西側、K19－47付近に位置する。SI－100を切っている。規模は短軸8.8mの、小判形を呈する大形住居である。主軸方向はN－43.0°－Wを指す。北西壁側は調査区外となる。床面は若干凹凸が認められるが、掘り込みはしっかりしている。壁溝は遺存部分では全周している。柱穴は対角線上に４本配置され



第84図　SI－016・SI－017・SI－018



第85図　SI－023・SI－024・SI－037



第86図　SI－043・SI－072

ており、掘り込みも大きく深さもある。壁溝は南西壁側にのみ検出された。炉は位置から推測して、調査区外に存在すると思われる。遺物は出土量が多く、南西コーナーを中心に住居跡全体から検出された。

SI－063（第87図）

調査区南西側、K19－89付近に位置する。SI－002、SI－010に切られ、隅丸の長方形を呈している。主軸方向はN－56.0°－Wを指す。床面はSI－002方向に低く傾いている。柱穴は２本認められたが、対角線上に４本配置されているものと推測される。壁溝は検出されなかった。炉は北西の柱穴北寄りに２基検出された。西側の炉を使用した後、粘質土で埋めてもう１基を構築している。新しい炉は長軸0.48m、短軸0.47mの円形を呈している。遺物は住居全体に散在して検出された。

SI－072（第86図）

調査区北部、N16－80付近に位置する。SI－098を切り、SI－073に切られている。規模は長軸6.2m、短軸5.6mを測る隅丸の長方形を呈する。床面積は29.4㎡を測る。主軸方向はN－32.0°－Wを指す。床面は特に硬化している面は確認されなかったが、炉の北東側が若干高まっている。柱穴は対角線上に４本配置されており、掘り込みが大きく、深さもしっかりしている。壁溝は確認されなかった。炉は北西の柱穴間に２基存在している。北側が新しいものと思われる。南東壁付近の中央に横長楕円形のピットが検出された。入口に伴うものであろう。

SI－073（第87図）

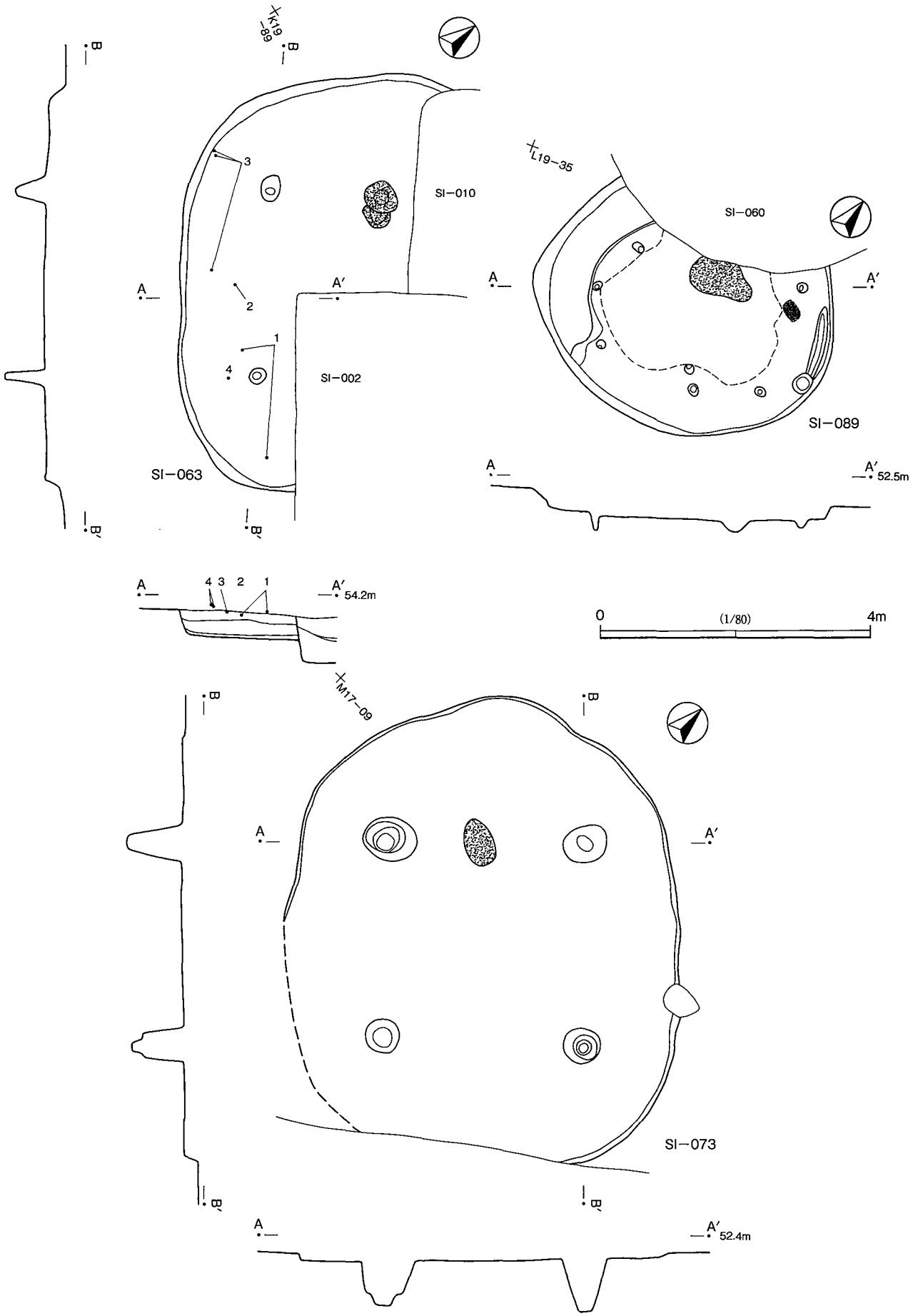
調査区西側、N16－90付近に位置する。SI－072を切り、SI－093に切られている。規模は長軸6.9m、短軸5.8mの小判形を呈している。主軸方向はN－45.0°－Wを指す。床面は礫層に設定されており、ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。壁溝は検出されなかった。柱穴は対角線上に４本配置されており、掘り込みも大きく深さもある。炉は北西側の柱穴間で確認された。長軸0.70m、短軸0.44mを測る。火床部のみで、掘り込みはほとんど認められない。

SI－084（第88図）

調査区西側、L17－59付近に位置する。SI－012、SI－099を切っている。規模は長軸8.5m、短軸7.2mの隅丸方形を呈する大形住居である。主軸方向はN－39.5°－Wを指す。床面は凹凸が認められ、硬化面の確認はできなかった。壁溝は検出されなかった。柱穴は対角線上に４本配置されており、深さがしっかりとしている。炉は北西側の柱穴間に２基検出された。北側に新しい炉を作っている。古い炉はかなり使用されたと思われるような状態を呈している。遺物は出土量が多く、南西コーナーを中心に住居跡全体から検出された。

SI－089（第87図）

調査区南西側、L19－37付近に位置する。SI－060に切られている。規模は長軸4.4m、短軸3.8mの小判形を呈する小形の住居である。主軸方向はN－69.0°－Wを指し、床面積は15.5㎡を測る。床面は中央部に硬化面が認められる。西壁に接してベット状の高まりが確認された。それに隣接して入口に伴うと思われるピットが検出された。壁溝は東側の一部に認められる。柱穴は３本検出されたが、１本はSI－060に削平されている部分に存在し、対角線上に４本配置されていると思われる。掘り込みも小さく浅いピットである。炉は北東側の柱穴付近に配置されている。径0.38mの円形を呈しており、浅く掘りこまれている。遺物は覆土中に僅かに認められた。



第87図　SI－063・SI－073・SI－089

SI－090（第89図、図版13）

調査区南側、L19－55付近に位置する。SI－045に切られている。規模は長軸7.3m、短軸6.0mの隅丸長方形を呈している。主軸方向はN－50.0°－Wを指している。粘土質の土層を掘り込んで構築されている。床面は平坦であるが、硬化面は特定できない。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁下に幅の狭い溝が検出された。遺存部分は全周している。柱穴は対角線上に４本配置されている。南東側には２本のピットが検出されたが、これは付け替えの可能性が考えられる。南東側の壁溝も一部で２条検出されており、拡張の可能性を示唆している。炉は北西側の柱穴間で検出された。長軸0.83m、短軸0.73mで、掘り込みは僅かである。遺物は覆土の上層からややまとまって出土し、他は床面からである。

SI－096（第90図）

調査区西側、L17－96付近に位置する。SI－038、SI－040に切られ、SI－020を切っている。規模は長軸9.9m、短軸8.2mの隅丸長方形を呈しており、床面積は31.6㎡を測る。主軸方向はN－28.0°－Wを指している。壁溝は北東コーナーと南東コーナーを除いて巡っている。柱穴は対角線上に４本配置されている。掘り込みも大きく、深さも0.80m前後と大形住居を支える規模を示している。炉は北西側の柱穴間で検出された。長軸1.0m、短軸0.78mで、深さ10cm程度の掘り込みを有する。南東側の壁際に入口に伴うと思われるピットが認められた。

SI－098（第88図）

調査区北端、N16－71付近に位置する。SI－072に大半を切られているため詳細は不明である。

SI－100（第89図）

調査区西側、K19－46付近に位置する。半部近くが調査区外にあたり、SI－043に大半を切られているため詳細は不明である。

SI－101（第88図）

調査区南側、M20－00付近に位置する。SI－003、SI－156に切られている。床面がはっきりしないため、プランの正確な把握ができなかった。覆土は全体に粘土質である。炉が２基検出された。共に火床部のみの検出であるが、赤く硬化している。北側に新しく構築している。

SI－118（第89図）

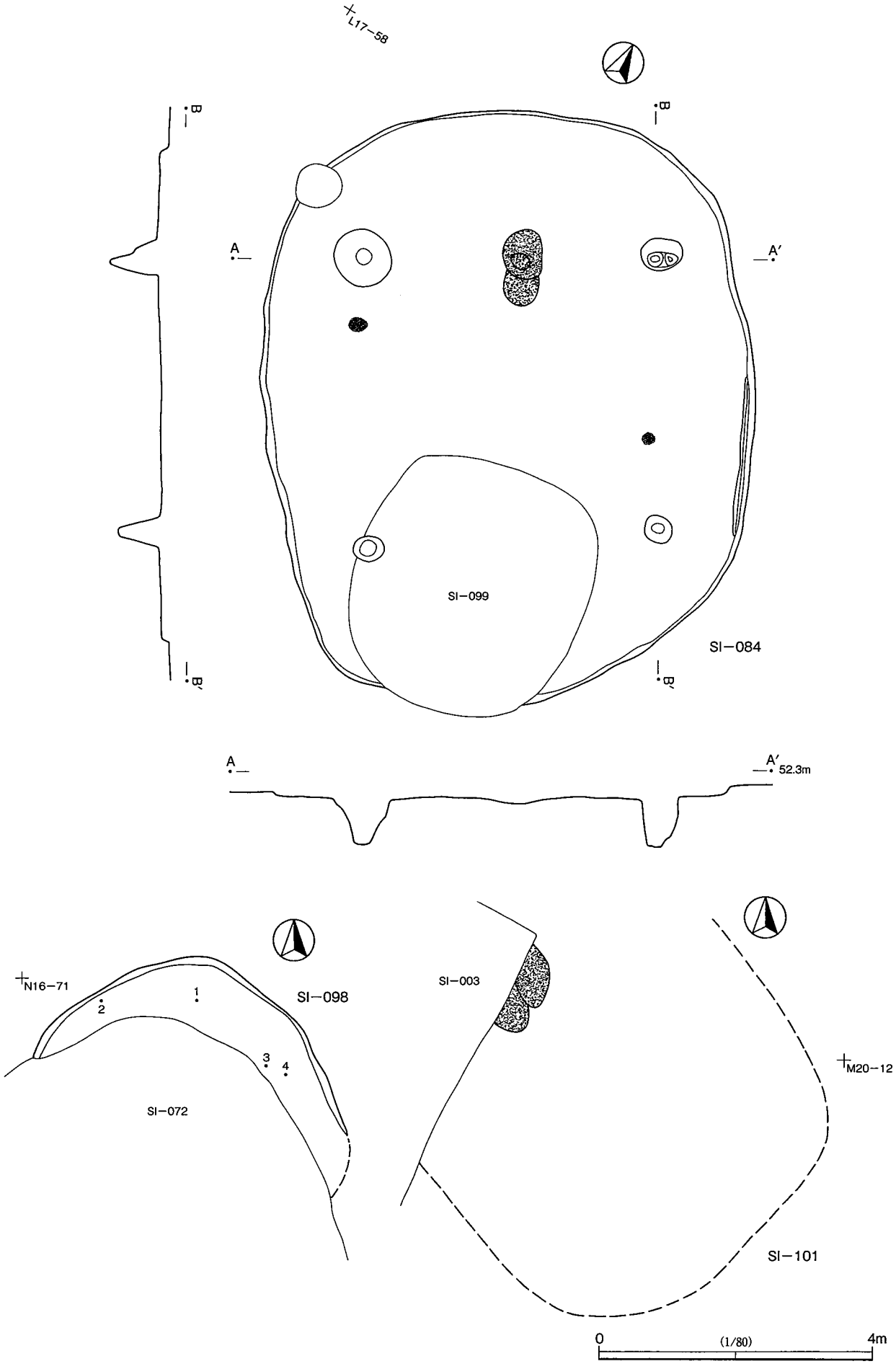
調査区北側、M17－13付近に位置する。北西側は調査区外であり、約2/3程度が削られている。規模は短軸6.1mを測る。主軸方向はN－29.0°－Wを指す。床面は壁に接して礫層に設定されており、硬化面の範囲は特定できなかった。壁溝は確認されない。柱穴は２本検出された。炉は調査区外に位置していると思われる。遺物は床面から出土している。

SI－121（第90図）

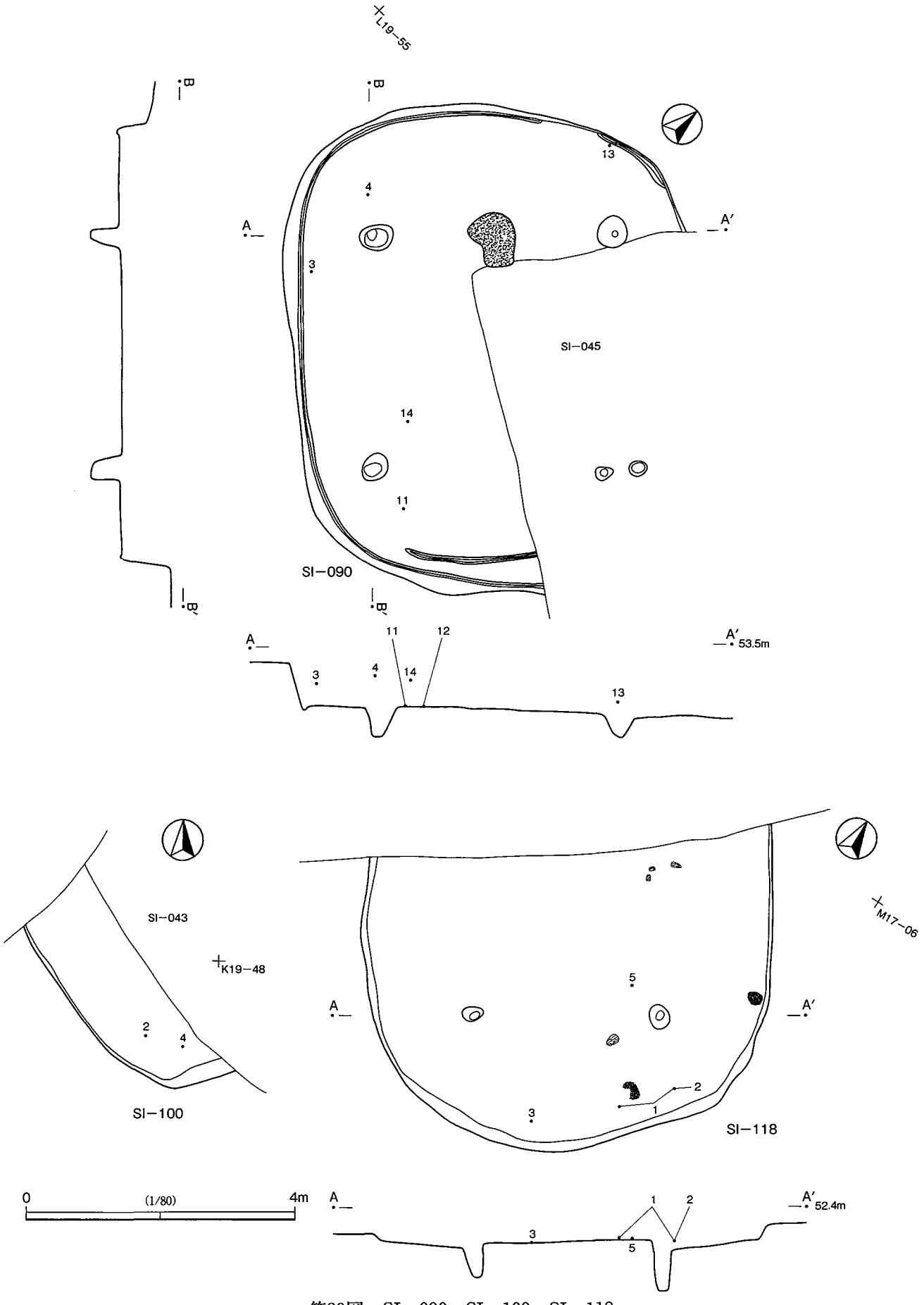
調査区南側、M19－65付近に位置する。規模は短軸6.8mである。主軸方向はN－50.0°－Wを指す。硬化面、壁溝は認められない。柱穴は３本検出されたが、１本は調査区外に存在すると推測され、対角線上に４本配置されていると思われる。炉は検出されなかった。炭化物が北西壁側に確認された。

SI－133（第91図）

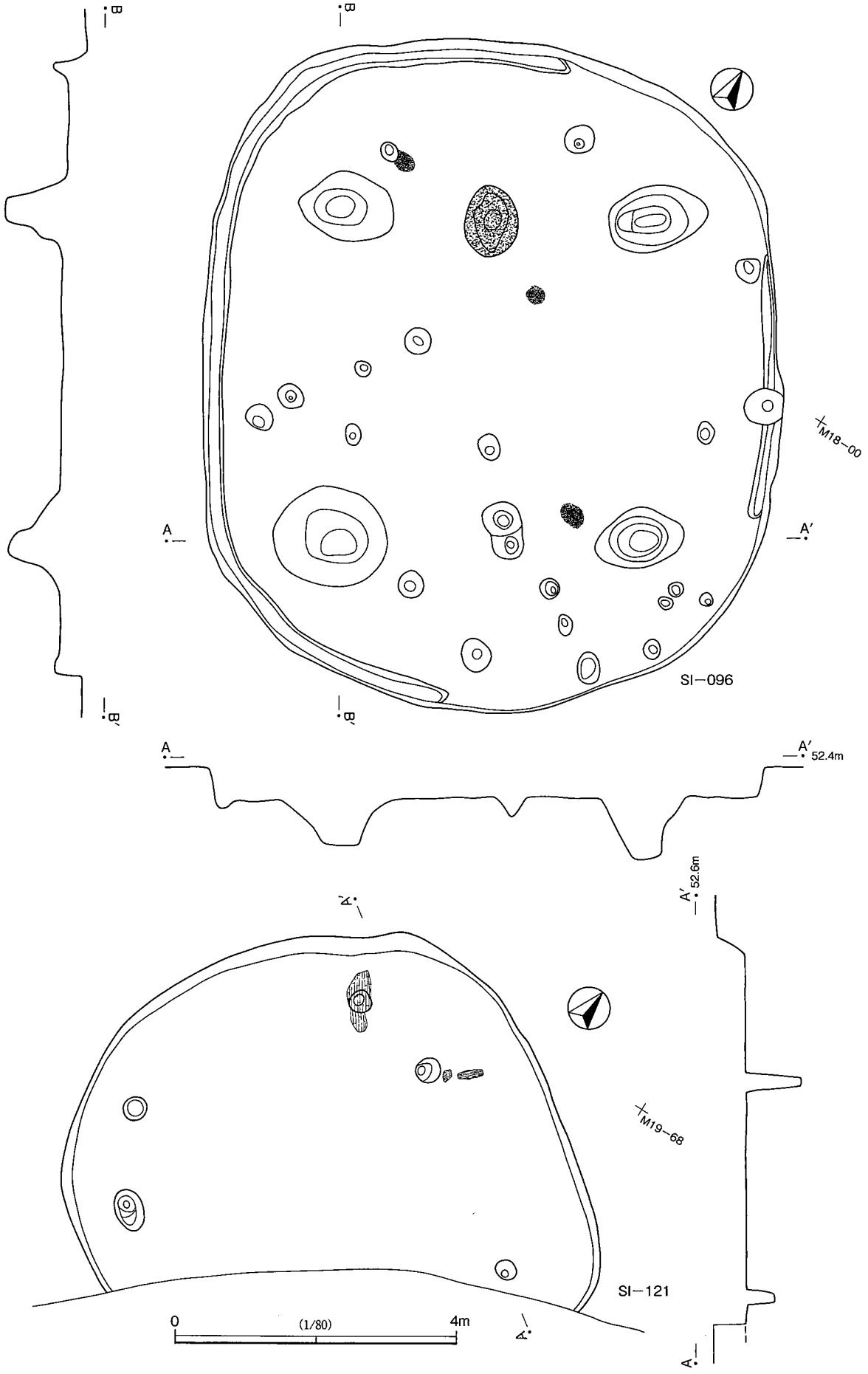
調査区西側、L17－98付近に位置する。SI－096を切っているが、SI－084との前後関係は不明である。規模は一辺0.45mで、不整円形を呈している。主軸方向はN－33.0°－Wを指す。硬化面、壁溝は認められない。柱穴は検出されなかった。炉は北西側に寄って検出された。僅かな掘り込みを持ち、火床部は赤く硬化し



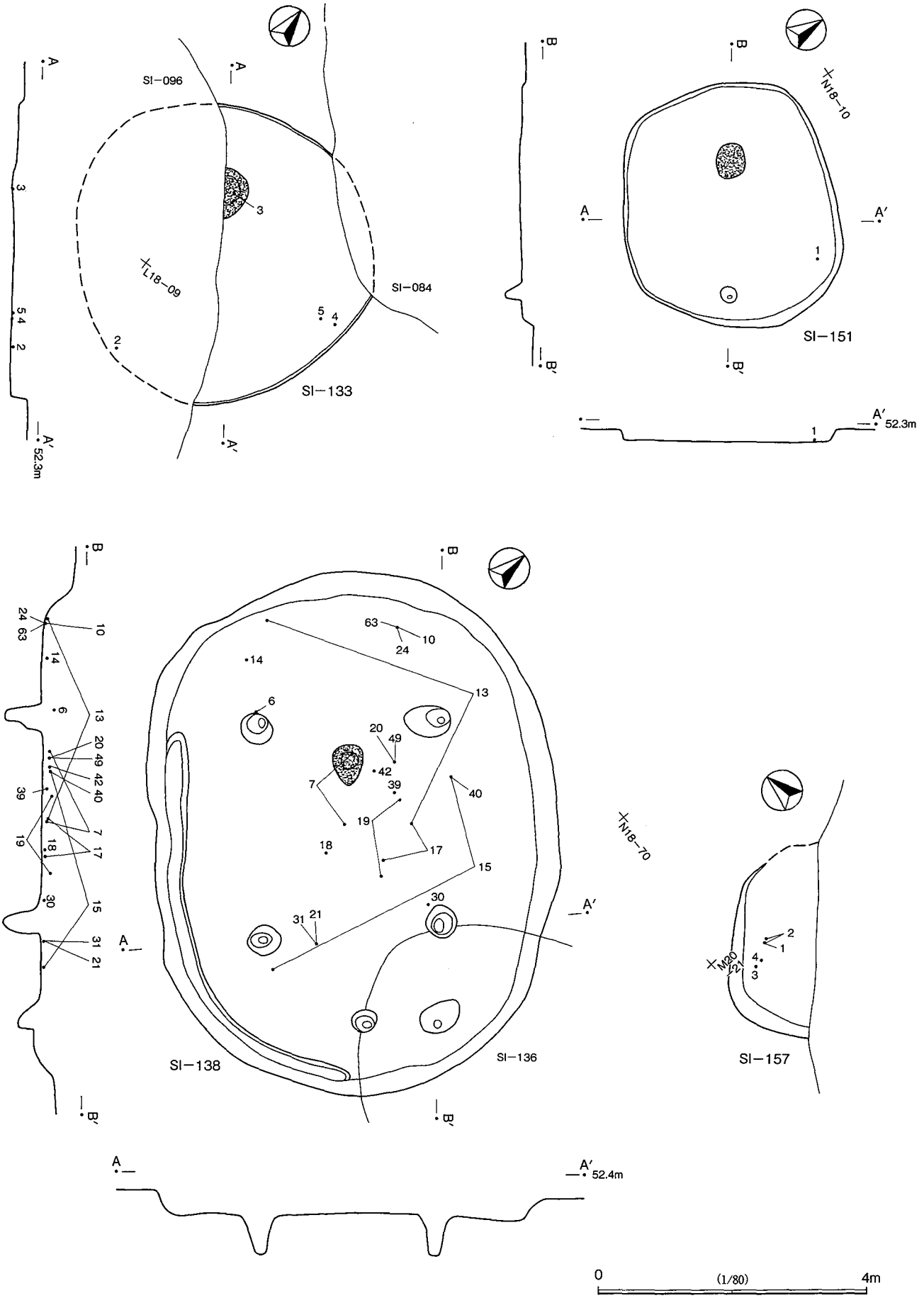
第88図　SI－084・SI－098・SI－101



第89図　SI－090・SI－100・SI－118



第90図　SI－096・SI－121



第91図　SI－133・SI－138・SI－151・SI－157

ている。炉の上を覆う状態で甕が出土している。住居跡西半分は削平されている。

SI－138（第91図、図版15）

調査区中央、M18－77付近に位置する。SI－128、SI－136に切られる。規模は長軸7.3m、短軸6.1mの小判型を呈している。主軸方向はN－52.0°－Wを指す。硬化面は炉の周囲で認められたが、範囲は特定できなかった。柱穴は対角線状に４本検出された。掘り方の大きさも４本ともほぼ揃っており、深さも60cm程度としっかりとしている。南東壁際中央に、入口に伴うと思われるピットが確認された。南東コーナーには貯蔵穴が認められた。長軸0.69m、短軸0.44mの楕円形を呈している。炉は北西側の柱穴間に位置している。長軸0.60m、短軸0.46mで、僅かな掘り込みを持ち、火床部は赤く硬化している。壁溝は南東壁中央から南西壁にかけて確認された。覆土の状況から廃絶後、埋め戻された可能性が高い。遺物は甕を中心に、比較的多量に出土している。床面または床面直上である。

SI－151（第91図、図版16）

調査区中央、N18－10付近に位置する。SI－146と重複しているが、前後関係は不明である。規模は長軸3.7m、短軸3.1mで隅丸の正方形を呈している。主軸方向はN－67.0°－Wを指す。床面は中央部がやや低くなるが、ほぼ平坦に構築されている。硬化面の範囲は捉えられなかった。壁溝、柱穴は検出されない。炉は北西側に寄って検出された。長軸0.51m、短軸0.43mを測り、掘り込みは僅かである。遺物は床面から若干出土している。

SI－157（第91図）

調査区南側、M20－21付近に位置する。SI－101に切られている。住居は北西部の一部のみの遺存で、ほとんどが調査区外である。

２．竪穴住居跡出土遺物

SI－009（第92図）

１は折り返し口縁の壷の口縁部片である。口縁下にＬＲ縄文がみられる。２・3は壷の底部片であろう。3は被熱し、器面が荒れているが、ナデ調整となろう。

SI－010（第92図、図版54）

１・２は壷の口縁部片である。いずれも折り返し口縁で、１の肩部には押捺痕がみられる。２は胎土中に砂粒を多く含み、口唇部には円形刺突文が巡る。３～８は底部片である。３は台付き甕となろう。５は壷で、外面に被熱痕が残る。９～18は壷の口縁部及び胴部片である。９・10は折り返し口縁となり、９にはLR縄文、10には撚糸文がみられる。11は附加条縄文、12は結節文である。14は無頸壷の口縁部片で、口縁部には羽状縄文、以下には結節文が施される。18はＬＲ縄文を地文とし、数条の沈線が加えられる。

SI－013（第92図）

１は壷の口頸部である。長頸で口縁部は直立する。口縁部及び口唇部に細かなＬＲ縄文が施文される。２は鉢で、口唇部に工具による押捺が巡り、胴部には補修孔が穿たれる。外面には不鮮明ながら条痕がみられ、色調は他と異なり、黒褐色を呈する。４・５は大形壷の胴部片で、同一個体と思われる。中央に結節縄文を配し、上部には格子状沈線を充填した鋸歯状文、下部には磨消縄文の山形文が施文される。無文部には赤彩が施される。

SI－016（第92・93図、図版54）

１は鉢であるが、全体に激しく摩耗しており、調整は不明である。口縁下に沈線を巡らし、現状では確

認されないが、口唇部にかけて羽状縄文が施文されていたと思われる。胎土中に粒子の大きな砂粒を多く含む。２は高杯の脚部片である。裾部が折り返され、端部には刺突列が巡る。胎土は砂質を帯びる。３は複合口縁の壷の口唇部片で、ＬＲの単節縄文部下位に刻みが施され、２個１単位のボタン状貼付文が付される。口縁部内面に赤彩がみられる。４・５は口縁部を欠く甕形の小形壷である。４は３条の沈線を巡らし、下段にＬＲの細かい羽状縄文、頸部にＬＲ縄文が施される。縄文帯下には丁寧なミガキが加えられる。５は頸部の文様は不鮮明であるが、細かいＬＲ縄文が観察される。胴部はミガキ後赤彩が施される。６は折り返し口縁の甕で、口唇部には指頭による押捺が加えられる。８は折り返し口縁の広口壷で、胴部下位に刻みが巡る段を有する。胎土中に砂粒を多く含み、全体に摩耗が激しい。施文は、口縁部がＬＲ縄文、胴部は沈線間に２段の羽状縄文である。器面の荒れにより、調整は明瞭ではないが、施文部以外はミガキが施されていたものと思われる。内外面に帯状の赤彩がみられる。９～11は口唇部に押捺が巡る甕である。いずれも黒色砂粒を多く含み、器面の摩耗が激しい。９・11は折り返し口縁で、９の下端には棒状工具による刻みが加えられる。10の頸部には５段の輪積み痕が明瞭に残る。12～19は壷あるいは甕の底部片である。19には焼成後の穿孔が加えられる。20は椀の口縁部であろうか。口唇部から口縁部外面に縄文が施され、文様帯以下及び内面が赤彩される。

SI－017（第93・94図、図版54）

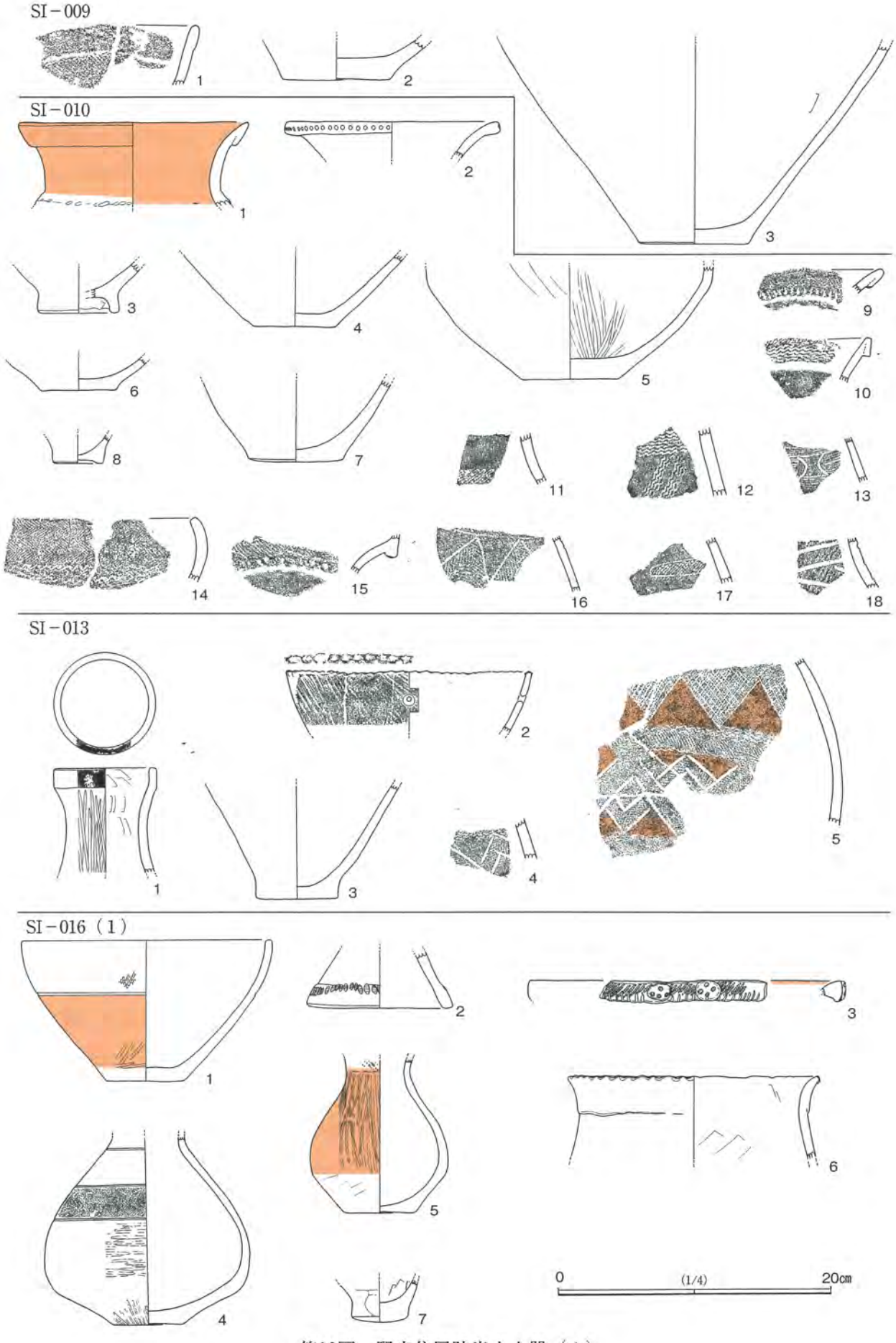
１は鉢で、文様帯以外は赤彩される。口縁部にはＬＲの羽状縄文が施文される。器面の荒れが激しいが、内外面とも調整はミガキと思われる。２～６は壷である。２は刻みを巡らす折り返し口縁で、１条１単位の棒状浮文が貼り付けられる。４は大形の壷となろう。沈線で区画された３段の羽状縄文に４単位の円形浮文が貼り付けられる。浮文上面には十字の刻みが加えられる。５・６は甕形の胴部となろう。５は口縁部の開きが少ない。胎土中に砂粒を多く含み、器面の摩耗が顕著である。６も摩耗が激しいが、羽状縄文と山形の磨消縄文で構成される。明瞭ではないが、頸部無文部に赤彩がみられる。７・８はミニチュア土器の底部片である。９～11は壷の底部片である。９は薄手の作りであるが、器面の摩耗が激しく調整不明である。10・11は大形壷となろう。12は大形壷の胴部片で、胴下位に接合痕を残すタイプである。接合部には縄文原体の押捺があり、接合部以上には赤彩がみられる。13～15は頸部に輪積み痕を数条残すタイプの甕である。13はほぼ完形で、口唇部及び輪積み痕下端部に指頭による押捺が巡る。15は小形で、口唇部の刻みは細かい。

SI－018（第94・95図、図版54）

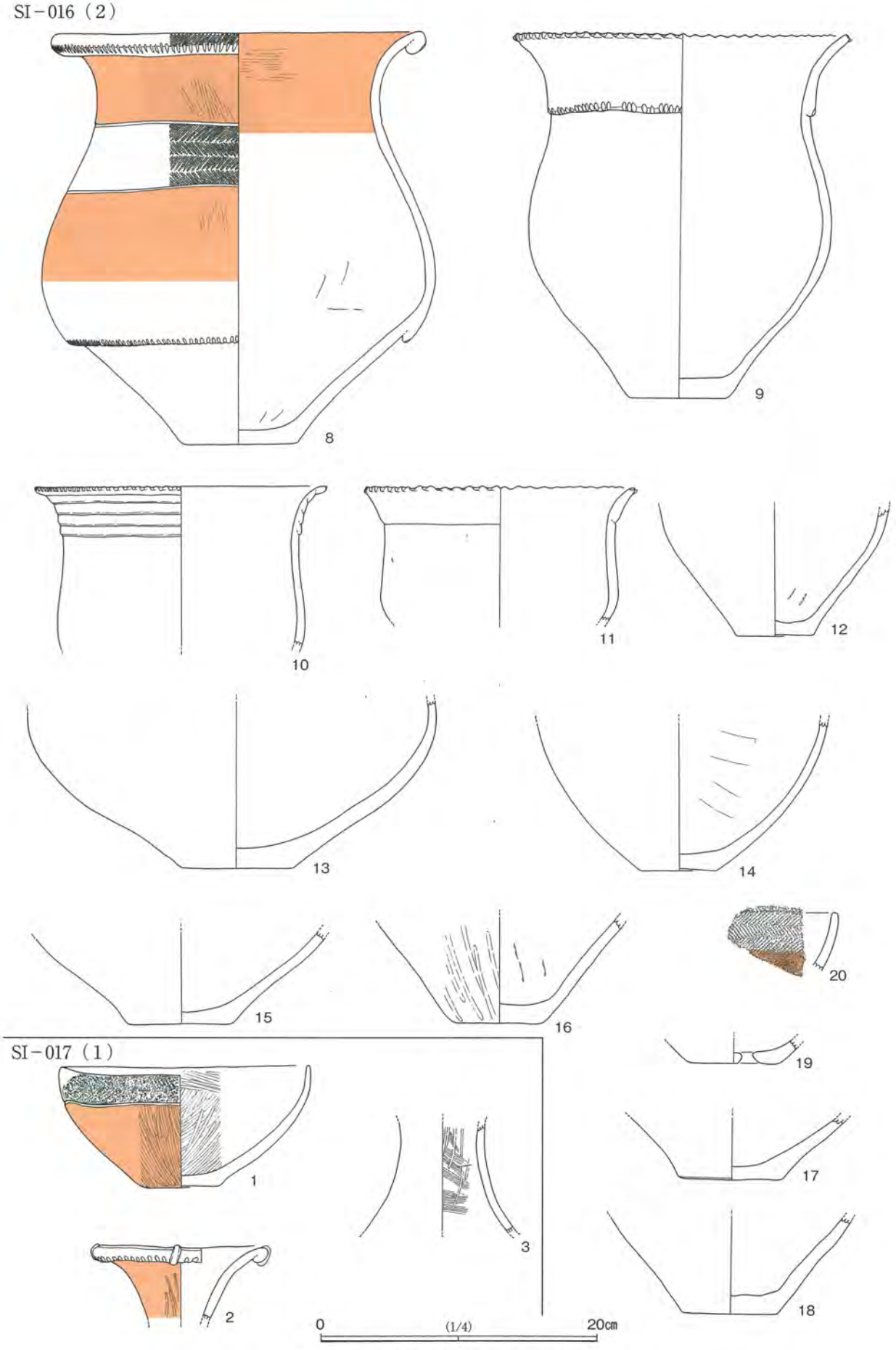
１は鉢で、文様帯以外に赤彩される。口縁部はＬＲ縄文を用いて羽状を呈し、口唇部にはＲＬ縄文が施文される。２～５は壷である。口縁部は折り返しで、下端に棒状工具による刻みが巡る。内外面とも器面の摩耗が激しく調整は不明である。３は有段口縁を呈し、内外面に貝殻腹縁による刺突列が施される。胎土は地元のものと思われるが、施文方法は東海系の手法を用い、いわゆる東海系となる壷である。４は胴部片で、文様帯以外に赤彩が加えられる。胴部の文様帯は、ＬＲとＲＬ縄文を用いて羽状としている。５は沈線で区画された山形文に縄文が充填される。６・７は輪積み痕を有するタイプの甕である。輪積み痕はナデによって部分的に消されている。口唇部には指頭による押捺が巡る。８・９は甕及び壷の底部である。10・11は鉢と思われる。いずれも羽状縄文となるが、10の縄文下には結節文が配される。

SI－020（第95図、図版54）

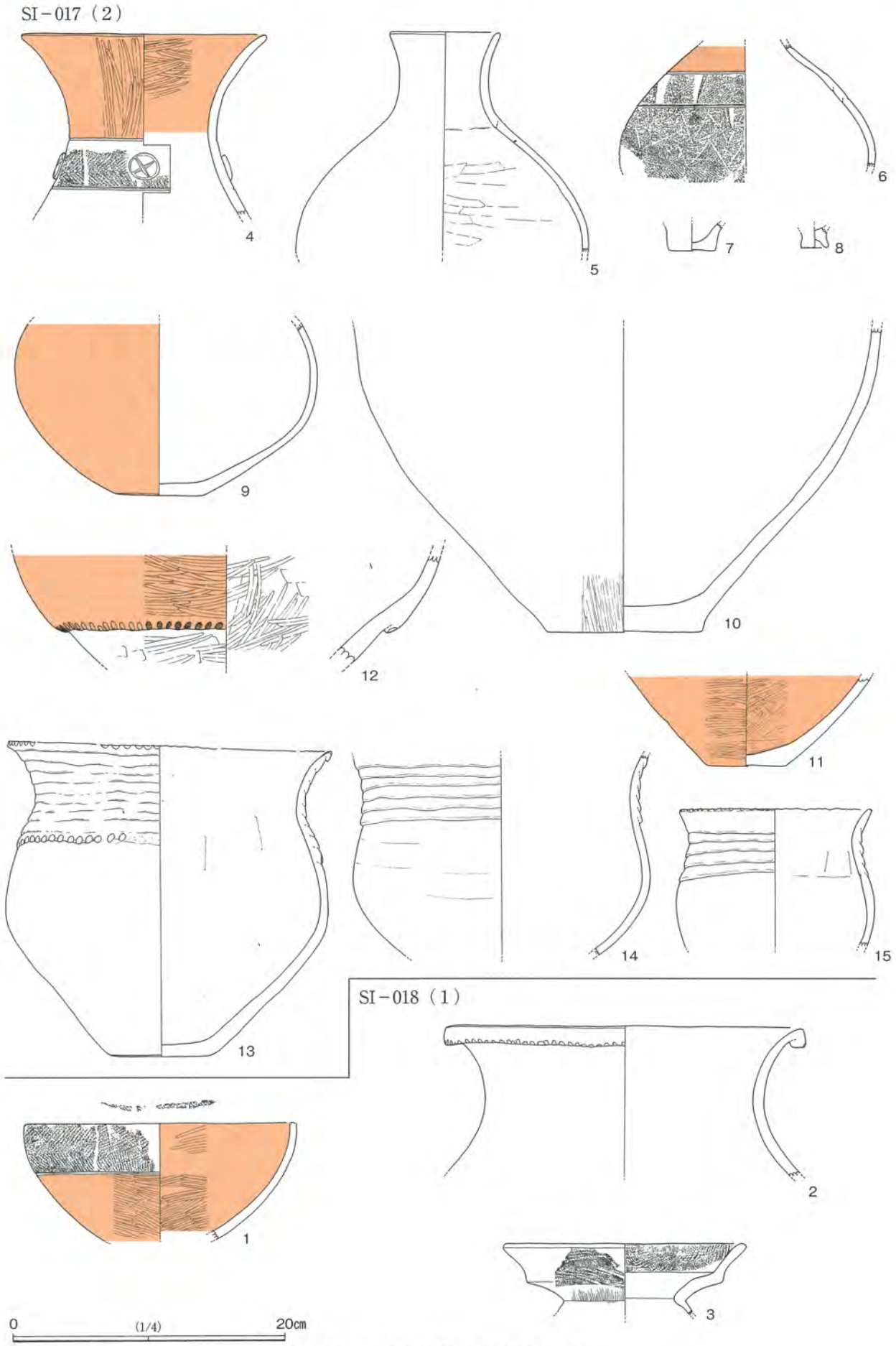
１は口縁部を欠く甕である。頸部に６段の輪積み痕を残し、全体にナデ調整される。胎土は粗く、砂粒



第92図　竪穴住居跡出土土器（1）



第93図　竪穴住居跡出土土器（2）



第94図　竪穴住居跡出土土器（3）

を多く含む。2は鉢、3は甕の口縁部である。羽状縄文を主文様とし、3は折り返し口縁となる。

SI－021（第95図）

1点のみの図示である。鉢と思われ、羽状縄文下に結節文が配される。口唇部にはＬＲ縄文が巡り、文様帯以外に赤彩される。

SI－023（第95・96図、図版54）

1・2は口頸部に多条の輪積み痕を残すタイプの甕である。1は口唇部に棒状工具による刻みを有し、全体的にナデ調整される。胎土は粗く、大砂粒を多く含む。2は口唇部を欠くが、輪積み痕部に指頭によるナデつけが施される。胎土は比較的緻密である。3は壷の底部片である。4は口径6.1cmを測る小形の長頸壷の口頸部片である。羽状縄文が全体にみられ、下端に縄文原体の押捺が巡る。5・7は鉢の口縁部片、6は複合口縁の壷の口縁部片である。いずれも羽状縄文を地文とするが、6の口縁部外面には刻みが加えられる。8～12は壷の胴部片である。8は胴部上半に刻みを施した接合痕が明瞭に残る。9・10は単節縄文を地文とし、沈線による区画が加えられる。11は結節文により文様が構成される。赤彩される資料が多い。

SI－024（第96図、図版54・55）

1は鉢で、口縁部に羽状縄文を配し、下端が1条の沈線で区画される。全体的に摩耗及び剥離が顕著で調整等は不明である。2は広口壷で、折り返し口縁となる。口唇部下端には指頭による押捺が巡り、肩部には上下を沈線で区画した3段の羽状縄文が充填される。1同様全体に摩耗が激しい。3は口縁部の開きが少ない壷の口縁部である。頸部に輪積み痕を残し、上部には不鮮明ながら多条の羽状縄文がみられる。口唇部にも単節縄文が施文されると思われる。4・5は壷の底部片で摩耗が顕著である。6は赤彩が施される鉢の口縁部片である。3段の羽状縄文が加えられる。

SI－031（第96図）

1点のみの図示であるが、頸部に多条の輪積み痕を残す甕である。外面は丁寧なナデ、内面にはミガキ調整が施される。

SI－033（第96図）

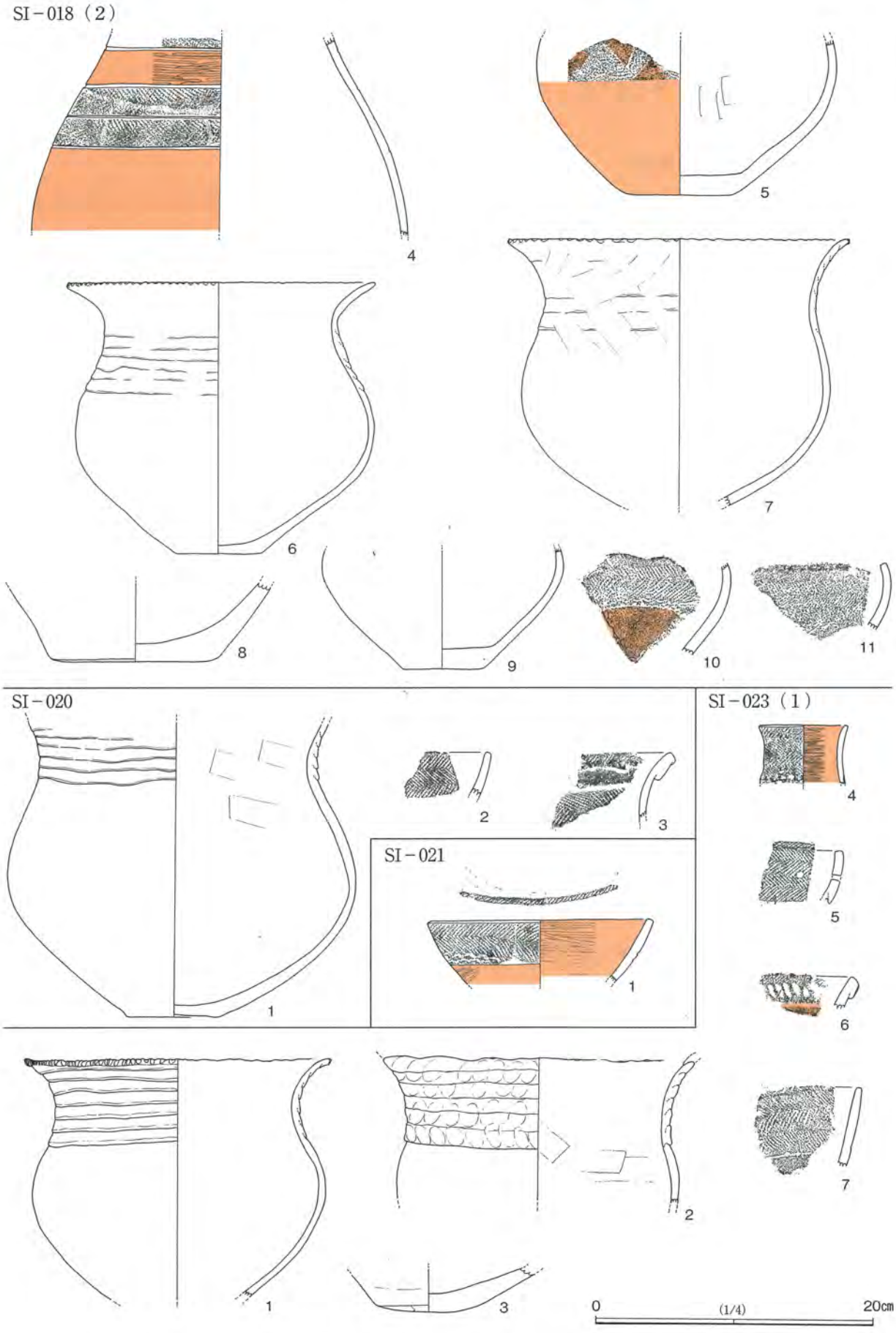
1は口径13cmほどを測る小形の無形壷で、底部を欠く。口縁下部に棒状工具による刻みを巡らし、不鮮明ながら内面に赤彩が観察される。2は壷の底部であろう。

SI－036（第96図、図版55）

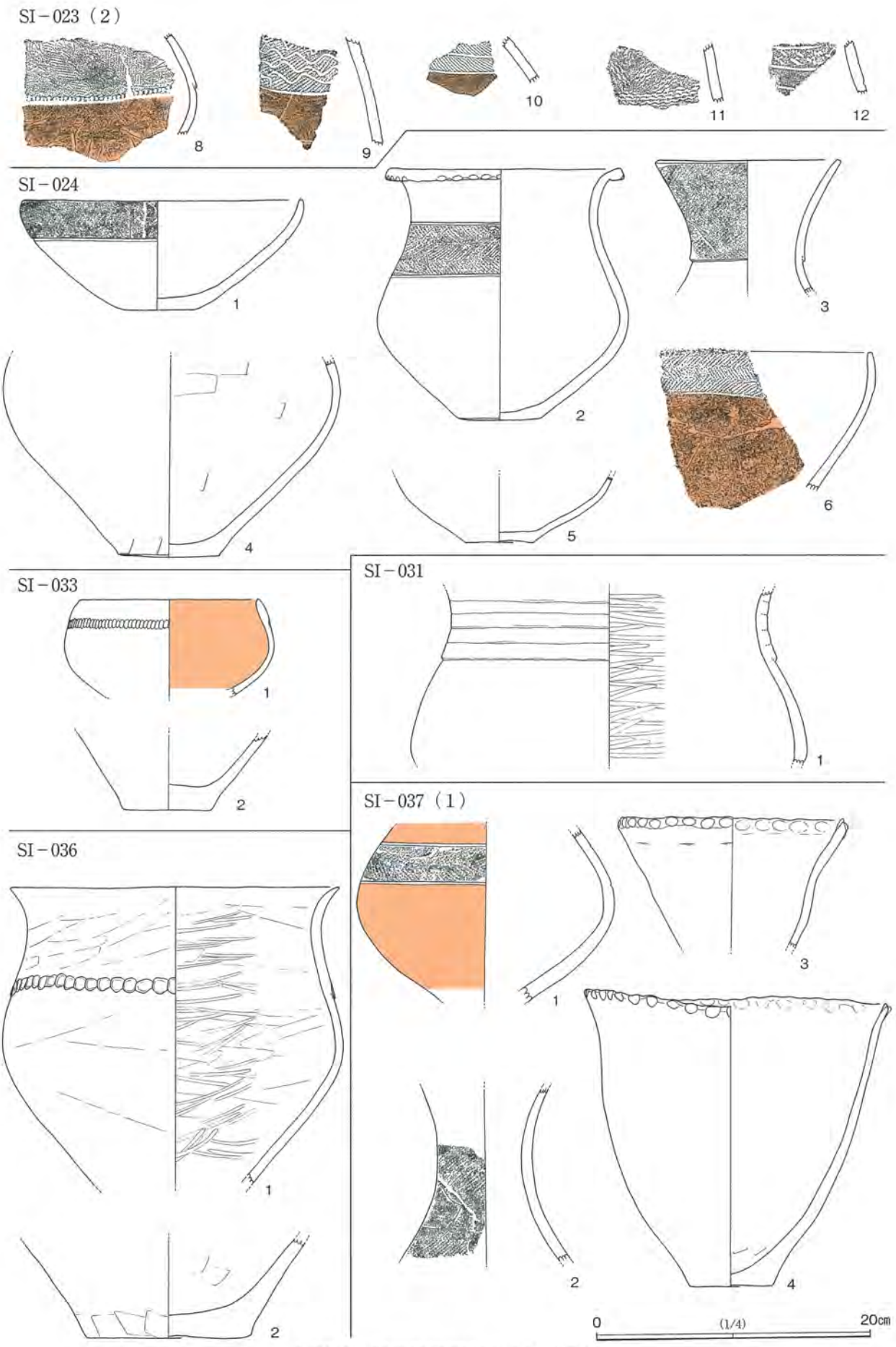
1は肩部に押捺痕を巡らす甕で、底部を欠く。口唇部の摩耗や剥離が激しく詳細は不明であるが、波状を呈するものと思われる。内面にはナデ後粗いミガキが加えられる。2は大形壷の底部片であろう。

SI－037（第96～98図、図版55）

多くの土器が出土している。1・2はタイプの異なる壷で、1は羽状縄文、2は附加条縄文がみられる。1の縄文帯以外に赤彩が加えられる。3～12は甕である。3～5は同様の形態で、口唇部に指頭による押捺が施され、小波状を呈する。3・4は摩耗が激しく、外面調整は不明である。5は底部から直線的に大きく開き、口唇部の作りは粗い。内外面ともナデ調整が施され、外面には煤の付着がみられる。6は全体に丁寧なナデ調整が施され、口縁部の上下及び胴部に棒状工具による押捺が加えられる。胎土中にスコリア及び小石粒が多く含まれる。7は推定口径39.8cmを測る大形の甕である。口唇部に指頭による押捺、胴部内外面にハケ調整後弱いナデが加えられる。8～12は長胴タイプとなり、底部は突出気味となる。10・

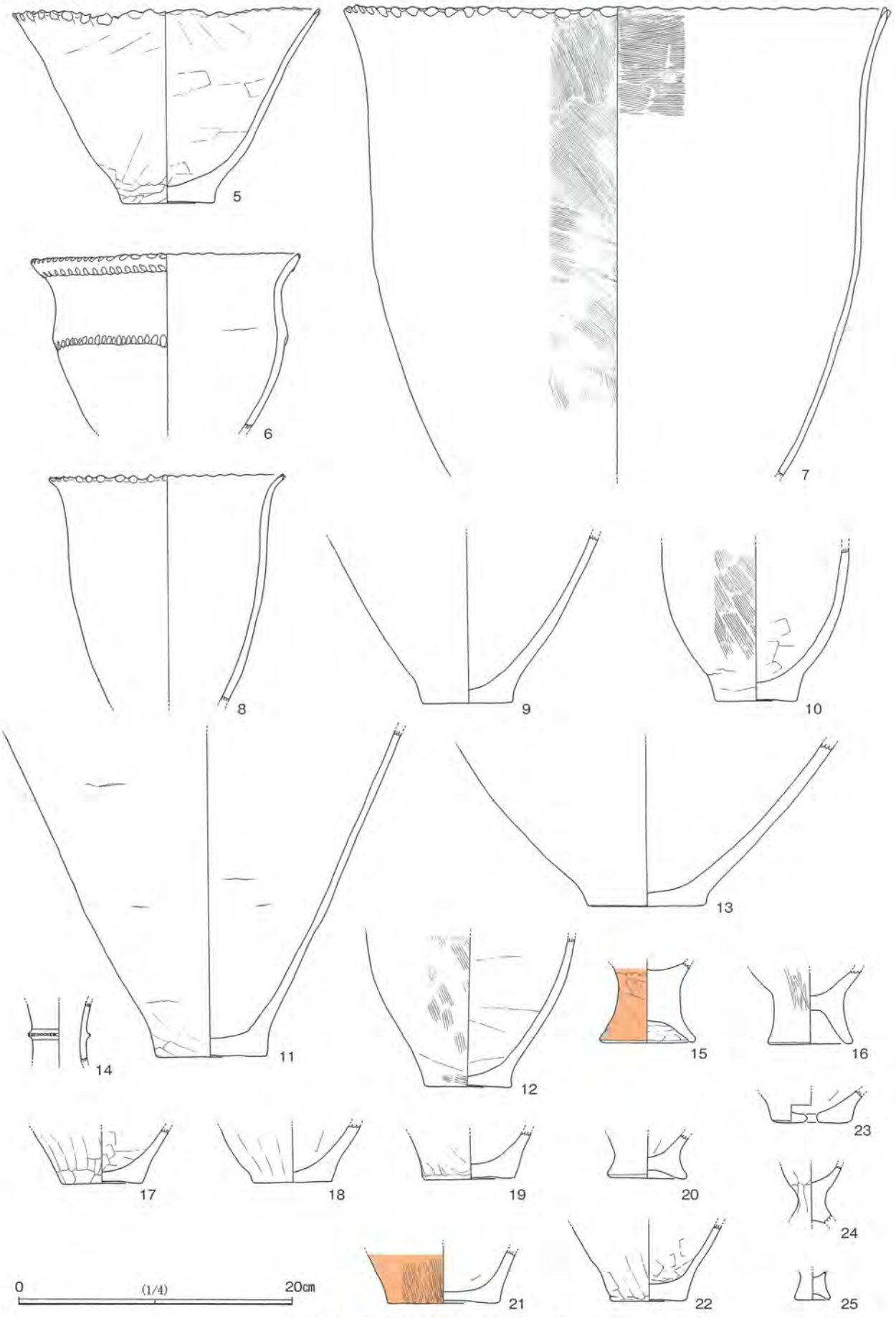


第95図　竪穴住居跡出土土器（4）



第96図　竪穴住居跡出土土器（5）

SI－037（2）



第97図　竪穴住居跡出土土器（6）

12の外面にはハケ目痕が観察される。13は壷の底部であろう。14は小形の長頸壷の頸部片である。丁寧なナデ調整が施され、刻みを加えた隆帯が１条巡っている。15・16はミニチュア土器の台部であろう。15の外面には赤彩がみられる。23は底部に焼成後の穿孔があり、甑に転用したものか。24・25は手捏ね土器である。26・27は壷の口縁部片である。刺突を充填した円形浮文が貼り付けられる。28は羽状縄文と赤彩を施した無文部で構成される。

SI－039（第98図）

１は広口の甕で、口唇部に棒状工具による刻みが加えられる。肩部には３条の輪積み痕を残す。器面の荒れが激しく、調整は不明である。２・３は壷の底部片で、２にはミガキがみられる。

SI－041（第98図）

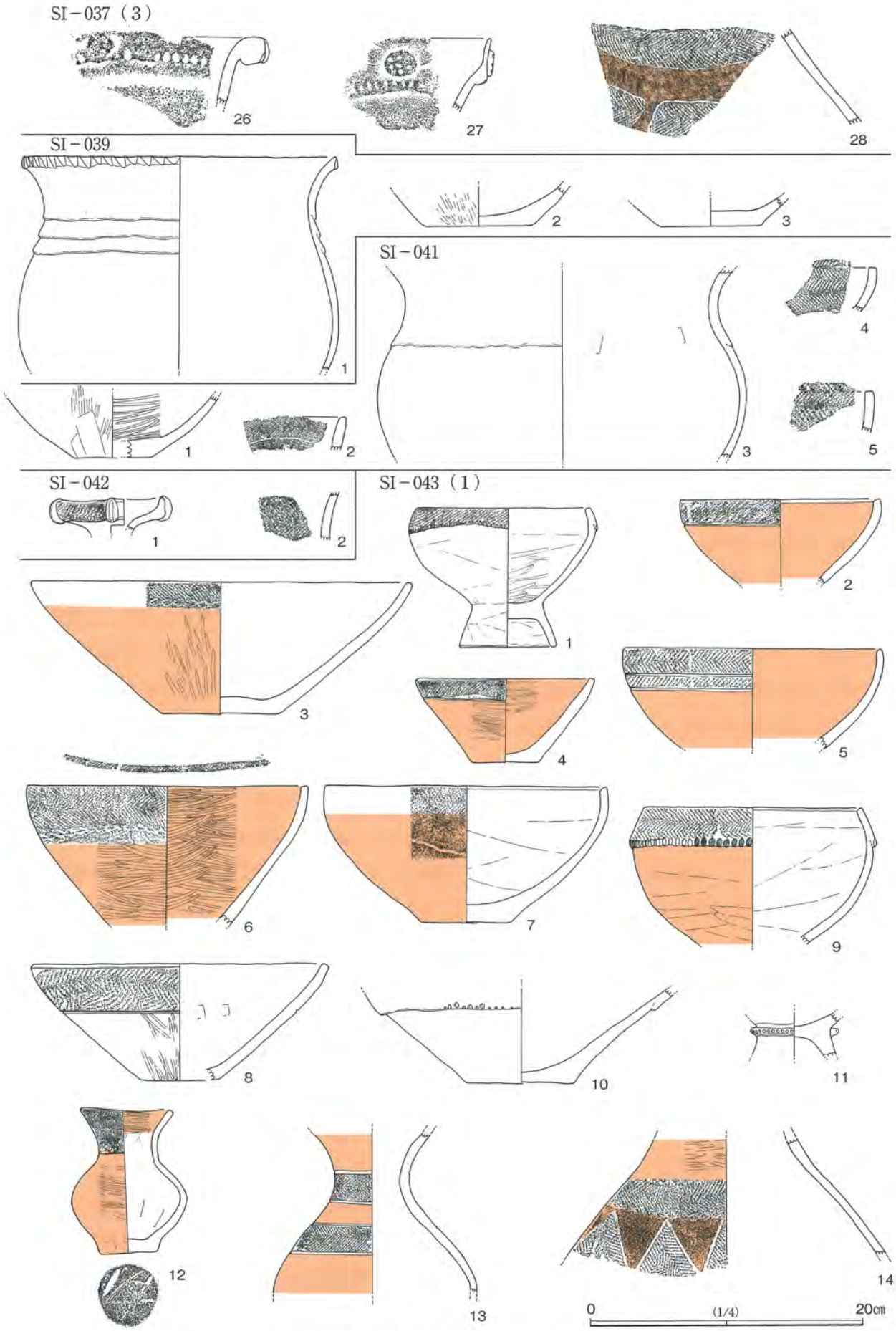
１は壷の底部、３は甕の頸部から胴部片である。３の肩部には輪積み痕が１条残り、内外面ともナデ調整される。２・４・５は鉢あるいは壷の口縁部である。羽状縄文が観察される。

SI－042（第98図）

図示できた土器は少ない。１は小形壷の口縁部であろう。ＬＲの単節縄文を地文とし、１条の棒状浮文が４単位貼り付けられる。２は羽状縄文を施した壷の胴部片である。

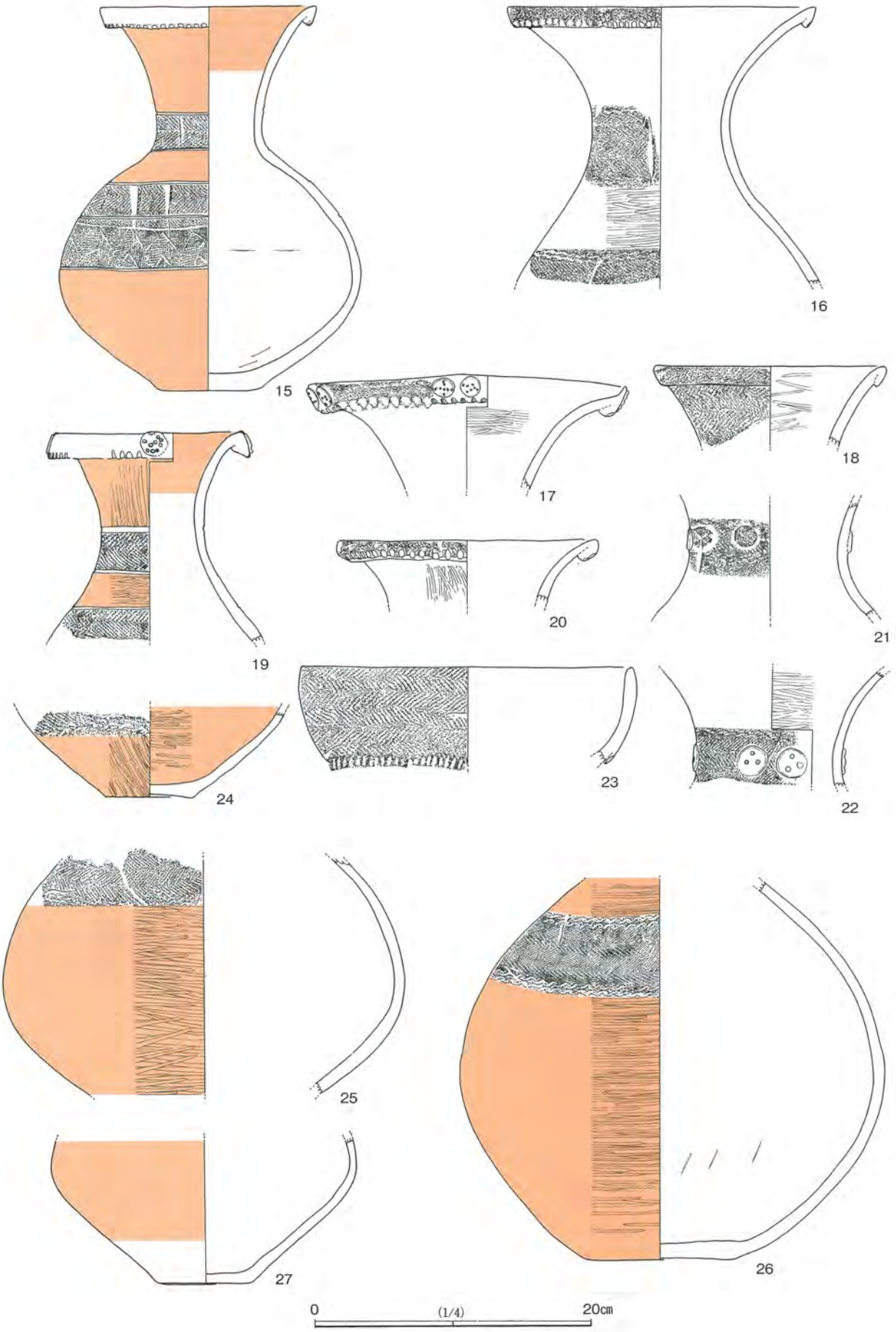
SI－043（第98～102図、図版55・56）

本遺跡の中では最も多くの土器が出土した住居である。鉢・壷類の多くが赤彩される。１はほぼ完形の高杯である。折り返し口縁となり、ＬＲの単節縄文が施文される。文様帯下には棒状工具による刻みが巡る。全体にナデ調整され、内面はミガキが加えられる。２も高杯であろう。文様帯下には沈線が施され、内外面に赤彩が認められる。３～８は鉢類と思われる。３・４は体部が直線的に開くタイプの鉢である。３は推定口径27.6cmを測る大形の鉢で、外面に赤彩が施される。口縁部はＬＲの単節縄文下に結節文がみられる。４は推定口径12.6cmを測る小形品である。施文方法や赤彩は２と同様である。８も体部が直線的に開き、口縁部に３段の羽状縄文が施される。５・７・９は体部が球形を帯びるタイプで、口縁部文様は羽状縄文となる。５には文様帯に２条の沈線が加えられ、９の口縁下には縄文原体の押捺が巡る。６は胴下半が窄まる形状で、口縁部は羽状縄文と結節文、口唇部にはＬＲの単節縄文が施される。10は胴下半に刻みを施した接合痕を残す大形壷の底部片である。11は台付きの鉢であろうか。12～41は壷である。12は口径6.7cm、器高10.8cmを測る小形壷で、胴部外面及び口縁部内面に赤彩がみられる。口頸部の文様帯は非常に細かな目の単節縄文を羽状にし、下端に細沈線を１条巡らす。底部にみられる痕跡は、木葉痕状ではなく、ヘラ状工具により意図的に刻まれたものと思われる。13は頸部及び肩部に沈線で区画された羽状縄文を配し、14は三角形文と結節文によって区画された羽状縄文で構成される。15はほぼ完形となり、括れ部及び肩部に沈線で区画された羽状縄文が施され、下位の文様帯は、磨消を伴う鋸歯状文となる。口縁部は折り返しで、下端に棒状工具による刻みが巡る。16～20も折り返し口縁となり、18以外には刻みが認められる。主文様は羽状縄文で、16は結節文、19は沈線で区画される。17及び19には刺突を加えた円形浮文が貼り付けられる。21・22は頸部片で、結節文と羽状縄文で文様帯を構成し、円形浮文が貼り付けられる。浮文頂部の刻みは、21が十字、22が刺突となる。23は口縁部が内椀気味に直立し、３段の羽状縄文と縄文原体の押捺が巡る。24～41は壷の胴部及び底部片である。縄文帯は結節縄文によって区画された内部を羽状縄文で充填するものが多い。31は頸部に輪積み痕を残し、全体にナデ調整される。器面の荒れが激しく、胎土中に砂粒を多く含む。42・43はミニチュアあるいは手捏ね土器となろう。44～57は甕で、いず

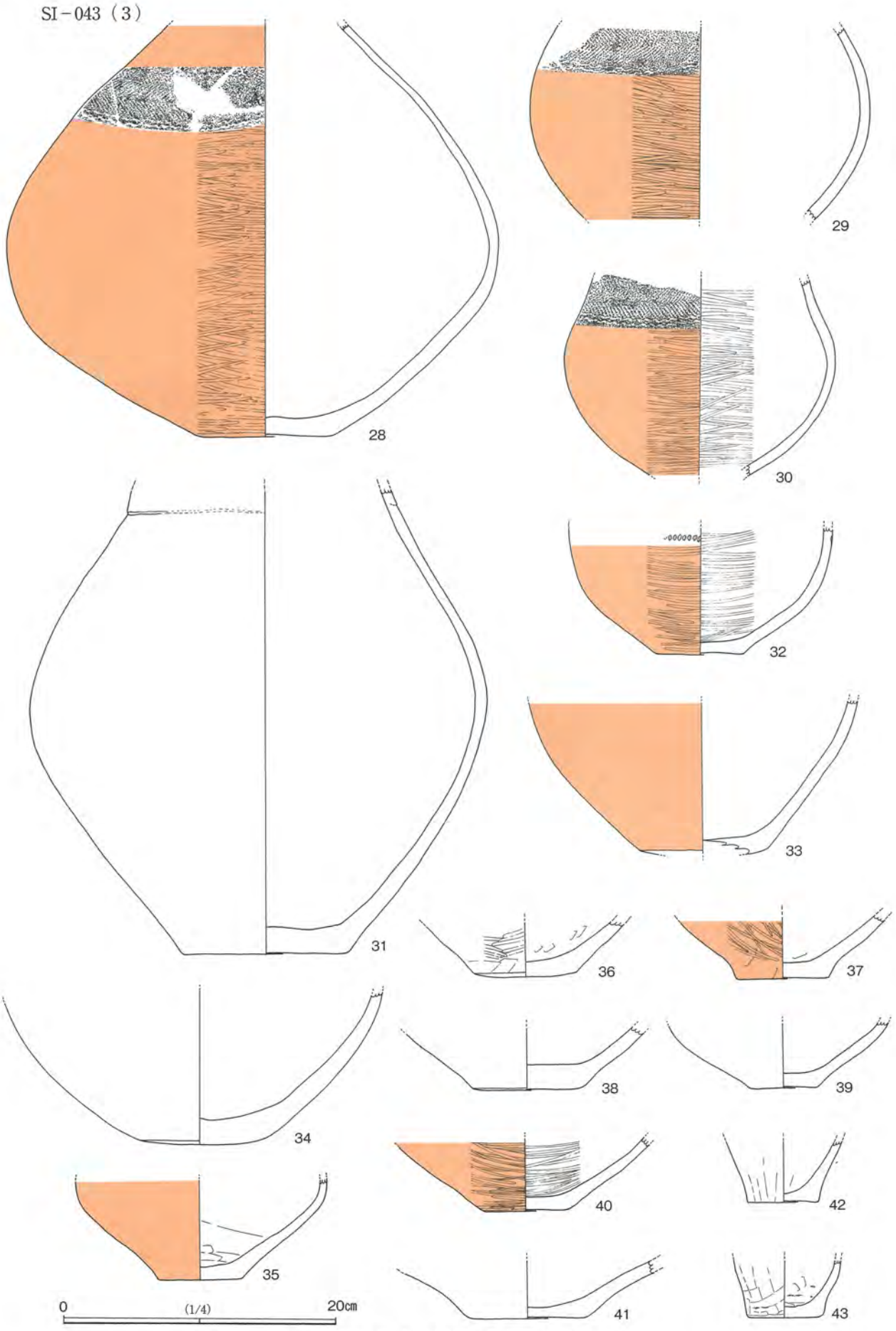


第98図　竪穴住居跡出土土器（7）

SI－043（2）

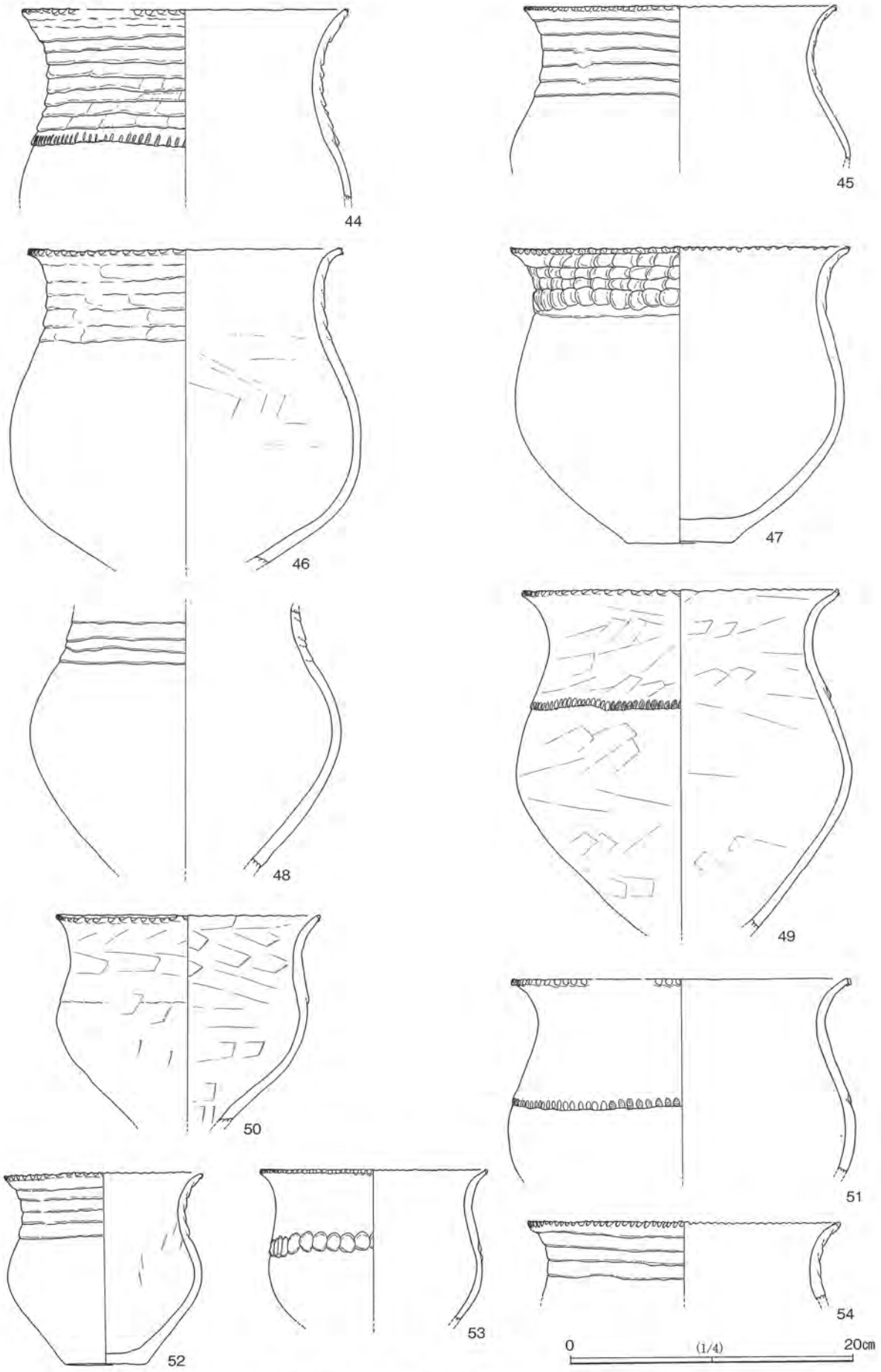


第99図　竪穴住居跡出土土器（8）

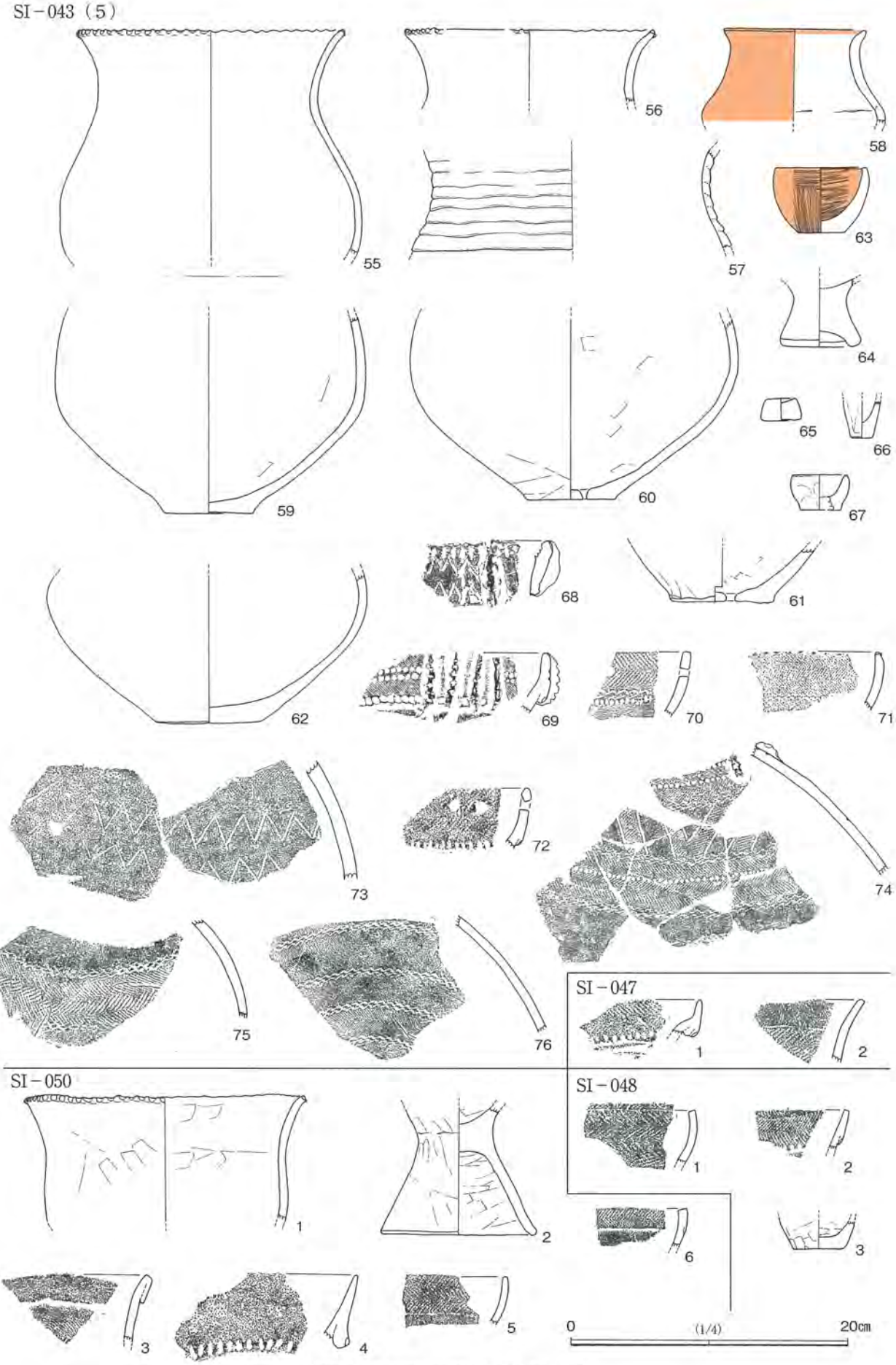


第100図　竪穴住居跡出土土器（9）

SI－043（4）



第101図　竪穴住居跡出土土器（10）



第102図　竪穴住居跡出土土器（11）

れも口唇部に刻みを有する。44～48・52・54・57は、口縁部から頸部にかけて数条の輪積み痕を残すタイプの甕である。44は輪積み痕部にナデツケがみられ、下端に縄文原体の押捺が巡る。46は胴部最大径を下半に置き、輪積み痕は部分的にナデが加えられる。47は推定口径24.0cmを測る。全体に丁寧なナデ調整が施され、輪積み部には指頭による押さえの痕跡が明瞭に残る。52は推定口径13.8cmと小形になり、胴部最大径がほぼ中位に位置する。49・51・53は口唇部と肩部に刻みを巡らすタイプで、輪積み痕はない。49・51は口唇部が指頭、肩部が縄文原体による押捺で施文され、最大径を胴部中位に置く。49の外面にはヘラケズリ後丁寧なナデが加えられる。53は小形で、肩部に指頭による押捺痕が巡る。器面が荒れているため調整等は不明である。55は、棒状工具による口唇部の刻み以外の文様は施されない。58は口縁部内面から外面全体に赤彩が施される。59～62は壷の底部片で、60・61には焼成後の小さな穿孔がみられる。63・64はミニチュア土器である。63は全体に丁寧な作りで、内外面ミガキ調整され、赤彩が加えられる。65～67は手捏ね土器である。68～72は壷及び鉢類の口縁部片である。68・69には２及び４単位の棒状浮文が貼り付けられ、68には鋸歯状の沈線、69には２段の刺突列が巡る。73～76は壷の胴部片である。73は羽状縄文と鋸歯状の沈線、74は単節縄文と磨消縄文、結節文、刺突列を組み合わせた文様構成をとる。76は羽状縄文を数条の結節文で区画している。

SI－047（第102図）

図示できた点数は少なく、１は複合口縁の壷Ｂは壷の口縁部片である。１は羽状縄文下に刻みを巡らし、２には附加条縄文が確認される。

SI－048（第102図、図版56）

１は鉢の口縁部であろうか。多段の羽状縄文が口縁部に施文され、口唇部にはＬＲの単節縄文がみられる。３は口縁部を欠く手捏ね土器である。

SI－050（第102図、図版56）

１は口縁部に最大径を有する甕である。口唇部に指頭による刻みが加えられ、内外面ともナデ調整が施される。２は台付き甕の台部であろうか。３～６は壷類の口縁部片である。３・４は折り返し口縁で、３の肩部には附加条縄文がみられる。４～６は羽状縄文を地文とする。

SI－054（第103図、図版56）

１は口径12.1cm、器高5.3cmを測る小形の鉢である。内外面とも丁寧なミガキ調整が施され、赤彩が加えられる。２は小形の壷で、口縁部を欠く。器面の荒れのため調整は不明である。３も調整不明であるが、肩部に輪積み痕を１条残す壷であろう。

SI－055（第103図）

１・２は甕の口縁部で、指頭による刻みを口唇部に施す。１は口縁部から肩部にかけて６段の輪積み痕を残す。摩耗のため調整は不明で、大粒の砂粒を多く含む。２は内面に折り返した特異な口縁部を呈する。３・４は壷の底部片である。５・６は壷類の口縁部で、羽状縄文が確認される。

SI－060（第103図）

１は長頸となる壷の頸部片である。文様帯は、羽状縄文と下端の結節文で構成される。内外面ともミガキ調整で赤彩が認められる。８は単節縄文を充填した鋸歯状文を施す壷の胴部片である。３～６は壷の底部片である。

SI－063（第103図）

1は口縁部に最大径を有する甕で、3段の輪積み痕が残る。口唇部には工具による刺突が巡る。2は特異な形状を呈する壷で、口唇部及び底部を欠く。口縁部にはＲＬの単節縄文を施し、下端に刺突状の刻みを巡らす。内外面ともミガキ調整が加えられ、外面無文部には赤彩がみられる。3は内外面とも赤彩された壷の底部片である。4は折り返し口縁の壷で、肩部に、結節文と刺突列間に羽状縄文を配している。5は無文部に赤彩を施した壷の胴部片である。

SI－068（第103図、図版57）

1は口径22.0cm、器高12.1cmを測る大形の鉢である。内外面とも器面の摩耗が激しく、調整等は不明である。胎土中に赤色スコリアを含む。2・3は台付き甕で、口唇部に指頭による刻みが巡る。いずれもヘラケズリ後ナデが加えられる。3は口径24.8cm、器高25.3cmを測り、口唇部に最大径を有する。肩部には接合痕が1条残る。台部は2次的焼成により器面の荒廃が激しい。

SI－072（第104図）

1・2は甕である。1は胴部に最大径を有し、口唇部に刻みを巡らす。不鮮明ながら、肩部には輪積み痕が1条認められる。2は頸部に数段の輪積み痕を残すタイプの甕である。器面摩耗のため調整等は不明である。3は大形の壷の底部片である。

SI－073（第104図）

1は、胴部下位に縄文原体の押捺を巡らした明瞭な接合痕を有する大形壷の胴部片である。3は壷の口縁部、4は胴部片である。3には羽状縄文と刻み、4にはＳ字状結節文がみられる。

SI－084（第104図）

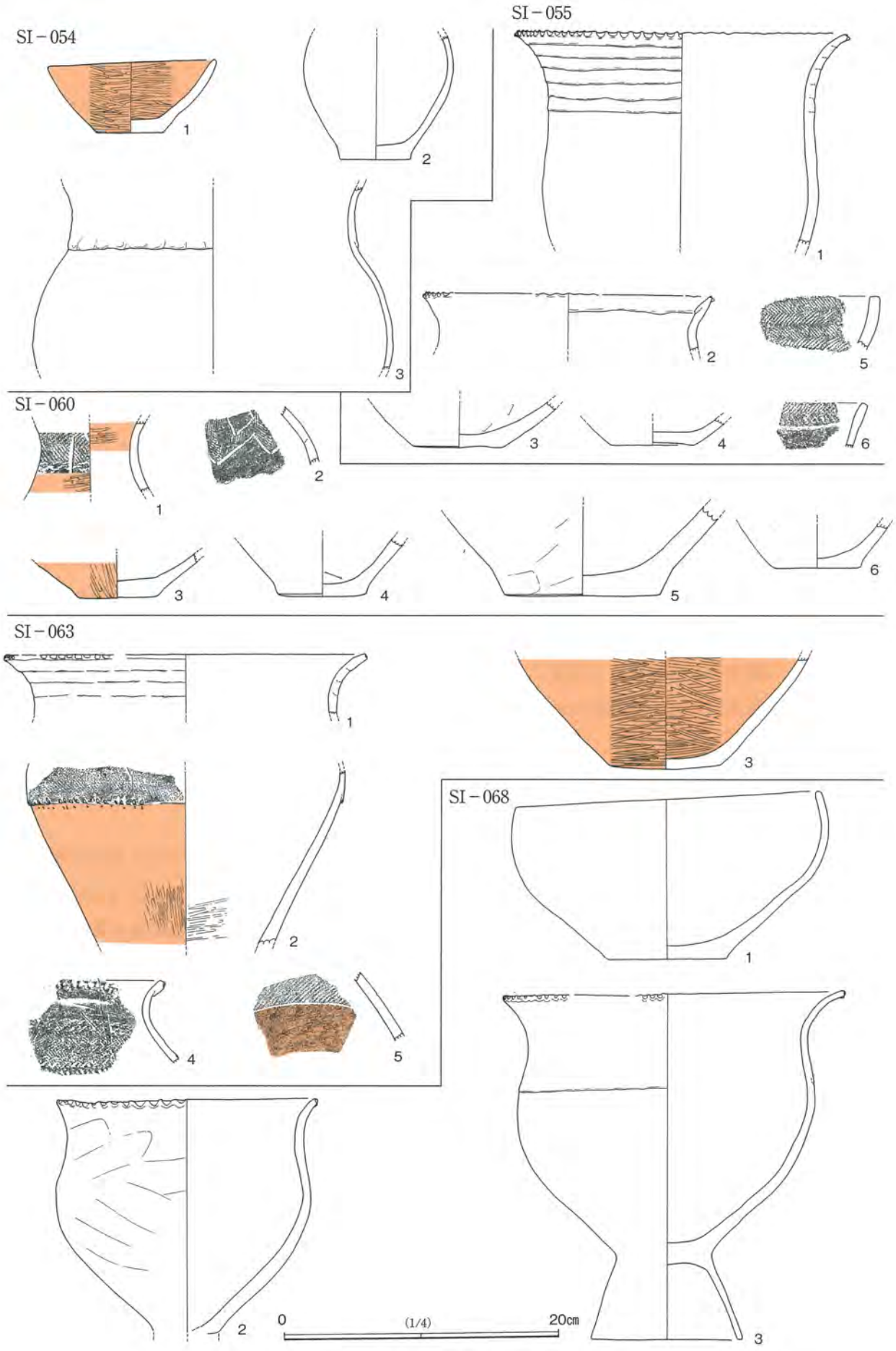
1・2は壷片である。1はＴ字状に口縁部が貼り付けられ、羽状縄文と刻みが施される。2は、肩部に細かな附加条縄文が施文される。3は壷の底部片であろう。

SI－089（第104図）

1は小形の台付き甕であろう。全体にナデ調整が施される。2は不規則な沈線がみられ、縄文晩期の可能性もある。3は沈線と無節縄文が認められる。

SI－090（第104・105図、図版57）

1は低い高台が付く小形の鉢で、口径10.0cm、器高4.2cmを測る。内外面ともナデ調整・赤彩が施され、体部中央に沈線が巡る。2は高杯の脚部片である。裾部が折り返され、端部に縄文原体の押捺が巡る。上部には透し孔が部分的に確認され、その形状から三角形状を呈すると思われる。3は口径23.4cmを測る大形の鉢で、口縁部は下部を沈線で区画した羽状縄文が施される。口唇部にはＬＲの単節縄文がみられる。赤彩は内面に認められるが、外面は摩耗が激しく不明である。4は口縁部を欠く壷で、胴下位に明瞭な段を有する折り返し部が残り、頂部にヘラ状工具による刻みが認められる。頸部には3段の羽状縄文が施文され、外面上半部に赤彩が加えられる。5は複合口縁の壷の口縁部、5は小形の無頸壷となろう。7～10は坩状を呈する壷の口縁部及び底部片である。11は口縁部から肩部にかけて8段の輪積み痕を残すタイプの甕で、口唇部に最大径を有する。口唇部には指頭による刻みがみられる。12はほぼ完形で、口径21.6cm、器高23.3cmを測る。11同様口唇部に指頭による刻みを巡らし、肩部に明瞭な接合痕を残す。内外面とも器面の摩耗が激しく、調整等は不明である。13～18は壷あるいは甕の底部である。19は手捏ね土器で、指によるナデの痕跡がみられる。20～24は鉢あるいは壷類の口縁部片である。20・21・24は羽状縄文、23はＬ



第103図　竪穴住居跡出土土器（12）

Rの単節縄文、22は折り返し口縁で刻みを有する。25～27は壷の胴部片で、25・26は羽状縄文、27は附加条縄文が確認される。

SI－094（第105図）

図示できた資料は底部片２点のみである。２は手捏ね土器であろう。

SI－095（第105図）

１は壷で、摩耗のため調整は不明である。口縁部内面に不鮮明ながら赤彩が残る。２は小形壷の底部片であろうか。３は口縁下に沈線を巡らし、以下にＳ字状結節文が数条施文される。

SI－096（第105図）

１は鉢で、内外面とも丁寧なミガキが施される。口縁部にはやや不整な羽状縄文がみられ、文様帯以外の器面が赤彩される。２・３は壷の頸部片である。２は小形となり、上下の沈線で区画された内部に羽状縄文が充填される。３は器面が荒れているため、文様や調整は不明である。５・６は鉢の口縁部であろうか。５は附加条縄文、６は羽状縄文がみられる。７は壷の胴部片で、附加条縄文を地文とし、菱形文を配している。８は頸部片で、ＲＬの単節縄文に刺突を加えた円形浮文を貼り付けている。

SI－098（第105図、図版57）

１は推定口径20.9cmを測る鉢となろう。口唇部に指頭による押捺が巡り、口縁部には結節文を中央に配した羽状縄文が施文される。文様帯下には縄文原体の押捺が加えられる。２は口径13.9cmを測る高杯であろう。口縁部には、下端に結節文を配した羽状縄文が施文され、杯部下端に刻みを加えた隆帯が巡る。３は肩部に僅かな接合痕がみられる大形壷で、胴下位に最大径を有する。器面の摩耗のため調整等は不明である。４はほぼ完形の甕で、口径18.4cm、器高17.6cmを測る。口唇部に刻みを有し、肩部にかけて６段の輪積み痕が明瞭に残る。底部には、中央からはずれた位置に焼成後の小孔が穿たれている。小孔に接して穿孔途中の凹みもみられる。５は手捏ね土器である。

SI－100（第105・106図、図版57）

３は壷の口縁部、４は肩部である。３は折り返し口縁で、羽状縄文下に刻みが施される。頸部下端には、沈線と刻みで区画された内部に３段の羽状縄文が充填される。内外面に赤彩が認められる。４の文様帯は、ＬＲの単節縄文下に３段の結節文を配して構成される。外面調整はミガキ、内面には輪積み痕が僅かに認められる。５・６は壷の底部片である。７は複合口縁、８は折り返し口縁の壷の口縁部片で、円形浮文が貼り付けられる。７は大形で、頂部に縄文を充填した十字文が施され、８には刺突が加えられる。９は壷の胴部で、縄文帯と無文部が確認される。無文部には赤彩が施される。

SI－101（第106図）

１は複合口縁の壷片で、刺突を施した棒状浮文が２本１単位で口縁部に貼り付けられる。２～４は壷あるいは手捏ね土器の底部であろう。

SI－103（第106図）

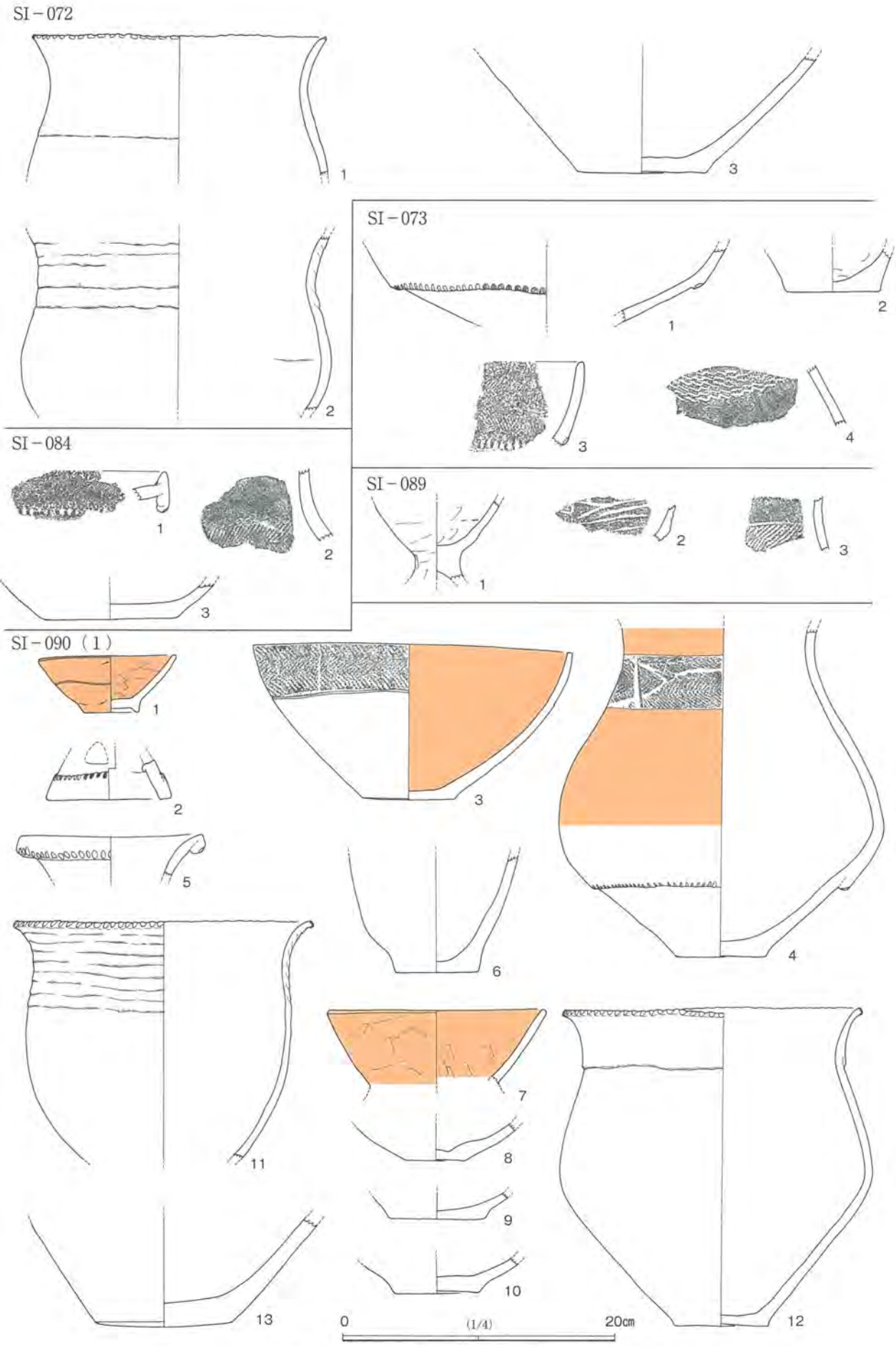
壷の胴部片１点のみ図示できた。羽状縄文下に沈線がみられる。

SI－104（第106図）

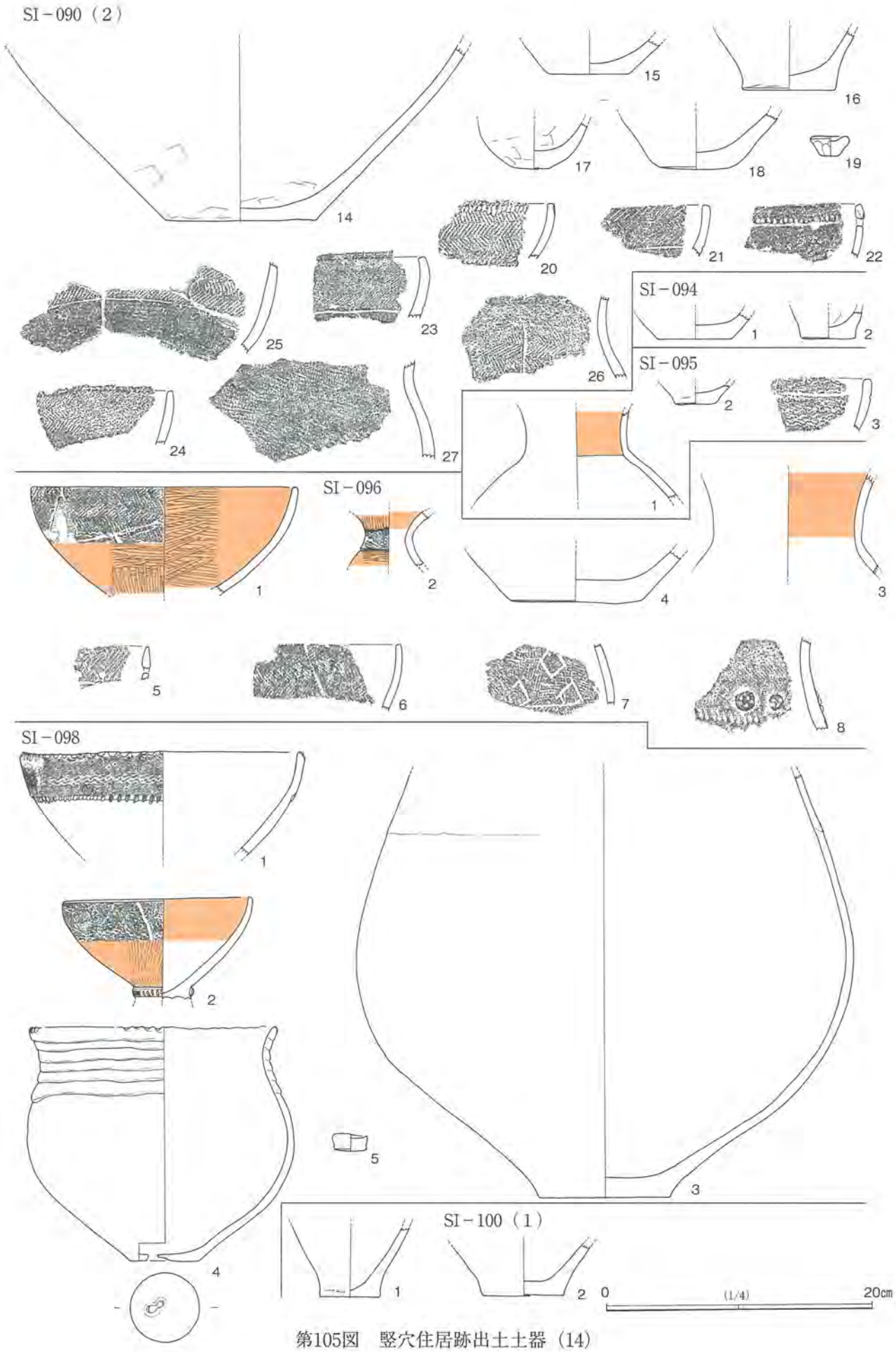
底部片のみ図示できた。１は壷、２・３は甕の底部であろう。

SI－105（第106図）

１は無形壷で底部を欠く。口縁部にはＲＬの単節縄文が施文され、下端に棒状工具による押捺が巡る。



第104図　竪穴住居跡出土土器（13）



第105図　竪穴住居跡出土土器（14）

口縁下に穿孔が１ヵ所みられ、内面に赤彩が施される。内面調整はミガキである。

SI－109（第106図）

壷の底部片２点のみの図示である。２は器面の荒れのため調整は不明であるが、接合痕が内外面ともに部分的にみられる。

SI－110（第106図）

壷の底部片で、摩耗により調整は不明である。

SI－111（第106図）

１は大形の壷の底部片、２は羽状縄文と沈線の組み合わせがみられる壷の胴部片である。

SI－113（第106図、図版57）

２は、底部に６ヵ所のスリットがはいる甕の底部である。３は鉢の口縁部であろうか。羽状縄文下に沈線が加えられる。

SI－116（第106図）

壷の底部片１点のみ図示できた。

SI－118（第106図、図版57）

１は口径19.4cm、器高11.8cmを測るほぼ完形の鉢である。底部はやや突出し、口唇部が肥厚して平坦になる特異な形状を呈する。口縁部外面には羽状縄文が施され、内面全体にミガキ調整が加えられる。赤彩は外面口唇部から内面全体にみられる。２・３は壷の口頸部である。２は、口縁部に４単位の棒状浮文が貼り付けられるタイプで、縄文は施文されない。器面の摩耗が激しいが、頸部内外面ともミガキが施され、内面には接合痕が確認される。３は口縁部が内側に折り返され、口唇部にＬＲの単節縄文を施す。４は壷の底部片で、４ヵ所のスリットが切り込まれるタイプである。内外面ともミガキ調整が施される。５は扁平な胴部の壷である。

SI－119（第106図）

図示できた遺物は１点のみで、壷の底部片である。

SI－121（第106・107図）

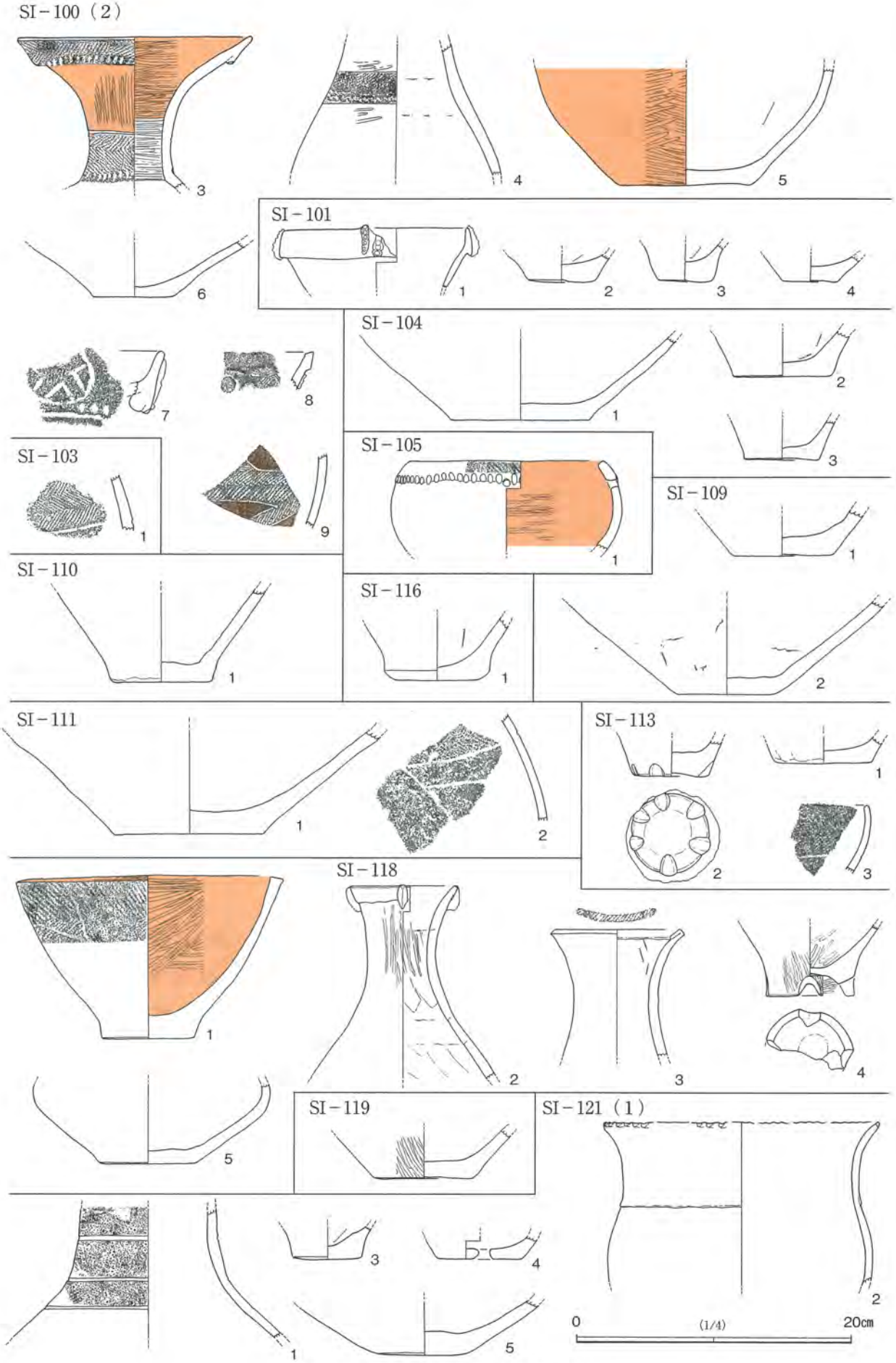
１は壷頸部から肩部にかけてで、器面が荒れているため明確ではないが、沈線に区画された最上部がＲＬ、中段がＬＲの単節縄文で、下部は羽状縄文となる。２は波状口縁の甕で、肩部に輪積み痕が１条残る。３～５は壷の底部片で、４には焼成後の穿孔がみられる。６は口縁部及び底部を欠く甕で、内外面とも丁寧なナデが施される。肩部に残る輪積み痕には棒状工具による刻みが巡る。７は壷の下半部で、赤彩が観察される。８はＬＲの単節縄文が口縁部に施される鉢の口縁部であろう。文様帯下に赤彩が認められる。

SI－130（第107図）

壷と思われる底部片１点のみの図示である。

SI－133（第107図、図版57）

１は推定口径7.7cmを測る小形の鉢で、内外面とも赤彩される。２～４は甕である。２は口縁部を欠き、内外面ともミガキが施される。頸部の文様帯は、中央に２段のＳ字状結節文を配したＬＲの単節縄文で、下端に縄文原体が押捺される。３は胴部に最大径を有し、口縁部から肩部にかけて７段の輪積み痕が残る。内外面とも丁寧なナデが施され、口唇部には刻みが巡る。４も丁寧なナデが施され、口唇部に刻みが施される。肩部には指頭による押捺がみられる。５は大形壷の底部片である。



第106図　竪穴住居跡出土土器（15）

SI－134（第107図）

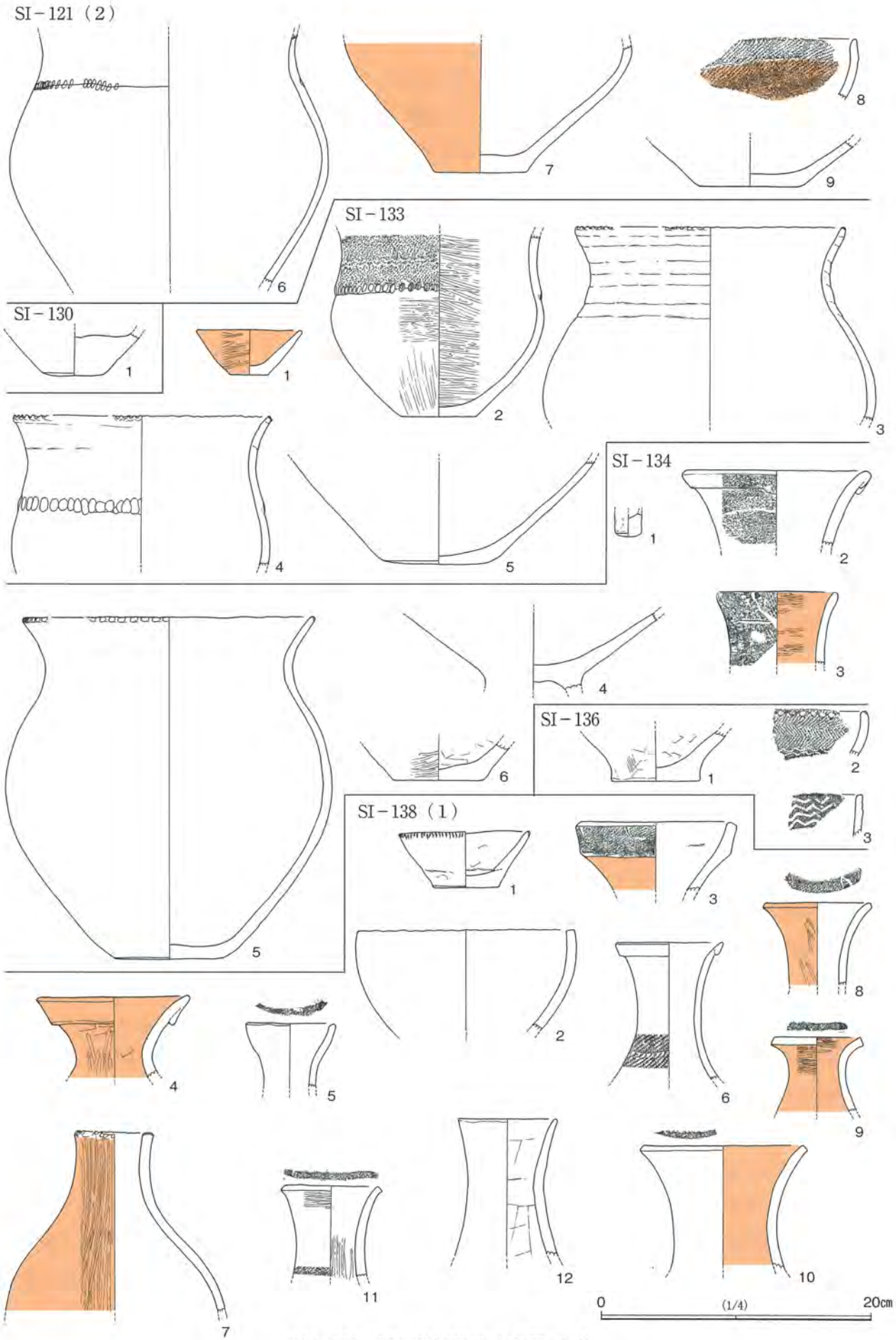
1は手捏ね土器で、口縁部を欠く。2・3は壷の口縁部で、2は折り返し口縁、3は素口縁である。2の口縁部及び頸部にはＬＲの単節縄文が施文され、文様帯下端に結節文が配される。3は口縁部がほぼ直立し、外面に幅広の羽状縄文が施され、下端に結節文がみられる。内面は赤彩される。4は台付き甕の底部片である。5は推定口径21.4cmを測る甕で、最大径を胴部に有する。口唇部には、指頭によると思われる押捺が巡る。器面の摩耗が激しく、調整等は不明である。6は壷の底部片であろう。

SI－136（第107図）

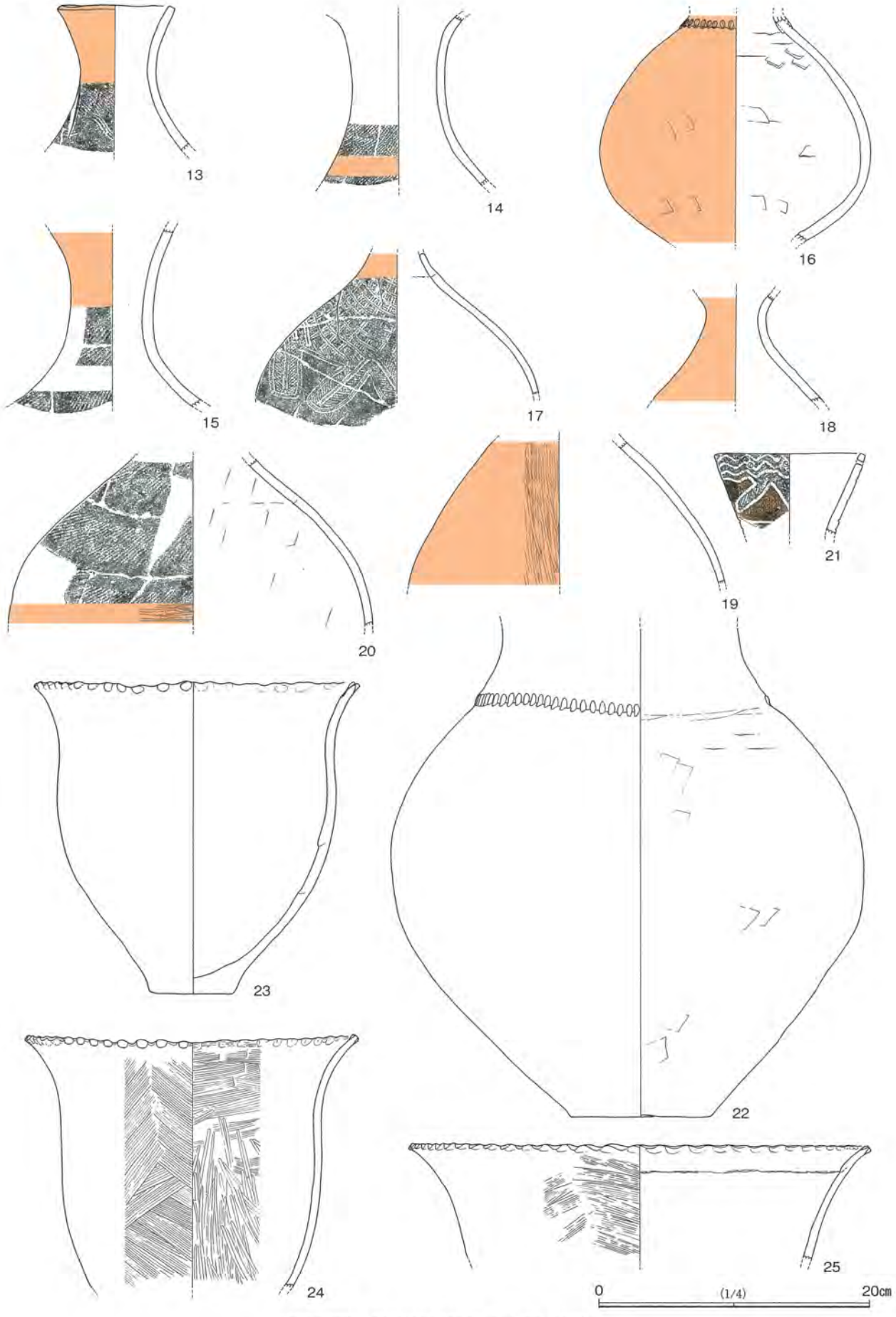
1は甕の底部、2は鉢の口縁部で、羽状縄文下に結節文が巡る。3は壷の口縁部片で、鋸歯状の沈線が数条みられる。

SI－138（第107～110図、図版57・58）

1は完形の鉢で、口径9.4cm、器高4.1cmを測る。体部と底部の接合部に明瞭な痕跡がみられる。内外面ともナデ調整され、口唇部にヘラ状工具による刻みが巡る。2は無形壷か鉢と思われ、底部を欠く。内外面とも摩耗が激しく調整不明であるが、口唇部には押捺が施されていたものと思われる。3～16は壷の口頸部である。赤彩される資料が多い。3は口縁部にＬＲの単節縄文を施し、4は折り返し口縁となる。5は受け口状に口縁部が内湾気味に外傾する。頸部の文様は摩耗のため不明であるが、口唇部にはＬＲの単節縄文が施文される。6は折り返し口縁で、長頸となる。頸部下端にはＬＲの単節縄文が2段みられる。7は口縁部が直立するタイプで、口唇部に棒状工具による刻みが施される。外面全体にミガキ調整が加えられる。8～13は口縁部が緩く外反し、8～11の口唇部にはＬＲの単節縄文が施される。13は、頸部下位にＬＲの単節縄文と3本1単位の波状文が認められる。14・15は頸部片で、頸部下端及び肩部にＬＲの単節縄文が施文され、縄文帯以外に赤彩が認められる。16・17・19・20は肩部から胴部にかけてである。16は頸部下端に刻みが巡り、内外面ともナデ調整される。外面のナデは比較的丁寧である。17は口縁部を欠くが、欠損部分が意図的に磨られた可能性があり、二次的な使用も考えられる。文様帯は、半截竹管状の工具で沈線が描かれ、上部は格子状、下端は舌状の意匠文で内部に羽状の縄文が充填される。頸部には赤彩が認められる。19の胴部にはミガキが認められ、赤彩が加えられる。20はＬＲの単節縄文が3段みられ、その間は無文帯部となる。文様帯以下には赤彩が確認される。21は壷の口縁部で、口唇部及び口縁部文様帯はＬＲの単節縄文を地文とする。口縁部には、4条の波状文が沈線によって描かれ、最下段には結紐文がみられる。22は大形壷で、口縁部を欠く。頸部下端に棒状工具による刻みが巡り、内面ナデ調整される。外面は摩耗のため調整不明である。23～29は口縁部に最大径を有し、口唇文に刻みが施される甕である。23は口径23.0cm、器高22.9cmを測る。口唇部に指頭による押捺が巡り、内面は丁寧にナデ調整される。外面は摩耗のため調整不明である。24も口唇部に指頭による押捺がみられる。内外面とも全体にハケ調整が施され、内面にはミガキが加えられる。胴下半部に煤の付着が認められる。25・26は口縁部内面に折り返しの痕跡が残る。25はハケ調整で煤が付着する。26は内外面ともナデ調整である。27は口縁部が大きく開き、胴下半部が急激に窄まる形態を呈する。口唇部の刻みは指頭により形成され、内外面ともナデ調整される。29は推定口径13.6cmと小形になり、全体に歪みが認められる。外面はハケ調整後ナデが加えられる。内外面とも煤の付着がみられる。30も小形の甕で、胴部にＬＲの単節縄文が施文される。31は小形の壷であろう。全体に摩耗が激しいが、胴部上半にＬＲの単節縄文、下位に密なミガキが施される。35は底部に焼成前の穿孔があり、甑として用いられたようである。外面ハケ後ナデ、内面は丁寧なナデがみられる。

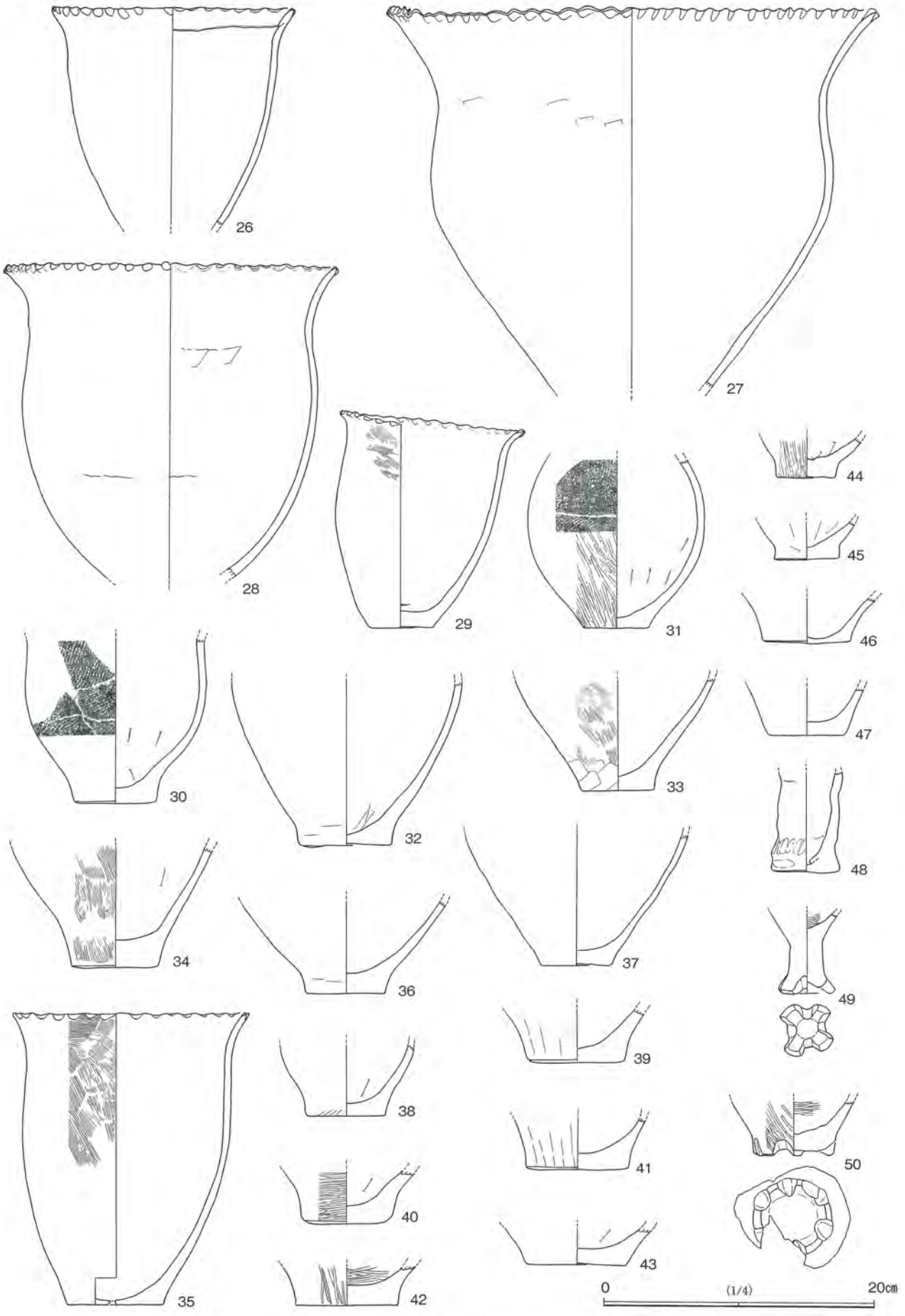


第107図　竪穴住居跡出土土器（16）

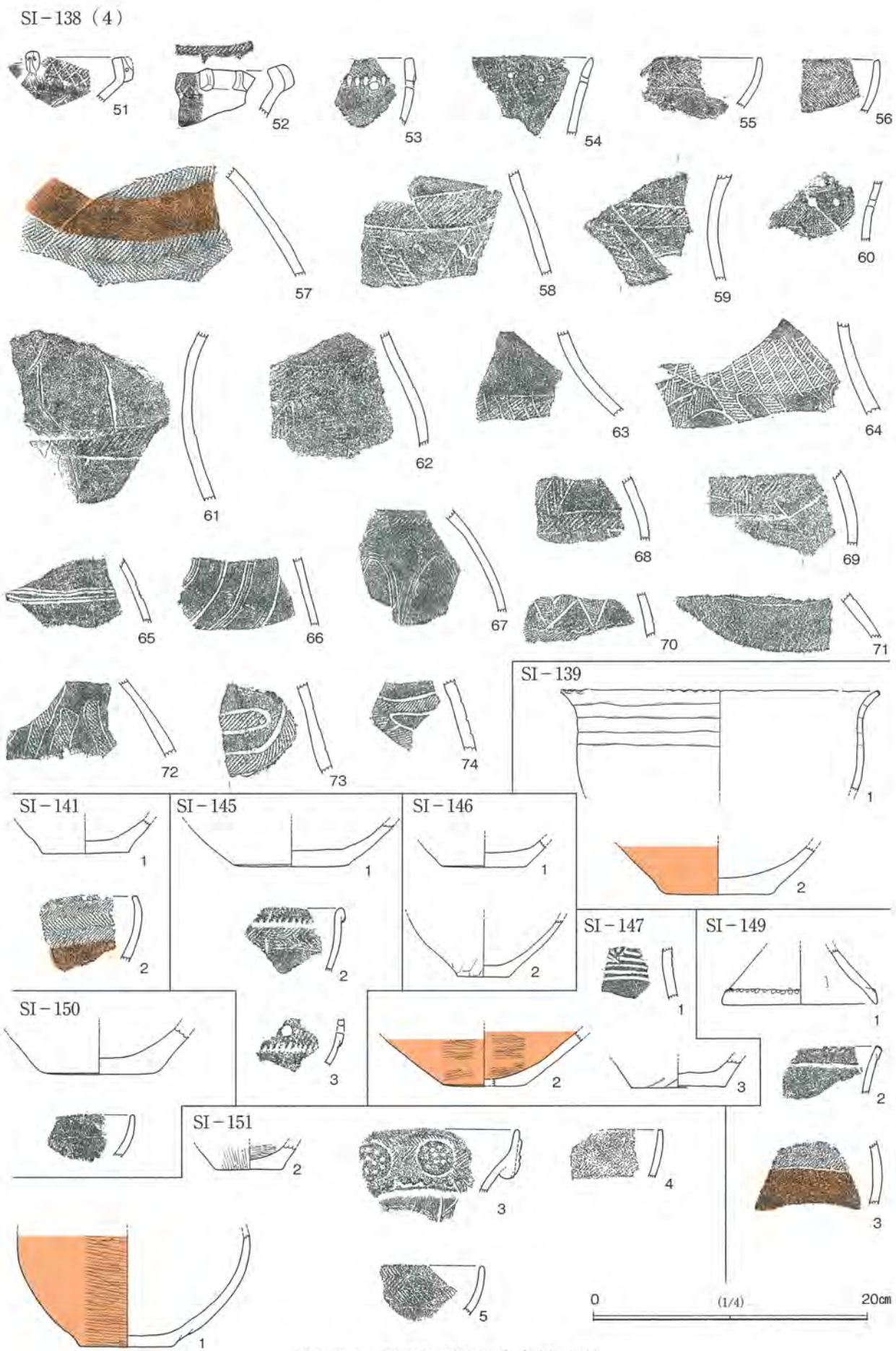


第108図　竪穴住居跡出土土器（17）

SI－138（3）



第109図　竪穴住居跡出土土器（18）



第110図　竪穴住居跡出土土器（19）

外面に煤が付着する。32～34、36～47は甕あるいは壷の底部片であるが、44・45は手捏ね土器の可能性が高い。48は口縁部を欠く手捏ね土器で、細長い形状を呈する。49はミニチュア土器と思われ、裾部に4ヵ所のスリットが刻まれる。50は甕の底部であろうか。6ヵ所のスリットがみられ、内外面ともミガキが施される。51～56は壷及び鉢の口縁部片である。51・52は口縁部に棒状浮文を貼り付ける壷で、ＬＲの単節縄文を地文とし、格子状の沈線が加えられる。53・54には焼成後の穿孔がみられる。55・56はは鉢の口縁部と思われ、羽状縄文が認められる。57～74は壷の頸部及び胴部片である。57は赤彩が施された無文部を挟んで羽状縄文が施文される。58・59は沈線で区画された三角文の内部に附加条縄文が充填される。61・62も同様の施文方法と思われる。64は18と同様の文様構成となる。65～67は平行沈線によって文様が表出され一群で、66・67は曲線状を呈する。70は鋸歯状の文様帯がみられる。72～74は沈線区画内に縄文を充填した意匠文が認められる。

SI－139（第110図）

1は口唇部に棒状工具による浅い刻みを巡らし、頸部に4段の輪積み痕を残す。器面の摩耗のため内外面とも調整不明である。2は壷の底部で、外面に赤彩が施される。

SI－141（第110図）

1は壷の底部で、内外面ともナデ調整される。2は鉢の口縁部で、ＬＲの単節縄文間に撚りの粗いＲＬの単節縄文が施文され、羽状となる。

SI－145（第110図）

1は壷の底部、2・3は鉢の口縁部片である。いずれも折り返し口縁で、下端に刻みを施す。2の胴部上位には羽状縄文が施文され、3には孔が穿たれている。

SI－146（第110図）

1・2とも壷の底部片で、摩耗により調整は不明であるが、2にはナデの痕跡が認められる。

SI－147（第110図）

1は壷の頸部片であろうか。平行沈線により文様が構成される。2・3は壷の底部片で、2は内外面とも赤彩がみられる。

SI－149（第110図）

1は高杯の脚部片である。裾部は折り返され、端部に棒状工具による押捺が巡る。全体的にナデ調整される。2は甕の口縁部片で、折り返し口縁となり、口唇部に刻みが施される。3は壷か鉢の胴部片で、ＬＲの単節縄文を沈線で区画し、以下は赤彩が加えられる。

SI－150（第110図）

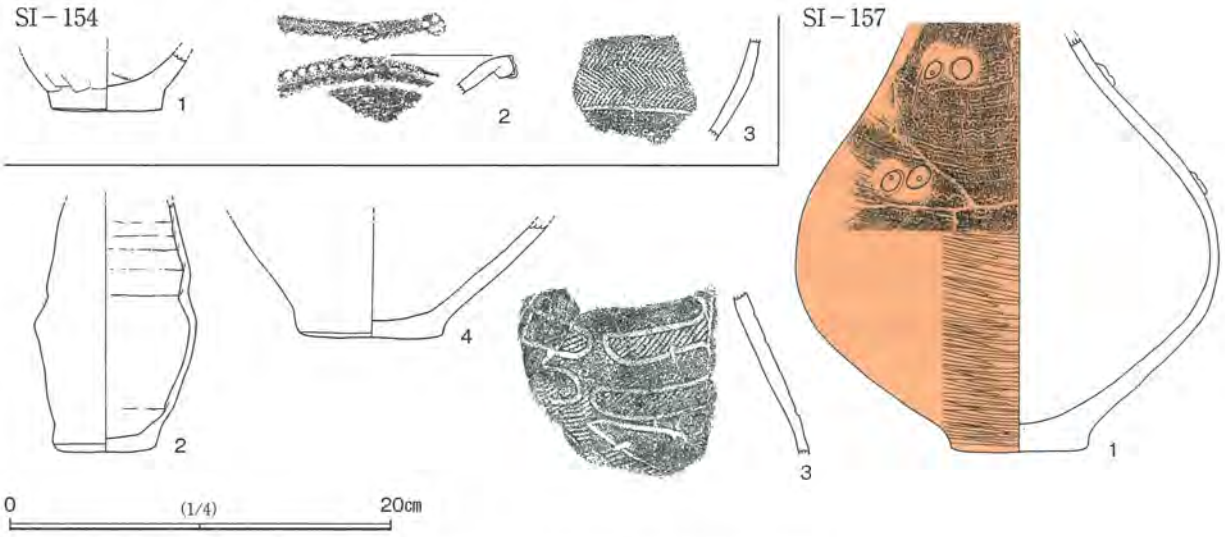
1は壷の底部、2は鉢の口縁部片である。2の口縁部には、細い沈線で区画された羽状縄文が施文される。

SI－151（第110図）

1は上半部を欠く壷で、内面は丁寧なナデ、外面にはミガキが施され、赤彩が加えられる。3は複合口縁の壷片で、羽状縄文を地文とし、刺突を加えたボタン状の円形浮文が貼り付けられる。4・5は羽状縄文が施された鉢の口縁部片である。

SI－154（第111図）

1は小形壷の底部であろうか。2は折り返し口縁の壷で、口唇部に押捺が巡り、小さなボタン状円形浮文が貼り付けられる。3は上下を沈線で区画し、内部に羽状縄文を充填する壷の胴部片であろう。



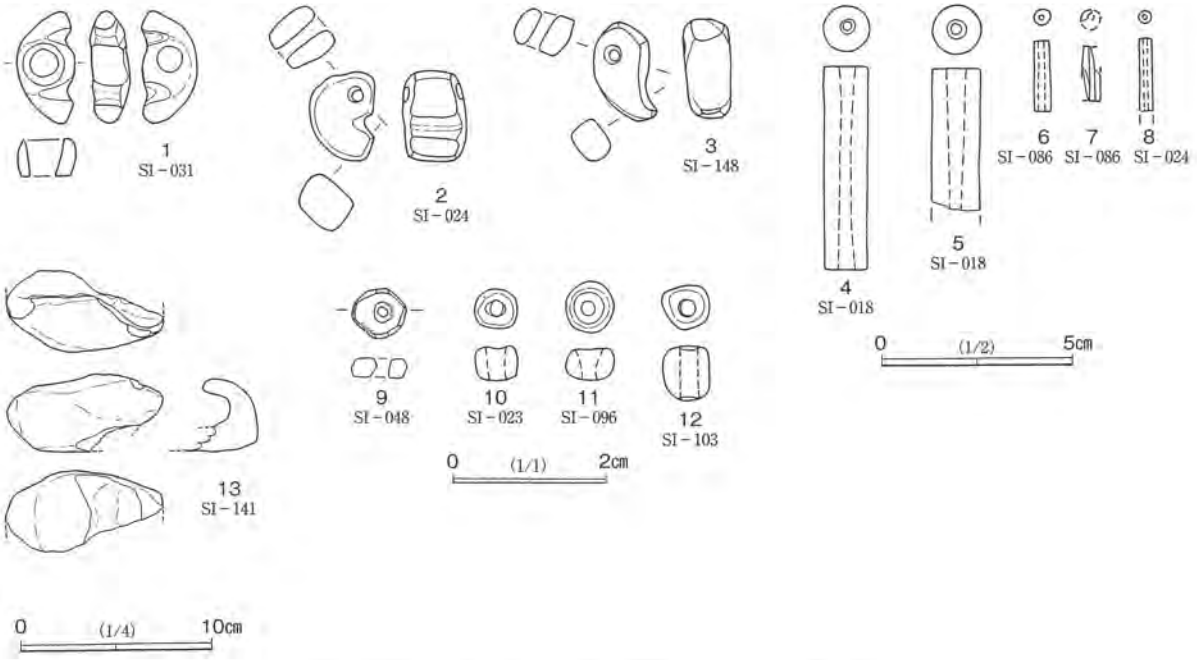
第111図　竪穴住居跡出土土器（20）

SI－157（第111図、図版58）

１は比較的大形の壷で、口縁部を欠く。胎土が砂質を帯び、全体に摩耗がみられるため文様が薄くなっているが、頸部から胴部上半には、４本１単位の直線的な櫛描文が２単位、波状の櫛描文が１単位交互に施文される。施文後に、中央に刺突を加えた円形浮文が２個１対で２段に貼り付けられる。胴下半部にはミガキが加えられ、全体に赤彩が観察される。２は薄手の作りであるが、全体に歪みが激しい。頸部内面には輪積み痕が明瞭に残り、外面には黒斑が認められる。３は壷の胴部片で、沈線区画内に斜縄文を充填した王字文が施文される。４は壷の底部片であろう。

竪穴住居跡出土玉類・土製品（第112図、図版70）

１・２は硬玉製の勾玉である。１は腹部に膨らみを有するタイプで、いわゆる双頭形を呈する。腹部の穿孔は片側からである。２は丸玉を半割したような形態を呈し、腹部には擦痕がみられる。３はヒスイ製の勾玉である。古墳時代の竪穴住居跡から出土しているが、その形態から弥生時代に含めた。小形品で、頭部に比して尾部が極端に小さい。４～８は管玉である。４・５は大形品で、４は硬玉製、５は蛇紋岩製である。６～８はかなり小形となる。いずれもグリーンタフ製であろう。９は滑石製の臼玉で、その形状から、古墳時代の混入品と思われる。10･12はガラス製の小玉で､10は紺色を呈し、気泡が多くみられる。12は青色の色調である。



第112図　竪穴住居跡出土玉類・土製品

２．土坑

SK－001（第113図、図版17）

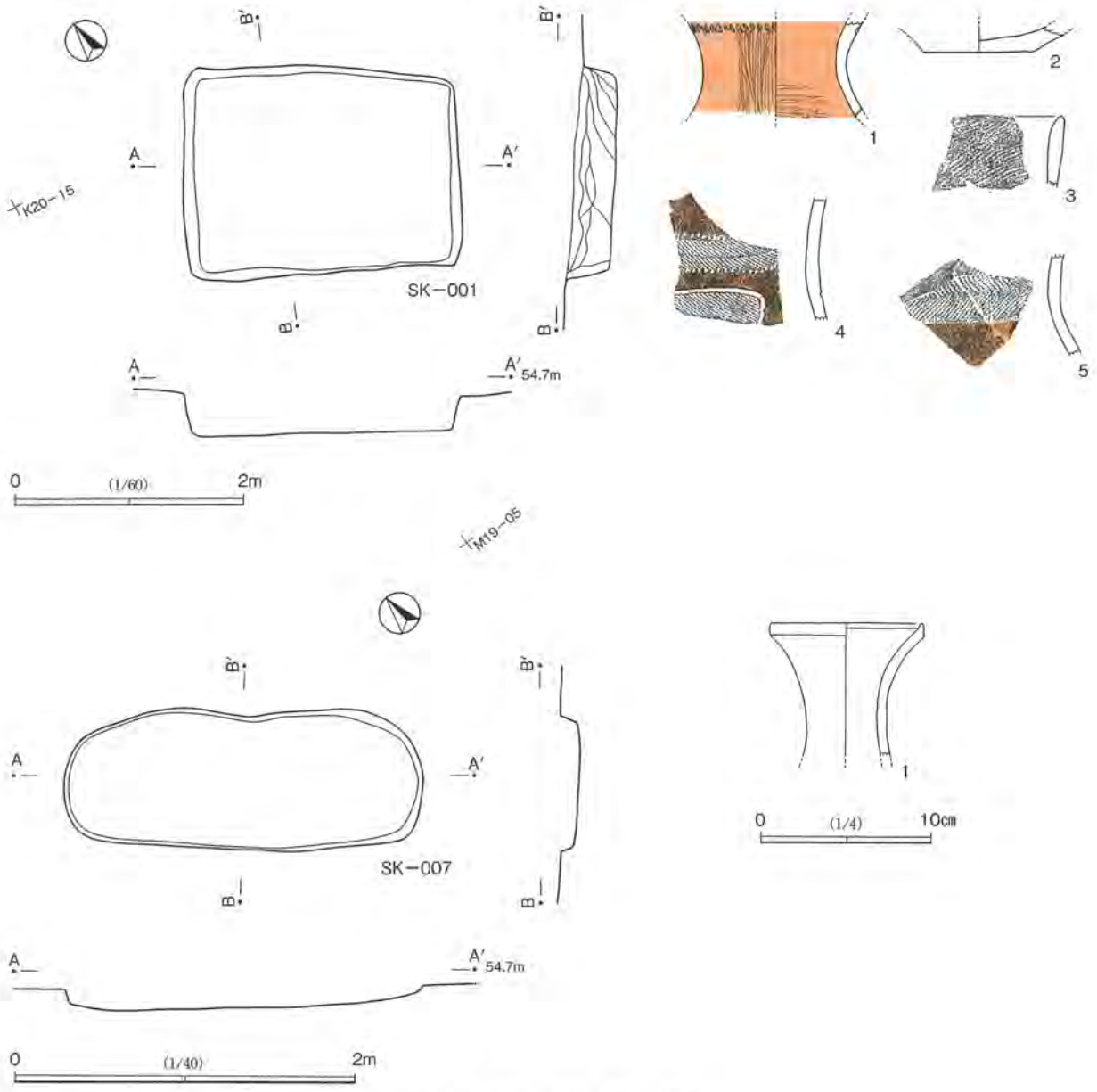
調査区南西端、K20－15グリッド付近に位置する。長軸2.4m、短軸1.9mを測る長方形状を呈する。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さ0.4mほどを測る。覆土は自然堆積の様相を呈するが、壁側及び底面近くに白色粘土が含まれる。

遺物は全体的に散在する。１は内外面赤彩の壷の頸部片である。上部に工具による刺突が巡り、内外面ともミガキ調整される。２は壷の底部片である。３は附加条縄文が施文される甕の口縁部である。４・５は壷の頸部であろうか。４は、上部文様帯が刺突による区画内に細かなＬＲの単節縄文を充填し、下位には沈線区画内にやはりＬＲの単節縄文が施される。５は羽状縄文で、下端に沈線がみられる。

SK－007（第113図、図版17）

調査区ほぼ中央、M19－04グリッド付近に位置する。長軸4.3m、短軸1.6mの隅丸長方形状を呈し、確認面からの深さは浅い。出土遺物は少ないが、その形態から土壙墓となる可能性もある。

１は長頸となる壷の口頸部である。器面が荒れているため、文様・調整等は不明である。

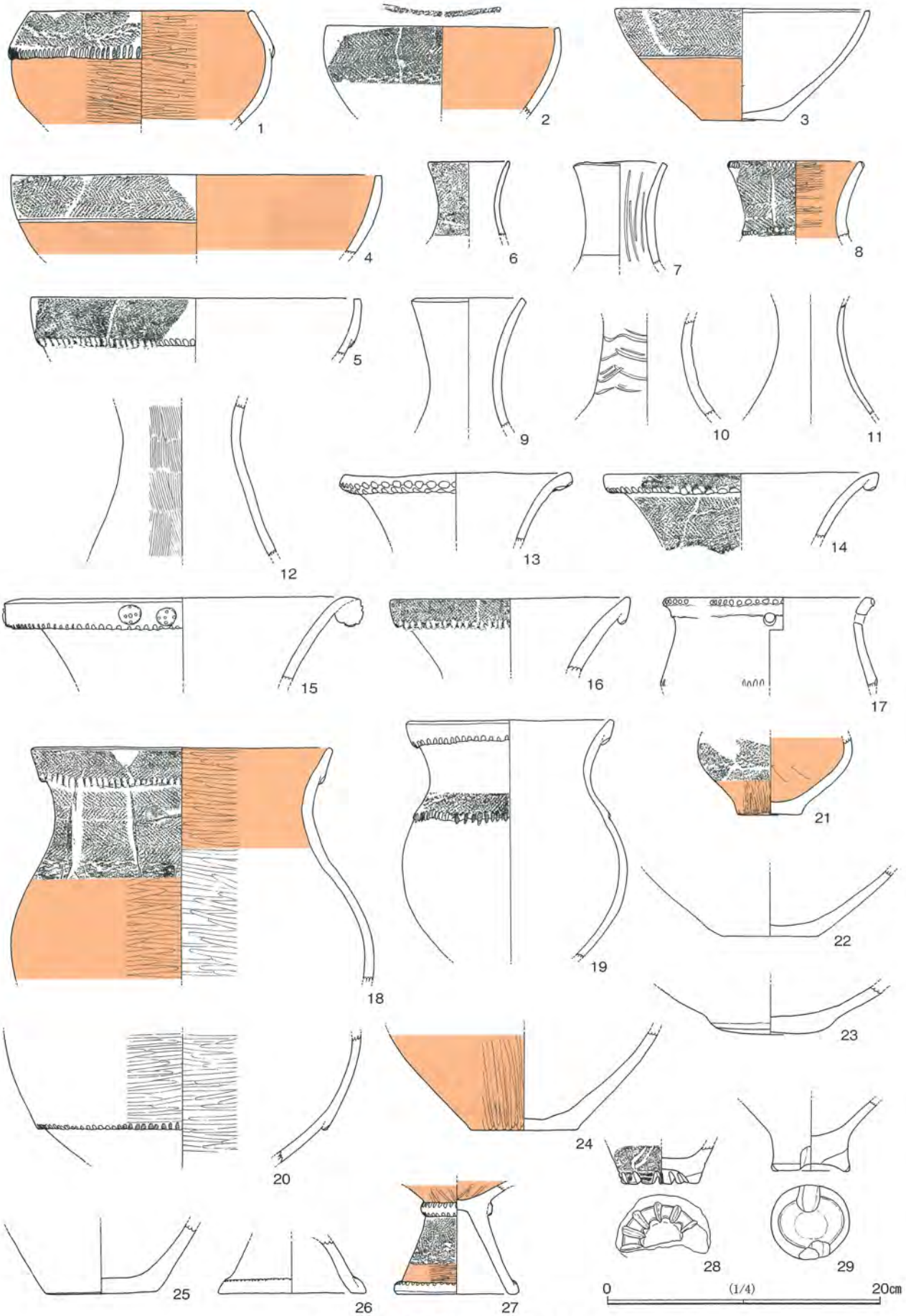


第113図　SK－001・SK－007

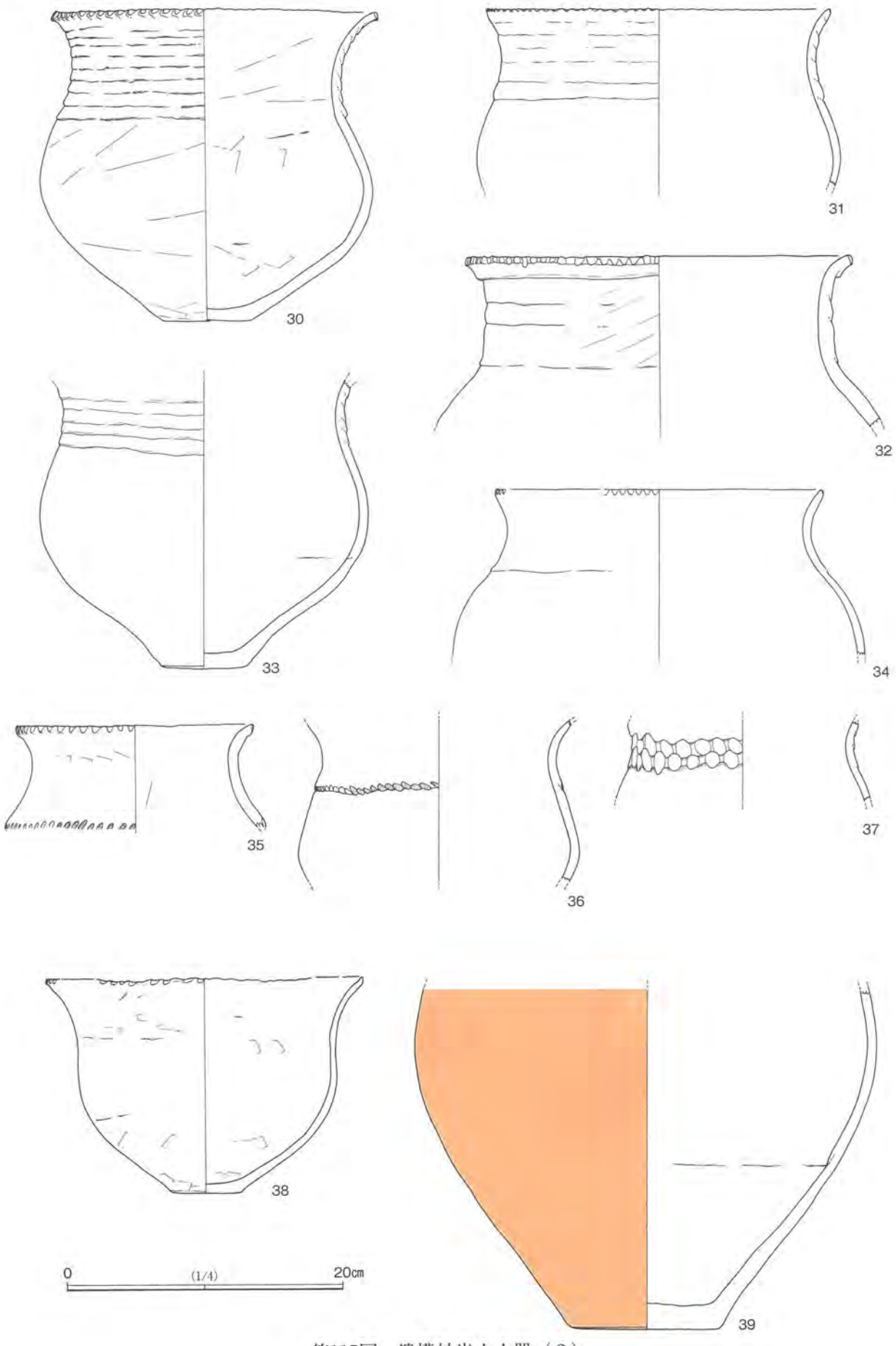
3．遺構外出土土器（第114～116図、図版58）

グリッドから出土した土器以外に、古墳時代の遺構から出土した弥生土器も含めて遺構外出土土器とした。

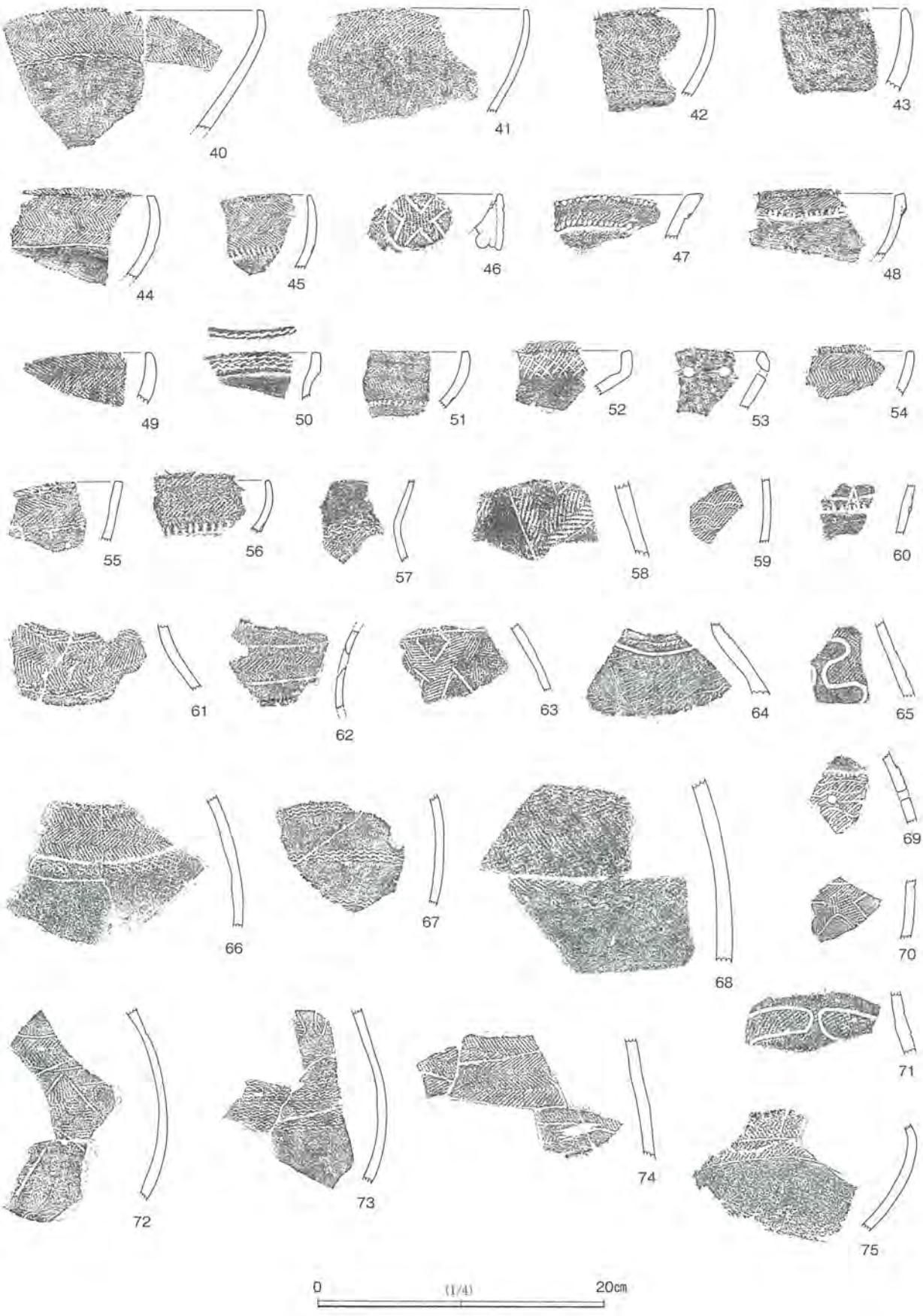
1は推定口径16.2cmを測る無頸壷で、底部を欠く。折り返し状の口縁部には羽状縄文が施文され、下端に縄文原体の押捺が巡る。内外面ともミガキ調整され、文様帯以外に赤彩が加えられる。2～5は鉢である。2の口縁部には3段の羽状縄文と下端のS字状結節文がみられ、口唇部にはLRの単節縄文が施される。内面赤彩される。3は推定口径18.6cm、器高8.1cmを測る。口縁部には、下部を沈線で区画された羽状縄文が施文される。器面の荒れが激しく、調整は不明である。外面の文様帯以外に赤彩される。4は推定口径27.0cmを測る比較的大形の鉢である。口縁部は、3段の羽状縄文下に沈線が巡り、口唇部が平坦となる。文様帯以外に赤彩がみられる。5は折り返し口縁で、羽状縄文下に棒状工具による押捺が巡る。口唇部にも単節縄文が施されていたようであるが、明瞭ではない。6～12は細頸となる壷の口頸部である。6はL



第114図　遺構外出土土器（1）



第115図　遺構外出土土器（2）

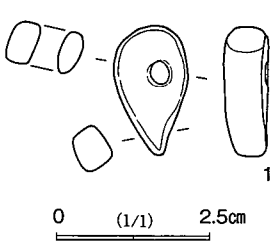


第116図　遺構外出土土器（3）

Ｒの単節縄文、８は羽状縄文が外面に施される。７は内外面ナデ調整で無文となるが、口唇部に縄文施文の痕跡が伺える。10～12は頸部片で、10には綾杉状の集合沈線が施文される。12にはハケ目調整が施される。13～16は折り返し口縁が大きく開くタイプの壷である。13は棒状工具による押捺が２段みられる。14の口縁部にはＬＲの単節縄文が施され、下端に棒状工具による押捺、頸部に羽状縄文が認められる。15は複合口縁状を呈し、口縁部外面に２個１単位のボタン状の浮文が貼り付けられる。17は口縁部が短く外反する壷で、口縁下に折り返し状の痕跡が残り、孔が穿たれる。口縁端部及び胴部中位に棒状工具による押捺、肩部には羽状縄文が施こされる。18・19は広口壷で、折り返し口縁となる。18は口縁部及び頸部に羽状縄文が施され、頸部下端には３条の結節文が配される。外面無文部及び内面上部に赤彩が加えられる。19は口縁部外面と肩部にＬＲの単節縄文が施文され、下端に押捺が巡る。20は壷の胴部片で、下位に押捺を施した明瞭な段が形成される。21は小形の壷で、胴部に粗いＬＲの単節縄文がみられる。文様部以外に赤彩が施される。22～25は壷あるいは甕の底部である。26・27は高杯の脚部で裾部が折り返され、端部に刻みが加えられる。27は杯との接合部に突帯が貼り付けられ、上下に棒状工具による押捺がみられる。外面にはＲＬの単節縄文が施文され、下端にＺ字状結節文が配される。28・29は台付き鉢の台部と思われる。28には複数の、29には2ヵ所のスリットが刻まれる。30～38は甕である。30～33は頸部に多条の輪積み痕を残すタイプである。30はほぼ完形で、口径23.2cm、器高22.5cmを測る。全体的にヘラケズリ後丁寧なナデが加えられる。口唇部には指頭による押捺が巡る。31・32にも口唇部の押捺がみられる。34は口縁部の開きが少なく、胴部に最大径を有する。胴部外面には小口の荒れた工具によるナデがみられる。口唇部には棒状工具による押捺が加えられる。35～37は頸部あるいは肩部に押捺が巡るタイプである。35・36は縄文原体による押捺で、37は輪積み痕部に２段の指頭による押捺がみられる。38は推定口径23.0cm、器高15.5cmを測り、口唇部に最大径を有する。全体にナデ調整され、口唇部には指頭による押捺が認められる。39は大形壷の胴部と思われ、外面に赤彩が加えられる。40～56は鉢及び壷の口縁部片である。40～42・44・45は口縁部に羽状縄文を配し、40は結節文、41・42・44は沈線、45は縄文端部による区画が施される。46は複合口縁で、大きめのボタン状浮文が貼り付けられる。47・48は折り返し口縁で、刻みが加えられる。50は長頸壷と思われ、Ｓ字状結節文が外面と口唇部に認められる。52も長頸壷で、口縁部が屈曲する。ＬＲの細かい単節縄文を地文とし、格子状の細沈線が加えられる。57～75は壷の胴部片である。沈線や結節文による区画と羽状縄文及び単節縄文が配される。65・71は沈線が楕円状及び工字文状を呈しており、中期段階の所産であろう。

４．遺構外出土玉類（第117図、図版70）

１はヒスイ製の勾玉である。長さ1.7cm、最大幅1.0cm、重さ1.6ｇを測る。孔は片側から開けられ、最大孔径0.4cmである。縄文時代の土器を大量に廃棄したSX－001からの出土であり、縄文時代の所産となる可能性もある。



第117図　遺構外出土玉類

第３節　古墳時代

１．古墳

本調査区からは、北東側に近接して所在する２基の円墳が検出された。2基とも鹿島台古墳群を構成する古墳として周知されており、遺構番号は古墳群の番号を踏襲した。いずれも古墳時代後期の所産と思われる。

６号墳

墳丘と周溝（第118～120図、図版18）

調査区北東端、O19グリッドに位置し、東側は斜面部となる。台地縁辺部に築造された古墳である。墳形は円墳となるが、検出された周溝から想定される墳丘とは大きく異なり、直線的な西側は後世に大きく改変されたものと思われる。そのため、墳丘規模は不明であるが、現地表面から2.6mほどと高く、比較的急な墳丘を呈する。墳丘頂部は広い平坦面となっているが、これもある程度の削平を受けたものと思われる。現墳頂部は、旧表土より1.3mほどの高さがあり、現地表面との比高差約1.3mを考えると、地山整形がかなり深く行われたことを示している。

墳丘は、全体的にみると水平積みに近い様相を呈するが、周縁部には、土堤状の高まりが部分的に認められる。盛土は、本調査区自体がローム土の堆積がほとんどみられないため、砂質土と黒褐色土の混じった土で構成される。埋葬施設構築面は平坦となり、上部の封土はあまり厚く載せていないようである。後世の削平も考えられるが、墳丘が崩れやすい盛土を積んでいるため、頂部の平坦面を広くしていたことも考えられる。盛土をあまり高くしないで墳丘自体を見かけの高さを高くするために、周囲の地山整形を深くしたのであろう。

周溝は、南側が斜面になるため、北側半分に掘り込まれる。幅は一定せず、最も広い北西側で約3.0m、最も狭い西側で約1.2mを測る。深さは全体的に浅く、最も深い北西側で0.7mほどである。周溝東側は斜面に接して消失しているが、北西側は他に比べて広く深く掘り込まれ途切れている。斜面部との距離は４mほどあり、土橋としての性格が想定される。

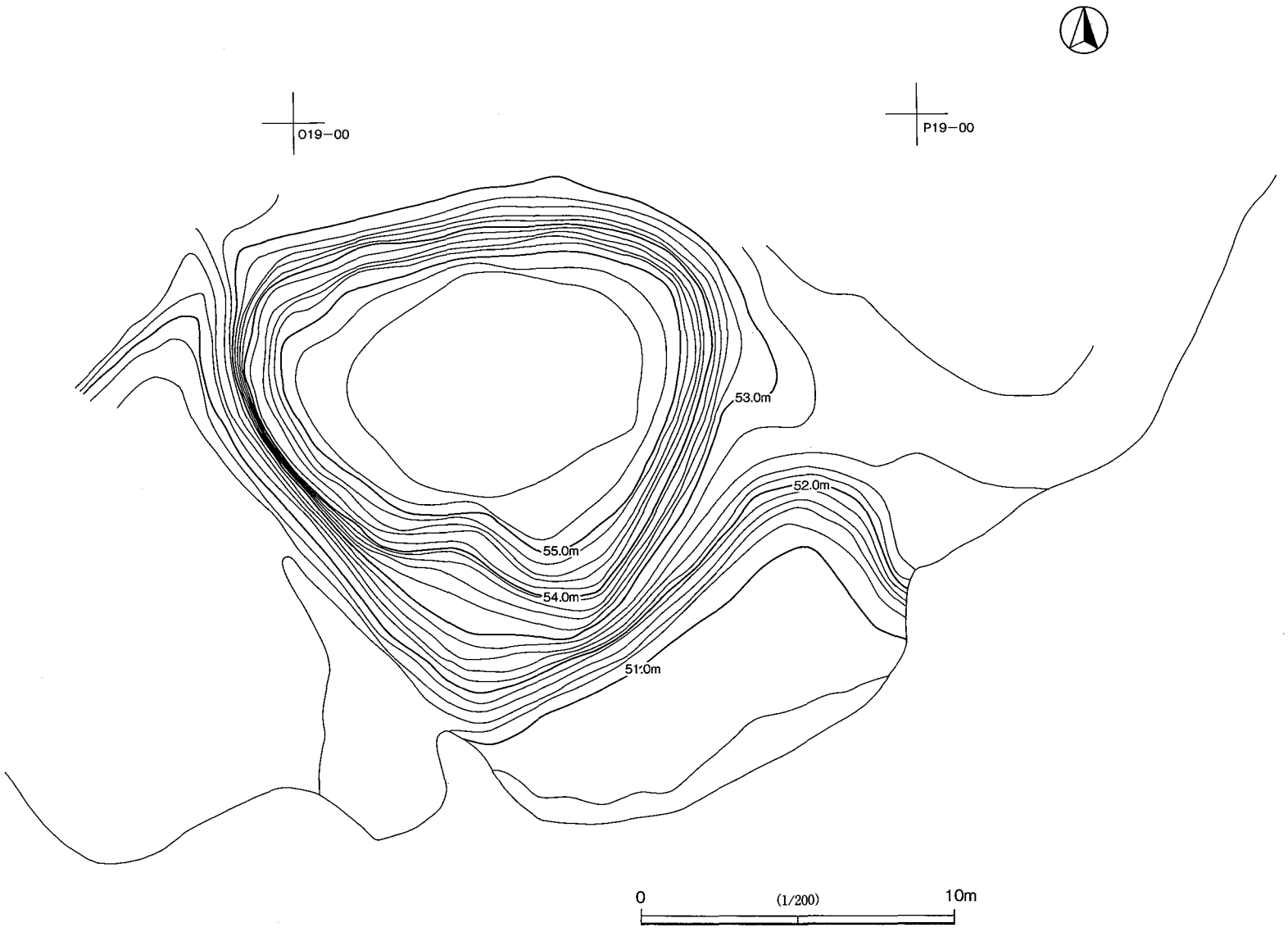
埋葬施設と出土遺物

墳頂部の広い平坦面に２基の埋葬施設が並んで掘り込まれているが、近接する状況ではなく、壁間で約3.2mを測る。

第１埋葬施設（第121・122図、図版18・69）

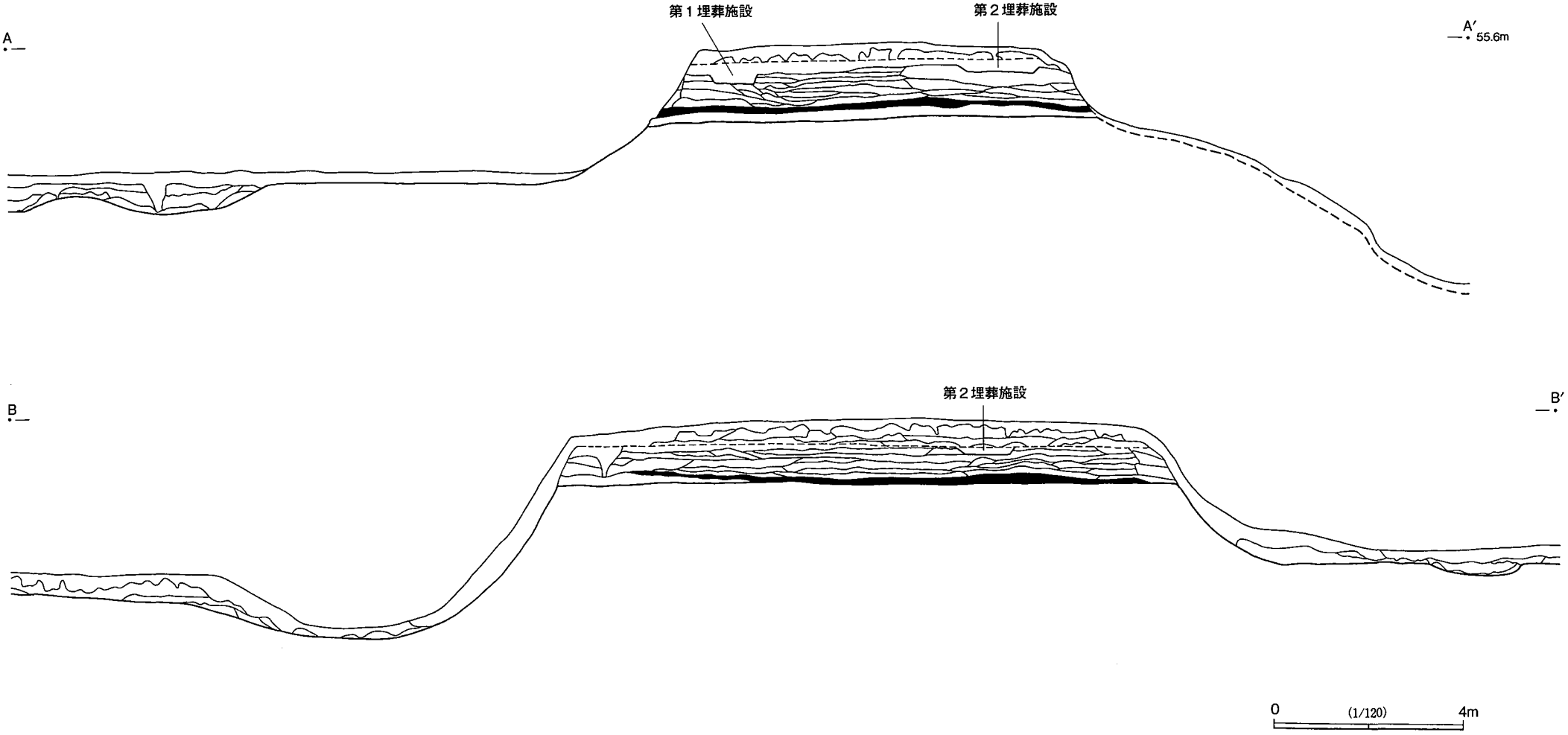
墳頂部平坦面の南西側に位置する木棺直葬の埋葬施設である。盛土が山砂を多く含み、後述するように土壙の裏込めや覆土も山砂が多いため、プランは明瞭ではない。掘り方の規模は、長軸4.7m、短軸1.3m、確認面からの深さ14cmを測る。木棺部は、長軸4.1m、短軸0.7mを測り、確認面からの深さ８cmを測り、土壙掘り方の西側に寄る。主軸方向は、Ｎ－47°－Ｗを指す。掘り方と木棺底面の間及び裏込め土は、粘土が用いられずに山砂を主体とする層で構成される。

埋葬施設内の出土遺物は鉄製品のみで、木棺部底面付近のほぼ中央部に集中する。直刀は、茎を東、切先を西に向け、刃部が内側を向いた状態で検出された。この状況から、頭部を東に向けた状態の埋葬が想定される。

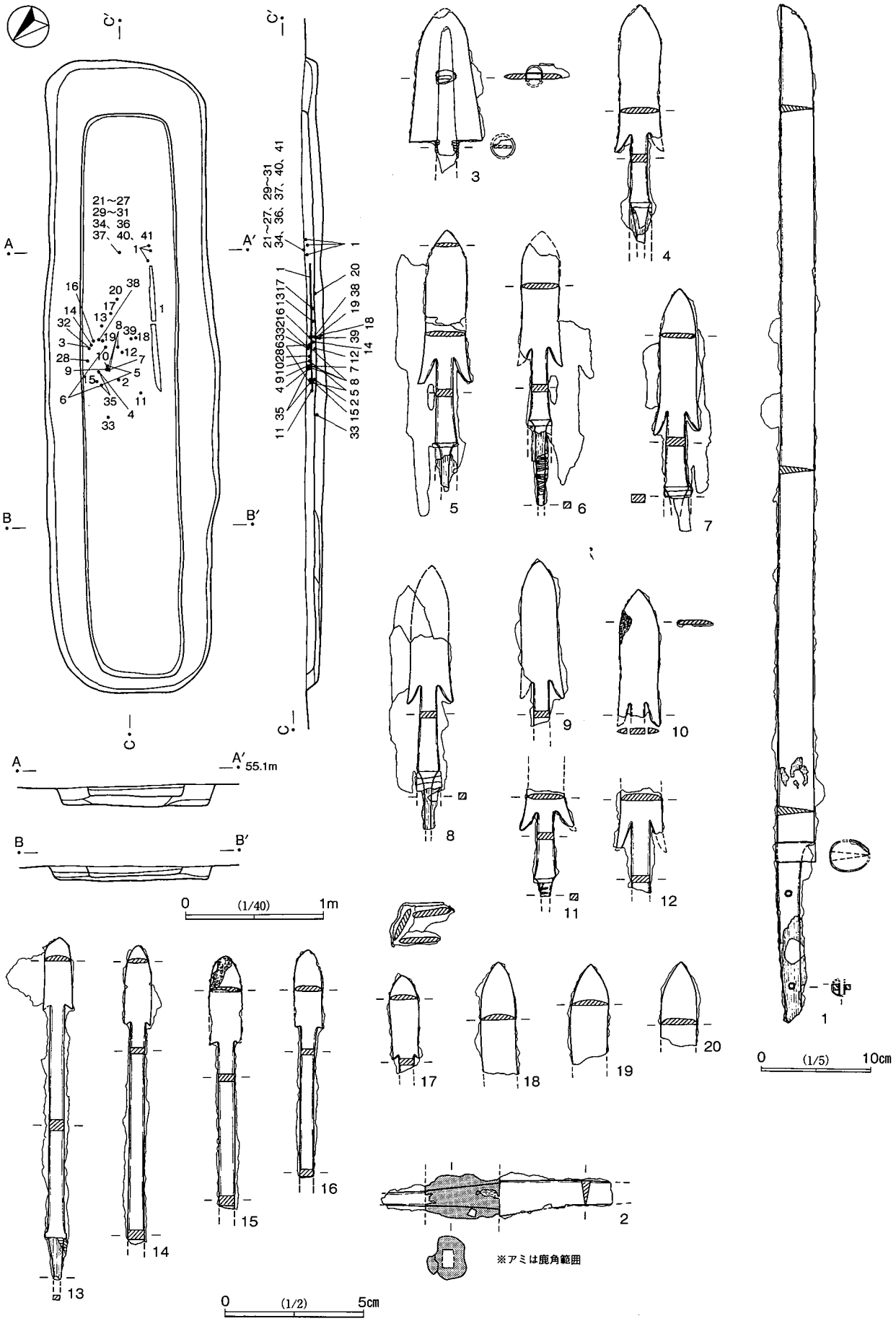


第118図　6号墳現況図

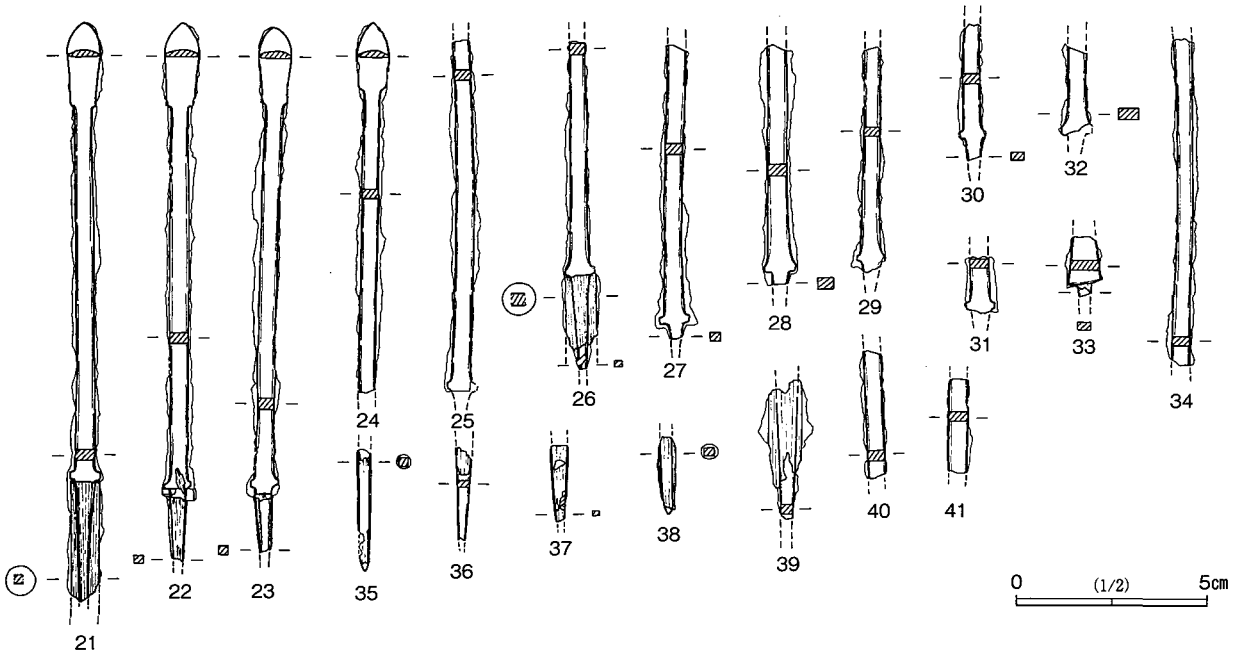
第119図　６号墳墳丘・周溝測量図



第120図　６号墳墳丘断面図



第121図　第１埋葬施設と出土遺物（１）



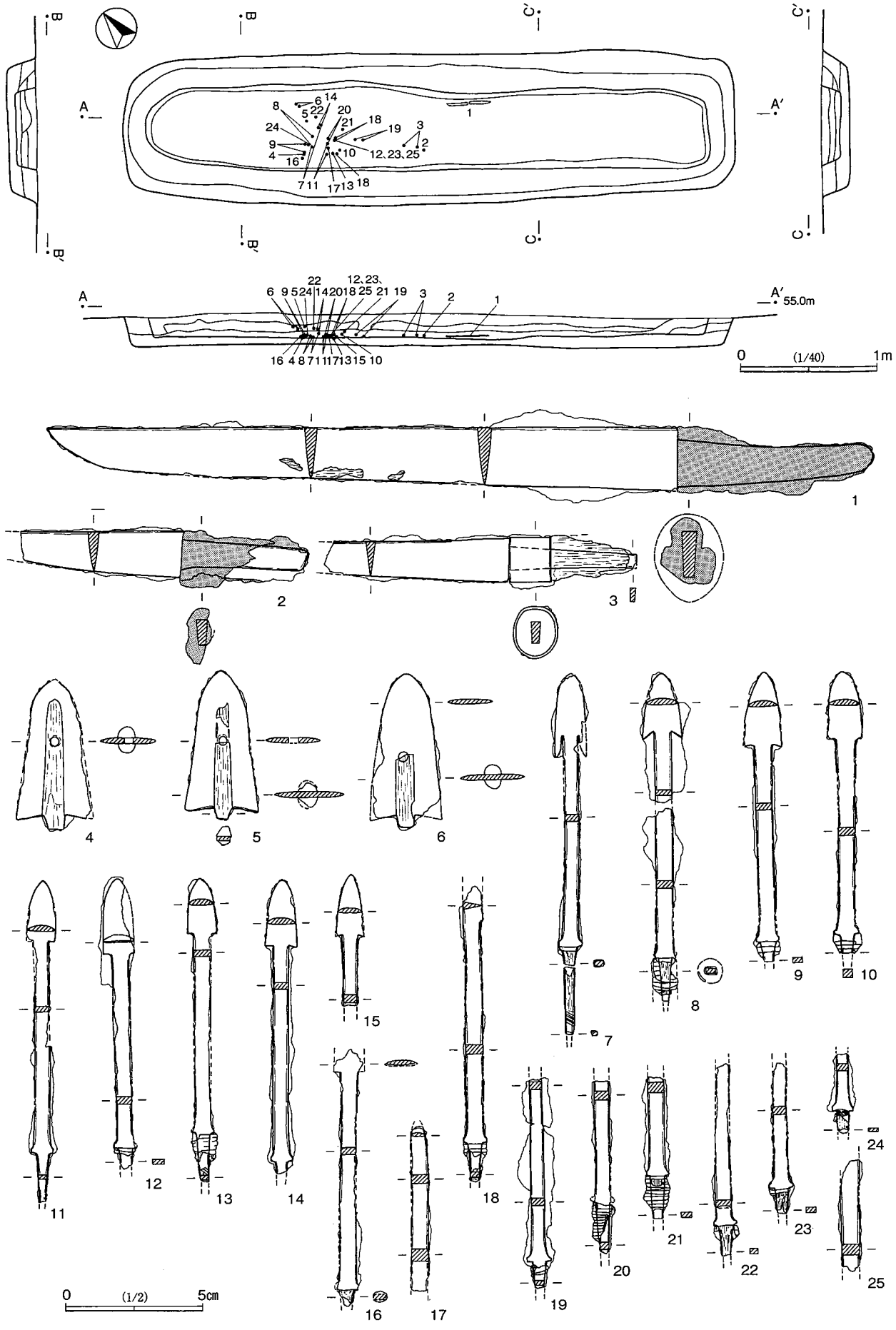
第122図　出土遺物（２）

出土遺物

１は全長92.6cmを測る完形の直刀である。刃部は、長さ75.2cm、関付近の幅33.8cm、棟幅8.4mmを測る。関部は片関で、鍔はなく、長径36.3cm、短径28.5cmの鏃が付着している。茎は長さ17.4cmで、関側と茎尻側に2ヵ所目釘孔が穿たれ、茎尻側には目釘が遺存している。鏃内部及び茎部に柄木と思われる木質が部分的にみられる。２は鹿角装の刀子である。茎尻及び切先部を欠くが、現存長8.4cmを測る。両関となり、茎に比して刃部が小さいことから、刃部の研ぎ返しが行われていた可能性が高い。鹿角は茎部に遺存しており、茎本体との間に木質がみられる。３～41は鉄鏃である。３は平根の長三角形鏃で、扁平な短い茎が付く。鏃身から茎にかけて矢柄の木質が残り、鏃身部中央に矢柄を縛る紐の圧痕が認められる。茎部にも矢柄の巻きが遺存している。４～12は腸抉三角形鏃で、鏃身は長く逆刺が深いタイプである。鏃身部の作りは、両丸となるものが多いが、10・12は片丸となろう。頸部はほぼ直線で、関部はやや斜位である。茎部に木質及び巻きが遺存しているものもみられる。13～24は長頸鏃の一群である。13～17の鏃身は両丸作りで、浅い逆刺を有する。18～20は鏃身部のみの遺存であるが、その大きさ及び形状から４などと同様のタイプの鉄鏃と思われる。21～24は鏃身部が小さくなり、逆刺ではなく、角関あるいは斜関となるものである。頸部の関は棘状を呈する。鏃身の断面形も前者の一群とは異なり、片丸を呈する。21の茎には矢柄の木質が良好に残る。25～41は頸部及び茎部片である。

第２埋葬施設（第123図、図版19・70）

墳頂部平坦面の北東側、第１埋葬施設の北東3.2mほどに位置する。第１と同様、木棺直葬の埋葬施設であるが、本施設の土壙掘り方の裏込めや底面に白色粘土が用いられている点、第１埋葬施設とは状況が異なる。掘り方の規模は、長軸4.5m、短軸1.1m、確認面からの深さ23cmを測る。木棺部は、長軸4.1m、短軸0.6～0.7mと第１施設とほぼ同様の大きさである。木棺部のプランはやや不整であるが、西端部が砲弾状となる。木棺部材の形状を示しているものと思われる。主軸方向は、N－42°－Wを指す。掘り方と木棺底面の間及び裏込め土は、白色粘土を主体とし、山砂が混入する。



第123図　第２埋葬施設と出土遺物

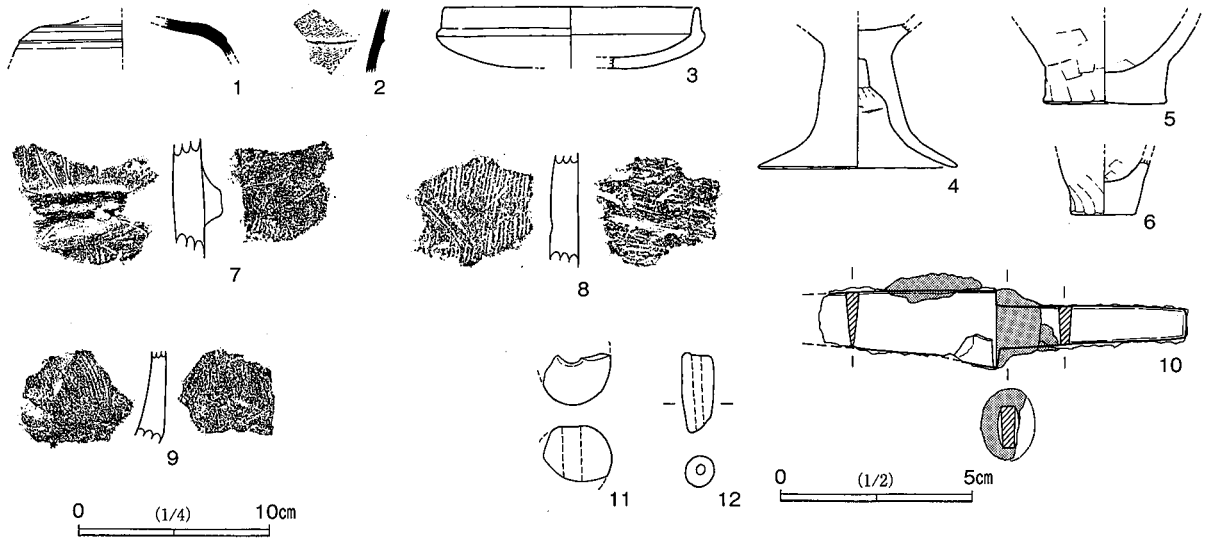
埋葬施設からの出土遺物は第１施設同様鉄製品のみで、木棺部底面の中央からやや西寄りに集中する。短刀は、集中地点とはやや離れた木棺部北側壁のほぼ中央部にあり、茎を東、切先を西に向け、刃部が内側を向いた状態で検出された。この状況から、頭部を東に向けた状態の埋葬が想定される。

出土遺物

１は完形の鹿角装短刀で、全長30.6cm、刃部長23.4cmを測る。関部は両関になると思われる。茎はやや上反りの形状を呈し、鹿角の痕跡がほぼ全面にみられる。特に関部に良好に遺存している。２・３は鹿角装の刀子で、明瞭な両関を有し、切先部を欠く。２は現存長10.6cm、茎長4.5cmを測る。茎はやや下反りとなり、茎尻は斜位を呈する。鹿角は茎全体に認められるが、特に関部付近に良好に遺存する。鹿角内面には木質が観察される。３は現存長11.6cm、茎長4.8cmを測る。刃部に比して茎部が細くなる。茎は直線的で、茎尻は直角になる。関部には、長径1.7cm、短径1.5cm、幅1.5cmのハバキが付着する。茎部には木質が良好に遺存するが、鹿角は痕跡程度の残りである。４～25は鉄鏃である。４～６は広根の三角形鏃で、扁平な短い茎が付く。鏃身部は平作りに近く、ほぼ中央に矢柄を縛るための孔が穿たれている。逆刺は僅かに認められる。7～18は長頸鏃の一群である。7は深い腸抉の入る長三角形鏃で、頸部の関は棘状を呈する。茎には、矢柄の木質と内面の巻きがみられる。8は浅い逆刺がはいる三角形鏃で、関部はスカート状を呈する。鏃身は両丸作りとなる。９～15は小さな逆刺が認められ、鏃身部は片丸作りとなる。頸部の関は棘状となるものがほとんどである。16は鏃身部が大きく欠けているが、９などと同様のタイプであろう。17は無関、18は片刃・片関の鏃身部である。19～25は長頸鏃の頸部及び茎部片である。

墳丘内出土遺物（第124図、図版70）

１は須恵器の蓋であろう。天井部外面には回転ヘラケズリが施され、胎土中に長石粒等の砂粒を多く含む。２は小片であるが、瑯の頸部片と思われる。断面三角形の隆帯と櫛描波状文がみられる。胎土等から陶邑産の須恵器と考えられる。３は土師器の杯で、推定口径13.2cmを測る。内外面とも摩耗が激しく、調整等は不明である。４は土師器の高杯、５・６は手捏ね土器である。７～９は埴輪片である。７・８は円筒埴輪で、高さのある断面台形状の突帯がみられる。突帯下にはタテハケが認められる。８は外面タテハ



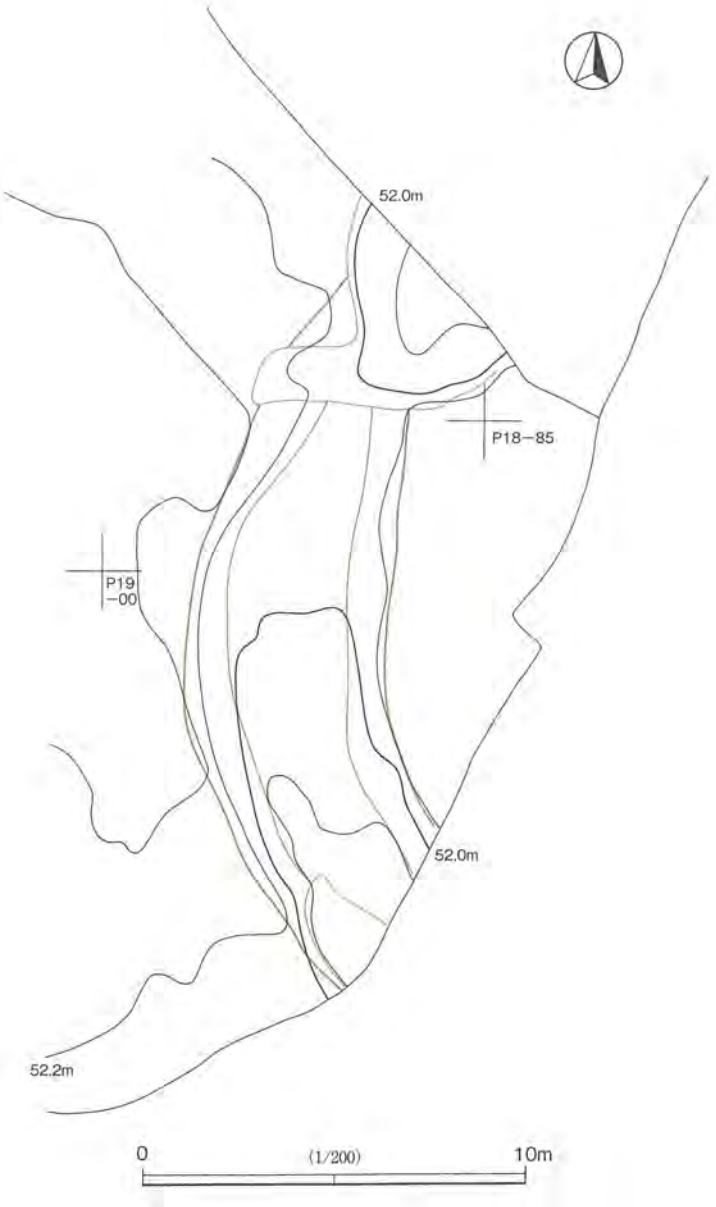
第124図　６号墳墳丘内出土遺物

ケ、内面ヨコハケである。9は薄手の作りで、円筒埴輪になるかどうか明確ではないが、口縁部付近と思われる。10は鹿角装の刀子である。切先部を欠くが、現存長9.7㎝、茎長4.9㎝を測り、両関となる。鹿角は関部から茎にかけて遺存しており、内部に木質が確認される。刃部には鞘の痕跡がみられ、皮革の可能性もある。11は土玉片、12は管状土錘である。

10号墳

墳丘と周溝（第125図）

調査区北東端、P19－00グリッド付近に位置する。東側は調査区外、北側は削平されているため西側周溝のみの検出である。墳丘は、調査範囲内では確認されなかったが、調査区外には高まりが認められる。この状況から、6号墳同様後世に改変された可能性が考えられる。検出された周溝は、最大幅5.2m、深さ0.5



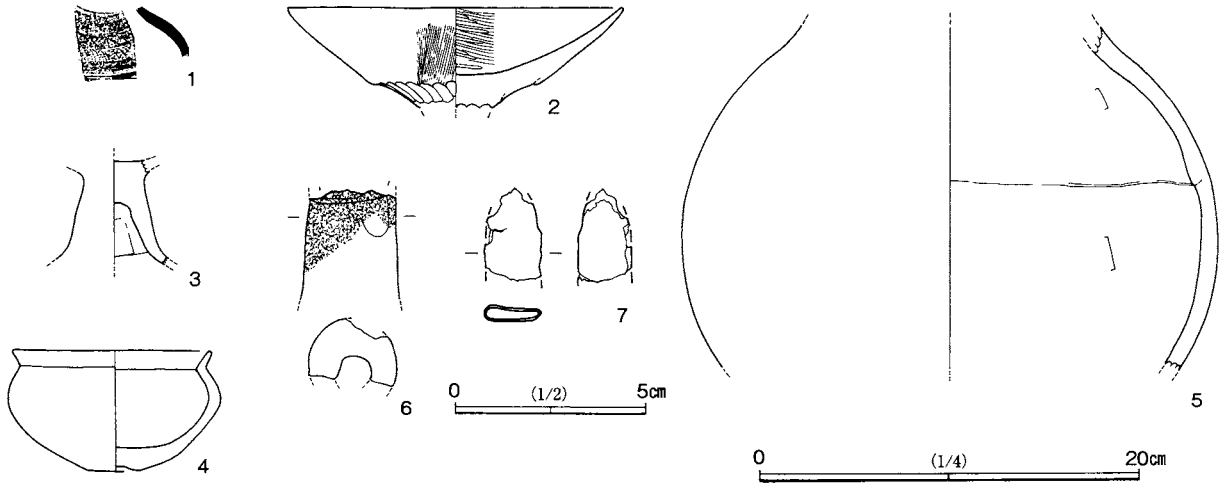
第125図　10号墳周溝測量図

mほどを測り、６号墳よりも大形になると思われる。覆土は自然堆積で、ローム粒・小ロームブロックを含む。

図示した遺物は、ほとんどが周溝内からの出土である。

出土遺物（第126図）

１は壷あるいは甕の肩部片であろう。下端に沈線が１条巡り、上部に櫛歯による刺突列がみられる。器外面及び器肉がチョコレート色を呈しており、陶邑産と思われる。２・３は高杯で、２は脚部片、３は杯部片である。２は内外面ともミガキ調整で、下位に明瞭な稜を形成し、稜下部には細かいケズリが施される。４は胴部に最大径を有するいわゆる坩で、底部が小さな上げ底となる。器面摩耗のため調整は不明である。５は壷の胴部片で、内面に接合痕が残る。６は高杯脚部を転用した羽口片である。上部が被熱により還元され灰色を呈する。７は用途不明の銅製品である。



第126図　10号墳周溝内出土遺物

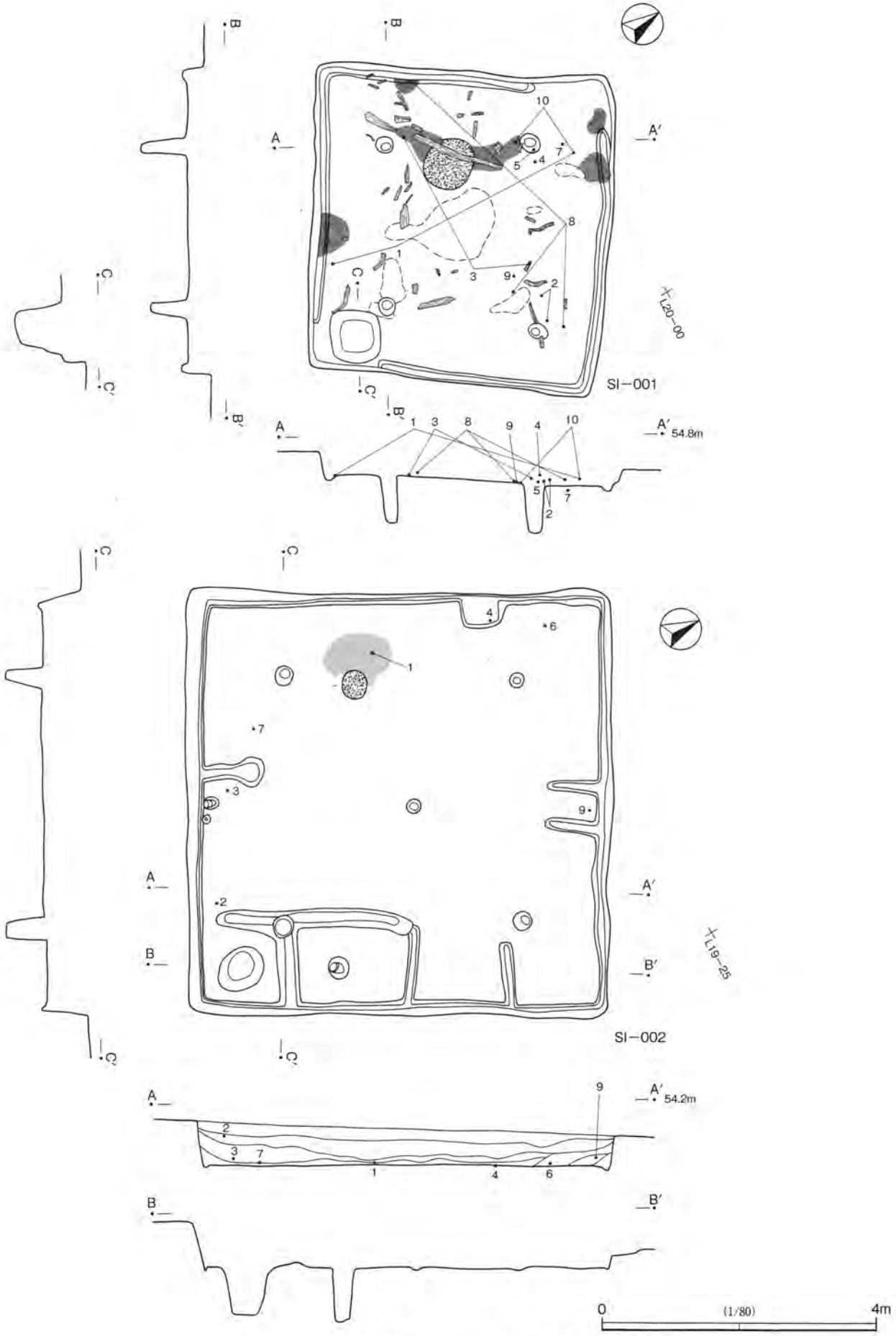
２．竪穴住居跡

SI－001（第127図、図版3）

調査区南側、K20－17付近に位置する。SI－021とSI－026を切っている。規模は長軸4.6m、短軸4.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－58°－Wを指し、床面積は21.5㎡を測る。床面はほぼ平坦であり、白色の粘質土の混じった土でしまっている。南東コーナーと北東コーナーを欠くが、５～８㎝の壁溝がほぼ全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。径が0.25m前後と小規模であるにもかかわらず、深さは0.6m～0.7mと深い。南西コーナーには一辺0.8mほどの貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西の柱穴間に位置する。長軸0.77m、短軸0.70mとほぼ正円に近い形状を呈している。炉の周辺を中心として、床面全体に焼土と炭化材が広範囲に分布しており、焼失住居と考えられる。

SI―002（第127図、図版3）

調査区南西部、L19－74付近に位置する。SI－010、SI－015、SI－027、SI－063と重複している。SI－010はSI－063を切っており、SI－063はSI－027に切られている。SI－002は全てを切っている。規模は長軸6.0m、短軸5.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－62°－Wを指し、床面積は47.0㎡を測る。



第127図　SI－001・SI－002

床面はほぼ平坦であり、硬化面の確認はできなかった。壁溝は広く14cm前後を測り全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。南西コーナーには長軸0.9m、短軸0.8mの楕円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西の柱穴間に位置する。長軸0.74m、短軸0.55mの楕円形を呈している。この住居には間仕切りと思われる短い溝が各壁にそれぞれ確認される。また南西コーナーの貯蔵穴を囲むように土手状の高まりが設定され、その東側に平行に位置する入り口に伴うと考えられるピットも同様に土手状の高まりに囲まれる。

SI―003（第128図、図版3）

調査区南西部、M20－00付近に位置する。SI－046とSI－101を切っている。規模は長軸6.0m、短軸5.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－62°－Wを指し、床面積は47.0㎡を測る。床面はほぼ平坦であり、硬化面の確認はできなかった。壁溝は広く14cm前後を測り南角付近を除き全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。南西コーナーには長軸0.9m、短軸0.8mの楕円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西の柱穴間に位置する。長軸0.74m、短軸0.55mの楕円形を呈している。

SI―004（第129図、図版4）

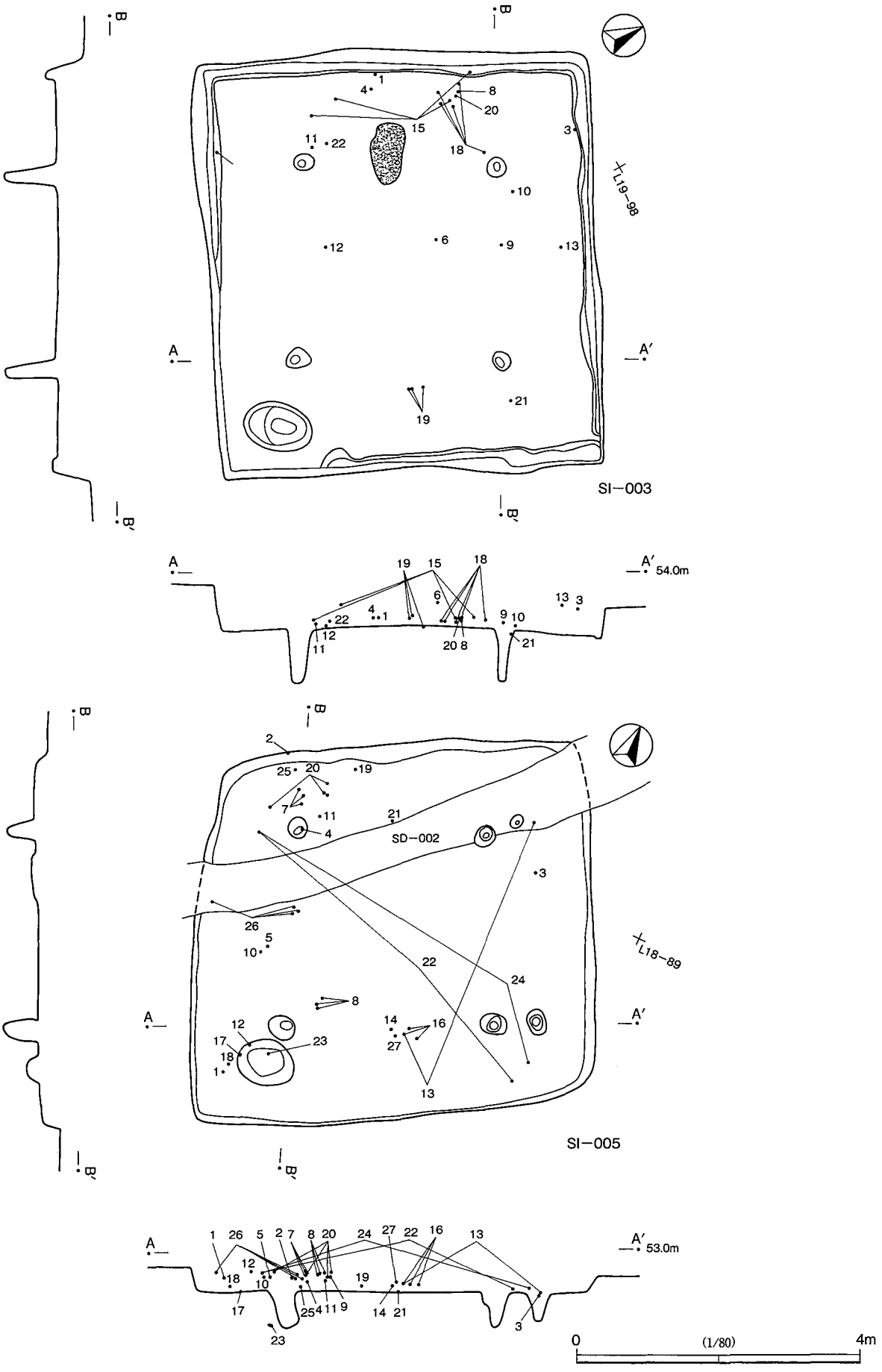
調査区中央より南西側のL19－05付近に位置する。SI－013、SI－041、SI－044、SI－047、SI－060と重複している。SI－041はSI－047に切られ、SI－060はSI－044に切られている。SI－004は全てを切っている。規模は長軸7.3m、短軸7.1mを測り正方形を呈する。主軸方向はN－44°－Wを指し、床面積は53.4㎡を測る。床面は小さな凸凹が認められるものの、全体に硬く踏み込まれている。壁溝は幅10cm前後で全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。炉は北側の柱穴間に並んで２か所認められる。Aは長軸0.9m、短軸0.6mの楕円形、Bは長軸0.62m、短軸0.54mのほぼ円形を呈している。掘り込みはないものの火床面が激しく焼土化している。また、２か所に鍛冶炉が検出された。ほぼ中央部と南東壁に近い位置である。これらのことから、この住居跡は立て替えの可能性が高い。南西コーナーには長軸0.89m、短軸0.74mの楕円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。遺物を見ると床面または直上からの出土で、西側に集中している。遺物は全体的に被熱しているものの、焼失住居とは考えられないため、一括の投げ入れが考えられる。羽口が第１鍛冶炉の東側で検出された。床面直上からの出土である。

SI―005（第128図、図版4）

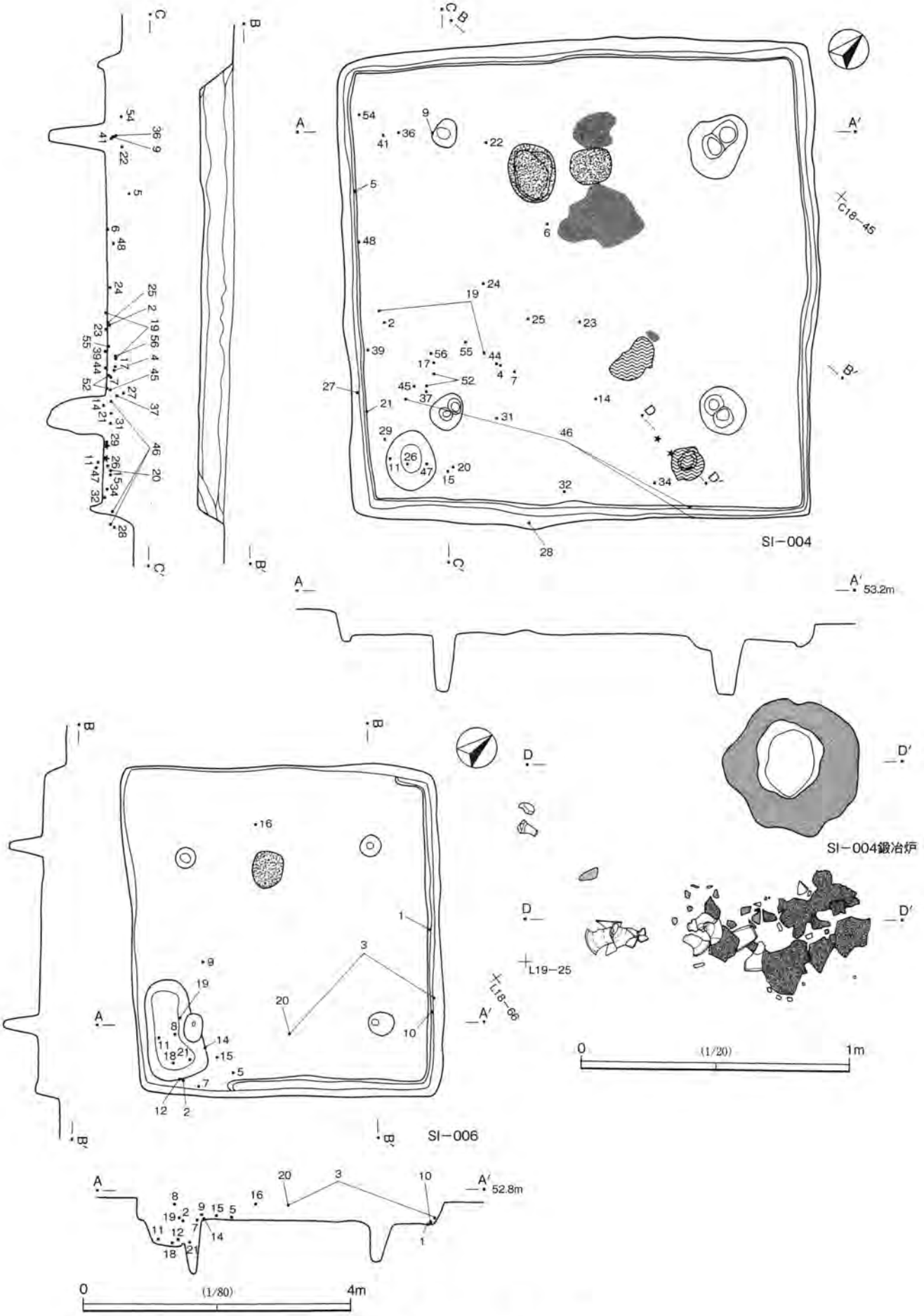
調査区中央よりやや南西で、L19－06付近に位置する。SI－047、SI－060、SI－109、SI－114、SD－002と重複している。SI－109はSI－114を切っており、SI－005は重複住居全てを切っているが、SD－002に切られている。規模は長軸5.6m、短軸5.3mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－62°－Wを指し、床面積は29.2㎡を測る。床面はほぼ平坦であり、硬化面の確認はできなかった。壁溝は確認されない。柱穴は対角線上に４本配置される。南コーナーには長軸0.8m、短軸0.7mの正円に近い形状を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は確認されなかった。遺物は、床面直上のものが少なく、覆土中層から上層にかけてのものが多い。出土土器の様相からは、器台・高杯など前期の特徴があるものの、甕類はむしろ中期に近くなる。出土位置からは本住居がどの時期に構築されたものか判断できないが、前期の住居内に中期の遺構が掘り込まれた可能性も想定される。

SI―006（第129図、図版4）

調査区西側、L18－55付近に位置する。SI－029、SI－030、SI－041、SI－048を切っている。規模は長軸5.0m、短軸4.6mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－55°－Wを指し、床面積は23.9㎡を測る。床面はほ



第128図　SI－003・SI－005



第129図　SI－004・SI－006

ぼ平坦であり、硬化面は部分的に認められるが範囲としては確認できなかった。壁溝は東側と北側の壁に検出されたが、全周はしない。柱穴は対角線上に４本配置される。南西コーナーには長軸1.5m、短軸0.7mの長方形を呈する貯蔵穴が確認された。炉は北西の柱穴間に位置する。長軸0.52m、短軸0.48mの楕円形を呈している。掘り込みは僅かで、火床部のみの残存である。

SI―007（第130図、図版5）

調査区南端、L20－65付近に位置する。SI－042を切っている。北東壁は溝に切られて検出されなかった。規模は長軸4.5m、短軸4.2mを測り、正方形を呈する。主軸方向はN－39°－Wを指し、床面積は20.8㎡を測る。床面はほぼ平坦であり、硬化面は認められなかった。壁溝は検出されない。柱穴は対角線上に４本配置される。南西コーナーには長軸0.85m、短軸0.72mの楕円形の貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西の柱穴間より壁際に寄って位置する。長軸0.48m、短軸0.20mの楕円形を呈している。

SI―008（第130図、図版5）

調査区西側、L18－45付近に位置する。SI－019に切られている。規模は東西方向のみ確認でき、4.3mを測り、ほぼ正方形を呈すると思われる。主軸方向はN－64°－Wを指す。床面は特に硬くなる面の広がりは捉えられないものの、平坦に構築されている。壁溝は確認されなかった。柱穴は認められない。南コーナーには半径0.6mの円形を呈する貯蔵穴が確認された。炉は火床部のみの確認にとどまったが、北東壁よりの中央に位置する。

SI―011（第130図、図版6）

調査区南西部、M19－20付近に位置する。表土を除去した段階で、遺物が多量に出土している所が認められ、住居として検出した。SI－050、SI－060、SI－062、SI－075と重複している。多数の住居との重複により、壁は南側で検出されたにとどまる。検出面から床面まではきわめて浅い。規模は長軸4.7mでほぼ正方形を呈するのではないかと思われる。主軸方向はN－76°－Wを指す。床面は柔らかな濁ったロームに設定され、硬化面の広がりは特定できなかった。壁溝、柱穴は検出されない。炉は北西の柱穴間より壁際に寄って位置する。長軸0.59m、短軸0.40mの楕円形を呈している。掘り込みはほとんど認められなかった。

SI－015（第131図、図版6）

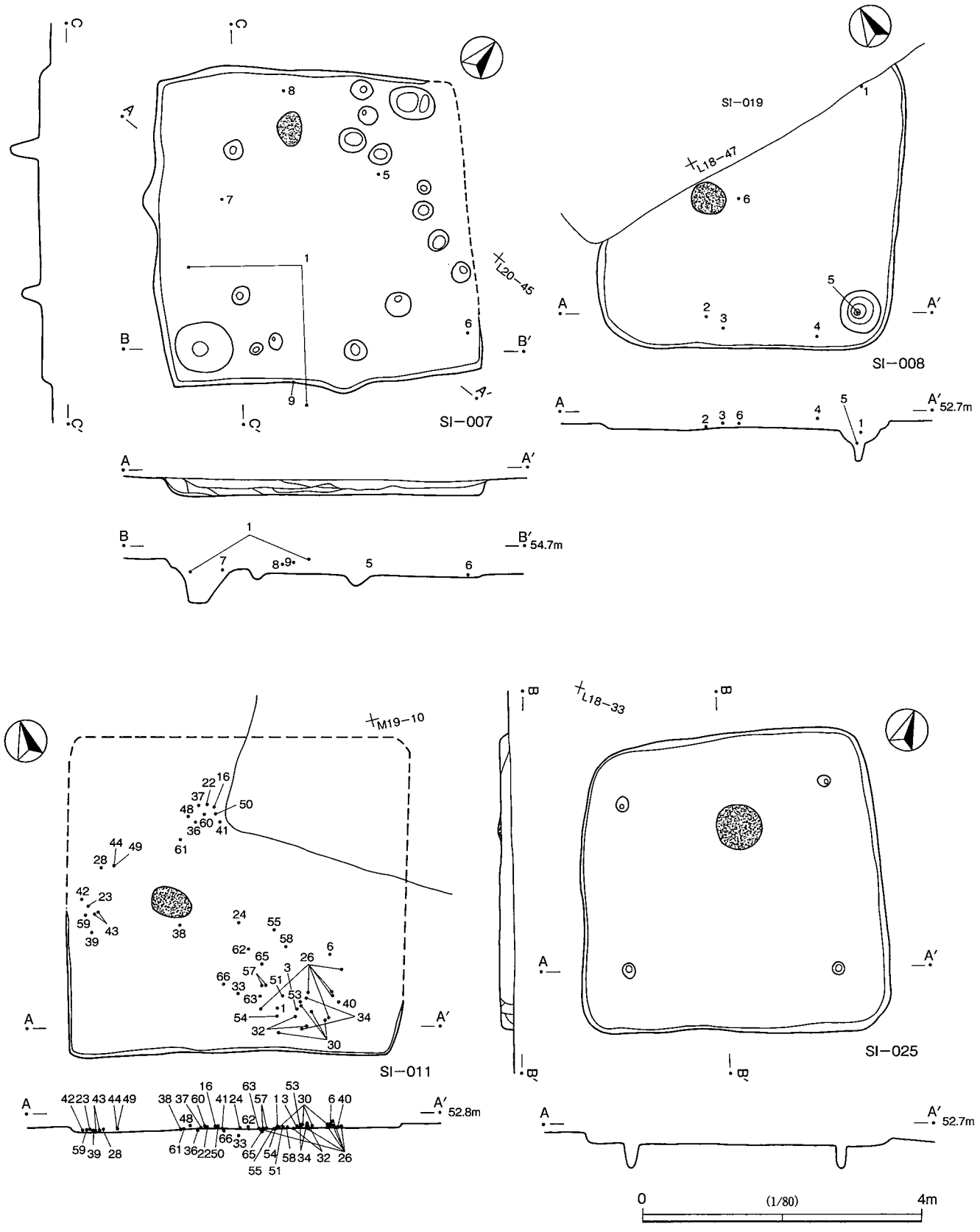
調査区西側、L19－75付近に位置する。SI－002が本遺構の床面を切るかたちで構築されているため、東側の一部のみの遺存である。規模は一辺6.5mを測り、ほぼ正方形を呈すると思われる。主軸方向はN－28°－Wを指す。壁溝は南西の壁面で認められた。粘土層の壁の立ち上がりも検出された。ピットは４基検出されたが、いずれも浅く柱穴とは認められない。

SI－025（第130図）

調査区西側L18－33付近に位置する。規模は長軸4.4m、短軸4.3mでほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－21.5°－Wを指す。硬化面の範囲は特定できなかったが、中央部は壁寄りに比べ硬い。壁溝、柱穴は検出されない。炉は中央より北西寄りに位置する。床面から僅かな掘り込みがあり、火床面は赤く変色している。一辺0.64mの円形を呈している。遺物は覆土中から、小さな破片が出土したに過ぎない。

SI－028（第131図、図版8）

調査区中央部、M18－85付近に位置する。SI－018の弥生時代の住居を調査中に検出したため、壁のプランは不明瞭であった。そのため規模などは不明であるが、炉と貯蔵穴が遺存するため、プランを復元し



第130図　SI－007・SI－008・SI－011・SI－025

ている。炉は火床部のみが検出された。貯蔵穴は南コーナーに存在する。方形を呈しており、長軸0.62m、短軸0.46m、深さ0.36mを測る。

SI－029（第131図）

調査区西部、L18－54付近に位置する。西側約1/4は調査区外である。SI－048を切り、SI－006に南東コーナーが切られている。プランは正方形を呈すると思われる。主軸方向はN－36°－Wを指し、硬化面は住居中央部に広く確認された。壁溝は認められない。柱穴は対角線上に4本配置されたと考えられるが、北西部の1本は調査区外のため確認できず3本検出された。炉はほぼ中央に火床のように赤く硬化した面として遺存する。掘り込みは全く認められない。

SI－030（第132図）

調査区西側、L18－65付近に位置する。SI－006に南西コーナーが切られている。規模は一辺0.34mが確認され、おそらく正方形を呈すると思われる。主軸方向はN－6.5°－Wを指し、硬化面の広がりは明瞭でない。壁溝や柱穴は認められなかった。炉は中央よりやや北寄りに位置するが、掘り込みははっきりせず、長軸0.58m、短軸0.40mを測る火床部のみが残る。遺物は入口周辺に散在している。

SI－032（第132図）

調査区最北端N16－41付近に位置する。北東壁は近世の溝により削平されている。規模は一辺4.2mを測り、ほぼ正方形を呈すると思われる。焼土が南東壁近くに確認されているものの、炉は認められず、主軸方向は不明である。柱穴は南西壁側に2本確認された。遺物の出土は少ないものの、床面から完形の杯が1点検出された。

SI－034（第132図）

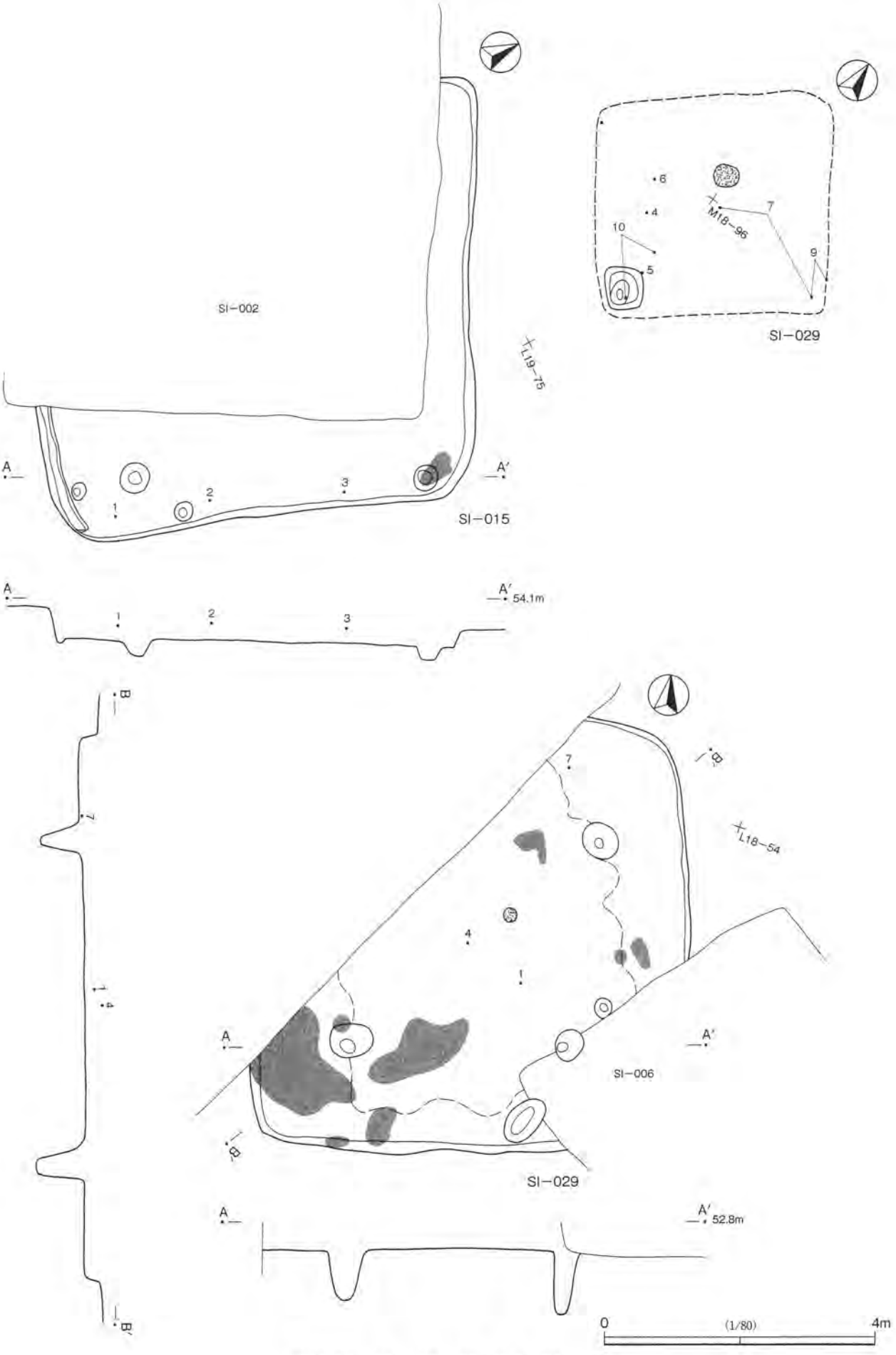
調査区北部、M16－59付近に位置する。SI－054、SI－068を切っている。北西壁側2/3程度は調査区外である。規模は一辺のみの遺存で6.4mを測る。主軸方向はN－34°－Wを指す。壁溝は確認されなかった。柱穴は南東壁近くに2本検出された。掘り込みが小さいにもかかわらず、深さのあるのが特徴である。南東コーナーには壁面際に、長軸0.99m、短軸0.95mのほぼ方形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は確認されない。貯蔵穴に近い柱穴に接して、土手状の高まりが検出された。南東壁に平行した状態である。全体に焼土と炭化物が確認され、焼失住居と考えられる。

SI－035（第132図）

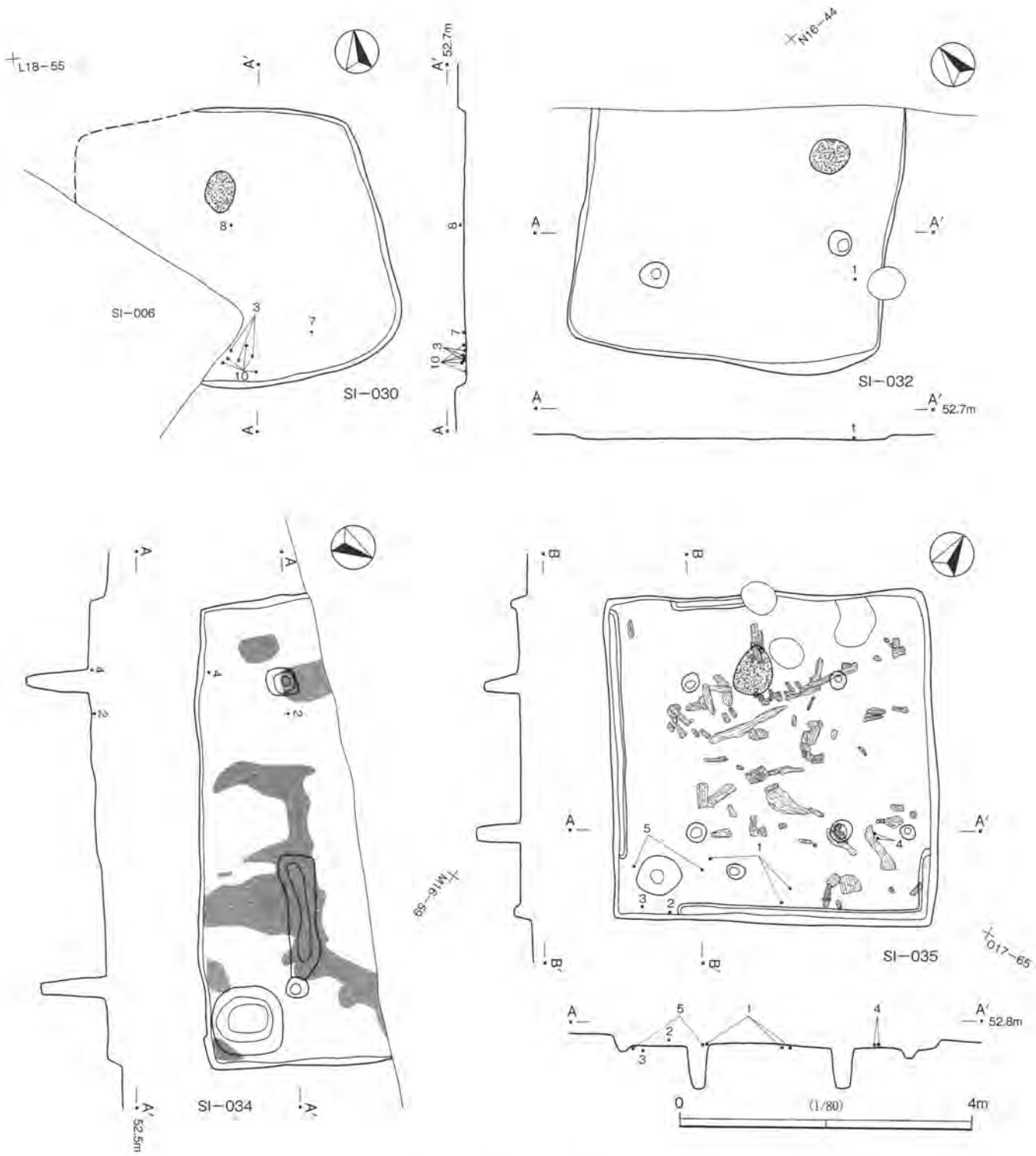
調査区北東部、O17－52付近に位置する。規模は長軸4.6m、短軸4.4mを測る正方形を呈している。主軸方向はN－32°－Wを指し、床面積は20.0㎡を測る。床面は全体に硬い。壁溝は南東壁からコーナー南東コーナー付近、南西壁の一部と北西壁の一部で確認されている。柱穴は対角線上に4本検出された。掘り込みが小さいのに対して、0.6m弱と深さがある。南西コーナーに、長軸0.61m、短軸0.54mの楕円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西側の柱穴間に位置している。長軸0.69m、短軸0.52mの楕円形を呈しており、僅かな掘り込みが確認された。多くの炭化物が散在し、焼失住居と考えられる。

SI－038（第133図）

調査区西側、L18－17付近に位置する。SI－008、SI－019、SI－039、SI－096を切っている。規模は長軸5.8m、短軸5.3mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－47°－Wを指し、床面積は30.1㎡を測る。床面は中央部から南側が不明瞭で、柱穴や硬化面の確認はできなかった。壁溝も確認されなかった。南コーナーには長軸0.74m、短軸0.63mのほぼ円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西部に位置し、長軸0.52m、



第131図　SI－015・SI－028・SI－029



第132図　SI－030・SI－032・SI－034・SI－035

短軸0.52mの円形を呈している。炉の東側と貯蔵穴の付近に炭化材や炭化粒が分布している。遺物の出土量は多く東側半分に集中している。

SI－040（第133図、図版9）

調査区西側、L17－96付近に位置する。規模は長軸4.1m、短軸4.0mを測り正方形を呈する。主軸方向はN－58°－Wを指し、床面積は16.6㎡を測る。硬化面は確認できなかった。床面上に焼土が検出されたが、

覆土中にも小さな炭化材や焼土粒を多く含んでいる。焼失住居の可能性が考えられる。壁溝は確認されなかった。南コーナーには長軸0.51m、短軸0.49mのほぼ円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。北西壁寄りに炉跡と思われる焼土が確認されたが、掘り込みはほとんど認められなかった。床面と貯蔵穴内から、遺存状態の良好な土器が出土しているが、全体としては遺物は僅かである。

SI－044（第133図、図版10）

調査区西側、L19－16付近に位置する。SI－004に切られ、SI－060を切っている。規模は長軸3.9m、短軸3.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－89.5°－Wを指し、床面積は12.4㎡を測る。硬化面は部分的に確認された。柱穴、壁溝は検出されなかった。炉は南西側に偏って位置しており、支脚が3本立った状態で出土した。長軸0.63m、短軸0.50mで、やや楕円形を呈している。掘り込みは浅く、火床面は貼床中に設けられている。床面中央から南壁にかけて、焼土の分布が認められた。

SI－045（第134図、図版10）

調査区西側、L19－48付近に位置する。SI－004に切られ、SI－090、SI－120を切っている。規模は長軸6.2m、短軸5.6mを測り、長方形を呈する。主軸方向はN－59°－Wを指し、床面積は29.7㎡を測る。硬化面の範囲は捉えられないが、床面は平坦である。柱穴は対角線上に4本配置される。掘り形は小さいが、深さがある。壁溝は南西側の約半分で確認された。炉は南西側の柱穴間に位置している。長軸0.58m、短軸0.45mの楕円形を呈している。掘り込みは浅く、床面が赤く変色している程度である。南コーナーに貯蔵穴が掘り込まれている。長軸0.60m、短軸0.59mの円形を呈している。周囲は床面より僅かに低くなっている。貯蔵穴の東側、南東壁からコの字形に土手状の高まりが検出された。入口に伴う梯子ピットを囲むように築かれている。ピットは長軸0.22m、短軸0.18mの楕円形である。覆土は粘土質の黒褐色の単一層で、一気に埋め戻されたことが考えられる。遺物は南西壁下と貯蔵穴の周囲から出土したに留まる。

SI－051（第134図、図版11）

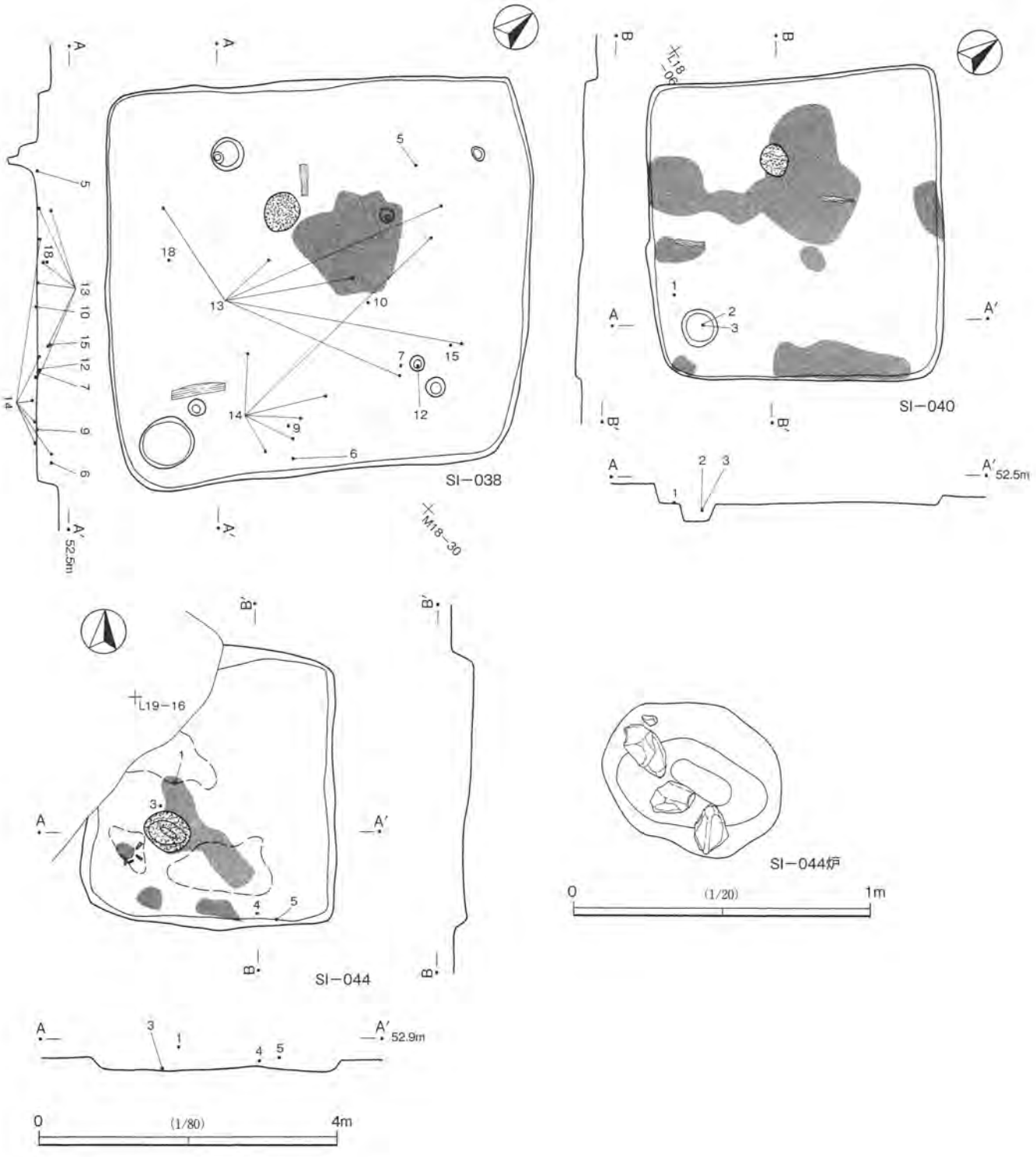
調査区西側、M18－34付近に位置する。SI－091、SI－092、SI－103、SI－111、SI－127、SI－139を切っている。規模は長軸6.8m、短軸6.6mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－42°－Wを指し、床面積27.0㎡を測る。床面は全体に緩やかな凸凹で、硬化面は確認されなかった。柱穴は対角線上に4本確認された。4本とも掘り込みは小さいものの、比較的深さがある。南コーナーには長軸1.29m、短軸1.10mの長方形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。二段の掘り込みになっていたと考えられる。炉は北西部に位置する。長軸0.52m、短軸0.52mの円形を呈している。炉の東側と貯蔵穴の付近に炭化材や炭化粒が分布している。南コーナーの柱穴には、炭化した柱が残存している。周辺の遺構の中で最も新しい住居跡であると思われる。

SI－052（第135図、図版11）

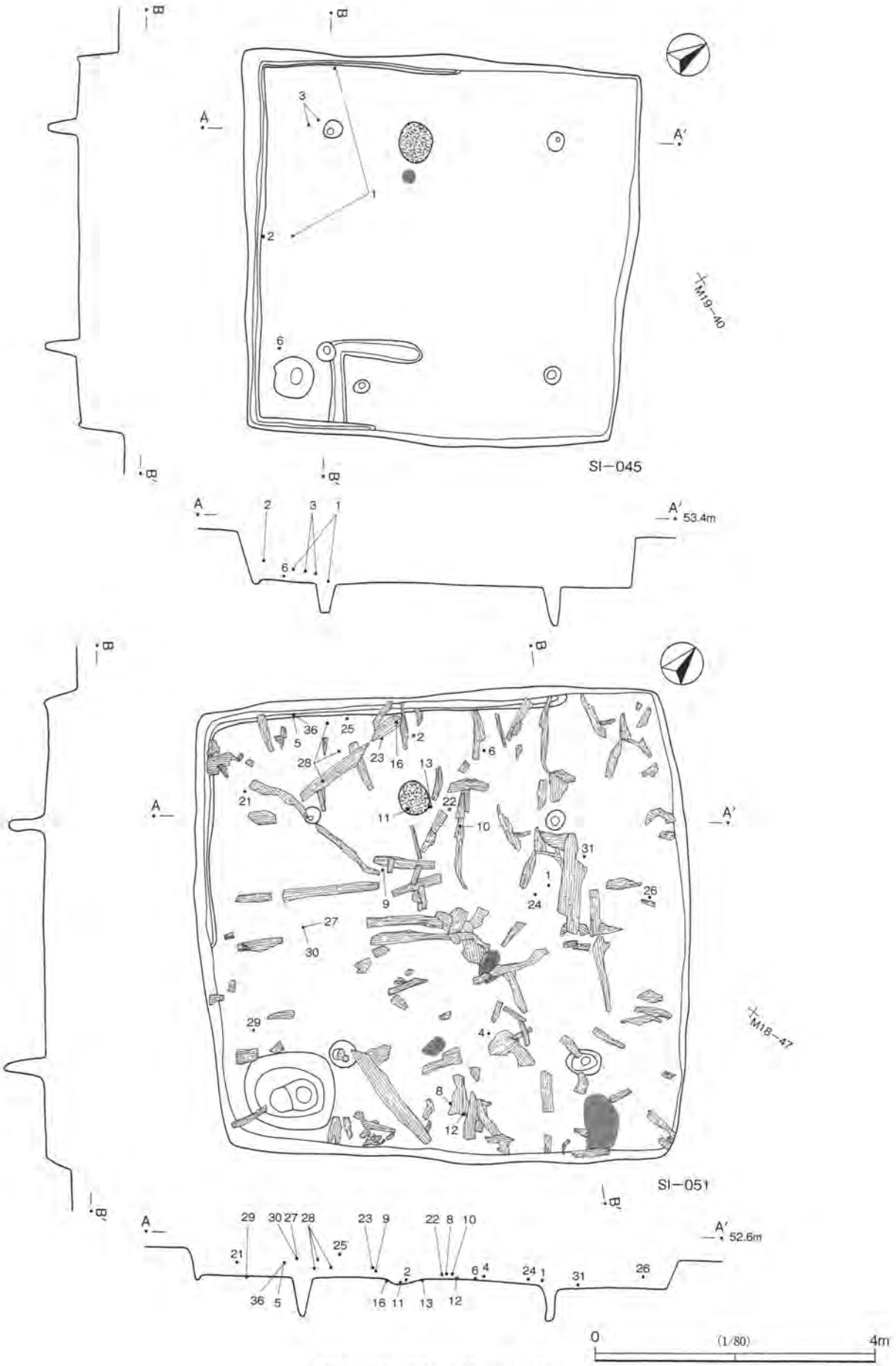
調査区東側、O18－01付近に位置する。SI－058を切っている。規模は長軸4.3m、短軸3.9mを測り、楕円形を呈する。主軸方向はN－77°－Eを指し、床面積13.8㎡を測る。炉や柱穴は確認されなかった。遺物は中央やや北側から集中して検出され、床面からの出土である。

SI－058（第135図）

調査区東側、O18－08付近に位置する。SI－052に切られている。規模は不明である。柱穴は確認されなかった。炉は北よりの位置に確認されたが、掘り込みは認められなかった。遺物は中央から北側に集中して検出され、床面からの出土である。炭化材が全体に散在しており、焼失住居と考えられる。



第133図　SI－038・SI－040・SI－044



第134図　SI－045・SI－051

SI－059（第135図、図版11）

調査区西側、M18－26付近に位置する。規模は長軸4.2m、短軸4.0mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－18°－Wを指し、床面積17.1㎡を測る。床面は柔らかく、硬化面は確認されなかった。柱穴や壁溝は確認されなかった。炉は北側に寄って位置する。長軸0.45m、短軸0.30mの円形を呈している。住居の北側半分に、炭化材や焼土が分布している。焼失住居と思われる。

SI－062（第135図）

調査区西側、M19－01付近に位置する。SI－050、SI－082、SI－075を切っている。規模は南東壁を捉えられなかったため不明である。主軸方向はN－58°－Wを指す。柱穴は対角線上に4本確認された。壁は南西の一部から北西、北東に確認されたが、その他の部分は捉えられなかった。壁溝は確認されない。炉は北西側の柱穴間に位置する。長軸0.63m、短軸0.39mの楕円形を呈しており、掘り込みは浅い。

SI－064（第135図）

調査区南西側、M19－94付近に位置する。SI－061、SI－156を切っている。南東壁の大部分は調査区外になっている。規模は長軸3.5m、短軸3.3mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－33°－Wを指す。柱穴は3本検出されたが、対角線上に4本掘り込まれていると考えられる。炉や壁溝は確認されなかった。

SI－065（第136図）

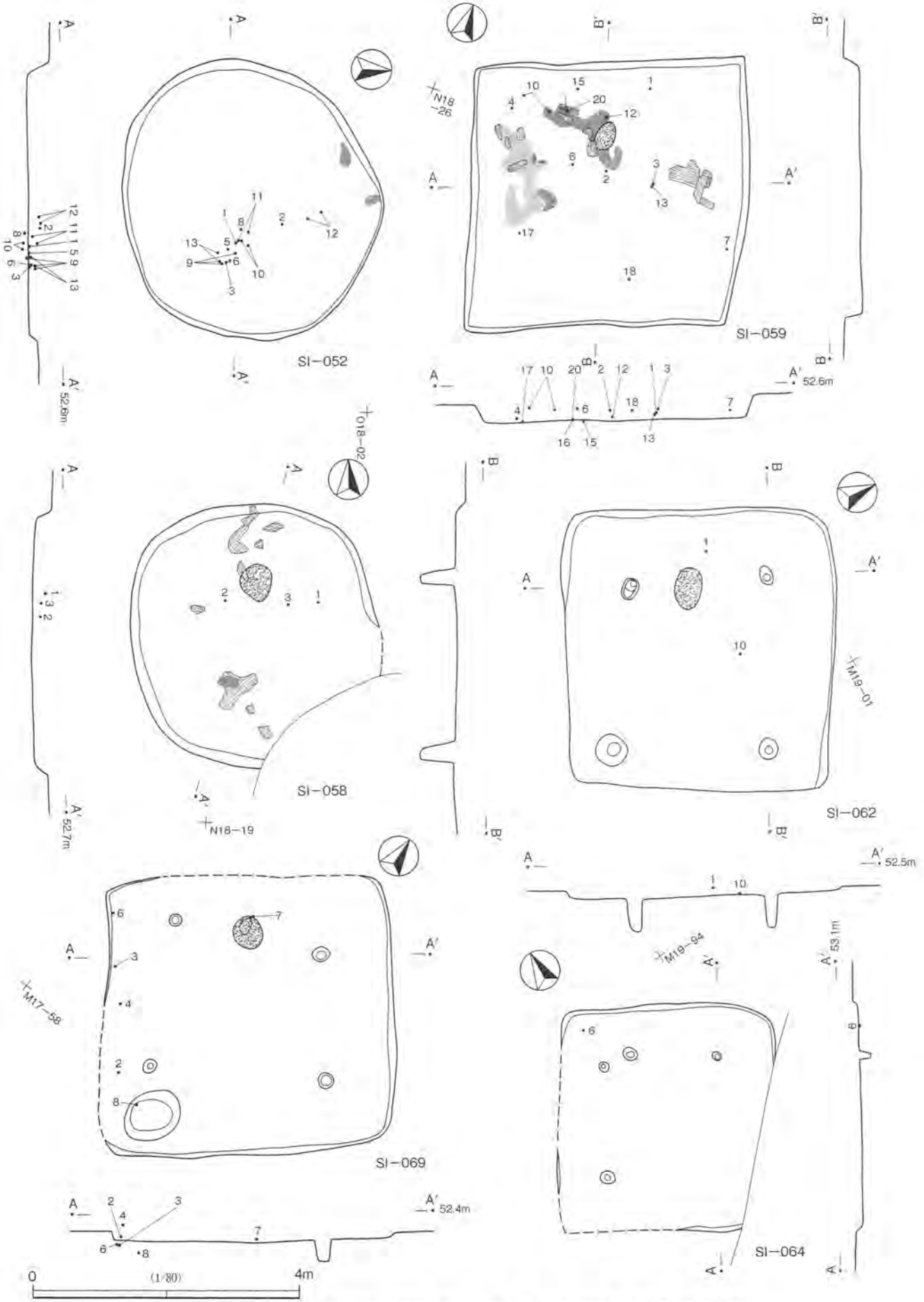
調査区南西部、K19－74付近に位置する。SI－023を切っている。南西壁の一部のみの遺存であるが、柱穴や貯蔵穴の位置から、一辺5.8mの方形の住居であると考えられる。主軸方向はN－50°－Wを指す。床面は粘土層に構築されているが、硬化面は確認されなかった。北壁付近の床面から、炭化材や焼土が検出された。柱穴は対角線上に４本配置される。南西コーナーには長軸0.59m、短軸0.52mの長方形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西側の柱穴間に位置する。直径0.55mの円形を呈している。貯蔵穴の北側に間仕切りと思われる溝が検出された。住居跡全体に炭化材や焼土が散在しており、焼失住居の可能性がある。遺物量は少ないが北側に集中して検出された。

SI－067（第136図）

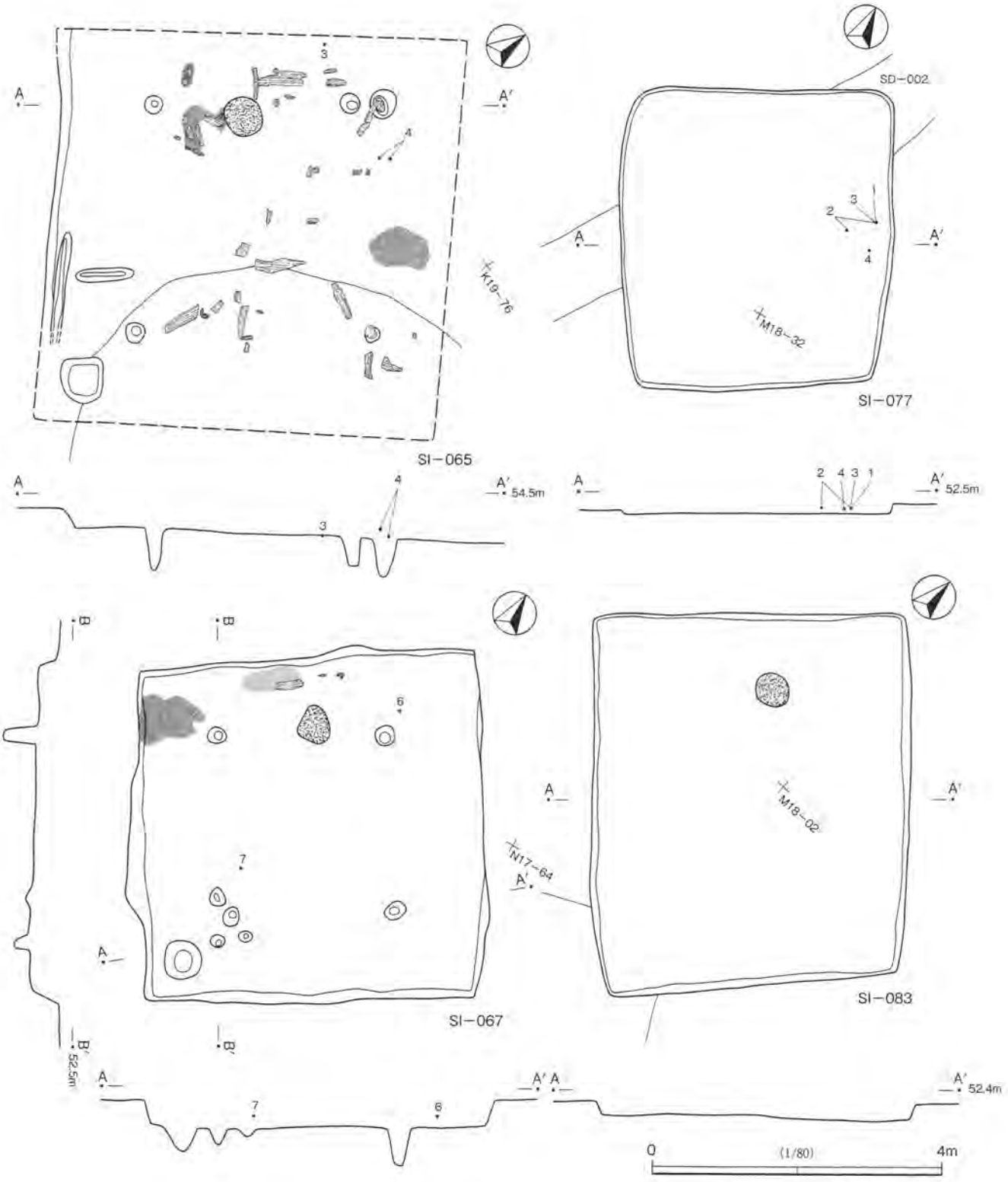
調査区南西部、N17－61付近に位置する。SI－124、140、141を切っている。長軸4.8m、短軸4.7mの正方形を呈している。主軸方向はN－33.0°－Wを指す。床面は礫層に構築されているが、硬化面は確認されなかった。北壁付近の床面から、炭化材や焼土が検出された。柱穴は対角線上に４本確認され、南西コーナーには長軸0.54m、短軸0.53mの円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西側の柱穴間に位置する。長軸0.52m、短軸0.35mの楕円形を呈している。土器は床面または覆土下層からの検出である。

SI－069（第135図）

調査区北側、M17－39付近に位置する。SI－094、SI－114を切っている。SI－132とも切りあっているが、遺物から推測すると本遺構がSI－132を切っていると思われる。規模は一辺4.3mを測る正方形を呈している。主軸方向はN－40°－Wを指し、床面積17.0㎡を測る。床面は礫が露出しており、貼床が構築されていたと考えられる。柱穴は対角線上に４本確認された。南コーナーには長軸0.92m、短軸0.72mの楕円形を呈する貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北西部に位置する。長軸0.50m、短軸0.44mの楕円形を呈し、掘り込みは浅い。覆土は炭化物や焼土を含む黒色土である。



第135図　SI－052・SI－058・SI－059・SI－062・SI－064・SI－069



第136図　SI－065・SI－067・SI－077・SI－083

SI－077（第136図）

調査区西側、M18－20付近に位置する。SI－083、SD－002に切られている。規模は長軸4.2m、短軸3.8mを測る長方形を呈している。主軸方向はN－27.5°－Wを指し、床面積16.7㎡を測る。硬化面の確認はできなかった。柱穴、壁溝は検出されない。SD－002に大きく切られており、炉も溝によって削平されたと思われる。

SI－083（第136図）

調査区西側、M17－91付近に位置する。SI－077、SI－119、SI－134を切っている。規模は長軸5.2m、短軸4.4mを測る長方形を呈している。主軸方向はN－42.5°－Wを指し、床面積は20.4㎡を測る。柱穴や壁溝は確認できなかった。炉は南西壁に寄って検出されたが、掘り込みは浅く、火床部も余り赤く変色してはいなかった。

SI－086（第137図、図版12）

調査区北側、M17－56付近に位置する。SI－112、132、150を切っている。規模は長軸8.0m、短軸7.6mのほぼ正方形を呈している。主軸方向はN－30.5°－Wを指し、床面積36.3㎡を測る。C区では最大規模の住居である。床面は礫が露出しており、硬化面の確認はできなかった。貼床が構築されていたと考えられる。柱穴は対角線上に４本確認された。掘りこみが小さいものの深さのある柱穴である。南西コーナーで貯蔵穴が確認された。長軸0.94m、短軸0.93mの隅丸の正方形を呈する。炉は2基検出された。南西側の柱穴間で、やや西側に寄って位置している。旧の１基は長軸0.55m、短軸0.36m、後に構築された１基は、長軸0.53m、短軸0.38mの楕円形を呈している。掘り込みは浅い。覆土中から炭化材や焼土が出土し、床面からも若干検出されている。土器の量は僅かであるが、覆土中から管玉や鉄器が出土している。

SI－093（第137図）

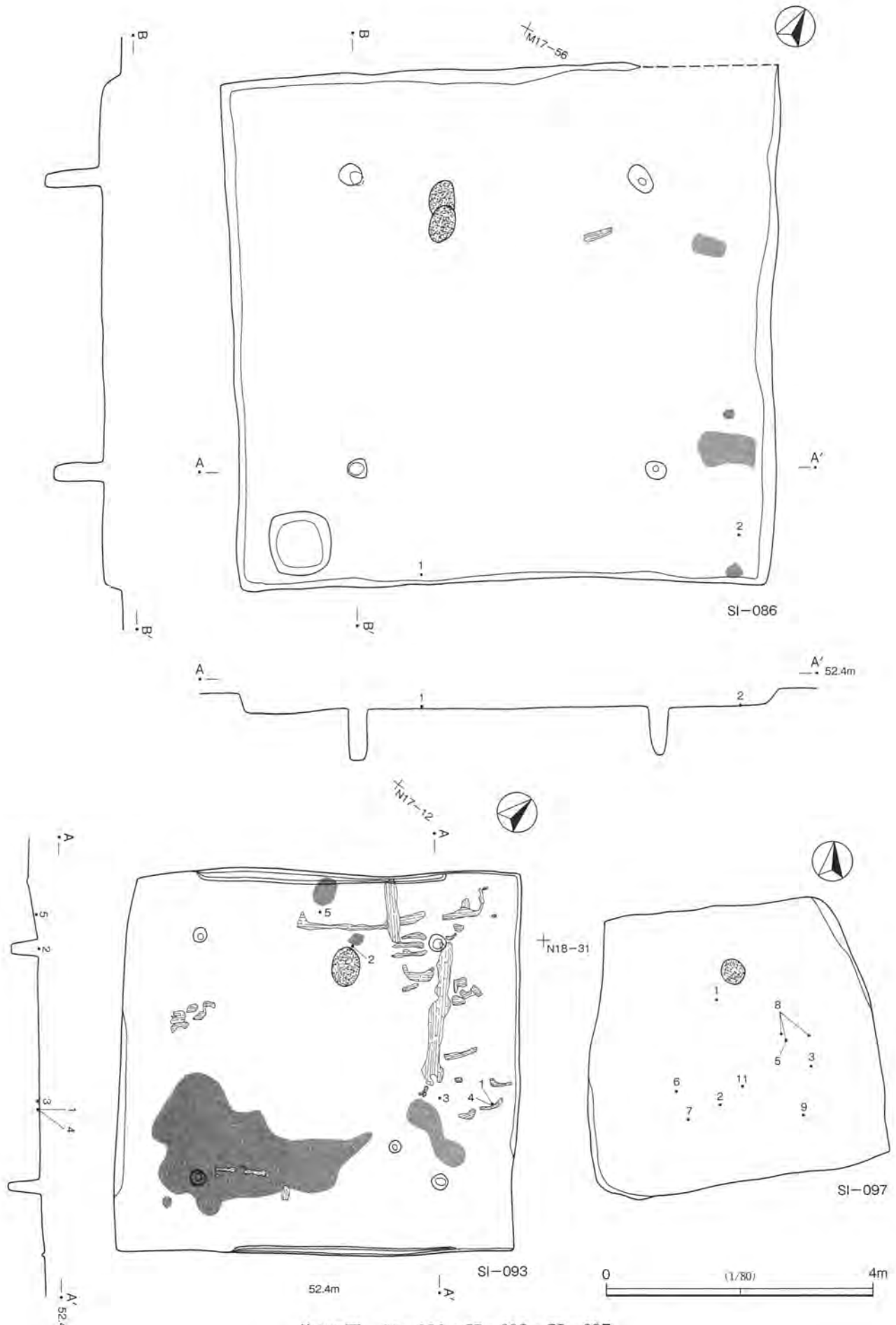
調査区南西部、N17－13付近に位置する。SI－070、073、094を切っている。規模は長軸7.3m、短軸6.1mの長方形を呈している。主軸方向はN－39.5°－Wを指す。床面は礫層に設定されている。硬化面は確認されなかった。柱穴は対角線上に４本配置される。炉は北西側の柱穴間に位置する。長軸0.59m、短軸0.40mの楕円形を呈している。掘り込みはほとんどない。火床部は赤く変色し硬化している。住居跡全体で炭化材と焼土が多量に検出された。炭化材の中には、屋根材と思われる長さのものも数本確認された。焼失住居であると思われる。壁溝は北西壁と南東壁の一部で確認されたのみである。

SI－097（第137図、図版13）

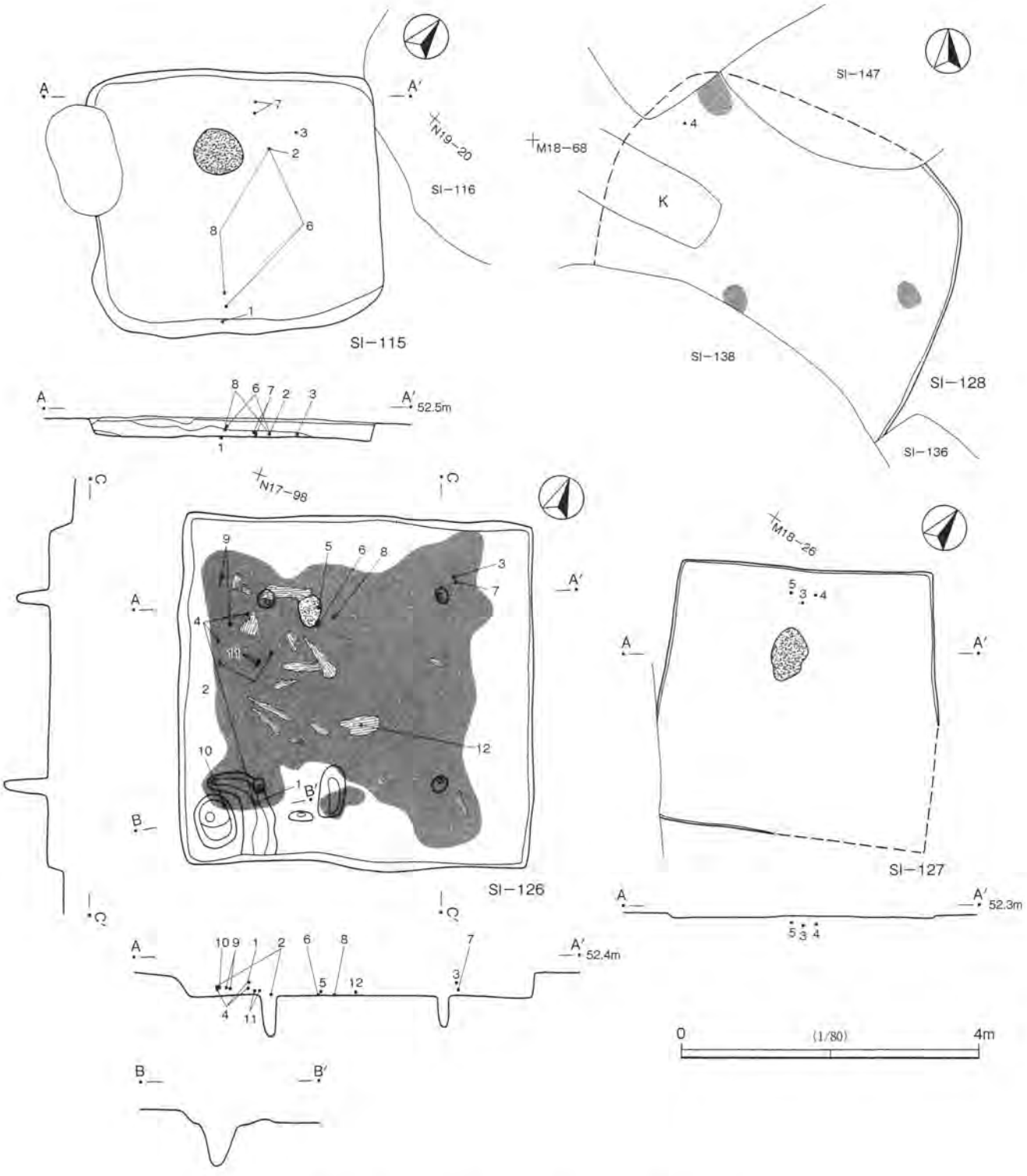
調査区中央、N18－31付近に位置する。平面的に方形のプランを検出したが、壁を捉えることはできなかった。主軸方向はN－3.0°－Wを指す。炉は北壁に寄った位置で検出された。直径0.36mの円形を呈している。掘りこみは僅かである。柱穴は確認されなかった。遺物は住居跡中央でドーナツ状に散在している。

SI－115（第138図）

調査区中央、M19－38付近に位置し、SI－116を切る。規模は長軸3.8m、短軸3.7mの正方形を呈している。主軸方向はN－50.0°－Wを指し、床面積14.6㎡を測る。硬化面の確認はできなかった。柱穴や壁溝は検出できなかった。炉は北西壁に寄って検出されたが、火床部のみである。遺物の出土量は少なく、住居跡全体に散在している。



第137図　SI－086・SI－093・SI－097



第138図　SI－115・SI－126・SI－127・SI－128

SI－126（第138図、図版14）

調査区中央、M17－98付近に位置する。SI－131、SI－146を切っている。規模は一辺4.8mの正方形を呈している。主軸方向はN－18.0°－Wを指す。硬化面の範囲は特定できなった。壁溝は検出されない。柱穴は対角線上に４本確認された。掘りこみが小さいが、比較的深さのある柱穴である。南東コーナーに貯蔵穴が掘り込まれている。長軸0.71m、短軸0.56mの楕円形を呈しており、深さは0.58mと深い。貯蔵穴を囲

むようにL字形の土手状の高まりが築かれている。炉は北西側の柱穴間に位置し、火床部のみの検出である。住居跡全体に炭化物と焼土の堆積が確認された。焼失住居と考えられるが、遺物の検出は僅かである。

SI－127（第138図）

調査区中央、M18－26付近に位置する。SI－139を切り、SI－051に切られる。規模は長軸3.6m、短軸3.5mの正方形を呈している。主軸方向はN－30.5°－Wを指す。床面はほぼ平坦であるが、硬化面は検出されなかった。柱穴や壁溝は確認されない。炉は北東壁に寄った位置で検出されたが、火床部のみである。

SI－128（第138図）

調査区中央、M18－61付近に位置する。SI－148に切られ、SI－138、SI－147を切っている。規模は不明、主軸方向はS－32.0°－Eを指している。柱穴や壁溝は確認できなかった。炉は火床部のみの検出にとどまった。東壁付近と北西コーナーに焼土が検出された。

SI－129（第139図）

調査区北側、M16－88付近に位置する。SI－073を切るが、SI－123との重複関係は明確ではない。規模は一辺6.5mのみ確認できた。主軸方向は不明である。壁溝や柱穴は確認できなかった。床面は礫層に構築されている。焼土が住居の中央で検出されたが、炉となる可能性もある。

SI－132（第139図、図版15）

調査区北側、M17－36付近に位置する。SI－086に切られている。SI－069とも重複関係にあるが、新旧の特定はできなかった。規模は長軸6.3m、短軸6.0mのほぼ正方形を呈している。主軸方向はN－19.5°－Wを指す。床面は礫層に構築され、硬化面は捉えられなかった。壁溝は検出されない。柱穴は対角線上に4本確認された。炉は北側の柱穴間に位置し、深さ8cmの掘り込みを有する。火床部は焼けて赤く変色している。床面直上に炭化物が広がっており、焼失住居の可能性がある。

SI－148（第140図）

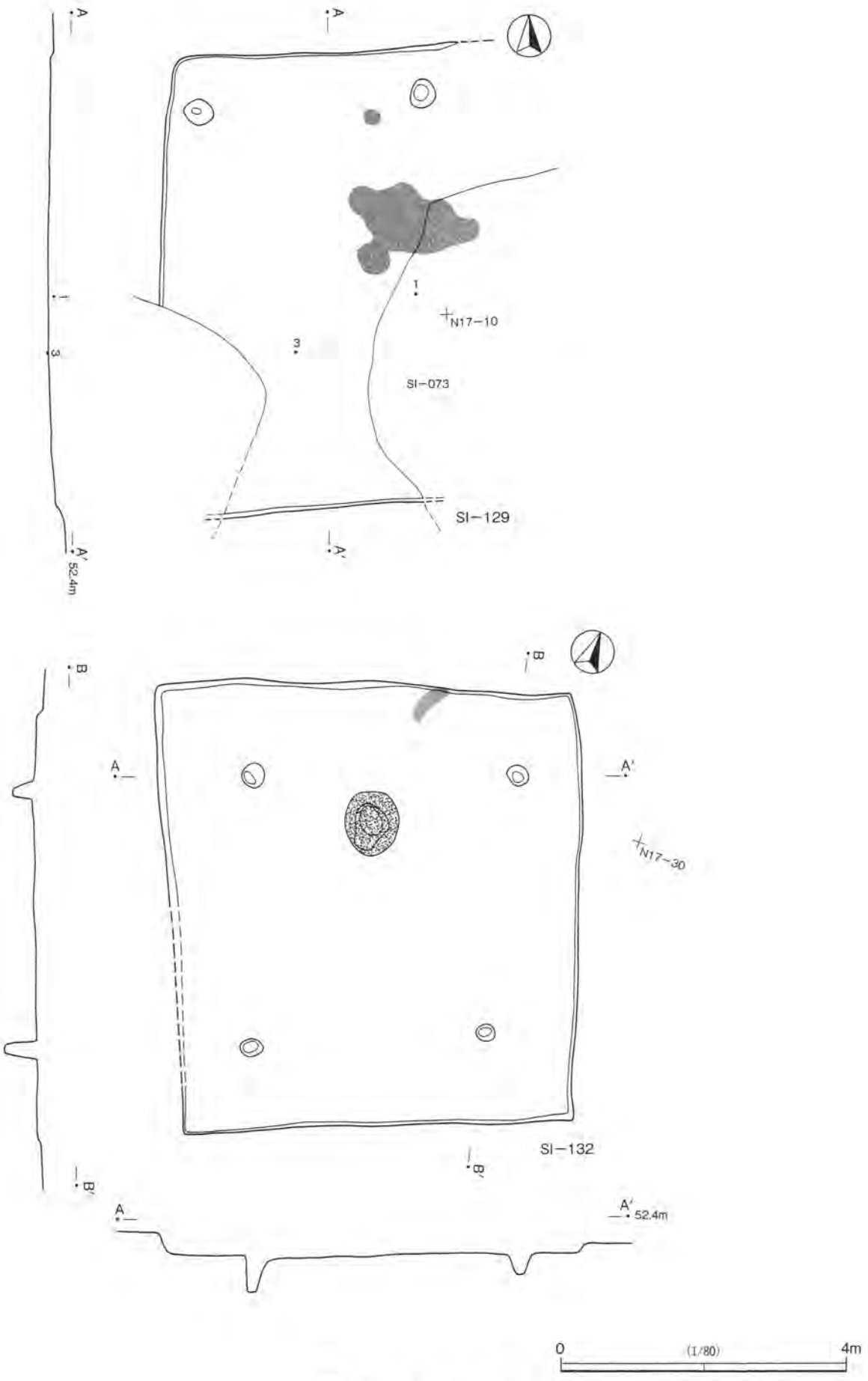
調査区中央、M18－38付近に位置する。SI－128、SI－139、SI－147を切っている。規模は長軸5.3m、短軸5.1mの正方形を呈している。主軸方向はN－54.0°－Eを指し、床面積26.3㎡を測る。硬化面は確認できなかった。壁溝は検出されない。柱穴は対角線上に4本確認された。南コーナーに長軸0.74m、短軸0.63mの貯蔵穴が掘り込まれている。炉は北東側の柱穴間で検出された。長軸0.69m、短軸0.49mの楕円形を呈している。火床部があまり焼けていないのが特徴である。炉の西側の覆土中から焼土が確認された。南西壁の半分は撹乱を受けている。遺物の検出は僅かである

SI－155（第140図）

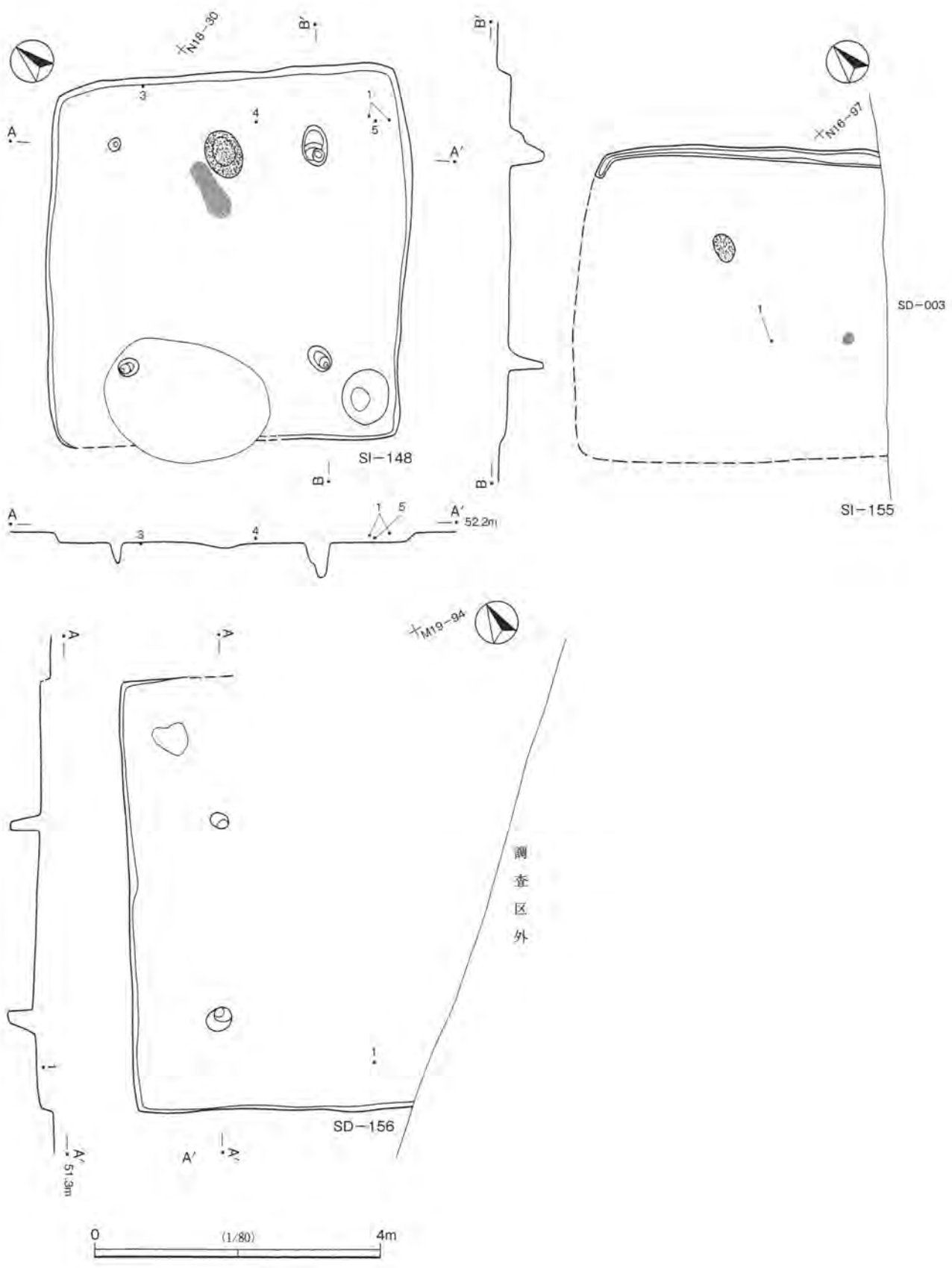
調査区北側、N16－86付近に位置する。SD－003に切られている。SI－071とも重複関係にあるが、新旧関係は不明である。北東側に壁溝が検出されたに過ぎない。主軸方向は炉の火床部と思われる焼土の検出により、N－44.5°－Eを指すと思われる。床面は礫層に構築されている。遺物はごく僅かの検出である。

SI－156（第140図）

調査区南側、M－91付近に位置する。SI－061、SI－064、SI－101を切っている。南西壁と北西壁の一部が確認された。南東側は調査区外である。柱穴は北西壁寄りに2本検出された。遺物の検出は少量である。



第139図　SI－129・SI－132



第140図　SI－148・SI－155・SI－156

竪穴住居跡出土土器

SI－001（第141図、図版59）

1は杯である。小さな底部が形成されており、口縁部にかけて僅かに内湾しながら、外上方に立ち上がる。2・5・6は壺で、2は口唇部が外上方に摘み上げられている。外面には煤の付着がみられる。5・6は折り返し口縁の壺で、口縁部のみの遺存である。7～9は甕である。9は口縁部を欠くものの、3点とも口縁が短く、くの字状に屈曲する形状を呈すると思われる。

SI－002（第141図、図版59）

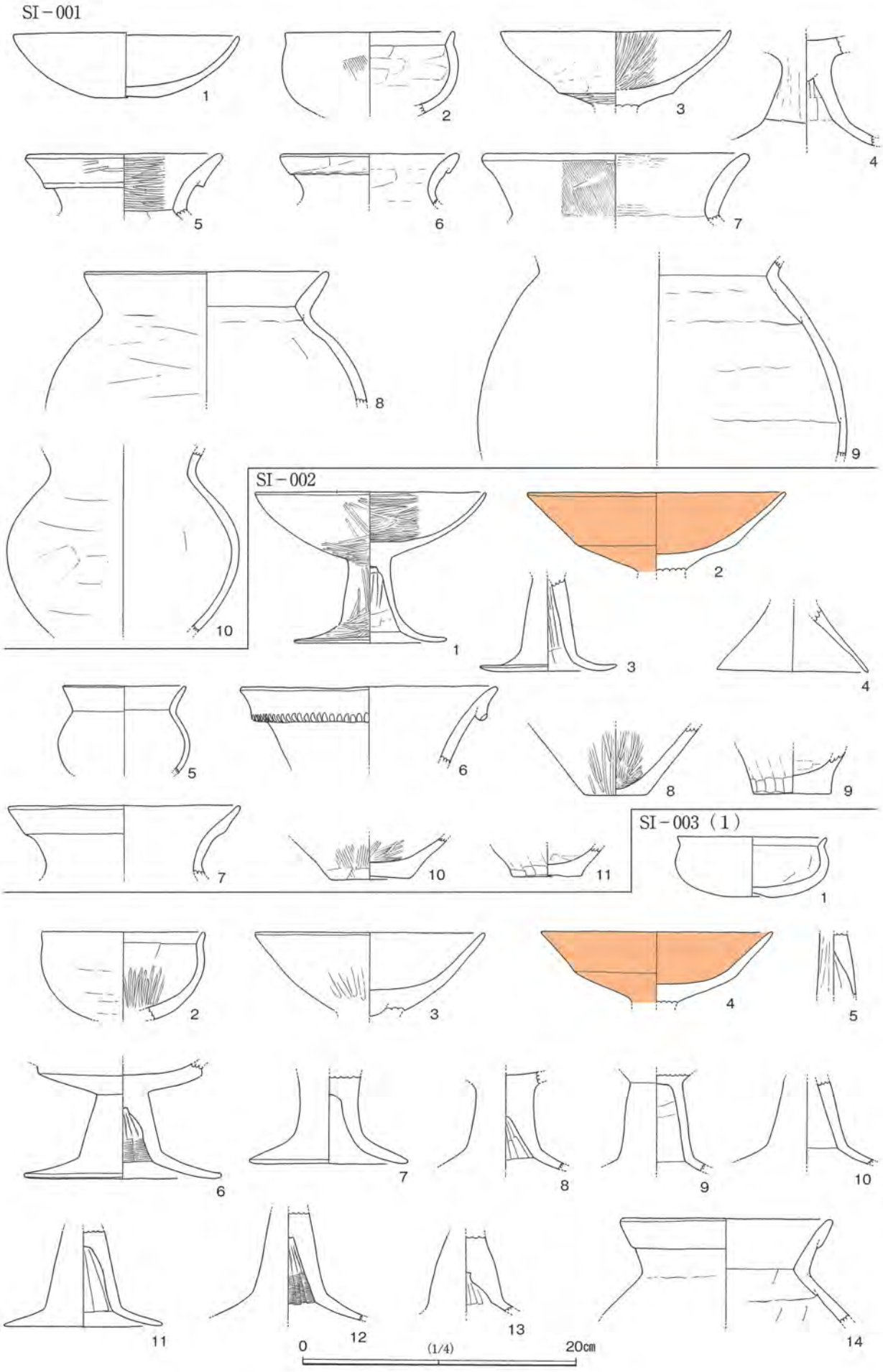
1～4は高杯である。1は本遺構の中で唯一遺存の良い遺物である。底部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる杯部で、脚柱部は下方に開く円錐形で、裾部との境に稜を有し、裾部が大きく開く。磨滅が著しいが全体にミガキが丁寧に施されている。2は杯部のみの遺存で底部と口縁部の境に若干の稜を有し、口唇部に向かって直線的に外上方に開く。3は脚部のみの遺存である。細く下方に開く円錐形の脚柱部で、裾部は大きく開き、端部は反り返る。5～7は壺である。5は小形の壺で口縁部が短く外反する。6は折り返し口縁の端部に、棒状工具でキザミを施しているタイプである。

SI－003（第141・142図、図版59）

1・2は小形の壺である。1は小さな上げ底の底部を有し、胴部は扁平で、口縁部が小さく外上方に摘み上げられている。磨滅が著しく調整の詳細は不明である。2は口唇部が僅かに摘みあげられる形状を呈している。3～13は高杯である。3は底部から口縁部にかけて、僅かに内湾しながら外上方に立ち上がる杯部を有する。4は底部と口縁部との境に稜を有し、口縁部が直線的に立ち上がる形状の杯部である。磨滅が著しく遺存状態は悪いが、内外面赤彩が施されている。6は平坦な底部から明確な稜が作り出されるタイプの杯部に下方の開く円錐状の脚柱部が付き、裾部との境に稜を有して裾部は大きく開く。7～13は脚部のみの遺存である。13は中膨らみの脚柱部である。14～16は壺である。14・15は折り返し口縁となる。16は胴部中位までの遺存であるが、最大径が中位にあることから、球形の胴部になると考えられる。口縁部は有段となる。17～23は甕である。17は胎土が他とは異なり、砂粒の混入が著しい。口縁部が緩やかに外反する形状で、下位に最大径を持つ長胴の甕である。18は器肉がかなり厚い。底部から直線的に外上方に開くバケツ形の形状を呈すると思われる。この甕も砂粒を多く含む胎土である。

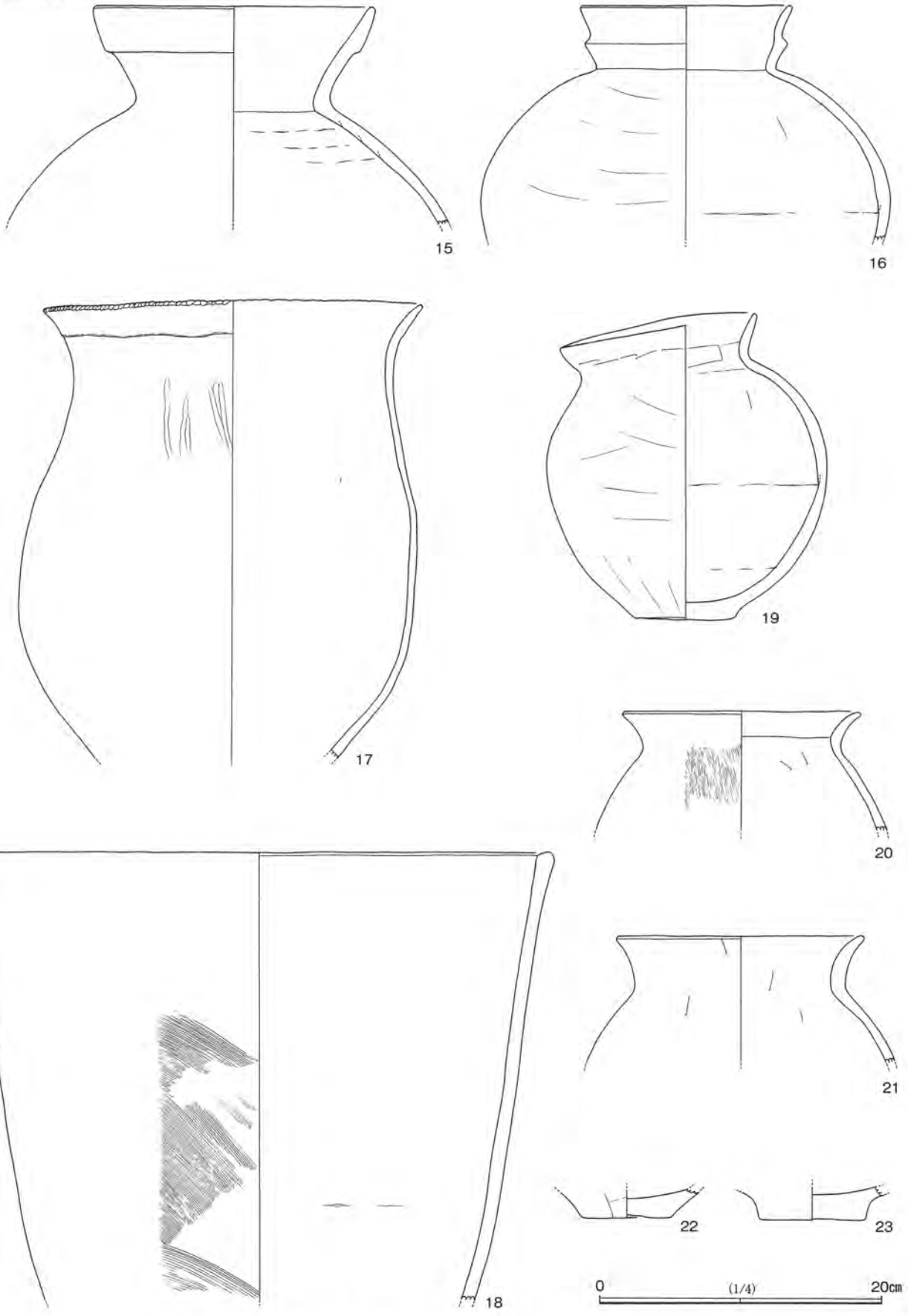
SI－004（第143・144図、図版59・60）

1は杯である。小さな底部を有し、内湾しながら外上方に立ち上がる。口唇部で緩やかに外反する。12～37は高杯である。13～16・18・19の杯部は、底部と口縁部の境に明確な稜を有しており、口縁部はほぼ直線的に外上方に立ち上がる形状を呈している。20は裾部が水平に広がる形状で、柱状部の径が大きいのが特徴である。1か所のみの遺存であるが、穿孔が確認できる。21は脚柱部の中位に焼成後の3か所の凹みが認められるが貫通していない。23・24は筒状の柱状部で中実である。26・27・34は下方がやや開く脚柱部で、若干中膨らみ気味である。28～33、35～37は下方の開く円錐形の脚柱部である。27点高杯が出土しているが、大半は脚柱部のみの遺存である。2～11、39～51は壺で、2～11はいわゆる小形の短頸壷形を呈する。2は口縁部が内傾して収まる形状で、極めて小さい底部が作られている。磨滅が著しく、胴部中位には帯状に煤の付着が確認される。底部は赤く変色しており、二次的に火を受けていることがわかる。4・7の胴部にも同様に煤の付着がみられる。3～9は口唇部が外上方に摘み上げられているタイプで、5・6は小さい底部が形成されている。38はいわゆる坩である。遺存状態が悪いため、調整が残されてい



第141図　竪穴住居跡出土土器（1）

SI－003（2）



第142図　竪穴住居跡出土土器（2）

ないが、丁寧なミガキが施されていたと思われる。39は小形の壺で胴部上位に焼成後の穿孔が１か所穿たれている。煤の付着がみられ、二次的に火を受け、全体が赤く変色している。40は口縁部のみの遺存である。中位に段を形成しており、坩形の壷と思われる。煤の付着が著しい。42は赤彩が施されているものの、磨滅が著しくほとんど観察できない。44は大形の有段口縁の壺で、器壁が極端に厚いのが特徴である。46は底部に焼成後の穿孔が施されている。51～56は甕である。51・52の口縁は大きく外反し、53～55はくの字状に屈曲する口縁である。57～59は台付甕の台部のみの遺存である。60～62はミニチュア土器であろうか。60は高杯形を呈する。

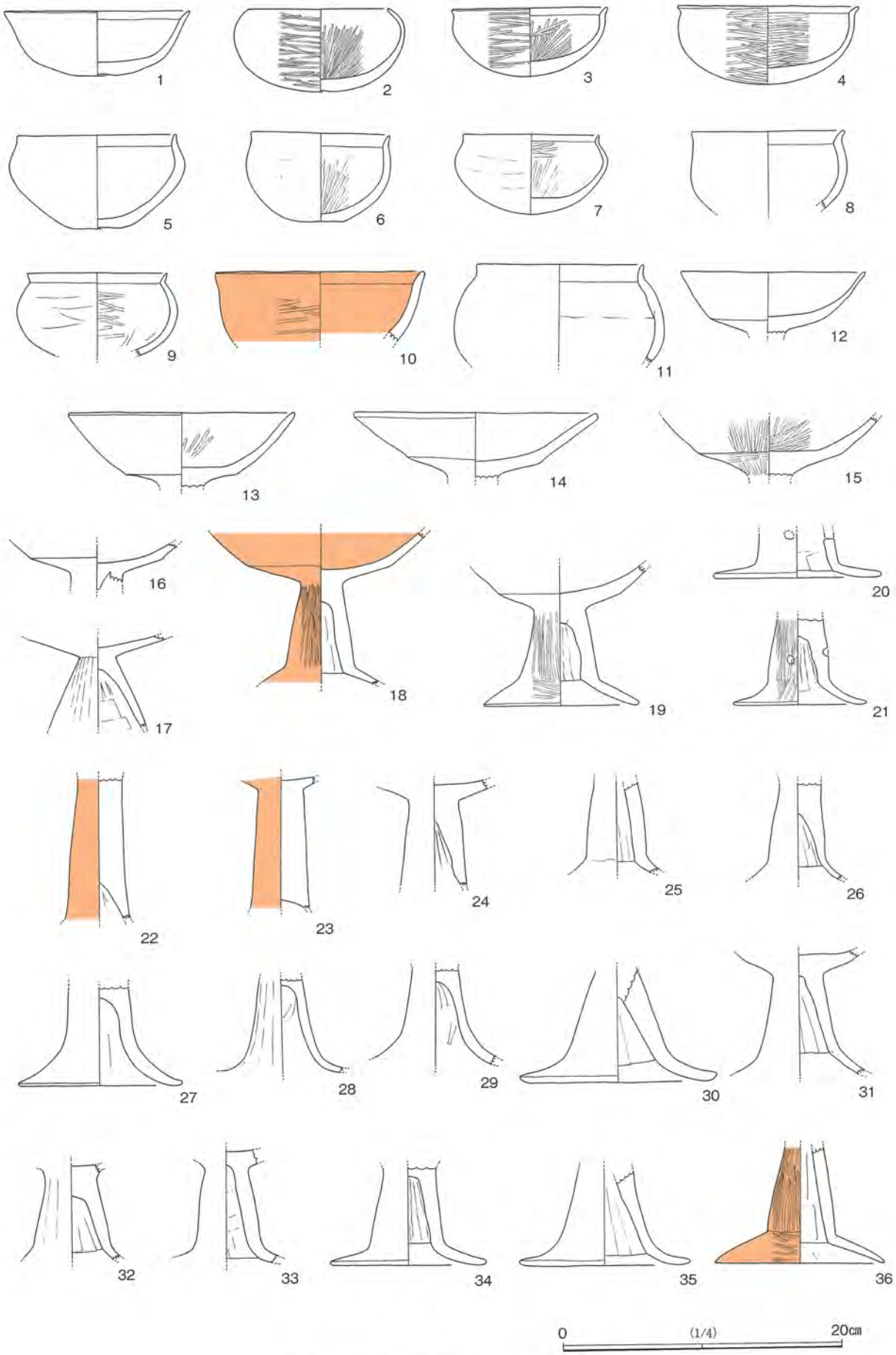
SI－005（第144・145図、図版60・61）

１・２は高杯である。１は小さな底部を有し、体部はほぼ直線的に開く。脚上部は内実の筒状で、脚下部は大きく開く。裾部側に透し孔が３か所穿たれている。赤彩が施されているものの、磨滅が著しいため遺存は不良である。３は器台で、小さな器受け部を持ち、上下貫通孔を有している。台部の透し孔は３か所に穿たれている。磨滅が著しいため調整は不明で、赤彩が認められるものの遺存は不良である。４～６は脚部のみの遺存である。４・５は裾部上位に３か所の透し孔が認められ、外面に赤彩が施されている。その形状から、高杯の脚部となる可能性が高い。６も高杯の脚部であろうか。裾部上位に２個一対の透し孔が３か所認められる。胎土が粗く、他と質感を異にしている。７～18はいわゆる坩形を呈する小形の壺である。７～13は口縁部に最大径を有し、小さな上げ底の底部を持つもので、器高の低いタイプである。７の口縁部は短く外傾する。８は外反しながら長い口縁部が立ち上がる。９～11は８と同様に口縁部は長く、直線的に外傾する。12･13は口縁部が内湾しながら立ち上がるのが特徴である。15～18はやや大形で、直線的または若干外反しながら外傾する口縁を持つ。16は最大径を胴部中位に有しているが、他は口縁端部に最大径を有する。15は内外面に、16～18は口縁部内面と胴部外面に赤彩が施されている。19～27は甕である。19は胴部中位に最大径を有する球形胴に近い。22は胴部中位に最大径を有し、緩やかに外反する口縁部を持つ。作りは粗雑で、内外面に接合痕が明瞭に残る。23は底部が若干突出し、口縁部はくの字に屈曲する。24・27は口縁部が外反しながら外上方に立ち上がる。27は作りが粗雑なため、口縁部の高さが一定ではない。内外面ともに、ヘラ調整の痕跡が器面に残り平滑ではない。28・29は手捏ね土器で、29は底部が厚く仕上げられる。１～18の器台・高杯・壷類は前期の特徴を有するが、22～27の甕は中期的と思われ、土器の混在が考えられる。

SI－006（第146図、図版61）

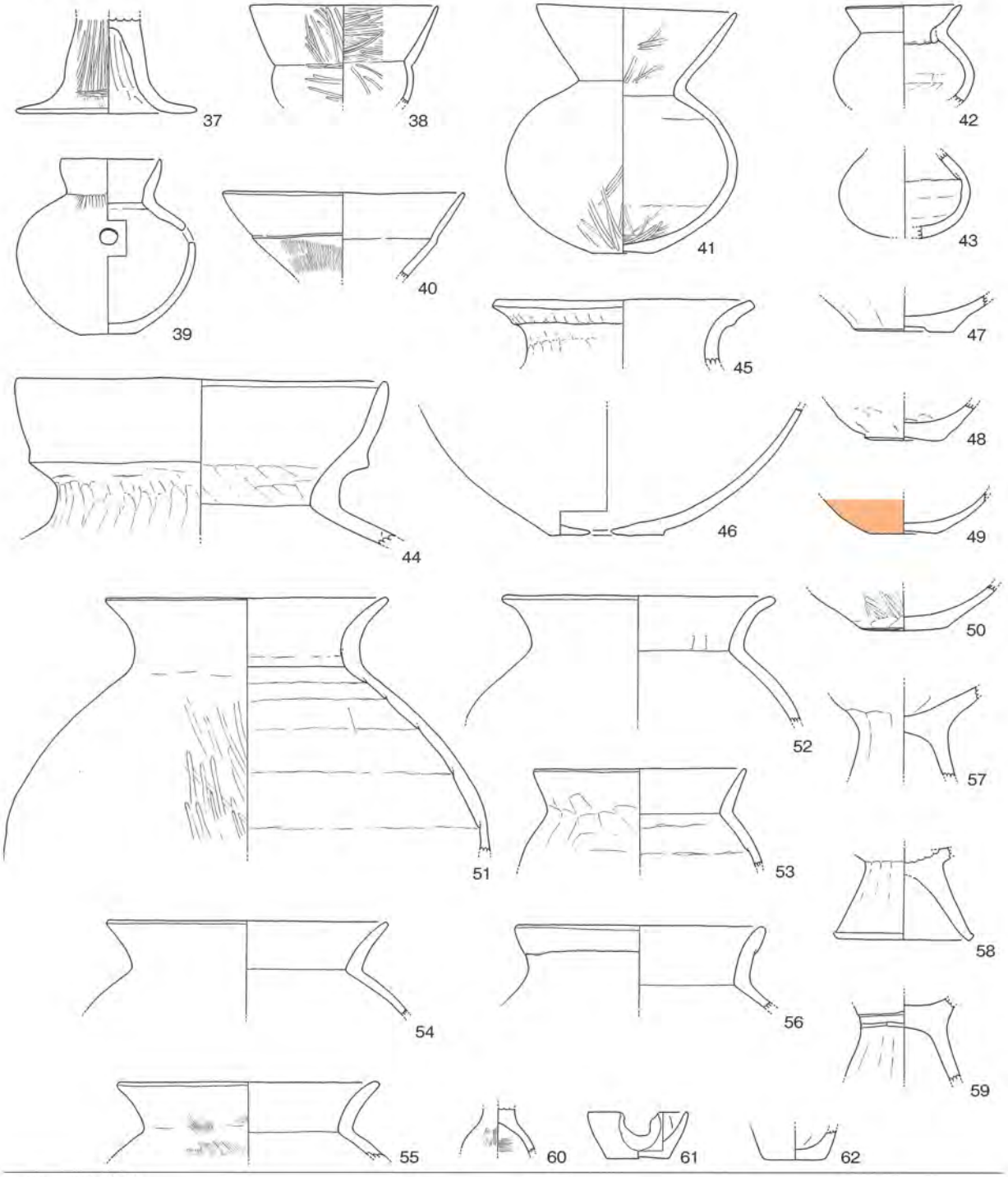
１～７は杯である。１は小さな底部から直線的に体部が伸び、口縁部で直立する。２は明確な上げ底を呈している。４・５は厚底の底部から、体部が外上方に立ち上がり、半球状を呈している。６は丸底で皿状に近い浅い作りである。全て器肉が厚く重量感のあるのが特徴である。８は口縁部に最大径を有する壷である。９～17は高杯である。９・10の杯部は、底部と体部との境に僅かな稜を有し、若干内湾しながら立ち上がる。内外面とも煤の付着が認められる。13は杯部のごく一部のみの遺存であるが、底部と口縁部の境に明確な稜を有し口縁部が直立する特徴的な形状を呈する。14～17は脚部のみの遺存である。14は下方がやや開く円錐形で、裾部との境に明確な稜はなく、斬移的に大きく開く裾部へ移行する。内面上位に絞り目が残る。18は粗雑な作りの大形の鉢である。接合痕が明瞭で、器面の凹凸が著しい。外面には煤の付着が確認できる。20・21はミニチュア土器と思われる。20には焼成後の穿孔がみられ、21は作りは粗雑で重量感があるが壷形を呈する。外面に煤の付着がみられる。

SI－004（1）

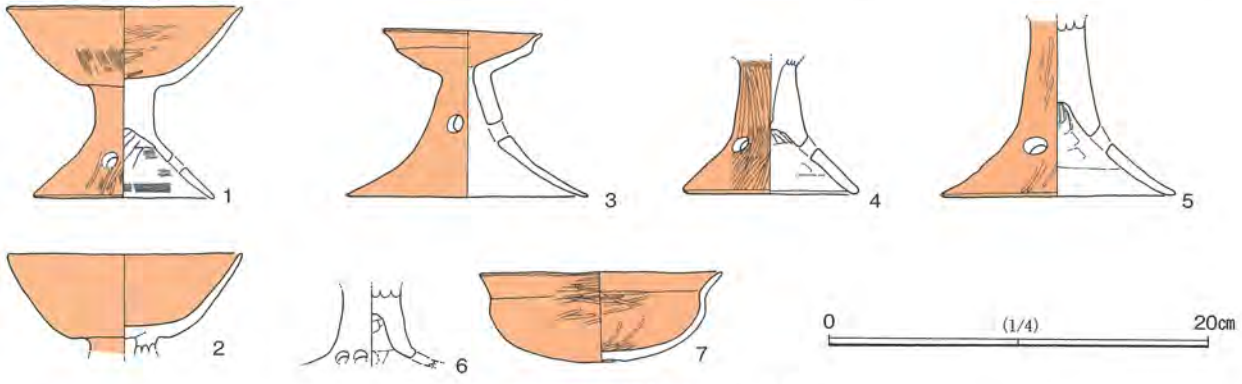


第143図　竪穴住居跡出土土器（3）

SI－004（2）

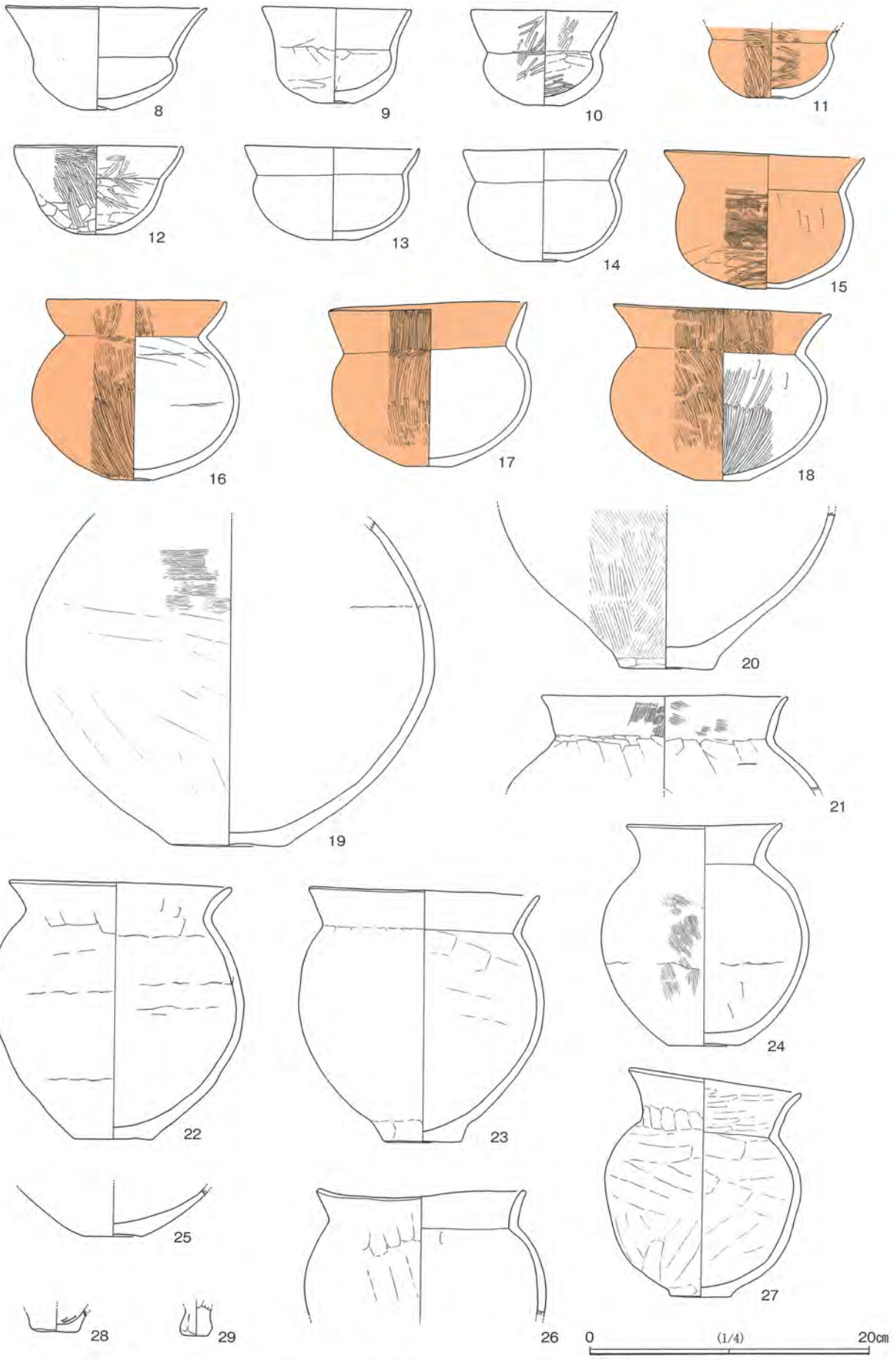


SI－005（1）

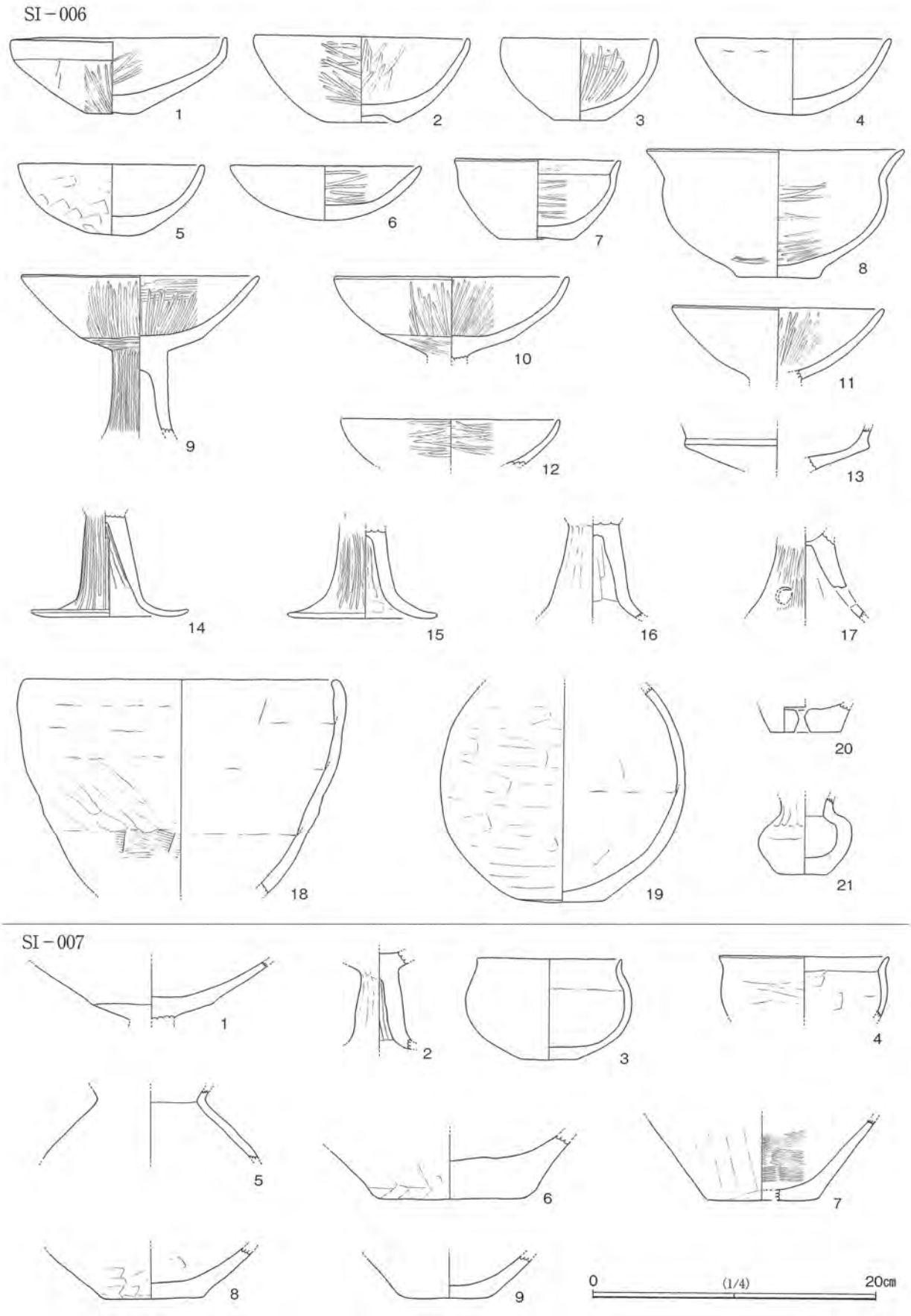


第144図　竪穴住居跡出土土器（4）

SI－005（2）



第145図　竪穴住居跡出土土器（5）



第146図　竪穴住居跡出土土器（6）

SI－007（第146図、図版61）

1・2は高杯の杯部と脚部である。1は杯部が大きく開き、下位に稜を有する。2は細身の柱状を呈する。3～5は壺である。3・4は小形の壺である。3は無頸壷で、最大径を胴部中位に有し、口唇部は短く摘み上げられている。6～9は壷あるいは甕の底部片である。

SI－008（第147図、図版61）

1・2は高杯の杯部と脚部である。1の杯部には稜がみられない。3は器台の台部であろうか。4は折り返し口縁の壺の口縁部片である。磨滅が著しく、調整の詳細は不明である。5は小形の壷で、遺存状況から、無頸壷となろうか。6は台付き甕の台部と底部の接合部分のみの遺存である。

SI－011（第147～149図、図版62・63）

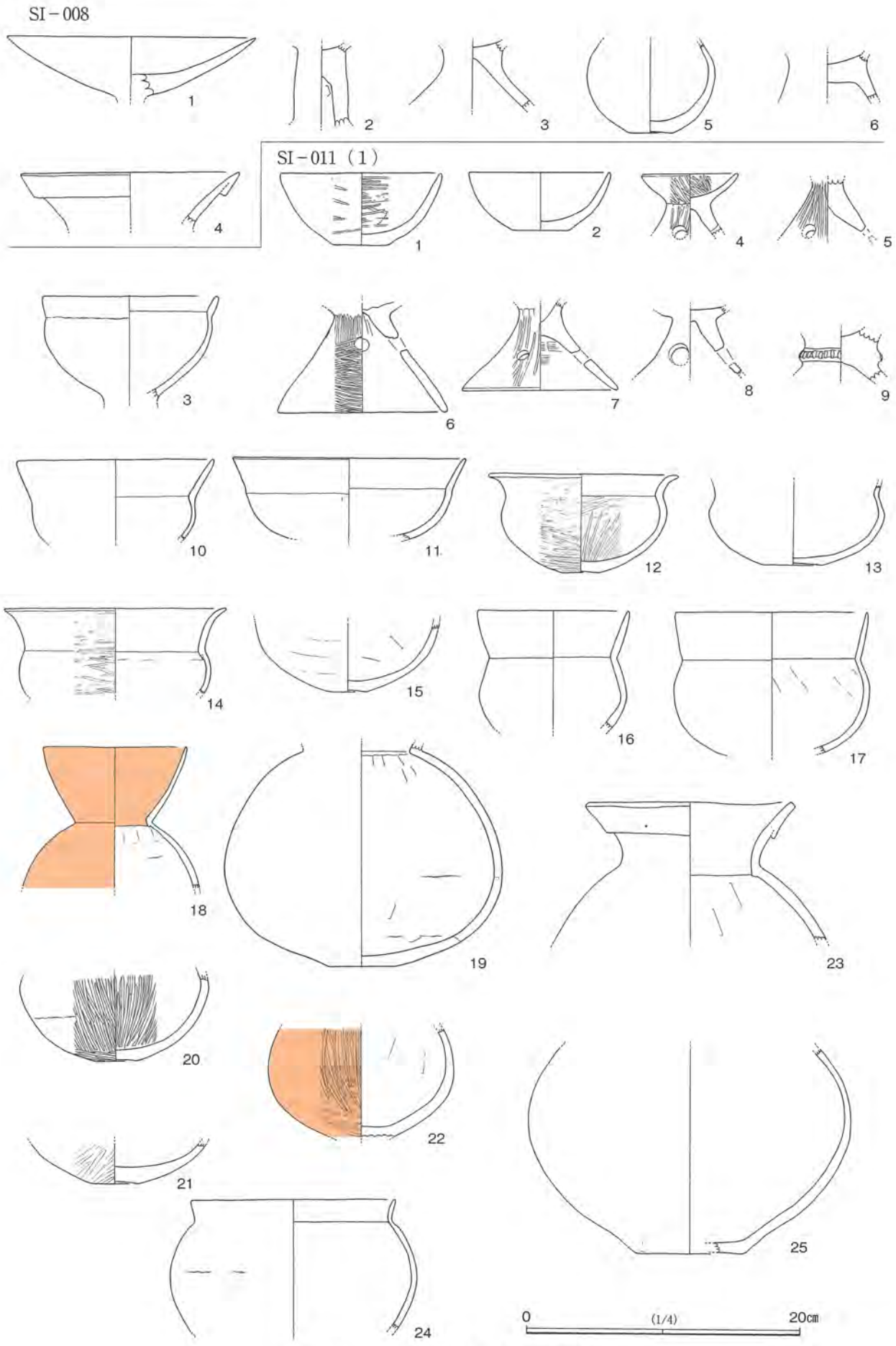
1・2は杯である。平底の底部から若干内湾しながら立ち上がり、口縁部はそのまま収まる。2点とも内外面の磨滅が著しい。3は特徴的な杯部を有する高杯である。深い椀状の杯部で、口縁部は僅かに折り返される。4～8は器台である。4は皿状の小さな器受け部が付くタイプで、透し孔の痕跡がみられる。6は直線的にハの字状に大きく開く台部である。比較的遺存が良く、外面は縦方向のミガキの後、脚部上位から裾部にかけて横方向に丁寧なミガキを施している。器受け部との接合部に整形時のヘラ痕が観察できる。放射状に切れ目を入れ、接合を強固にしている。7は器受け部との接合部にホゾ穴が残る。9は隆帯上に刻みが施される高杯と思われるが、弥生の混入品であろう。10～26は壺である。10～14、16・17は胴部の高さが低く、最大径が口唇部にあるいわゆる坩形のタイプである。磨滅が著しいものが多く、赤彩の有無ははっきりしない。12は口縁部の形状に特徴があり、端部で強く外反している。遺存は比較的良好で、ミガキの痕跡が明瞭に残る。胴部には煤の付着が帯状に確認できる。17の口縁部は内湾気味に直立する。18～22は壷で、18は口縁部内面と胴部外面に赤彩が施されているが、磨滅が著しく調整は不明瞭である。19は最大径を胴部下位に有する下膨らみのタイプである。23は折り返し口縁を持つ壺で、二次的に火を受けているため器面は荒れ、赤く変色している部分も認められる。24は口縁部が短く直立する。25は口縁部を欠くが、底部中央には焼成後の孔が僅かに確認される。27～47は甕である。27は口縁部に輪積み痕を明確に残すタイプの甕で、輪積み痕を縦方向に指で押さえている痕跡が明確に残されている。混入した弥生土器である。28は胴部中位よりやや上位に最大径を有する甕であるが、歪みが顕著で、全体的に楕円形を呈する。内外面に丁寧なミガキが施されている。31～34は胴部中位に最大径を有し、口縁部は短く外反する。35～37、41・42は小形の甕である。35は口縁部内面から胴部外面にかけてミガキが施され、赤彩が加えられる。調整等は壷的である。胴部下位から底部の外面は二次的に火を受けているため、器面の荒れが著しい。36は小形で、口唇部がやや上方に摘み上げられる特徴を有する。37・41・42も小形の甕であるが、最大径を37は中位、41は下位、42は上位に有する。45・46は大形の台付き甕の台部のみの遺存である。47は甕の底部片で、中央には焼成後の孔が穿たれている。48～67は手捏ね土器である。本遺跡の竪穴住居跡では最も出土量が多い。バケツ状を呈するもの、口縁部が短く外反するタイプなどいくつかの形態がある。

SI－014（第149図、図版63）

1は有段口縁を呈する壺の口縁部である。2・3は手捏ね土器の底部片である。

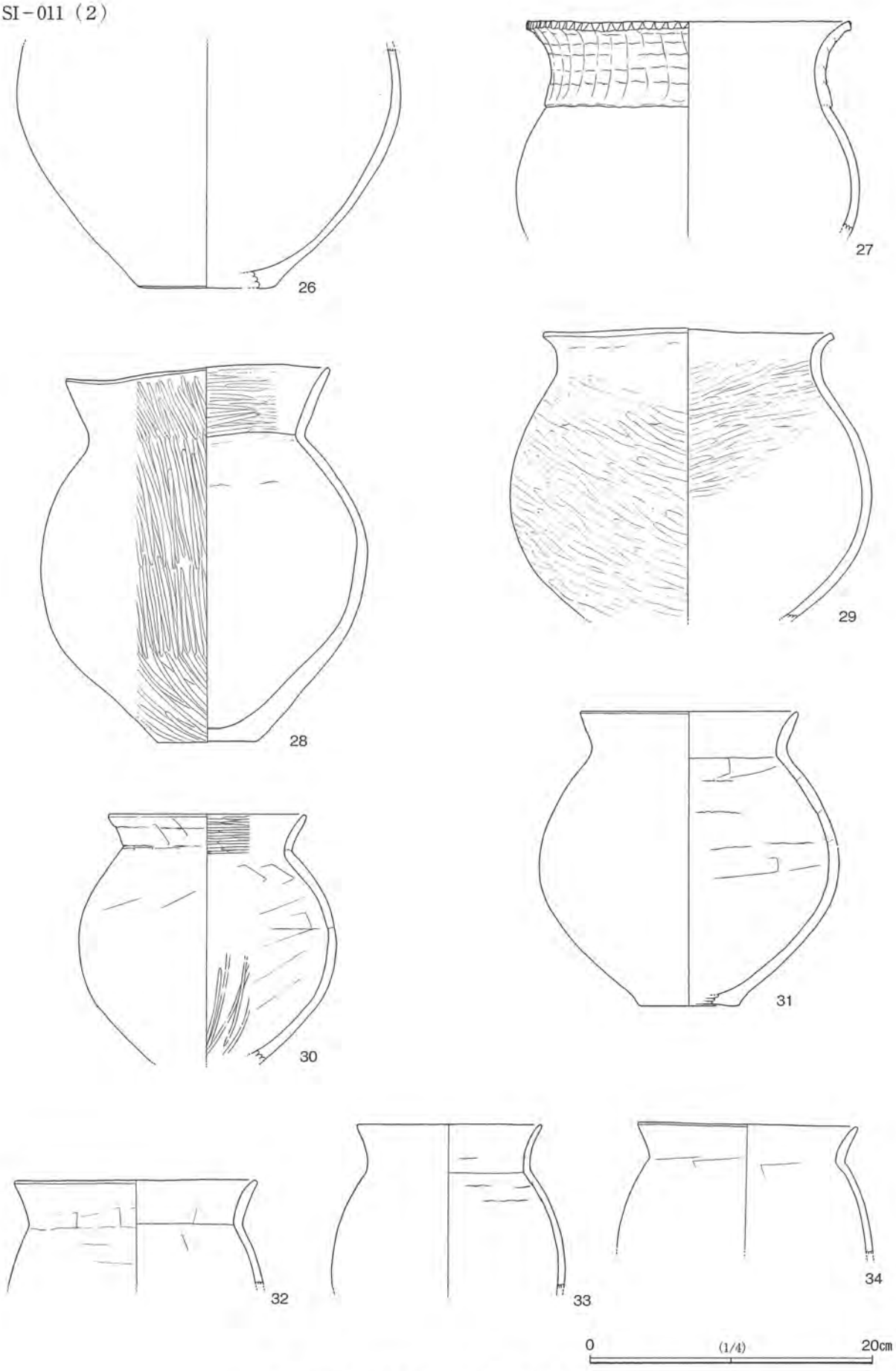
SI－015（第149図、図版63）

1はいわゆる無頸壷である。最大径を体部上位に有し、口唇部は僅かに摘み上げられる。磨滅が著しく

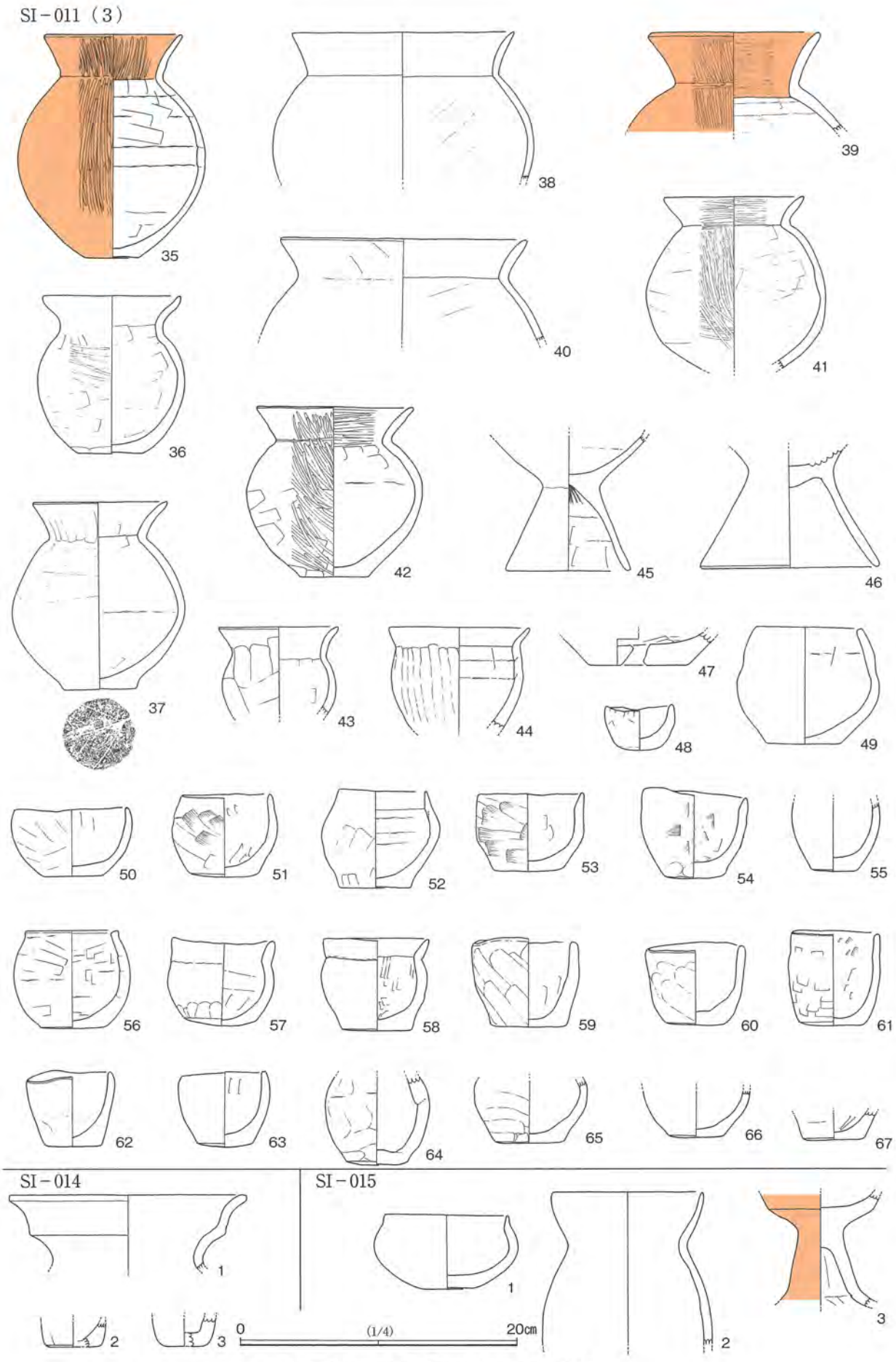


第147図　竪穴住居跡出土土器（7）

SI－011（2）



第148図　竪穴住居跡出土土器（8）



第149図　竪穴住居跡出土土器（9）

調整は不明瞭である。3は高杯で、脚部は下方の開く円錐形を呈し、杯部の底部と体部の境には僅かな稜を有している。器面の荒れが著しい。2は甕形を呈する壷であるが、一部のみの遺存のため詳細は不明である。

SI－025（第150図）

1は壷の底部であろうか。

SI－027（第150図）

1はやや突出する壷の底部である。

SI－028（第150図、図版　63）

1・2は杯である。1は底部から直線的に外上方に開く体部で、口縁部もそのまま収まる。器肉が厚くやや雑な作りである。二次的に火を受けているため、器面の荒れが著しく変色がみられる。2は内湾しながら立ち上がる体部で、底部は突出し、口縁部は内傾する。磨滅が著しいため調整については不明である。3～7は高杯である。3は浅い杯部片で、僅かに内湾しながら大きく開く。5・6の脚部は中膨らみで、内面上位に絞り目が残るのが特徴である。5は中位に2か所透かし穴が穿たれる。8～10は甕である。8・9は球形胴を呈すると思われ、同一個体の可能性もある。10は胴部に最大径を有する小形の甕で、口縁部は短く外反する。磨滅が著しく調整の詳細は不明である。

SI－029（第150図、図版63）

1・2は高杯である。1は杯部のみの遺存で、体部は深く椀状を呈する。SI－011の3同様特徴的な形態である。2は筒状の脚柱部にハの字状に短く開く裾部がつく。磨滅が著しく不鮮明であるが、外面には赤彩が施されている。杯部との接合部分にホゾ穴が認められる。3～7は甕である。3は球形胴で、底部に木葉痕が残る。7は内外面ともに粗いヘラナデが施されている。

SI－030（第151図、図版63・64）

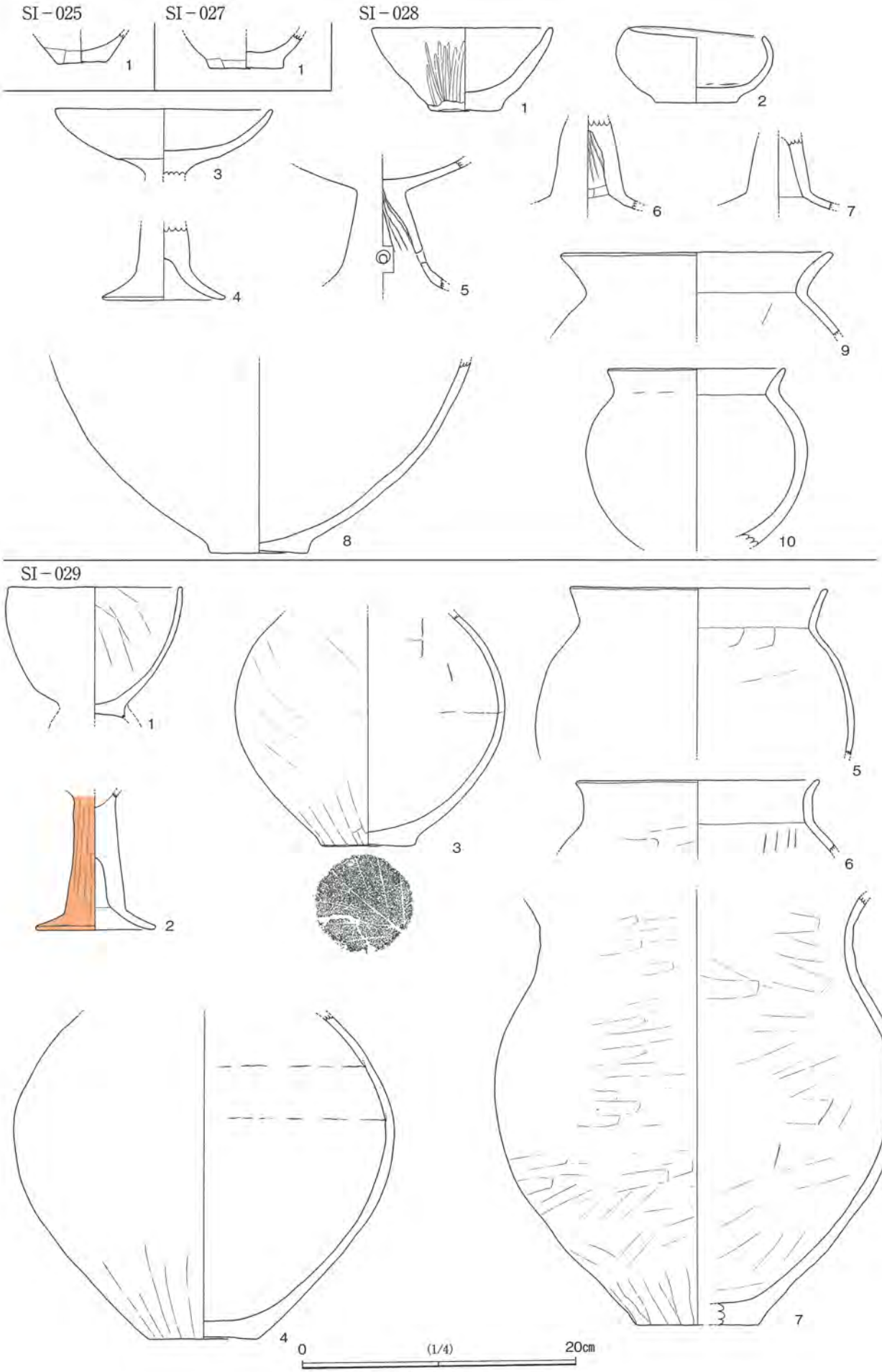
1・2は小さな上げ底となる小形の壷である。1は胴部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が小さく外反する。口縁部内面に横位のミガキ、外面にはヘラケズリがみられる。2はいわゆる坩形で、胴部から口縁部への移行部に若干のくびれを持つ。3・4はハケ目調整がみられる甕で、いずれも器肉が非常に薄く仕上げられる。3は胴部の中位に最大径を有し、口縁部は強く外反する。長石などの混入物が多く胎土に特徴がみられる。二次的に火を受けているため、器面は荒れ、赤く変色している部分がある。4は口縁から胴部の一部のみの遺存で、磨滅が著しいため調整は不明瞭であるが、内外面の一部にハケ目の痕跡が確認できる。

SI－032（第151図、図版64）

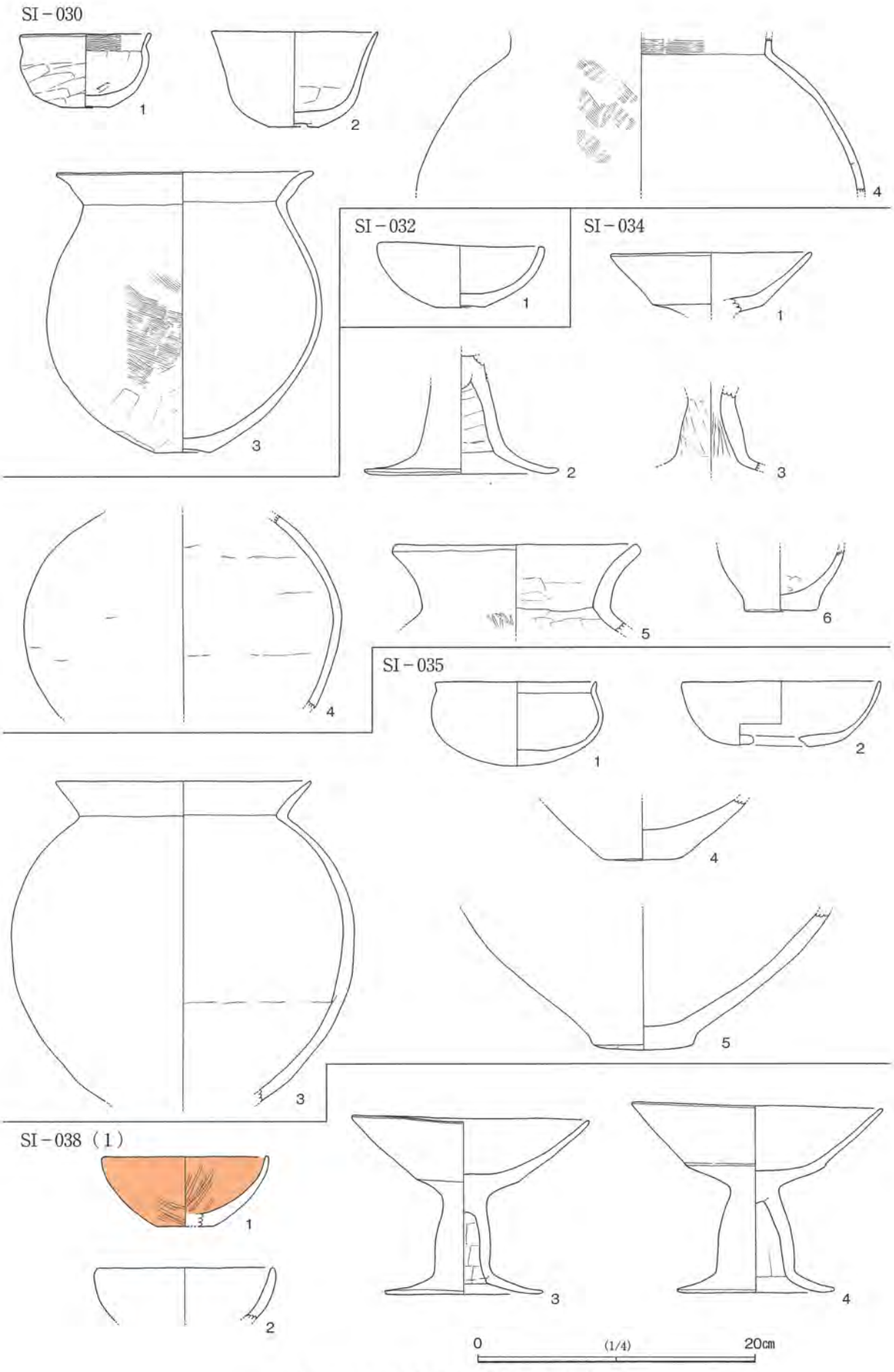
1は小さな底部を有する杯で、体部は内湾しながら立ち上がる。磨滅が著しく、調整については不明である。

SI－034（第151図、図版64）

1～3は高杯である。1は杯部のみの遺存である。底部と口縁部の境に明確な稜を有し、口縁部は直線的に外上方に立ち上がる。二次的に火を受けているため、全体に赤く変色し器面が荒れている。2は円錐形に開く脚柱部で裾部はハの字状に大きく開く。1同様強く二次的な火を受けており、変色が激しい。3は脚柱部のみである。やや中膨らみで内面には絞り目が残る。4・5は甕の胴部片、口縁部片である。4は内面に輪積み痕が認められる。二次的な焼成による変色及び器面の荒れが激しい。6は口縁部を欠く手



第150図　竪穴住居跡出土土器（10）



第151図　竪穴住居跡出土土器（11）

捏ね土器である。

SI－035（第151図、図版64）

2は大きな底部から僅かに内湾しながら体部が立ち上がる杯で、底部中央が打ち欠いたように抜けている。摩耗が激しいが、内外面赤彩が施されているようである。1は小形の壺で、丸底の底部から体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部で小さく摘み上げられる。二次的に火を受けており、器面の荒れが著しく、全体に赤く変色している。3～5は甕である。3は球形の胴部で、口縁部はくの字状に屈曲する。3点とも二次的に火を受けており、煤の付着がみられる。

SI－038（第151・152図、図版64）

1・2は杯である。1は平底を呈し、体部は僅かに内湾しながら外上方に立ち上がる。器面の荒れが著しく不鮮明であるが、内外面赤彩が施される。3～7は高杯である。3・4はほぼ同様の形状を呈している。脚部は中膨らみの柱状部に、ほぼ水平に広がる裾部がつく。杯部は底部と杯部の境に稜を有し、ほぼ直線的に口縁部にかけて外上方に開く器形である。5は下方の開く円錐状の柱状部で、裾部は大きくハの字状に開く。杯部は底部と体部との境に稜を有し、直線的に口縁部まで伸びる。3点とも二次的に火を受けており、特に1・3の変色は著しい。6は杯部のみの遺存である。底部から口縁部まで僅かに内湾しながら立ち上がる形状で、稜を有しない。磨滅が著しいが、僅かに外面の赤彩の痕跡が認められる。8は器台であろう。台部に透し孔が4か所穿たれているのが確認できる。9～12は壺である。10は広口壺で、胴部上位から口縁部のみの遺存である。磨滅が著しく、詳細は不明である。11は頸部が細く、口縁部が内湾気味に大きく開くタイプである。外面にミガキが残るが、器面の荒れが著しく一部のみの確認である。12は底部から胴部下位のみの遺存のため、詳細は不明であるが、内外面に赤彩が施されている。13～16は甕である。13は胴部と口縁部が接合しないものの、同一個体として図上で復元した。壷の可能性もある。底部中央に焼成後に孔が穿たれる。14は胴部上位に最大径を有し、内外面にヘラナデ痕が残る。18は手捏ね土器、17・19・20はミニチュア土器である。18は比較的丁寧に整形されるが、輪積み痕が残る。17・19は壷形、20は高杯形となろう。

SI－040（第152図、図版64）

1は大形の壺である。胴部中位に最大径を有する球形胴を呈し、口縁部はやや外反しながら、くの字状に大きく開く。底部は突出し、作りが雑で器面に凸凹が目立つが、ハケ目が明瞭に確認される。2は甕で、口縁部はくの字状に屈曲し、内外面にハケ目が僅かにみられる。二次的に火を受け、器面の荒れ及び全体的な赤変が認められる。3・4は手捏ね土器である。

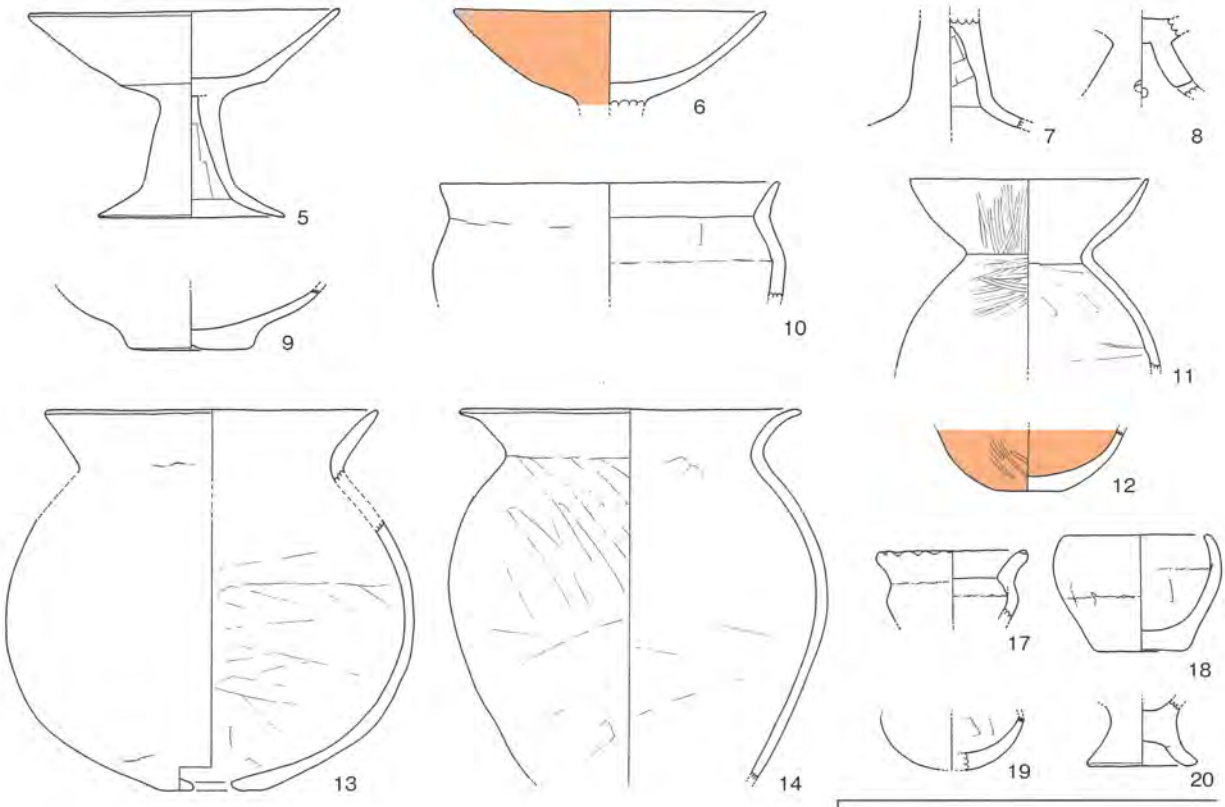
SI－044（第152図、図版64）

1は器台の台部のみの遺存で、上位に3か所の透し孔が穿たれている。器面の荒れは著しいが、外面に若干赤彩の痕跡が確認できる。2は壷の口縁部片で、内外面ともに赤彩が施され、丁寧なミガキ調整が加えられる。3は煤の付着がみられる甕の口縁部である。4～6は手捏ね土器である。輪積み痕が明瞭に残るが比較的丁寧に作られている。

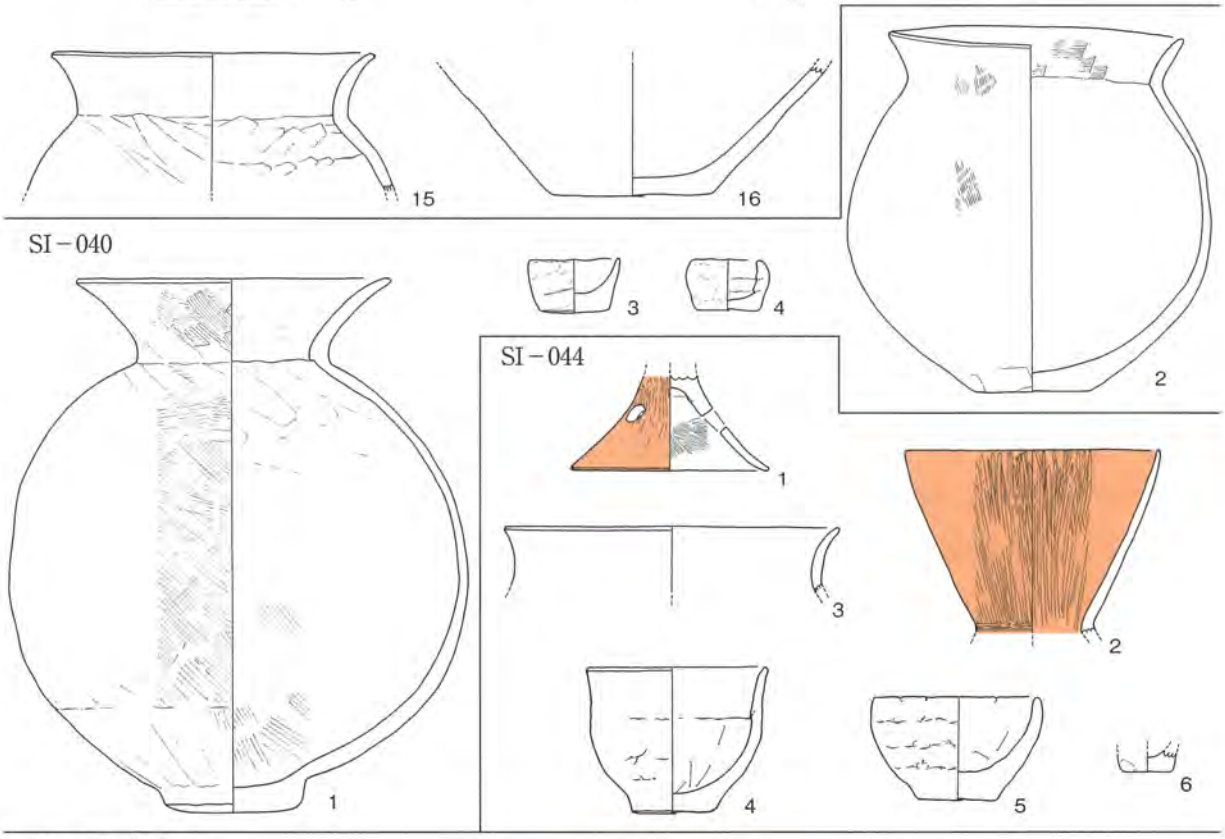
SI－045（第152・153図、図版64）

1は小形の壺で、丸底の底部から胴部が内湾しながら立ち上がり、口縁部は小さく外反する。器面の荒れが著しい。2は器台の台部のみの遺存である。調整は丁寧で、透し孔は3か所確認される。3・4は高杯である。3は大形の杯部で、底部と口縁部との境に突出した稜を形成している。磨滅が著しく遺存状態

SI－038（2）

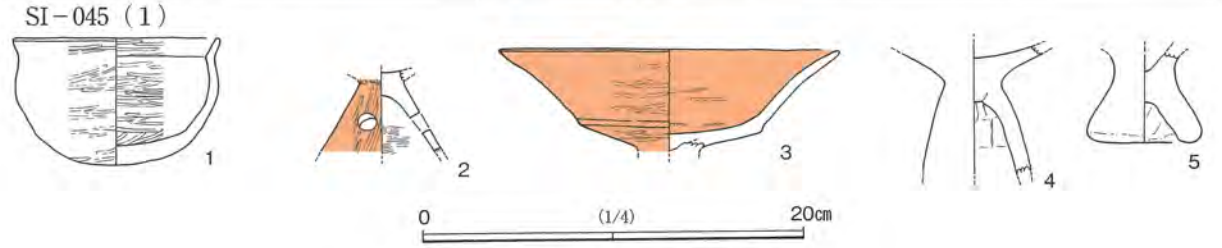


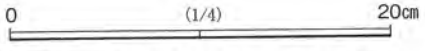
SI－040



SI－044

SI－045（1）





第152図　竪穴住居跡出土土器（12）

は極めて不良であるが、内外面に赤彩が施されているようである。６は折り返し口縁の壺で、内面に輪積み痕、外面にミガキが認められる。二次焼成による磨滅が激しく、煤の付着もみられる。５は高杯形のミニチュア土器であろう。

SI－051（第153・154図、図版65）

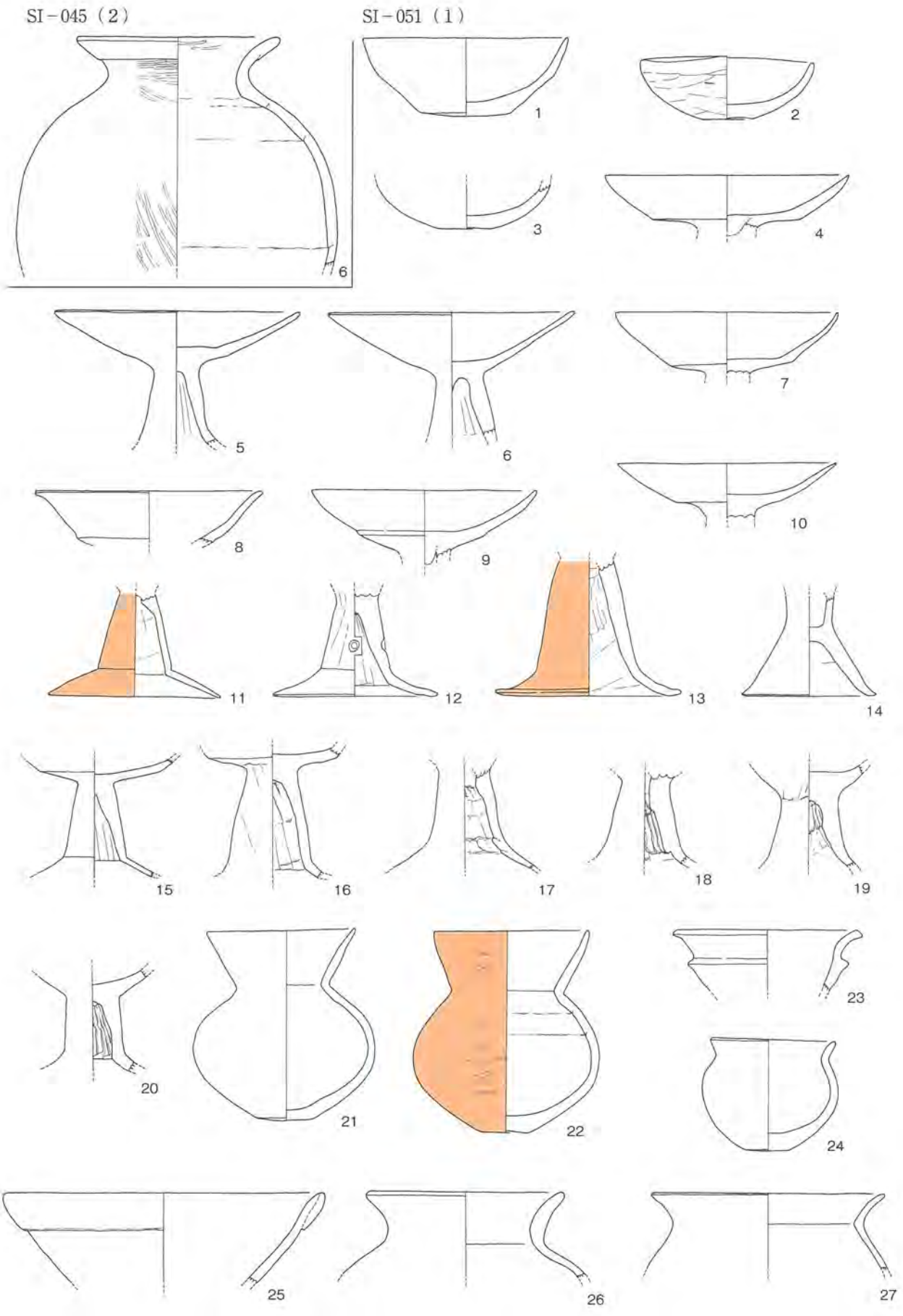
１～３は杯である。１は、若干突出気味の底部から体部が外上方に直線的に立ち上がり、口縁部近くで上方に屈曲して収まる。磨滅が著しく、調整については詳細不明である。２・３は小さな上げ底の底部で、体部は内湾しながら外上方に立ち上がる。４～20は高杯である。４は杯部のみで、底部は大きく、口縁部は直線的に大きく開く。５～10も含めて全体的に杯部が浅い。二次的な被熱により全体に赤く変色している。５・６はほぼ同様のタイプで、やや中膨らみの円錐形の脚部に直線的に開く杯部がつく。二次焼成により器面の荒れが著しい。７は４と同様な器形を呈するが、口縁部が薄くなり、上半部で若干内湾気味に開く特徴がある。被熱による器面の荒れが著しい。９は底部と口縁部の境に明瞭な突出を持ち、稜を形成している。11は柱状部と裾部の境に明確な稜が作られ、裾部は内湾気味にハの字状に開く。12の脚部中位には、焼成後に開けられた凹みがみられるが貫通していない。SI－004やSK－006でも同様の例があることから、意図した穿孔と考えられる。14は上位にホゾ穴が確認され、脚部が短く直線的に開く特異なタイプである。17～20の内面には絞り目が明瞭に残されている。21～25、28は壺である。21、22はいわゆる坩形を呈するが、磨滅が著しく調整などの詳細は不明である。22の外面には不鮮明ながら赤彩が確認される。23は口縁部の小片である。有段口縁で口縁上部は強く外反し、口唇部が面取される。24は小形の壺で胴部中位に最大径を持つ。25は口縁部片で端部を折り返している。28は最大径を胴部中位から下位に有し、下膨らみの形状となる。口縁部の開きは弱く、若干内湾気味に立ち上がる。胴部外面中位に格子状の線刻がみられるが、これは砥石として再利用したものと思われる。26・27・29・30は甕である。29の胴部は中位に最大径を有する算盤玉状を呈し、口縁部は短く外反する。31～36はミニチュア土器で、31・32は壺形、34は杯形、35・36は坩形を意識したものである。37・38は手捏ね土器である。

SI－052（第154・155図、図版65・66）

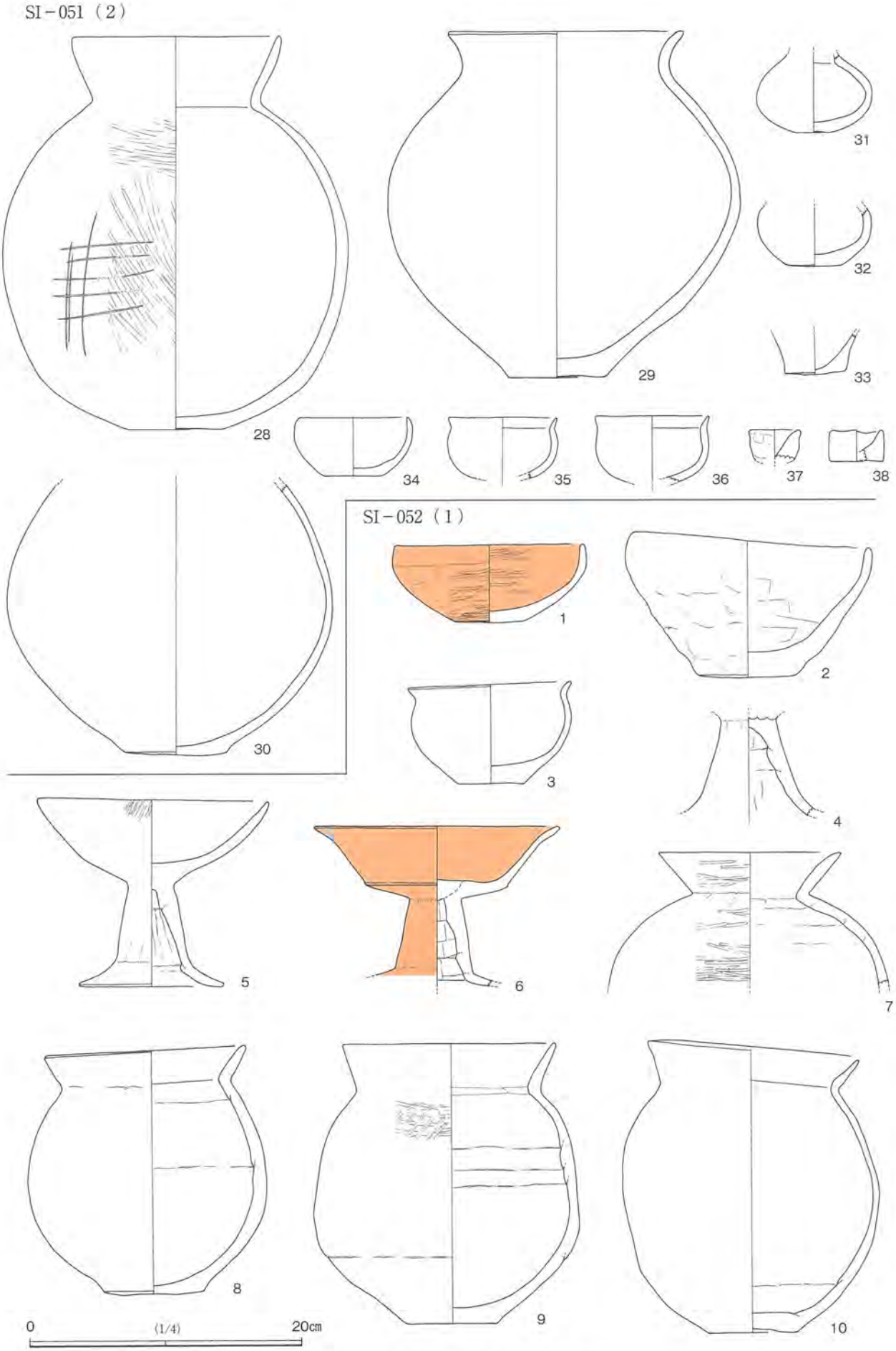
１は杯である。小さな平底で、体部は内湾しながら開き、口縁部はほぼ直立する。体部外面にはヘラケズリ後ミガキが施され、内外面とも赤彩される。２は粗雑な作りの鉢で、接合痕が明瞭に残る。３は短い口縁部が付く壺で底部が厚い。４～６は高杯である。４は脚部のみの遺存で、内面に接合痕が残る。５の杯部に稜が形成されず、皿状を呈する。脚部は下方の開く円錐形を呈し、裾部でハの字状に大きく開く。内面には絞り目が残る。６の杯部は、口縁部との境で明確な稜を有し、口縁部は直線的に開く。脚部は下方の開く円錐形で、裾部が屈曲する形状である。内面には横方向のヘラナデ痕が明瞭に残る。杯部内面から脚部外面にかけて赤彩が施されている。７は壺の胴部上位から口縁部にかけてで、頸部が細いため口縁部は強く屈曲し直線的に外上方に開く。外面には若干のミガキ調整の痕跡が残るが、磨滅が著しい。内面には接合痕が数条みられる。８～13は甕である。８～10は胴部下位に最大径を有する。作りは粗雑で、内外面に接合痕が残り、９は特に顕著である。口縁部は直線的に外反する。11は胴部中位に最大径を有し、口縁部は大きく外反する。折り返し状を呈し、端部は面取りされている。器面は磨滅が著しく調整は不明瞭である。13は口縁部を欠く。胴部下端及び内面にヘラナデの痕跡が顕著に残る。

SI－053（第155図、図版66）

１はミニチュア土器である。上げ底の底部で、口縁部を欠くが坩を意識した形状と思われる。



第153図　竪穴住居跡出土土器（13）



第154図　竪穴住居跡出土土器（14）

SI－057（第155図、図版66）

1は壺の底部である。内外面とも器面の荒れが著しいが、外面に僅かに赤彩の痕跡が確認できる。

SI－058（第155図）

1は大形高杯の脚部である。内面上位に絞り目が残る。2は折り返し口縁を有する壺の口縁部片で、下端に刻みが施されているものの磨滅が著しく詳細は不明である。外面に若干の赤彩の痕跡が認められる。3は甕で、口縁部はくの字状に屈曲する。胴部に煤の付着がみられる。

SI－059（第155・156図、図版66）

1・2は杯である。1は丸底で内湾しながら外上方に立ち上がる皿状の杯である。器面の荒れが顕著で、二次的に火を受けたため、変色も著しい。2はやや大形となるが、平底を形成している。器肉はやや分厚く、ヘラケズリ後ミガキが加えられる。3～7は高杯である。3は若干中膨らみの筒状の柱状部に、ハの字状に開く裾部を持つ脚部である。内面に絞り目が顕著に残る。杯部は、底部から明確な稜線を有して直線的に外上方に立ち上がる。全体的に被熱により赤く変色している。4・7は杯部で形状は類似する。3に比べ浅くなり、杯部の稜も弱くなる。8～14は壺である。8・9は小形の壺で、8は丸底、9は平底となり、口縁部が短く外屈する。10は大形のものと考えられるが、口縁部の一部のみの遺存のため詳細は不明である。器肉が厚く、粗雑な作りが特徴的である。11・12はいわゆる坩形の胴部のみの遺存である。外面に赤彩が施されていることが確認できる。13は有段口縁の壺の口縁部片である。15～21は甕である。15は胴部中位に最大径を持つ球形の胴部で、口縁部はくの字に屈曲し、端部で短く外反する。底部が丸底であることが特徴であり、畿内系の影響を受けている可能性が考えられるが、胎土や調整は在地的である。胴部中位の黒斑が目立つ。内外面ともに粗いミガキが施されているが、底部付近は使用による磨滅で器面が荒れている。16は胴部上位に最大径を有する甕である。口縁部はくの字状に外反し、口縁部から胴部全体にハケ目が残る。使用による煤の付着が観察できる。22は手捏ね土器である。本住居は焼失住居のため、遺物は全般的に赤変し、煤の付着が認められ、器面の荒れも著しい。

SI－062（第156図、図版66）

1・4は高杯である。脚部のみの遺存で両者ともやや中膨らみの下方の開く円錐形を呈している。4は外面に赤彩が施されている。2・3は3か所の透し孔を有する器台の台部片である。5は小さな底部を有する椀であるが、全体に磨滅が著しく、調整も不明である。6～8はいわゆる坩形を呈する小形の壺であるが、小片のため調整等の詳細は不明である。6の口縁部は僅かにS字状を呈する。9は折り返し口縁の小形壺である。10・11は大形の甕で、10は胴部上位に最大径を持つ球形の胴部で、短くくの字に屈曲する口縁部を有する。磨滅が著しく調整は不明である。11は口縁部から胴部にかけてで、口縁部は大きく外反し肥厚する。器面の荒れは激しい。

SI－064（第156・157図、図版66・67）

1・2は高杯である。1は杯部のみの遺存で、底部と体部との境に稜を有して直線的に外上方に立ち上がる器形を呈している。磨滅が著しく詳細は不明である。2は脚部のみの遺存である。下方の開く円錐形で裾部はハの字状に大きく開く。内面には絞り目が顕著に残る。3は高杯形のミニチュア土器で、口縁部を欠く。4は胴部中位に最大径を有する球形胴の甕で、外面にハケ目が部分的にみられる。口縁部はくの字状に外反する。外面には煤の付着がみられ、器面の荒れが著しい。8は甑である。底部に1.8cm程度の焼成前の穿孔が穿たれている。鉢形を呈しており、口縁部で肥厚して小さく外反する。二次的に火を受け

赤変し、器面の荒れも著しい。

SI－065（第157図、図版66）

1は器台の台部のみの遺存で、台部上位に透し孔の一部が確認できる。器面の荒れが著しい。2～6は壺である。2は肩部に最大径を有し、口縁部は小さく外反する。作りは粗雑な感がある。4はいわゆる坩形を呈し、胴部中位に最大径を有する算盤珠形を呈する。口縁部は直線的に外上方に立ち上がり、胴部内面には接合痕が残る。7・8は手捏ね土器で、7は筒形を呈し、輪積み痕が明瞭に残る。

SI－066（第157図、図版66）

1は器台である。中空で器受け部は小形の椀形を呈し、台部は大きくスカート状に開く。器受け部内外面及び台部外面に赤彩が施されている。2は口縁部を欠く手捏ね土器、3は甕の底部である。煤の付着がみられる。

SI－067（第157図）

1・2は高杯である。1は下方の開く円錐形の脚部で、杯部は底部と口縁部の境に稜を有し、口縁部は直線的に大きく開く。磨滅が著しく調整は不明である。2はハの字状を呈する脚部内面に明確な接合痕が残る。杯部は底部から口縁部にかけて、直線的に大きく開く。磨滅が著しい。3・4は壺である。4は口縁部が内湾気味に長く立ち上がり、大形の坩のような形状を呈する。5～7は甕である。7は口縁部が緩やかに外反する。6は口縁部がくの字に屈曲し、端部は面取されている。磨滅が著しく調整は不明瞭である。

SI－069（第157図、図版66）

1～4・6・7は壺である。1は無頸壺に近い形状を呈し、底部は小さな上げ底となる。口縁部は小さく摘み上げられて収まる。2・4は小形の坩形である。胴部は算盤形を呈する。3は底部の外周が突出しているのが特徴であり、内外面ともミガキ調整される。器形から弥生土器の可能性もある。5は器台の台部であろうか。端部が折り返され、外面には赤彩が施されている。8は胴部中位に最大径を有する球形胴の甕である。口縁部はくの字状に短かく外傾する。二次的な被熱のため、器面は荒れ、煤の付着がみられる。

SI－070（第158図）

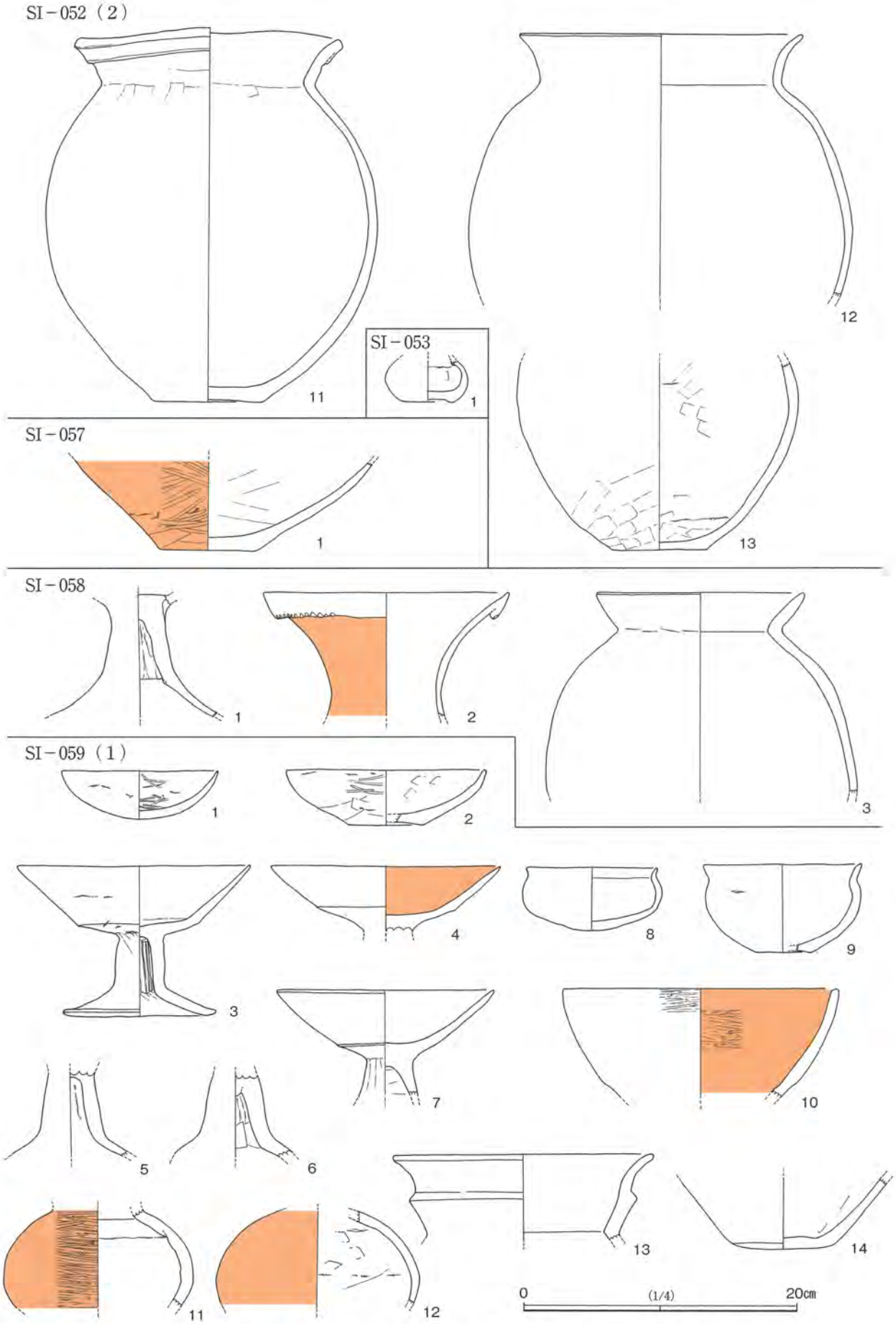
1はやや歪な椀である。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は若干内傾して収まる。二次的に火を受け黒変し、器面の荒れが著しい。2・3は壺である。2は折り返し口縁となる口縁部片で、端部には棒状工具によるキザミが巡る。

SI－071（第158図、図版67）

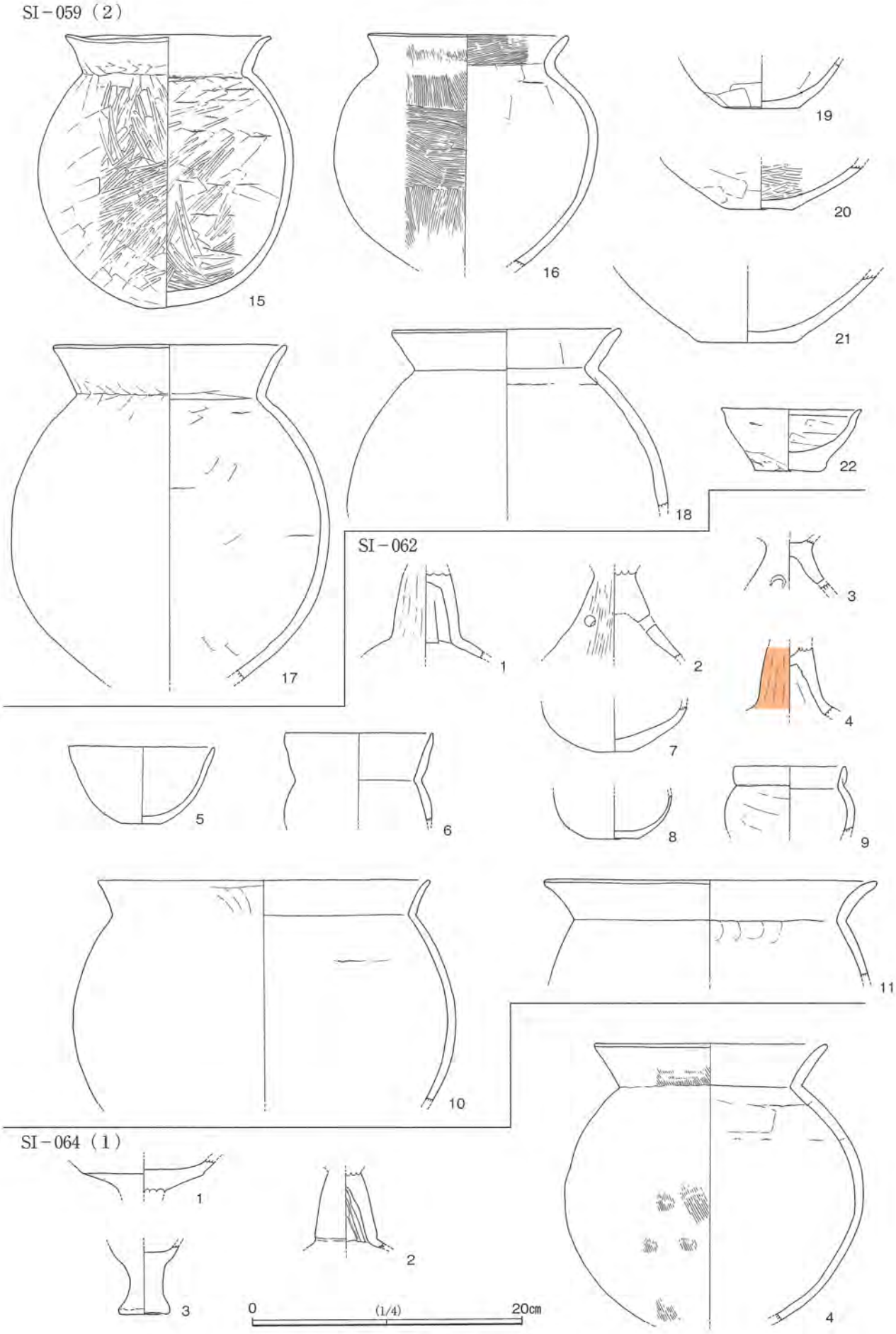
1はいわゆる坩である。上げ底の小さな底部が形成され、口縁部が内湾気味に長く開く。口縁部と胴部の高さがほぼ同じとなるタイプである。器面の荒れが著しく、調整などは不明である。

SI－077（第158図、図版67）

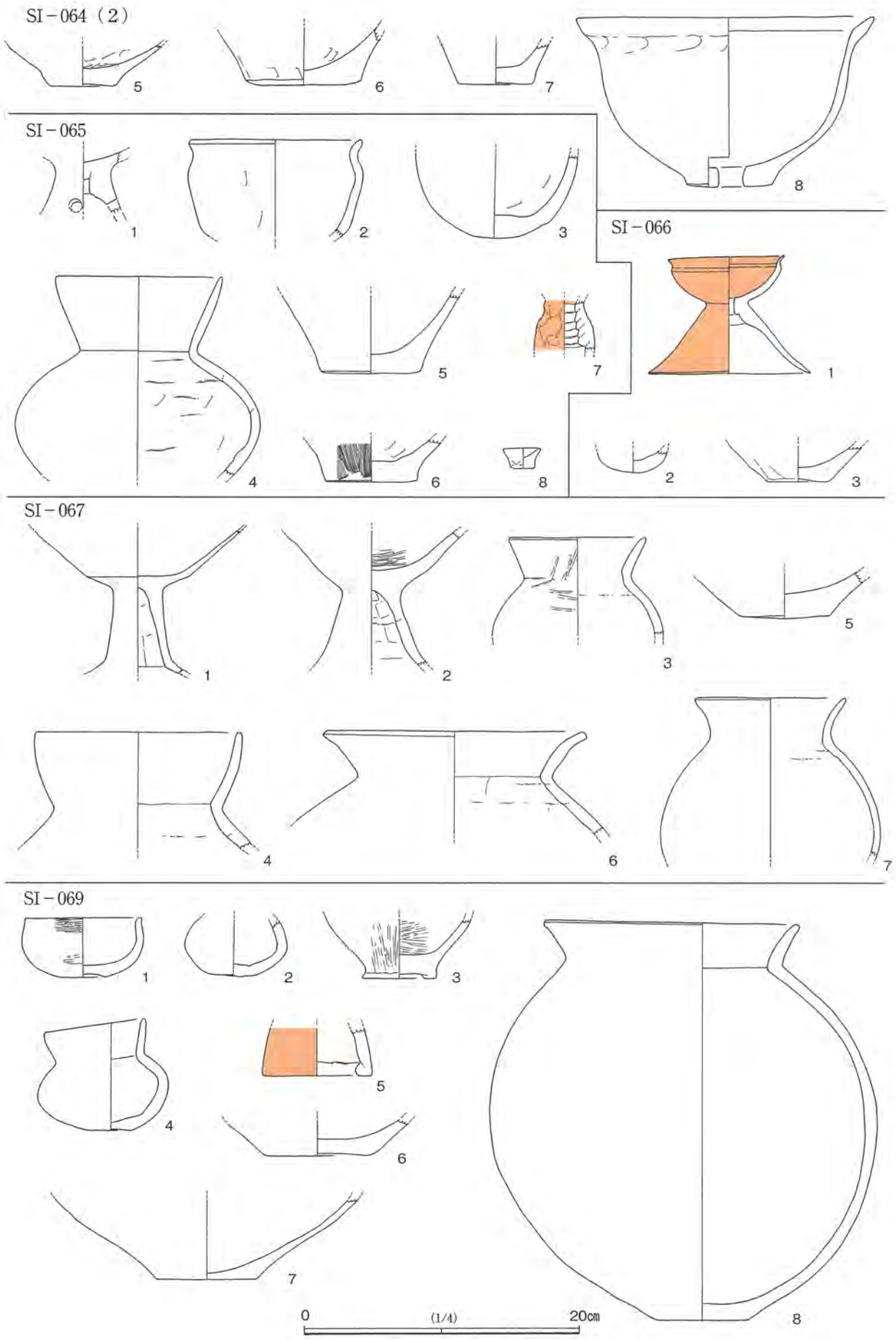
1・3・4は壺である。1は上げ底の小さな底部を形成し、口唇部に最大径を有している。器面が荒れているが内外面にヘラミガキの痕跡が確認できる。3は胴部中位に最大径を持ち、口縁部は直線的に大きく開き、端部で小さく外反する。磨滅が激しいため遺存は悪いが、外面と口縁内面に赤彩の痕跡がみられる。4は胴部中位に最大径を有する球形胴の大形壷で、口縁部はくの字に大きく開く。胴部に比して口縁部がかなり小さいのが特徴である。器面は荒れ、調整などの詳細は不明である。2は小形の甕である。胴部上位に最大径があり、口縁部は短く外反する。底部は比較的大きく、胴部内面に輪積み痕が確認される。



第155図　竪穴住居跡出土土器（15）



第156図　竪穴住居跡出土土器（16）



第157図　竪穴住居跡出土土器（17）

器面の荒れは著しい。

SI－082（第158図）

1は壷あるいは甕の底部であろう。底部がやや突出し、内外面にヘラの当たりがみられる。

SI－083（第158図）

1～3は高杯である。1・3は脚部のみの遺存で、1は磨滅が激しく調整は不明である。3はハの字に大きく開く裾部を有し、柱状部内面には絞り目が残る。2は杯部片で、口縁部との境には明瞭に突出した稜を持ち、口縁部は外上方に立ち上がる。器面の荒れが著しく、調整などの詳細は不明である。4は壷の底部のみの遺存である。5～7は甕の底部である。7は外面ハケ調整で、底部の外周が突出し、木葉痕が確認できる。

SI－086（第158図、図版67）

1～3は杯である。1は椀状を呈し、上げ底の底部が形成されている。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁内面を横方向にナデることにより、稜が作られている。二次的に火を受け、赤く変色し器面の荒れが著しい。2・3は丸底で半円状を呈し、器肉は薄く仕上げられる。2は器面の荒れが激しく、調整は不明であるが、3の内面にはヘラミガキが施されている。外面の磨滅は著しい。5・6は壷である。5はいわゆる坩形で、胴部は下膨らみとなる。4は底部を欠く甕で、胴部は球形となり、口縁部はくの字に外傾する。

SI－087（第158図）

1は器台の台部である。筒状の柱状部と、大きくハの字に開くと思われる裾部である。裾部上位に透し孔の痕跡が1か所確認できた。

SI－088（第158図）

1は器台の台部のみの遺存である。器受け部から大きくハの字状に開き、中位に透し孔が2個一対で穿たれている。

SI－091（第158図）

1は壷の底部であろう。底部は突出する。

SI－092（第158図）

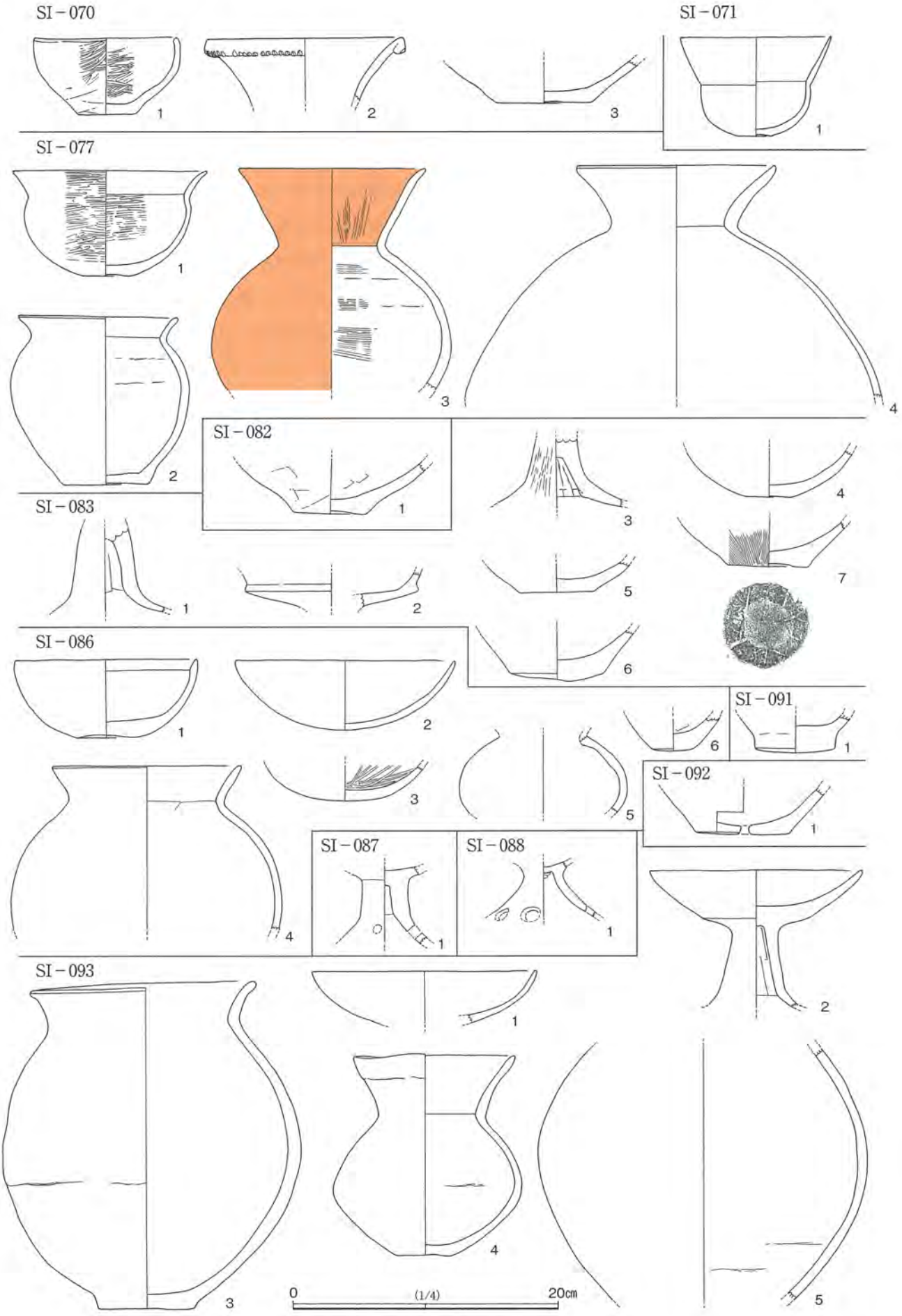
1は壷の底部である。中央に径8㎜ほどの焼成後の穿孔がみられる。内外面ともに磨滅が著しい。

SI－093（第158図、図版67）

1・2は高杯である。1は杯部片で、浅い皿状を呈する。2の杯部は底部と口縁部との境に僅かな稜を有し、口縁部は若干内湾気味に外上方に立ち上がる。脚部は下方に開く円錐形で裾部は大きくハの字状に開く。全体に磨滅が著しい。4は坩形の壷である。平底の底部で胴部中位に最大径を有し、算盤形を呈する。口縁部は僅かに外反しながら外上方に立ち上がり、端部が折り返し状となる。3・5は甕である。3は胴部中位に最大径を有し、口縁部は緩やかに外反し、口唇部でやや肥厚する。作りは粗雑な感があり、二次的に火を受けて赤変している。5は胴部のみの遺存で、内外面とも二次焼成による変色と磨滅が著しい。

SI－097（第159図、図版67）

1は小形の杯である。上げ底の底部から体部は内湾しながら大きく開く。磨滅が著しいものの、内面にヘラミガキの痕跡が確認できる。3・5は高杯である。3は杯部のみの遺存で、体部下端に稜を有し、僅かに内湾しながら外上方に立ち上がる。胎土に含まれる砂粒が非常に多いのが特徴である。5は元屋敷系の高杯である。脚部はハの字状に開き、上位に4か所の透し孔が穿たれる。杯部は大形で、底部から口唇



第158図　竪穴住居跡出土土器（18）

部まで僅かに内湾しながら立ち上がる。若干磨滅しているものの、内外面に丁寧なヘラミガキが施され、赤彩が加えられる。４は器台で、台部はハの字直線的に開き、上位に４か所の透し孔が穿たれている。外面に丁寧なミガキが施される。器受け部の口縁部は小さく折り返され、ほぼ直立しする。ナデが雑なため器面が平滑ではない。２、６～８は壺である。２はいわゆる坩形で、口縁部に最大径を有し、口縁部と胴部がほぼ同じ高さのタイプである。小さな平底で、口縁部は僅かに内湾しながら外傾する。６は口縁部を欠くが、下膨れの胴部となる。二次的に火を受けており、器面の荒れは著しいが外面には赤彩が施され。７は２を大形にした同形のタイプである。器面の荒れが激しいため詳細は不明である。８は胴部中位に最大径を持つやや長胴の壺である。口縁部は短く直立し大きく折り返される。器面の荒れがみられるが、胴部はヘラケズリ後粗いミガキが加えられる。９～12は甕である。９は頸部から口縁部に５条の粘土紐接合痕を残すタイプの甕で、口唇部には鋭利な工具によるキザミが施されている。弥生後期の可能性が高く、混入品であろう。11は胴部中位に最大径を有する球形胴となり、口縁部は短くくの字に外傾する。口唇部は平坦に面取りされる。器肉がきわめて薄く仕上げられていることや、口縁下位から胴部にかけて細かいハケ調整が施されていることから、畿内系の影響を受けている可能性がある。口縁部と胴部外面には煤の付着が確認できる。12はS字口縁甕の口縁部片で、胴部に縦方向のハケ目が残されている。器形は東海系であるが、胎土は地元産である。

SI－099（第159図）

１は甕の底部片で、摩耗が著しいため詳細は不明である。

SI－102（第159図）

１は粗雑な作りの小形甕で、内面には接合痕が明瞭に残る。器面の荒れが著しいが、ハケ調整を内外面に施している。甕のミニチュア土器となる可能性が高い。２・３は壺である。２はコの字形を呈すると思われる口縁部片で、器面の摩耗が著しい。３はやや上げ底の底部片である。

SI－112（第159図）

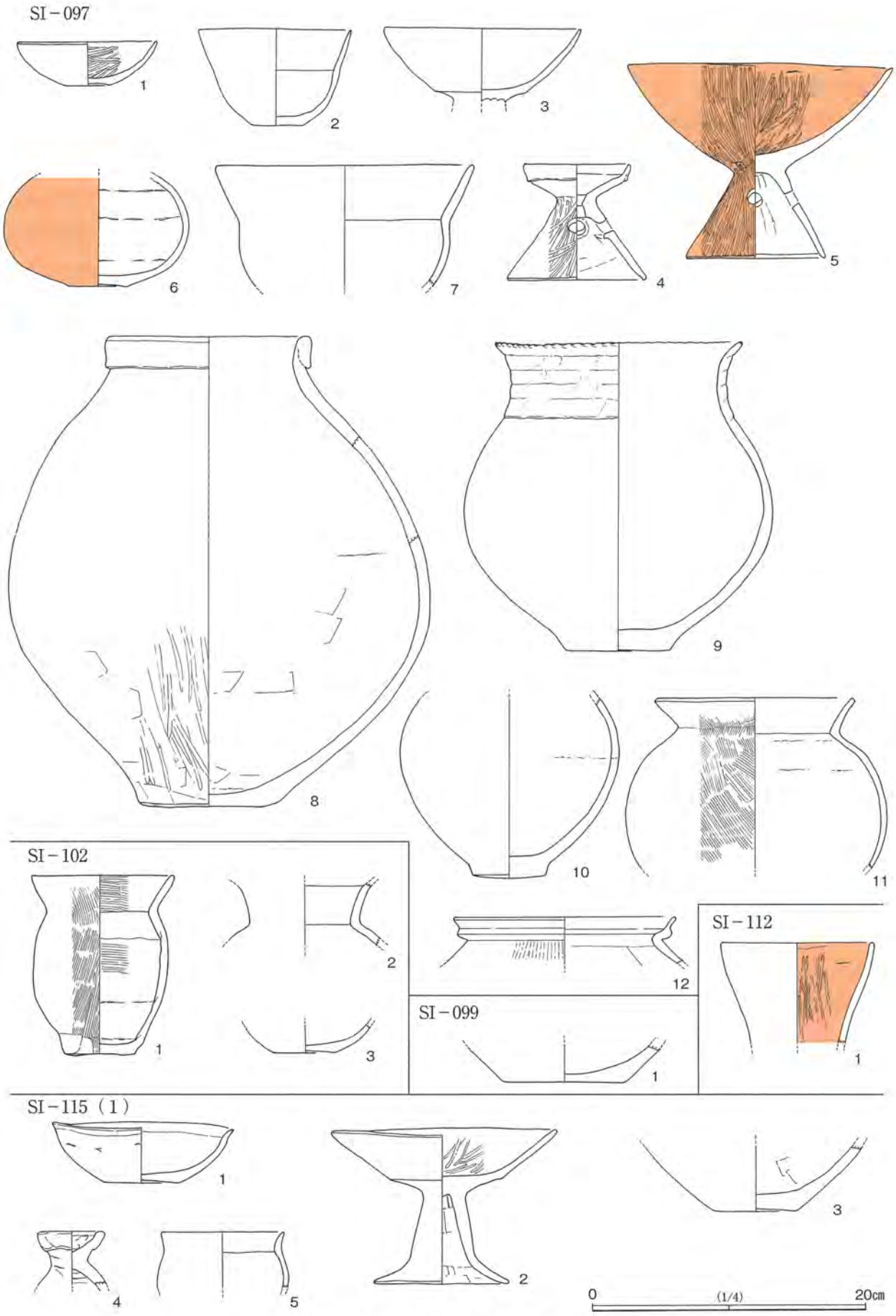
１は坩形を呈する壷の口縁部である。器面の荒れが著しく調整などは不明であるが、内面にミガキとともに赤彩の痕跡が確認できる。

SI－115（第159・160図、図版67）

１はやや歪みのある杯である。底部は上げ底となり、口縁部はやや外反する。２も歪みがみられる高杯である。脚部は下方の開く円錐形を呈し、裾部で大きく開く。杯部は底部と口縁部との境に僅かな稜を有し、口縁部は直線的に外方向に立ち上がる。二次的に火を受けており、外面の調整は不明であるが、杯部内面には粗いミガキ、脚部内面にはヘラケズリが施される。５は小形の壺で、口縁部が外反気味に直立する。３、６～８は甕である。６～８の内面には輪積み痕が明瞭に残る。６は緩やかに外反する口縁部を持つ甕で、外面に黒斑がみられる。７はくの字状に屈曲する口縁部であるが、作りは粗雑である。器面の荒れが著しいが、外面に粗いミガキがみられる。８は６と類似する器形であるが、器肉が薄く仕上げられる。４は器台を模したミニチュア土器である。全体に分厚く、器受け部の口縁部は折り返される。

SI－123（第160図）

１は甕である。胴部上位に接合痕が１条残されており、弥生後期の可能性もある。器面の荒れが著しく詳細不明である。２は甕の底部である。



第159図　竪穴住居跡出土土器（19）

SI－124（第160図）

1は甕で、口縁部は緩やかに外反する。器面の荒れが著しく調整などにつては不明であるが、器肉が非常に薄く仕上げられる。

SI－126（第160図、図版67）

1～3は坩形を呈する小形の壷である。1は口縁部に最大径を有し、口縁部が短く外形する。底部は小さな上げ底気味となる。摩耗により調整等は不明瞭である。2・3は口縁部が長く伸びるタイプである。2は器肉が薄く丁寧な作りであるが、器面の磨滅が著しく調整は不明である。3は口縁端部に最大径を有し、胴部が算盤形を呈する。4～9は高杯である。4の脚柱部は下方の開く円錐形で、裾部は水平に大きく開く。内面には絞り目が明瞭に残る。杯部は杯形を呈し、体部との境に明瞭な稜を形成する。器面は全体に摩耗が著しく、調整は不明瞭である。5・7は類似した器形である。水平な底部から口縁部は屈曲し、ほぼ直線的に外方向に立ち上がる。器面は磨滅により荒れている。8は底部と口縁部の境の稜が僅かで、ミガキの方向により区別しているようである。口縁部は内湾しながら外上方に立ち上がる。磨滅が著しいが若干ヘラミガキの痕跡が確認できる。9は比較的小さな底部からほぼ直線的に口縁部が立ち上がる。二次的に火を受けたため、器面は荒れ、赤く変色している。6は比較的長い脚部である。下方の開く円錐形の柱状部にハの字状に大きく開く裾部がつく。二次焼成により器面の荒れが著しい。10は大形の壷である。有段口縁を呈し、縦方向にミガキを施している。外面に赤彩が確認され、内面は磨滅が著しく不明瞭であるが、赤彩があったようである。11・12は甕である。11は口縁部が折り返されて、指頭によるナデつけが確認できる。二次的に火を受けており、赤く変色している。12は口縁部片で、口縁と胴部の境に接合痕が残る。外面には煤の付着が目立つ。

SI－127（第160図、図版68）

1は口縁部を欠く小形の壷である。平底で胴部上位に最大径を有している。摩耗が著しく調整は不明である。4・5は甕である。4は小形の甕で、胴部上位に最大径がある。口縁部は直線的に立ち上がるが開きは少ない。二次焼成による器面の荒れ、煤の付着がみられる。5は胴部中位に最大径を有する球形胴の甕である。口縁部はくの字状に外傾する。口縁下半から胴部にかけてヘラケズリが施される。二次焼成により外面全体に煤が確認できる。2・3は手捏ね土器で、ヘラ調整の痕跡が残る。

SI－128（第161図、図版68）

1は口縁部が片口となる鉢である。内外面赤彩がみられ、丁寧にヘラミガキが施される。2は高杯で、下方の開く脚柱部に、ハの字状に開く裾部がつく。杯部は、底部と口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直線的に開く。脚部外面にはナデ状の丁寧なヘラケズリ、内面にはヘラによる削ぎ取りが施される。4は大形の壷であろうか。球形胴に近く、内外面とも器面が荒れているが赤彩がみられる。調整は不明である。3は手捏ね土器で、磨滅が著しい。

SI－129（第161図）

1はコの字状の口縁を持つ壷である。胎土には多量の砂粒が含まれ、灰褐色を呈しているのが特徴的である。3は台付き甕の台部である。開きは少なく、筒状に近い形状である。4は鉢であろうか。口唇部に棒状工具による刻みを加え小波状となる。弥生土器の混入品となる可能性もある。

SI－132（第161図）

1は甕の底部、2はミニチュア土器・3は手捏ね土器である。2はコップ形を呈し、全体に丁寧に調整

される。3は底部が大きく突出する。

SI－143（第161図）

1は小さな底部を有する壺で最大径を口縁部に持つ。摩耗が著しいものの、内面にはヘラミガキが施される。口縁部と胴部の境には接合痕がみられる。

SI－148（第161図、図版68）

1は高杯の脚部のみの遺存で、下方の開く円錐状を呈する。器面の摩耗が著しい。2は甕のミニチュア土器である。作りは比較的丁寧である。3は壺の底部、4・5は甕の底部であろう。

SI－153（第161図）

1は口縁部に最大径を有する壷である。器面の荒れが激しく、調整などの詳細は不明である。2は甕の胴部から頸部片で、粘土紐接合痕を残す。弥生後期の混入品であろう。

SI－155（第161図、図版68）

1はいわゆる坩形の壷で、胴部中位に最大径を有し、算盤玉形を呈する。外面には煤の付着が確認できる。磨滅は著しいが、全面にヘラミガキが施されている。2は甕の底部である。二次的に火を受けて赤変している。

SI－156（第161図）

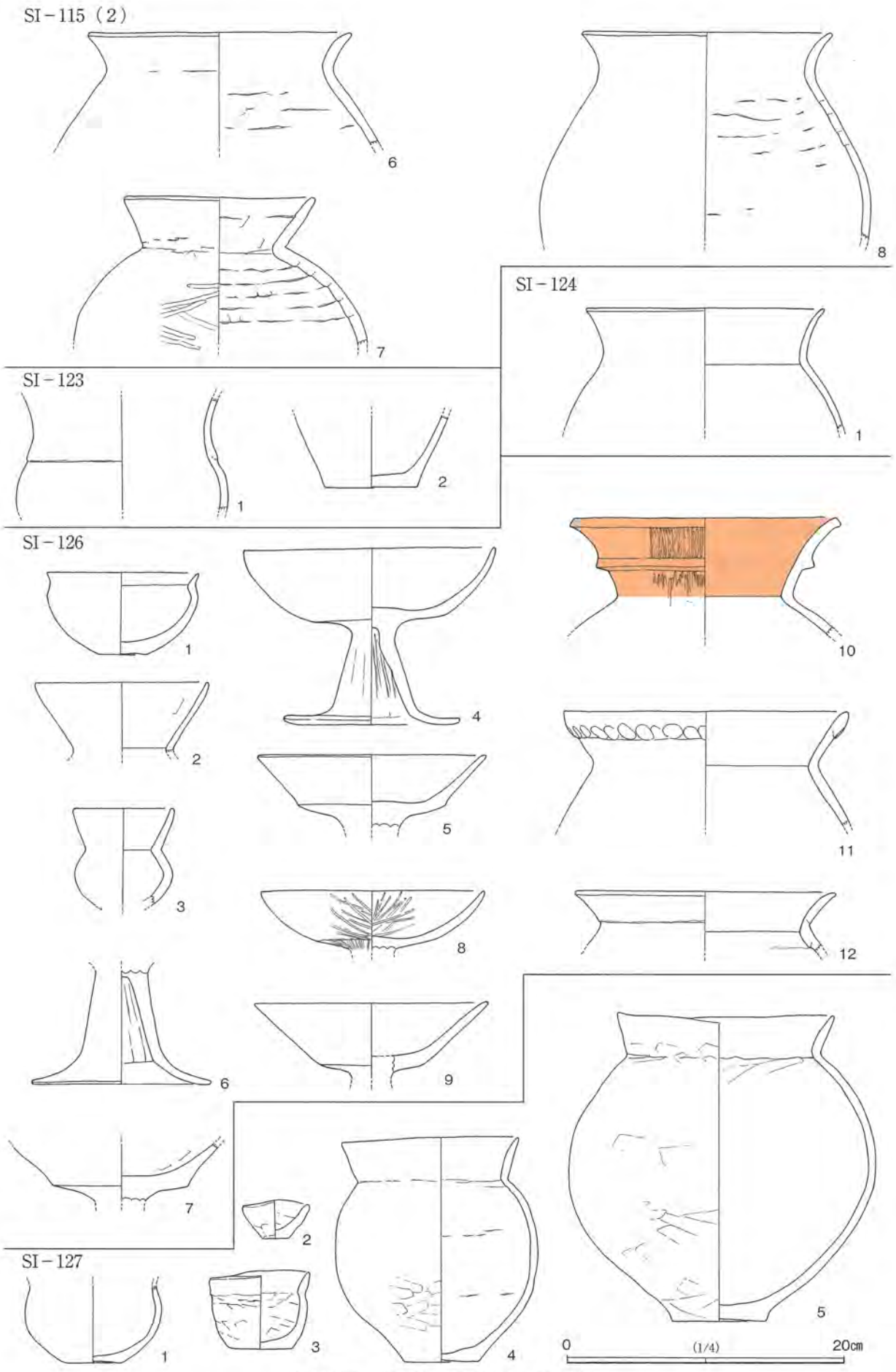
1・2は高杯の脚部である。1は下方の開く円錐形の柱状部で、裾部は大きく開く。摩耗は著しく、外面の調整は不明瞭であるが、内面にはヘラ痕が認められる。2は内実に近い筒状の柱状部で、内面に絞り目が確認できる。器面の荒れは著しい。3は甕の口縁部片で、口縁部はくの字状に屈曲する。

竪穴住居跡出土土製品（第162・163図、図版71、第5表）

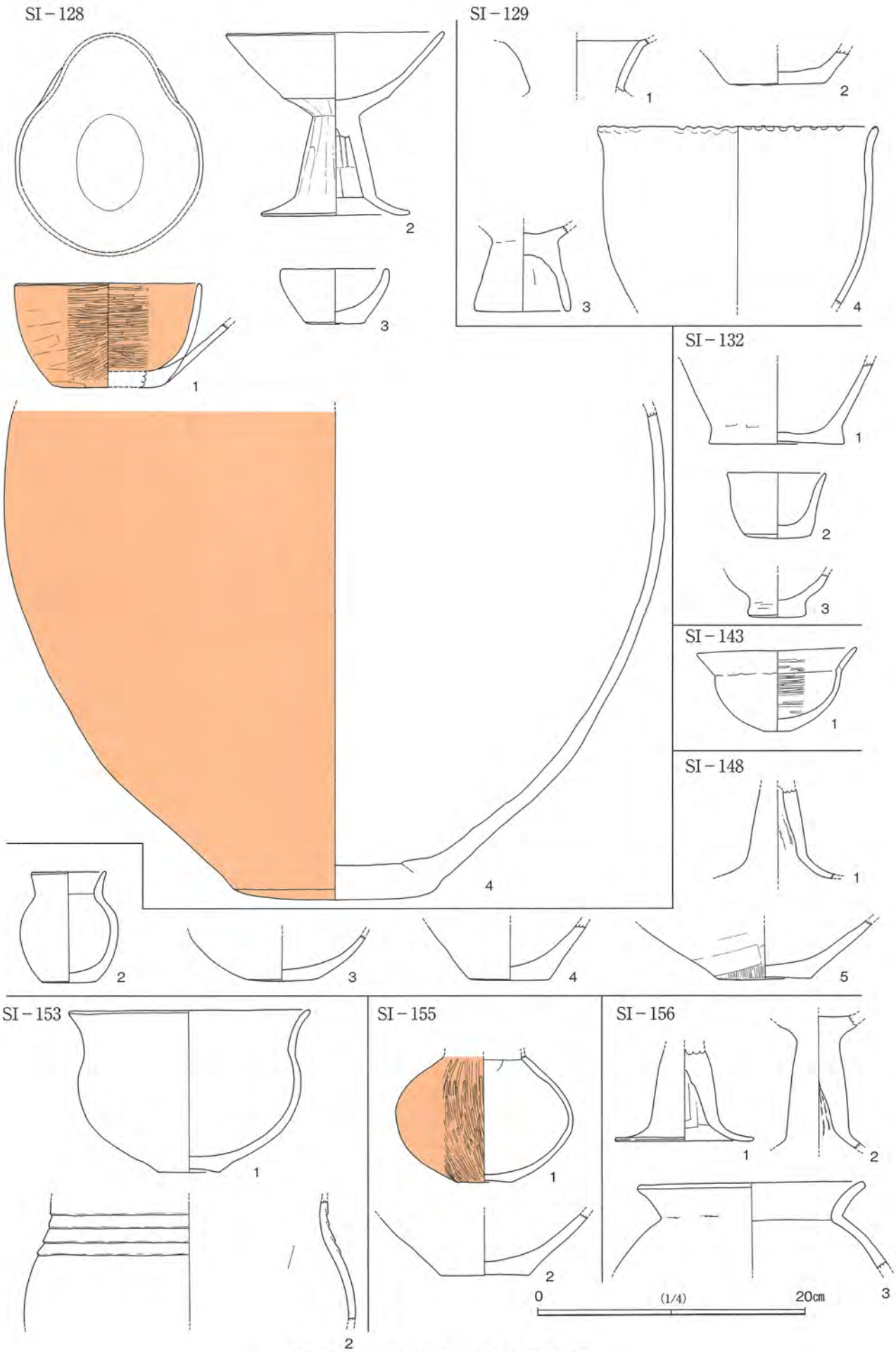
1～46は土玉で、1～28はSI－001からの出土である。孔の観察からは、棒状の芯に粘土を巻き付けて成形しているようであり、焼成前に孔の両端を整形する。胎土は砂質を帯び、色調は黒褐色を呈する。器表面は比較的平滑であるが、11～28には線状の凹みが数条みられる。凹みは棒状工具やヘラ状工具により意図的に加えられているが、中には縦に走る繊維痕が確認され、篠竹のようなものが使われていた可能性もある。この凹みの性格は不明である。このような土玉は、SI－023のものにもみられる。47は円盤状を呈し、側面に近い位置に焼成後の穿孔がみられる。48は頭部に穿孔を施しており、釣鐘形を呈する。49～52は性格不明の土製品である。53は丁寧に調整される紡錘車であろう。54～62は支脚である。55～57は古墳時代前期に通有の烏帽子形を呈するタイプである。

竪穴住居跡出土玉類・石製品（第164図、図版70・71）

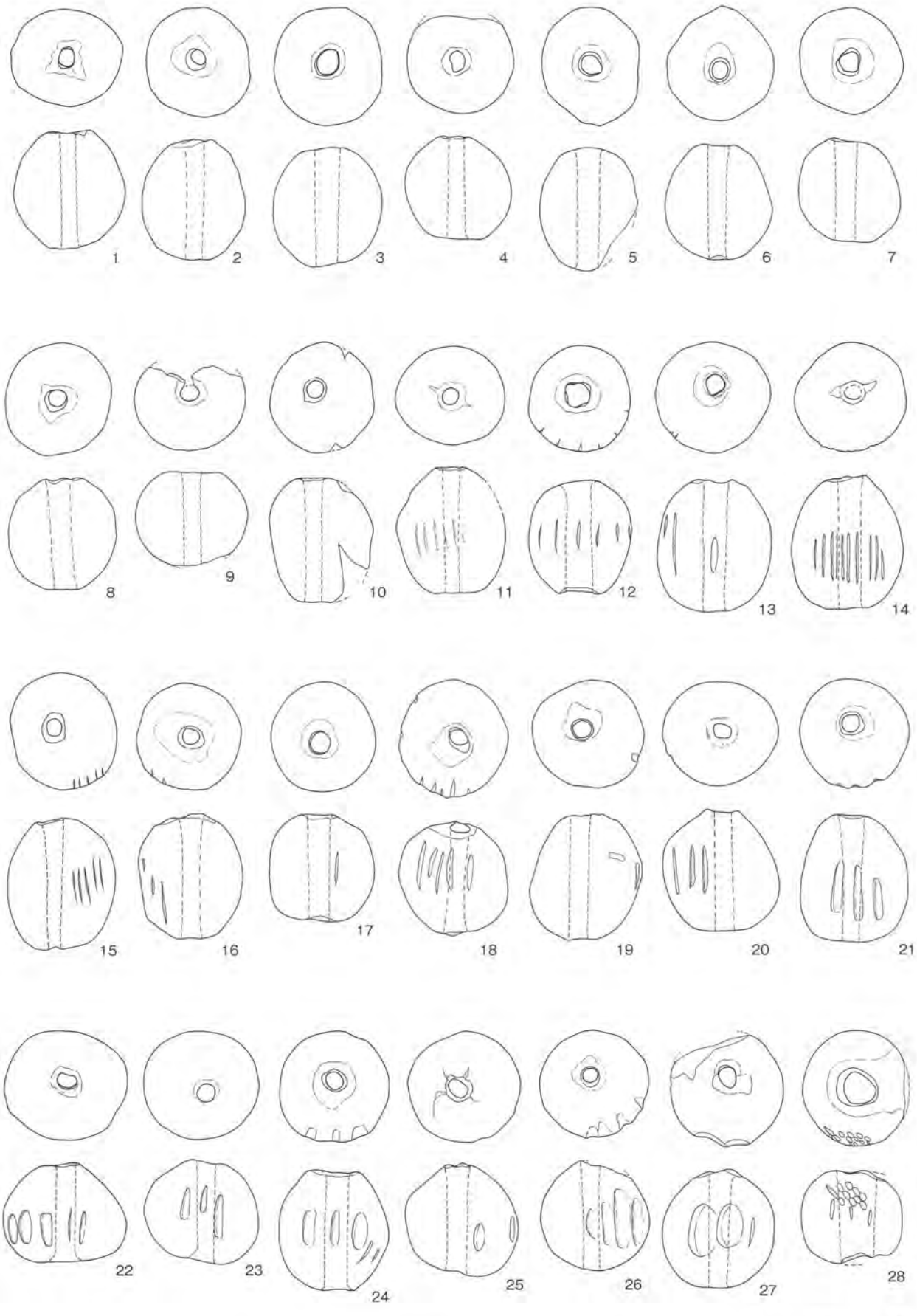
1～6、8～14は滑石製の臼玉である。穿孔は両側から施されるのがほとんどである。算盤玉状を呈するものがないことから、時期的に古い様相を示すものは含まれていないようである。7・15はガラス玉である。7は青緑色を呈し、縦長に切られる。15はやや大形となり、丸玉に近くなる。色調はコバルトブルーで、僅かに気泡が観察される。16～23は滑石製の模造品である。16～18は剣形品で、16・17は小形で、16の頭部には穿孔が施される。18はやや大形となり、裏面は平坦で、頭部に小孔が穿たれる。19は先端を欠くが、鎌形品であろう。やはり頭部に孔が穿たれる。20～23は双孔円板である。扁平で表裏面とも丁寧に研磨されているが、側面は雑なものが多い。24は滑石製の勾玉で、全体に扁平な作りである。25は表面の風化が激しく石材は確定的ではないが、やはり滑石製と思われる。24よりも全体に厚みや丸みがある。26～28は滑石製の紡錘車で、いずれも薄手で、調整は丁寧である。28は径4.9cm、厚さ0.9cm、口径0.75cmを測り、側面がスカート状に広がる。



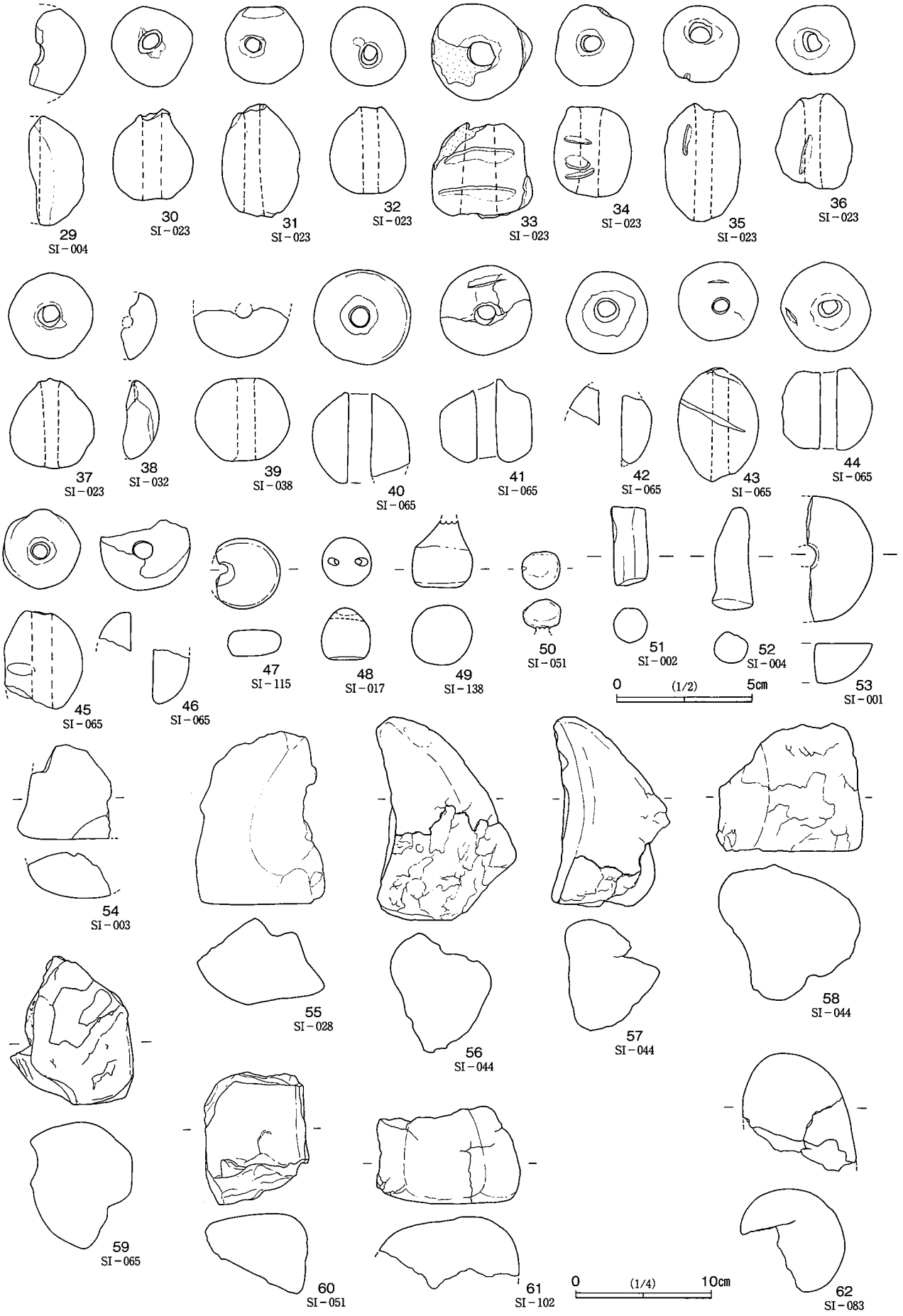
第160図　竪穴住居跡出土土器（20）



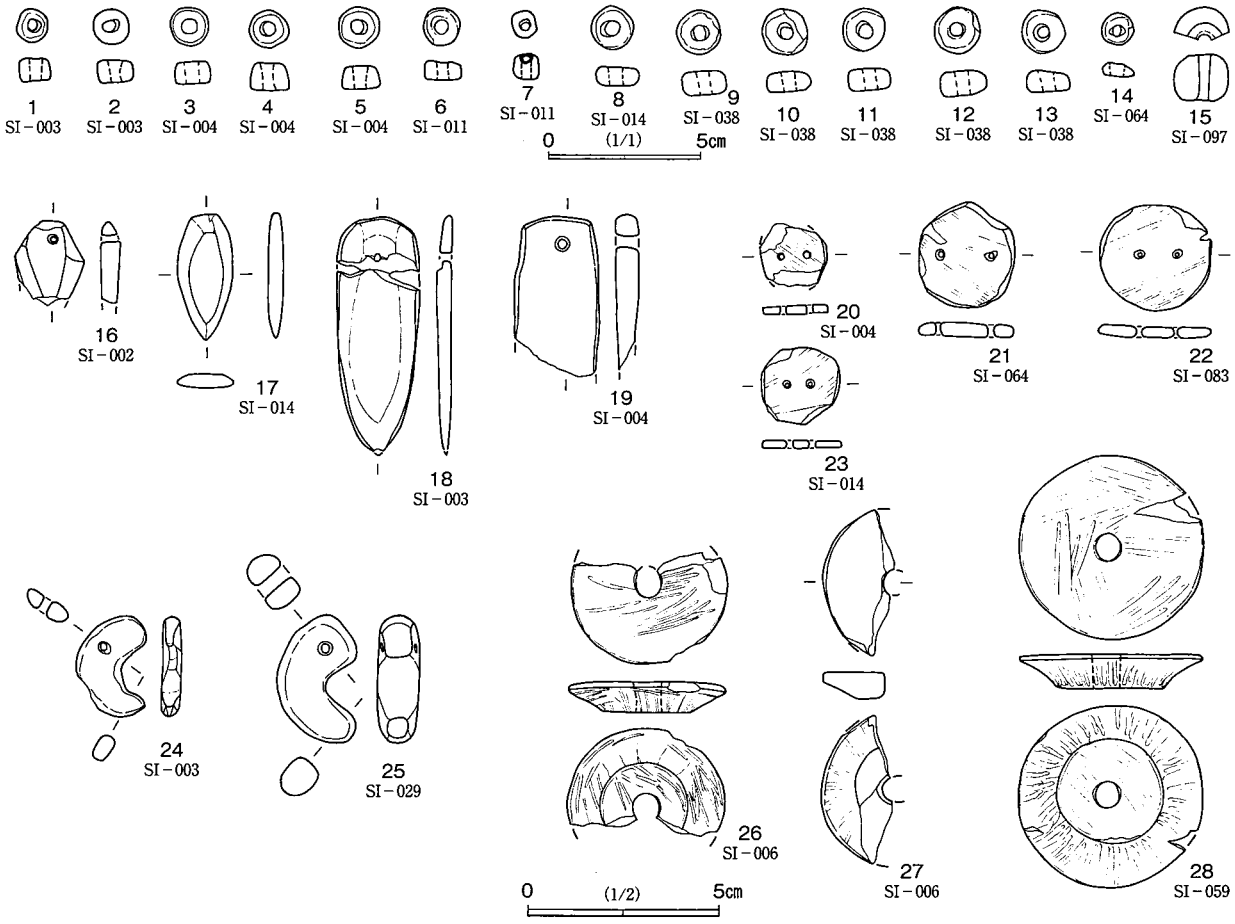
第161図　竪穴住居跡出土土器（21）



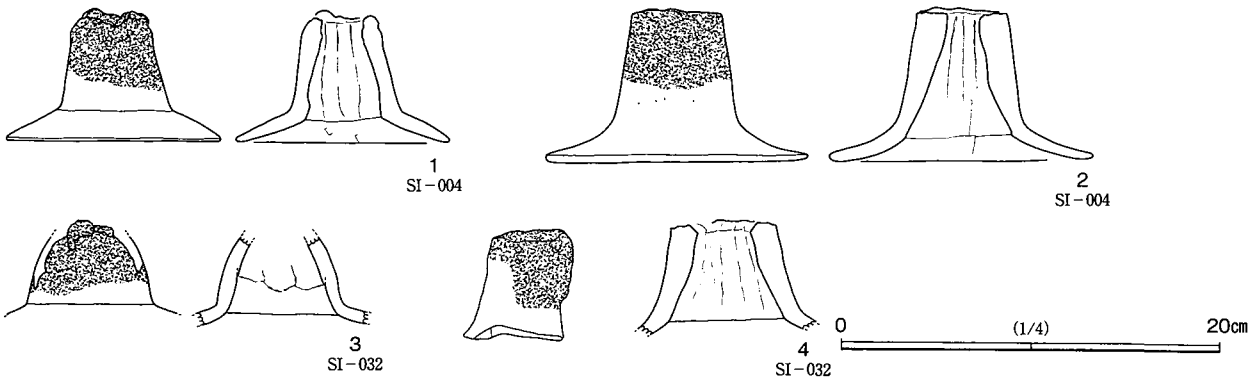
第162図　竪穴住居跡出土土製品（1）（SI－001）



第163図　竪穴住居跡出土土製品（2）



第164図　竪穴住居跡出土玉類・石製品



第165図　竪穴住居跡出土転用羽口

竪穴住居跡出土羽口（第165図）

１～４は高杯の脚部を再利用した羽口である。脚部の形態からすると、古墳時代中期から後期にかけてで、本調査区では最も新しい時期に含まれる。上部には被熱による変色が顕著に認められる。

３．土坑

SK－003（第166図）

調査区南東端、K20－27グリッドに位置する。長軸1.4m、短軸1.2m、確認面からの深さは最深部で0.5mほどを測る。底面には、段差やピット状の掘り込みがあり、平坦ではない。

遺物の出土は少なく、土師器の小片があるのみで、図示できる遺物はなかった。

SK－006（第166図、図版17）

調査区南東端、SK－003の北西5mほどに位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、西壁が若干オーバーハングしている。長軸3.0m、短軸2.1m、確認面からの深さ0.8mと比較的大形の土坑である。覆土は人為的に埋め戻した可能性がある。覆土中層に部分的な焼土のブロックが認められる。

遺物の出土は比較的多いが、ほとんど確認面及び覆土上層からの出土であり、本土坑の時期を示すものではないと思われる。１～３は高杯の脚部片である。裾部が外側に屈曲するタイプで、古墳時代中期後半の特徴である。１の脚柱部には貫通していない孔が２か所みられる。４は高杯の杯部と脚部の接合部である。逆台形状のホゾを差し込んでいる。５は手捏ね土器であろうか。全体にナデ調整される。６・７は甕で、６はミガキ、７はハケ目が認められる。

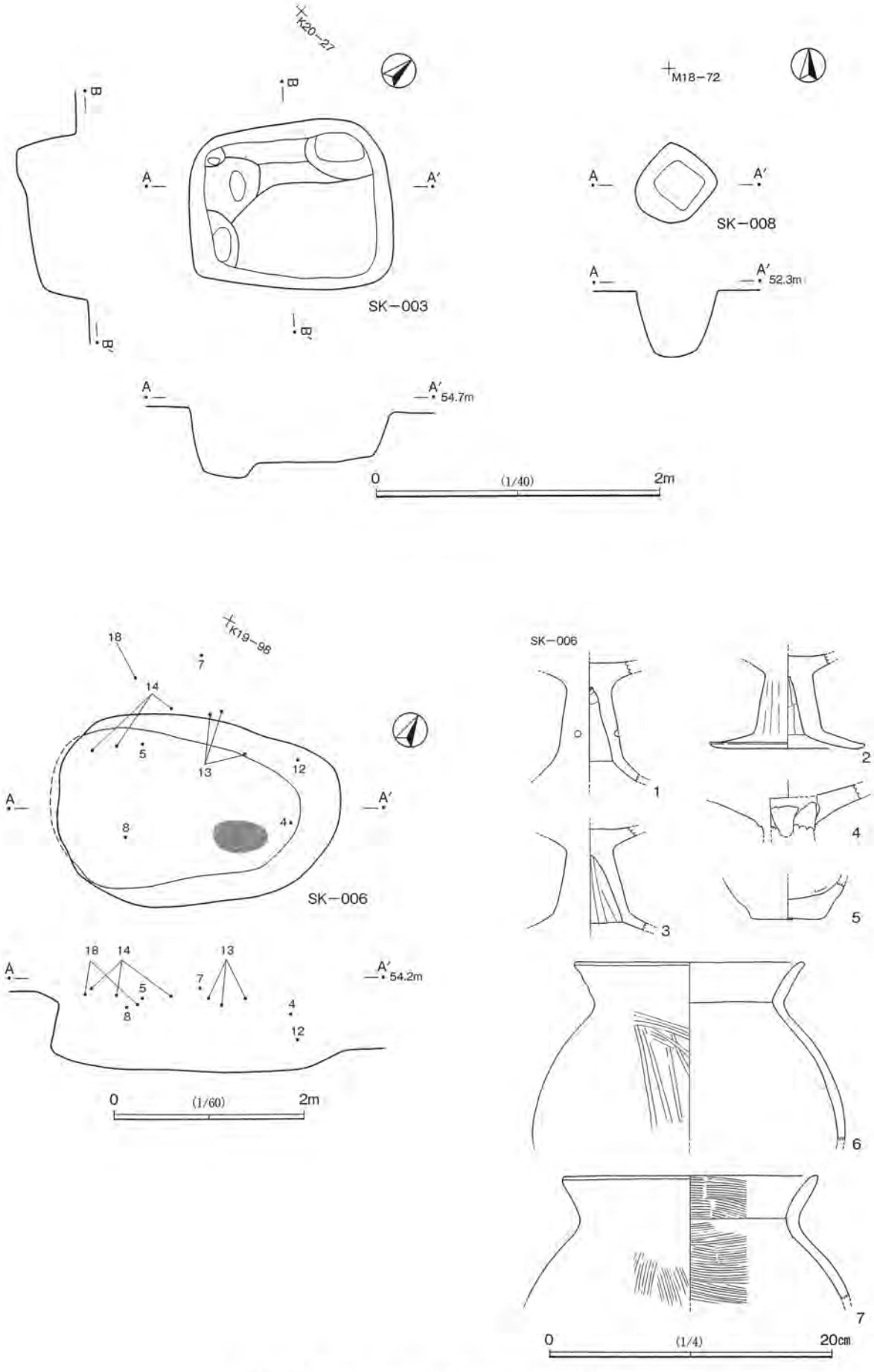
SK－008（第166図）

調査区ほぼ中央、M18－72グリッド付近に位置し、SI－135と重複する。1辺0.5mほどの略正方形状を呈し、確認面からの深さ0.5mを測る。その形状から、住居に伴う貯蔵穴となる可能性もある。

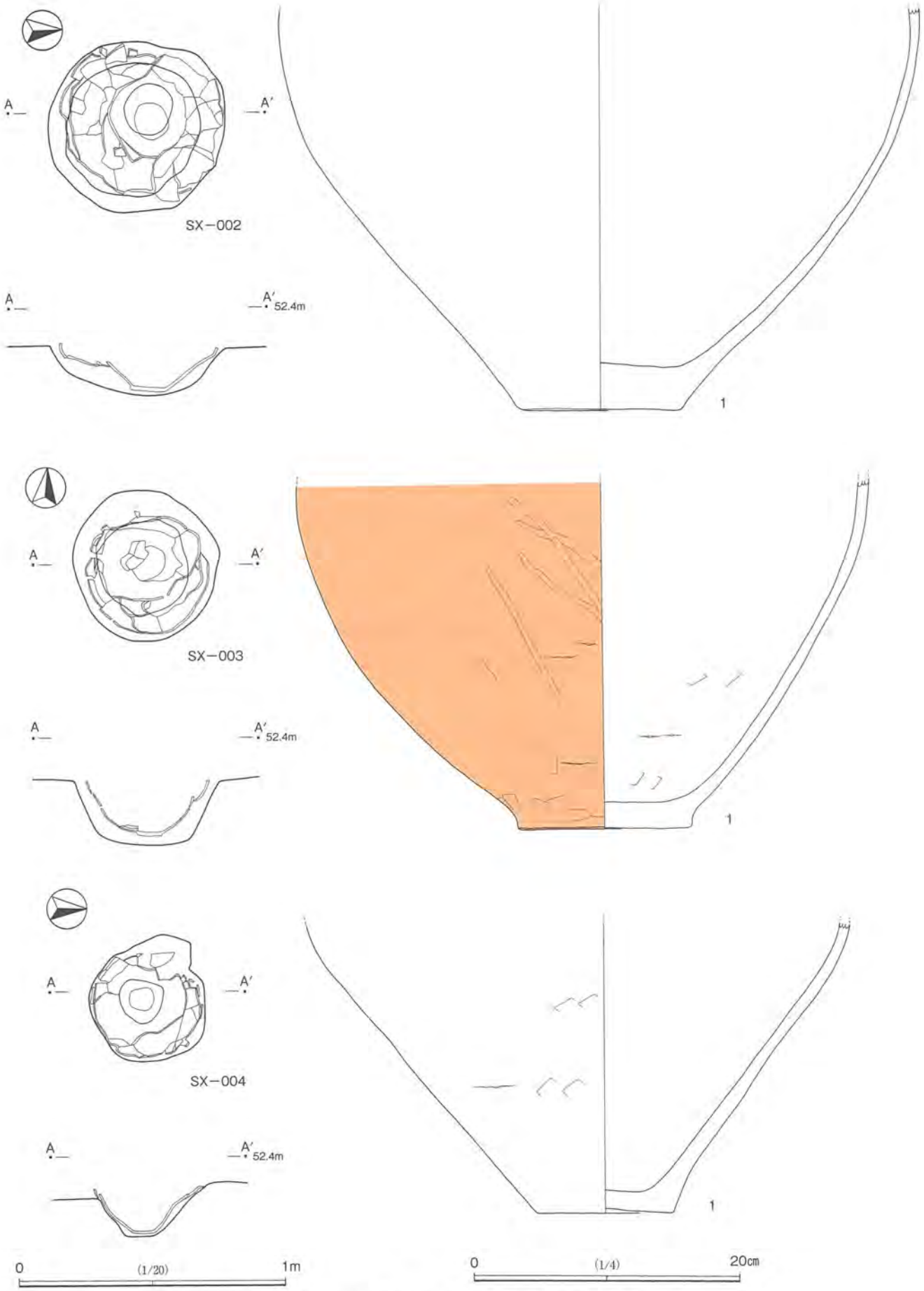
遺物の出土は少なく、図示できるものはなかった。

４．壷棺墓

土坑内部に壷を埋めたような遺構が３基検出された。３基ともまとまって分布しており、壷棺墓となる可能性がある。



第166図　SK－003・SK－006・SK－008



第167図　SX－002・SX－003・SX－004

SX－002（第167図、図版17）

調査区北西側、17M－25グリッド付近に位置する。径65cmの略円形を呈し、確認面からの深さ20cmを測る。底面はすり鉢状となり、大形の壷が納められる。

1は壷の胴部から底部で、上半部を欠く。内外面ともに被熱による器面の荒れが激しい。調整は不鮮明であるが、ミガキの痕跡が認められる。

SX－003（第167図、図版17）

17M－36グリッド付近、SX－002の南東2mほどに位置する。長径58cm、短径54cmのやや不整な円形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。底面はやや平坦な面を有する。土坑掘り方に接しないような状況で壷が置かれている。

1は大形壷で、上半部を欠く。底部はやや突出し、器面は荒れているが、外面ミガキ調整が施される。外面には赤彩が認められる。

SX－004（第167図、図版17）

17M－52グリッド付近、SX－002の南西7mほどに位置する。径40cmほどの不整な円形を呈し、確認面からの深さ20cmを測る。底面は小さな平坦面を有し、壷が土坑掘り方面に接するように納められている。

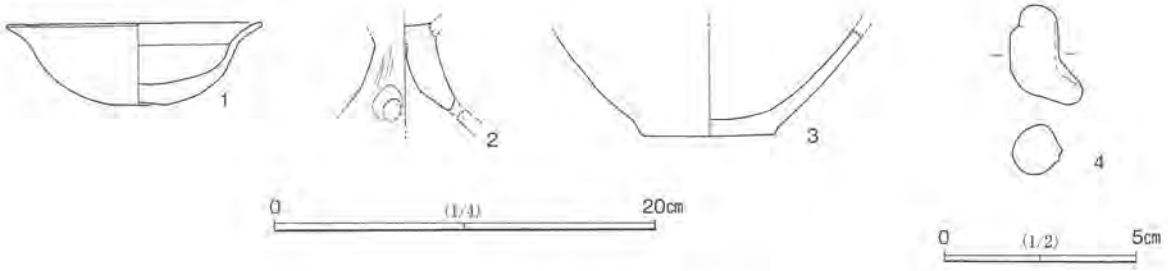
1はイチジク状を呈する大形壷の下半部で、底部はやや上げ底となる。器面の剥離が顕著で、調整等は不明である。

5．溝状遺構

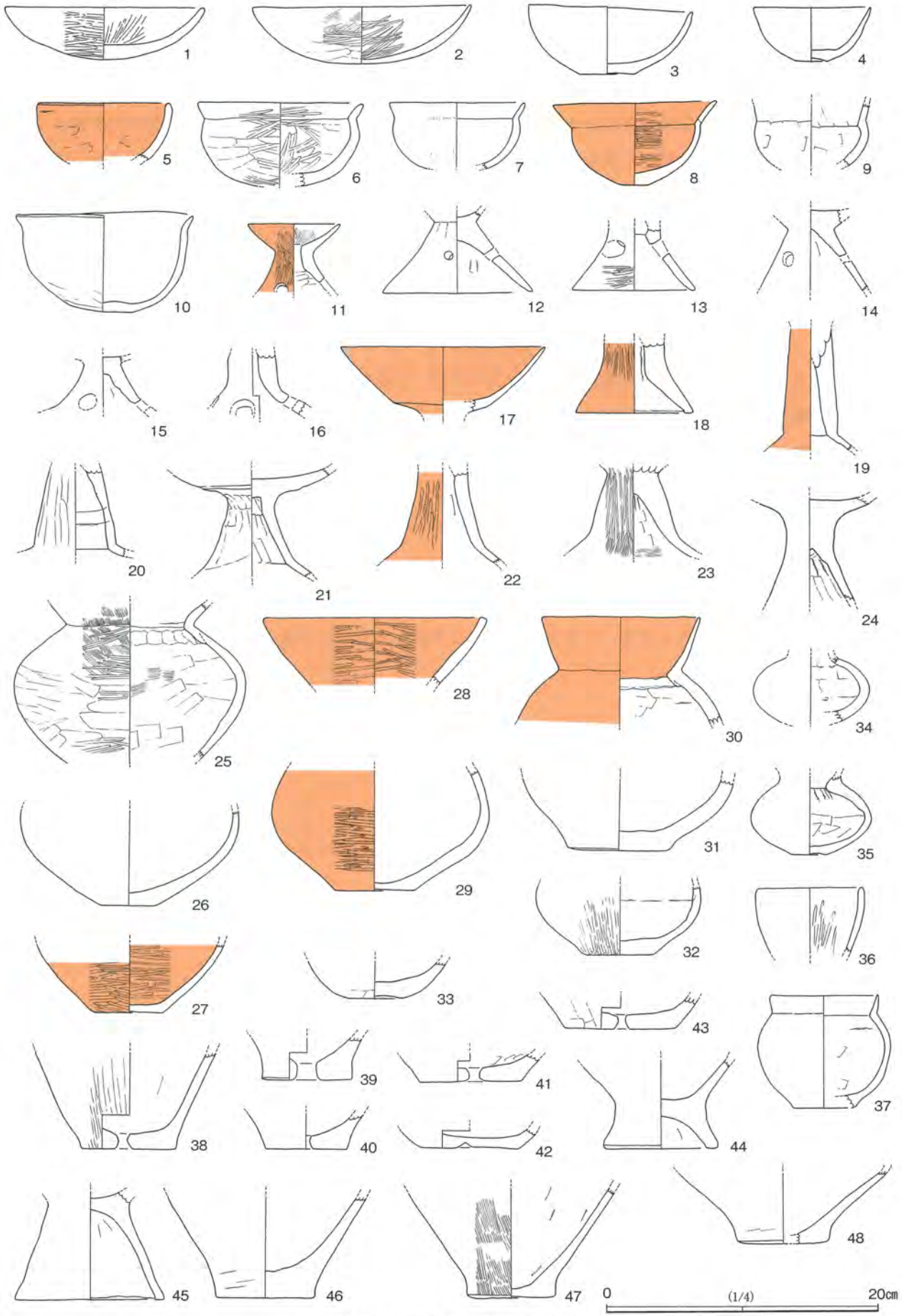
本遺跡からは、数条の溝状遺構が検出されているが、伴出遺物が少なく、時期を明確にするものはなかった。SD－002から数点の遺物が出土しているが、混入したものと思われる。

SD－002出土遺物（第168図）

1は杯である。口縁部が大きく外反し、底部はやや上げ底となる。器面の荒れのため調整は不明である。2は器台の台部であろうか。透し孔が3か所開けられる。3は壷の底部と思われる。4は土製品で、明確な用途は不明であるが、大形の勾玉となるかもしれない。



第168図　SD－002出土遺物

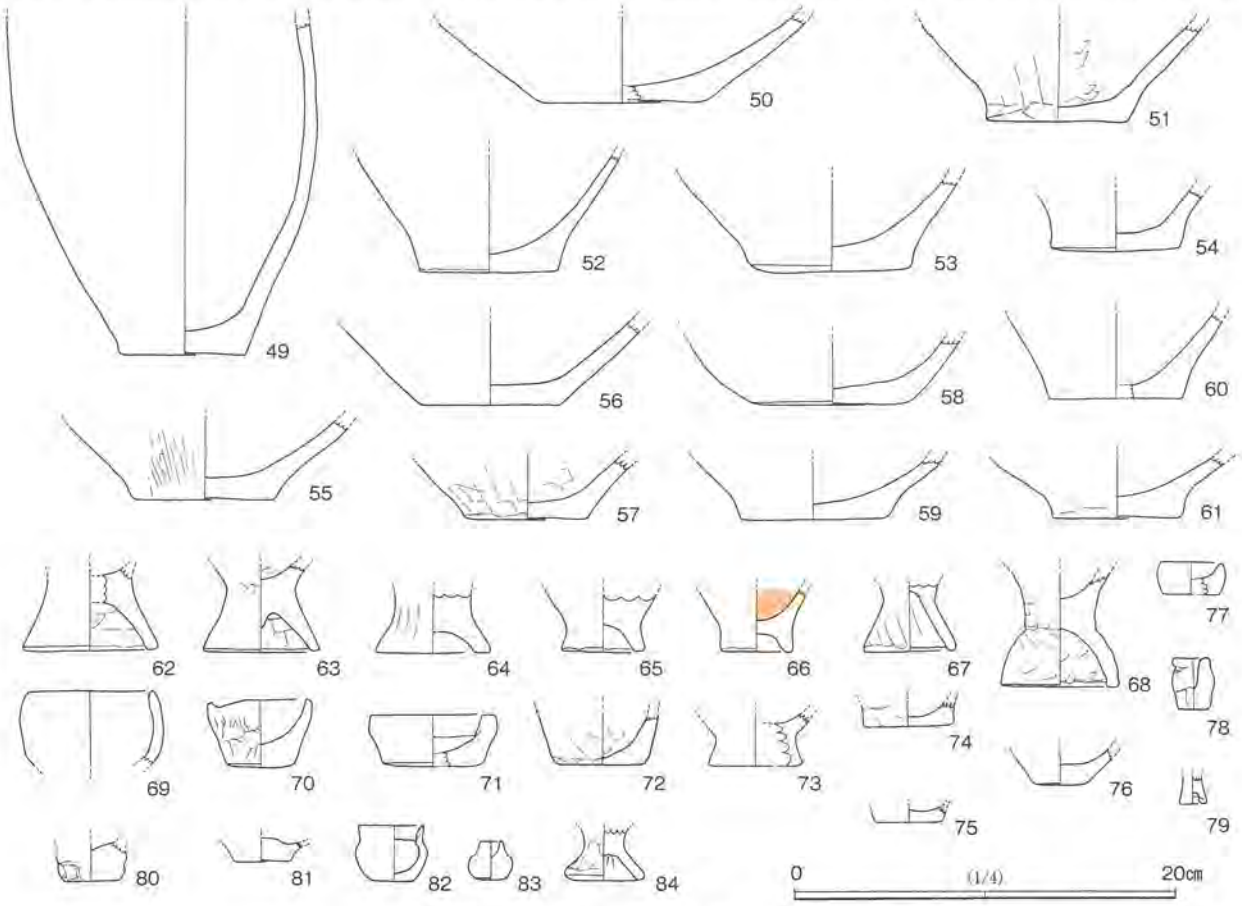


第169図　遺構外出土土器（1）

6．遺構外出土遺物

遺構外出土土器（第169～170図、図版68）

1～5は杯である。1・2は丸底で、器高が低く皿状を呈する。内外面とも丁寧なミガキが施される。3・4は平底で、上げ底気味の底部から体部が内湾しながら外上方に立ちあがり、口唇部をやや摘み上げる。5は椀形を呈し、内外面とも赤彩される。6～10は小形の壷である。6・7は丸底、8は小さな平底となる。6はやや雑な作りであるが、内外面ともヘラケズリ後ミガキが加えられる。8の内外面は赤彩される。10は椀形を呈し、口縁部が短く外傾する。11～16は器台である。11・13・16は器受け部と台部が貫通するタイプで、11には丁寧なミガキと外面赤彩が施される。12・14・15は台部がハの字状に大きく開く。17～24は高杯である。17は杯部のみの遺存で、調整は不明であるが、内外面赤彩される。18は特異な形態を示しており、全体は不明である。19～24は脚部で、19・22の外面には赤彩がみられる。19の柱状部は細い筒状を呈するが、中空となる。20～24は下方の開く円錐状を呈する。20は中膨らみの形状で、内面に接合痕が明瞭に残る。25～37は壺である。25は胴部上位に最大径を有し、外面にはヘラケズリ後のハケとミガキ調整が確認でき、内面には胴部と口縁部との接合部にオサエのための指頭痕が残る。28は内外面にミガキと赤彩が施され、口唇部が平坦に仕上げられる。30も内外面に赤彩がみられ、胴部内面上端に口縁部貼り付けの際の粘土のはみ出しが残る。34はいわゆる坩形で、口縁部を欠く。35はやや上げ底となり、内面にヘラの当たりが明瞭にみられる。36は長頸の壷の口縁部片である。37は小形の甕である。口縁部が内湾気味にほぼ直立する。38～61は壺または甕の底部である。38～41には焼成後の穿孔が加えられ、甑として再利用した可能性もある。42も外面から穿孔が試みられているものの、貫通していない。44・45

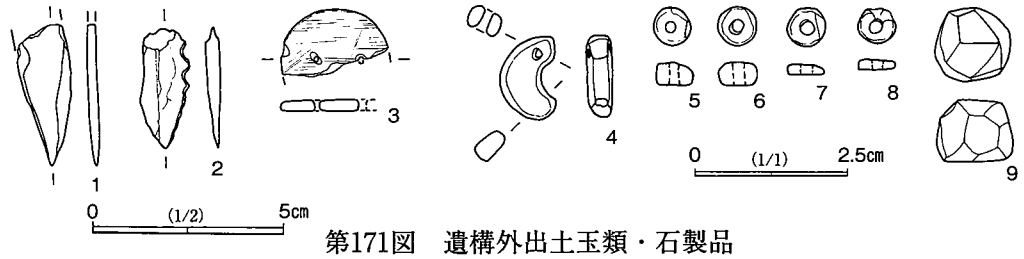


第170図　遺構外出土土器（2）

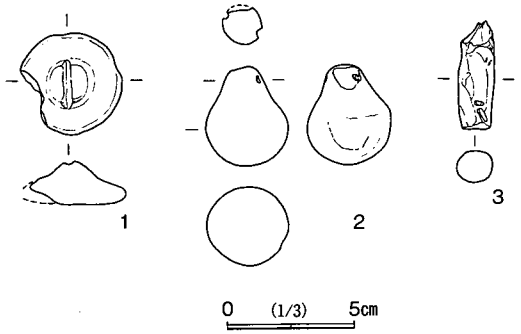
は台付き甕とも思われるが、44は弥生土器の可能性もある。62～69、82～84はミニチュア土器である。器台や高杯、甕などを模しているものと思われる。70～81は手捏ね土器である。

遺構外出土玉類・石製品（第171図、図版70）

1・2は滑石製の剣形模造品と思われるが、いずれも未製品あるいは破損品である。2の側面には鋸歯状に成形した部分がみられるが、性格不明である。3は双孔円板である。両面とも丁寧に仕上げられている。4は滑石製の小形勾玉で、長さ10.4㎜を測る。丁寧に仕上げられ、穿孔は片側から開けられる。5～8は滑石製の臼玉である。厚みのある5・6と扁平な7・8が認められる。9も滑石製であるが、孔が開けられず、多面体の形状を呈する。用途は不明である。



第171図　遺構外出土玉類・石製品



第172図　遺構外出土土製品

遺構外出土土製品（第172図）

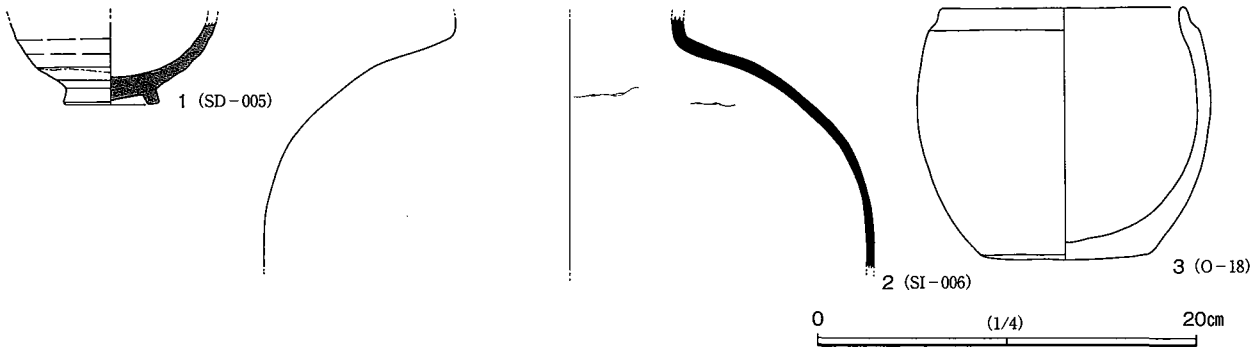
1は鏡形の模造品であろう。上面の紐の部分が剥離している。径4.0cmの円形を呈し、円錐状の断面形となる。2は鈴形の模造品と思われる。上部の孔は貫通しておらず、窪んだ状態である。3は棒状を呈するが、用途は不明である。

第4節　奈良・平安時代以降

本調査区から、奈良・平安時代以降の遺構は検出されなかったが、グリッド中から僅かながら遺物が出土している。

1．遺構外出土土器（第173図）

1は口縁部を欠く瀬戸の椀である。体部下端に回転ヘラケズリが施され、黄白色の釉が内面全体及び外面上部にみられる。2は須恵器壷の胴部片である。肩部全面に自然釉が掛かり、胎土中に黒色粒子を多く含む。3は土師器の短頸壷である。胎土は砂質を帯び、赤褐色の色調を呈する。



第173図　遺構外出土奈良・平安時代土器

第3章　まとめ

第1節　出土土器の位置づけ

本調査区からは、158軒の竪穴住居跡が確認されているが、時期不明を除き、弥生時代の所産と思われる住居数は61軒、古墳時代は60軒である。集落の成立は弥生時代中期宮ノ台期から始まり、古墳時代中期まで継続する。ここでは、出土した土器の様相から、弥生時代・古墳時代をそれぞれ3期に分類し、時期ごとの土器の特徴や集落の変遷について概観する。なお、各住居の時期については第6表の一覧表を参照していただきたい。また、土器の分類は、弥生時代を第174図、古墳時代を第175図に示している。

1．弥生時代

Ⅰ期

本調査区の集落形成時期に相当し、型式的には宮ノ台期となる。資料数は多くないが、SI－037・138の2軒の竪穴住居跡で比較的良好なセットがみられる。この時期の壷は、全容の分かるものがなく、口頸部と胴部の断片資料からみてみる。壷Aの口頸部は細い長頸を呈し、口縁部の開きは少なく、頸部が無文となるタイプである。壷Bもほぼ同様であるが、口縁部の開きがやや大きくなり、頸部文様帯がみられるようになる。壷Cは口縁部の開きがさらに大きくなり、やや大形となる一群である。頸部文様帯は、無文部を挟むようになる。図示した胴部は、球形胴に近いことから、壷Cの胴部と考えられる。SI－138の壷の頸部は、無文のものと施文されるものがあるが、施文は斜縄文のみで、羽状化するものは認められない。また、SI－118の壷Aは口縁部が折り返され、棒状浮文が貼り付けられることから後出の要素と思われる。壷の胴部をみると、球形胴となるものが多く、斜縄文を主文様としている。SI－138の壷Cの胴部上半には、沈線と磨消縄文で構成される結紐文が認められる。回転結節文によらない結紐文は先行する施文方法である。甕は口縁部に最大径を有し、胴部の膨らみも弱い。口唇部には指頭あるいは棒状工具による押捺が巡る。甕Aは胴部が直線的で、SI－037のみにみられる資料である。甕Bにはハケ調整がみられ、甕CはBの大形品である。

少ない資料ではあるが、本期には前段階の須和田式期の流れを汲む文様が認められないことから、後続する宮ノ台期に含まれる土器群である。これらの様相から、近くに位置する常代遺跡群（甲斐ほか1996）で検討された時期編年と比較してみると、第1期は、常代編年第4～6期までに相当するものと思われる。第4期の特徴である須和田的な文様や磨消縄文から派生した意匠文が少ないことから、SI－138の土器群など第4期に相当する住居は少なく、本調査区では集落の開始時期にあたる。ただ、同住居には第5期の土器群も含まれることから、第4期でも新しい時期となり、宮ノ台古段階から中段階にかけての所産と思われる。第5期は、甕Aや壷B、第6期は壷Cや甕B・Cなどが該当すると思われるが、同一住居に混在する点を考えれば宮ノ台期中段階から新段階に相当する。

Ⅱ期

Ⅰ期よりも住居軒数が増加し、総数17軒を数える。この段階になると、器種構成の中に鉢あるいは椀、高杯などが含まれるようになり、口頸部に多段の輪積み痕を残す甕が出現してくる。鉢・椀類には、無文のものと口縁部に文様帯を施すものがみられる。文様帯は、Ⅰ期にはみられなかった羽状縄文を採用している。Ⅰ期にみられた体部が直線的にのびる鉢Aに加えて、体部が内湾気味に開く鉢B、SI－105のよう

に体部が半球形状を呈する椀（無頸壷）も含まれるようになる。口縁部が折り返され、下端に刻みを巡らす特徴を有する。高杯は、脚部と杯部の接合部に刻みを巡らした凸帯が貼り付けられるタイプである。杯部の形状は鉢Ｂに類似する。壷にはいくつかのバリエーションがみられるようになる。Ｉ期の細い長頸タイプの壷Ａは姿を消すが、系譜を引き継ぐと思われるSI－017出土の短い細頸の壷Ａが残る。一方で、新しい様相を示す口縁部がくの字状に開く壷Ｂや広口の壷Ｄが含まれるようになる。Ｉ期の縄文は斜縄文が主体であったのに対し、本期の壷は羽状縄文がほとんどである。また、胴部にミガキ調整を施すのも本期の特徴である。壷ＣのSI－157例は、縄文が用いられず、櫛描文による文様構成が特徴である。このタイプは、南関東ではなく、東海地方の系統と思われる。胎土は地元のものであることは明らかで、文様のみを模倣したいわゆる東海系の壷といえよう。甕では、Ｉ期にはみられなかった口頸部に多段の輪積み痕を残すタイプの甕Ｄが出現する。また、Ｉ期の系譜を継ぐと思われる甕Ｅは、口唇部に押捺を巡らし、頸部に押捺を加えた１条の接合痕が残る。

本期は、多段の輪積み口縁甕、羽状縄文を主体とし、胴部にミガキを施す調整技法の壺などから久ヶ原式期に含まれる土器群である。編年図には示さなかったが、山形文の壷なども破片状態で確認されている。諸墨氏らの編年（諸墨ほか　1996）によるⅡ期からⅢ期にかけての様相に近似する。

Ⅲ期

竪穴住居数はさらに増大し、総計40軒を数え、出土土器も多様となる。小形の鉢ＡはⅡ期までとほとんど変わらないが、体部が直線的に開くようになる。鉢Ｂは、Ⅱ期にみられた体部が内湾気味に開くものが残る一方、SI－043のように直線的に大きく開くタイプが含まれるようになる。椀はⅡ期とほぼ同様で、口縁部文様帯は羽状である。壷は、Ⅱ期までの首の細い壷ＡやＢは姿を消し、口縁部がくの字状に大きく開く壷Ｃ及び広口の壷Ｄで構成される。SI－043に壷Ｃの良好な資料がみられ、口縁部は複合口縁となり、Ｓ字状結節文や沈線によって区画された内部に羽状縄文が充填される。口縁部や頸部にボタン状の円形浮文が貼り付けられるものもみられる。Ⅱ期の壷との相違点は明確ではないが、沈線区画が沈線だけではなく、結節文を用いている点は新出の技法と思われる。また、胴部のミガキ調整も前期に比べるとかなり普遍化してくる。壷ＤはⅡ期の胴部下半に段を有するものが引き続き含まれるとともに、壷Ｄの小形品もみられる。甕は、Ⅱ期と同様多段の輪積み痕を残す甕Ｃと肩部に接合痕がみられる甕Ｅが主体的である。他に、台付き甕となる甕Ｆが出現してくるが客体的な存在である。壷同様甕もⅡ期からの変化は少ないが、全体的にみると、胴部が球形に近くなり、最大径を胴部に有するものが多くなる。

これらの土器群の様相から、本期の編年的位置づけは、大村編年（大村　2004）による山田橋式、諸墨編年によるⅣ～Ⅴ期に相当すると思われる。

２．古墳時代

Ⅰ期

本期の竪穴住居数は、総軒数20軒を数える。この段階は、器台や東海系の高杯、壷・坩類が多くみられる。器台は、台部が裾部まで直線的に開くものと、裾部が大きく開くタイプの器台Ａ及び鼓形器台のような形状を示す器台Ｂがある。器台Ａは、SI－097例が最も古く、SI－066、SI－005へと変遷していくものと思われる。高杯は、椀形の大きな杯部に小さな脚部が付くいわゆる元屋敷系と思われる。坩は、口縁部が外反する坩Ａと内湾する坩Ｂに分けられる。坩Ａ・Ｂとも口縁部に最大径を有するものがほとんどであるが、SI－005の坩Ｂは、口縁部と胴部の径がほぼ同様で、壷に近い形態である。壷は、くの字状に外反

する短い口縁部の壷Aと、長い口縁部に球形の胴部が付くいわゆる大形の坩に近いタイプの壷Bである。他の壷はバリエーションがあり、口縁部が短く直立するものや、くの字状に外反するものなどがある。甕の良好な資料は少なく、小片のため図示しなかったが、弥生の系統を引き継ぐ頸部に多条の輪積み痕を残すものや東海系のS字口縁甕がみられる。

Ⅱ期

Ⅰ期とは異なり、新たに杯Aが少数ながら姿を見るようになる。全体に小形で、小さな底部を有し、半球形状を示す。器台や東海系の高杯は姿を消すが、新たに長脚タイプの高杯が出現する。3つのタイプが確認され、高杯Bは柱状で裾部が屈曲して開くもの、Cは脚柱部がやや開き気味となり、中膨らみを呈するものも含まれる。B・Cとも杯部は下位に明瞭な稜を有して口縁部が大きく開く。高杯Dは特徴的で、本期にのみみられる。椀状の深い杯部に内湾気味に開く小さな脚部が付くものと思われる。坩も前期とは異なったタイプがみられるようになる。Ⅰ期の系統である坩Bは、全体的にやや大きくなり、口縁部と胴部の最大径がほぼ同じようになる。新たな器形として坩Cが出現する。口縁部が短く外屈し、半球形状の胴部が付くものである。小形の壷は、Aタイプが終息し、Bが主流となる。Ⅰ期とはやや異なり、口縁部と胴部の最大径がほぼ同様となる新出の様相が含まれている。大形の壷は、全形を伺える資料はないが、複合口縁、有段口縁、素口縁といくつかのタイプが認められる。甕は、口縁部が強く屈曲し、胴部が球形に近い壷に類似するタイプの甕A、口縁部の外反が比較的緩やかで、胴部がやや長くなる甕B、小形になる甕Cに分類できる。

Ⅲ期

本期では、前期に少なかった杯が多くなる。前期を引き継ぐ杯Aと新たな杯Bで構成される。杯Aには、鉢形に近いものや器高が低いものなどいくつかのバリエーションがみられる。杯Bは、和泉期に特徴的な底部を形成せず器高が低い皿状のものや、半球形状のものがみられる。高杯は、Ⅱ期の柱状脚を呈する高杯Bが姿を消し、高杯Cが主体となる。Ⅱ期との差異は、脚部が短くなり、鬼高的様相である杯部の下位に稜を形成しない椀状のものが含まれるようになる。坩はⅡ期とほとんど変化はないが、Ⅱ期の口縁部の長い坩Bのタイプはあまりみられなくなり、坩Cが主体的となる。小形の壷Bは、Ⅱ期の球形胴からやや変化し、算盤玉に近い形状を示す。本期の大形の壷はⅡ期とほとんど変化がない。甕は、Ⅱ期にみられた甕Aがなくなり、甕B及び甕Cが主体となる。

古墳時代の出土土器から以上のように3期に分類した。ここでは、君津地域における各期の編年的位置づけを杯や高杯類を中心にして考えてみたい。Ⅰ期は器台と高杯が指標となる。器台は、器受け部が浅い皿状となるSI－097例が最も古く、君津郡市センター土器研究B班の編年によるⅦａ期（古墳前期中葉）、高杯はⅥ期となる。ただ、器台は脚部が外反しないことから、古いタイプと考えられ、Ⅵ期となる可能性がある。SI－005とSI－066の器台は、深い器受け部や脚部がスカート状に大きく開くことなどから新しい様相と思われ、Ⅶａ期からⅦｂ期にかけての所産であろう。坩Aも同時期の形態に類似する。Ⅱ期は、高杯の脚部が柱状となる高杯Bが指標となる。小沢編年（小沢　1998）による1期、南岩崎編年（大村2006）４ｃ期に該当すると思われる。高杯CはBに比べて、和泉期の特徴を示す後出のタイプであり、小沢編年２ａ期、南岩崎編年４ｃから５ａ期にかけての所産と考えられ、鹿島台Ⅱ期は2期に細分することもできよう。Ⅲ期は杯と高杯が指標となる。杯は、底部が小さな平底となり、口縁部が屈曲するタイプの杯Aと丸底で浅い半球形状を呈する杯Bがみられる。形態的な変化は、杯Aがより古相を示すものと思わ

れる。高杯は、前期の高杯Cの系譜とともに杯部に稜が形成されない後出のタイプもみられるようになる。本期は、南岩崎編年の５ｂ新、小沢編年の２期から３期にかけての年代と思われる。

古墳時代の土器群を３期に区分したが、Ⅰ期はいわゆる五領式期に属する土器群で、弥生時代Ⅲ期に継続するものと思われるが、Ⅱ期はほとんど五領的な要素を失い、和泉式期のセットが完成している。すなわち、本調査区に関する限り、Ⅰ期からⅡ期の間には一定期間の空白が存在した可能性が高い。この点では、既刊の鹿島台遺跡Ｄ区の集落が参考となる（栗田ほか　2006）。Ｄ区では、弥生時代の集落が姿を消した後、再び集落が出現するのが和泉式期である。Ｃ区は、最終報告を予定しているＢ区とＤ区の間に位置していることから、弥生時代から古墳時代前期にかけては、Ｂ区との関連が強く、和泉式期はＤ区の集落との括りで考えた方が妥当と思われる。もちろん、Ｂ区の検討結果によっては変わる部分もあろうが、中期の集落はそれまでとは異なった集団による開発の可能性が指摘できよう。

以上のように、本調査区における弥生時代中期から古墳時代中期にかけての土器群の変遷を検討してみたが、住居自体重複が激しく、セット関係を明確にすることが困難であった。ただ、検討によりある程度の指標は呈示できたもの考えており、さらなる検討は、鹿島台遺跡の最終報告であるＢ区の検討の中で行ってみたい。また、集落の時期的分布についても鹿島台遺跡全体の中で検討する。

第２節　祭祀遺物と遺構

鹿島台遺跡Ｃ区からは、弥生時代から古墳時代中期にかけての手捏ね土器をはじめとする祭祀遺物が多く出土しているが、ここでは、資料数の多い古墳時代に限定してその様相を検討してみる。

Ⅰ期はSI－005・004のみに祭祀遺物がみられる。ただ、いずれも祭祀土器（手捏ね・ミニチュア土器）２点のみで、覆土中からの出土であり、他遺構から混入の可能性も考えられ、当該期にはほとんど祭祀行為が行われなかったようである。ところが、Ⅱ期になると総数27軒の竪穴住居のうち12軒で祭祀遺物が出土している。祭祀土器のみの出土がほとんどで、12軒のうち９軒を数える。唯一、SI－034は石製模造品のみの出土である。また、両方の遺物が伴っているのは２軒である。Ⅲ期では、総数13軒のうち７軒で祭祀遺物の出土があり、祭祀土器のみの出土が３軒、模造品のみが３軒、両方が１軒で、Ⅱ期に比べて祭祀土器の比率が少なくなり、結果として模造品の割合が多くなる傾向にある。祭祀土器の変化は、Ⅱ期では、手捏ね土器が主体でミニチュア土器は客体的な存在であるが、Ⅲ期になると、ミニチュア土器のほうが主体的となる。また、石製模造品に関しては、Ⅱ期・Ⅲ期とも滑石製の勾玉・双孔円板・臼玉・剣形品が出土し、Ⅱ期のみに鎌形と思われる模造品が含まれる。Ⅱ期とⅢ期の模造品の時期差はあまり伺えないが、勾玉では、Ⅱ期が忠実な模倣で、Ⅲ期は扁平で形骸化しており、この点では後出の様相と考えられる。

以上のように、本調査区では和泉式期に相当するⅡ期からⅢ期にかけて祭祀遺物が確認されている。編年図にあげた遺物はすべて住居内からの出土であり、その面からは屋内祭祀を示しているものと思われる。Ⅱ期では手捏ね土器が主体を占めるのに対し、Ⅲ期になると手捏ね土器が少なくなり、ミニチュア土器が多くなってくる。土器を用いた祭祀という点からすれば同様の祭祀形態であろうが、手捏ね土器からミニチュア土器への変化は時間的な流れを反映しているのであろう。一般的に、手捏ね土器を用いた祭祀が古い形態であることは指摘されており、本遺跡もそれに合致する。また、祭祀土器よりも石製模造品を用いた祭祀のほうが新しくなる傾向があり、比率的にⅢ期における石製模造品の割合が多くなっている点もその傾向を示している。本調査区では、遺構外からも祭祀土器や石製模造品が出土しているが、手捏ね土器

が主体的で、石製模造品の割合は少ない。この遺構外の祭祀遺物をどのように捉えるかであるが、まとまた出土状況ではないため、明確には判断できないが、屋外祭祀の一端を示しているように思われる。屋外祭祀と屋内祭祀が共存することもあるが、一般的には屋外祭祀のほうが古い形態を示していることを考えると、遺構外出土遺物に手捏ね土器が多く、石製模造品が相対的に少ない状況はこの流れを映しているようである。

鹿島台遺跡Ｄ区でも本調査区Ⅱ～Ⅲ期にかけての竪穴住居跡約が22軒確認され、出土軒数や数量は少ないものの祭祀土器や石製模造品が出土している。模造品の種類は本区と同様である。古墳時代の土器の説明の中でも触れたように、中期のＣ区とＤ区は密接な関係が伺われており、、数量的にみれば、Ｃ区がその中心的な集落と考えることができる。

参考文献

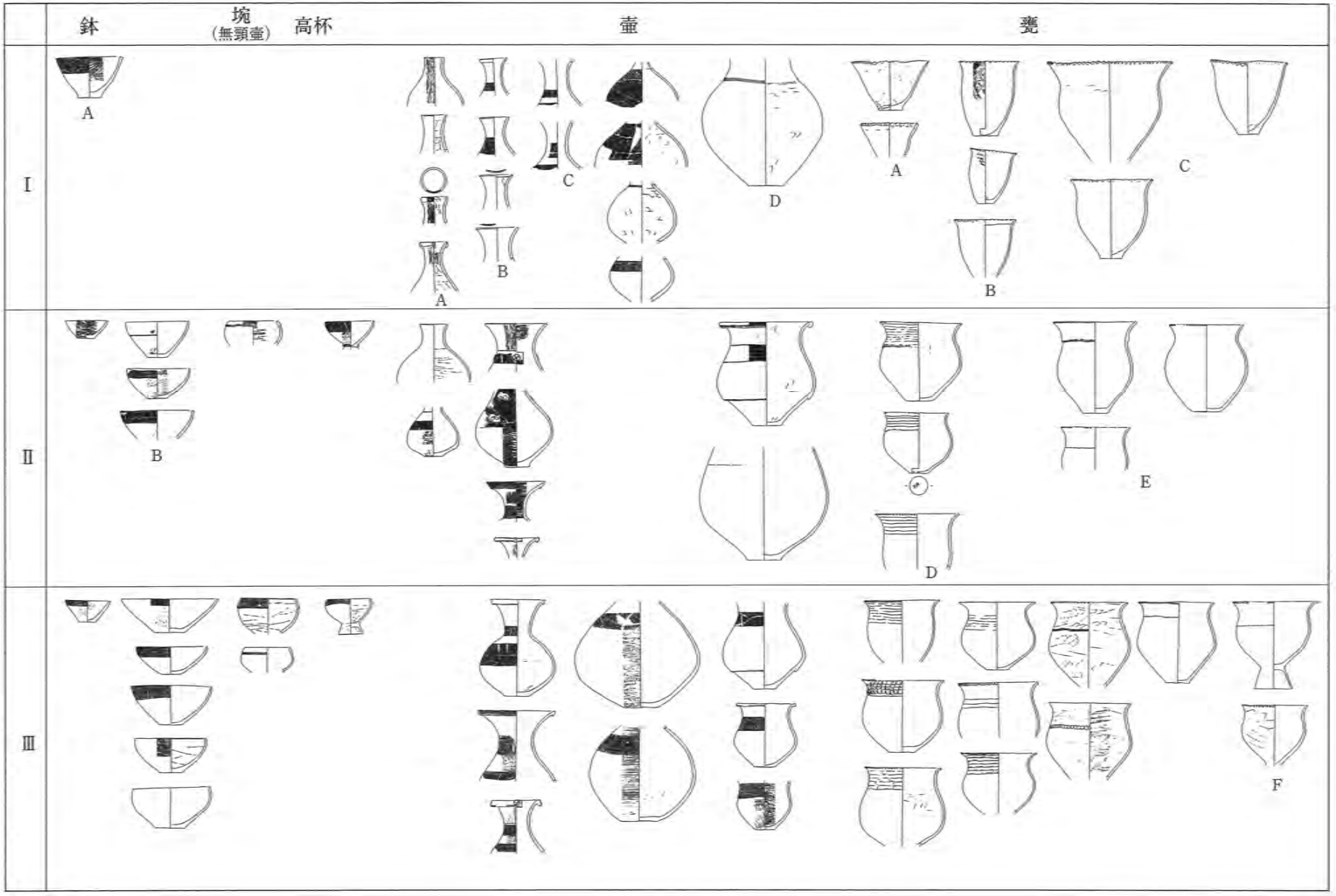
大村　直　2004　「山田橋遺跡群および市原台地周辺地域の後期弥生土器」『市原市山田橋大山台遺跡』財団法人市原市文化財センター

大村　直　2006　「時期設定」『市原市南岩崎遺跡』市原市教育委員会

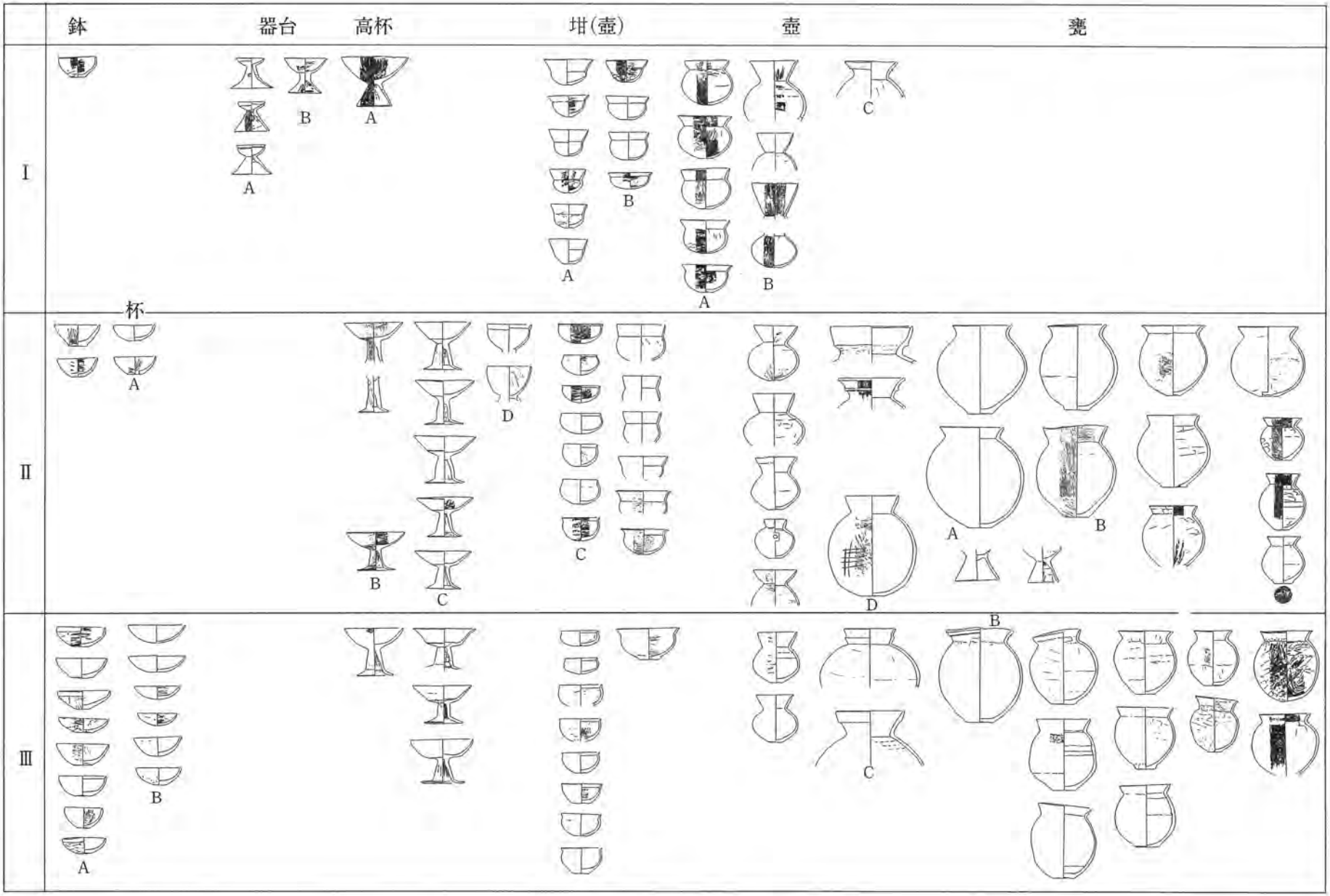
小沢　洋　1998　「上総における古墳中期土器編年と古墳・集落の様相」『研究紀要Ⅷ』財団法人君津郡市文化財センター

栗田則久ほか　2006　「Ｄ区の集落」『東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書５－君津市鹿島台遺跡（Ａ区・Ｄ区）－』財団法人千葉県教育振興財団

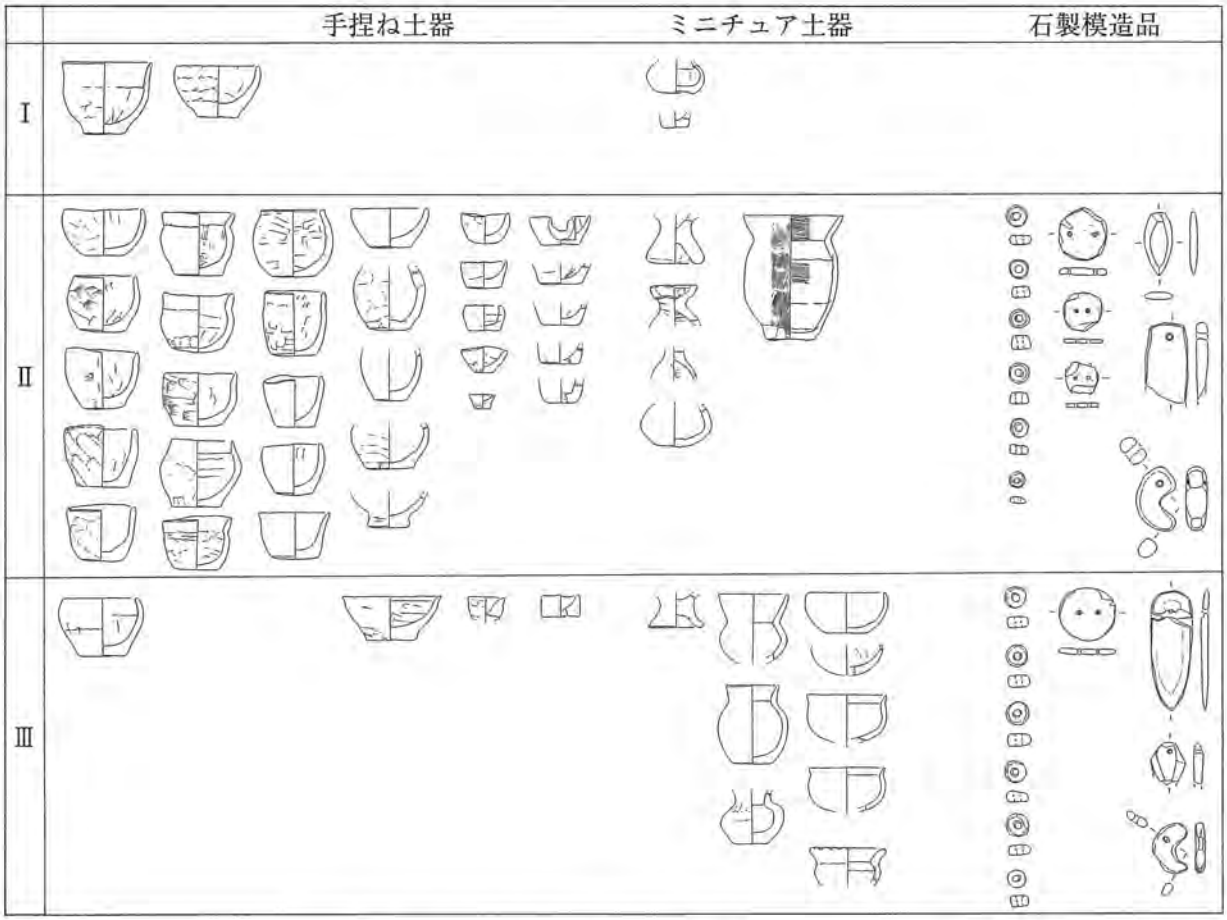
諸墨知義ほか　1996　「君津地方における弥生後期～古墳前期土器の土器編年」『研究紀要Ⅶ－センター設立15周年記念号－』財団法人君津郡市文化財センター



第174図　弥生時代土器編年図



第175図　古墳時代土器編年図



第176図　ミニチュア・手捏ね土器・石製模造品編年図

第２表　縄文石器属性表

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SX－001	第42図－1	382	石鏃	黒曜石	0.80	1.88	1.57	0.42	w	
SX－001	第42図－2	382	石鏃	黒曜石	1.20	1.90	1.83	0.46	w	
SX－001	第42図－3	382	石鏃	黒曜石	1.50	2.19	1.87	0.59	w	
SX－001	第42図－4	382	石鏃	黒曜石	0.90	1.51	1.87	0.33	w	
SX－001	第42図－5	382	石鏃	黒曜石	1.00	2.06	1.77	0.48	w	
SX－001	第42図－6	382	石鏃	黒曜石	0.80	1.70	1.75	0.54	w	
SX－001	第42図－7	382	石鏃	黒曜石	0.90	1.59	1.76	0.38	w	
SX－001	第42図－8	382	石鏃	黒曜石	0.70	2.16	1.78	0.28	w	
SX－001	第42図－9	382	石鏃	黒曜石	0.60	2.02	1.30	0.32	w	
SX－001	第42図－10	382	石鏃	黒曜石	0.80	2.11	1.50	0.38	w	
SX－001	第42図－11	382	石鏃	黒曜石	0.70	1.90	1.22	0.40	w	
SX－001	第42図－12	382	石鏃	黒曜石	1.10	1.55	1.70	0.54		
SX－001	第42図－13	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.91	1.20	0.32	w	
SX－001	第42図－14	382	石鏃	黒曜石	0.40	2.60	1.18	0.31	－	
SX－001	第42図－15	382	石鏃	黒曜石	0.80	1.58	1.60	0.40	w	
SX－001	第42図－16	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.30	1.48	0.33		
SX－001	第42図－17	382	石鏃	黒曜石	1.10	2.10	1.73	0.43	w	
SX－001	第42図－18	382	石鏃	黒曜石	0.60	2.20	1.45	0.33	w	
SX－001	第42図－19	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.26	0.97	0.35		
SX－001	第42図－20	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.18	0.92	0.42		
SX－001	第42図－21	382	石鏃	黒曜石	0.20	1.18	1.07	0.36	w	
SX－001	第42図－22	382	石鏃	チャート	0.30	1.40	0.85	0.32	w	
SX－001	第42図－23	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.29	1.43	0.24	w	
SX－001	第42図－24	382	石鏃	黒曜石	0.20	1.24	1.14	0.20	w	
SX－001	第42図－25	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.30	1.36	0.35	w	
SX－001	第42図－26	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.12	1.43	0.38	－	
SX－001	第42図－27	382	石鏃	黒曜石	0.70	1.69	1.60	0.41	w	
SX－001	第42図－28	382	石鏃	黒曜石	0.80	1.65	1.55	0.40	w	
SX－001	第42図－29	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.53	1.29	0.21	w	
SX－001	第42図－30	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.72	1.09	0.34	－	
SX－001	第42図－31	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.40	0.73	0.35	w	
SX－001	第42図－32	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.43	0.81	0.45	w	
SX－001	第42図－33	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.26	1.42	0.37	w	
SX－001	第42図－34	382	石鏃	黒曜石	0.20	0.87	1.03	0.27		
SX－001	第42図－35	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.12	0.85	0.35	w	
SX－001	第42図－36	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.38	1.13	0.37	w	
SX－001	第42図－37	382	石鏃	チャート	1.50	2.42	2.18	0.49	w	
SX－001	第42図－38	382	石鏃	頁岩	1.90	3.19	2.13	0.40	w	
SX－001	第42図－39	－	石鏃	安山岩	1.00	2.61	2.16	0.32	w	
SX－001	第42図－40	382	石鏃	安山岩	0.90	2.26	1.50	0.46	w	
SX－001	第42図－41	382	石鏃	黒曜石	0.90	1.50	2.06	0.46	w	
SX－001	第42図－42	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.20	1.60	0.27	w	
SX－001	第42図－43	382	石鏃	黒曜石	0.60	1.48	1.90	0.28	w	
SX－001	第42図－44	382	石鏃	黒曜石	0.90	2.04	1.47	0.45	w	
SX－001	第42図－45	382	石鏃	黒曜石	1.40	2.67	1.52	0.46	w	
SX－001	第42図－46	382	石鏃	チャート	0.50	2.34	1.14	0.23	w	
SX－001	第42図－47	382	石鏃	黒曜石	2.10	2.92	2.18	0.41	w	
SX－001	第42図－48	382	石鏃	黒曜石	1.00	2.10	1.51	0.39	w	
SX－001	第42図－49	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.74	1.01	0.33	w	
SX－001	第42図－50	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.60	1.13	0.32	w	
SX－001	第42図－51	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.81	0.92	0.33	w	
SX－001	第42図－52	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.55	0.90	0.36	w	
SX－001	第43図－53	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.14	1.23	0.32	w	
SX－001	第43図－54	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.02	1.31	0.26	w	
SX－001	第43図－55	382	石鏃	黒曜石	0.20	1.42	0.97	0.25	w	
SX－001	第43図－56	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.75	1.00	0.25	w	
SX－001	第43図－57	382	石鏃	チャート	1.20	1.73	1.66	0.45	h	
SX－001	第43図－58	382	石鏃	黒曜石	1.00	1.86	1.46	0.40	w	
SX－001	第43図－59	382	石鏃	黒曜石	0.70	1.73	1.69	0.36	w	
SX－001	第43図－60	382	石鏃	チャート	1.00	1.87	1.50	0.49	w	
SX－001	第43図－61	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.34	1.25	0.32	w	
SX－001	第43図－62	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.27	9.70	0.30	w	
SX－001	第43図－63	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.10	1.35	0.35	w	
SX－001	第43図－64	382	石鏃	安山岩	0.50	1.44	1.22	0.27	w	
SX－001	第43図－65	382	石鏃	変成岩	5.70	3.65	2.50	0.60		
SX－001	第43図－66	382	石鏃	黒曜石	1.80	2.15	2.19	0.75		
SX－001	第43図－67	328	石鏃	黒曜石	0.90	2.32	1.54	0.36	h	
SX－001	第43図－68	382	石鏃	黒曜石	0.60	1.53	1.23	0.37	w	
SX－001	第43図－69	382	石鏃	黒曜石	1.30	1.78	1.66	0.43	h	
SX－001	第43図－70	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.55	0.92	0.32	w	
SX－001	第43図－71	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.09	1.03	0.34	w	
SX－001	第43図－72	382	石鏃	黒曜石	1.70	2.16	1.68	0.52		
SX－001	第43図－73	382	石鏃	黒曜石	0.80	1.52	1.27	0.37		
SX－001	第43図－74	382	石鏃	黒曜石	0.60	1.54	1.25	0.41		
SX－001	第43図－75	382	石鏃	黒曜石	0.80	1.63	1.40	0.42	－	
SX－001	第43図－76	382	石鏃	黒曜石	0.50	1.47	0.98	0.41		
SX－001	第43図－77	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.35	0.90	0.38		
SX－001	第43図－78	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.35	0.90	0.29		
SX－001	第43図－79	382	石鏃	黒曜石	2.60	2.82	1.62	0.65		
SX－001	第43図－80	382	石鏃	黒曜石	2.60	2.34	1.83	0.83		
SX－001	第43図－81	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.25	1.10	0.35		
SX－001	第43図－82	382	石鏃	黒曜石	2.00	2.08	1.63	0.67		
SX－001	第43図－83	382	石鏃	黒曜石	1.20	2.18	1.45	0.43		
SX－001	第43図－84	382	石鏃	黒曜石	0.90	1.63	1.50	0.39		
SX－001	第43図－85	382	石鏃	黒曜石	2.40	2.05	2.02	0.69		
SX－001	第43図－86	382	石鏃	黒曜石	1.60	2.10	1.61	0.61	t	凹基の再生
SX－001	第43図－87	382	石鏃	黒曜石	1.50	2.00	1.80	0.55		
SX－001	第43図－88	382	石鏃	黒曜石	1.90	2.10	1.90	0.70	w	
SX－001	第43図－89	382	石鏃	黒曜石	1.10	1.83	1.13	0.53		
SX－001	第43図－90	382	石鏃	頁岩	3.70	3.28	1.70	0.83	t	
SX－001	第43図－91	382	石鏃	黒曜石	1.80	3.28	1.10	0.98		
SX－001	第43図－92	382	石鏃	黒曜石	0.30	1.68	0.68	0.31		
SX－001	第43図－93	382	石鏃	チャート	2.80	2.03	1.69	0.95	－	
SX－001	第43図－94	382	石鏃	黒曜石	0.80	2.39	1.27	0.29	－	
SX－001	第43図－95	382	石鏃	黒曜石	0.40	1.55	1.15	0.33		
SX－001	第43図－96	382	石鏃	黒曜石	0.20	1.00	1.00	0.45	－	
SX－001	第43図－97	382	石鏃	チャート	0.10	0.99	0.61	0.21		
SX－001	第44図－98	255	石匙	黒曜石	3.70	4.00	1.40	0.70		
SX－001	第44図－99	382	石錐	黒曜石	2.40	3.11	0.94	0.73	－	
SX－001	第44図－100	382	石錐	黒曜石	1.60	1.92	0.92	0.82		
SX－001	第44図－101	382	石錐	黒曜石	0.20	1.50	0.49	0.26		
SX－001	第44図－102	382	削器	黒曜石	1.00	1.75	1.38	0.61		
SX－001	第44図－103	382	剥片	黒曜石	1.00	2.37	1.11	0.66		調整痕有
SX－001	第44図－104	382	剥片	黒曜石	3.10	2.40	1.92	1.35		調整痕有
SX－001	第44図－105	382	剥片	変成岩	13.40	3.86	3.03	1.45		調整痕有
SX－001	第44図－106	382	剥片	黒曜石	0.60	1.55	1.45	0.40		調整痕有
SX－001	第44図－107	382	剥片	黒曜石	0.90	1.70	1.65	0.40		調整痕有

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SX－001	第44図－108	3	剥片	黒曜石	5.20	3.02	2.32	1.17		調整痕有
SX－001	第44図－109	3	剥片	黒曜石	2.40	2.33	1.99	0.64		調整痕有
SX－001	第44図－110	382	剥片	チャート	3.80	2.87	2.25	0.67		調整痕有
SX－001	第44図－111	382	剥片	黒曜石	1.60	1.43	2.10	0.54		調整痕有
SX－001	第44図－112	382	剥片	黒曜石	8.80	3.43	2.72	0.82		調整痕有
SX－001	第44図－113	382	剥片	黒曜石	2.80	2.11	1.95	0.80		調整痕有
SX－001	第44図－114	382	剥片	黒曜石	1.90	1.73	2.02	0.60		調整痕有
SX－001	第44図－115	382	剥片	黒曜石	3.00	2.21	2.06	0.85		調整痕有
SX－001	第44図－116	382	剥片	黒曜石	1.20	1.57	1.45	0.60		調整痕有
SX－001	第44図－117	382	剥片	黒曜石	1.40	1.55	1.55	0.56		調整痕有
SX－001	第44図－118	382	剥片	黒曜石	1.50	1.54	1.46	0.70		調整痕有
SX－001	第44図－119	382	剥片	黒曜石	1.40	1.81	1.47	0.47		調整痕有
SX－001	第44図－120	3	剥片	黒曜石	1.60	2.62	0.97	0.68		調整痕有
SX－001	第44図－121	382	剥片	黒曜石	0.90	2.55	1.22	0.27		調整痕有
SX－001	第44図－122	382	剥片	黒曜石	1.30	2.67	1.10	0.59		調整痕有
SX－001	第44図－123	382	剥片	黒曜石	0.80	1.83	1.15	0.52		調整痕有
SX－001	第44図－124	382	剥片	黒曜石	0.60	1.39	7.80	0.57		ドリル？調整痕有
SX－001	第45図－125	382	剥片	黒曜石	8.30	2.45	4.10	1.35		調整痕有
SX－001	第45図－126	382	剥片	黒曜石	7.90	2.20	3.25	1.20		調整痕有
SX－001	第45図－127	382	剥片	黒曜石	0.30	1.45	0.95	0.25		調整痕有
SX－001	第45図－128	382	剥片	チャート	3.70	1.95	2.35	0.85		
SX－001	第45図－129	382	剥片	黒曜石	3.10	2.65	1.40	0.80		調整痕有
SX－001	第45図－130	382	剥片	チャート	9.50	3.51	2.83	1.18		調整痕有
SX－001	第45図－131	382	剥片	チャート	2.30	2.45	1.80	0.55		調整痕有
SX－001	第45図－132	382	剥片	チャート	6.20	2.50	2.30	0.90		
SX－001	第45図－133	382	剥片	チャート	3.90	2.10	2.30	0.75		
SX－001	第45図－134	383	剥片	チャート	6.90	3.59	2.92	0.71		
SX－001	第45図－135	382	剥片	チャート	5.50	2.40	1.90	1.10		
SX－001	第45図－136	382	剥片	チャート	1.50	1.95	1.90	0.50		
SX－001	第45図－137	383	剥片	砂岩	10.20	3.50	3.80	0.60		
SX－001	第45図－138	287	剥片	安山岩	69.20	7.20	5.30	1.90		
SX－001	第45図－139	382	石核	黒曜石	10.20	2.15	3.78	1.87		
SX－001	第45図－140	382	石核	黒曜石	11.40	2.25	2.85	1.75		
SX－001	第46図－141	382	石核	黒曜石	14.00	2.95	3.10	1.85		
SX－001	第46図－142	382	石核	チャート	15.40	2.80	2.65	2.37		
SX－001	第46図－143	382	石核	チャート	17.20	2.95	3.65	1.60		
SX－001	第46図－144	382	石核	チャート	4.90	3.78	1.51	0.83		
SX－001	第46図－145	382	石核	石英	11.20	3.20	2.60	1.18		
SX－001	第46図－146	387	石核	玉髄	1809.20	14.30	11.00	8.50		含む瑪瑙
SX－001	第47図－147	383	打斧	粘板岩	78.60	8.20	5.20	1.40		
SX－001	第47図－148	192	打斧	安山岩	100.20	8.90	7.60	1.30		
SX－001	第47図－149	249	打斧	砂岩	121.00	8.90	6.90	2.50		
SX－001	第47図－150	192	打斧	砂岩	126.80	7.90	6.30	2.50		
SX－001	第47図－151	287	打斧	安山岩	152.90	7.50	9.65	3.35		
SX－001	第47図－152	287	打斧	変成岩	83.80	5.75	7.18	1.70		ホルンフェルス
SX－001	第47図－153	55	打斧	片麻岩	19.30	3.90	4.40	1.20		
SX－001	第47図－154	383	打斧	変成岩	57.10	8.20	4.20	1.20		ホルンフェルス
SX－001	第47図－155	326	打斧	安山岩	94.30	8.80	4.20	1.90		
SX－001	第47図－156	4	打斧	安山岩	89.50	9.20	4.50	1.40		
SX－001	第47図－157	192	打斧	変成岩	111.10	8.40	5.10	2.00		ホルンフェルス
SX－001	第47図－158	192	打斧	花崗岩	321.40	13.30	6.35	2.80		
SX－001	第47図－159	267	打斧	変成岩	77.00	7.30	4.20	2.30		ホルンフェルス
SX－001	第47図－160	192	打斧	変成岩	49.00	7.20	4.10	1.10		
SX－001	第47図－161	326	打斧	安山岩	32.80	4.30	4.10	1.40		
SX－001	第47図－162	193	打斧	砂岩	53.20	5.90	3.75	1.95		
SX－001	第47図－163	383	打斧	変成岩	148.80	9.80	5.60	2.10		ホルンフェルス
SX－001	第47図－164	4	打斧	砂岩	45.80	6.30	4.60	1.10		
SX－001	第47図－165	326	打斧	礫岩	29.70	5.60	3.30	1.40		
SX－001	第47図－166	249	打斧	変成岩	41.80	4.10	5.40	1.70		
SX－001	第47図－167	249	打斧	変成岩	12.30	3.80	3.20	0.70		ホルンフェルス
SX－001	第47図－168	2	打斧	砂岩	25.30	3.90	3.90	1.40		
SX－001	第47図－169	383	打斧	安山岩	43.50	8.20	3.40	1.30		
SX－001	第47図－170	287	打斧	変成岩	15.60	4.80	3.10	0.65		
SX－001	第47図－171	192	打斧	砂岩	32.90	6.80	3.40	1.20		
SX－001	第48図－172	383	磨斧	砂岩	166.30	8.10	5.00	2.60		
SX－001	第48図－173	192	磨斧	凝灰岩	159.20	8.10	4.90	2.30		
SX－001	第48図－174	287	磨斧	安山岩	73.20	6.20	4.30	2.20		
SX－001	第48図－175	383	磨斧	砂岩	73.90	5.80	4.50	2.50		
SX－001	第48図－176	326	磨斧	礫岩	166.70	9.80	5.40	2.10		
SX－001	第48図－177	326	磨斧	安山岩	228.40	9.50	5.80	2.80		
SX－001	第48図－178	383	磨斧	安山岩	14.30	3.20	4.30	1.10		
SX－001	第48図－179	380	磨斧	蛇紋岩	11.60	3.30	2.60	0.90		
SX－001	第48図－180	326	磨斧	安山岩	19.90	4.90	4.10	1.10		
SX－001	第48図－181	382	磨斧	凝灰岩	1.90	2.80	1.70	0.80		
SX－001	第48図－182	5	磨り石	砂岩	486.50	10.50	11.20	4.40		
SX－001	第48図－183	287	磨り石	安山岩	65.50	4.05	4.12	2.80		
SX－001	第48図－184	383	磨り石	変成岩	58.30	6.40	3.70	2.00		
SX－001	第48図－185	383	磨り石	砂岩	289.20	4.50	7.80	5.10		
SX－001	第48図－186	287	磨り石	砂岩	310.70	7.10	6.00	4.85		
SX－001	第48図－187	249	磨り石	片麻岩	16.80	3.80	3.00	1.00		
SX－001	第48図－188	193	敲き石	砂岩	466.00	11.50	6.40	4.50		
SX－001	第48図－189	289	敲き石	砂岩	195.00	7.20	5.30	4.30		
SX－001	第48図－190	327	敲き石	安山岩	386.60	7.20	8.20	4.70		
SX－001	第48図－191	2	敲き石	安山岩	139.20	8.04	4.05	2.88		
SX－001	第48図－192	383	磨り石	片麻岩	124.80	7.90	4.60	2.40		
SX－001	第48図－193	249	敲き石	片麻岩	14.20	3.32	3.52	1.03		
SX－001	第48図－194	193	敲き石	安山岩	34.30	4.90	3.10	2.10		
SX－001	第49図－195	111	凹石	細雲母片岩	4750.00	31.30	10.80	6.90		
SX－001	第49図－196	287	凹石	砂岩	305.50	9.70	6.10	3.40		
SX－001	第49図－197	－	凹石	砂岩	241.10	7.50	7.30	4.60		
SX－001	第49図－198	327	凹石	安山岩	130.20	8.70	5.90	4.00		
SX－001	第49図－199	287	凹石	安山岩	696.80	9.80	8.90	5.00		
SX－001	第49図－200	327	石皿	安山岩	918.50	9.90	9.70	5.80		
SX－001	第49図－201	191	石皿	細雲母片岩	455.00	15.55	9.00	2.10		
SX－001	第49図－202	253	石皿	安山岩	72.30	7.50	3.20	3.10		
SX－001	第49図－203	383	石棒	細雲母片岩	20.00	6.10	2.00	1.00		
SX－001	第49図－204	193	石棒	粘板岩	90.60	7.70	4.80	2.60		
SX－001	第49図－205	5	石棒	細雲母片岩	2876.30	24.10	11.80	5.90		
SX－001	第49図－206	524	石棒	安山岩	1519.70	10.30	12.00	11.00		
SX－001	第49図－207	383	石棒	安山岩	152.50	4.90	7.10	3.70		
SX－001	第49図－208	325	浮子	軽石	14.10	8.70	6.50	1.60		
SX－001	第49図－209	193	浮子	軽石	78.80	11.20	6.80	2.90		
SX－001	第49図－210	386	浮子	軽石	176.60	6.30	4.80	3.60		
SX－001	第50図－211	383	砥石	砂岩	468.70	19.80	6.50	2.70		
SX－001	第50図－212	193	砥石	砂岩	311.80	14.90	6.60	2.50		
SX－001	第50図－213	193	砥石	砂岩	473.60	8.60	7.20	4.40		
SX－001	第50図－214	327	砥石	砂岩	106.00	7.00	5.00	2.30		

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SX－001	第50図－215	193	砥石	砂岩	99.30	5.70	8.30	2.10		
SX－001	第50図－216	327	砥石	砂岩	59.00	5.80	4.90	1.50		
SX－001	第50図－217	131	砥石	砂岩	15.60	3.80	2.90	1.40		
SX－001	第50図－218	333	砥石	砂岩	30.90	6.10	2.30	2.70		
SX－001	第50図－219	193	砥石	砂岩	53.80	4.60	7.70	1.40		
SX－001	第50図－220	2	砥石	安山岩	79.00	7.20	3.60	2.00		
SX－001	第50図－221	374	砥石	砂岩	65.00	6.65	3.85	1.65		
SX－001	第50図－222	45	砥石	砂岩	20.20	3.10	3.00	1.40		
SX－001	第50図－223	307	砥石	砂岩	16.00	2.45	3.05	0.85		
SI－004	第58図－1	112	石鏃	頁岩	2.60	3.18	2.38	0.63	w	
SI－096	第58図－2	27	石鏃	頁岩	1.20	2.93	1.25	0.39	w	
L18－84	第58図－3	2	石鏃	変成岩	2.60	3.41	1.89	0.64	w	ホルンフェルス
M19－04	第58図－4	1	石鏃	凝灰岩	1.40	3.01	1.67	0.50	w	
SI－096	第58図－5	27	石鏃	頁岩	1.30	3.08	1.85	0.42	w	
SI－004	第58図－6	112	石鏃	玉髄	1.20	2.48	1.21	0.40	w	含む瑪瑙
SI－005	第58図－7	93	石鏃	頁岩	1.40	2.16	1.88	0.43	w	
SI－004	第58図－8	113	石鏃	黒曜石	0.80	2.32	1.43	0.42	w	
SI－048	第58図－9	2	石鏃	黒曜石	0.60	1.56	1.62	0.39	w	
SI－096	第58図－10	29	石鏃	黒曜石	0.40	1.85	0.95	0.32	w	
L18－43	第58図－11	3	石鏃	黒曜石	0.50	2.23	1.04	0.39	w	
SM－06	第58図－12	3	石鏃	チャート	1.9	3.00	1.99	0.44	w	2区
L19－41	第58図－13	4	石鏃	頁岩	2.10	2.71	1.89	0.53	w	
SI－002	第58図－14	45	石鏃	安山岩	2.10	2.85	2.17	0.52	w	
O17－17	第58図－15	3	石鏃	黒曜石	1.30	2.49	2.01	0.42	w	
SI－023	第58図－16	99	石鏃	黒曜石	1.10	2.70	1.44	0.39	w	
SI－029	第58図－17	34	石鏃	チャート	1.80	2.23	1.97	0.48	w	
N18－93	第58図－18	2	石鏃	黒曜石	1.60	2.61	1.63	0.56	w	
SI－009	第58図－19	7	石鏃	チャート	2.40	2.12	1.55	0.61	w	
SI－038	第58図－20	109	石鏃	頁岩	0.70	2.32	1.36	0.34	w	
SI－038	第58図－21	110	石鏃	黒曜石	0.90	1.45	1.87	0.47	w	
SI－038	第58図－22	108	石鏃	チャート	1.10	1.74	1.71	0.41	w	
O16－06	第58図－23	4	石鏃	黒曜石	0.90	2.11	1.48	0.39	w	
M18－61	第58図－24	3	石鏃	黒曜石	1.10	1.76	1.66	0.43	w	
SM－06	第58図－25	2	石鏃	黒曜石	1.0	1.81	1.76	0.38	w	
SI－067	第58図－26	12	石鏃	チャート	2.40	3.15	1.95	0.60	w	
SI－005	第58図－27	93	石鏃	頁岩	2.00	2.34	2.14	0.57	w	
SI－138	第58図－28	－	石鏃	頁岩	1.70	2.64	1.54	0.61	w	
SI－121	第58図－29	1	石鏃	頁岩	1.30	2.36	1.76	0.47	w	
L18－48	第58図－30	4	石鏃	チャート	1.30	2.38	1.96	0.44	w	
L18－67	第58図－31	2	石鏃	頁岩	1.10	2.80	1.57	0.43	w	
SI－096	第58図－32	10	石鏃	チャート	0.90	1.98	1.25	0.50	w	
O14－64	第58図－33	9	石鏃	頁岩	0.50	2.21	1.41	0.30	w	
P17－40	第58図－34	2	石鏃	黒曜石	0.70	2.18	1.11	0.52	w	
SI－003	第58図－35	1	石鏃	黒曜石	2.10	2.79	2.38	0.40	w	
SM－06	第58図－36	2	石鏃	黒曜石	1.6	2.25	2.51	0.38	w	
O17－16	第58図－37	3	石鏃	黒曜石	1.70	1.71	2.60	0.55	w	
L18－57	第58図－38	4	石鏃	変成岩	1.10	1.89	2.14	0.45	w	ホルンフェルス
L19－16	第58図－39	3	石鏃	黒曜石	1.10	1.80	2.07	0.47	w	
K19－09	第58図－40	5	石鏃	黒曜石	0.50	1.33	1.69	0.37	w	
O17－28	第58図－41	3	石鏃	黒曜石	0.80	1.68	1.68	0.39	w	
SI－038	第58図－42	110	石鏃	黒曜石	0.30	1.21	1.60	0.29	w	
SI－043	第58図－43	321	石鏃	黒曜石	0.60	1.35	1.65	0.36	w	
K19－49	第58図－44	3	石鏃	黒曜石	0.50	1.19	1.71	0.45	w	
SM－06	第58図－45	2	石鏃	黒曜石	0.6	1.17	1.72	0.31	w	
遺跡	第58図－46	一括	石鏃	黒曜石	1.10	1.96	1.74	0.60	w	
O17－17	第58図－47	3	石鏃	黒曜石	0.90	1.35	1.76	0.50	w	
O17－18	第58図－48	3	石鏃	黒曜石	0.70	1.45	1.82	0.37	w	
O17－18	第58図－49	3	石鏃	黒曜石	0.50	1.14	1.41	0.39	w	
T36－05	第59図－50	3	石鏃	チャート	0.80	1.25	2.04	0.35	w	
T35	第59図－51	1	石鏃	黒曜石	1.10	1.66	1.85	0.35	w	
L19－75	第59図－52	1	石鏃	黒曜石	0.40	1.27	1.46	0.44	w	
SI－038	第59図－53	113	石鏃	黒曜石	0.20	1.06	1.20	0.28	w	
SI－005	第59図－54	93	石鏃	チャート	2.30	2.90	1.75	0.90	w	
L19－99	第59図－55	3	石鏃	黒曜石	1.10	2.08	1.96	0.52	－	
O16－06	第59図－56	4	石鏃	黒曜石	0.40	1.42	1.14	0.31	w	
SK－001	第59図－57	3	石鏃	黒曜石	0.30	1.40	0.93	0.24		
O17－27	第59図－58	3	石鏃	黒曜石	0.20	1.29	0.79	0.27		
O18－32	第59図－59	2	石鏃	黒曜石	0.20	1.00	0.83	0.30		
O17－17	第59図－60	3	石鏃	黒曜石	0.10	0.70	0.55	0.26		
SI－043	第59図－61	304	石鏃	オパール	1.40	1.82	1.88	0.43	w	
SI－004	第59図－62	113	石鏃	黒曜石	0.70	1.39	1.59	0.46	w	
SI－021	第59図－63	1	石鏃	頁岩	0.50	1.58	1.20	0.35	w	
O18－72	第59図－64	2	石鏃	黒曜石	0.30	1.50	1.04	0.30	w	
G12－t	第59図－65	3	石鏃	黒曜石	0.40	1.35	1.25	0.31	w	
M17－11	第59図－66	2	石鏃	黒曜石	0.40	1.43	1.45	0.32	w	
SK－001	第59図－67	3	石鏃	黒曜石	0.40	1.76	1.14	0.27		
K19－49	第59図－68	3	石鏃	黒曜石	0.90	1.80	1.47	0.50	－	
SI－065	第59図－69	3	石鏃	黒曜石	0.50	1.39	1.21	0.41	w	
L18－34	第59図－70	3	石鏃	黒曜石	0.20	1.20	1.12	0.27	w	
SM－06	第59図－71	44	石鏃	黒曜石	0.4	1.78	1.03	0.34	w	2区
O17－18	第59図－72	3	石鏃	黒曜石	0.60	1.55	1.50	0.35	w	
SM－06	第59図－73	2	石鏃	黒曜石	0.8	1.38	1.81	0.37	w	3区
L19－76	第59図－74	3	石鏃	黒曜石	0.80	1.51	1.53	0.38	w	
SI－029	第59図－75		石鏃	黒曜石	0.40	1.83	0.81	0.42		
T36－t	第59図－76	7	石鏃	黒曜石	0.30	1.57	0.99	0.28	w	
SI－038	第59図－77	109	石鏃	チャート	3.10	1.89	2.13	0.88		
SI－041	第59図－78	3	石鏃	チャート	1.50	1.79	1.86	0.45		
SI－038	第59図－79	109	石鏃	頁岩	1.90	2.19	1.68	0.55		
L18－48	第59図－80	4	石鏃	チャート	2.30	2.73	1.81	0.62	w	
L18－28	第59図－81	2	石鏃	チャート	2.10	2.52	1.70	0.54	h	
O16－71	第59図－82	2	石鏃	黒曜石	1.00	1.83	1.27	0.54		
SI－038	第59図－83	110	石鏃	黒曜石	0.60	1.60	1.38	0.33	w	
L18－45	第59図－84	3	石鏃	チャート	0.70	1.69	1.22	0.37	－	
O16－60	第59図－85	2	石鏃	頁岩	0.80	1.78	1.26	0.35	h	
O17－17	第59図－86	3	石鏃	黒曜石	0.60	1.93	1.01	0.38	w	
SI－001	第59図－87	79	石鏃	黒曜石	0.20	1.40	0.71	0.28	w	
SI－030	第59図－88	3	石鏃	黒曜石	0.90	1.90	1.68	0.53	w	
SM－06	第59図－89	37	石鏃	黒曜石	0.8	1.84	1.42	0.35	w	2区
O17－16	第59図－90	3	石鏃	頁岩	0.60	1.60	1.24	0.27	w	
SI－096	第59図－91	29	石鏃	黒曜石	1.40	2.82	1.62	0.41	h	
SI－004	第59図－92	112	石鏃	頁岩	1.80	2.66	1.61	0.56	h	
SI－005	第59図－93	93	石鏃	頁岩	1.70	2.57	1.71	0.47		
SI－038	第59図－94	108	石鏃	頁岩	2.70	3.02	1.79	0.65		
SI－021	第59図－95	1	石鏃	頁岩	1.10	2.14	1.63	0.41	h	
SI－038	第59図－96	108	石鏃	頁岩	0.90	2.23	1.20	0.44	h	
SI－016	第59図－97	42	石鏃	頁岩	0.80	2.02	1.49	0.32		
SD－005	第59図－98	2	石鏃	黒曜石	0.50	1.25	1.82	0.30	w	
SI－058	第59図－99	15	石鏃	黒曜石	0.10	0.50	1.08	0.31	w	
L19－16	第59図－100	3	石鏃	チャート	1.40	1.81	1.43	0.48	h	

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
遺跡	第59図－101	一括	石鏃	チャート	3.40	2.45	1.70	1.17		
SI－038	第59図－102	113	石鏃	黒曜石	0.70	1.47	1.53	0.40	h	
O16－10	第60図－103	3	石鏃	チャート	3.00	2.48	2.21	0.65	w	
SI－005	第60図－104	93	石鏃	頁岩	3.10	2.60	1.99	0.84	h	
L18－62	第60図－105	1	石鏃	チャート	2.70	2.67	1.75	0.67	－	
N17－27	第60図－106	1	石鏃	チャート	2.60	2.48	1.84	0.73		
SI－038	第60図－107	109	石鏃	チャート	2.70	2.61	2.18	0.47		
SI－096	第60図－108	27	石鏃	変成岩	5.80	2.28	2.37	1.01		ホルンフェルス
SI－143	第60図－109	2	石鏃	頁岩	2.10	1.60	2.08	0.60	h	
SI－004	第60図－110	113	石鏃	黒曜石	1.70	2.06	1.65	0.64	h	
SM－06	第60図－111	1	石鏃	黒曜石	1.2	2.40	1.56	0.46	w	4区
L19－71	第60図－112	1	石鏃	黒曜石	1.10	1.58	1.75	0.48		
SI－023	第60図－113	99	石鏃	チャート	0.70	1.68	1.37	0.40	h	
SI－126	第60図－114	50	石鏃	黒曜石	0.70	1.75	1.54	0.44	h	
SI－096	第60図－115	79	石鏃	黒曜石	0.60	1.56	1.54	0.39	h	
O17－28	第60図－116	3	石鏃	黒曜石	0.70	1.88	1.33	0.29	－	
SI－100	第60図－117	14	石鏃	黒曜石	1.10	1.80	1.65	0.05		
SM－06	第60図－118	3	石鏃	黒曜石	1.1	1.74	1.40	0.45		4区
N17－27	第60図－119	1	石鏃	黒曜石	0.90	1.59	1.31	0.41		
K19－49	第60図－120	3	石鏃	黒曜石	0.40	1.47	1.20	0.32	h	
L19－40	第60図－121	1	石鏃	黒曜石	0.40	1.40	1.00	0.32	h	
SI－096	第60図－122	29	石鏃	黒曜石	0.50	1.39	1.25	0.36		
L18－35	第60図－123	2	石鏃	黒曜石	0.30	1.08	0.95	0.26		
SI－038	第60図－124	110	石鏃	黒曜石	0.30	1.35	0.92	0.26		
SI－022	第60図－125	1	石鏃	黒曜石	0.40	1.46	0.90	0.47		
L19－33	第60図－126	1	石鏃	黒曜石	1.40	1.92	1.74	0.51		
O16－93	第60図－127	2	石鏃	黒曜石	1.60	2.02	1.30	0.69		
O16－19	第60図－128	2	石鏃	頁岩	5.10	3.18	2.29	1.01	－	
SI－096	第60図－129	27	石鏃	頁岩	4.20	2.50	2.20	0.90		
O16－06	第60図－130	3	石鏃	チャート	1.00	1.90	1.41	0.32		
SI－001	第60図－131	79	石鏃	安山岩	6.40	3.51	2.80	0.81	－	
SI－025	第60図－132	3	石鏃	安山岩	7.60	3.58	2.76	0.81		
SI－005	第60図－133	93	石鏃	チャート	7.40	3.55	2.12	1.11		
O16－71	第60図－134	2	石鏃	黒曜石	0.30	1.07	0.72	0.31		
L20－54	第60図－135	3	石鏃	黒曜石	0.20	1.18	0.79	0.29	w	
O16－16	第60図－136	2	石鏃	チャート	6.00	2.96	2.34	0.84		
SI－001	第60図－137	79	石鏃	黒曜石	2.40	2.37	2.33	0.58	h	
K19－58	第60図－138	7	石鏃	チャート	2.40	2.12	1.55	0.61		
SI－036	第60図－139	2	石鏃	黒曜石	2.20	2.44	1.85	0.67		
O17－27	第60図－140	3	石鏃	黒曜石	0.30	1.23	0.89	0.36		
SI－005	第61図－141	93	石鏃	チャート	3.10	3.91	1.62	0.56	t	
SI－067	第61図－142	12	石鏃	頁岩	1.70	3.44	1.38	0.48	t	
遺跡－427	第61図－143	3	石鏃	チャート	1.60	2.80	1.60	0.55	t	サブトレ
SI－051	第61図－144	44	石鏃	チャート	1.30	2.70	1.24	0.42	t	
N18－35	第61図－145	2	石鏃	チャート	0.90	2.55	0.96	0.51	t	
SI－056	第61図－146	6	石鏃	チャート	2.00	2.95	1.64	0.54	t	
SI－059	第61図－147	12	石鏃	頁岩	1.80	3.03	1.59	0.51	t	
SI－029	第61図－148	34	石鏃	頁岩	2.60	3.24	1.92	0.54	t	
SI－004	第61図－149	112	石鏃	頁岩	1.40	2.69	1.76	0.52	t	
SI－037	第61図－150	1	石錐	片麻岩	78.80	10.90	2.50	2.30		
SI－134	第61図－151	1	石鏃	頁岩	1.40	2.49	1.55	0.50	t	
SI－023	第61図－152	99	石鏃	チャート	1.50	2.83	1.47	0.62	t	
SI－013	第61図－153	2	石鏃	チャート	1.10	2.53	1.31	0.51	t	
SI－047	第61図－154	2	石鏃	頁岩	2.50	2.59	1.87	0.87	t	
SI－012	第61図－155	4	石鏃	チャート	1.90	2.35	1.72	0.59	t	
M16－98	第61図－156	1	石鏃	チャート	1.60	2.29	1.54	0.59	t	
SI－025	第61図－157	3	石鏃	玉髄	1.10	1.89	1.54	0.60	t	含む瑪瑙
遺跡	第61図－158	一括	石鏃	頁岩	1.30	2.27	1.40	0.54	t	
SI－004	第61図－159	112	石鏃	頁岩	1.60	2.67	1.64	0.51	t	
SI－030	第61図－160	3	石鏃	チャート	2.20	2.95	1.89	0.56	t	
SI－005	第61図－161	94	石鏃	黒曜石	1.30	1.27	1.80	0.62		
SI－003	第61図－162	1	石鏃	玉髄	0.50	1.86	0.91	0.36	t	含む瑪瑙
SI－038	第61図－163	109	石鏃	頁岩	0.70	1.89	1.28	0.44	t	
L18－23	第61図－164	2	石鏃	チャート	2.00	2.63	1.40	0.58	a	
SI－067	第61図－165	12	石鏃	頁岩	2.10	3.18	1.01	0.69	－	
SI－038	第61図－166	109	石鏃	頁岩	0.70	1.98	0.69	0.45		
SI－029	第61図－167		石鏃	黒曜石	0.70	1.79	0.98	0.44		
O16－83	第61図－168	2	石鏃	黒曜石	0.20	1.16	0.50	0.21		
SI－040	第61図－169	6	石鏃	頁岩	3.20	2.72	2.18	0.79		
SI－096	第61図－170	27	石鏃	玉髄	1.10	1.66	1.49	0.46	a	含む瑪瑙
SI－073	第61図－171	12	石鏃	チャート	1.50	2.17	1.63	0.41		
SI－004	第61図－172	113	石鏃	黒曜石	1.10	1.77	1.05	0.58		
O17－17	第61図－173	3	石鏃	黒曜石	0.10	0.82	0.42	0.51		
O17－27	第61図－174	3	石鏃	黒曜石	9.50	3.07	2.50	1.39		
SD－003	第61図－175	3	石鏃	チャート	3.20	2.55	2.00	0.70		
SI－004	第61図－176	112	石鏃	黒曜石	1.60	2.15	1.76	0.51		
SI－029	第61図－177		石鏃	黒曜石	0.50	1.05	1.13	0.41		
O17－17	第61図－178	3	石鏃	黒曜石	0.20	1.21	0.77	0.24		
SI－028	第61図－179	45	石鏃	黒曜石	0.80	1.88	1.27	0.43		
L20－26	第61図－180	2	石鏃	黒曜石	1.30	1.84	1.40	0.63		
SI－050	第61図－181	6	石鏃	チャート	0.70	1.83	1.43	0.36		
SI－013	第61図－182	2	石鏃	黒曜石	0.20	1.24	1.01	0.27		
SI－023	第61図－183	99	石鏃	黒曜石	0.20	1.32	0.98	0.37		
O16－71	第61図－184	2	石鏃	黒曜石	0.10	0.88	1.00	0.20		
SI－034	第62図－185	8	尖頭器	頁岩	7.30	0.51	0.20	0.08		
L19－42	第62図－186	9	有舌尖頭器	チャート	1.10	1.62	1.05	0.53	t	
K19－59	第62図－187	18	掻器器	黒曜石	2.10	2.54	1.43	0.61		
N16－71	第62図－188	1	石匙	頁岩	22.90	5.60	3.20	1.60		
SI－034	第62図－189	10	石錐	チャート	1.20	2.36	1.03	0.57		
SI－096	第62図－190	27	石錐	チャート	3.70	2.71	1.53	0.93		
SI－043	第62図－191	1	剥片	チャート	15.50	4.60	2.90	1.20		調整痕有
SI－045	第62図－192	39	剥片	砂岩	125.10	8.83	7.16	1.51		
SI－049	第62図－193	1	剥片	チャート	6.90	2.60	2.20	1.20		調整痕有
SI－083	第62図－194	2	剥片	凝灰岩	14.60	0.30	0.36	0.13		調整痕有
SI－048	第62図－195	3	剥片	頁岩	3.60	2.10	3.60	0.80		調整痕有
G7－05	第62図－196	－	剥片	頁岩	7.90	3.69	2.25	0.99		調整痕有
L18－64	第62図－197	3	剥片	黒曜石	3.90	2.48	2.42	0.81		調整痕有
SI－096	第62図－198	27	剥片	頁岩	1.80	1.60	2.30	0.50		調整痕有
SM－06	第62図－199	2	剥片	黒曜石	0.7	1.20	1.83	0.41		2区，調整痕有
K19－09	第62図－200	5	剥片	黒曜石	0.50	1.33	1.69	0.37	w	
K19－58	第62図－201	11	剥片	黒曜石	0.80	1.05	1.61	0.45		調整痕有
K19－79	第62図－202	3	剥片	黒曜石	0.80	1.73	1.42	0.38		調整痕有
SM－06	第62図－203	2	剥片	黒曜石	1.1	1.50	1.25	0.56		2区，調整痕有
L19－26	第62図－204	3	剥片	黒曜石	0.70	1.17	1.14	0.55		調整痕有
L18－84	第62図－205	3	剥片	黒曜石	2.70	2.12	1.17	0.96		調整痕有
L19－00	第62図－206	1	剥片	黒曜石	0.90	1.63	1.29	0.47		調整痕有
K19－59	第62図－207	18	剥片	黒曜石	0.90	2.66	0.95	0.37		調整痕有
O17－18	第63図－208	3	剥片	黒曜石	2.80	3.23	1.17	1.07		調整痕有
O17－16	第63図－209	3	剥片	黒曜石	1.60	2.76	0.86	0.63		調整痕有

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SM－06	第63図－210	2	剥片	黒曜石	5.2	2.00	2.80	1.40		調整痕有
O17－18	第63図－211	1	剥片	変成岩	62.00	5.80	5.75	1.89		調整痕有
M18－40	第63図－212	1	剥片	変成岩	54.00	4.65	4.20	2.72		調整痕有
L18－15	第63図－213	1	剥片	変成岩	43.20	6.77	4.33	1.63		調整痕有, ホルンフェルス
L18－25	第63図－214	3	剥片	安山岩	18.20	4.50	4.50	1.07		調整痕有
L18－56	第63図－215	1	剥片	安山岩	11.60	3.12	3.52	1.13		調整痕有
N17－05	第63図－216	1	剥片	チャート	11.30	3.14	3.42	1.01		調整痕有
L19－36	第63図－217	3	剥片	チャート	9.00	3.54	2.54	0.85		調整痕有
K19－47	第63図－218	2	剥片	頁岩	8.50	2.75	2.56	0.98		調整痕有
L19－10	第63図－219	11	剥片	チャート	9.40	3.79	3.03	1.04		調整痕有
N17－41	第63図－220	2	剥片	変成岩	2.80	3.37	2.47	0.32		調整痕有
M19－21	第64図－221	1	剥片	頁岩	10.30	3.93	2.67	0.83		調整痕有
L19－70	第64図－222	2	剥片	頁岩	14.10	4.83	2.23	1.46		調整痕有
遺跡	第64図－223	一括	剥片	頁岩	10.80	4.51	2.23	1.05		調整痕有
遺跡	第64図－224	一括	剥片	安山岩	9.10	3.47	2.41	1.23		調整痕有
K19－58	第64図－225	10	剥片	チャート	4.90	3.07	2.32	0.77		調整痕有
L19－44	第64図－226	1	剥片	チャート	5.50	3.42	1.73	0.91		調整痕有
L18－38	第64図－227	2	剥片	チャート	6.10	3.51	1.42	1.01		調整痕有
L18－16	第64図－228	1	剥片	チャート	2.50	2.04	1.64	0.56		調整痕有
遺跡	第64図－229	一括	剥片	チャート	3.00	2.13	1.80	1.00		調整痕有
SI－059	第64図－230	5	剥片	頁岩	3.20	2.70	2.10	0.80		
N16－73	第64図－231	1	剥片	変成岩	159.50	8.43	9.04	2.19		ホルンフェルス
M18－69	第64図－232	1	剥片	頁岩	4.50	2.49	2.38	1.00		
SI－096	第64図－233	25	剥片	安山岩	1.60	2.55	1.85	0.38		
SM－06	第64図－234	8	剥片	玉髄	8.6	3.20	2.63	1.23		3区，含む瑪瑙
L19－42	第64図－235	9	剥片	凝灰岩	16.80	4.27	3.05	1.19		
O17－18	第64図－236	2	剥片	玉髄	3.50	2.22	2.73	0.69		含む瑪瑙
L18－43	第64図－237	3	剥片	黒曜石	0.20	1.40	1.04	0.31		調整剥片
SI－011	第65図－238	136	剥片	頁岩	371.80	7.20	9.40	4.50		
SM－06	第65図－239	11	剥片	頁岩	13.3	2.81	4.71	1.22		4区
O16－16	第65図－240	1	剥片	不明	49.40	4.56	6.29	1.55		
O16－06	第65図－241	3	剥片	チャート	7.00	2.87	2.40	0.84		
SM－06	第65図－242	37	剥片	玉髄	37.8	3.93	6.34	1.94		3区，含む瑪瑙
遺跡	第65図－243	一括	剥片	安山岩	14.80	4.73	4.20	0.92		
L18－53	第65図－244	2	剥片	頁岩	10.20	3.92	1.98	1.43		
遺跡	第65図－245	一括	剥片	安山岩	39.20	3.30	2.82	3.86		
L20－01	第66図－246	2	剥片	凝灰岩	51.90	5.15	4.47	1.85		
K19－48	第66図－247	3	剥片	頁岩	8.60	5.64	2.65	1.27		
SI－054	第66図－248	7	剥片	頁岩	4.70	4.70	1.70	0.90		
L18－82	第66図－249	2	剥片	玉髄	21.00	4.63	3.55	1.03		含む瑪瑙
L19－91	第66図－250	3	剥片	黒曜石	10.20	5.01	2.81	0.82		
SM－06	第66図－251	1	石核	安山岩	10.2	3.28	2.64	1.04		
SI－013	第66図－252	1	石核	チャート	43.70	3.93	4.51	2.03		
L19－50	第66図－253	3	石核	流紋岩	103.90	4.82	5.63	3.02		
L18－44	第66図－254	2	石核	頁岩	13.20	3.21	2.65	1.09		
SK－001	第66図－255	1	石核	凝灰岩	35.30	0.38	0.32	0.32		
SI－063	第66図－256	52	石核	黒曜石	11.80	2.58	2.13	2.04		マイクロコア
L19－26	第67図－257	3	石核	黒曜石	6.80	1.65	3.05	1.95		
O17－37	第67図－258	3	石核	黒曜石	7.10	2.61	2.35	1.37		
O16－16	第67図－259	1	石核	チャート	21.80	2.83	3.07	2.80		
SD－004	第68図－260	2	打斧	砂岩	117.10	8.20	6.80	1.60		
SI－067	第68図－261	8	打斧	変成岩	74.40	5.00	8.30	1.60		ホルンフェルス
SI－097	第68図－262	40	打斧	片麻岩	69.60	9.60	4.80	1.30		
SI－065	第68図－263	29	打斧	砂岩	122.50	8.10	6.30	2.40		
SI－043	第68図－264	304	打斧	変成岩	49.40	8.40	5.00	1.40		ホルンフェルス
SI－058	第68図－265	14	打斧	粘板岩	55.90	7.50	5.10	1.10		
SM－06	第68図－266	5	打斧	砂岩	142.4	9.19	5.52	2.14		
M18－92	第68図－267	1	打斧	変成岩	57.50	5.65	4.70	1.78		
SI－002	第68図－268	45	打斧	変成岩	84.40	8.20	4.80	1.90		ホルンフェルス
SM－06	第68図－269	4	打斧	砂岩	82.6	8.13	4.23	1.70		
SD－002	第68図－270	8	打斧	変成岩	68.10	8.20	4.00	1.90		
SI－036	第68図－271	1	打斧	安山岩	60.30	7.40	4.10	1.70		
SI－156	第68図－272	8	打斧	変成岩	30.60	4.50	4.50	1.20		
M19－31	第68図－273	1	打斧	砂岩	23.20	3.33	3.16	1.88		
N16－74	第68図－274	3	打斧	変成岩	93.30	9.30	4.20	2.20		
SI－004	第68図－275	112	打斧	変成岩	79.60	7.45	4.53	2.33		
L20－27	第68図－276	2	打斧	安山岩	77.00	6.65	4.52	1.70		
L19－31	第68図－277	1	打斧	安山岩	84.90	8.30	4.40	1.90		
SI－096	第68図－278	25	打斧	変成岩	244.60	11.30	6.30	3.10		
SI－071	第69図－279	6	打斧	砂岩	84.40	6.90	3.90	2.50		
L19－27	第69図－280	3	打斧	変成岩(ホルンフェルス)	32.20	5.70	4.80	1.00		ホルンフェルス
T36	第69図－281	2	打斧	砂岩	117.80	7.40	5.00	2.30		
?9－83	第69図－282	3	打斧	砂岩	19.30	2.74	4.69	1.37		
L20－18	第69図－283	1	打斧	安山岩	91.70	6.35	4.59	2.47		
SI－102	第69図－284	11	打斧	頁岩	36.10	5.40	4.20	1.60		
SI－043	第69図－285	341	打斧	安山岩	77.60	6.60	4.90	1.50		
SI－043	第69図－286	301	打斧	変成岩	42.80	7.80	3.20	1.50		
M19－22	第69図－287	1	打斧	片麻岩	23.00	5.70	3.10	1.00		
K19－99	第69図－288	2	打斧	玄武岩	32.30	4.09	3.89	1.35		
SI－090	第69図－289	8	打斧	砂岩	48.30	6.90	4.00	1.40		
M18－84	第69図－290	2	打斧	砂岩	69.60	8.20	3.50	1.80		
SI－083	第69図－291	4	打斧	変成岩	49.40	6.33	5.29	1.10		
SI－090	第69図－292	9	打斧	変成岩	28.30	5.50	3.50	1.30		
SI－011	第69図－293	342	打斧	変成岩	159.80	8.15	4.66	2.87		ホルンフェルス
SI－043	第69図－294	1	打斧	変成岩	198.50	8.80	6.40	3.00		
墳丘－06	第70図－295	25	磨斧	玄武岩	326.3	8.46	6.61	3.15		
K19－59	第70図－296	17	磨斧	安山岩	276.20	7.80	6.00	3.50		
SM－06	第70図－297	2	磨斧	玄武岩	267.7	11.13	6.36	2.27		
SM－06	第70図－298	2	磨斧	玄武岩	145.7	7.54	4.60	2.47		3区
L20－52	第70図－299	2	磨斧	安山岩	140.50	8.80	5.50	2.70		
SM－06	第70図－300	13	磨斧	玄武岩	121.4	6.60	4.58	3.20		4区
SI－062	第70図－301	10	磨斧	砂岩	161.30	6.80	4.90	3.50		
SI－055	第70図－302	4	磨斧	安山岩	240.40	11.40	3.90	3.20		
SM－06	第70図－303	48	磨斧	片麻岩	164.4	10.01	5.02	2.37		3区
SM－06	第70図－304	2	磨斧	砂岩	122.9	7.82	4.97	2.04		
SI－052	第70図－305	49	磨斧	安山岩	94.50	5.70	4.40	2.30		
SI－011	第70図－306	108	磨斧	砂岩	164.20	5.90	6.60	3.20		
T35	第70図－307	4	磨斧	蛇紋岩	18.30	3.40	3.87	1.98		
SI－096	第70図－308	26	磨斧	砂岩	23.40	3.80	4.00	1.40		
P17－39	第70図－309	2	磨斧	蛇紋岩	26.40	2.60	5.20	2.10		
SI－096	第70図－310	26	磨斧	砂岩	116.60	5.40	6.00	3.10		
SM－06	第70図－311	38	磨斧	砂岩	83.6	7.89	3.68	2.37		4区
O17－06	第70図－312	4	磨斧	蛇紋岩	12.70	4.10	3.40	1.40		
SI－132	第70図－313	5	磨斧	安山岩	80.80	5.40	4.10	3.10		
SM－06	第70図－314	37	磨斧	玄武岩	209.1	9.18	6.03	2.68		3区
SI－041	第70図－315	2	磨斧	砂岩	308.20	10.14	6.03	3.08		
SI－004	第70図－316	112	磨斧	安山岩	415.80	9.51	6.15	3.16		
K19－47	第71図－317	2	磨斧	玄武岩	171.60	6.40	4.90	2.70		
SM－06	第71図－318	2	磨斧	玄武岩	162.1	6.94	5.06	3.00		3区

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SM－06	第71図－319	11	磨斧	玄武岩	80.6	4.75	4.05	2.67		4区
T36－07	第71図－320	2	磨斧	蛇紋岩	42.70	3.94	4.30	1.82		ｻﾌﾞﾄﾚ
墳丘－06	第71図－321	30	磨斧	玄武岩	67.8	6.80	4.68	1.22		
SI－064	第71図－322	14	磨斧	片麻岩	24.90	4.20	3.40	0.90		
SI－118	第71図－323	13	磨斧	砂岩	29.20	4.80	2.90	1.30		
SI－145	第71図－324	3	磨斧	蛇紋岩	27.30	4.20	3.40	1.20		
SI－084	第71図－325	8	磨斧	砂岩	65.30	7.50	3.20	1.80		
SM－06	第71図－326	34	磨斧	流紋岩	30.2	4.96	3.20	1.17		2区
SI－059	第71図－327	13	磨斧	安山岩	17.90	4.00	2.60	1.10		
SI－012	第71図－328	6	磨斧	砂岩	11.30	5.50	1.60	0.70		
SI－096	第71図－329	26	磨斧	安山岩	159.40	8.50	4.70	2.25		
SI－063	第71図－330	21	磨斧	安山岩	78.70	8.20	4.80	1.30		
SI－23	第71図－331	98	磨斧	変成岩	37.90	6.10	4.10	1.10		
SD－003	第71図－332	1	磨斧	変成岩	32.00	7.00	3.10	1.10		
SI－059	第71図－333	46	磨斧	玄武岩	287.10	11.60	4.50	2.80		
SI－005	第71図－334	93	磨斧	砂岩	111.60	8.16	3.92	1.99		
SD－003	第71図－335	4	磨斧	チャート	22.20	6.00	2.50	1.15		
SI－010	第71図－336	4	磨斧	砂岩	18.90	3.10	3.80	1.10		
SI－099	第71図－337	1	磨斧	安山岩	97.10	7.60	3.30	2.15		
	第71図－338		磨斧							
L18－25	第71図－339	3	磨斧	玄武岩	353.90	11.30	7.30	2.80		
SI－054	第71図－340	7	磨斧	砂岩	523.90	17.20	5.40	4.00		
P17－49	第71図－341	2	磨斧	細雲母片岩	81.60	9.40	3.90	1.60		
SI－043	第72図－342	30	石棒	粘板岩	56.80	5.10	3.50	3.00		
SI－004	第72図－343	112	石棒	細雲母片岩	45.70	7.30	3.10	1.40		
SI－121	第72図－344	2	石棒	細雲母片岩	55.80	6.40	3.50	1.60		
SM－06	第72図－345	2	石棒	細雲母片岩	52.8	5.94	2.79	1.92		3区
SM－06	第72図－346	6	石棒	粘板岩	117.3	8.10	3.50	2.70		
SI－097	第72図－347	38	石棒	細雲母片岩	21.80	6.00	2.80	0.90		
遺跡	第72図－348	一括	石棒	粘板岩	13.00	5.50	2.65	0.69		
SI－097	第72図－349	4	石棒	片麻岩	22.80	5.90	2.70	1.00		
SI－037	第72図－350	1	石棒	片麻岩	78.80	10.90	2.50	2.30		
SI－096	第72図－351	27	石棒	片麻岩	11.80	5.10	2.20	0.80		
墳丘－06	第72図－352	24	石棒	細雲母片岩	346.4	11.30	5.90	2.90		
SI－043	第72図－353	350	石棒	細雲母片岩	5400.00	29.40	11.70	9.40		
O16－85	第72図－354	2	石棒	細雲母片岩	154.50	8.13	5.58	2.66		
SI－009	第72図－355	6	石棒	緑泥片岩	70.40	5.60	3.60	2.00		
SI－018	第72図－356	146	石棒	緑泥片岩	45.00	9.50	2.60	1.50		
SI－016	第72図－357	43	石棒	片麻岩	261.90	27.60	2.90	1.90		
N17－12	第72図－358	2	石棒	粘板岩	27.10	5.74	3.34	0.98		
SI－011	第72図－359	339	石棒	粘板岩	108.20	8.93	4.51	2.02		
SI－035	第72図－360	24	石棒	粘板岩	72.40	8.10	4.10	1.80		
SI－083	第72図－361	1	石剣	細雲母片岩	70.20	8.40	3.50	1.30		
N18－82	第72図－362	2	石剣	粘板岩	26.10	5.00	3.10	1.20		
SI－104	第72図－363	6	石剣	細雲母片岩	56.40	6.50	3.20	1.50		
SI－045	第72図－364	9	独鈷石	安山岩	236.30	5.00	9.30	4.60		
SM－06	第72図－365	1	石錘	玄武岩	23.1	4.80	3.90	0.70		2区
SI－073	第72図－366	92	石剣	細雲母片岩	196.30	11.80	5.10	1.60		
SI－062	第72図－367	10	石剣	細雲母片岩	96.60	9.80	3.50	1.30		
SI－056	第72図－368	2	石剣	細雲母片岩	94.80	12.40	3.80	1.10		
SK－009	第72図－369	1	石製品	変成岩	5.30	直径2.5		0.60		
L18－66	第72図－370	3	装飾品未製品	翡翠(ヒスイ)	42.90	5.50	2.50	2.50		
SM－06	第73図－371	15	磨り石	チャート	1784.9	15.72	10.65	6.87		2区
SI－138	第73図－372	8	磨り石	安山岩	185.70	5.60	5.80	3.80		
墳丘－06	第73図－373	22	磨り石	石英斑岩	803.8	13.14	11.50	5.00		
SI－043	第73図－374	5	磨り石	玉髄	329.90	6.90	7.30	4.80		含む瑪瑙
SI－043	第73図－375	306	磨り石	安山岩	405.20	7.20	6.90	6.10		
SM－06	第73図－376	2	磨り石	安山岩	134.9	6.90	5.60	2.30		1区
SI－043	第73図－377	301	磨り石	軽石	10.80	4.70	4.08	3.40		
M17－00	第73図－378	4	磨り石	変成岩	57.30	5.46	4.37	2.00		ホルンフェルス
SM－06	第73図－379	2	磨り石	砂岩	469.7	9.60	6.40	5.20		3区
SI－053	第73図－380	9	磨り石	砂岩	282.50	7.80	5.40	4.90		
K19－48	第73図－381	6	磨り石	片麻岩	300.30	8.81	5.74	4.53		
SM－06	第73図－382	2	磨り石	玄武岩	173.0	6.20	4.40	5.20		3区
SI－006	第73図－383	26	磨り石	砂岩	334.70	8.40	8.90	2.90		
M16－97	第73図－384	3	磨り石	砂岩	333.50	9.35	7.30	4.56		
SD－003	第73図－385	1	磨り石	玉髄	252.20	7.00	6.60	4.00		含む瑪瑙
SI－002	第73図－386	49	磨り石	花崗岩	113.70	5.20	4.30	3.40		
SI－096	第73図－387	6	磨り石	軽石	32.80	5.99	5.50	4.35		
SI－096	第73図－388	28	磨り石	安山岩	257.50	9.70	8.10	1.80		
SI－067	第73図－389	12	磨り石	緑泥片岩	456.40	10.80	5.65	3.70		
SI－001	第73図－390	79	磨り石	片麻岩	135.90	8.30	4.50	2.20		
SI－043	第73図－391	301	磨り石	砂岩	247.50	7.70	7.05	2.90		
SI－002	第73図－392	17	磨り石	砂岩	256.50	8.80	6.60	3.80		
O18－34	第73図－393	1	磨り石	変成岩	146.10	9.77	4.95	2.33		(2点)ホルンフェルス
SI－002	第74図－394	24	磨り石	安山岩	225.60	8.10	6.70	4.00		
L20－31	第74図－395	2	磨り石	砂岩	169.30	8.17	6.66	2.19		
SD－001	第74図－396	2	磨り石	砂岩	182.80	6.00	5.90	5.20		
SI－097	第74図－397	－	磨り石	軽石	45.00	8.17	5.30	4.20		
SI－070	第74図－398	1	磨り石	安山岩	85.10	9.60	4.30	1.60		
M18－97	第74図－399	1	磨り石	片麻岩	103.30	9.90	5.12	1.56		
SI－065	第74図－400	25	磨り石	砂岩	143.80	6.90	4.90	3.20		
K19－58	第74図－401A	10	石核	凝灰岩	488.00	6.80	6.78	6.20		M18－57－1と接合
M18－57	第74図－401B	1	石核	凝灰岩	347.90	7.13	7.48	4.02		K19－58－10の接合
SI－029	第74図－402	34	敲き石	砂岩	117.10	9.70	4.20	2.00		
M18－94	第74図－403	3	敲き石	砂岩	170.10	11.05	3.62	3.34		
M18－80	第74図－404	3	敲き石	砂岩	85.10	8.50	3.65	2.04		
K20－08	第74図－405	2	敲き石	砂岩	198.90	5.60	5.65	5.37		
M18－90	第74図－406	4	敲き石	砂岩	61.00	6.70	4.23	1.42		(2点)
SI－121	第74図－407	2	敲き石	砂岩	140.40	6.60	4.10	3.90		
SI－007	第74図－408	21	敲き石	砂岩	82.70	5.50	5.40	1.70		
SI－039	第74図－409	4	敲き石	砂岩	176.00	6.20	8.80	2.20		
L18－58	第74図－410	4	敲き石	玄武岩	354.20	9.00	6.88	4.54		
SI－090	第74図－411	13	敲き石	安山岩	326.60	8.60	6.30	5.00		
M17－18	第74図－412	1	敲き石	安山岩	270.80	8.71	5.78	3.94		
N16－74	第74図－413	2	敲き石	砂岩	183.70	7.38	6.17	2.76		
L20－06	第74図－414	2	敲き石	砂岩	169.10	6.88	5.50	2.87		
K19－78	第74図－415	2	敲き石	片麻岩	70.60	6.69	3.78	2.15		
SM－06	第74図－416	2	敲き石	石英斑岩	140.2	6.69	4.17	3.04		3区
O18－13	第74図－417	1	敲き石	石英斑岩	310.90	9.94	4.43	4.35		
K19－59	第74図－418	19	敲き石	変成岩	365.70	13.10	4.20	4.20		
L19－21	第74図－419	3	敲き石	砂岩	167.20	11.17	3.31	3.16		
SI－089	第74図－420	4	敲き石	砂岩	89.70	8.20	3.40	2.10		
SI－121	第74図－421	2	敲き石	砂岩	65.40	5.93	3.60	2.30		
SI－005	第75図－422	50	敲き石	砂岩	1534.80	16.94	8.31	7.14		
SI－045	第75図－423	41	敲き石	砂岩	921.10	9.03	8.99	7.94		
SI－007	第75図－424	22	敲き石	砂岩	368.00	8.30	6.70	4.70		
SI－043	第75図－425	140	敲き石	砂岩	273.70	12.00	4.50	3.50		
SI－118	第75図－426	13	敲き石	石英斑岩	350.20	10.50	6.40	4.10		

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SI－138	第75図－427	7	敲き石	砂岩	292.10	8.90	7.30	3.40		
SI－023	第75図－428	98	敲き石	砂岩	214.60	6.80	7.40	2.90		
SI－138	第75図－429	53	敲き石	安山岩	235.50	10.30	5.90	2.50		
SI－138	第75図－430	38	敲き石	砂岩	292.10	9.50	7.10	3.30		
SI－138	第75図－431	2	敲き石	砂岩	194.50	7.30	5.20	3.10		
P17－18	第75図－432	2	敲き石	砂岩	534.10	13.31	9.29	4.11		
SI－051	第75図－433	53	敲き石	砂岩	491.80	14.60	5.40	5.40		
L19－31	第75図－434	1	敲き石	砂岩	263.10	8.58	5.55	3.78		
SI－126	第75図－435	20	敲き石	変成岩	65.50	9.85	3.84	1.53		
SM－06	第75図－436	2	敲き石	安山岩	457.8	12.90	5.30	4.40		3区
SI－058	第75図－437	14	敲き石	石英斑岩	310.80	8.40	5.70	4.20		
L19－48	第75図－438	1	敲き石	石英斑岩	229.50	8.79	4.89	3.51		
SI－007	第75図－439	38	敲き石	砂岩	118.10	8.60	3.60	2.70		
SM－06	第76図－440	2	敲き石	石英	107.5	6.25	3.85	3.18		
SI－009	第76図－441	50	敲き石	石英	133.00	5.10	5.60	3.40		
SI－132	第76図－442	8	敲き石	泥岩	145.20	8.96	4.00	2.44		
SK－002	第76図－443	1	敲き石	安山岩	348.50	8.60	7.00	4.20		
SI－044	第76図－444	12	敲き石	砂岩	366.60	12.30	6.45	3.80		
SM－06	第76図－445	21	敲き石	凝灰岩	179.7	10.60	6.00	2.60		1区
SM－06	第76図－446	2	敲き石	花崗岩	454.0	9.10	8.50	4.50		1区
SI－043	第76図－447	301	敲き石	砂岩	252.30	10.70	4.70	3.70		
SI－043	第76図－448	183	敲き石	砂岩	566.50	11.40	6.90	5.00		
L19－50	第76図－449	3	敲き石	石英斑岩	380.70	13.89	4.76	3.41		
SM－06	第76図－450	2	敲き石	石英斑岩	496.2	8.80	10.10	4.10		1区
SI－043	第76図－451	212	敲き石	安山岩	218.50	6.80	7.20	3.30		
SI－077	第76図－452	9	敲き石	砂岩	445.40	11.50	5.60	5.30		
L19－53	第76図－453	8	敲き石	砂岩	221.40	9.57	5.41	2.99		
SI－096	第76図－454	28	敲き石	安山岩	339.80	6.20	8.90	5.80		
SI－138	第76図－455	53	敲き石	砂岩	190.50	6.60	4.76	4.28		
K20－87	第76図－456	4	敲き石	砂岩	55.40	7.39	3.91	1.24		
K19－39	第76図－457	1	敲き石	砂岩	105.40	4.25	5.41	4.03		
SM－06	第76図－458	2	敲き石	変成岩	94.4	7.10	5.90	2.10		1区
L18－43	第76図－459	2	敲き石	安山岩	255.20	7.97	5.36	4.02		
SI－043	第76図－460	301	敲き石	玉髄	151.70	5.60	4.90	4.20		含む珊瑚
SI－004	第77図－461	112	凹石	安山岩	496.80	9.94	7.72	3.49		
SI－048	第77図－462	4	凹石	安山岩	687.20	11.20	8.90	4.10		
N17－00	第77図－463	2	石皿	軽石	265.80	9.70	9.30	5.28		
SI－109	第77図－464	3	石皿	安山岩	437.70	8.10	9.50	4.90		
SI－043	第77図－465	1	石皿	安山岩	257.80	8.20	11.10	5.10		
SI－024	第77図－466	26	石皿	安山岩	482.10	8.20	10.30	5.30		
SM－06	第77図－467	137	石皿	軽石	143.5	7.60	9.70	5.00		3区
M17－49	第77図－468	1	石皿	安山岩	80.90	5.11	4.36	4.93		
墳丘－06	第77図－469	27	石皿	安山岩	415.8	10.00	5.60	6.30		
SI－004	第77図－470	112	石皿	安山岩	750.10	10.50	10.79	6.12		
SI－003	第77図－471	4	石皿	安山岩	299.10	6.50	5.60	6.90		
SI－023	第77図－472	98	石皿	安山岩	75.10	5.70	3.50	3.60		
O18－03	第77図－473	1	石皿	安山岩	243.30	7.15	6.20	5.45		
SI－102	第77図－474	5	石皿	安山岩	2382.60	13.60	13.09	9.04		
SI－067	第77図－475	4	石皿	安山岩	3600.00	19.30	16.56	9.20		
O18－32	第77図－476	2	石皿	軽石	191.90	6.88	6.36	4.44		
SI－096	第77図－477	28	台石	砂岩	2550.50	15.90	12.15	9.64		
SI－029	第78図－478	8	磁石	砂岩	1563.80	21.20	15.00	4.60		
SI－021	第78図－479	3	磁石	砂岩	1957.10	15.25	14.00	6.89		
SI－035	第78図－480	23	磁石	砂岩	1075.90	13.00	11.40	5.80		
SI－005	第78図－481	65	磁石	砂岩	694.30	19.40	9.50	3.50		
SI－005	第78図－482	92	磁石	砂岩	802.90	8.45	10.21	7.64		
SK－006	第78図－483	42	磁石	砂岩	309.10	8.10	10.50	3.20		
墳丘－06	第78図－484	26	磁石	砂岩	283.2	11.90	6.90	2.50		
SI－138	第78図－485	53	磁石	砂岩	142.40	8.10	4.30	2.70		
N17－05	第78図－486	1	磁石	砂岩	59.70	3.55	5.30	2.20		
N17－25	第78図－487	1	磁石	砂岩	328.30	9.08	5.43	3.93		
SI－043	第78図－488	305	磁石	砂岩	464.20	11.80	8.00	3.00		
L20－30	第78図－489	1	磁石	砂岩	270.20	9.98	7.40	2.71		(2点)
SK－001	第78図－490	37	磁石	砂岩	332.70	7.50	11.20	3.20		
SK－006	第78図－491	43	磁石	砂岩	104.20	10.10	4.50	2.30		
SI－005	第78図－492	31	磁石	砂岩	334.80	10.10	8.20	2.90		
SI－097	第78図－493	21	磁石	砂岩	162.00	7.30	4.90	2.80		
SD－003	第78図－494	1	磁石	砂岩	152.70	6.85	3.35	5.10		
SI－066	第78図－495	2	磁石	砂岩	156.30	10.10	5.40	2.10		
SI－059	第78図－496	13	磁石	砂岩	345.50	12.90	9.10	2.40		
SI－007	第78図－497	25	磁石	砂岩	159.10	7.20	6.80	1.90		
N18－47	第78図－498	1	磁石	砂岩	205.60	8.40	6.30	2.46		
SM－06	第78図－499	8	磁石	流紋岩	18.7	2.20	3.40	2.30		2区
SI－006	第78図－500	9	磁石	砂岩	107.00	5.60	5.80	3.60		
SI－139	第79図－501	5	磁石	砂岩	317.00	10.60	8.80	2.40		
SI－118	第79図－502	10	磁石	砂岩	197.60	11.30	7.70	1.80		
SI－140	第79図－503	1	磁石	砂岩	165.40	13.80	7.00	1.20		(2点)
SI－009	第79図－504	28	磁石	砂岩	142.80	9.50	9.40	1.40		
SI－105	第79図－505	4	磁石	砂岩	137.50	10.80	6.00	1.80		
SI－045	第79図－506	39	磁石	砂岩	125.10	8.83	7.16	1.51		
SI－156	第79図－507	6	磁石	砂岩	103.10	9.60	5.30	1.50		
SI－043	第79図－508	301	磁石	砂岩	89.40	6.50	5.80	1.50		
N16－83	第79図－509	1	磁石	砂岩	103.90	10.80	6.05	1.56		
N17－14	第79図－510	1	磁石	砂岩	121.90	7.55	7.00	1.59		
SI－024	第79図－511	26	磁石	砂岩	107.90	7.10	7.20	1.40		
SI－090	第79図－512	21	磁石	砂岩	74.80	7.20	5.10	1.90		
SI－002	第79図－513	45	磁石	砂岩	52.30	8.10	5.30	1.00		
SI－096	第79図－514	28	磁石	砂岩	115.90	8.60	4.70	1.80		
O18－44	第79図－515	1	磁石	砂岩	93.10	7.40	5.74	1.36		
M17－35	第79図－516	2	磁石	砂岩	95.00	8.75	6.30	1.27		
SI－043	第79図－517	2	磁石	泥岩	66.30	6.20	6.20	1.00		
SI－138	第79図－518	52	磁石	砂岩	60.90	8.10	5.30	1.20		
ｸﾞﾘｯﾄﾞ98	第79図－519	3	磁石	砂岩	73.00	7.75	5.35	1.13		
SI－054	第79図－520	5	磁石	砂岩	123.50	8.20	6.80	1.50		
SI－005	第79図－521	73	磁石	砂岩	94.40	12.60	5.60	1.10		
N16－83	第79図－522	1	磁石	砂岩	123.70	7.10	6.28	1.70		
K19－49	第79図－523	1	磁石	砂岩	51.30	7.80	4.49	1.27		
L19－63	第79図－524	1	磁石	砂岩	34.50	4.32	4.13	1.13		
O18－40	第79図－525	1	磁石	砂岩	99.20	8.14	5.88	1.38		(3点)
K19－97	第79図－526	1	磁石	砂岩	47.80	7.37	4.00	1.07		(2点)
SI－097	第79図－527	39	磁石	砂岩	29.80	6.53	2.85	1.07		
L19－72	第79図－528	1	磁石	砂岩	71.20	7.60	4.95	1.30		
SI－043	第79図－529	301	磁石	砂岩	96.20	7.40	6.90	1.20		
N18－76	第79図－530	2	磁石	砂岩	49.80	5.85	5.95	0.97		
SI－090	第79図－531	15	磁石	安山岩	63.80	6.70	5.10	1.50		

遺構番号	挿図番号	遺物番号	器種	石材	重量g	長cm	幅cm	厚cm	基部形状	備考
SI－043	第79図－532	2	磁石	砂岩	72.80	8.10	4.10	1.50		
K19－98	第79図－533	2	磁石	砂岩	35.00	4.50	4.90	1.14		
SI－058	第79図－534	3	磁石	砂岩	38.90	6.40	4.60	0.90		
SI－096	第79図－535	28	磁石	砂岩	50.60	4.50	4.00	1.80		
M19－47	第79図－536	2	磁石	砂岩	36.70	4.62	4.86	0.99		
M19－47	第79図－537	2	磁石	砂岩	41.60	5.48	4.63	0.96		
O18－04	第79図－538	2	磁石	砂岩	103.50	8.77	3.57	2.00		
SI－011	第80図－539	77	磁石	砂岩	182.40	11.60	6.30	2.10		
SI－090	第80図－540	14	磁石	安山岩	151.60	7.40	7.10	3.70		
SI－009	第80図－541	12	磁石	砂岩	242.50	10.40	7.80	1.90		
SI－090	第80図－542	22	磁石	砂岩	186.70	9.60	6.60	2.60		
SI－058	第80図－543	2	磁石	軽石	85.80	8.60	5.20	1.70		
SI－066	第80図－544	2	磁石	砂岩	211.50	8.90	5.80	2.50		
SI－041	第80図－545	7	磁石	砂岩	190.00	7.55	7.50	2.91		
SI－043	第80図－546	313	磁石	砂岩	223.30	9.30	7.60	3.00		
SI－006	第80図－547	26	磁石	砂岩	227.50	11.00	6.40	3.00		
SI－113	第80図－548	2	磁石	砂岩	106.20	8.00	5.50	1.90		
L20－30	第80図－549	2	磁石	砂岩	159.50	9.29	6.84	2.37		
SI－090	第80図－550	17	磁石	砂岩	112.20	8.50	4.90	2.10		
SI－003	第80図－551	1	磁石	砂岩	127.30	9.10	5.70	2.10		
O18－54	第80図－552	1	磁石	砂岩	116.00	7.57	5.21	1.75		
O16－51	第80図－553	2	磁石	砂岩	185.60	6.75	9.50	2.85		
M18－34	第80図－554	1	磁石	砂岩	128.60	7.90	5.67	1.96		
SI－126	第80図－555	49	磁石	砂岩	148.90	5.30	6.70	2.50		
SI－127	第80図－556	1	磁石	砂岩	147.20	7.80	5.80	2.60		
SI－004	第80図－557	111	磁石	砂岩	270.80	8.29	7.53	3.79		
SI－064	第80図－558	14	磁石	砂岩	170.00	8.10	5.90	2.60		
SI－003	第80図－559	1	磁石	砂岩	131.40	6.60	7.00	1.90		
SI－084	第80図－560	8	磁石	砂岩	120.20	6.70	4.20	2.80		
L19－40	第80図－561	1	磁石	軽石	109.10	6.31	5.35	3.60		
SI－024	第80図－562	26	磁石	砂岩	65.50	5.80	3.40	2.30		
O18－04	第80図－563	2	磁石	砂岩	108.10	6.66	4.72	2.39		
M17－53	第80図－564	1	磁石	砂岩	84.60	5.39	4.93	1.97		
SI－023	第80図－565	98	磁石	砂岩	76.50	7.40	4.70	1.80		
SM－06	第80図－566	－	磁石	軽石	22.9	5.00	2.80	1.70		2区
SI－138	第80図－567	52	磁石	安山岩	35.50	4.80	3.70	1.60		
SI－005	第80図－568	92	磁石	砂岩	38.10	6.00	3.16	1.65		
SI－090	第80図－569	10	磁石	安山岩	40.60	5.80	4.70	1.80		
SI－003	第80図－570	32	磁石	砂岩	94.30	8.50	5.12	1.90		
SI－043	第80図－571	1	磁石	砂岩	38.00	3.10	4.80	1.60		
SI－043	第81図－572	2	磁石	砂岩	65.80	7.00	5.30	1.60		
SI－089	第81図－573	6	磁石	砂岩	59.90	7.40	4.60	1.10		
SI－029	第81図－574	2	磁石	砂岩	42.90	8.90	4.10	0.90		
L20－55	第81図－575	1	磁石	砂岩	58.60	9.25	3.75	1.03		
SI－045	第81図－576	37	磁石	砂岩	75.00	8.50	4.10	1.50		
M18－98	第81図－577	1	磁石	砂岩	64.30	7.40	4.60	1.33		
SI－096	第81図－578	28	磁石	砂岩	71.70	7.30	3.60	1.60		
G11	第81図－579	1	磁石	砂岩	57.50	7.20	4.00	1.29		
SD－003	第81図－580	5	磁石	砂岩	49.80	7.40	4.90	1.50		
SI－009	第81図－581	38	磁石	砂岩	52.90	8.20	3.50	1.10		
SI－151	第81図－582	4	磁石	砂岩	57.10	7.70	3.80	1.40		
SI－011	第81図－583	338	磁石	砂岩	47.30	5.70	5.39	1.12		
SI－142	第81図－584	6	磁石	砂岩	16.60	4.90	3.90	0.70		
SI－063	第81図－585	54	磁石	砂岩	42.60	6.60	5.20	0.80		
L20－13	第81図－586	磁石	砂岩	44.50	6.75	4.50	1.21			
SI－004	第81図－587	111	磁石	砂岩	42.50	5.74	5.88	1.10		
SI－060	第81図－588	1	磁石	砂岩	36.80	4.90	4.10	1.20		
SI－102	第81図－589	10	磁石	砂岩	48.90	6.60	5.20	1.10		
SI－013	第81図－590	1	磁石	砂岩	22.00	5.20	4.90	0.60		
M18－90	第81図－591	4	磁石	砂岩	49.90	6.31	5.74	1.07		
O18－31	第81図－592	1	磁石	砂岩	24.80	4.70	4.32	1.13		
SI－023	第81図－593	97	磁石	砂岩	29.40	4.60	3.90	1.10		
SI－086	第81図－594	16	磁石	流紋岩	80.60	8.20	6.60	1.10		
SI－043	第81図－595	2	磁石	砂岩	41.40	5.30	5.40	9.00		
M18－89	第81図－596	1	磁石	砂岩	36.30	4.38	4.77	1.00		
墳丘－06	第81図－597	1	磁石	流紋岩	41.2	5.40	3.70	1.50		1区
SI－043	第81図－598	2	磁石	砂岩	138.00	10.10	5.00	2.10		
K19－79	第81図－599	1	磁石	砂岩	50.00	5.01	4.87	1.34		
SI－029	第81図－600	6	磁石	砂岩	53.30	5.10	5.40	1.40		
SM－06	第81図－601	2	磁石	流紋岩	18.4	2.50	4.00	1.40		3区
墳丘－06	第81図－602	1	磁石	流紋岩	40.6	5.30	3.80	1.20		1区
SI－004	第81図－603	111	磁石	砂岩	23.50	3.05	3.77	1.41		
SI－065	第81図－604	1	磁石	砂岩	13.80	5.10	2.30	1.00		
SI－043	第81図－605	2	磁石	砂岩	11.60	2.00	3.20	1.50		
M17－06	第81図－606	1	磁石	砂岩	42.00	7.20	4.48	1.23		
SM－06	第81図－607	2	磁石	砂岩	21.5	4.90	2.10	1.50		3区
SI－001	第81図－608	38	磁石	砂岩	31.00	6.20	3.50	1.10		
Q15－21	第81図－609	23	磁石	砂岩	47.80	7.87	4.50	0.90		
SI－041	第81図－610	6	磁石	砂岩	42.10	5.44	4.35	1.23		
SI－006	第81図－611	26	磁石	砂岩	30.80	4.40	4.10	1.40		
SI－096	第81図－612	9	磁石	砂岩	10.30	4.40	2.50	0.80		
SI－062	第81図－613	9	磁石	砂岩	13.40	4.60	2.20	0.90		
SI－032	第81図－614	3	磁石	砂岩	23.60	5.30	2.90	1.10		
SI－067	第81図－615	3	磁石	粘板岩	22.90	5.10	3.40	1.00		
SI－016	第81図－616	43	磁石	砂岩	16.70	2.10	4.00	1.50		
SI－062	第81図－617	9	磁石	砂岩	11.00	2.60	3.60	1.10		
L20－15	第81図－618	5	磁石	流紋岩	4.70	2.57	1.43	0.93		江戸時代
L19－53	第81図－619	8	磁石	砂岩	8.50	2.58	2.41	1.00		
L18－45	第81図－620	2	磁石	軽石	8.30	3.83	3.11	2.30		
L18－44	第81図－621	2	磁石	軽石	15.00	7.10	5.37	3.83		
L18－88	第81図－622	2	磁石	軽石	14.60	5.81	4.23	3.00		
L18－45	第81図－623	2	磁石	軽石	19.40	4.89	3.71	3.13		
SI－090	第82図－624	9	磁石	安山岩	124.30	7.40	6.60	3.50		
SI－096	第82図－625	6	磁石	砂岩	123.70	7.58	4.75	3.09		
SI－126	第82図－626	13	磁石	流紋岩	83.40	6.50	4.60	3.30		
SI－090	第82図－627	11	磁石	安山岩	65.60	6.80	6.40	2.20		
SI－118	第82図－628	8	磁石	安山岩	86.10	5.60	6.85	3.50		
SI－043	第82図－629	301	磁石	安山岩	20.00	4.40	3.80	1.30		
墳丘－06	第82図－630	1	磁石	流紋岩	100.0	8.40	3.80	3.10		1区
O18－50	第82図－631	1	磁石	軽石	39.90	5.61	4.20	1.85		(2点)
SI－001	第82図－632	79	磁石	安山岩	103.30	8.60	4.60	2.80		
M19－40	第82図－633	1	磁石	砂岩	73.50	7.00	2.75	2.76		
L19－36	第82図－634	2	磁石	安山岩	69.50	6.20	4.63	1.85		
SI－016	第82図－635	28	磁石	砂岩	22.80	3.60	3.70	2.20		

第３表　弥生時代土器観察表

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
SI-009	第92図-2	弥生	壺	10, 40	－	8.0	〔2.9〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
009	第92図-3	弥生	甕	7, 8, 55	－	(8.0)	〔14.6〕	20%	黄褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
010	第92図-1	弥生	壺	4	(16.7)	－	〔6.2〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	赤彩
010	第92図-2	弥生	壺	4	(15.4)	－	〔2.6〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
010	第92図-3	弥生	台付甕	4	－	(6.0)	〔3.7〕	5%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
010	第92図-4	弥生	壺	4	－	6.0	〔5.3〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
010	第92図-5	弥生	壺	4	－	(7.0)	〔8.2〕	10%	黄褐色	密	ミガキ	ヘラケズリ→ナデ	
010	第92図-6	弥生	壺	4	－	(5.6)	〔2.4〕	5%	褐色	密	ナデ	ナデ	
010	第92図-7	弥生	壺	4	－	(7.0)	〔6.0〕	10%	褐色	粗	ナデ	ナデ	
010	第92図-8	弥生	ミニチュア	4	－	(3.7)	〔2.1〕	20%	褐色	密	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	黒斑
013	第92図-1	弥生	壺	3	7.4	－	〔7.6〕	15%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→縄文LR,ナデ→ミガキ	
013	第92図-2	弥生	壺	1	(17.5)	－	〔4.5〕	5%	暗褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ→条痕	
013	第92図-3	弥生	壺	1	－	6.0	〔8.3〕	20%	褐色	粗	不明	不明	
016	第92図-1	弥生	壺	32	(18.7)	5.6	9.7	35%	褐色	粗	ナデ	不明	
016	第92図-2	弥生	壺	32	－	10.4	〔4.2〕	15%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
016	第92図-3	弥生	壺	26, 40	(11.5)	－	〔1.5〕	5%	褐色	粗	不明	不明	赤彩
016	第92図-4	弥生	壺	20	－	5.2	〔13.7〕	85%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ→ミガキ	被熱
016	第92図-5	弥生	壺	18	－	5.0	〔11.4〕	90%	赤褐色	密	ナデ	ナデ→ミガキ,ヘラケズリ→ナデ,ナデ	赤彩
016	第92図-6	弥生	甕	21	(18.6)	－	〔6.0〕	15%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
016	第92図-7	弥生	壺	25									
016	第93図-8	弥生	壺	7, 8, 19, 23, 2 7, 35	(26.1)	8.2	29.8	70%	暗褐色	粗	ヘラナデ,ミガキ	ナデ,ミガキ	赤彩
016	第93図-9	弥生	甕	6, 19, 27, 40	(23.8)	7.0	26.4	85%	暗褐色	粗	不明	不明	
016	第93図-10	弥生	甕	10, 34, 35	(20.8)	－	〔11.6〕	30%	褐色	粗	不明	不明	
016	第93図-11	弥生	甕	17	(19.2)	－	〔9.7〕	15%	褐色	粗	ナデ	ナデ	
016	第93図-12	弥生	壺	17, 23	－	5.6	〔9.3〕	20%	褐色	粗	ヘラナデ	不明	
016	第93図-13	弥生	壺	26	－	8.4	〔12.1〕	40%	橙褐色	粗	不明	不明	
016	第93図-14	弥生	甕	28, 30, 41	－	5.6	〔10.7〕	15%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラナデ,ヘラナデ	
016	第93図-15	弥生	壺	24	－	7.6	〔6.7〕	10%	褐色	粗	不明	不明	
016	第93図-16	弥生	壺	31	－	6.3	〔7.7〕	10%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ,ミガキ	
016	第93図-17	弥生	壺	31	－	7.5	〔4.5〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
016	第93図-18	弥生	壺	17	－	(6.8)	〔7.1〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
016	第93図-19	弥生	壺	35	－	6.7	〔1.8〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	焼成前穿孔１ヶ
017	第93図-1	弥生	壺	31	17.9	7.6	9.0	80%	赤褐色	密	ミガキ	ナデ,ミガキ	赤彩
017	第93図-2	弥生	壺	33	12.4	－	〔5.7〕	20%	黄褐色	粗	不明	ナデ→ミガキ	赤彩
017	第93図-3	弥生	壺	27	－	－	〔7.8〕	20%	黄褐色	粗	ハケ→ミガキ	不明	
017	第94図-4	弥生	壺	30	17.8	－	〔13.3〕	20%	赤褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ,縄文	赤彩
017	第94図-5	弥生	壺	8, 17	(7.8)	－	〔16.0〕	25%	橙褐色	粗	ヘラナデ,不明	不明	被熱
017	第94図-6	弥生	壺	17, 33	－	－	〔9.0〕	35%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,縄文	
017	第94図-7	弥生	ミニチュア	5	－	3.4	〔2.0〕	60%	褐色	密	ナデ	ナデ	
017	第94図-8	弥生	ミニチュア	20	－	2.0	〔1.5〕	45%	褐色	密	ナデ	ナデ	
017	第94図-9	弥生	壺	25	－	6.4	〔12.7〕	40%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩,被熱
017	第94図-10	弥生	甕	22	－	11.4	〔17.3〕	35%	褐色	粗	不明	不明,ミガキ	
017	第94図-11	弥生	壺	30	－	6.0	〔6.6〕	10%	赤褐色	粗	ミガキ	ケズリ→ミガキ,ヘラナデ	赤彩
017	第94図-12	弥生	壺	4, 7	－	－	〔8.0〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ→ミガキ	ヘラナデ→ミガキ	赤彩
017	第94図-13	弥生	甕	14	23.5	7.5	23.2	65%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
017	第94図-14	弥生	甕	9, 26, 35	－	－	〔14.6〕	40%	暗褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
017	第94図-15	弥生	甕	28	(14.1)	－	〔10.0〕	60%	暗褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ	
018	第94図-1	弥生	椀	20	20.0	－	〔8.7〕	30%	赤褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	赤彩
018	第94図-2	弥生	壺	43	(26.0)	－	〔10.9〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
018	第94図-3	弥生	壺	104, BSI-054-45	(7.4)	－	〔5.2〕	10%	橙褐色	密	ナデ，貝殻文	ハケ，ナデ，貝殻文	
018	第94図-4	弥生	壺	33	－	－	〔14.2〕	10%	褐色	密	ナデ	縄文,ミガキ,ナデ	赤彩
018	第95図-5	弥生	椀	113, 125, 144, 148, BSI-028-5, 6	12.9	5.7	7.4	70%	橙褐色	密	不明	ナデ,不明	被熱
018	第95図-6	弥生	甕	132	22.0	6.0	19.4	80%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
018	第95図-7	弥生	甕	132	24.4	－	〔19.2〕	50%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラナデ	
018	第95図-8	弥生	甕	27, 29	－	12.0	〔5.6〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
018	第95図-9	弥生	甕	11, 38	－	5.6	〔8.5〕	30%	橙褐色	密	ナデ	不明	
020	第95図-1	弥生	甕	1, 2, 4	－	6.9	〔21.2〕	65%	褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
021	第95図-1	弥生	鉢	1, 2	(15.4)	－	〔4.5〕	5%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	赤彩
023	第95図-1	弥生	甕	3, 36, 54, 60, 64, 65, 83	22.0	－	〔17.0〕	70%	暗褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
023	第95図-2	弥生	甕	17, 22, 97, 131	−	−	〔10.5〕	20%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→指ナデ,ナデ	
023	第95図-3	弥生	壺	39	−	7.6	〔3.9〕	10%	橙褐色	密	ナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
024	第96図-1	弥生	鉢	7, 24	20.3	6.0	8.0	80%	橙褐色	密	不明	縄文,不明	
024	第96図-2	弥生	甕	1	16.9	6.0	18.3	80%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	縄文,不明	
024	第96図-3	弥生	壺	21	13.2	−	〔9.7〕	15%	褐色	密	不明	縄文,不明	
024	第96図-4	弥生	甕	10	−	7.4	〔14.6〕	30%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	被熱（ス ス付着）
024	第96図-5	弥生	甕	3, 24	−	5.0	〔4.8〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱（ス ス付着）
031	第96図-1	弥生	甕	2	−	−	〔12.5〕	5%	橙褐色	粗	ミガキ	ナデ,ヘラナデ	
033	第96図-1	弥生	無頸壺	4	(13.0)	−	〔7.0〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
033	第96図-2	弥生	甕	3	−	6.2	〔5.5〕	10%	赤褐色	粗	不明	不明	
036	第96図-1	弥生	甕	4	(23.8)	−	〔21.6〕	70%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ミガキ	ヘラナデ→ナデ	
036	第96図-2	弥生	壺	6	−	12.0	〔7.2〕	20%	赤褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	被熱
037	第96図-1	弥生	壺	7	−	−	〔12.8〕	25%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明	赤彩
037	第96図-2	弥生	壺	24, 26, 38	−	−	〔12.7〕	10%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,縄文	
037	第96図-3	弥生	甕	38	16.0	−	〔9.4〕	60%	橙褐色	粗	ナデ,不明	ナデ,不明	
037	第96図-4	弥生	甕	26	21.8	6.0	16.7	80%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明,ヘラナデ	
037	第97図-5	弥生	甕	31	(22.0)	6.8	14.3	50%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	被熱（ス ス付着）
037	第97図-6	弥生	甕	10	19.6	−	〔13.0〕	60%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
037	第97図-7	弥生	甕	18	(39.8)	−	〔34.5〕	20%	橙褐色	密	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	被熱（ス ス付着）
037	第97図-8	弥生	甕	26, 33, 38	(17.2)	−	〔16.6〕	60%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
037	第97図-9	弥生	甕	19	−	6.6	〔11.4〕	30%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,不明	
037	第97図-10	弥生	甕	15, 17	−	〔5.8〕	〔11.3〕	25%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ヘラナデ,ハケ→ナデ	被熱（ス ス付着）
037	第97図-11	弥生	甕	26, 38	−	8.2	〔22.0〕	35%	灰褐色	密	ナデ	ナデ	
037	第97図-12	弥生	甕	6	−	6.2	〔11.0〕	30%	橙褐色	密	ナデ	ハケ→ナデ	
037	第97図-13	弥生	壺	11	−	8.6	〔11.9〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	
037	第97図-14	弥生	壺	17, 38	−	−	〔4.5〕	5%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
037	第97図-15	弥生	高杯	9	−	7.0	〔5.8〕	45%	黄褐色	密	ヘラナデ→ナデ,ナデ	ヘラナデ→ナデ	赤彩
037	第97図-16	弥生	甕	32	−	6.2	〔5.3〕	10%	黄褐色	密	ナデ	ナデ→ミガキ	
037	第97図-17	弥生	甕	5	−	6.0	〔3.9〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
037	第97図-18	弥生	甕	23, 38	−	5.6	〔4.1〕	10%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	被熱
037	第97図-19	弥生	甕	38	−	6.6	〔3.2〕	5%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
037	第97図-20	弥生	甕	14	−	5.8	〔3.3〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
037	第97図-21	弥生	甕	5	−	8.0	〔3.9〕	10%	褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ	
037	第97図-22	弥生	壺	96	−	8.4	〔6.6〕	20%	橙褐色	粗	不明	不明	
037	第97図-23	弥生	甕	33	−	5.2	〔2.3〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	焼成前穿孔1ヶ
037	第97図-24	弥生	ミニチュア	38	−	−	〔4.2〕	40%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
037	第97図-25	弥生	ミニチュア	23	−	2.6	〔2.1〕	50%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
039	第98図-1	弥生	甕	1	(22.8)	−	〔15.6〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
039	第98図-2	弥生	壺	2	−	7.8	〔2.9〕	5%	橙褐色	粗	ナデ	ヘラナデ,ミガキ	
039	第98図-3	弥生	壺	2	−	7.4	〔2.1〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
041	第98図-1	弥生	壺	1	−	(5.8)	〔4.6〕	5%	褐色	密	ミガキ	ハケ→ヘラナデ	
041	第98図-3	弥生	甕	9	−	−	〔13.8〕	20%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
042	第98図-1	弥生	壺	3	(7.6)	−	〔2.5〕	5%	褐色	密	ナデ	ナデ,縄文	
043	第98図-1	弥生	高杯	85, 96, 125	12.6	6.8	〔10.2〕	70%	黄褐色	密	ナデ,ナデ→ミガキ	ナデ,縄文	
043	第98図-2	弥生	高杯	2, 301	(14.4)	−	〔6.2〕	20%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,縄文	赤彩
043	第98図-3	弥生	無頸壺	17, 117	(27.6)	8.4	9.7	20%	橙褐色	密	ナデ	ミガキ,ヘラケズリ	赤彩
043	第98図-4	弥生	鉢	301	(12.6)	4.8	6.2	75%	赤褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ,ヘラナデ→ミガキ,縄文	赤彩
043	第98図-5	弥生	鉢	301	(18.8)	−	〔7.3〕	35%	橙褐色	粗	不明	縄文,ヘラケズリ→ナデ	赤彩
043	第98図-6	弥生	鉢	301, 335, 345	20.5	−	〔10.2〕	40%	赤褐色	粗	ナデ→ミガキ	縄文,ナデ→ミガキ	赤彩
043	第98図-7	弥生	鉢	336	(20.4)	6.6	10.0	35%	黄褐色	粗	ナデ	縄文,不明	赤彩
043	第98図-8	弥生	鉢	40	(21.6)	(5.6)	8.5	20%	灰褐色	密	ヘラナデ	縄文,ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	
043	第98図-9	弥生	鉢	232	(15.8)	−	〔10.0〕	35%	橙褐色	粗	ナデ	縄文,ヘラケズリ→ナデ	赤彩
043	第98図-10	弥生	鉢	1, 31	−	8.0	〔7.0〕	30%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明,ヘラナデ	
043	第98図-11	弥生	高杯	33	−	−	〔3.0〕	5%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
043	第98図-12	弥生	壺	228	6.7	4.2	10.8	95%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ,ミガキ	ナデ,縄文,ヘラナデ→ミガキ	赤彩,木葉痕
043	第98図-13	弥生	壺	260	−	−	〔11.7〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	不明	赤彩
043	第98図-14	弥生	壺	110, 116	−	−	〔8.5〕	5%	黄褐色	密	ナデ	縄文,ミガキ	赤彩
043	第99図-15	弥生	壺	70, 113, 132	15.7	6.6	27.9	85%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	縄文,ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	赤彩

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
043	第99図-16	弥生	壺	115, 243, 301, 311	(22.2)	−	〔20.0〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	不明,縄文,ミガキ	赤彩
043	第99図-17	弥生	壺	114	(22.8)	−	〔8.3〕	10%	黄褐色	密	ナデ→ミガキ	縄文,不明	赤彩
043	第99図-18	弥生	壺	2, 190	(17.8)	−	〔5.8〕	5%	黄褐色	粗	ナデ→ミガキ	縄文	赤彩
043	第99図-19	弥生	壺	261	(13.4)	−	〔15.3〕	15%	橙褐色	粗	ナデ	ミガキ	赤彩
043	第99図-20	弥生	壺	263	(18.6)	−	〔4.5〕	5%	黄褐色	密	不明	ナデ→ミガキ	赤彩
043	第99図-21	弥生	壺	108, 117	−	−	〔8.2〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
043	第99図-22	弥生	壺	208	−	−	〔8.3〕	10%	橙褐色	密	ミガキ	不明	赤彩
043	第99図-23	弥生	壺	126	(23.8)	−	〔7.0〕	5%	黄褐色	密	ナデ	縄文	
043	第99図-24	弥生	壺	2, 177	−	6.4	〔6.3〕	50%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ,ヘラナデ,縄文	赤彩
043	第99図-25	弥生	壺	2, 293	−	−	〔17.0〕	5%	橙褐色	密	ナデ	縄文,ミガキ	赤彩
043	第99図-26	弥生	壺	120, 124, 126	−	11.0	〔27.3〕	60%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ,縄文	赤彩
043	第99図-27	弥生	鉢	281	−	6.7	〔10.5〕	35%	黄褐色	粗	不明	不明	被熱,赤彩
043	第100図-28	弥生	壺	242, 257, 271	−	10.0	〔30.3〕	60%	橙褐色	粗	不明	不明,縄文,ミガキ,ヘラケズリ	赤彩
043	第100図-29	弥生	壺	316	−	−	〔14.2〕	5%	橙褐色	密	ナデ	縄文,ミガキ	赤彩
043	第100図-30	弥生	壺	150	−	−	〔14.5〕	5%	黒褐色	粗	ミガキ	ミガキ	赤彩
043	第100図-31	弥生	壺	275	−	12.0	〔34.0〕	75%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
043	第100図-32	弥生	壺	17, 214	−	6.4	〔9.3〕		赤褐色	密	ナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	赤彩
043	第100図-33	弥生	壺	40, 117, 237, 247	−	9.2	〔11.2〕	20%	黄褐色	粗	不明	不明	赤彩
043	第100図-34	弥生	壺	131	−	6.4	〔11.3〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	不明	
043	第100図-35	弥生	鉢	44	−	6.2	〔7.3〕	30%	黄褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	赤彩
043	第100図-36	弥生	甕	174	−	7.6	〔4.0〕	5%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ→ミガキ,不明	被熱（スス付着）
043	第100図-37	弥生	壺	226	−	6.8	〔4.6〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ→ミガキ,ヘラナデ	
043	第100図-38	弥生	壺	26, 28	−	8.0	〔4.6〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
043	第100図-39	弥生	壺	205	−	5.0	〔4.7〕	15%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラナデ	赤彩
043	第100図-40	弥生	壺	2	−	6.0	〔5.3〕	20%	赤褐色	粗	ナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ,ヘラナデ	赤彩
043	第100図-41	弥生	甕	253	−	8.4	〔4.2〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
043	第100図-42	弥生	甕	92	−	6.2	〔4.5〕	5%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
043	第100図-43	弥生	甕	301	−	5.2	〔4.2〕	10%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ	
043	第101図-44	弥生	甕	209, 217	(22.8)	−	〔13.5〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
043	第101図-45	弥生	甕	320	22.0	−	〔11.0〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
043	第101図-46	弥生	甕	230, 231, 301	(22.2)	−	〔22.4〕	60%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
043	第101図-47	弥生	甕	2, 152, 153, 154, 168	(24.0)	7.4	〔20.9〕	25%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱（スス付着）
043	第101図-48	弥生	甕	19, 46	−	−	〔18.4〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
043	第101図-49	弥生	甕	226, 234, 238, 269, 277, 301	22.3	−	〔24.0〕	80%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ→ナデ	
043	第101図-50	弥生	甕	102, 118	18.6	−	〔14.6〕	80%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
043	第101図-51	弥生	甕	117, 245	(23.8)	−	〔13.8〕	10%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	被熱（スス付着）
043	第101図-52	弥生	甕	134	(13.8)	5.8	13.6	55%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
043	第101図-53	弥生	甕	220	15.8	−	〔10.7〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
043	第101図-54	弥生	甕	120, 338	(22.0)	−	〔5.3〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
043	第102図-55	弥生	甕	284	19.0	−	〔16.4〕	30%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ	
043	第102図-56	弥生	甕	232, 261, 301	(17.8)	−	〔5.2〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
043	第102図-57	弥生	甕	236	−	−	〔7.1〕	5%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
043	第102図-58	弥生	壺	240, 301	(10.0)	−	〔6.7〕	20%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	赤彩
043	第102図-59	弥生	甕	227, 235, 236, 269, 345, 349	−	6.4	〔14.1〕	30%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
043	第102図-60	弥生	壺	32	−	6.4	〔13.0〕	30%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ナデ	
043	第102図-61	弥生	甑	259	−	7.2	〔4.0〕	5%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ナデ	
043	第102図-62	弥生	甕	2, 292	−	7.4	〔10.7〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
043	第102図-63	弥生	鉢	201	(6.5)	3.4	4.2	40%	赤褐色	密	ナデ,ヘラナデ,ミガキ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ→ミガキ,ヘラナデ	赤彩
043	第102図-64	弥生	台付甕	32	−	5.6	〔4.4〕	15%	黄褐色	密	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	
043	第102図-65	弥生	ミニチュア	1	−	(3.0)	1.6	50%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
043	第102図-66	弥生	ミニチュア	301	−	16.0	〔2.6〕	60%	橙褐色	密	ナデ	ナデ,ヘラナデ	
043	第102図-67	弥生	ミニチュア	2	(3.8)	(2.8)	2.5	40%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
048	第102図-3	弥生	ミニチュア	1	−	3.6	〔2.1〕	30%	赤褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ→ナデ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
050	第102図-1	弥生	甕	3	(20.0)	−	〔9.0〕	10%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
050	第102図-2	弥生	甕	3	−	11.0	〔9.2〕	20%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
054	第103図-1	弥生	鉢	1	12.1	4.6	5.3	85%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ,ヘラナデ	赤彩
054	第103図-2	弥生	壺	5, 6	−	5.0	〔9.0〕	10%	橙褐色	密	不明	不明,ヘラナデ	
054	第103図-3	弥生	甕	2, 5	−	−	〔13.3〕	5%	赤褐色	粗	不明	不明	
055	第103図-1	弥生	甕	1	24.0	−	〔15.5〕	15%	黄褐色	粗	不明	不明	
055	第103図-2	弥生	甕	5	(20.6)	−	〔4.0〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
055	第103図-3	弥生	壺	1	−	6.6	〔3.5〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	
055	第103図-4	弥生	壺	1	−	6.0	〔2.0〕	5%	赤褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	赤彩
060	第103図-1	弥生	壺	6	−	−	〔5.2〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ→ミガキ	ミガキ,縄文	赤彩
060	第103図-3	弥生	壺	1	−	5.6	〔3.1〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ミガキ,ヘラナデ	赤彩
060	第103図-4	弥生	壺	2	−	6.4	〔4.2〕	5%	黄褐色	密	ヘラナデ	不明	
060	第103図-5	弥生	壺	1	−	11.2	〔6.5〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
060	第103図-6	弥生	甕	2	−	6.0	〔3.2〕	5%	橙褐色	粗	ナデ	不明	
063	第103図-1	弥生	甕	2, 14, 54	(26.0)	−	〔4.3〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	
063	第103図-2	弥生	鉢	51	−	−	〔12.6〕	15%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ	赤彩
063	第103図-3	弥生	壺	23, 32, 33, 54	−	8.0	〔8.0〕	10%	赤褐色	密	ミガキ	ミガキ,ヘラナデ	赤彩
068	第103図-1	弥生	鉢	5, 6	22.0	8.4	12.1	65%	橙褐色	粗	不明	不明	
068	第103図-2	弥生	台付甕	4, 5, 6, 7	18.8	−	〔17.0〕	65%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ヘラナデ→ナデ	被熱（ス ス付着）
068	第103図-3	弥生	台付甕	1, 2	24.8	11.0	25.3	75%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ,ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,不明	被熱（ス ス付着）
072	第104図-1	弥生	甕	3	(21.4)	−	〔10.2〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明	
072	第104図-2	弥生	甕	15, 098-5	−	−	〔12.8〕	35%	橙褐色	粗	不明	不明	
072	第104図-3	弥生	壺	1	−	9.4	〔8.6〕	25%	橙褐色	粗	不明	不明	
073	第104図-1	弥生	壺	9, 10, 11	−	−	〔5.5〕	10%	褐色	粗	不明	不明	
073	第104図-2	弥生	壺	5	−	7.0	〔3.2〕	10%	褐色	密	ヘラナデ	不明	
084	第104図-3	弥生	壺	1	−	(9.4)	〔2.5〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
089	第104図-1	弥生	器台	1	−	−	〔5.8〕	10%	黄褐色	密	ヘラナデ→ナデ,ナデ	ヘラナデ→ナデ	
090	第104図-1	弥生	器台	3	10.0	4.0	4.2	95%	黄褐色	密	ヘラナデ→ナデ	不明,ナデ	
090	第104図-2	弥生	器台	22	−	9.2	〔3.2〕	10%	黄褐色	密	ナデ	不明	
090	第104図-3	弥生	鉢	5	23.4	6.8	11.4	70%	橙褐色	粗	不明,ヘラナデ	縄文,不明	赤彩
090	第104図-4	弥生	壺	6, 17, 18, 22	−	6.6	〔24.0〕	60%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,縄文,不明	赤彩
090	第104図-5	弥生	壺	12	(13.4)	−	〔3.0〕	5%	褐色	密	不明	不明	
090	第104図-6	弥生	甕	18, 19	−	6.0	〔8.5〕	15%	橙褐色	密	不明	不明	
090	第104図-7	弥生	壺	22	15.8	−	〔5.4〕	15%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ヘラナデ→ナデ	赤彩
090	第104図-8	弥生	壺	18	−	4.0	〔2.8〕	5%	赤褐色	密	ナデ	ヘラケズリ,不明	
090	第104図-9	弥生	甕	15	−	6.8	〔2.2〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
090	第104図-10	弥生	壺	22	−	6.0	〔2.5〕	5%	赤褐色	粗	不明	不明	
090	第104図-11	弥生	甕	2	21.8	−	〔17.4〕	60%	黄褐色	粗	不明	不明	
090	第104図-12	弥生	甕	1, 19	21.6	6.9	23.3	95%	黄褐色	粗	不明	不明	
090	第104図-13	弥生	壺	7	−	10.0	〔8.0〕	25%	黄褐色	粗	不明	不明	被熱
090	第105図-14	弥生	甕	4, 13	−	11.4	〔13.2〕	20%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ヘラナデ→ナデ	
090	第105図-15	弥生	甕	45	−	5.8	〔2.7〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
090	第105図-16	弥生	甕	11	−	6.8	〔4.5〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
090	第105図-17	弥生	壺	12	−	2.4	〔4.2〕	5%	褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
090	第105図-18	弥生	壺	22	−	5.4	〔4.2〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	
090	第105図-19	弥生	手捏ね	18	2.5	1.0	1.5	90%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
094	第105図-1	弥生	壺	7	−	6.4	〔2.0〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
094	第105図-2	弥生	壺	7	−	4.0	2.1	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
095	第105図-1	弥生	壺	4	−	−	〔6.7〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
095	第105図-2	弥生	鉢	1	−	3.0	〔1.5〕	10%	橙褐色	密	ナデ	ヘラナデ	
096	第105図-1	弥生	鉢	22	(19.8)	−	〔8.0〕	15%	赤褐色	密	ミガキ	縄文,ミガキ	赤彩,古墳前期混入か
096	第105図-2	弥生	壺	22	−	−	〔4.1〕	5%	橙褐色	密	ナデ	ミガキ,縄文	赤彩
096	第105図-3	弥生	壺	22	−	−	〔7.0〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	赤彩
096	第105図-4	弥生	壺	22	−	9.6	〔4.0〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
098	第105図-1	弥生	壺	3	20.9	−	〔7.8〕	25%	黄褐色	粗	不明	不明	
098	第105図-2	弥生	高杯	4	13.9	−	〔7.8〕	45%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,縄文	赤彩
098	第105図-3	弥生	甕	2	−	9.8	〔31.7〕	50%	黄褐色	粗	不明	不明	
098	第105図-4	弥生	甑	1	(18.4)	5.2	17.6	85%	橙褐色	粗	不明	不明	
098	第105図-5	弥生	ミニチュア	5	2.4	2.4	1.4	100%	褐色	密	ナデ	ナデ	
100	第106図-1	弥生	壺	11	16.9	—	〔11.0〕	20%	橙褐色	密	ミガキ,ヘラナデ	ミガキ	赤彩
100	第106図-2	弥生	壺	6	−	−	〔9.5〕	5%	黒灰色	密	ヘラナデ	ミガキ	
100	第106図-3	弥生	壺	10	−	9.4	〔8.5〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ	赤彩
100	第106図-4	弥生	壺	8	−	5.6	〔4.0〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
100	第105図-5	弥生	甕	5, 14	−	(4.4)	〔5.3〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
100	第105図-6	弥生	甕	2	−	6.0	〔3.9〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
101	第106図-1	弥生	壺	2	(13.6)	−	〔4.4〕	5%	赤褐色	密	不明	不明	
101	第106図-2	弥生	壺	2	−	4.8	〔2.1〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
101	第106図-3	弥生	壺	3	−	3.8	〔2.7〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
101	第106図-4	弥生	壺	1	−	3.8	〔1.9〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
104	第106図-1	弥生	壺	3, 5	−	(10.0)	〔6.0〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
104	第106図-2	弥生	壺	2	−	7.2	〔3.4〕	5%	黒褐色	密	ヘラナデ	不明	被熱
104	第106図-3	弥生	壺	1	−	5.5	〔3.0〕	5%	黄褐色	密	ヘラナデ	不明	
105	第106図-1	弥生	壺	4	(14.0)	−	〔6.6〕	20%	橙褐色	粗	ナデ,ミガキ	縄文,不明	赤彩
109	第106図-1	弥生	壺	3	−	(7.2)	〔2.9〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	
109	第106図-2	弥生	甕	3	−	(7.0)	〔6.5〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
110	第106図-1	弥生	壺	3	−	7.4	〔6.5〕	10%	黄褐色	密	不明	不明	
111	第106図-1	弥生	壺	4	−	10.8	〔7.5〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
113	第106図-1	弥生	壺	2	−	7.0	〔1.9〕	5%	黒褐色	密	不明	ナデ	被熱（スス付着）
113	第106図-2	弥生	鉢	2	−	5.6	〔2.6〕	5%	褐色	密	不明	不明	被熱,底部にスリット6ヶ所
116	第106図-1	弥生	壺	1	−	(7.6)	〔4.6〕	5%	褐色	密	ヘラナデ	不明	
118	第106図-1	弥生	鉢	2, 3	19.4	6.6	11.8	85%	黄褐色	粗	ナデ,ミガキ	ナデ,縄文,不明	赤彩
118	第106図-2	弥生	壺	3	7.4	−	〔14.1〕	30%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ,ミガキ	ナデ,ミガキ	被熱
118	第106図-3	弥生	壺	1	(9.0)	−	〔9.2〕	20%	黄褐色	密	ヘラナデ,ナデ	縄文,不明	
118	第106図-4	弥生	台付鉢	12	−	(6.4)	〔5.1〕	10%	褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ,ミガキ	底部にスリット4ヶ所
118	第106図-5	弥生	壺	4, 11	−	7.0	〔5.9〕	50%	灰褐色	粗	不明	不明	
119	第106図-1	弥生	甕	3, 5, 9	−	7.2	〔3.5〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ミガキ,ヘラナデ	被熱
121	第106図-1	弥生	壺	1	−	−	〔9.4〕	5%	橙褐色	粗	不明	縄文,不明	
121	第106図-2	弥生	甕	1	(19.8)	−	〔11.8〕	5%	褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
121	第106図-3	弥生	甕	1	−	5.0	〔2.3〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
121	第106図-4	弥生	甑	1	−	(6.0)	〔1.7〕	5%	赤褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
121	第106図-5	弥生	壺	1	−	6.6	〔3.9〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
121	第107図-6	弥生	甕	1	−	−	〔18.5〕	10%	褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
121	第107図-7	弥生	壺	1	−	6.6	〔9.5〕	10%	橙褐色	粗	不明	ヘラナデ,不明	赤彩
121	第107図-9	弥生	壺	1	−	7.4	〔3.4〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明	
130	第107図-1	弥生	壺	2	−	4.6	〔3.2〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
133	第107図-1	弥生	鉢	6	(7.7)	2.8	3.3	35%	赤褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラナデ	赤彩
133	第107図-2	弥生	壺	5	−	5.4	〔13.5〕	30%	褐色	密	ミガキ	縄文,ミガキ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
133	第107図-3	弥生	甕	1	(19.8)	−	〔14.4〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
133	第107図-4	弥生	甕	3, 6	(18.8)	−	〔11.0〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
133	第107図-5	弥生	壺	4, 6	−	8.0	〔7.6〕	10%	灰褐色	粗	不明	不明	被熱
134	第107図-1	弥生	ミニチュア	不明	−	1.9	〔1.7〕	85%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
134	第107図-2	弥生	壺	3	(13.6)	−	〔5.6〕	5%	橙褐色	密	不明	縄文,不明	赤彩
134	第107図-3	弥生	壺	1	(8.7)	−	〔5.4〕	5%	橙褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ,縄文	赤彩
134	第107図-4	弥生	台付甕	2	−	−	〔5.8〕	10%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	ヘラナデ	
134	第107図-5	弥生	甕	3, 4, 5, 6, 17	(21.4)	8.0	25.2	35%	黄褐色	密	不明	不明	
134	第107図-6	弥生	壺	2	−	6.7	〔2.9〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ミガキ	
136	第107図-1	弥生	壺	1	−	(6.4)	〔3.7〕	5%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ハケ→ヘラナデ	
138	第107図-1	弥生	鉢	3	9.4	4.6	4.1	100%	褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
138	第107図-2	弥生	椀	1, 2	(16.0)	−	〔7.4〕	20%	橙褐色	密	不明	不明	
138	第107図-3	弥生	壺	5	(11.0)	−	〔5.1〕	5%	黄褐色	密	不明	不明,縄文	赤彩
138	第107図-4	弥生	壺	4	11.0	−	〔5.7〕	10%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	赤彩
138	第107図-5	弥生	壺	2	(3.4)	−	〔4.8〕	5%	黄褐色	密	縄文,不明	不明	
138	第107図-6	弥生	壺	2, 6	7.8	−	〔10.1〕	10%	黄褐色	密	不明	不明,縄文	
138	第107図-7	弥生	壺	18, 19	5.4	−	〔13.4〕	40%	橙褐色	粗	不明	ミガキ	赤彩
138	第107図-8	弥生	壺	2	(13.8)	−	〔6.1〕	5%	黄褐色	密	縄文,ナデ	縄文,ナデ→ミガキ	赤彩
138	第107図-9	弥生	壺	2	(6.4)	−	〔5.5〕	10%	橙褐色	密	ミガキ	縄文,ミガキ	赤彩
138	第107図-10	弥生	壺	1, 2, 3	11.8	−	〔9.2〕	10%	橙褐色	密	不明	縄文,不明	赤彩
138	第107図-11	弥生	壺	52	6.9	−	〔6.8〕	15%	黄褐色	密	ミガキ	縄文,ミガキ	
138	第107図-12	弥生	壺	14	7.0	−	〔10.2〕	10%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
138	第108図-13	弥生	壺	4, 15	8.0	−	〔10.8〕	15%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,縄文	赤彩
138	第108図-14	弥生	壺	2, 5	−	−	〔12.6〕	20%	橙褐色	密	ナデ	不明	赤彩
138	第108図-15	弥生	壺	18, 19, 52	−	−	〔13.2〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明,縄文	赤彩
138	第108図-16	弥生	壺	1, 4	−	−	〔16.8〕	45%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第108図-17	弥生	壺	15, 30	−	−	〔10.4〕	25%	黄褐色	密	不明	ミガキ,縄文	赤彩
138	第108図-18	弥生	壺	16	−	−	〔8.0〕	15%	黄褐色	密	不明	不明	赤彩
138	第108図-19	弥生	壺	2, 28, 31	−	−	〔10.6〕	30%	橙褐色	密	不明	ミガキ	赤彩
138	第108図-20	弥生	壺	13, 52	−	−	〔12.2〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,縄文,不明	赤彩
138	第108図-21	弥生	壺	46, 52	(11.2)	−	〔6.0〕	5%	褐色	密	不明	縄文,不明	赤彩
138	第108図-22	弥生	壺	2	−	10.4	〔35.8〕	70%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	不明	
138	第108図-23	弥生	甕	15	(23.0)	6.2	22.9	50%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	不明,ヘラナデ	
138	第108図-24	弥生	甕	3	24.0	−	〔18.5〕	70%	褐色	密	ハケ,ヘラナデ→ミガキ	ハケ	被熱（スス付着）
138	第108図-25	弥生	甕	31, 33	(36.6)	—	〔8.5〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ナデ	被熱（スス付着）

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
138	第109図-26	弥生	甕	2, 10	(17.6)	−	〔16.1〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	被熱（スス付着）
138	第109図-27	弥生	甕	2, 17	(35.0)	−	〔28.2〕	30%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
138	第109図-28	弥生	甕	2, 17, 44, 47, 52	24.0	−	〔23.0〕	70%	黄褐色	密	ヘラナデ	ナデ	被熱（スス付着）
138	第109図-29	弥生	甕	40, 41, 52	(13.6)	4.6	21.0	50%	褐色	密	ナデ	ハケ→ナデ,ナデ	被熱（スス付着）
138	第109図-30	弥生	甕	2, 36	−	6.0	〔12.2〕	35%	黄褐色	密	ヘラナデ	縄文,ヘラナデ	
138	第109図-31	弥生	壺	46, 52	−	4.8	〔12.4〕	40%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,縄文	
138	第109図-32	弥生	甕	2, 24	−	6.6	〔12.2〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱（スス付着）
138	第109図-33	弥生	甕	10, 25	−	5.2	〔8.2〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ハケ,ヘラナデ	
138	第109図-34	弥生	甕	2	−	6.4	〔8.9〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ナデ,ヘラナデ	
138	第109図-35	弥生	甕	11	(17.3)	7.0	21.5	55%	橙褐色	密	ヘラナデ	ハケ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
138	第109図-36	弥生	甕	2	−	5.6	〔6.8〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-37	弥生	甕	43	—	(5.0)	〔9.7〕	5%	黒褐色	密	不明	不明,ヘラケズリ	被熱（スス付着）
138	第109図-38	弥生	甕	31, 35	−	5.6	〔5.3〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-39	弥生	壺	27	−	7.0	〔3.9〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-40	弥生	壺	19	−	6.0	〔4.0〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	
138	第109図-41	弥生	壺	2	−	7.4	〔3.9〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-42	弥生	壺	21	−	7.4	〔2.8〕	10%	黄褐色	密	ヘラナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ,ヘラナデ	
138	第109図-43	弥生	壺	1	−	7.2	〔2.7〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
138	第109図-44	弥生	壺	52	−	4.2	〔3.0〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	
138	第109図-45	弥生	椀	1	−	4.8	〔2.8〕	30%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-46	弥生	甕	17	−	6.4	〔3.4〕	10%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-47	弥生	甕	20	−	5.4	〔3.5〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
138	第109図-48	弥生	手捏ね	22	−	4.8	〔7.5〕	20%	黒灰色	密	ナデ	ナデ	
138	第109図-49	弥生	異形土器	13	−	4.1	〔5.9〕	80%	灰褐色	密	ミガキ	ナデ	底部にスリット4ヶ所
138	第109図-50	弥生	鉢	2	−	5.9	〔4.0〕	5%	褐色	密	ミガキ	ナデ,ミガキ	底部にスリット6ヶ所
139	第110図-1	弥生	甕	1	(23.0)	−	〔7.3〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明	
139	第110図-2	弥生	壺	4	−	8.0	〔3.6〕	10%	橙褐色	密	不明	不明	赤彩
141	第110図-1	弥生	壺	3	−	(6.2)	〔2.4〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
145	第110図-1	弥生	壺	2	−	8.4	〔3.1〕	10%	黄褐色	密	不明	不明	
146	第110図-1	弥生	壺	1	−	6.0	〔2.1〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明	
146	第110図-2	弥生	壺	3	−	3.8	〔4.3〕	30%	黄褐色	粗	不明	ヘラナデ,不明	
147	第110図-2	弥生	壺	1	−	(6.0)	〔3.9〕	10%	橙褐色	密	ミガキ	ヘラナデ,ミガキ	赤彩
147	第110図-3	弥生	甕	1	−	6.8	〔1.9〕	5%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
149	第110図-1	弥生	壺	3	−	(11.2)	〔4.0〕	5%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
150	第110図-1	弥生	壺	2	−	7.8	〔3.4〕	5%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
151	第110図-1	弥生	壺	1	−	6.6	〔8.2〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	赤彩
151	第110図-2	弥生	壺	4	−	4.8	〔1.7〕	10%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ,ヘラナデ	赤彩
154	第111図-1	弥生	壺	1	−	5.8	〔3.2〕	10%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
157	第111図-1	弥生	壺	3	−	7.2	〔21.8〕	35%	赤褐色	密	ヘラナデ	縄文,ミガキ,ヘラナデ	赤彩
157	第111図-2	弥生	壺	3, 4	−	5.4	〔13.1〕	50%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
157	第111図-4	弥生	壺	2	−	7.4	〔6.1〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
SK-001	第113図-1	弥生	壺	1	−	−	〔5.7〕	10%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ	赤彩
SK-001	第113図-2	弥生	壺	1	−	6.4	〔1.5〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
SK-007	第113図-1	弥生	壺	2	(9.0)	−	〔7.8〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
遺構外	第114図-1	弥生	壺	K19-58-2, 9	(16.2)	−	〔8.3〕	5%	橙褐色	密	ミガキ	縄文,ミガキ	赤彩
遺構外	第114図-2	弥生	無頸壺	SI-002-44	(17.0)	−	〔5.9〕	20%	黄褐色	密	ナデ	縄文,ナデ	赤彩
遺構外	第114図-3	弥生	壺	N16-74-2	(18.6)	(6.0)	8.1	50%	橙褐色	粗	不明	縄文,不明	赤彩
遺構外	第114図-4	弥生	鉢	L19-99-1	(27.0)	−	〔5.8〕	5%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	縄文,不明,ヘラナデ	赤彩
遺構外	第114図-5	弥生	鉢	L19-71-1, 83-1	(24.0)	−	〔4.2〕	5%	橙褐色	密	ナデ	縄文,ナデ	
遺構外	第114図-6	弥生	壺	M17-16-1	(5.8)	−	〔5.5〕	5%	橙褐色	粗	不明	縄文	
遺構外	第114図-7	弥生	壺	L18-25-4	6.2	−	〔7.5〕	20%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	縄文,不明	
遺構外	第114図-8	弥生	壺	SI-128-5	(9.8)	−	〔5.6〕	5%	橙褐色	密	ミガキ	縄文	赤彩
遺構外	第114図-9	弥生	壺	L19-53-3, 8, 63-1	7.8	−	〔9.5〕	20%	橙褐色	密	ナデ	縄文,ナデ	22+23接合
遺構外	第114図-10	弥生	壺	SI-132-1	−	−	〔7.1〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明	
遺構外	第114図-11	弥生	壺	SI-153-3	−	−	〔8.2〕	5%	赤褐色	密	不明	不明	
遺構外	第114図-12	弥生	壺	SI-028-48	−	−	〔11.2〕	20%	橙褐色	密	ナデ	ハケ	
遺構外	第114図-13	弥生	壺	SI-064-13	(16.4)	−	〔5.0〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第114図-14	弥生	壺	L19-10-10	(20.0)	−	〔4.8〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明,縄文	
遺構外	第114図-15	弥生	壺	SK-006-35	(26.0)	−	〔6.1〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第114図-16	弥生	壺	SI-029-33	(17.0)	−	〔5.4〕	5%	赤褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第114図-17	弥生	壺	O16-17-2	(15.0)	−	〔6.5〕	5%	褐色	密	不明	縄文	
遺構外	第114図-18	弥生	壺	14, 16, 21, 25, 26, 27, 32, 33	21.6	−	〔17.0〕	20%	黄褐色	密	ミガキ	ミガキ	赤彩、SI−029

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
遺構外	第114図-19	弥生	甕	SI-011-15, 19, 338	(14.8)	−	〔17.4〕	40%	橙褐色	粗	ナデ,不明	ナデ,不明	
遺構外	第114図-20	弥生	壺	SI-029-12, 16, 22, 24, 33	−	−	〔9.4〕	5%	黄褐色	密	ミガキ	ナデ,ミガキ	被熱
遺構外	第114図-21	弥生	壺	SI-015-7	−	4.7	〔5.7〕	15%	褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ,ミガキ	赤彩
遺構外	第114図-22	弥生	甕	SI-018-7	−	7.0	〔4.8〕	10%	褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第114図-23			L20-									
遺構外	第114図-24	弥生	壺	K19-19-4	−	(7.6)	〔7.2〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラナデ	赤彩
遺構外	第114図-25	弥生	壺	N16-49-1	−	8.2	〔5.0〕	20%	褐色	密	不明	不明	
遺構外	第114図-26	弥生	壺	74-2	−	10.8	〔3.8〕	20%	黄褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第114図-27	弥生	高杯	6, 10	−	9.1	〔8.1〕	45%	橙褐色	密	ナデ,ミガキ	縄文,ミガキ	赤彩
遺構外	第114図-28	弥生	鉢	I区-1	−	(5.7)	〔2.8〕	5%	褐色	密	不明	縄文,ナデ,ヘラナデ	底部にスリット有り（12ヶ所?） 6ヶ所残存
遺構外	第114図-29	弥生	鉢	23-2	−	5.6	〔5.2〕	10%	黄褐色	密	不明	不明	底部にスリット2ヶ所
遺構外	第114図-30	弥生	甕	1, 2	(23.2)	6.4	22.5	70%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ	
遺構外	第114図-31	弥生	甕	58-9, 59-1, 13, 16	(24.8)	−	〔12.9〕	15%	黄褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
遺構外	第114図-32	弥生	甕	10-1	(27.6)	−	〔12.5〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ナデ	
遺構外	第114図-33	弥生	甕	19-8	−	6.3	〔21.0〕	50%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ナデ	被熱（スス付着）
遺構外	第114図-34	弥生	甕	188, 336	(23.6)	−	〔12.0〕	10%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
遺構外	第114図-35	弥生	甕	173	(17.0)	−	〔7.4〕	10%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ	
遺構外	第114図-36	弥生	甕	53-5	−	−	〔11.7〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ナデ	被熱（ススス付着）
遺構外	第114図-37	弥生	甕	40-1, 50-1, 4	−	−	〔5.9〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
遺構外	第114図-38	弥生	甕	16-1	(23.0)	5.2	15.5	30%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
遺構外	第114図-39	弥生	甕	76-2, 4	−	10.6	〔24.6〕	30%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,不明	赤彩、被熱（ススス付着）

第4表　古墳時代土器観察表

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
SI-001	第141図-1	土師	杯	41, 42, 50	16.5	4.6	4.8	90%	橙褐色	密	ナデ,不明	ナデ,不明	
001	第141図-2	土師	壺	21, 23	(12.2)	—	〔6.0〕	35%	赤褐色	粗	ナデ→ヘラナデ	ナデ,ハケ→ナデ	被熱（スス付着）
001	第141図-3	土師	高杯	3, 26	(16.8)	—	〔5.6〕	25%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	
001	第141図-4	土師	高杯	29	—	—	〔8.1〕	25%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ヘラナデ	
001	第141図-5	土師	壺	27	(14.0)	—	〔4.6〕	10%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ,ヘラナデ	ナデ→ミガキ	
001	第141図-6	土師	甕	79	(12.8)	—	〔3.8〕	10%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	
001	第141図-7	土師	甕	49	(19.2)	—	〔5.0〕	5%	赤褐色	密	ナデ→ハケ→ナデ,ヘラナデ	ナデ→ハケ	
001	第141図-8	土師	甕	40, 43, 45	(17.6)	—	〔9.6〕	10%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
001	第141図-9	土師	壺	44	—	—	〔14.7〕	40%	褐色	密	不明	不明	被熱（スス付着）
001	第141図-10	土師	甕	33, 41, 79	—	—	〔13.1〕	20%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
002	第141図-1	土師	高杯	33, 44	16.8	(11.0)	〔11.2〕	80%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ,ヘラケズリ→ナデ	ナデ→ミガキ	
002	第141図-2	土師	高杯	29, 42	(19.0)	—	〔5.8〕	30%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
002	第141図-3	土師	高杯	23	—	(9.8)	〔6.8〕	25%	黄褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	
002	第141図-4	土師	器台	10	—	(11.0)	〔4.8〕	15%	黄褐色	粗	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	
002	第141図-5	土師	壺	38	(9.0)	—	〔6.3〕	20%	橙褐色	粗	不明	不明	
002	第141図-6	土師	壺	7	(18.6)	—	〔5.5〕	5%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
002	第141図-7	土師	壺	20	(16.6)	—	〔5.0〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	
002	第141図-8	土師	壺	44	—	4.6	〔4.9〕	10%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ	
002	第141図-9	土師	壺	14	—	5.8	〔3.2〕	10%	褐色	粗	ナデ	ヘラケズリ→ナデ,ヘラケズリ	
002	第141図-10	土師	甕	43, 44	—	6.0	〔3.0〕	10%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ	ハケ→ヘラケズリ,ヘラケズリ→ナデ	被熱
002	第141図-11	土師	壺	38	—	5.2	〔2.1〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ,ヘラケズリ→ナデ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
003	第141図-1	土師	鉢	1	(11.0)	2.2	4.4	50%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	黒斑
003	第141図-2	土師	鉢	1	(11.8)	—	〔6.4〕	30%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	ナデ→ヘラケズリ→ナデ	
003	第141図-3	土師	高杯	2	(16.8)	—	〔6.1〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	黒斑
003	第141図-4	土師	高杯	20	17.0	—	〔5.6〕	40%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
003	第141図-5	土師	高坏	46	—	—	〔4.5〕	15%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
003	第141図-6	土師	高杯	7	—	(16.0)	〔8.4〕	40%	橙褐色	密	ヘラケズリ,不明	不明	被熱
003	第141図-7	土師	高杯	1	—	(11.6)	〔6.4〕	10%	橙褐色	密	ナデ,不明	不明	
003	第141図-8	土師	高杯	44	—	—	〔7.1〕	20%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	被熱(スス付着)
003	第141図-9	土師	高杯	34	—	—	〔6.6〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
003	第141図-10	土師	高杯	33	—	—	〔6.0〕	20%	橙褐色	密	不明	不明	
003	第141図-11	土師	高杯	16	—	(11.6)	〔7.0〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
003	第141図-12	土師	高杯	14	—	—	〔7.9〕	20%	橙褐色	密	ナデ,ハケ	不明	
003	第141図-13	土師	高杯	6	—	—	〔5.4〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
003	第141図-14	土師	壺	43	(15.2)	—	〔7.6〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	
003	第142図-15	土師	壺	1, 9, 18, 24, 25, 28, L20-06-1, L20-07-1	19.6	—	〔15.5〕	20%	橙褐色	密	不明	不明	
003	第142図-16	土師	壺	1, L20-17-3	(14.6)	—	〔16.6〕	10%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
003	第142図-17	土師	甕	1	26.8	—	〔32.3〕	80%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ→ミガキ,キザミ	被熱
003	第142図-18	土師	不明	3, 26, 37, 38, 42	(41.4)	—	〔31.7〕	25%	褐色	粗	ナデ,不明	ハケ→ナデ	被熱
003	第142図-19	土師	壺	50, 51, 52	13.9	7.0	21.8	80%	褐色	粗	ナデ→ヘラケズリ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
003	第142図-20	土師	壺	36	(16.4)	—	〔8.4〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ハケ→ナデ	
003	第142図-21	土師	壺	48	(17.2)	—	〔8.9〕	20%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	
003	第142図-22	土師	甕	15	—	6.2	〔2.0〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	被熱(スス付着)
003	第142図-23	土師	壺	1	—	7.6	〔2.4〕	10%	褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
004	第143図-1	土師	杯	111	(13.3)	3.0	4.7	30%	橙褐色	粗	不明	不明,ヘラケズリ	被熱
004	第143図-2	土師	鉢	39	10.0	2.0	6.0	100%	橙褐色	粗	ミガキ	ミガキ,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
004	第143図-3	土師	鉢	74	11.1	—	4.9	90%	黄褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ,ミガキ	
004	第143図-4	土師	鉢	13, 111	12.9	—	5.6	90%	赤褐色	密	ナデ,ミガキ	ミガキ	被熱(スス付着)
004	第143図-5	土師	鉢	20, 111	(11.3)	3.0	6.7	40%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明,ヘラケズリ	黒斑
004	第143図-6	土師	鉢	73, 111	9.8	3.0	6.5	50%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ→ミガキ	ヘラナデ,ヘラナデ→ナデ	赤彩, 黒斑
004	第143図-7	土師	鉢	58	9.6	—	5.7	85%	橙褐色	粗	ナデ,ナデ→ミガキ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	被熱(スス付着)
004	第143図-8	土師	鉢	110, 111	11.0	—	〔5.6〕	25%	赤褐色	粗	不明	不明	被熱
004	第143図-9	土師	鉢	111	(10.0)	—	〔5.9〕	15%	黄褐色	密	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	ヘラナデ→ナデ	
004	第143図-10	土師	椀	111	17.4	—	〔5.0〕	25%	赤褐色	密	ナデ	ミガキ→ナデ	赤彩,被熱(スス付着)
004	第143図-11	土師	鉢	31, 110, 111	(11.8)	—	〔7.0〕	15%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ナデ,不明	被熱(スス付着)
004	第143図-12	土師	高杯	111	(13.2)	—	〔4.4〕	25%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
004	第143図-13	土師	高杯	111	(16.0)	—	〔5.3〕	15%	黄褐色	密	ミガキ	不明	
004	第143図-14	土師	高杯	11, 111	17.3	—	〔4.7〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	
004	第143図-15	土師	高杯	53	—	—	〔4.1〕	20%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ,ハケ	被熱(スス付着)
004	第143図-16	土師	高杯	93	—	—	〔6.2〕	10%	黄褐色	密	不明	不明	被熱
004	第143図-17	土師	高杯	51, 111	—	—	〔6.6〕	40%	橙褐色	粗	不明,ナデ→ヘラナデ	不明,ヘラナデ	
004	第143図-18	土師	高杯	89, 111	—	—	〔10.8〕	30%	赤褐色	密	ヘラナデ,不明	ミガキ,不明	赤彩
004	第143図-19	土師	高杯	7, 71, 111	—	11.1	〔10.0〕	40%	橙褐色	粗	不明	ミガキ	
004	第143図-20	土師	高杯	80	—	(12.0)	〔3.2〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ナデ	
004	第143図-21	土師	高杯	43	—	(9.5)	〔6.2〕	20%	褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ナデ→ミガキ	
004	第143図-22	土師	高杯	75	—	—	〔10.0〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明	赤彩
004	第143図-23	土師	高杯	62	—	—	〔9.4〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	赤彩
004	第143図-24	土師	高杯	111	—	—	〔7.4〕	25%	橙褐色	密	不明,ナデ	不明	被熱
004	第143図-25	土師	高杯	63	—	—	〔6.6〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
004	第143図-26	土師	高杯	14	—	—	〔6.9〕	20%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	不明	
004	第143図-27	土師	高杯	42	—	(11.7)	〔7.0〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	
004	第143図-28	土師	高杯	55	—	—	〔6.2〕	20%	黄褐色	密	ヘラナデ,不明	ヘラナデ	
004	第143図-29	土師	高杯	15	—	—	〔6.8〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ	不明	
004	第143図-30	土師	高杯	111	—	(14.2)	〔8.1〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ	ナデ,不明	
004	第143図-31	土師	高杯	57	—	—	〔8.9〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	
004	第143図-32	土師	高杯	56	—	—	〔6.4〕	20%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	不明,ヘラナデ	
004	第143図-33	土師	高杯	70	—	—	〔8.2〕	20%	橙褐色	密	不明,ナデ	不明	被熱
004	第143図-34	土師	高杯	84	—	(11.2)	〔7.0〕	40%	褐色	密	不明	不明	
004	第143図-35	土師	高杯	111	—	(12.3)	〔6.8〕	25%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	被熱
004	第143図-36	土師	高杯	76	—	12.1	〔8.3〕	40%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ナデ→ミガキ	赤彩
004	第144図-37	土師	高杯	47	—	(11.5)	〔6.1〕	30%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ハケ→ナデ→ミガキ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
004	第144図-38	土師	壺	111	(12.0)	—	〔6.3〕	20%	褐色	粗	ヘラナデ→ミガキ	ヘラナデ→ミガキ	
004	第144図-39	土師	はそう	40	6.3	3.4	11.3	95%	赤褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ミガキ,ヘラナデ	焼成前穿孔1ヶ,被熱(スス付着)
004	第144図-40	土師	壺	38, 111	15.4	—	〔5.5〕	30%	橙褐色	密	ナデ	ハケ→ナデ,ハケ,ナデ	被熱(スス付着)
004	第144図-41	土師	壺	77	12.6	2.9	16.0	85%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ,ナデ,ミガキ	ナデ→ミガキ,ナデ	赤彩
004	第144図-42	土師	壺	111	(7.4)	—	〔6.3〕	35%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	不明	
004	第144図-43	土師	壺	111	—	—	〔5.3〕	30%	黄褐色	密	ナデ	不明	
004	第144図-44	土師	壺	60	23.6	—	〔10.0〕	30%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	被熱(スス付着)
004	第144図-45	土師	壺	27	(16.4)	—	〔4.0〕	5%	橙褐色	密	ナデ	ナデ,指頭痕	被熱(スス付着)
004	第144図-46	土師	壺	28, 35, 36, 111	—	7.2	〔8.1〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明,ヘラケズリ	底部穿孔1ヶ
004	第144図-47	土師	壺	33	—	(6.6)	〔2.4〕	5%	橙褐色	粗	ナデ	ケズリ→ナデ,ナデ	被熱
004	第144図-48	土師	壺	82	—	(5.0)	〔2.5〕	15%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
004	第144図-49	土師	壺	111	—	4.4	〔2.3〕	10%	黄褐色	密	ナデ	ヘラケズリ,ナデ	赤彩
004	第144図-50	土師	壺	111	—	5.6	〔2.5〕	10%	黒褐色	粗	不明	ヘラケズリ,ミガキ	被熱
004	第144図-51	土師	甕	111	(17.8)	—	〔16.3〕	10%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ミガキ	被熱(スス付着)
004	第144図-52	土師	甕	29, 49	17.0	—	〔8.0〕	20%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ	
004	第144図-53	土師	甕	111	(13.4)	—	〔6.3〕	10%	褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱
004	第144図-54	土師	甕	24	(17.8)	—	〔6.0〕	5%	褐色	粗	不明	不明	
004	第144図-55	土師	甕	6	(16.4)	—	〔4.8〕	5%	褐色	密	ナデ	ハケ→ナデ,ナデ	
004	第144図-56	土師	甕	5	15.4	—	〔5.3〕	10%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	被熱
004	第144図-57	土師	台付甕	111	—	—	〔5.7〕	10%	黄褐色	密	ヘラナデ,ナデ	不明	
004	第144図-58	土師	台付甕	111	—	(11.0)	〔5.9〕	5%	橙褐色	密	ナデ	ヘラナデ	
004	第144図-59	土師	台付甕	111	—	—	〔6.3〕	10%	黒褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ヘラナデ	
004	第144図-60	土師	ミニチュア	111	—	—	〔2.8〕	15%	橙褐色	密	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	
004	第144図-61	土師	ミニチュア	111	(6.2)	(4.0)	3.0	40%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ	黒斑
004	第144図-62	土師	ミニチュア	111	—	3.6	〔1.9〕	50%	黄褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
005	第144図-1	土師	高杯	85	12.2	9.4	10.0	85%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ→ミガキ,ハケ→ヘラナデ,ナデ	ハケ→ナデ→ミガキ,ナデ	赤彩,穿孔3ヶ
005	第144図-2	土師	高杯	59	12.2	—	〔5.3〕	35%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
005	第144図-3	土師	器台	80	8.4	12.7	8.8	85%	黄褐色	粗	不明	不明	赤彩,穿孔3ヶ
005	第144図-4	土師	器台	57	—	9.0	〔7.0〕	45%	赤褐色	密	ヘラナデ→ナデ,ナデ	ヘラナデ→ミガキ,ナデ	赤彩,穿孔3ヶ
005	第144図-5	土師	器台	61	—	12.4	〔9.2〕	35%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ,ナデ,ヘラナデ	ナデ→ミガキ,ナデ	赤彩,穿孔3ヶ
005	第144図-6	土師	器台	92	—	—	〔4.0〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明	穿孔6ヶ
005	第144図-7	土師	椀	1, 2, 3	(12.6)	2.2	4.8	30%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ,ナデ	赤彩
005	第145図-8	土師	壺	27, 28, 39, 92	14.4	2.4	7.4	95%	橙褐色	粗	不明	不明	
005	第145図-9	土師	壺	54	(10.6)	2.8	6.9	65%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ナデ	
005	第145図-10	土師	壺	62	10.4	2.4	6.8	95%	赤褐色	密	ナデ,ヘラナデ→ミガキ	ナデ,ヘラナデ→ミガキ,ヘラナデ	被熱
005	第145図-11	土師	壺	56	—	3.2	〔5.2〕	65%	赤褐色	密	ハケ→ナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	赤彩
005	第145図-12	土師	壺	51	11.8	2.8	6.3	85%	橙褐色	密	ハケ→ヘラケズリ→ミガキ	ハケ→ヘラケズリ→ミガキ,ヘラケズリ→ナデ	
005	第145図-13	土師	壺	69, 79	12.5	3.8	6.8	80%	褐色	密	不明	不明	被熱
005	第145図-14	土師	壺	68	11.6	3.4	8.0	95%	橙褐色	密	不明	不明	
005	第145図-15	土師	壺	89	14.3	2.8	9.9	80%	赤褐色	密	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ハケ→ケズリ,ミガキ	赤彩
005	第145図-16	土師	壺	69, 70, 71, 92	(12.6)	2.8	12.9	70%	褐色	密	ミガキ,ヘラナデ→ナデ	ミガキ,ナデ	被熱,赤彩
005	第145図-17	土師	壺	83	14.2	3.4	11.9	100%	赤褐色	密	ナデ	ミガキ,ナデ	赤彩
005	第145図-18	土師	壺	84	15.3	4.0	12.6	100%	赤褐色	密	ミガキ,ヘラナデ→ミガキ	ミガキ,ナデ	赤彩
005	第145図-19	土師	甕	58	—	8.4	〔23.4〕	60%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ハケ,ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
005	第145図-20	土師	甕	2, 5, 45, 55, 92	—	6.6	〔11.3〕	30%	褐色	密	ナデ	ハケ→ナデ,ハケ→ヘラケズリ	被熱(スス付着),木葉痕
005	第145図-21	土師	甕	74	(17.6)	—	〔6.6〕	5%	褐色	粗	ハケ→ナデ,ハケ→ヘラナデ,ヘラケズリ→ナデ	ハケ→ナデ→ヘラケズリ→ナデ	
005	第145図-22	土師	甕	8, 87	15.6	5.6	18.4	70%	褐色	粗	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ,ナデ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
005	第145図-23	土師	甕	90, 91	16.3	5.6	18.2	75%	暗褐色	密	ヘラナデ,ナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱(ス ス付着)
005	第145図-24	土師	甕	8, 86	10.9	5.0	15.7	90%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ハケ→ナデ	黒斑
005	第145図-25	土師	壺	60	—	(4.2)	〔3.6〕	10%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
005	第145図-26	土師	甕	16, 29, 30, 46	14.6	—	〔9.0〕	20%	橙褐色	粗	ナデ→ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
005	第145図-27	土師	甕	67	12.3	4.4	16.2	85%	橙褐色	粗	ヘラナデ,ナデ→ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ,ヘラケズリ	被熱, 黒斑
005	第145図-28	土師	ミニチュア	92	—	3.4	〔1.7〕	20%	褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
005	第145図-29	土師	ミニチュア	92	—	1.9	〔2.2〕	?	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
006	第146図-1	土師	鉢	13	(15.0)	3.7	5.5	70%	褐色	粗	ナデ,ミガキ	ナデ→ヘラナデ→ミガキ,ミガキ	黒斑
006	第146図-2	土師	杯	17, 25	15.0	5.0	6.1	90%	暗褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ヘラナデ→ミガキ,ヘラケズリ	黒斑
006	第146図-3	土師	椀	6, 12, 26	(10.7)	3.6	5.8	80%	褐色	密	ヘラナデ→ミガキ,ナデ	ヘラケズリ→ナデ,ナデ	
006	第146図-4	土師	杯	25	13.8	—	5.4	60%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	
006	第146図-5	土師	杯	14, 25	(12.8)	—	5.1	70%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	黒斑
006	第146図-6	土師	杯	25	13.3	—	3.9	60%	褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ヘラケズリ→ナデ	
006	第146図-7	土師	鉢	18	(11.5)	5.2	5.7	60%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	ナデ,不明	被熱(ス ス付着)
006	第146図-8	土師	鉢	21, 25	(18.1)	5.9	9.1	20%	橙褐色	密	ナデ,ナデ→ミガキ	ナデ,不明	
006	第146図-9	土師	高杯	7	16.8	—	〔11.1〕	50%	黒褐色	密	ナデ→ミガキ,ナデ,ヘラナデ	ナデ→ミガキ,ミガキ	
006	第146図-10	土師	高杯	11	16.4	—	〔5.7〕	55%	褐色	粗	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	黒斑
006	第146図-11	土師	高杯	23, 25	14.8	—	〔5.2〕	35%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
006	第146図-12	土師	高杯	22, 25	15.3	—	〔3.2〕	30%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	
006	第146図-13	土師	高杯	25	—	—	〔2.9〕	5%	赤褐色	密	不明	不明	
006	第146図-14	土師	高杯	16	—	11.1	〔7.3〕	45%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,ミガキ	
006	第146図-15	土師	高杯	15	—	(10.5)	〔6.1〕	30%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	
006	第146図-16	土師	高杯	5	—	—	〔6.7〕	15%	赤褐色	密	ヘラケズリ→ナデ	ヘラナデ	
006	第146図-17	土師	高杯	25	—	—	〔6.0〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	穿孔3ヶ
006	第146図-18	土師	鉢	19, 25	(22.0)	—	〔15.0〕	15%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ→ナデ	被熱(ス ス付着)
006	第146図-19	土師	甕	10	—	6.0	〔15.3〕	30%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ	被熱(ス ス付着)
006	第146図-20	土師	甕	6	—	(5.0)	〔2.0〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	底部穿孔1ヶ
006	第146図-21	土師	ミニチュア	20	—	3.2	〔5.4〕	85%	黒褐色	密	ナデ	ナデ	
007	第146図-1	土師	高杯	26, 37	—	—	〔3.9〕	25%	橙褐色	粗	不明	不明	
007	第146図-2	土師	高杯	不明	—	—	〔6.8〕	25%	黄褐色	粗	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	
007	第146図-3	土師	鉢	17	20.1	3.8	7.1	95%	赤褐色	粗	不明	不明	
007	第146図-4	土師	椀	45	(13.0)	—	〔4.3〕	15%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
007	第146図-5	土師	壺	11	—	—	〔4.8〕	10%	赤褐色	粗	不明	不明	
007	第146図-6	土師	壺	10	—	(10.8)	〔4.5〕	15%	黄褐色	粗	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	被熱
007	第146図-7	土師	甕	43	—	(8.0)	〔5.7〕	15%	橙褐色	粗	ハケ→ナデ	ヘラケズリ	黒斑
007	第146図-8	土師	壺	41	—	(6.3)	〔3.0〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	不明	
007	第146図-9	土師	壺	16	—	(7.2)	〔3.5〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ	
008	第147図-1	土師	高杯	008-14, 038-100	(18.2)	—	〔4.4〕	15%	褐色	密	不明	不明	黒斑
008	第147図-2	土師	高杯	5	—	—	〔5.9〕	20%	褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
008	第147図-3	土師	高杯	4	—	—	〔4.9〕	15%	褐色	密	不明	不明	
008	第147図-4	土師	甕	1	16.0	—	〔4.0〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
008	第147図-5	土師	壺	19	—	3.4	〔6.6〕	95%	褐色	密	不明	不明	黒斑
008	第147図-6	土師	台付甕	9	—	—	〔3.3〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
011	第147図-1	土師	杯	309	11.7	4.0	5.3	85%	橙褐色	密	ヘラナデ→ミガキ	ミガキ,ヘラナデ	
011	第147図-2	土師	椀	223	(10.3)	4.2	4.3	30%	橙褐色	密	不明	不明	
011	第147図-3	土師	台付甕	307	(12.9)	—	〔7.7〕	70%	褐色	密	ナデ,不明	ナデ,不明	黒斑
011	第147図-4	土師	器台	119	(7.1)	—	〔4.5〕	40%	赤褐色	密	ナデ→ミガキ,ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	穿孔3ヶ
011	第147図-5	土師	器台	90	—	—	〔4.0〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	穿孔3ヶ
011	第147図-6	土師	器台	220	—	(12.4)	〔8.1〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ミガキ	穿孔3ヶ
011	第147図-7	土師	器台	120	—	(11.4)	〔6.4〕	40%	橙褐色	密	ナデ→ハケ→ナデ	ナデ→ヘラナデ→ミガキ	穿孔3ヶ
011	第147図-8	土師	器台	100	—	—	〔4.9〕	15%	橙褐色	密	不明	不明	穿孔3ヶ
011	第147図-9	土師	高杯	337	—	—	〔3.6〕	15%	赤褐色	密	ナデ,不明	ナデ	
011	第147図-10	土師	鉢	138	14.2	—	〔5.9〕	50%	橙褐色	粗	不明	不明	
011	第147図-11	土師	鉢	78, 338	(17.0)	—	〔5.9〕	10%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
011	第147図-12	土師	鉢	141	13.8	2.6	7.2	80%	黄褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ→ミガキ,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
011	第147図-13	土師	鉢	149	—	4.4	〔5.9〕	55%	橙褐色	粗	ナデ	ヘラナデ→ナデ,ナデ	
011	第147図-14	土師	鉢	93	(16.2)	—	〔6.7〕	5%	赤褐色	密	ナデ	ミガキ	被熱(スス付着)
011	第147図-15	土師	鉢	163	—	2.6	〔5.0〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
011	第147図-16	土師	壺	317	(11.0)	—	〔8.6〕	25%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	黒斑
011	第147図-17	土師	壺	50, 163	(14.0)	—	〔10.2〕	30%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	黒斑
011	第147図-18	土師	壺	58	10.4	—	〔10.2〕	25%	橙褐色	密	ナデ	ナデ,不明	赤彩
011	第147図-19	土師	壺	150	—	4.8	〔16.3〕	75%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明	
011	第147図-20	土師	壺	63	—	3.0	〔6.3〕	25%	橙褐色	密	ミガキ	ヘラナデ→ミガキ	
011	第147図-21	土師	壺	94, 95, 97	—	3.3	〔2.9〕	5%	黒褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ,ナデ	
011	第147図-22	土師	壺	318	—	—	〔7.8〕	55%	赤褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	赤彩, 黒斑
011	第147図-23	土師	壺	327	(14.8)	—	〔16.2〕	25%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ	被熱
011	第147図-24	土師	壺	304, 341	(14.8)	—	〔9.6〕	20%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
011	第147図-25	土師	壺	188	—	(8.0)	〔15.0〕	25%	褐色	粗	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	
011	第148図-26	土師	甕	218, 219, 246, 252, 269, 297	—	(9.7)	〔17.0〕	25%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
011	第148図-27	土師	甕	21	(23.0)	—	〔15.0〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明,ナデ	
011	第148図-28	土師	甕	325	18.4	7.0	26.6	85%	褐色	密	ナデ,ミガキ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ,ミガキ,ヘラナデ	黒斑
011	第148図-29	土師	甕	170	20.3	—	〔20.5〕	60%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
011	第148図-30	土師	甕	245, 261, 266, 272	(14.0)	—	〔17.1〕	30%	褐色	密	ヘラナデ→ミガキ	ヘラナデ	
011	第148図-31	土師	壺	212	(15.4)	(7.0)	〔20.8〕	35%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	被熱(スス付着)
011	第148図-32	土師	甕	262, 277	(17.0)	—	〔7.3〕	10%	黄褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	
011	第148図-33	土師	甕	334	(13.0)	—	〔11.6〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
011	第148図-34	土師	甕	264, 281	15.4	—	〔8.9〕	10%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ケズリ→ヘラナデ	
011	第149図-35	土師	壺	286, 287	10.0	(4.0)	16.2	60%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ,ヘラナデ	不明、ナデ→ヘラナデ→ミガキ	赤彩
011	第149図-36	土師	壺	321	(9.8)	4.6	11.4	55%	橙褐色	粗	ナデ→ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ→ミガキ,ナデ	黒斑
011	第149図-37	土師	壺	319	9.6	5.2	13.5	90%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ,ヘラケズリ→ナデ	木葉痕
011	第149図-38	土師	甕	239	(16.0)	—	〔10.7〕	20%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	
011	第149図-39	土師	壺	329	(12.5)	—	〔6.9〕	15%	赤褐色	密	ナデ→ミガキ,ヘラナデ	ナデ→ミガキ,ミガキ	赤彩
011	第149図-40	土師	甕	217	(17.6)	—	〔7.3〕	10%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ,ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ,ヘラナデ	
011	第149図-41	土師	壺	315	10.0	—	〔12.4〕	80%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ,ヘラナデ	ナデ→ミガキ,ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	
011	第149図-42	土師	壺	326	11.3	5.0	12.3	95%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ,ヘラナデ	ナデ→ミガキ,ヘラケズリ→ナデ→ミガキ,ヘラナデ	
011	第149図-43	土師	壺	332, 343	8.6	—	〔6.4〕	50%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
011	第149図-44	土師	壺	305, 341	10.0	—	〔7.3〕	80%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	黒斑
011	第149図-45	土師	台付甕	65	—	9.0	〔9.8〕	20%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
011	第149図-46	土師	台付甕	5	—	(12.8)	〔8.5〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
011	第149図-47	土師	甕	190	—	7.2	〔2.4〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	底部穿孔1ヶ
011	第149図-48	土師	手捏ね	322	4.8	—	3.2	95%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
011	第149図-49	土師	壺	305, 340, 341	7.6	5.2	8.4	80%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明,ヘラナデ	黒斑
011	第149図-50	土師	ミニチュア	316	(8.1)	(4.2)	4.8	30%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラケズリ→ナデ,ナデ	
011	第149図-51	土師	ミニチュア	310	6.3	5.0	6.0	95%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
011	第149図-52	土師	ミニチュア	324	(6.3)	5.1	〔7.2〕	80%	橙褐色	密	ナデ	ナデ,ヘラナデ	
011	第149図-53	土師	ミニチュア	306	7.6	5.0	5.6	95%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ,ナデ	黒斑
011	第149図-54	土師	ミニチュア	308	7.4	4.0	6.5	95%	褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラナデ→ナデ	黒斑
011	第149図-55	土師	ミニチュア	313	—	3.2	〔4.9〕	30%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	黒斑
011	第149図-56	土師	椀	234	(6.7)	4.6	7.0	60%	橙褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	
011	第149図-57	土師	ミニチュア	293, 294	(7.1)	(5.2)	—	80%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
011	第149図-58	土師	ミニチュア	312	7.4	5.0	6.7	90%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	黒斑
011	第149図-59	土師	ミニチュア	328	7.0	5.4	6.4	95%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
011	第149図-60	土師	ミニチュア	320	6.8	4.2	6.0	100%	黄褐色	密	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	黒斑
011	第149図-61	土師	ミニチュア	323	6.0	5.0	6.8	95%	褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	黒斑

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物№	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
011	第149図-62	土師	ミニチュア	300	5.9	4.0	5.5	90%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
011	第149図-63	土師	ミニチュア	311	6.0	4.0	5.4	95%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラケズリ→ナデ,ナデ	黒斑
011	第149図-64	土師	手捏ね	192	—	(4.4)	〔6.4〕	40%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
011	第149図-65	土師	ミニチュア	298	—	4.8	〔4.5〕	70%	黄褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
011	第149図-66	土師	ミニチュア	333, 341	—	3.9	〔3.4〕	40%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
011	第149図-67	土師	壺	340	—	4.4	〔2.0〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
014	第149図-1	土師	壺	CSI003−1, 014-7, L2O17-3	17.0	—	〔5.4〕	10%	黄褐色	密	不明	不明	
014	第149図-2	土師	ミニチュア	12	—	(3.4)	〔1.7〕	30%	褐色	密	ナデ	ナデ	
014	第149図-3	土師	ミニチュア	13	—	(3.0)	〔2.0〕	30%	橙褐色	密	ナデ	不明	
015	第149図-1	土師	鉢	5, 42	(8.8)	3.6	〔5.4〕	40%	橙褐色	粗	不明	不明	
015	第149図-2	土師	甕	12, 002-42	(10.8)	—	〔11.1〕	15%	褐色	密	不明	不明	
015	第149図-3	土師	高杯	21	—	—	〔8.1〕	50%	褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	赤彩
025	第150図-1	土師	壺	1	—	3.6	〔2.0〕	5%	黄褐色	密	ナデ	ヘラケズリ	
027	第150図-1	土師	壺	3	—	5.4	〔2.6〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明,ヘラケズリ	黒斑
028	第150図-1	土師	椀	28	13.2	5.2	6.1	90%	橙褐色	粗	不明	不明,ヘラナデ	黒斑
028	第150図-2	土師	杯	25	9.4	6.0	5.5	100%	橙褐色	粗	不明	不明,ヘラナデ	黒斑
028	第150図-3	土師	高杯	26	15.8	—	〔4.9〕	40%	黄褐色	粗	不明	不明	黒斑
028	第150図-4	土師	高杯	3	—	(9.0)	〔5.3〕	25%	橙褐色	密	不明	不明	
028	第150図-5	土師	高杯	7	—	—	〔9.4〕	60%	赤褐色	粗	不明	不明	穿孔4ヶ
028	第150図-6	土師	高杯	8	—	—	〔6.4〕	25%	橙褐色	密	ヘラケズリ,ナデ	不明	黒斑
028	第150図-7	土師	高杯	9, 23	—	—	〔4.7〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	
028	第150図-8	土師	甕	29, 30, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 40, 45, 46	—	7.0	〔14.0〕	15%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
028	第150図-9	土師	甕	12, 23, 46	(19.6)	—	〔6.1〕	5%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
028	第150図-10	土師	甕	4, 17, 46, 127	(12.8)	—	〔13.0〕	15%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
029	第150図-1	土師	高杯	33	(12.6)	—	〔9.6〕	20%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ナデ	
029	第150図-2	土師	高杯	33	—	8.8	〔10.0〕	45%	赤褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	赤彩
029	第150図-3	土師	甕	5	—	6.9	〔17.0〕	40%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	木葉痕
029	第150図-4	土師	壺	4, 33	—	(8.0)	〔23.5〕	20%	黄褐色	粗	ナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
029	第150図-5	土師	甕	33	18.8	—	〔12.1〕	20%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
029	第150図-6	土師	甕	3, 33	(17.6)	—	〔5.4〕	5%	橙褐色	粗	ナデ→ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱(スス付着)
029	第150図-7	土師	甕	9	—	(9.0)	〔31.4〕	30%	黒褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ,ナデ	
030	第151図-1	土師	鉢	14	9.3	3.6	5.4	85%	橙褐色	粗	ナデ→ヘラナデ→ハケ	ナデ→ヘラナデ,ヘラナデ	黒斑
030	第151図-2	土師	鉢	15	(11.9)	3.6	6.9	45%	褐色	密	不明,ヘラナデ	不明,ナデ	黒斑
030	第151図-3	土師	甕	4, 7, 9, 10, 21	(18.4)	4.0	20.2	65%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ハケ→ヘラナデ	木葉痕
030	第151図-4	土師	甕	1, 5, 6, 9	—	—	〔11.1〕	10%	橙褐色	粗	ハケ,不明	ハケ,不明	被熱
032	第151図-1	土師	鉢	1	11.7	3.6	4.7	90%	赤褐色	粗	ナデ	不明,ヘラケズリ	黒斑
034	第151図-1	土師	高杯	5, 8, 9	14.4	—	〔4.3〕	30%	赤褐色	粗	不明	不明	被熱
034	第151図-2	土師	高杯	3	—	14.0	〔8.5〕	40%	赤褐色	粗	ナデ	不明	
034	第151図-3	土師	高杯	4	—	—	〔6.0〕	25%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
034	第151図-4	土師	甕	2, 10	—	—	〔14.3〕	40%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
034	第151図-5	土師	甕	8	(17.4)	—	〔6.3〕	5%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	被熱(スス付着)
034	第151図-6	土師	壺	10	—	5.4	〔4.4〕	10%	黒褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ナデ	被熱
035	第151図-1	土師	杯	11, 12, 13	(11.4)	—	6.0	90%	赤褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	黒斑
035	第151図-2	土師	杯	17	14.2	—	〔4.6〕	50%	赤褐色	粗	不明	不明	黒斑
035	第151図-3	土師	甕	18	(18.3)	—	〔2.3〕	40%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
035	第151図-4	土師	甕	4, 5, 22, 24	—	5.4	〔4.3〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
035	第151図-5	土師	甕	15, 20	—	7.2	〔9.9〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
038	第151図-1	土師	椀	66	(11.8)	(4.0)	5.0	40%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ,不明	赤彩
038	第151図-2	土師	杯	4, 98	(12.6)	—	〔3.8〕	25%	橙褐色	密	不明	不明	
038	第151図-3	土師	高杯	28, 29	17.0	11.4	12.9	95%	橙褐色	粗	ヘラナデ,不明	不明	
038	第151図-4	土師	高杯	66, 92, 111	18.0	(11.4)	13.7	85%	橙褐色	粗	ヘラナデ,不明	不明	
038	第152図-5	土師	高杯	66, 108	16.2	9.8	11.0	95%	橙褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
038	第152図-6	土師	高杯	28, 108	16.4	—	〔5.0〕	30%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
038	第152図-7	土師	高杯	37	—	—	〔5.8〕	20%	黄褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
038	第152図-8	土師	高杯	108	—	—	〔4.1〕	15%	橙褐色	密	不明	不明	穿孔4ヶ
038	第152図-9	土師	甕	26, 108	—	6.4	〔3.2〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
038	第152図-10	土師	甕	7, 108	(17.8)	—	〔6.0〕	5%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
038	第152図-11	土師	壺	108	12.4	—	〔10.0〕	20%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ナデ→ミガキ	
038	第152図-12	土師	椀	34	-	3.4	〔3.3〕	50%	黄褐色	密	不明	ミガキ,不明	赤彩

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物№	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
038	第152図-13	土師	甕	1, 10, 19, 32, 38, 89, 108	(17.4)	5.6	〔20.0〕	50%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ	底部穿孔1ヶ(焼成後)
038	第152図-14	土師	甕	2, 21, 25, 29, 45, 93, 108	17.6	—	〔19.5〕	60%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラナデ→ナデ	
038	第152図-15	土師	甕	33	(16.6)	—	〔7.3〕	10%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱(スス付着)
038	第152図-16	土師	壺	96	—	8.4	〔6.6〕	20%	橙褐色	粗	不明	不明	
038	第152図-17	土師	手捏ね	108	(7.6)	—	〔3.7〕	10%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
038	第152図-18	土師	手捏ね	90	(7.5)	4.6	6.1	80%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ	
038	第152図-19	土師	壺	108	—	—	〔3.8〕	40%	黒褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
038	第152図-20	土師	台付甕	108	—	5.8	〔3.5〕	40%	黄褐色	密	不明	不明	
040	第152図-1	土師	甕	2	(16.3)	7.2	27.9	85%	黄褐色	粗	ナデ,ハケ→ナデ,ハケ,ヘラナデ	ナデ,ハケ,ヘラナデ	被熱(スス付着)
040	第152図-2	土師	甕	3	15.4	6.0	19.3	90%	橙褐色	粗	ヘラナデ,ハケ→ナデ	ハケ→ヘラナデ,ナデ,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
040	第152図-3	土師	ミニチュア	3	4.7	3.6	2.3	90%	黒褐色	密	ナデ	ナデ→ヘラナデ	
040	第152図-4	土師	ミニチュア	5	(3.4)	3.2	2.7	40%	褐色	密	ナデ	ナデ	
044	第152図-1	土師	器台	2	—	10.4	〔5.0〕	45%	赤褐色	密	ハケ→ナデ	ミガキ	赤彩, 穿孔3ヶ
044	第152図-2	土師	壺	18	13.4	—	〔9.6〕	15%	赤褐色	密	ミガキ	ミガキ	赤彩, 黒斑
044	第152図-3	土師	甕	4, 12	17.4	—	〔3.4〕	5%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	被熱(スス付着)
044	第152図-4	土師	鉢	6	(9.2)	4.0	7.7	65%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ	
044	第152図-5	土師	椀	8	8.5	4.0	5.4	95%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ	
044	第152図-6	土師	ミニチュア	13	—	2.4	〔1.0〕	50%	褐色	粗	ナデ	ナデ	
045	第152図-1	土師	鉢	14, 18	(10.7)	—	6.7	40%	黄褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ,ヘラケズリ,ミガキ	
045	第152図-2	土師	器台	4	—	—	〔4.3〕	20%	橙褐色	密	不明,ハケ→ナデ	ミガキ	赤彩, 穿孔3ヶ
045	第152図-3	土師	高杯	1, 2, 36, 38, 39	17.8	—	〔5.3〕	50%	橙褐色	密	ナデ,ハケ,ミガキ	ナデ,ミガキ	赤彩
045	第152図-4	土師	高杯	35	—	—	〔6.9〕	20%	赤褐色	粗	不明,ヘラナデ	不明	被熱
045	第152図-5	土師	器台	38	—	(6.0)	〔4.7〕	40%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
045	第153図-6	土師	壺	27	(14.6)	—	〔16.7〕	40%	黄褐色	粗	ヘラナデ,ナデ,ミガキ	ナデ,ミガキ	
051	第153図-1	土師	杯	34	(14.8)	6.6	5.7	40%	赤褐色	粗	不明	不明	被熱(スス付着)
051	第153図-2	土師	杯	20	12.6	3.6	4.6	95%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
051	第153図-3	土師	壺	50	—	3.6	〔3.3〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明,ヘラケズリ	
051	第153図-4	土師	高杯	29	(17.8)	—	〔4.2〕	15%	黄褐色	粗	不明	不明	被熱(スス付着)
051	第153図-5	土師	高杯	10	(18.0)	—	〔9.7〕	50%	橙褐色	粗	不明,ヘラナデ	不明	
051	第153図-6	土師	高杯	14, 52	18.0	—	〔9.0〕	75%	橙褐色	粗	不明,ヘラナデ	不明	被熱
051	第153図-7	土師	高杯	35	16.2	—	〔4.5〕	35%	橙褐色	密	不明	不明	被熱
051	第153図-8	土師	壺	26, 55	16.5	—	〔3.7〕	10%	橙褐色	密	不明	不明	
051	第153図-9	土師	高杯	2	(16.4)	—	〔5.4〕	25%	黄褐色	密	不明	不明	
051	第153図-10	土師	高杯	32	(16.0)	—	〔4.0〕	15%	黄褐色	粗	不明	不明	
051	第153図-11	土師	高杯	19	—	(12.6)	〔7.5〕	25%	黄褐色	粗	ヘラナデ→ナデ,ナデ	ナデ	赤彩
051	第153図-12	土師	高杯	28	—	12.8	〔7.5〕	40%	橙褐色	粗	ヘラナテ,ナデ	ナデ	穿孔1ヶ(未貫通)
051	第153図-13	土師	高杯	15	—	13.6	〔9.8〕	50%	黄褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	不明	赤彩
051	第153図-14	土師	高杯	44	—	(9.8)	〔7.3〕	25%	黄褐色	密	不明	不明	
051	第153図-15	土師	高杯	49, 56	—	—	〔8.6〕	20%	黄褐色	密	不明,ヘラナデ→ナデ	不明	
051	第153図-16	土師	高杯	1, 18	—	—	〔9.5〕	35%	橙褐色	粗	ヘラナテ,ナデ	ナデ	被熱
051	第153図-17	土師	高杯	49	—	—	〔7.5〕	20%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明	
051	第153図-18	土師	高杯	51	—	—	〔6.7〕	20%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
051	第153図-19	土師	高杯	8	—	—	〔7.5〕	20%	褐色	粗	ヘラナテ,ナデ	ナデ	被熱
051	第153図-20	土師	高杯	47	—	—	〔7.5〕	20%	黄褐色	密	ヘラナデ	不明	
051	第153図-21	土師	壺	5, 42	10.7	4.0	14.0	80%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱(スス付着)
051	第153図-22	土師	壺	16, 44	11.2	3.4	14.8	75%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ	赤彩
051	第153図-23	土師	壺	9	13.1	—	〔4.4〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明	
051	第153図-24	土師	壺	33	8.9	3.2	8.1	95%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	黒斑
051	第153図-25	土師	甕	12, 41	(23.0)	—	〔6.5〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	被熱
051	第153図-26	土師	壺	13, 41	14.2	—	〔6.2〕	10%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
051	第153図-27	土師	甕	1	(17.0)	—	〔5.5〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
051	第154図-28	土師	壺	6	(15.2)	〔7.0〕	28.9	65%	黄褐色	粗	不明,ミガキ	不明	ヘラ書き,黒斑
051	第154図-29	土師	甕	21	(17.3)	7.0	25.4	80%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
051	第154図-30	土師	甕	1	—	7.4	〔19.8〕	30%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	被熱(スス付着)
051	第154図-31	土師	壺	30	—	2.4	〔5.8〕	90%	橙褐色	密	ナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	黒斑
051	第154図-32	土師	椀	48	—	4.2	〔4.3〕	25%	褐色	粗	不明	不明	被熱

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
051	第154図-33	土師	ミニチュア	53	—	4.4	〔3.0〕	80%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	黒斑
051	第154図-34	土師	鉢	47	(8.0)	(4.0)	4.3	15%	橙褐色	密	不明	不明	被熱
051	第154図-35	土師	鉢	43	(8.0)	—	〔4.5〕	10%	黄褐色	密	不明	不明	
051	第154図-36	土師	鉢	10, 42, 44, 48	(8.4)	—	〔4.9〕	15%	赤褐色	密	不明	不明	被熱
051	第154図-37	土師	ミニチュア	42	(3.6)	—	〔2.2〕	40%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
051	第154図-38	土師	ミニチュア	51	(3.6)	(3.8)	2.3	40%	黄褐色	密	ナデ	ナデ	
052	第154図-1	土師	鉢	41	(13.8)	5.0	5.7	45%	褐色	粗	ナデ,ヘラケズリ,ミガキ	ヘラケズリ→ナデ,ナデ,ヘラケズリ,ミガキ	赤彩
052	第154図-2	土師	鉢	12	17.4	7.2	10.7	85%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱
052	第154図-3	土師	鉢	35	11.9	4.8	7.2	90%	橙褐色	粗	ナデ,不明	ナデ,不明	被熱
052	第154図-4	土師	高杯	1	—	—	〔7.3〕	20%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
052	第154図-5	土師	高杯	38	16.8	10.6	14.8	100%	赤褐色	密	不明,ヘラナデ	ナデ,ミガキ,不明	被熱
052	第154図-6	土師	高杯	36	17.8	—	〔11.7〕	85%	赤褐色	粗	不明,ナデ,ヘラナデ	不明	被熱,赤彩
052	第154図-7	土師	壺	2	(13.3)	—	〔9.7〕	20%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ,ミガキ	被熱(スス付着)
052	第154図-8	土師	甕	39	14.5	7.4	18.2	100%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	不明,ヘラナデ	被熱(スス付着)
052	第154図-9	土師	甕	2, 16, 34, 37	(15.4)	6.4	20.5	90%	赤褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	不明,ミガキ,ヘラナデ	被熱(スス付着)
052	第154図-10	土師	甕	40, 42	15.5	6.4	21.4	85%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	不明,ヘラケズリ	被熱(スス付着)
052	第155図-11	土師	甕	15, 31	(18.8)	8.0	17.3	70%	赤褐色	粗	ナデ,ヘラナデ,不明	ナデ,ヘラナデ,不明	
052	第155図-12	土師	甕	10, 11	(20.6)	—	〔19.3〕	20%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
052	第155図-13	土師	甕	32, 34	—	7.0	〔13.8〕	30%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ→ナデ,不明	
053	第155図-1	土師	壺	7	—	3.4	〔3.0〕	80%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
057	第155図-1	土師	甕	7	—	7.0	〔6.5〕	25%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ→ナデ→ミガキ	赤彩
058	第155図-1	土師	高杯	10	—	—	〔8.9〕	15%	橙褐色	密	不明,ナデ	不明	
058	第155図-2	土師	壺	8	(17.8)	—	〔9.0〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
058	第155図-3	土師	甕	9	15.0	—	〔14.5〕	15%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ	被熱(スス付着)
059	第155図-1	土師	杯	53	11.3	—	3.5	95%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ	不明	
059	第155図-2	土師	杯	37	14.4	(5.4)	4.0	40%	黒褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラナデ→ミガキ,ヘラナデ	
059	第155図-3	土師	高杯	52	17.0	(11.2)	11.0	80%	赤褐色	粗	ナデ,不明	不明	被熱
059	第155図-4	土師	高杯	3, 26, 56, 58	16.6	—	〔4.8〕	35%	黄褐色	粗	不明	不明	赤彩
059	第155図-5	土師	高杯	2	—	—	〔6.2〕	10%	黄褐色	密	ナデ	不明	
059	第155図-6	土師	高杯	35	—	—	〔6.0〕	10%	赤褐色	粗	ヘラナデ	不明	
059	第155図-7	土師	高杯	2, 9, 47	15.8	—	〔7.8〕	40%	黄褐色	粗	ヘラナデ,不明	ヘラナデ,不明	
059	第155図-8	土師	杯	2, 4	(11.4)	—	4.5	40%	赤褐色	粗	不明	不明	
059	第155図-9	土師	鉢	58	(11.4)	(4.0)	6.4	35%	黄褐色	密	不明	不明	
059	第155図-10	土師	壺	17, 32	(20.0)	—	〔8.0〕	5%	赤褐色	粗	ミガキ	ミガキ	赤彩
059	第155図-11	土師	壺	7, 56	—	—	〔7.2〕	20%	赤褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	赤彩
059	第155図-12	土師	壺	50	—	—	〔6.8〕	20%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	不明	赤彩
059	第155図-13	土師	壺	4, 56, 60	(18.8)	—	〔6.3〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
059	第155図-14	土師	甕	6	—	7.4	〔5.3〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明	
059	第156図-15	土師	甕	54	15.0	—	20.2	95%	褐色	粗	ナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ→ミガキ	ナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ→ミガキ	
059	第156図-16	土師	甕	55	14.8	—	〔17.2〕	60%	橙褐色	密	ナデ→ハケ,ヘラナデ	ナデ→ハケ,ナデ,ハケ	
059	第156図-17	土師	甕	45	17.0	—	〔24.8〕	75%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラケズリ→ヘラナデ→ナデ	
059	第156図-18	土師	壺	48	(16.8)	—	〔13.3〕	10%	赤褐色	粗	ヘラナデ→ナデ,ヘラナデ	不明	黒斑
059	第156図-19	土師	甕	57	—	5.6	〔3.4〕	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
059	第156図-20	土師	壺	55	—	4.6	〔3.3〕	5%	褐色	密	ミガキ	ヘラケズリ	
059	第156図-21	土師	壺	8	—	(7.0)	〔5.0〕	5%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
059	第156図-22	土師	椀	6	(10.2)	5.0	4.5	40%	赤褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ	
062	第156図-1	土師	高杯	4	—	—	〔6.3〕	10%	赤褐色	粗	ヘラケズリ,ヘラナデ	ヘラナデ	
062	第156図-2	土師	器台	9	—	—	〔6.4〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	穿孔3ヶ
062	第156図-3	土師	器台	7	—	—	〔3.2〕	10%	赤褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	穿孔4ヶ
062	第156図-4	土師	高杯	9	—	—	〔5.0〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	赤彩
062	第156図-5	土師	鉢	9	(10.7)	3.0	5.7	35%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラナデ	
062	第156図-6	土師	壺	9	(10.8)	—	〔6.5〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
062	第156図-7	土師	壺	9	—	2.6	〔3.3〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
062	第156図-8	土師	椀	9	—	3.6	〔3.2〕	45%	橙褐色	粗	不明	不明	
062	第156図-9	土師	壺	9	(4.2)	—	〔4.9〕	5%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
062	第156図-10	土師	甕	3	(24.4)	—	〔16.5〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明	
062	第156図-11	土師	甕	9	(24.4)	—	〔7.2〕	5%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物№	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考
064	第156図-1	土師	高杯	13	—	—	〔2.5〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
064	第156図-2	土師	高杯	2	—	—	〔5.5〕	25%	橙褐色	粗	ナデ	不明	
064	第156図-3	土師	ミニチュア	13	—	3.6	〔5.1〕	40%	黄褐色	粗	不明	ナデ	
064	第156図-4	土師	甕	5, 13	17.2	—	〔20.5〕	70%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ハケ,ヘラナデ	被熱（スス付着）
064	第157図-5	土師	壺	4	—	4.8	〔3.0〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ナデ,不明	
064	第157図-6	土師	壺	12	—	8.4	〔4.8〕	10%	赤褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ナデ	
064	第157図-7	土師	壺	13	—	5.4	〔2.0〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
064	第157図-8	土師	甑	10, 11, 13	(21.4)	6.2	12.4	50%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ,不明	
065	第157図-1	土師	器台	1	—	—	〔4.3〕	20%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	不明	穿孔3ヶ
065	第157図-2	土師	鉢	1	(12.4)	—	〔7.1〕	15%	橙褐色	密	ナデ	ナデ,ヘラナデ	黒斑
065	第157図-3	土師	鉢	24	—	—	〔6.1〕	40%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ	
065	第157図-4	土師	壺	1, 22, 23	(12.0)	—	〔14.5〕	35%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
065	第157図-5	土師	甕	1	—	(7.2)	〔5.7〕	10%	褐色	粗	不明	不明	
065	第157図-6	土師	甕	32	—	6.6	〔3.2〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ハケ,ヘラナデ	
065	第157図-7	土師	手捏ね	1	—	—	〔3.9〕	30%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	赤彩
065	第157図-8	土師	ミニチュア	1	(2.7)	1.6	1.4	80%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
066	第157図-1	土師	器台	1	8.3	11.6	8.5	85%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
066	第157図-2	土師	ミニチュア	1	—	—	〔1.6〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	
066	第157図-3	土師	壺	1	—	4.5	〔2.6〕		灰褐色	粗	ナデ	ナデ	（木葉痕）
067	第157図-1	土師	高杯	7	—	—	〔10.5〕	50%	橙褐色	密	不明,ナデ,ヘラナデ	不明	
067	第157図-2	土師	高杯	10	—	—	〔9.8〕	70%	黄褐色	粗	ミガキ,ヘラナデ	不明	
067	第157図-3	土師	壺	8	(9.8)	—	〔7.1〕	20%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ,ヘラナデ,ミガキ	
067	第157図-4	土師	壺	8, 10	(14.6)	—	〔8.5〕	10%	褐色	粗	不明	不明	
067	第157図-5	土師	甕	不明	—	6.6	〔3.4〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	被熱
067	第157図-6	土師	甕	2, 5, 7	18.6	—	〔7.5〕	20%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	被熱（スス付着）
067	第157図-7	土師	壺	1, 11	(10.8)	—	〔11.6〕	20%	黄褐色	粗	不明	不明	
069	第157図-1	土師	壺	9	(8.2)	3.2	4.3	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ	黒斑
069	第157図-2	土師	壺	3	—	3.0	〔4.1〕	25%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
069	第157図-3	土師	椀	7	—	5.3	4.3	20%	黄褐色	密	ミガキ,ナデ	ミガキ	
069	第157図-4	土師	壺	7	(7.2)	3.0	8.1	90%	黄褐色	粗	不明	不明	
069	第157図-5	土師	器台	9	—	(8.0)	〔3.5〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	赤彩
069	第157図-6	土師	壺	6	—	7.4	〔2.6〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
069	第157図-7	土師	甕	5, 9	—	7.2	〔5.8〕	5%	赤褐色	粗	不明	不明	被熱
069	第157図-8	土師	甕	4	18.3	6.4	29.0	55%	橙褐色	粗	不明	不明	
070	第158図-1	土師	椀	4, 5	(10.7)	4.4	5.8	45%	黒褐色	粗	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	
070	第158図-2	土師	壺	1	(14.8)	—	〔4.8〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明	
070	第158図-3	土師	壺	1	—	7.2	〔3.2〕	10%	黒褐色	粗	不明	不明	
071	第158図-1	土師	壺	5	(11.4)	2.4	7.5	35%	黄褐色	粗	不明	不明	
077	第158図-1	土師	鉢	1	14.5	3.4	7.9	80%	赤褐色	密	不明,ミガキ	ミガキ,ヘラケズリ	黒斑
077	第158図-2	土師	壺	1, 3, 8	(11.8)	6.4	12.8	40%	黄褐色	粗	不明,ヘラナデ	不明	黒斑,（木葉痕）
077	第158図-3	土師	壺	1, 8	(14.0)	—	〔16.7〕	40%	橙褐色	密	ミガキ,ハケ→ヘラナデ	ナデ	赤彩,黒斑
077	第158図-4	土師	壺	2	14.8	—	〔17.5〕	15%	黄褐色	粗	不明	不明	黒斑
082	第158図-1	土師	甕	2	—	5.6	〔3.6〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ→ナデ	
083	第158図-1	土師	高杯	3	—	—	〔6.4〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ	不明	
083	第158図-2	土師	高杯	3	—	—	〔2.6〕	5%	赤褐色	密	不明	不明	
083	第158図-3	土師	高杯	4	—	—	〔5.2〕	10%	赤褐色	密	ナデ	ミガキ	
083	第158図-4	土師	壺	5	—	3.4	〔3.6〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	黒斑
083	第158図-5	土師	甕	5	—	5.6	〔2.2〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
083	第158図-6	土師	甕	2	—	7.0	〔3.8〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
083	第158図-7	土師	甕	4	—	6.0	〔3.5〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ナデ	木葉痕
086	第158図-1	土師	鉢	6	(13.6)	4.6	5.8	55%	黄褐色	密	不明	不明	被熱
086	第158図-2	土師	杯	4	(16.4)	—	5.2	50%	橙褐色	粗	不明	不明	
086	第158図-3	土師	杯	11	—	—	〔2.6〕	30%	橙褐色	密	ミガキ	不明	
086	第158図-4	土師	甕	10	14.2	—	〔12.3〕	30%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
086	第158図-5	土師	壺	10, 11	—	—	〔5.4〕	15%	橙褐色	密	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	
086	第158図-6	土師	壺	16	—	3.0	〔2.4〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ,ヘラナデ	
087	第158図-1	土師	高杯	4	—	—	〔5.9〕	10%	赤褐色	粗	ナデ	不明	穿孔3ヶ（?）
088	第158図-1	土師	器台	2	—	—	〔4.2〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	穿孔6ヶ（?）
091	第158図-1	土師	壺	1	—	(6.0)	〔2.8〕	5%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
092	第158図-1	土師	壺	1	—	7.0	〔3.7〕	10%	赤褐色	密	不明	不明	底部穿孔1ヶ（焼成前）
093	第158図-1	土師	高杯	5	(17.0)	—	〔3.9〕	15%	黄褐色	密	不明	不明	
093	第158図-2	土師	高杯	2, 4	16.0	—	〔10.3〕	60%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ,ナデ	不明	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
093	第158図-3	土師	甕	1	16.8	6.2	24.6	60%	黄褐色	粗	不明	不明	被熱
093	第158図-4	土師	壺	5	12.2	4.2	15.2	90%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	被熱, 黒斑
093	第158図-5	土師	甕	3, 4	—	—	〔19.0〕	60%	褐色	密	ヘラナデ	不明	被熱
097	第159図-1	土師	杯	8	10.1	3.2	3.2	45%	黄褐色	粗	ナデ,ナデ→ミガキ	ナデ,ナデ→ミガキ,不明	赤彩
097	第159図-2	土師	鉢	19	(11.0)	3.8	7.0	40%	褐色	粗	不明	ナデ,不明	黒斑
097	第159図-3	土師	高杯	2	14.2	—	〔5.4〕	50%	橙褐色	粗	不明	不明	
097	第159図-4	土師	器台	39	(7.6)	(10.0)	8.5	40%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,ナデ→ミガキ	穿孔4ヶ
097	第159図-5	土師	高杯	6	19.4	10.2	14.2	85%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ,ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	赤彩, 穿孔4ヶ
097	第159図-6	土師	壺	28	—	4.4	〔8.0〕	30%	褐色	粗	不明	不明	赤彩
097	第159図-7	土師	甕	31	(18.8)	—	〔8.9〕	10%	褐色	粗	不明	不明	被熱
097	第159図-8	土師	壺	3, 5, 6	(14.6)	10.0	〔34.0〕	40%	黄褐色	粗	不明,ヘラナデ	不明,ヘラナデ,ヘラナデ→ナデ→ミガキ	
097	第159図-9	土師	甕	1	(18.0)	7.6	22.6	60%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ,不明	被熱
097	第159図-10	土師	甕	18	—	5.3	〔13.2〕	30%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
097	第159図-11	土師	甕	15	14.4	—	〔12.5〕	25%	褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ハケ→ナデ,ナデ	被熱(スス付着)
097	第159図-12	土師	甕	39	(16.0)	—	〔3.4〕	5%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ハケ	S字口縁
099	第159図-1	土師	壺	2	—	8.6	〔2.8〕	5%	赤褐色	粗	不明	不明	
102	第159図-1	土師	壺	3	(10.2)	5.0	13.1	45%	赤褐色	密	ハケ→ヘラナデ	ハケ→ナデ,ケズリ	
102	第159図-2	土師	壺	1	—	—	〔4.5〕	5%	赤褐色	密	不明	不明	
102	第159図-3	土師	壺	10	—	4.4	〔2.0〕	5%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
112	第159図-1	土師	壺	1	(11.0)	—	〔7.5〕	5%	黄褐色	粗	ナデ,ナデ→ミガキ	不明	赤彩
115	第159図-1	土師	椀	8	13.1	5.4	4.5	95%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ,不明	
115	第159図-2	土師	高杯	1, 13	16.4	9.8	11.4	95%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ,ナデ,ナデ→ミガキ	ナデ,ケズリ→ナデ	
115	第159図-3	土師	甕	10	—	6.0	〔4.8〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,不明	
115	第159図-4	土師	ミニチュア	17	4.6	—	〔3.9〕	65%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
115	第159図-5	土師	鉢	1	(8.8)	—	〔4.1〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明	
115	第160図-6	土師	甕	1, 5, 13	(18.8)	—	〔8.2〕	10%	褐色	粗	不明	不明	
115	第160図-7	土師	甕	1, 11	13.6	—	〔10.7〕	35%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ,不明	ナデ,ヘラナデ→ナデ→ミガキ	
115	第160図-8	土師	甕	4, 13	(17.8)	—	〔15.0〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明	
123	第160図-1	土師	甕	1, 5	—	—	〔8.0〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明	
123	第160図-2	土師	甕	5	—	6.6	〔5.2〕	20%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明,ヘラナデ	
124	第160図-1	土師	甕	1, 067-10	(17.0)	-	〔8.6〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明	
126	第160図-1	土師	椀	2	(10.9)	3.4	5.9	60%	黄褐色	密	不明	不明,ヘラナデ	
126	第160図-2	土師	壺	11, 43, 49	12.4	—	〔5.0〕	15%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
126	第160図-3	土師	壺	17, 53	(7.0)	—	〔7.0〕			粗	不明	不明	
126	第160図-4	土師	高杯	2, 10, 25, 49, 50, 53	17.9	12.7	12.8	60%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
126	第160図-5	土師	高杯	12	(16.2)	—	〔5.2〕	15%	橙褐色	粗	不明	不明	
126	第160図-6	土師	高杯	42	—	(12.9)	〔8.2〕	30%	橙褐色	密	ヘラナデ,不明	不明	
126	第160図-7	土師	高杯	34	—	—	〔4.2〕	20%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
126	第160図-8	土師	高杯	41	(16.0)	—	〔4.2〕	30%	褐色	密	ナデ,ミガキ	ナデ,ナデ→ミガキ,ミガキ	黒斑
126	第160図-9	土師	高杯	27, 30, 52, 53	(16.8)	—	〔5.4〕	30%	橙褐色	密	不明	不明	被熱
126	第160図-10	土師	壺	1	(18.8)	—	〔8.4〕	5%	赤褐色	粗	ナデ,不明	ミガキ,ナデ,ナデ→ミガキ,不明	赤彩
126	第160図-11	土師	壺	8	(20.4)	—	〔8.2〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	被熱
126	第160図-12	土師	甕	38	(18.6)	—	〔4.3〕	10%	橙褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	被熱(スス付着)
127	第160図-1	土師	壺	3	—	4.0	〔5.6〕	30%	橙褐色	粗	不明	不明	
127	第160図-2	土師	手捏ね	1	4.6	1.8	2.8	100%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
127	第160図-3	土師	鉢	4	7.0	4.4	5.6	90%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラナデ→ナデ	
127	第160図-4	土師	甕	3, 5	12.6	16.2	5.4	90%	褐色	粗	ナデ,不明	ナデ,ヘラナデ,不明	被熱(スス付着)
127	第160図-5	土師	甕	6	15.6	6.8	22.3	90%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ→ナデ	ナデ,ヘラナデ→ナデ,ヘラナデ	
128	第161図-1	土師	鉢	5	(13.6)	(7.9)	7.8	25%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ	赤彩, 片口形
128	第161図-2	土師	高杯	2	(16.1)	(11.0)	13.7	35%	赤褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
128	第161図-3	土師	鉢	5	(7.8)	4.4	4.1	40%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ	
128	第161図-4	土師	壺	1	—	15.0	〔36.5〕	30%	黄褐色	粗	不明	不明	赤彩
129	第161図-1	土師	壺	2, 109-1	—	—	〔4.0〕	10%	灰褐色	粗	不明	不明	被熱
129	第161図-2	土師	壺	5	—	7.0	〔2.5〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
129	第161図-3	土師	台付甕	1	—	7.2	〔6.4〕	45%	赤褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
129	第161図-4	土師	甕	3	(20.8)	—	〔13.4〕	5%	橙褐色	粗	不明	不明	
132	第161図-1	土師	甕	4	—	(10.0)	〔6.0〕	5%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物No.	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
132	第161図-2	土師	椀	2	(7.2)	5.0	4.9	60%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
132	第161図-3	土師	壺	1	—	4.2	(3.3)	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
143	第161図-1	土師	鉢	6	11.9	2.0	6.3	90%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ,ミガキ	ナデ,不明	赤彩
148	第161図-1	土師	高杯	1, 2	—	—	(6.7)	30%	橙褐色	密	ナデ	不明	
148	第161図-2	土師	壺	22	(5.4)	4.0	8.3	60%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	黒斑
148	第161図-3	土師	壺	12, 22	—	5.0	(3.4)	10%	橙褐色	粗	不明	不明	黒斑
148	第161図-4	土師	甕	11	—	6.0	(4.2)	10%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
148	第161図-5	土師	甕	13, 17, 22	—	7.0	(4.2)	20%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ハケ,ヘラナデ	
153	第161図-1	土師	壺	18	(17.8)	4.6	12.0	30%	赤褐色	粗	不明,ヘラナデ	不明,ヘラケズリ	
153	第161図-2	土師	甕	3	—	—	(9.0)	5%	褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
155	第161図-1	土師	無頸壺	3	—	4.0	(9.4)	90%	褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ヘラナデ,ミガキ	赤彩
155	第161図-2	土師	壺	1	—	6.6	(4.6)	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明	被熱
156	第161図-1	土師	高杯	3	—	10.4	(6.8)	15%	赤褐色	粗	ヘラケズリ,不明	不明	
156	第161図-2	土師	高杯	4	—	—	(9.9)	15%	橙褐色	密	不明,ナデ	不明	
156	第161図-3	土師	甕	7	(16.6)	—	(6.6)	5%	赤褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
SK006	第166図-1	土師	高杯	39	—	—	(8.5)	30%	橙褐色	密	ナデ	ヘラナデ	穿 孔2ヶ (未貫通)
SK006	第166図-2	土師	高杯	27	—	(11.0)	(6.7)	25%	黄褐色	密	ナデ	ナデ,ヘラナデ	
SK006	第166図-3	土師	高杯	36	—	—	(7.3)	30%	橙褐色	密	不明,ナデ	不明	
SK006	第166図-4	土師	高杯	11	—	—	(3.0)	10%	黄褐色	密	不明	不明	
SK006	第166図-5	土師	壺	31	—	5.0	(2.6)	10%	黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
SK006	第166図-6	土師	甕	12, 14, 16	(16.0)	—	(12.5)	15%	褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ナデ→ミガキ	
SK006	第166図-7	土師	甕	9, 26, 28	17.8	—	(8.8)	10%	黄褐色	粗	ナデ,ハケ	ナデ,ハケ	
SX002	第167図-1	土師	壺	2	—	12.0	(30.1)	60%	黄褐色	粗	不明	不明	
SX003	第167図-1	土師	壺	1, 2	—	13.0	(26.0)	60%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ミガキ	赤彩
SX004	第167図-1	土師	壺	2	—	10.4	(21.7)	30%	橙褐色	粗	不明	ナデ,ヘラナデ	
SD002	第168図-1	土師	鉢	4, 5, 8	13.3	2.6	4.3	65%	橙褐色	粗	不明	不明	
SD002	第168図-2	土師	高杯	1	—	—	(5.5)	5%	赤褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ミガキ	穿孔3ヶ
SD002	第168図-3	土師	甕	4, 8	—	6.8	(5.6)	10%	赤褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第169図-1	土師	椀	51	(14.6)	—	3.8	25%	赤褐色	密	ヘラナデ→ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ	
遺構外	第169図-2	土師	杯	126, CSI-065-9	16.0	—	4.5	85%	橙褐色	粗	ナデ→ミガキ	ナデ,ハケ,ミガキ	
遺構外	第169図-3	土師	鉢	1, 3	12.0	4.0	5.2	80%	橙褐色	粗	不明	不明,ヘラナデ	
遺構外	第169図-4	土師	鉢	42-1	(8.6)	2.4	4.0	50%	橙褐色	密	不明	不明	
遺構外	第169図-5	土師	椀	1	9.6	—	(4.2)	35%	褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	赤彩
遺構外	第169図-6	土師	椀	123	(12.0)	—	(6.1)	35%	橙褐色	粗	ヘラナデ,ナデ,ミガキ	ナデ,ヘラケズリ,ミガキ	
遺構外	第169図-7	土師	椀	122	(10.0)	—	(4.8)	30%	黄褐色	密	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ハケ	
遺構外	第169図-8	土師	鉢	6	11.9	2.0	6.3	90%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ,ミガキ	不明,ナデ	
遺構外	第169図-9	土師	坩	62-1	—	—	(4.6)	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
遺構外	第169図-10	土師	椀	113, 125, 144, 148, CSI-028-5, 6	12.9	5.7	7.4	70%	橙褐色	密	不明	不明,ナデ	被 熱 (ス ス付着)
遺構外	第169図-11	土師	器台	107	(6.6)	—	(5.0)	40%	黄褐色	粗	ナデ,ミガキ	ナデ,ミガキ	赤彩、穿孔3ヶ
遺構外	第169図-12	土師	器台	1	—	(11.0)	(5.9)	30%	橙褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	穿孔3ヶ
遺構外	第169図-13	土師	器台	1	—	(9.0)	(4.5)	10%	橙褐色	密	ナデ	ミガキ	穿孔3ヶ
遺構外	第169図-14	土師	高杯	59-16	—	—	(6.0)	15%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	穿孔3ヶ
遺構外	第169図-15	土師	高杯	2	—	—	(3.8)	20%	黄褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	穿孔3ヶ
遺構外	第169図-16	土師	高杯	36-2	—	—	(4.5)	15%	赤褐色	密	不明	不明	穿孔4ヶ
遺構外	第169図-17	土師	高杯	04-1, 05-1	15.0	—	(4.9)	35%	橙褐色	密	不明	不明	赤彩
遺構外	第169図-18	土師	高杯	1	—	(8.6)	(5.2)	5%	黄褐色	粗	不明	ミガキ	赤彩
遺構外	第169図-19	土師	高杯	160	—	—	(9.0)	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	不明	
遺構外	第169図-20	土師	高杯	64-1	—	—	(6.3)	20%	黄褐色	密	ヘラナデ,ナデ	ヘラナデ,ナデ	
遺構外	第169図-21	土師	高杯	18-1	—	—	(7.9)	40%	赤褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ヘラケズリ→ナデ,不明	
遺構外	第169図-22	土師	高杯	22	—	—	(6.5)	5%	黄褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	赤彩
遺構外	第169図-23	土師	高杯	127	—	—	(6.3)	30%	黒褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ミガキ	被 熱 (ス ス付着)
遺構外	第169図-24	土師	高杯	49-1	—	—	(7.8)	20%	赤褐色	密	不明,ナデ	不明	
遺構外	第169図-25	土師	壺	38, 77, 116	—	—	(11.3)	30%	褐色	粗	ナデ,ハケ→ヘラナデ	ハケ→ナデ, ハケ→ケズリ→ミガキ	
遺構外	第169図-26	土師	壺	04-1	—	4.0	(7.0)	10%	橙褐色	密	不明	不明	
遺構外	第169図-27	土師	壺	50-1	—	5.0	(5.0)	15%	橙褐色	粗	ミガキ	ミガキ,ヘラケズリ	赤彩
遺構外	第169図-28	土師	壺	22	(16.0)	—	(4.9)	5%	橙褐色	粗	ミガキ	ミガキ	赤彩
遺構外	第169図-29	土師	壺	10	—	7.8	(8.8)	15%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ	赤彩
遺構外	第169図-30	土師	壺	103	(11.5)	—	(7.8)	15%	赤褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ナデ	赤彩
遺構外	第169図-31	土師	壺	50-1	—	7.4	(5.4)	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
遺構外	第169図-32	土師	鉢	59-14	—	4.8	(5.0)	20%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ミガキ	
遺構外	第169図-33	土師	壺	56-2	—	4.0	(2.7)	10%	黄褐色	粗	不明	不明,ヘラナデ	
遺構外	第169図-34	土師	壺	1	—	—	(4.6)	10%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	

遺構番号	挿図番号	器質	器形	遺物№	口径	底形	器高	遺存度	色調	胎土	調整 内面	調整 外面	備考
遺構外	第169図-35	土師	壺	22	—	2.6	〔5.8〕	35%	橙褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ,ヘラナデ	
遺構外	第169図-36	土師	壺	39-1	(7.6)	—	〔4.8〕	5%	橙褐色	粗	ミガキ	不明	
遺構外	第169図-37	土師	壺	07-1	(7.8)	(4.4)	8.2	45%	黄褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,不明	
遺構外	第169図-38	土師	甕	51-3	—	6.8	〔7.1〕	15%	赤褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラナデ	底部穿孔
遺構外	第169図-39	土師	甕	70-2	—	(6.6)	〔3.0〕	5%	黄褐色	粗	不明	不明	底部穿孔
遺構外	第169図-40	土師	甕	19-2	—	(6.0)	〔2.5〕	5%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	底部穿孔
遺構外	第169図-41	土師	甕	61-1	—	7.4	〔2.0〕	10%	褐色	粗	ヘラナデ	不明	底部穿孔
遺構外	第169図-42	土師	甕	88-3	—	7.0	〔1.5〕	10%	橙褐色	粗	ヘラナデ	不明	底部穿孔(未貫通)
遺構外	第169図-43	土師	甕	66	—	8.2	〔2.2〕	5%	黄褐色	粗	不明	ヘラナデ	底部穿孔
遺構外	第169図-44	土師	台付甕	14-2	—	8.4	〔6.5〕	10%	橙褐色	密	不明,ヘラナデ	不明	
遺構外	第169図-45	土師	台付甕	9Gサブトレ5	—	(11.0)	〔8.0〕	20%	橙褐色	密	ヘラケズリ,ヘラナデ	不明	
遺構外	第169図-46	土師	壺	42-6	—	7.0	〔7.4〕	15%	赤褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ	
遺構外	第169図-47	土師	壺	65-1	—	6.4	〔8.1〕	15%	黄褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ナデ,ヘラナデ	
遺構外	第169図-48	土師	壺	25-1	—	(6.6)	〔5.2〕	5%	橙褐色	密	不明	ヘラナデ	
遺構外	第170図-49	土師	甕	50-4, 60-1	—	6.4	〔17.5〕	35%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラナデ,ヘラケズリ	被熱(ス ス付着)
遺構外	第170図-50	土師	壺	06-2	—	(8.0)	〔4.5〕	5%	橙褐色	密	不明	不明	
遺構外	第170図-51	土師	壺	19-2	—	7.4	〔5.1〕	10%	黄褐色	粗	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
遺構外	第170図-52	土師	甕	56-2	—	(7.4)	〔6.2〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第170図-53	土師	壺	51-4	—	8.4	〔4.9〕	10%	橙褐色		不明	不明	
遺構外	第170図-54	土師	壺	42-7	—	6.6	〔3.2〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
遺構外	第170図-55	土師	壺	42-1	—	7.2	〔4.2〕	10%	橙褐色	密	ヘラナデ	ミガキ,ヘラケズリ	
遺構外	第170図-56	土師	壺	19-2	—	7.4	〔4.4〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第170図-57	土師	壺	14	—	6.6	〔3.3〕	10%	黒褐色	粗	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ→ナデ	
遺構外	第170図-58	土師	壺	99-2	—	8.0	〔3.2〕	10%	黄褐色	粗	不明	不明	
遺構外	第170図-59	土師	壺	41-3	—	7.4	〔3.0〕	10%	橙褐色	密	不明	不明	
遺構外	第170図-60	土師	甕	41-1, 42-5	—	7.0	〔4.5〕	5%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ	
遺構外	第170図-61	土師	壺	37-3	—	6.6	〔3.2〕	10%	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラナデ,ヘラケズリ	
遺構外	第170図-62	土師	器台	95-1	—	7.0	〔4.3〕	15%	黄褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	不明,ナデ	
遺構外	第170図-63	土師	器台	37-1	—	6.0	〔4.6〕	30%	赤褐色	粗	ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ	
遺構外	第170図-64	土師	器台	07-1	—	(6.0)	〔3.1〕	20%	橙褐色	密	ナデ	ヘラナデ,ナデ	
遺構外	第170図-65	土師	器台	25-3	—	4.2	〔3.0〕	10%	黄褐色	粗	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-66	土師	ミニチュア	56	—	3.7	〔3.3〕	10%	橙褐色	粗	不明	不明	赤彩
遺構外	第170図-67	土師	器台	31-1	—	(4.8)	〔3.5〕	20%	橙褐色	密	ヘラナデ,ナデ	ヘラナデ	
遺構外	第170図-68	土師	器台	31-2	—	6.0	〔6.0〕	25%	褐色	粗	ヘラナデ,ナデ	ヘラナデ→ナデ	
遺構外	第170図-69	土師	椀	95-1, 2	6.4	—	〔3.9〕	35%	黄褐色	粗	ナデ,不明	ナデ,不明	
遺構外	第170図-70	土師	手捏ね	1	(5.0)	3.6	3.6	65%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-71	土師	壺	7	—	(5.2)	2.7	20%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-72	土師	壺	95-1	—	4.6	〔2.7〕	5%	褐色	密	ヘラナデ	ナデ,ヘラケズリ→ナデ	
遺構外	第170図-73	土師	壺	1	—	(5.0)	〔2.8〕	10%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-74	土師	壺	1	—	(4.8)	〔1.2〕	5%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-75	土師	手捏ね	1	—	3.4	〔0.8〕	20%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-76	土師	手捏ね	22	—	2.6	1.9	40%	橙褐色	粗	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-77	土師	ミニチュア	15	—	(3.0)	〔1.7〕	30%	褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-78	土師	ミニチュア	1	2.0	1.4	2.7	100%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-79	土師	ミニチュア	L15-91	1.3	—	〔1.5〕	60%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-80	土師	ミニチュア	45-1	—	2.8	〔2.1〕	10%	褐色	粗	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-81	土師	ミニチュア	1	—	3.0	〔1.2〕	30%	褐色	粗	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-82	土師	ミニチュア	04-1	(3.3)	2.0	2.9	50%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-83	土師	ミニチュア	120サブトレ4	(1.0)	1.6	1.9	80%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
遺構外	第170図-84	土師	手捏ね	4	—	4.2	〔2.7〕	50%	褐色	密	ヘラナデ	ナデ	

第5表　土玉計測表

挿図番号	遺構番号	高さ（最大）(㎜)	径（最大）(㎜)	孔径 (㎜)	重量 (g)	備考
1	ＳＩ－001	42.0	40.0	8.0	50.9	
2	ＳＩ－001	42.0	37.0	8.0	57.3	
3	ＳＩ－001	42.5	42.0	8.5	59.5	
4	ＳＩ－001	37.0	38.0	7.5	42.4	一部欠損
5	ＳＩ－001	42.0	35.0	8.0	52.0	一部欠損
6	ＳＩ－001	42.0	38.0	9.0	54.1	一部欠損
7	ＳＩ－001	36.5	37.0	8.0	44.6	一部欠損
8	ＳＩ－001	40.0	38.0	8.0	55.9	
9	ＳＩ－001	33.0	40.0	7.0	32.5	一部欠損
10	ＳＩ－001	44.0	38.0	9.0	50.6	一部欠損

挿図番号	遺構番号	高さ（最大）(㎜)	径（最大）(㎜)	孔径 (㎜)	重量 (g)	備考
11	ＳＩ－001	45.0	39.0	6.0	55.2	
12	ＳＩ－001	41.0	38.0	9.0	49.4	
13	ＳＩ－001	37.0	38.0	8.0	42.4	一部欠損
14	ＳＩ－001	48.0	40.0	8.0	60.5	
15	ＳＩ－001	47.0	38.0	10.0	58.8	一部欠損
16	ＳＩ－001	44.0	37.0	8.0	58.7	
17	ＳＩ－001	38.5	39.0	8.0	51.5	
18	ＳＩ－001	41.0	40.0	9.0	26.2	
19	ＳＩ－001	34.0	40.0	8.0	58.7	
20	ＳＩ－001	44.0	42.0	6.0	58.8	
21	ＳＩ－001	45.0	39.0	9.0	60.8	
22	ＳＩ－001	36.0	44.0	9.0	58.0	
23	ＳＩ－001	38.0	41.0	8.0	52.3	
24	ＳＩ－001	43.0	41.0	8.0	60.5	
25	ＳＩ－001	41.0	41.0	10.0	52.4	
26	ＳＩ－001	39.0	39.0	7.0	50.2	
27	ＳＩ－001	42.0	40.0	9.0	56.8	一部欠損
28	ＳＩ－001	33.0	37.0	15.0	38.9	一部欠損
29	ＳＩ－004	41.0	32.0	—	17.3	一部欠損
30	ＳＩ－003	33.0	30.0	7.0	24.8	
31	ＳＩ－023	42.0	29.0	7.0	30.7	一部欠損
32	ＳＩ－023	32.0	28.0	6.0	24.0	
33	ＳＩ－023	36.0	37.0	15.0	38.9	一部欠損
34	ＳＩ－023	33.0	29.0	7.0	27.7	一部欠損
35	ＳＩ－023	43.0	28.0	9.0	30.8	
36	ＳＩ－023	35.0	29.0	8.0	24.2	
37	ＳＩ－023	33.0	31.0	8.0	27.2	
38	ＳＩ－032	29.0	—	—	5.1	欠損
39	ＳＩ－038	30.0	—	—	15.1	欠損
40	ＳＩ－065	34.0	36.0	8.0	36.6	一部欠損
41	ＳＩ－065	32.0	34.0	7.5	31.2	
42	ＳＩ－065	28.0	30.0	9.0	19.3	欠損
43	ＳＩ－065	42.0	30.0	7.0	31.2	
44	ＳＩ－065	31.0	33.0	8.0	29.8	
45	ＳＩ－065	33.0	33.0	8.0	15.0	欠損
46	ＳＩ－065	37.0	29.0	7.0	27.0	一部欠損

第６表　竪穴住居跡一覧表

遺構№	規模（m）長軸×短軸	主軸方向	面積 (㎡)	壁高 (cm)	柱穴深さ (cm)	貯蔵穴（cm）長径×短径×深さ	壁溝(cm) 幅×深さ	カマド・炉 (cm) 長径×短径	出入口ピット (cm) 長径×短径×深さ	備考	時期区分
SI-001	4.62×4.4	N－58°－W	21.53	21.3～39.5	P1 69.2 P2 58.0 P3 52.8 P4 71.0	79×78×63	12×5	77×70	－		古墳Ⅲ
SI-002	6.25×6.2	N－60°－W	47.27	46.9～75.5	P1 44.2 P2 70.8 P3 61.4 P4 55.0	66×64×66.9	10×7.9	42×34	32×30×73.9	五条の仕切溝検出	古墳Ⅲ
SI-003	5.99×5.53	N－62°－W	47.01	43.2～63.9	P1 71.9 P2 73.7 P3 74.8 P4 83.3	94×80×53.6	14×14.6	75×55	－		古墳Ⅲ
SI-004	7.3×7.14	N－44°－W	53.39	1.6～80.5	P1 96.9 P2 87.8 P3 87.1 P4 85.2	89×74×71.9	10×9.6	62×54 90×60 75×40	－	P1は二箇所の凹みがある。炉3は鍛冶炉として使用	古墳Ⅱ
SI-005	5.64×5.29	N－28°－W	29.19	13.4～25.4	P1 52.8 P2 38.8 P3 49.5 P4 39.4	80×67×28.5	－		－		古墳Ⅰ
SI-006	4.96×4.56	N－55°－W	23.85	29.0～34.2	P1 49.9 P2 53.0 P3 80.3 P4 59.9	150×70×39.9	16×3.6	52×48	－		古墳Ⅲ
SI-007	4.5×4.22	N－39°－W	20.82	0～54.5	P1 18.0 P2 41.2 P3 28.3 P4 40.7	85×72×48	－	48×20	－		古墳Ⅱ
SI-008	－×4.25	N－64°－W	(20.55)	0～86	－	60×47×44.7	－	50×44	－		古墳Ⅱ
SI-009	－×6.14	N－31°－W	44.13	0～22.9	P1 39.4 P2 51.9 P3 48.0	－	－	－	－		弥生Ⅲ
SI-010	－	N－26°－E	－	0～27.6	－	－	－	52×44 53×39	－		弥生Ⅲ

遺構No	規模(m) 長軸×短軸	主軸方向	面積 (㎡)	壁高 (cm)	柱穴深さ (cm)	貯蔵穴(cm) 長径×短径×深さ	壁溝(cm) 幅×深さ	カマド・炉 (cm) 長径×短径	出入口ピット (cm) 長径×短径× 深さ	備考	時期区分
SI-011	4．7×--	N−76°−E	−	0〜59	−	−	−	59×40	−		古墳Ⅱ
SI-012	−	N−35°−W	−	0〜20.6	P1 40.8 P2 44.3 P3 47.5 P4 54.8	−	−	46×39	−		古墳Ⅱ
SI-013	−×4.53	N−30°−W	(14.38)	0〜23.1	P1 20.4 P2 61.3 P3 61.7 P4 62.2	44×31×89	−	70×39	−		弥生Ⅰ
SI-014	4.55×4.45		16.92	16.5〜25.1	−	−	−	−	−		古墳Ⅱ
SI-015	6.45×6.32	N−28°−W	(28.79)	0〜28.3	−	−	16×4.3	−	−		古墳Ⅱ
SI-016	6.61×5.9	N−34.5°−W	33.16	8.1〜15.3	P1 52.8 P2 61.0 P3 46.8 P4 53.4	−	14×8	90×69	−		弥生Ⅱ
SI-017	3.97×3.53	N−31.5°−W	11.85	27.1〜46	−	−	−	75×57	24×17×5.7		弥生Ⅱ
SI-018	5.6×4.87	N−33°−W	22.38	5.4〜21.5	−	−	16×5.7	−	−		弥生Ⅲ
SI-019	−	−	−	0〜4.2	−	−	−	−	−		古墳Ⅲ
SI-020	−	−	−	0〜9	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-021	−	−	−	0〜12.8	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-023	6.34×5.5	N−45°−W	29.07	23.8〜49.2	P1 20.5 P2 24.8 P3 − P4 −	−	12×4.2	69×43	29×21×12.6		弥生Ⅲ
SI-024	3.7×3.6	N−64.5°−W	11.40	15.9〜31.3	P1 11.8 P2 12.7 P3 16.9 P4 22.0	−	−	51×40	−		弥生Ⅲ
SI-025	4.35×4.3	N−21.5°−W	18.00	12.4〜19.9	P1 24.7 P2 31.1 P3 32.7 P4 24.3	−	−	64×64	−		古墳Ⅰ
SI-026	−	−	−	−	−	−	28×16	−	−		弥生
SI-027	4.13×3.76	N−0°−E	15.05	12.4〜25.5	P1 12.5 P2 26.1	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-028	−	N−(37)°−W	−	−	−	62×46×35.5	−	−	−		古墳Ⅱ
SI-029	−	N−36°−W	−	0〜26.8	P1 63.5 P2 85.4 P3 71.7	−	−	−	72×44×23.2		古墳Ⅱ
SI-030	−×3.87	N−6.5°−W	(15.13)	0〜15.7	−	−	−	58×40	−		古墳Ⅱ
SI-031	−×5.54	N−40°−W	(18.74)	0〜25.5	P1 62.2 P2 41.0	−	−	67×46	−		弥生Ⅲ
SI-032	−×4.21	S−44°−W	(17.86)	0〜55	P1 56.4 P2 46.2	−	−	54×50	−		古墳Ⅱ
SI-033	4.3×4.22	N−55.5°−W	15.52	0〜23.5	P1 58.1 P2 24.7 P3 30.7 P4 33.1	−	−	55×36	30×23×24.1		弥生Ⅲ
SI-034	6．4×−	N−34°−W	−	0〜26.4	P1 25.8 P2 76.0	99×95×53	−	−	−		古墳Ⅱ
SI-035	4.55×4.43	N−32°−W	20.20	6.2〜12.2	P1 55.8 P2 57.4 P3 58.7 P4 48.8	61×54×54.3	12×7.7	69×52	2.5×2×19.8		古墳Ⅱ
SI-036	6.68×6.04	N−2°−E	35.65	14.2〜35.3	P1 55.2 P2 14.8 P3 19.0 P4 62.0	−	−	72×54	40×30×15.8		弥生Ⅲ
SI-037	6.38×5.6	N−54°−W	33.19	11.9〜50.9	P1 56.4 P2 49.5 P3 45.8 P4 59.1	−	16×3.8	70×54	47×25×7.6		弥生Ⅰ
SI-038	5.75×5.32	N−47°−W	21.62	9.8〜29.5	P1 21.5 P2 32.3 P3 25.0 P4 28.7	74×63×24.5	−	52×52	−		古墳Ⅲ
SI-039	−	N−39°−E	−	0〜20.8	−	−	−	51×38	−		弥生
SI-040	4.1×3.98	N−58°−W	16.59	3〜18	−	51×49×21.4	−	45×38	−		古墳Ⅱ
SI-041	−	N−(47)°−W	−	0〜15	−	−	−	−	−		弥生
SI-042	−	−	−	0〜38.1	P1 69.3 P2 77.0 P3 31.2	−	36×2.7	−	−		弥生Ⅲ
SI-043	−×8.8	N−(43)°−W	(34.49)	0〜85.9	P1 92.2 P2 87.4 P3 126.1	−	18×12.3	−	−		弥生Ⅲ
SI-044	3.9×3.4	N−89.5°−W	15.07	0〜22.5	−	−	−	63×50	−		古墳Ⅰ
SI-045	6.2×5.59	N−59°−W	27.70	31.6〜69.6	P1 55.0 P2 59.3 P3 48.9 P4 42.6	60×59×49.9	10×5.4	58×45 10×10	−		古墳Ⅱ

遺構No	規模(m) 長軸×短軸	主軸方向	面積 (㎡)	壁高 (cm)	柱穴深さ (cm)	貯蔵穴(cm) 長径×短径×深さ	壁溝(cm) 幅×深さ	カマド・炉 (cm) 長径×短径	出入口ピット (cm) 長径×短径×深さ	備考	時期区分
SI-046	−	−	−	0～16.1	−	−	−	−	−		不明
SI-047	−	N−24°−W	−	0～5.5	−	−	−	97×64	−		弥生Ⅲ
SI-048	−	−	−	0～8.7	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-049	−	−	−	0～8.9	−	−	−	−	−		不明
SI-050	−	−	−	0～23.1	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-051	6.83×6.59	N−42°−W	33.32	35.3～44.1	P1 49.5 P2 56.1 P3 51.0 P4 47.0	129×110×68.6	14×4.9	49×40	−		古墳Ⅲ
SI-052	4.34×3.93	N−76.5°−E	13.78	6.5～33.2	−	−	−	−	−		古墳Ⅲ
SI-053	4.83～4.82	N−16°−W	23.37	6.4～8.8	P1 33.7 P2 48.5 P3 22.5 P4 47.6	−	10×4.1	49×48	−		古墳Ⅰ
SI-054	−	−	−	0～24.2	P1 49.6 P2 69.3	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-055	−	−	−	−	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-056	−	−	−	0～8.9	−	−	−	−	−		不明
SI-057	−	−	−	0～6.2	−	−	−	55×41	−		不明
SI-058	−	N−0°−E	−	0～27.1	−	−	−	53×47	−		古墳Ⅰ
SI-059	4.22×4.0	N−18°−W	17.12	22.6～39.8	−	−	−	45×30	−		古墳Ⅲ
SI-060	6.4×5.6	N−17.5°−E	21.07	2.4～41.6	P1 44.9 P2 48.9 P3 55.8 P4 48.9	41×36×28.1 35×32×11.1	12×3.3	(旧)(77) ×52 (新)96× 76	29×28×13.4		弥生Ⅲ
SI-061	−	N−46.5°−W	−	0～13	−	−	−	55×(51)	−		弥生
SI-062	−×4.16	N−58°−W	(17.38)	0～10.7	P1 50.7 P2 51.4 P3 52.2 P4 51.0	−	−	63×39	−		古墳Ⅱ
SI-063	−	N−56°−W	−	0～28.9	P1 39.5 P2 30.4	−	−	(旧)(44) ×42 (新)48× 47	−		弥生Ⅱ
SI-064	3.45×−	N−(33)°− W	−	0～11.8	P1 17.6 P2 29.0 P3 24.9	−	−	−	−		古墳Ⅱ 156と 同一
SI-065	−	N−50°−W	−	0～27.3	P1 42.9 P2 26.7 P3 28.0 P4 (55.0)	−	16×7.3	55×55	−		古墳Ⅱ
SI-066	−	N−(4)°−E	−	0～26.9	−	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-067	4.8×4.74	N−33°−W	22.69	0～41.4	P1 45.7 P2 51.8 P3 21.8 P4 47.4	54×53×34.6	−	52×46	−		古墳Ⅱ
SI-068	−	−	−	0～16.6	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-069	4.26×4.25	N−39.5°−W	16.96	0～31.4	P1 33.2 P2 21.7 P3 − P4 38.0	92×72×27.9	−	44×50	−		古墳Ⅱ
SI-070	−	N−(41)°− W	−	0～4.3	−	−	14×3.2	−	−		古墳Ⅰ
SI-071	−	−	−	0～19.4	P1 42.5 P2 26.4 P3 56.6 P4 16.5	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-072	6.2×5.6	N−32°−W	25.5	0～33.1	P1 57.9 P2 45.0 P3 38.5 P4 62.3	−	−	(新)(44) ×40 (旧)(46) ×39	59×43×35.8		弥生Ⅱ
SI-073	6.9×5.78	N−45°−W	(21.81)	0～16.2	P1 80.3 P2 75.4 P3 80.0 P4 67.9	−	−	70×44	−		弥生Ⅲ
SI-074	−	−	−	−	−	−	−	−	−		不明
SI-075	5.8×5.7	N−(61)°− W	24.42	0～65.6	−	−	−	−	−		不明
SI-076	−	−	−	0～3.9	−	−	−	31×27 31×30	−		弥生
SI-077	4.12×3.75	N−(27.5)°− W	16.62	7～18	−	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-078	−	−	−	−	−	−	−	−	−		不明
SI-079	−	−	−	−	−	−	−	−	−		不明
SI-080	−	−	−	−	−	−	−	−	−		不明
SI-081	−	−	−	−	−	−	−	31×28 28×26 22×22 37×32	−	4つの炉のみ検出(壁は無し)	不明
SI-082	−	N−20°−W	−	0～28.9	−	−	−	(55)×33	−		古墳
SI-083	5.15×4.4	N−42.5°−W	20.44	7.6～20.7	−	−	−	50×47	−		古墳Ⅲ

遺構No.	規模(m) 長軸×短軸	主軸方向	面積 (㎡)	壁高 (cm)	柱穴深さ (cm)	貯蔵穴(cm) 長径×短径×深さ	壁溝(cm) 幅×深さ	カマド・炉 (cm) 長径×短径	出入口ピット (cm) 長径×短径× 深さ	備考	時期区分
SI-084	8.5×7.19	N−39.5°−W	29.65	3.4〜10.5	P1 68.4 P2 59.1 P3 49.3 P4 63.5	−	7×4.7	70×54 80×78	−		弥生Ⅲ
SI-085	−	−	−	0〜7.2	−	−	−	−	−		不明
SI-086	8.05×7.75	N−30.5°−W	36.31	0〜23.2	P1 74.8 P2 70.7 P3 74.1 P4 81.9	94×93×32.2	−	(55) ×36 53×38	−		古墳Ⅲ
SI-087	−	−	−	−	−	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-088	−	−	−	−	−	−	−	78×70 (110) × 50	−		古墳Ⅰ
SI-089	4.42×3.77	N−69°−W	15.48	0〜42.3	P1 29.3 P2 14.7 P3 22.9	−	16×4.8	36×35	15×12×23	ベッド状の高まり有	弥生Ⅱ
SI-090	7.32×(5.95)	N−50°−W	(28.53)	0〜70.5	P1 34.9 P2 42.6 P3 44.3	−	6×2.9	83×73	−		弥生Ⅲ
SI-091	−	−	−	0〜32.8	−	−	−	−	−		不明
SI-092	−	−	−	0〜30.2	−	−	−	(64) ×(43)	−		古墳
SI-093	7.3×6.1	N−39.5°−W	24.13	0〜4.8	P1 40.0 P2 47.6 P3 37.8 P4 30.5	−	12×6	59×40	−		古墳Ⅱ
SI-094	−	N−22°−W	−	0〜10.3	P1 49.6 P2 35.7 P3 42.7 P4 42.8	−	−	47×42	−		弥生Ⅲ
SI-095	−	−	−	0〜19.5	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-096	9.95×8.2	N−28°−W	31.57	8.3〜39.8	P1 70.7 P2 86.5 P3 73.2 P4 79.4	−	26×6.8	100×78	44×43		弥生Ⅱ
SI-097	−	N−3°−W	−	0〜16.3	−	−	−	36×36	−		古墳Ⅰ
SI-098	−	−	−	0〜21	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-099	3.75×3.4	N−19.5°−W	12.61	4.6〜19.4	−	−	−	59×38	−		不明
SI-100	−	−	−	0〜21.6	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-101	−	−	−	−	−	−	−	(旧) (92) ×60 (新) (82) ×(55)	−		弥生Ⅲ
SI-102	−	N−(52.5)°−W	−	0〜26.9	P1 11.1 P2 20.2 P3 12.5 P4 22.3	−	−	44×35	−		古墳Ⅱ
SI-103	−	N−26°−W	−	0〜23.1	−	−	−	65×44	−		弥生Ⅲ
SI-104	−	N−(19)°−E	−	0〜12.5	−	−	−	59×52	−		弥生Ⅲ
SI-105	5.11×5.01	N−58°−W	18.11	0〜15.7	P1 61.6 P2 33.8 P3 67.9 P4 49.0	−	−	78×53	21×20×9.6		弥生Ⅱ
SI-106	−	−	−	0〜17.7	−	−	−	−	−		不明
SI-107	−	N−(19)°−W	−	0〜9	−	−	−	−	−		不明
SI-108	−	−	−	0〜4.5	−	−	−	−	−		弥生
SI-109	4.95×4.22	N−34°−W	16.77	0〜32.7	−	−	−	63×47	−		弥生Ⅲ
SI-110	−×3.11	N−5°−W	−	0〜12.4	−	−	−	68×44	−		弥生Ⅲ
SI-111	−	N−43°−W	−	0〜4.2	−	−	−	50×49	−		弥生Ⅲ
SI-112	−	N−(8)°−W	−	0〜9.5	−	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-113	3.29×3.19	N−33°−W	11.13	0〜28.9	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-114	(2.7) × 2.65	N−35°−W	(9.64)	0〜17.4	−	−	−	34×29	25×22×12.7		弥生
SI-115	3.8×3.64	N−50°−W	14.75	0〜25.3	−	−	−	63×61	−		古墳Ⅱ
SI-116	4.52×3.92	N−61.5°−W	14.79	3.8〜33.7	P1 44.8 P2 30.7 P3 41.0 P4 25.2	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-117	−	−	−	0〜1.8	−	−	−	−	−		不明
SI-118	−×6.14	N−(29)°−W	(25.54)	0〜33.4	P1 58.8 P2 45.9	−	−	−	−		弥生Ⅰ
SI-119	4.67×−	N−46.5°−W	−	0〜9.3	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-120	−	N−(28.5)°−W	−	0〜7.5	−	−	−	−	−	炉の一部を検出	不明
SI-121	−×6.8	N−(50)°−W	(25.38)	0〜34.6	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-122	−	N−(18.5)°−W	−	0〜2.6	−	−	−	48×40	−		不明
SI-123	4.6×4.55	N−68°−W	16.31	0〜20.4	P1 75.9 P2 58.3 P3 47.1 P4 62.0	−	−	56.1×45	−		古墳Ⅰ
SI-124	−	−	−	−	−	−	−	−	−		古墳Ⅲ

遺構№	規模 (m) 長軸×短軸	主軸方向	面積 (㎡)	壁高 (cm)	柱穴深さ (cm)	貯蔵穴 (cm) 長径×短径×深さ	壁溝(cm) 幅×深さ	カマド・炉 (cm) 長径×短径	出入口ピット (cm) 長径×短径× 深さ	備考	時期区分
SI-125	−	−	−	0～12.5	−	−	−	−	−		弥生
SI-126	4.83×4.8	N−19° −W	19.28	7.3～32.4	P1 41.4 P2 59.1 P3 67.0 P4 54.5	71×56×58	−	−	−		古墳Ⅲ
SI-127	3.59×3.5	N−30.5° −W	15.47	0～8.4	−	−	−	91×61	−		古墳Ⅱ
SI-128	−	S−22° −E	−	0～11.5	−	−	−		−		古墳Ⅱ
SI-129	6.5×−	−	−	0～5.5	−	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-130	−	N−9° −W	−	0～7.3	−	−	−	62×46	−		弥生Ⅲ
SI-131	−×37.4	N−44° −W	(15.09)	0～3.4	−	−	−	−	−		不明
SI-132	6.28×5.94	N−19.5° −W	25.64	1.9～24.2	P1 31.1 P2 44.9 P3 23.8 P4 49.0	−	−	90×86	−		古墳Ⅱ
SI-133	4.44×−	N−33° −W	−	0～24.4	−	−	−	75×62	−		弥生Ⅲ
SI-134	6.45×5.55	N−25° −W	22.36	0～25	P1 70.0 P2 37.1 P3 32.1 P4 36.7	−	−	旧 (42) × 36 新58×42	−		弥生Ⅱ
SI-135	−	−	−	−	−	−	−	63×43	−		不明
SI-136	3.42×3.4	N−41.5° −W	12.30	0～18.9	−	−	−	67×50	−		弥生Ⅲ
SI-137	−	−	−	0～20.6	−	−	−	−	−		弥
SI-138	7.3×6.09	N−52° −W	24.21	25.5～43	P1 57.5 P2 58.9 P3 59.8 P4 63.7	69×44×29.9	24×5.1	60×46	38×33×34		弥生Ⅰ
SI-139	−	N−21° −W	−	−	−	−	−	58×44	−		弥生Ⅱ
SI-140	−	−	−	0～10.2	−	−	−	−	−		弥生
SI-141	−×5.13	N−29° −W	(18.75)	0～11	P1 44.3 P2 29.2 P3 27.5 P4 23.5	−	14×2.5	(91) ×58	53×44×28.2		弥生Ⅲ
SI-142	5.3×4.97	N−44° −W	17.95	0～29.2	P1 27.4 P2 36.7 P3 25.5 P4 43.7	41×32×35.6	−	58×48	29×23×14.8		不明
SI-143	−	−	−	0～17.3	P1 16.5 P2 35.4	−	−	−	−		古墳Ⅰ
SI-144	−	−	−	−	−	−	−	91×56	−		不明
SI-145	−×3.46	N−53.5° −W	(16.47)	0～12.6	−	−	−	50×32	−		弥生Ⅲ
SI-146	−	N−32° −W	−	0～10	P1 51.3 P2 43.0 P3 55.1 P4 55.0	−	−	(80) ×(80)	−		弥生Ⅲ
SI-147	4.26×4.07	N−56.5° −W	13.91	5.8～37.7	P1 46.9 P2 49.9 P3 58.1 P4 48.0	−	−	47×39	24×19×17.1		弥生Ⅲ
SI-148	5.3×5.13	N−54° −E	20.73	0～18.4	P1 56.5 P2 47.4 P3 46.1 P4 28.8	74×63×40.4	−	69×49	−		古墳Ⅲ
SI-149	3.41×3.2	N−46° −E	11.16	11.3～32	−	−	−	70×38	−		弥生Ⅲ
SI-150	−	−	−	0～12.6	−	−	−	−	−		弥生Ⅲ
SI-151	3.7×3.1	N−67° −W	11.85	3.2～15.4	−	−	−	51×43	23×22×21.9		弥生Ⅲ
SI-152	−	N−15° −W	−	−	−	−	−	64×50	−		不明
SI-153	4.87×4.49	N−99° −W	17.54	0～19.8	−	−	−	旧 (39) × 30 新39×30	−		古墳Ⅰ
SI-154	3.78×3.08	N−55° −W	12.06	0～29.5	−	−	−	−	30×29×23.5		弥生Ⅲ
SI-155	−	N−44.5° −E	−	0～1.7	−	−	10×4.1	43×29	−		古墳Ⅰ
SI-156	−	−	−	0～42	−	−	−	−	−		古墳Ⅱ
SI-157	−	−	−	0～47.6	−	−	−	−	−		弥生Ⅱ
SI-158	−	−	−	0～4.9	−	−	−	50×40	−		不明

写　真　図　版

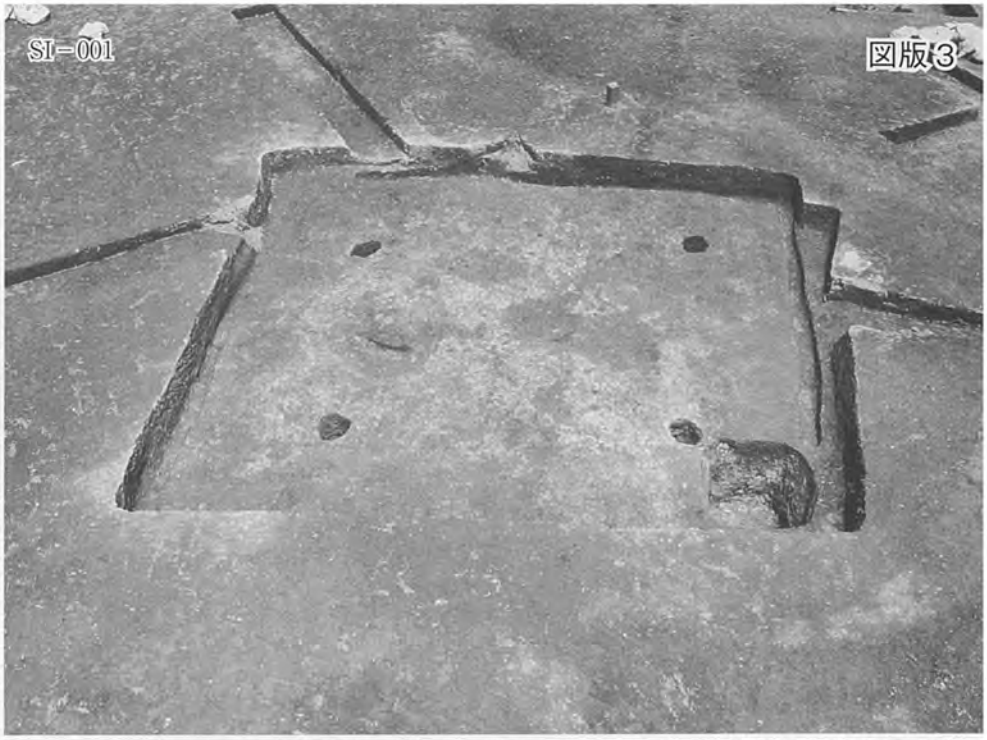
鹿島台遺跡周辺航空写真（1：13000）

図版２

C区全景（北から）

C区全景（東から）

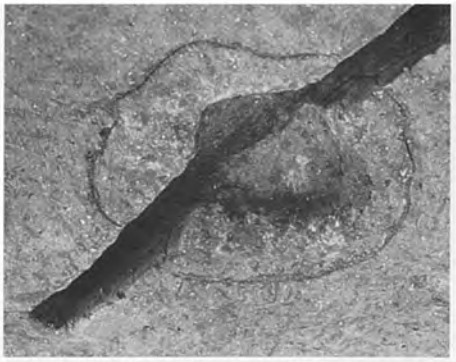
遺物出土状況

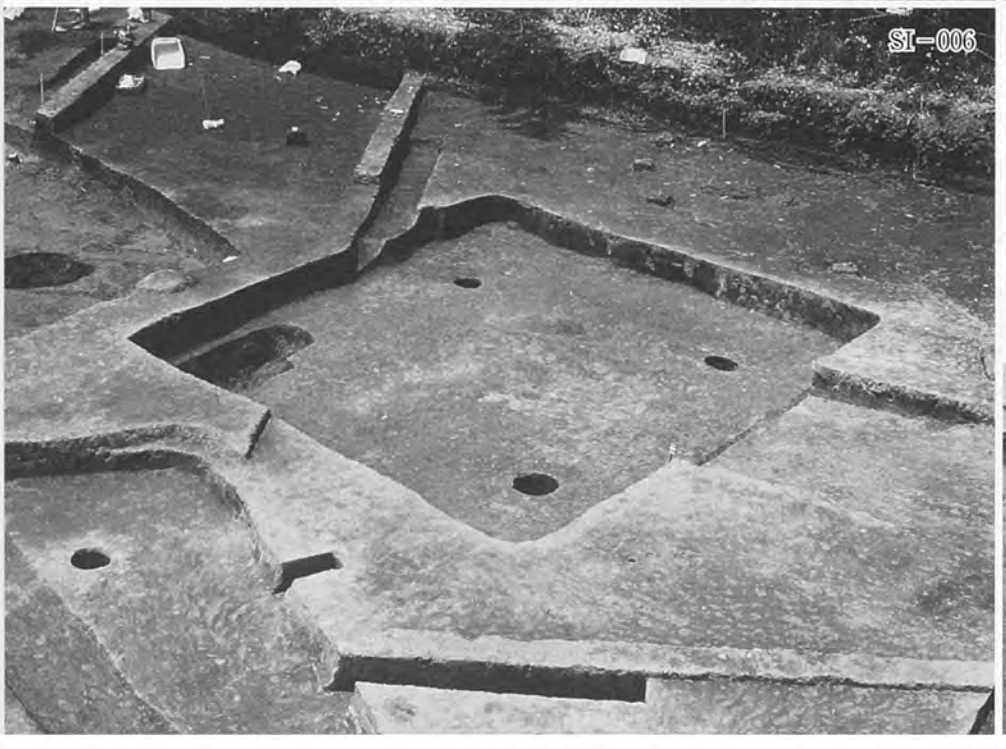


図版3

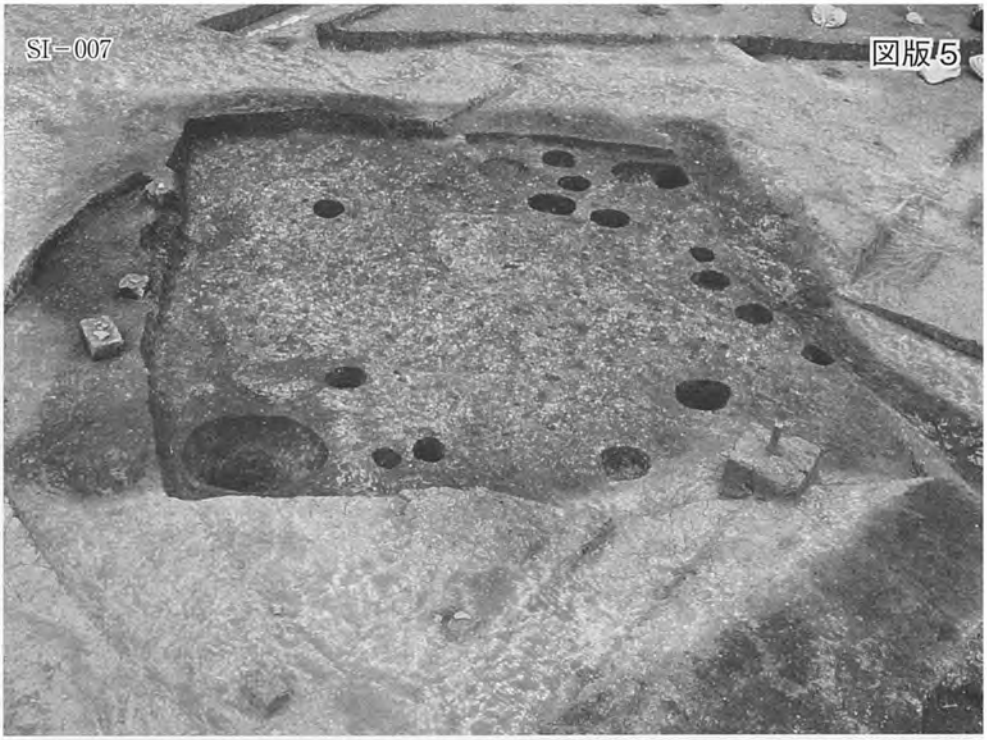
遺物出土状況

図版4

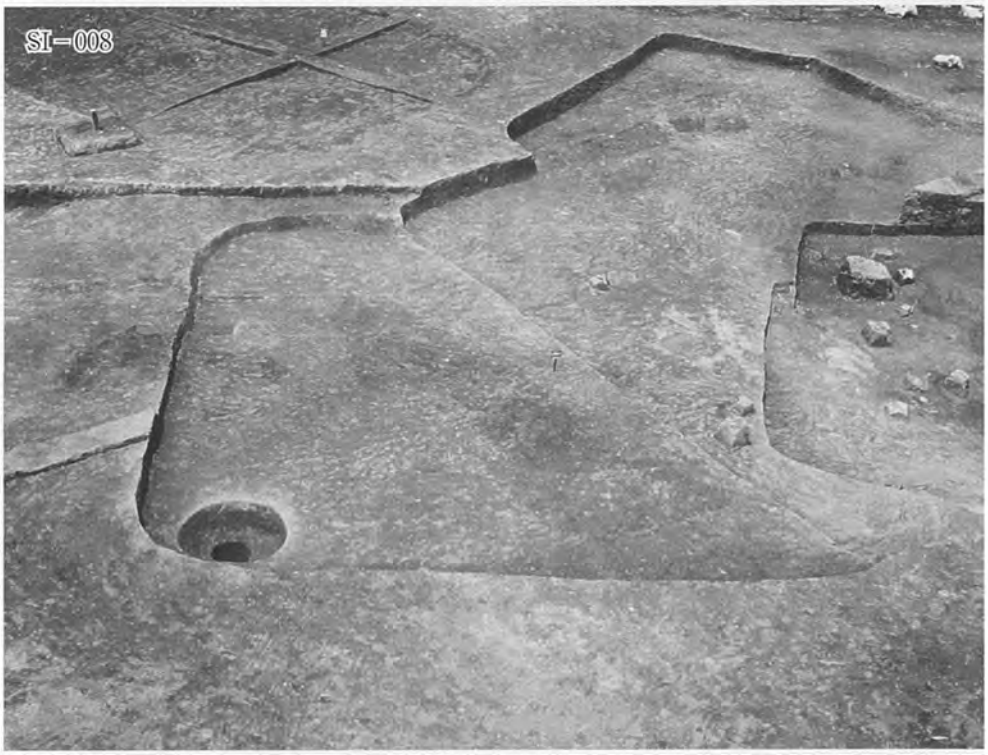




SI－007

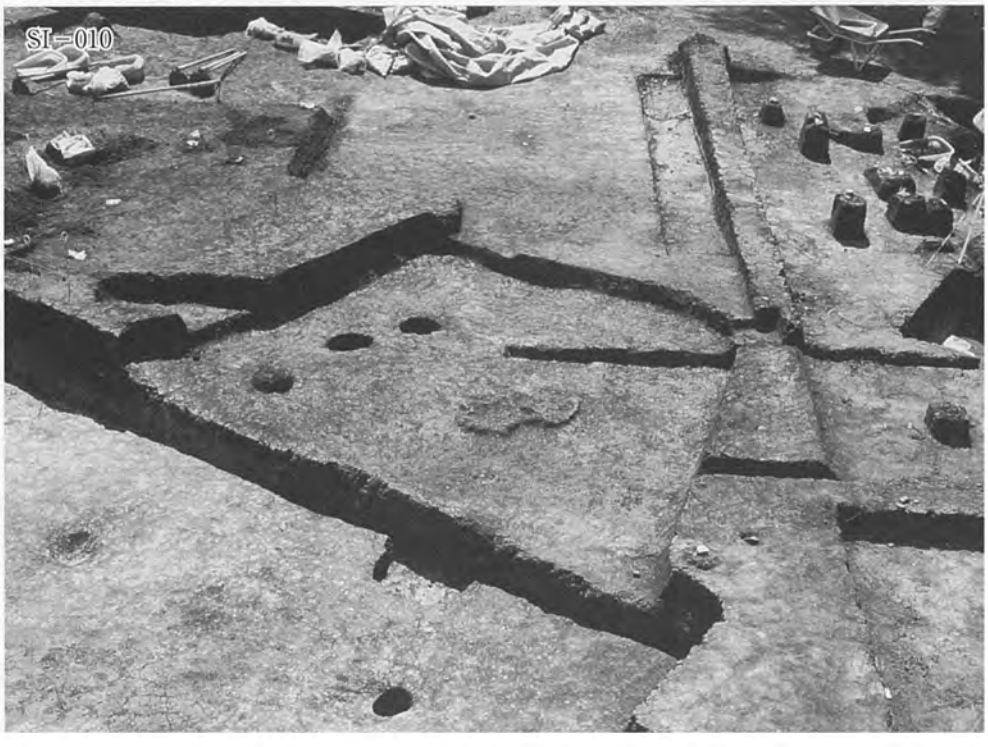


SI－008

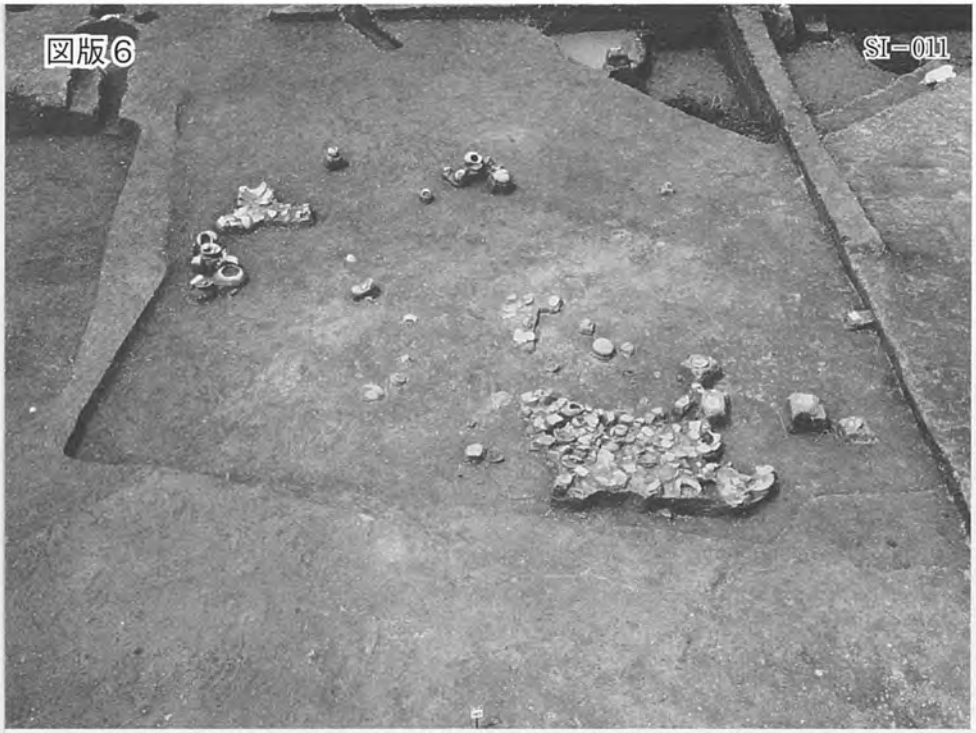


遺物出土状況

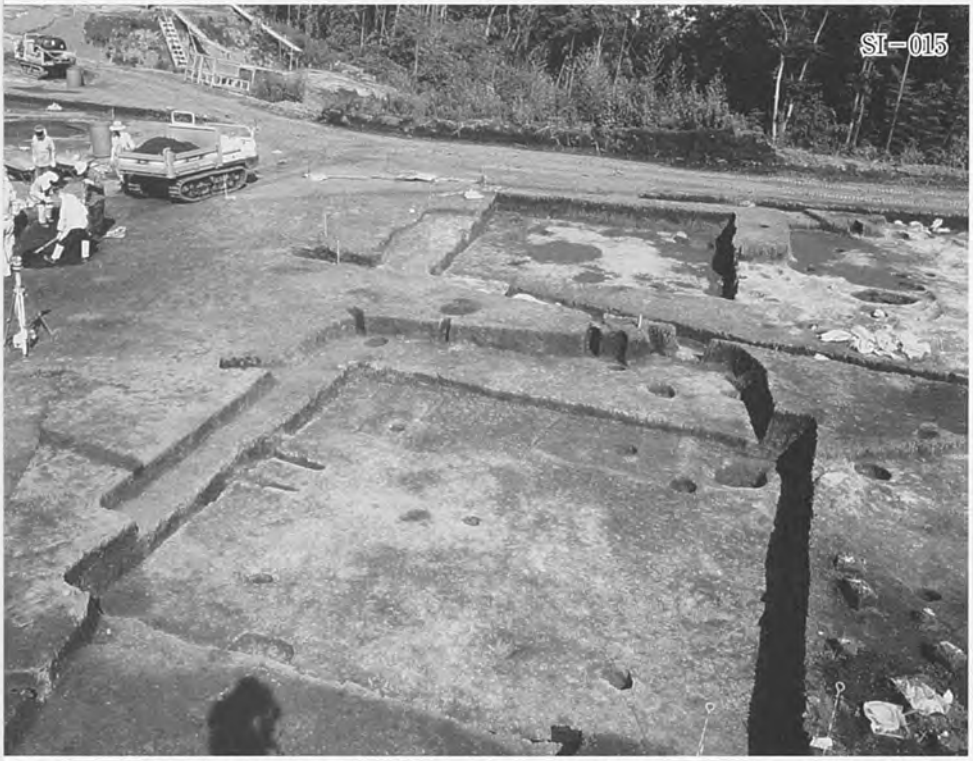
SI－010

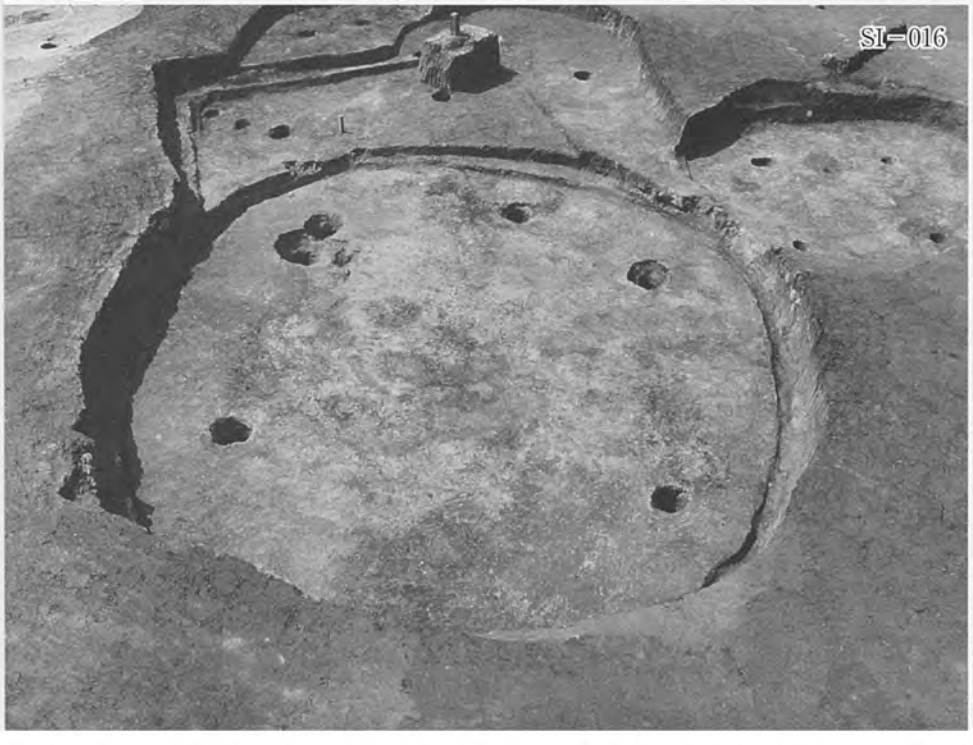


図版6



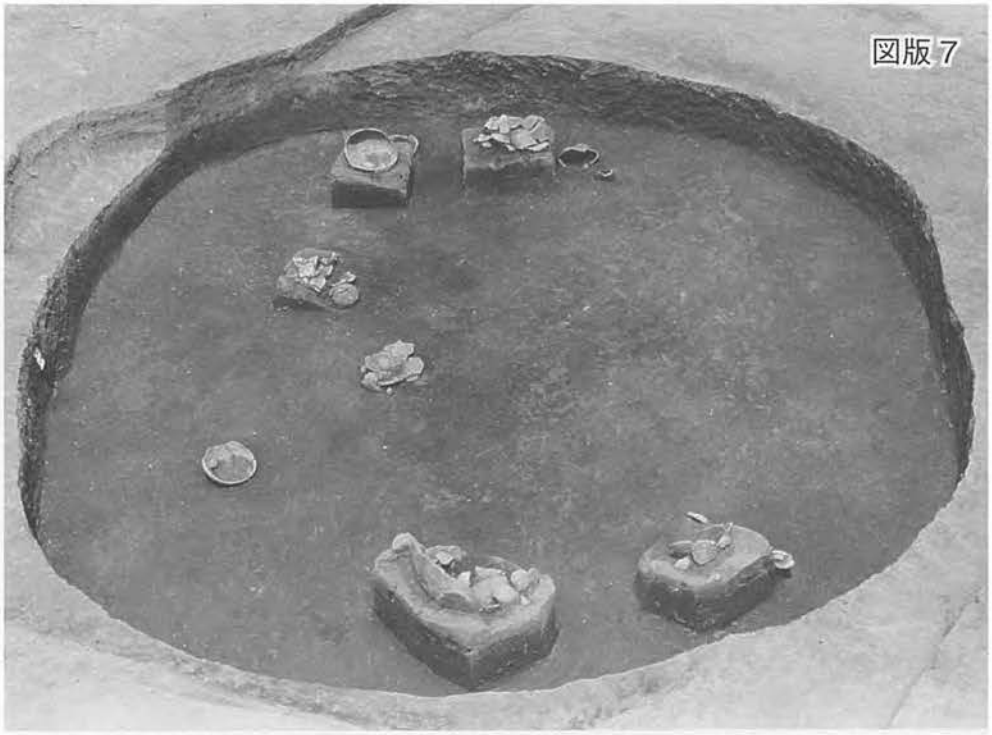
遺物出土状況





遺物出土状況

SI－017

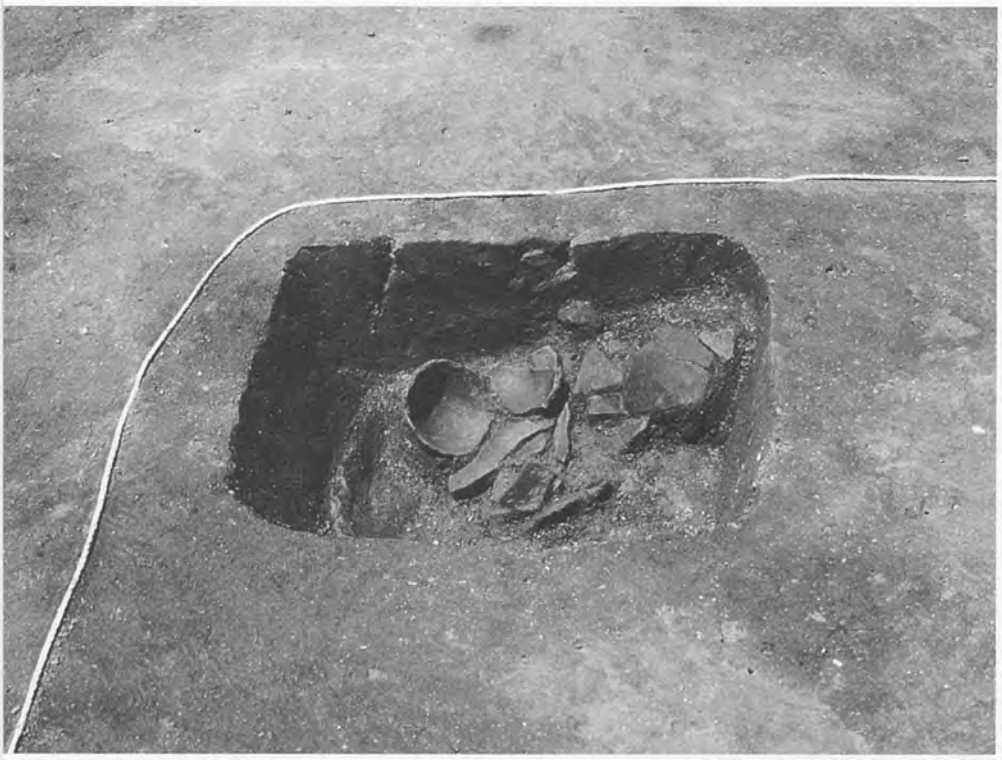


SI－021・SI－026

SI－024

図版8

SI－027



SI－028

SI－037

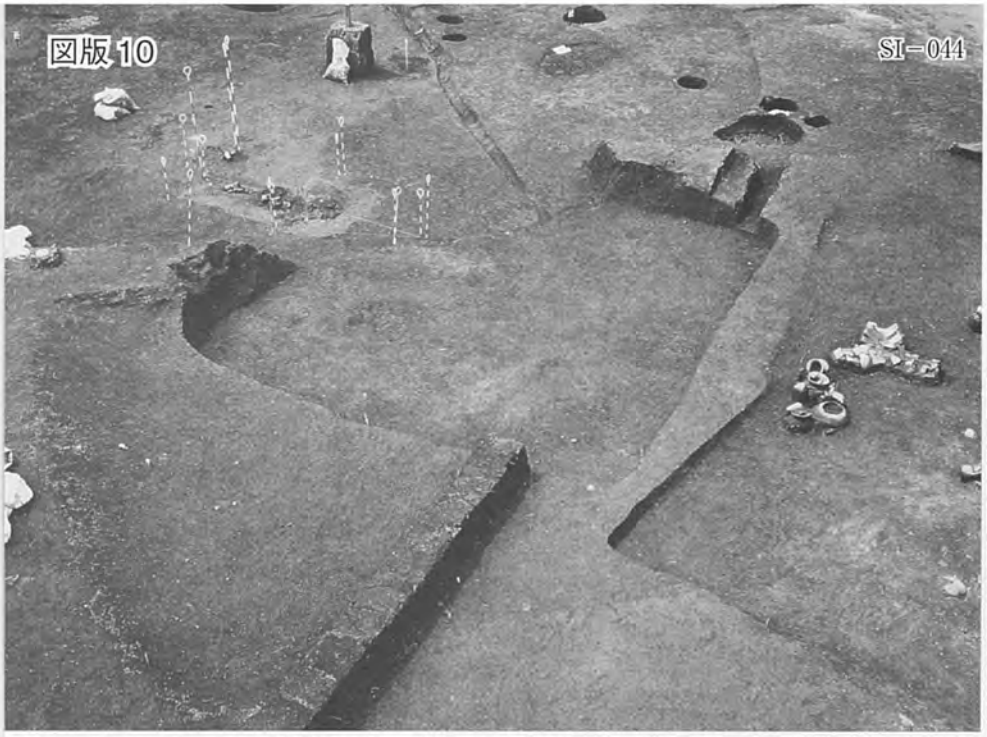
炉状況

SI－040

SI－042

SI－043

図版10



支脚出土状況

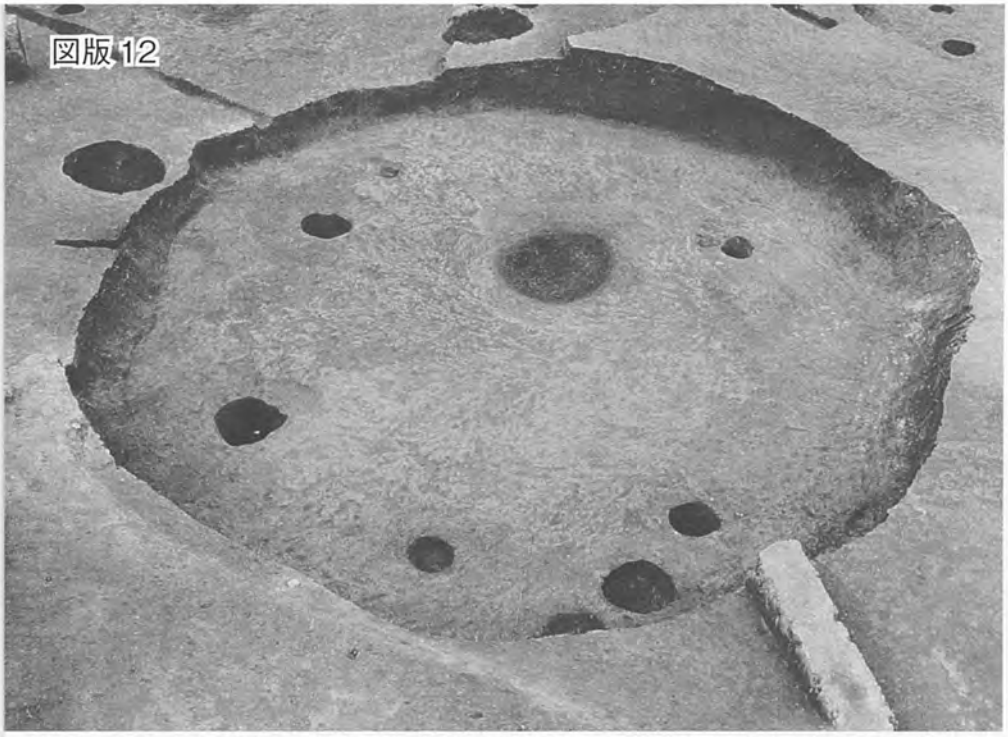
遺物出土状況

SI－051

SI－052

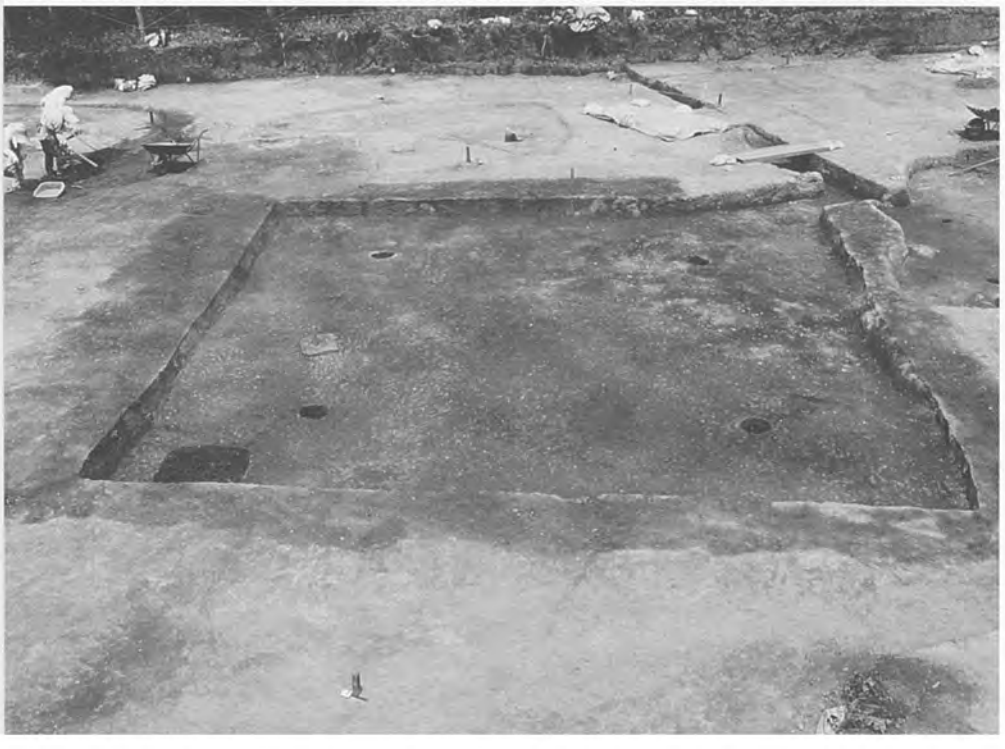
SI－059

図版12



SI－060

SI－070

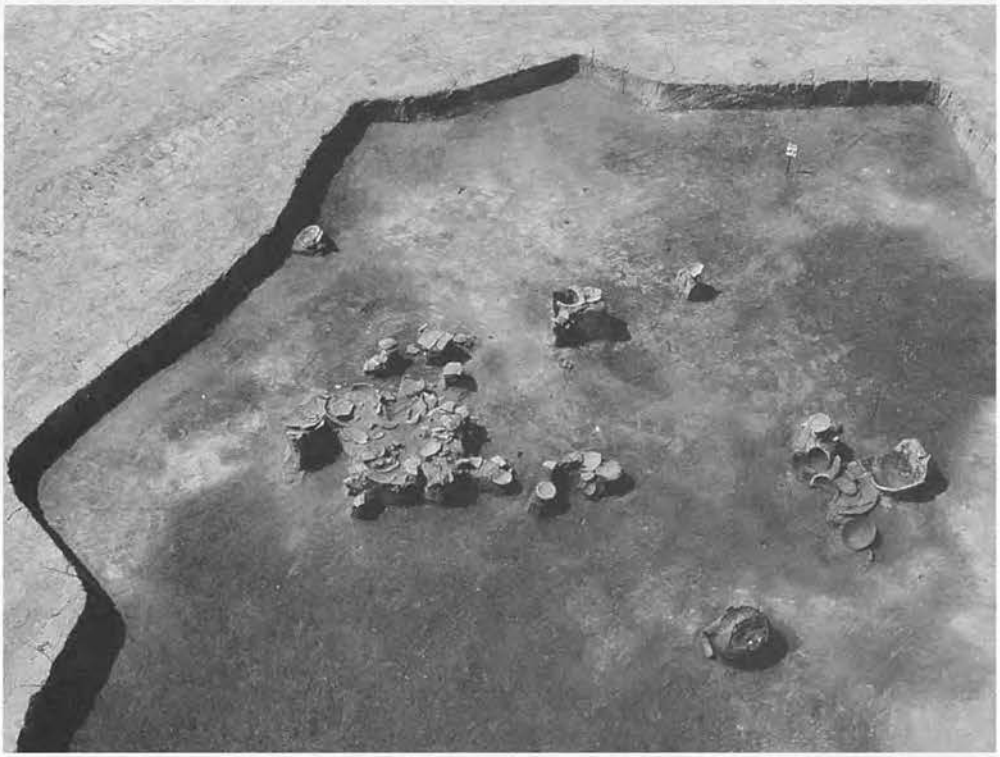


SI－086

SI－090

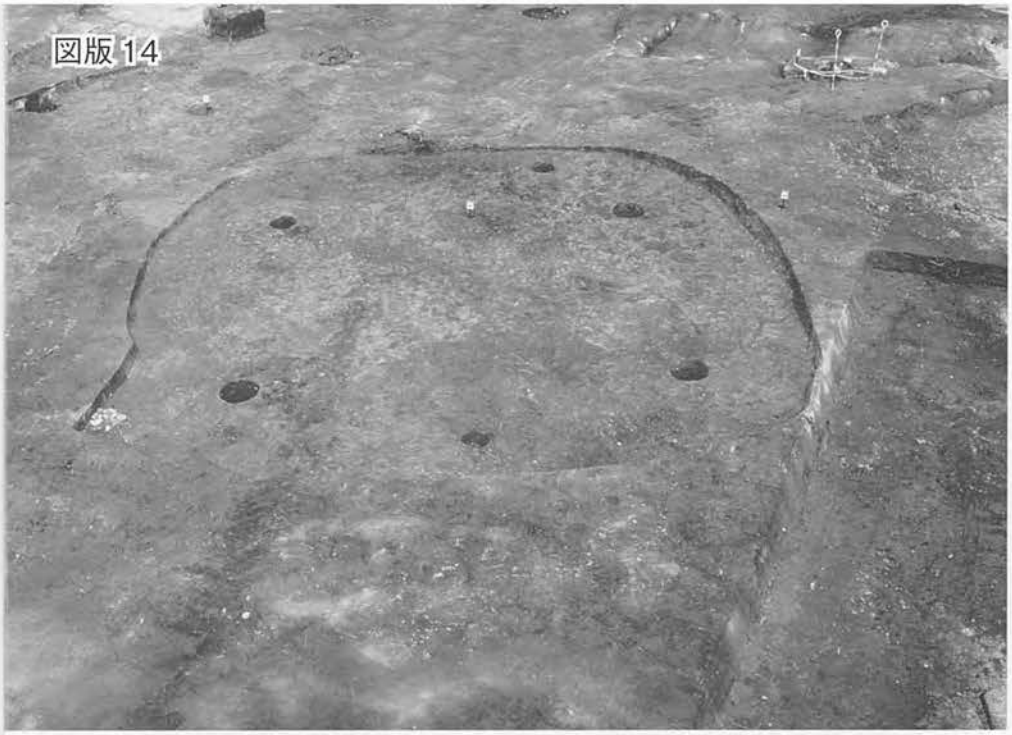
遺物出土状況

SI－097

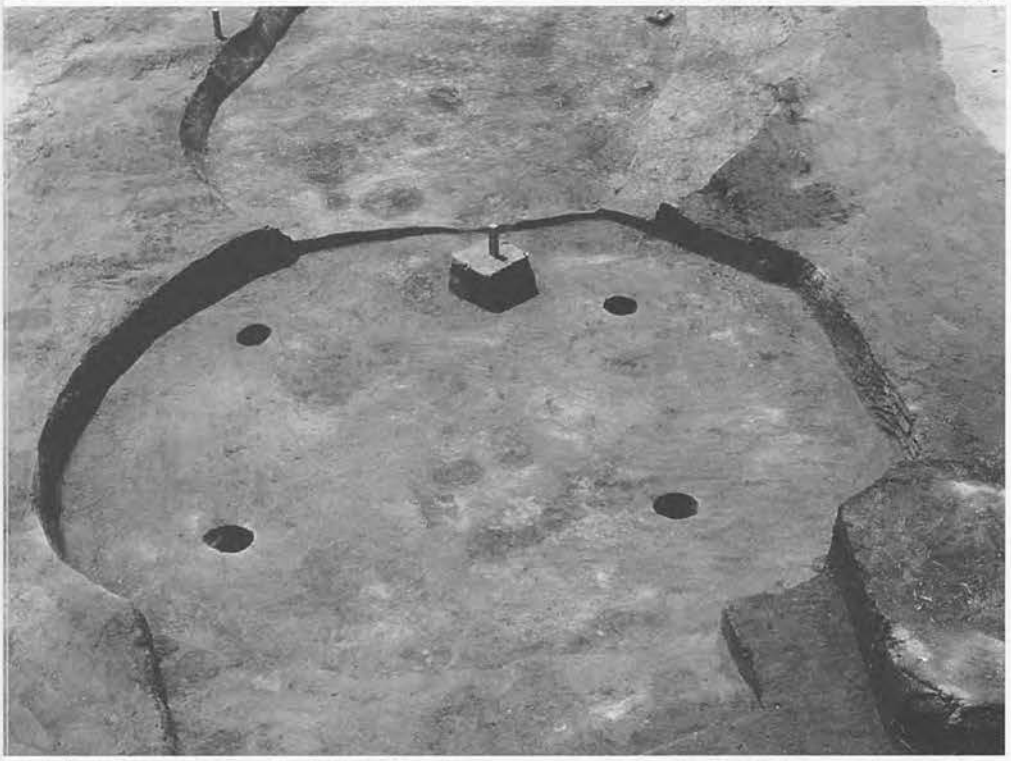


SI－103

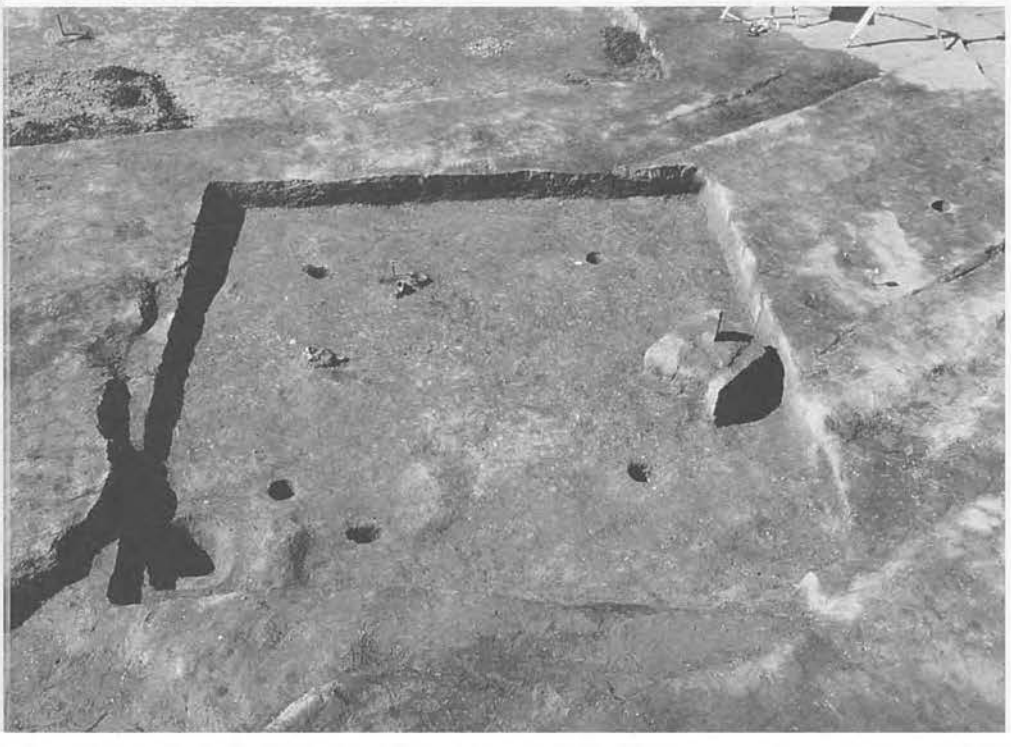
図版 14



SI－105



SI－116

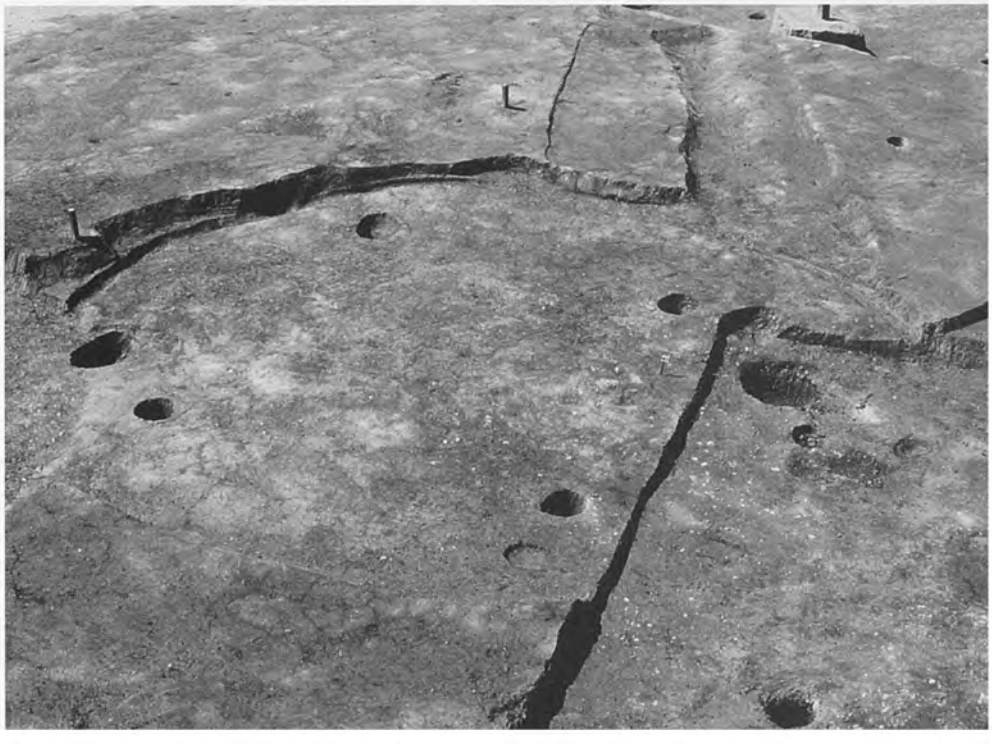


SI－126

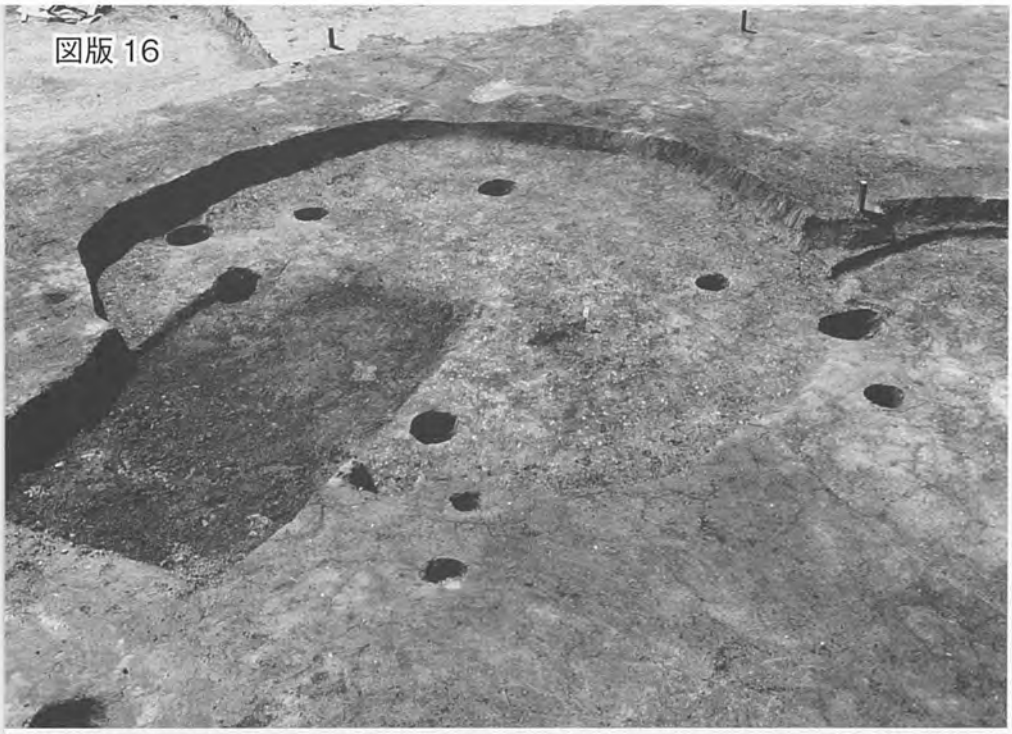
SI－132

SI－138

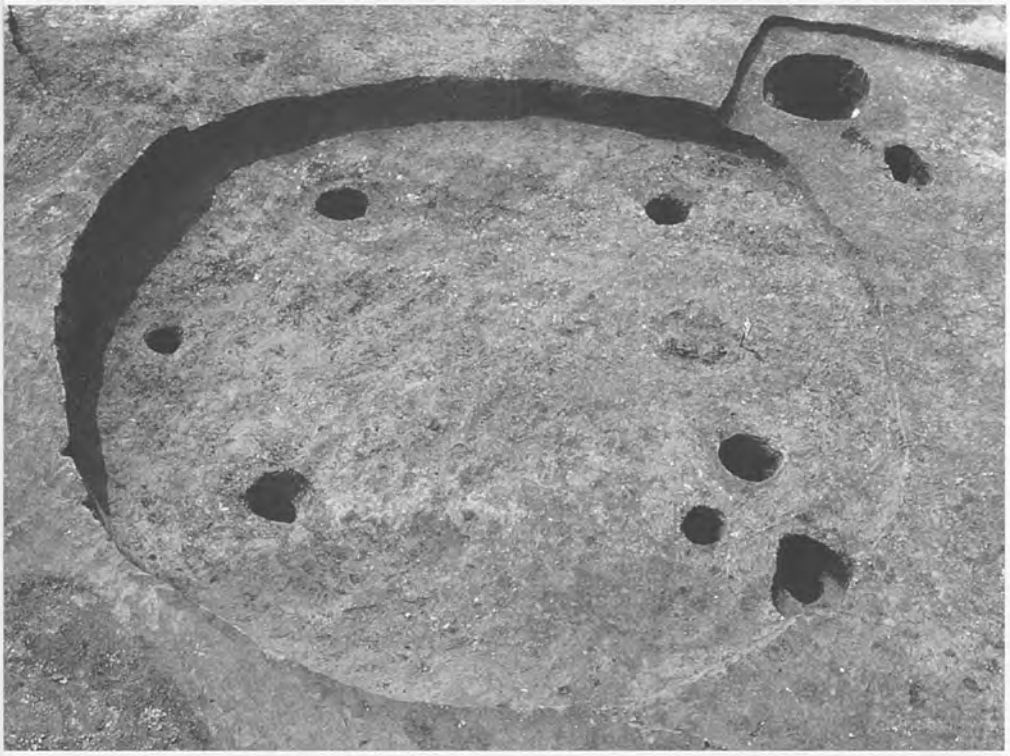
SI－141



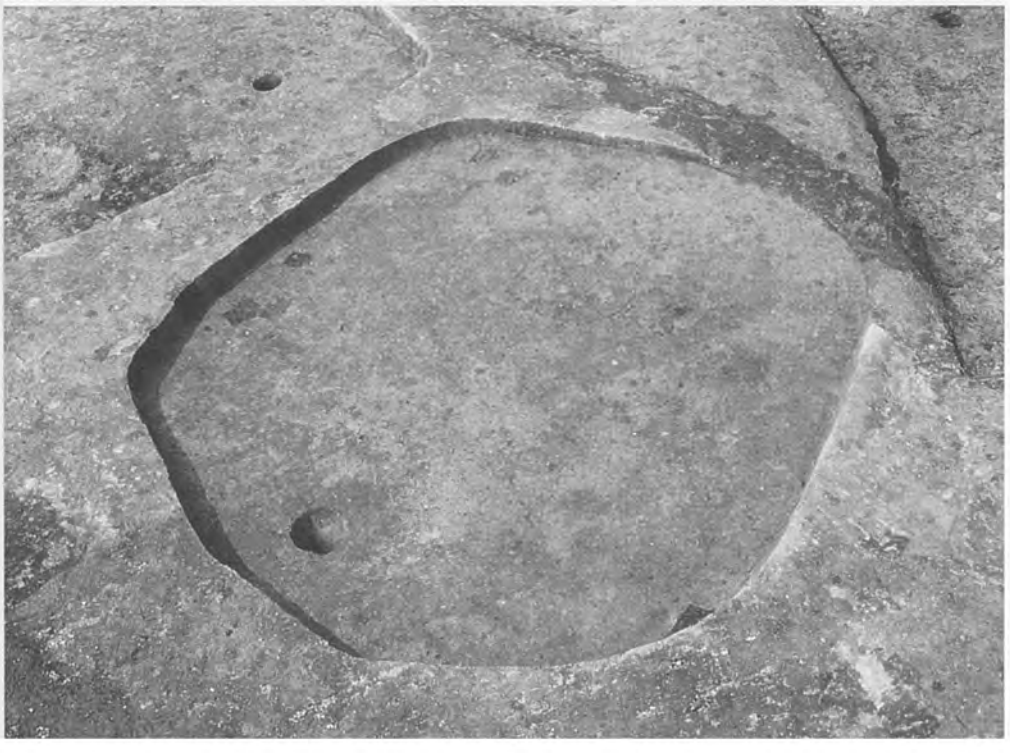
図版 16



SI－142



SI－147



SI－151

SK－001

SK－006

SK－007

SX－002

SX－004

SX－001

図版 18

6 号墳調査前全景

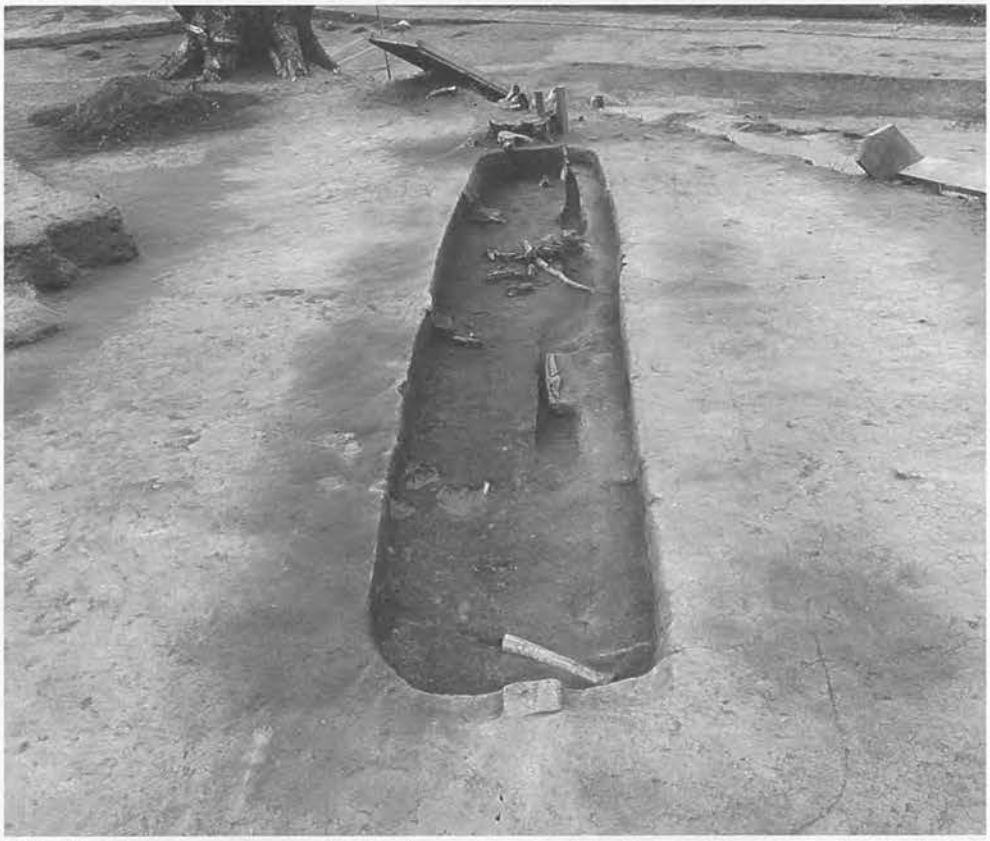
6 号墳墳丘・周溝状況

遺物出土状況

第 1 施設全景

第２施設全景

第２施設木棺部



遺物出土状況

13

54

64

70

80

35

109

112

63

58

15

57

65

75

99

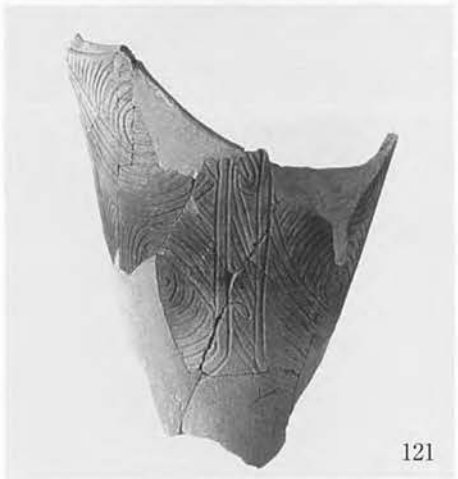
SX－001出土縄文土器（1）

107

59

72

68


121

132

135

75

99

114

62

138

117

71

120

SX－001出土縄文土器（2）

126

128

127

115

86

83

134

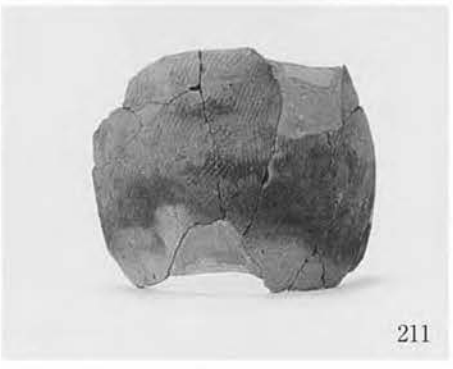
170

84

153

216

208


211

212

215

SX－001出土縄文土器（3）

213

219

229

143

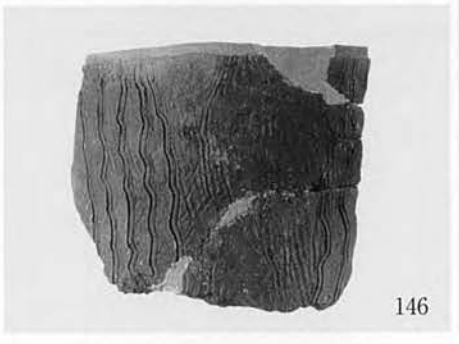
220

148

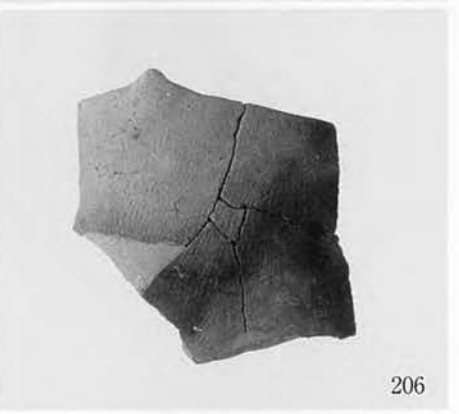
203

66

142


146

200


206

140

147

139

SX－001出土縄文土器（4）

159

141

142

207

209

202

196

195

190

204

217

280

252

263

229

253

SX－001出土縄文土器（5）

255

267

226

284

287

298

299

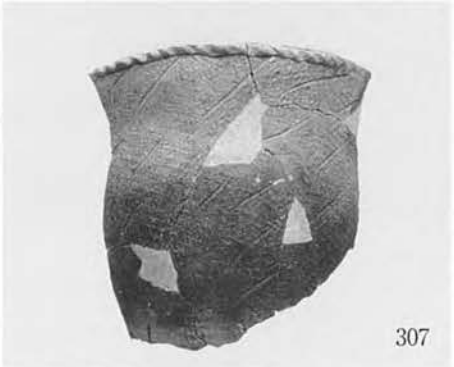
257

268

273

285

286


307

264

269

290

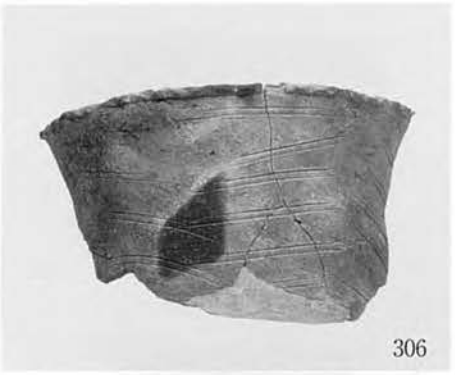
283

293

288

303

SX－001出土縄文土器（6）


306

289

321

外－ 34

外－ 132

外－ 153

308

293

320

外－ 2

外－ 115

外－ 152

304

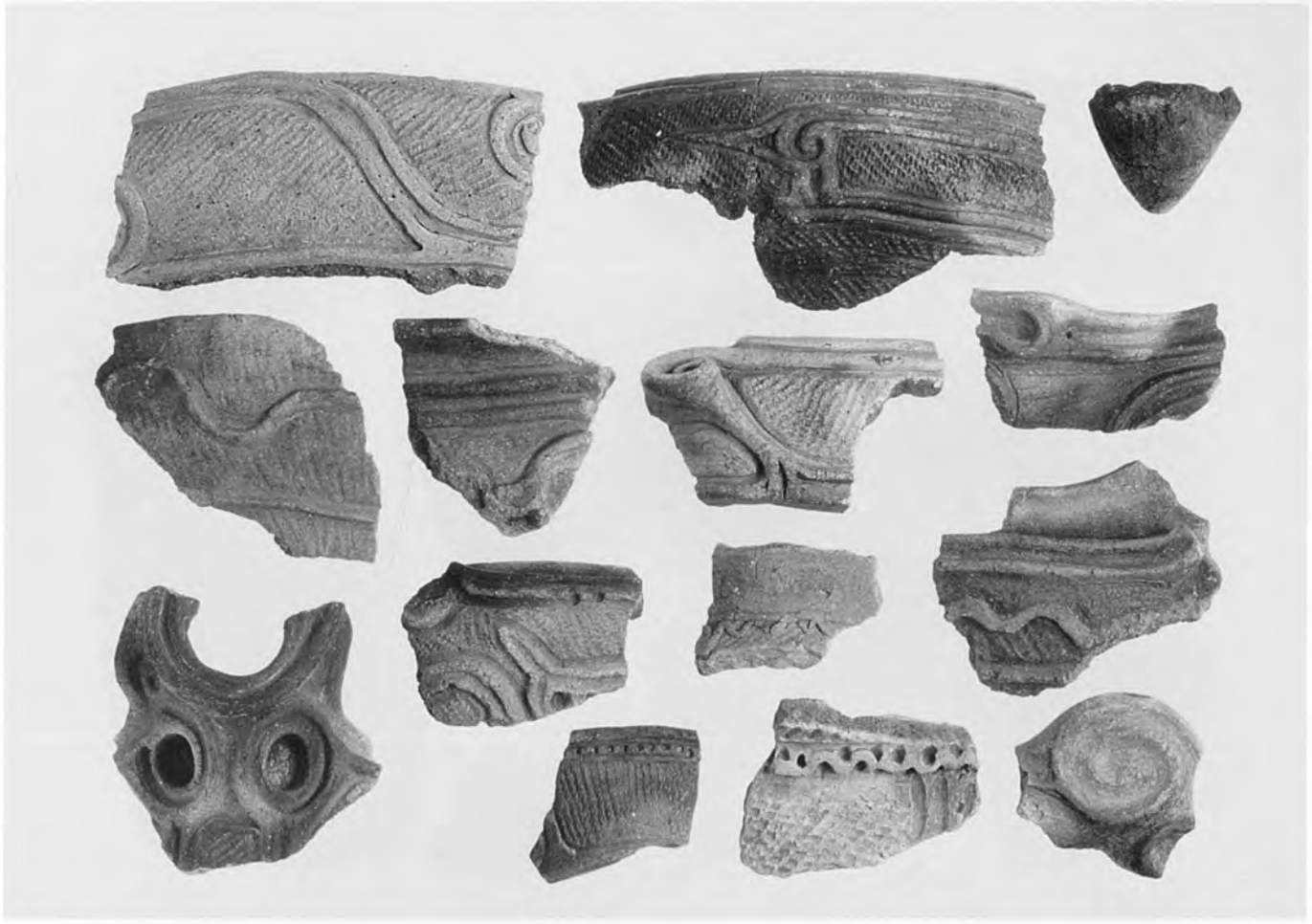
253

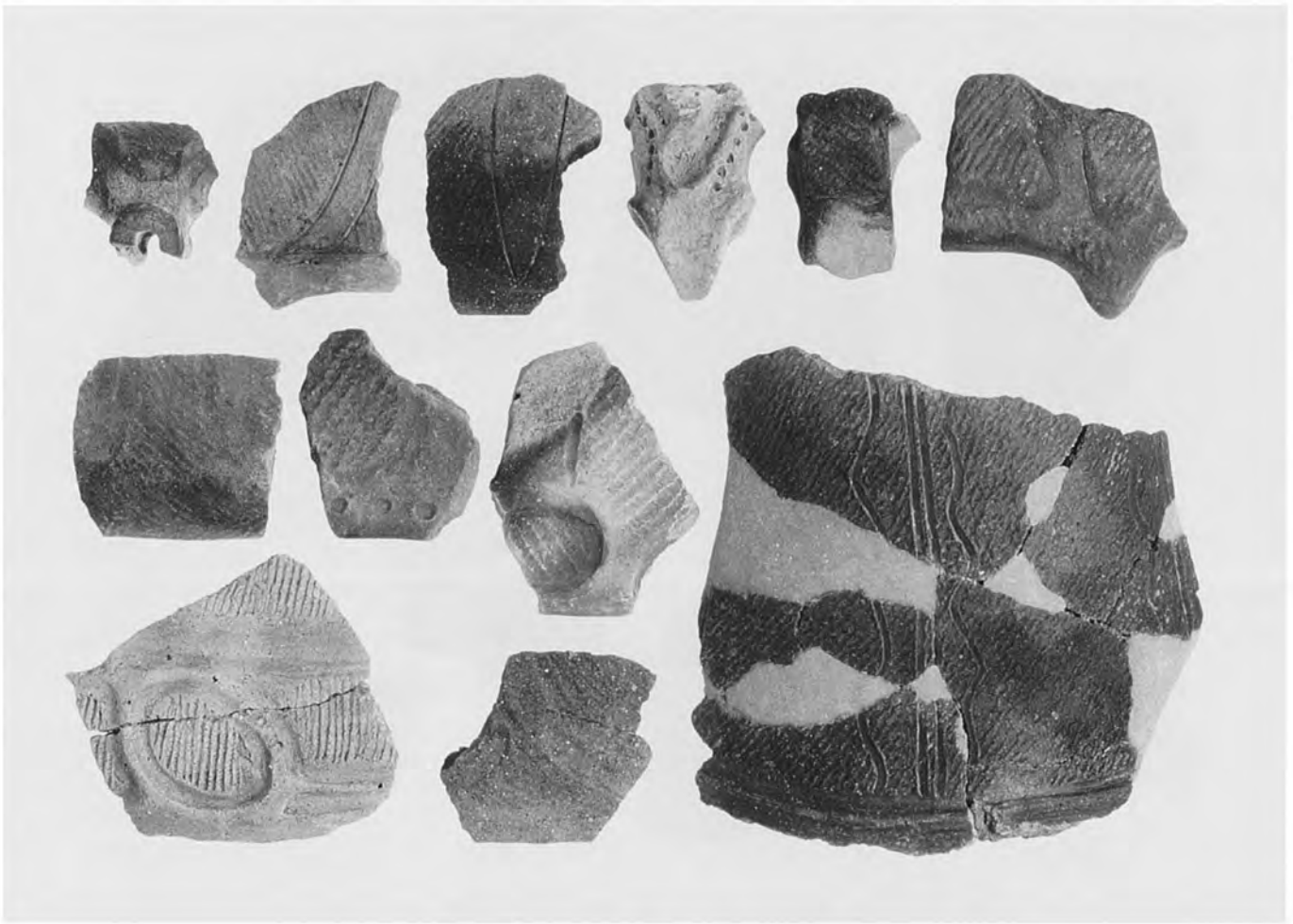
218

外－ 18

外－ 157

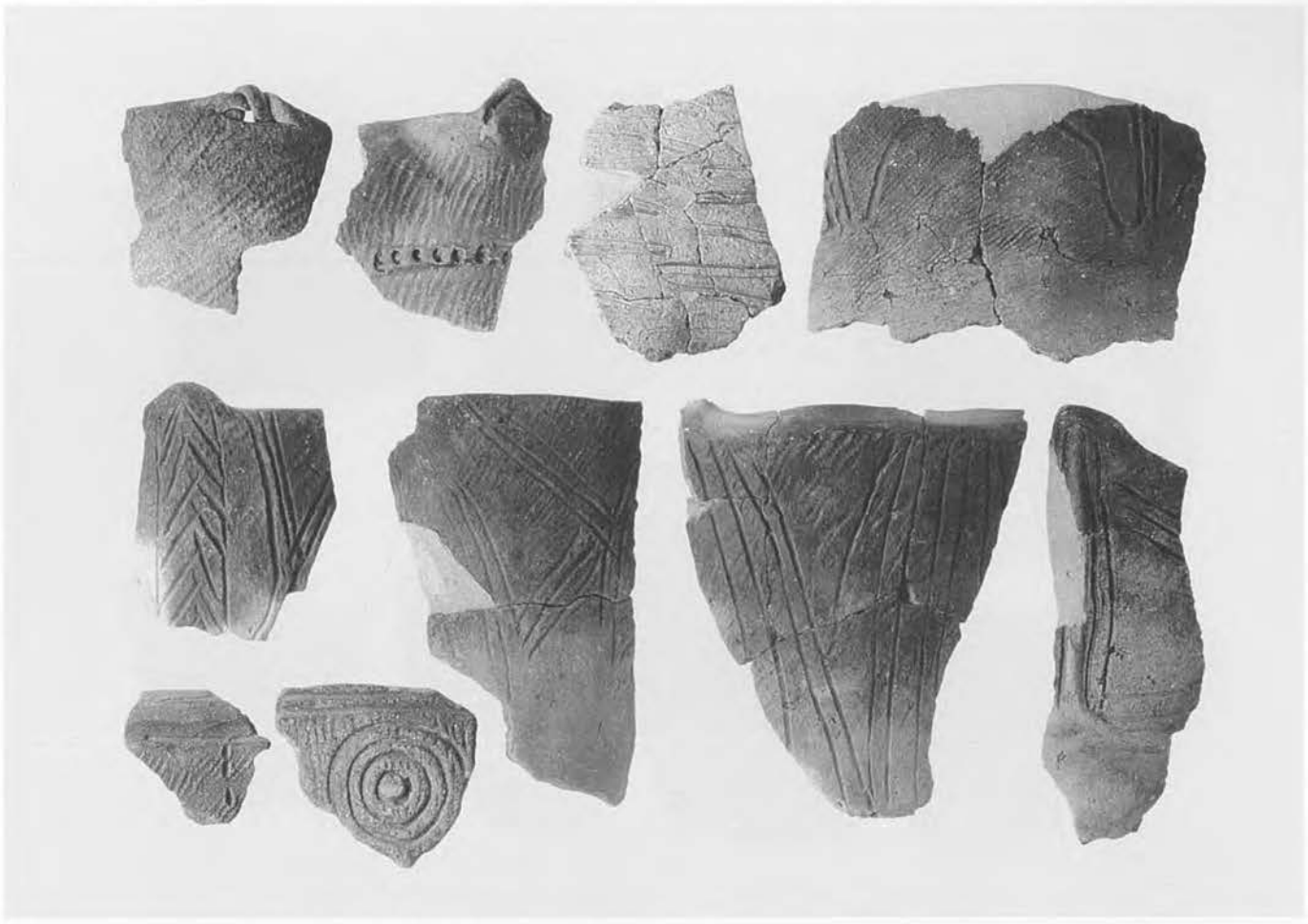
SX－001出土縄文土器（7）

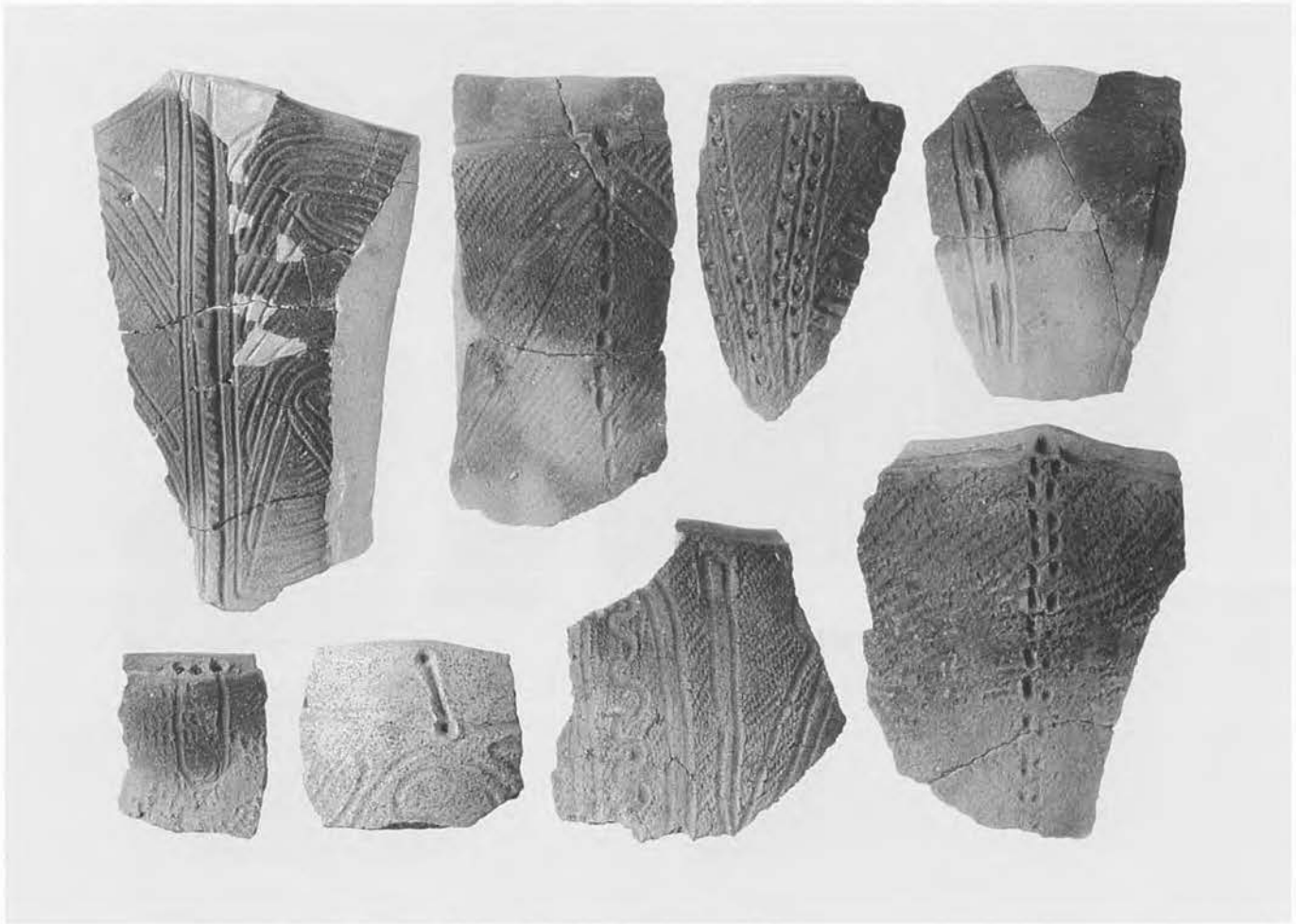




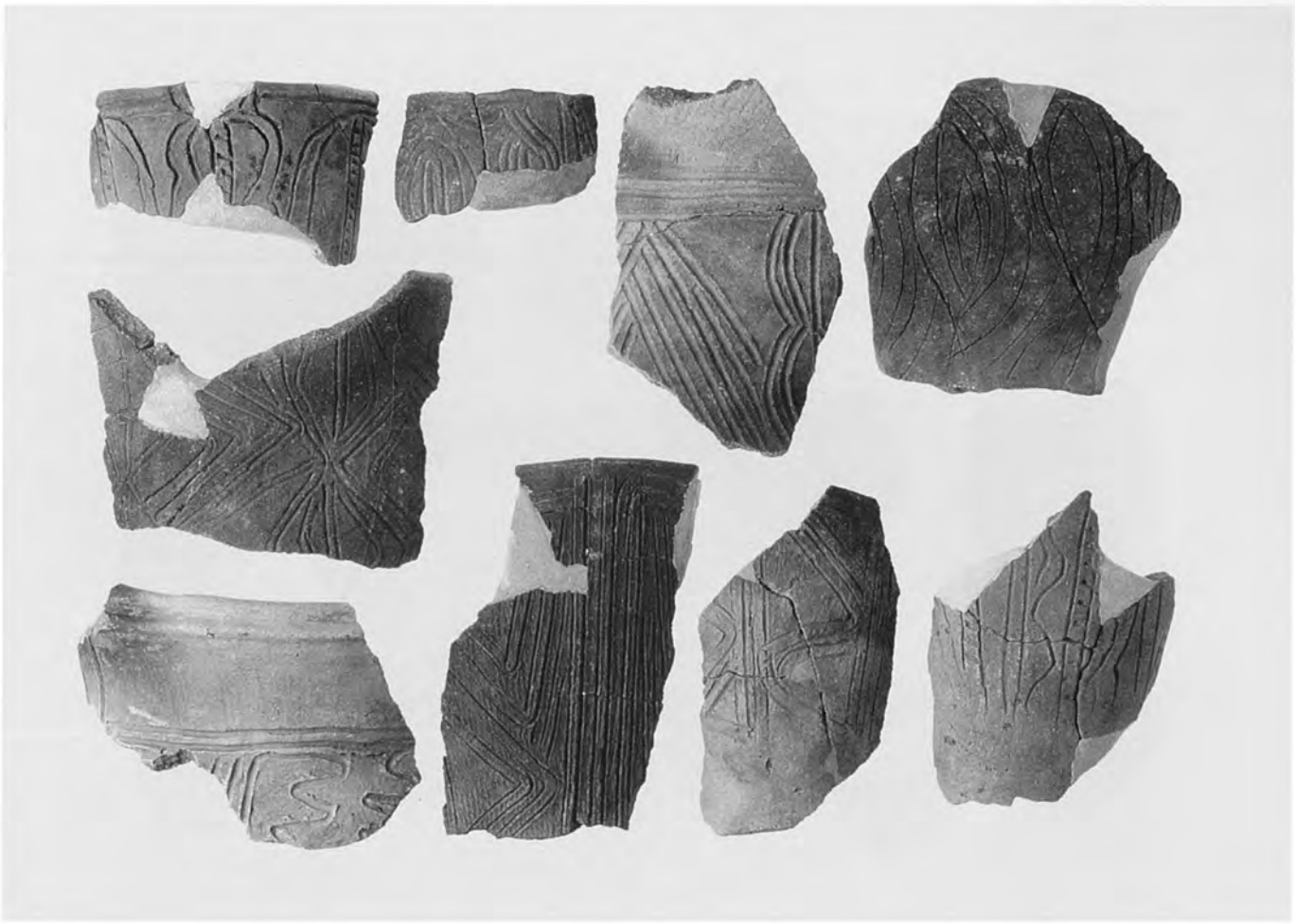
SX－001出土縄文土器（8）

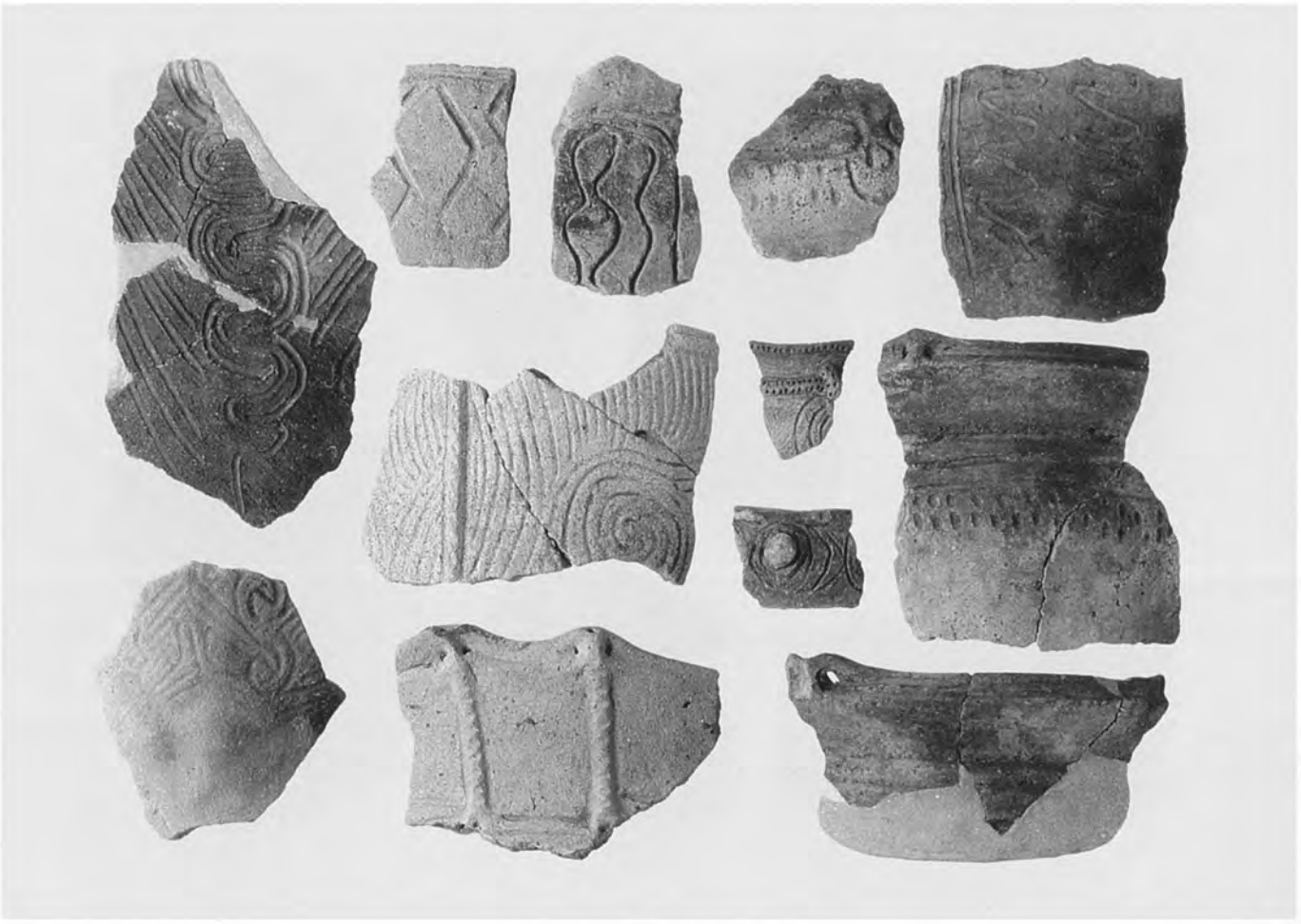
SX－001出土縄文土器（9）



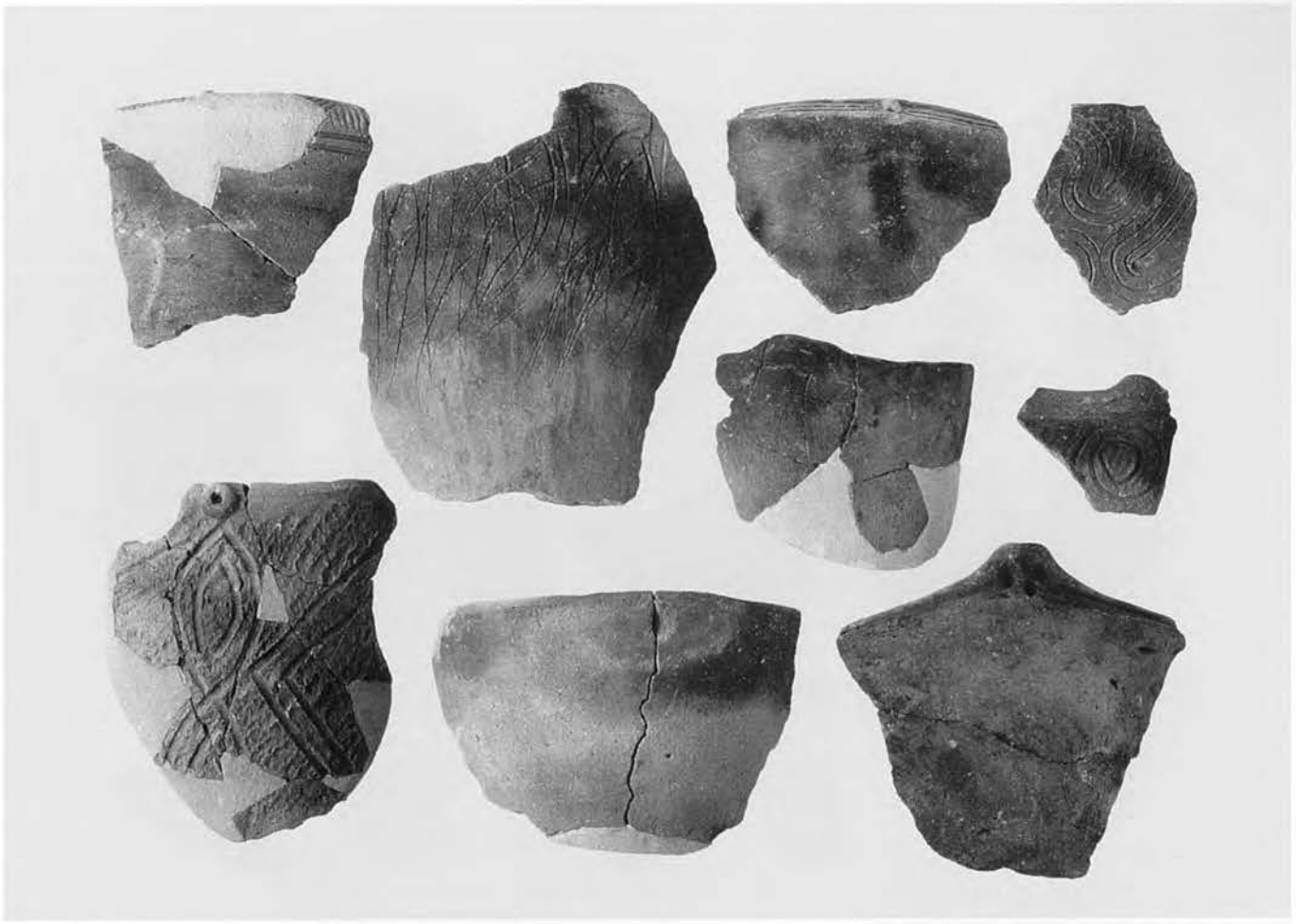


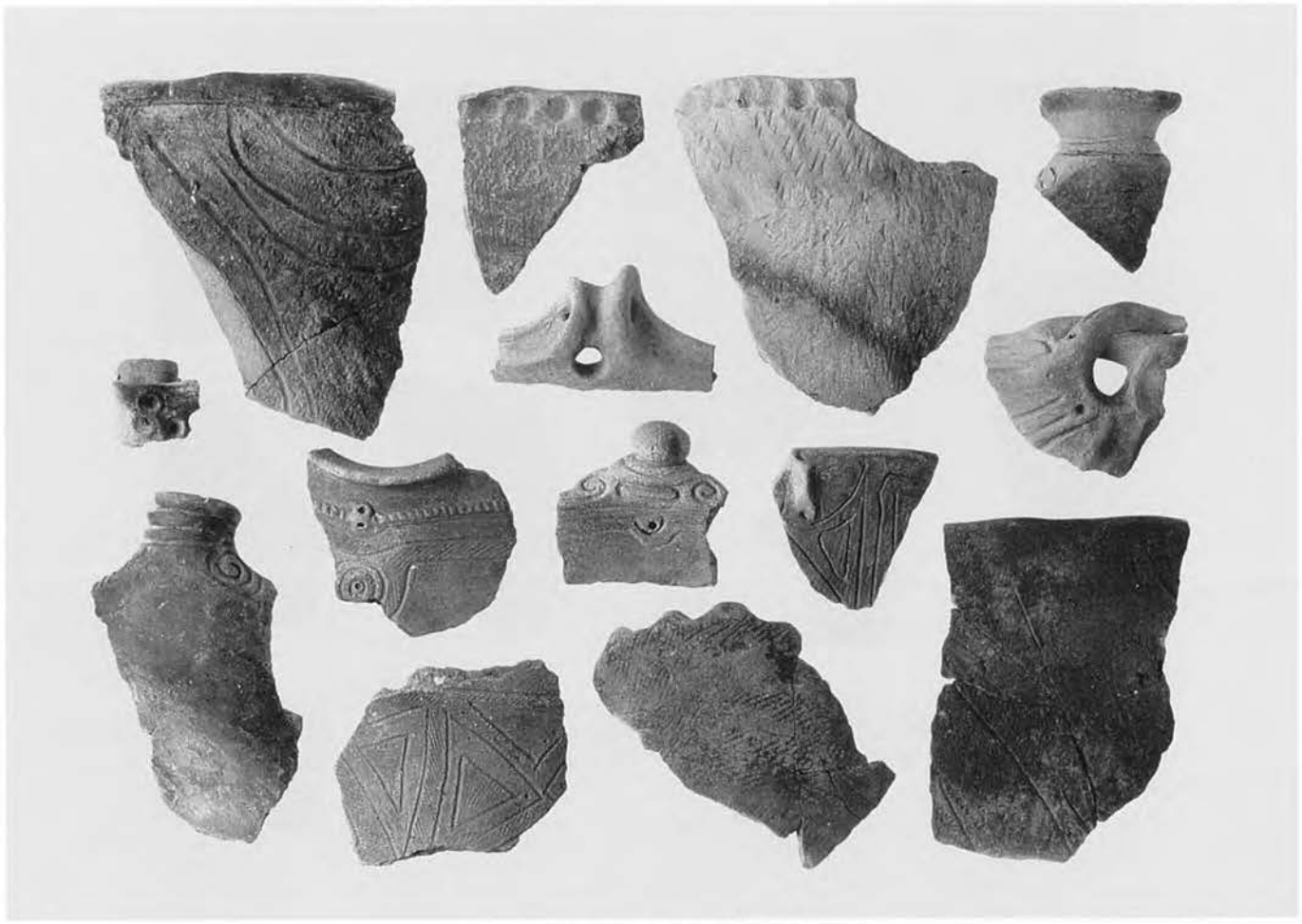
SX－001出土縄文土器（10）



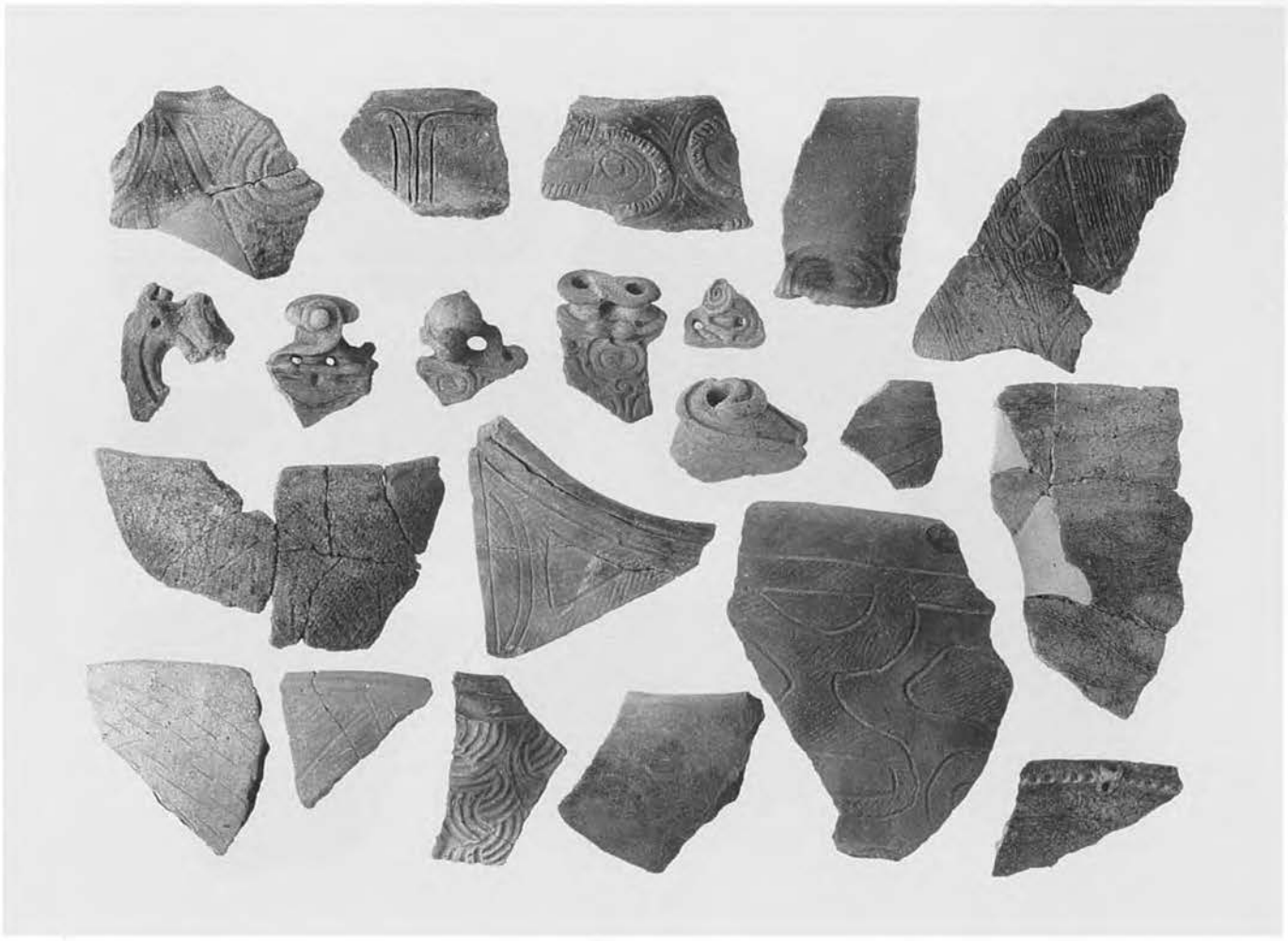


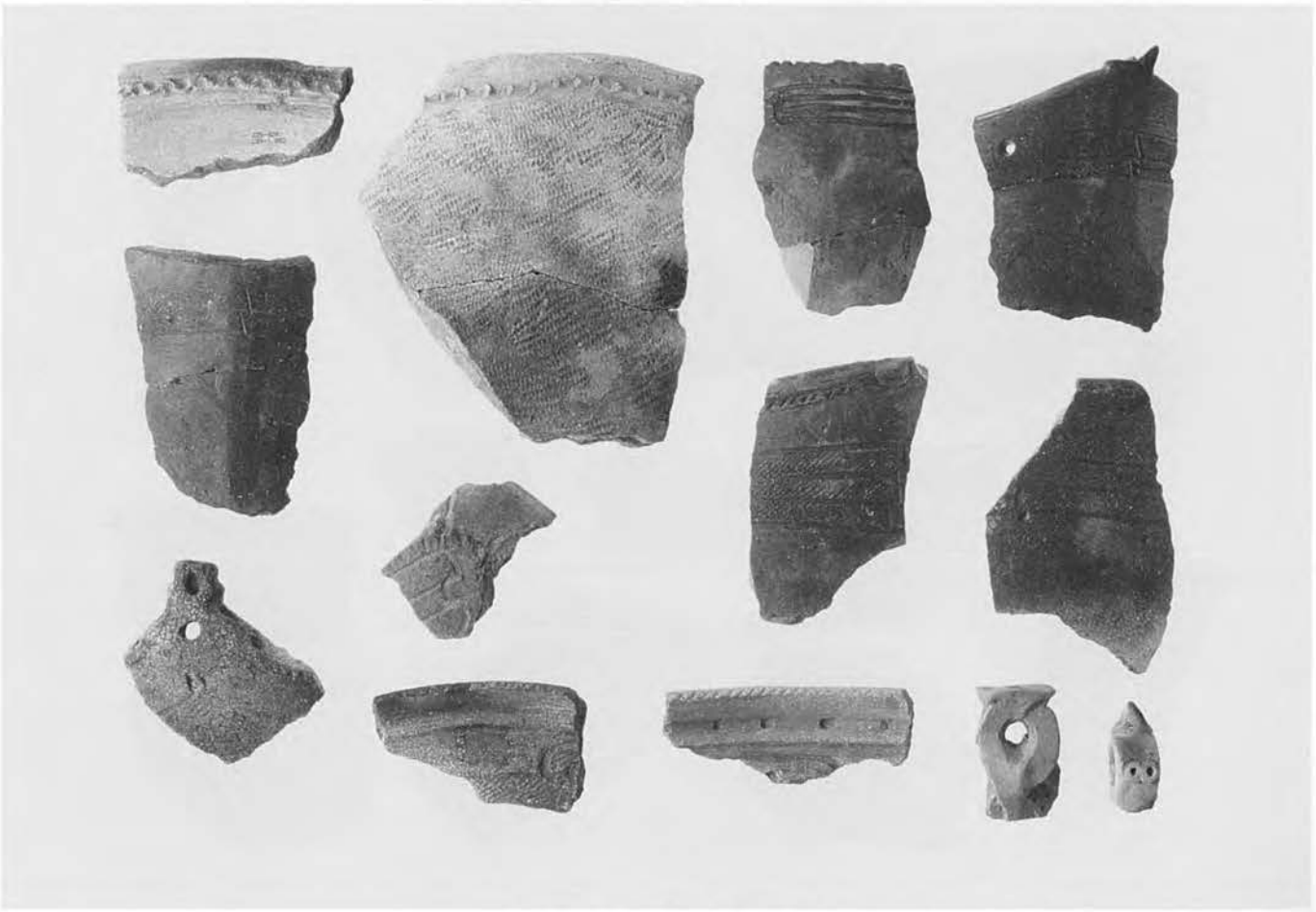
SX－001出土縄文土器（11）



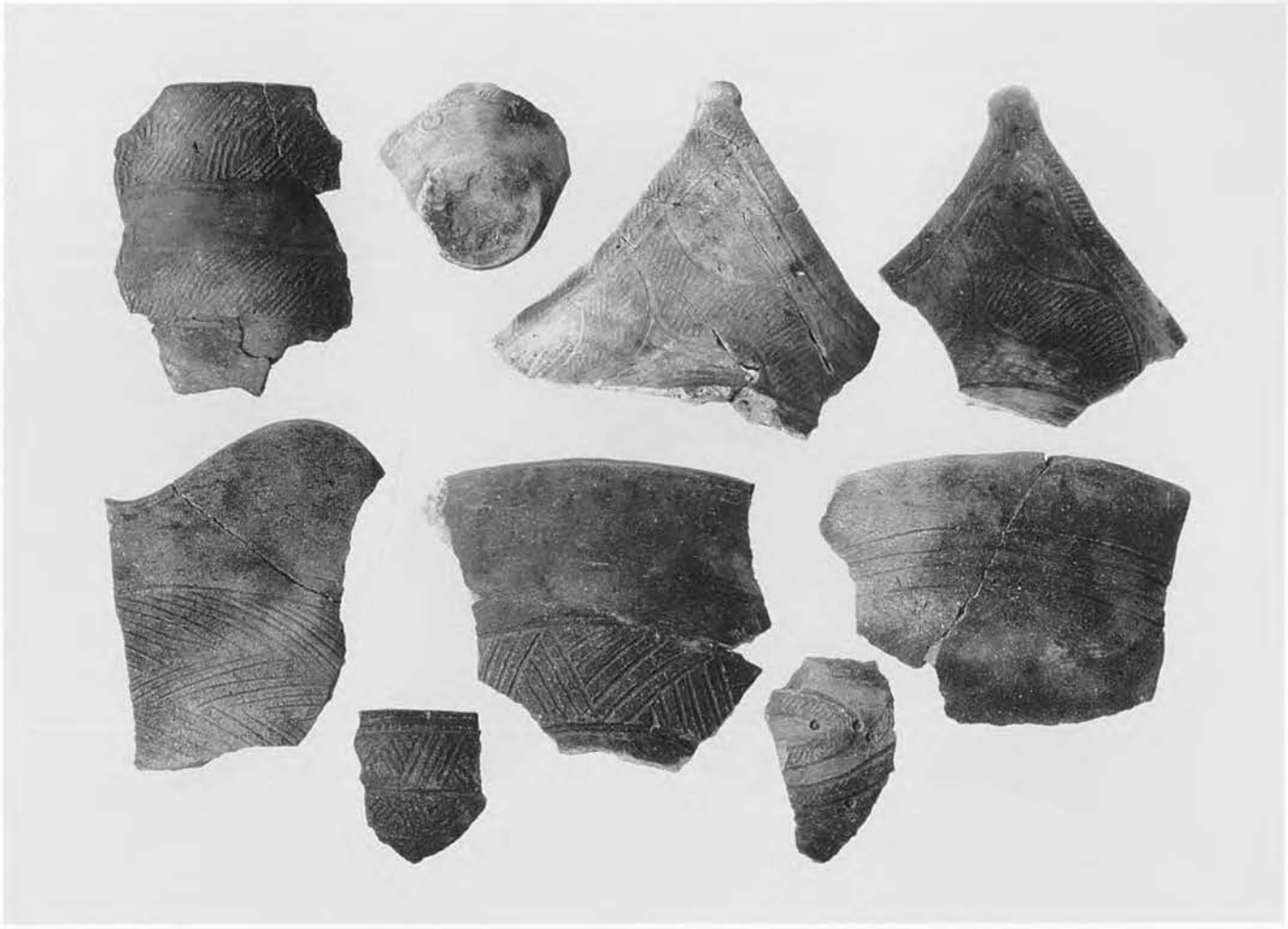


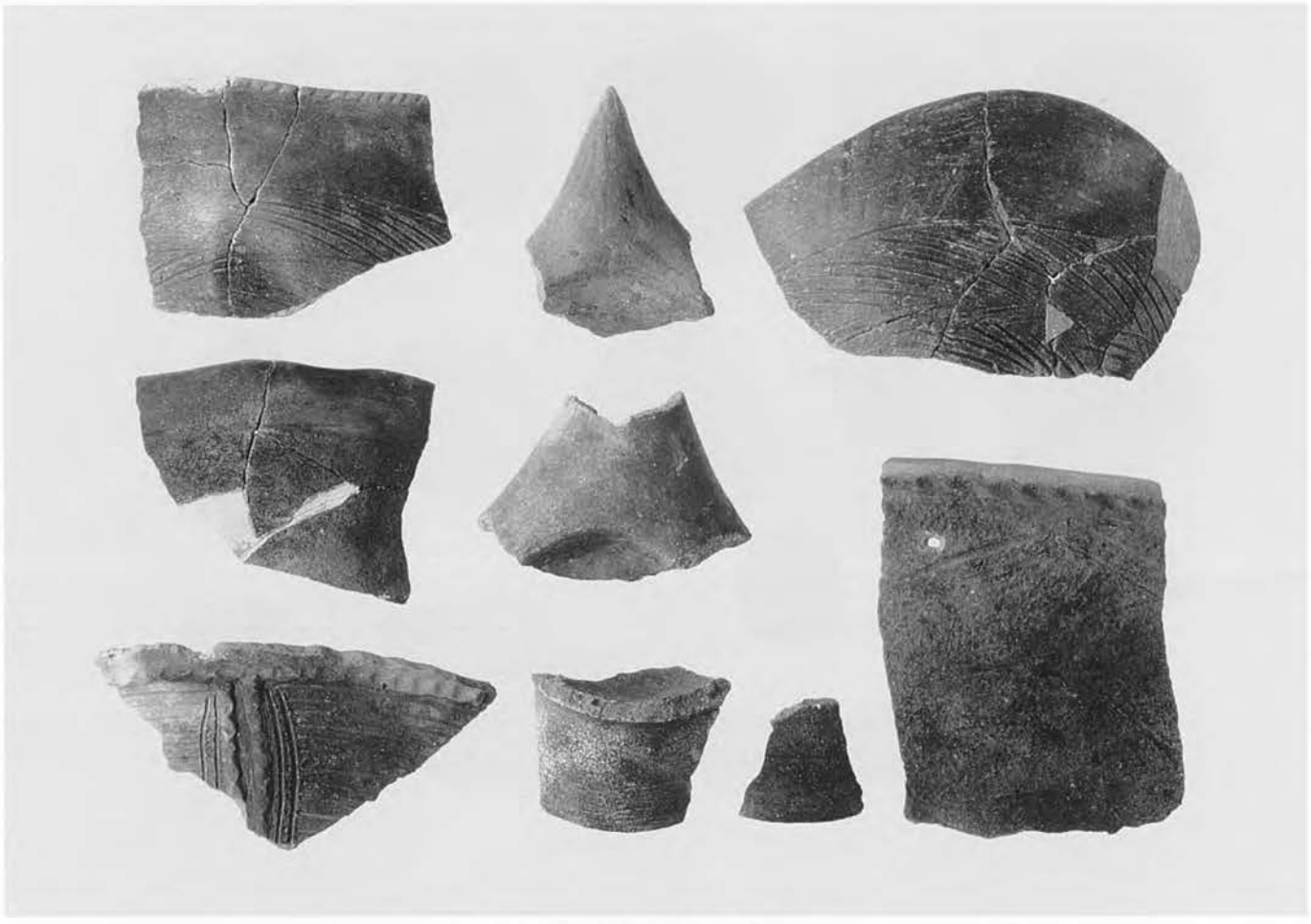
SX－001出土縄文土器（12）



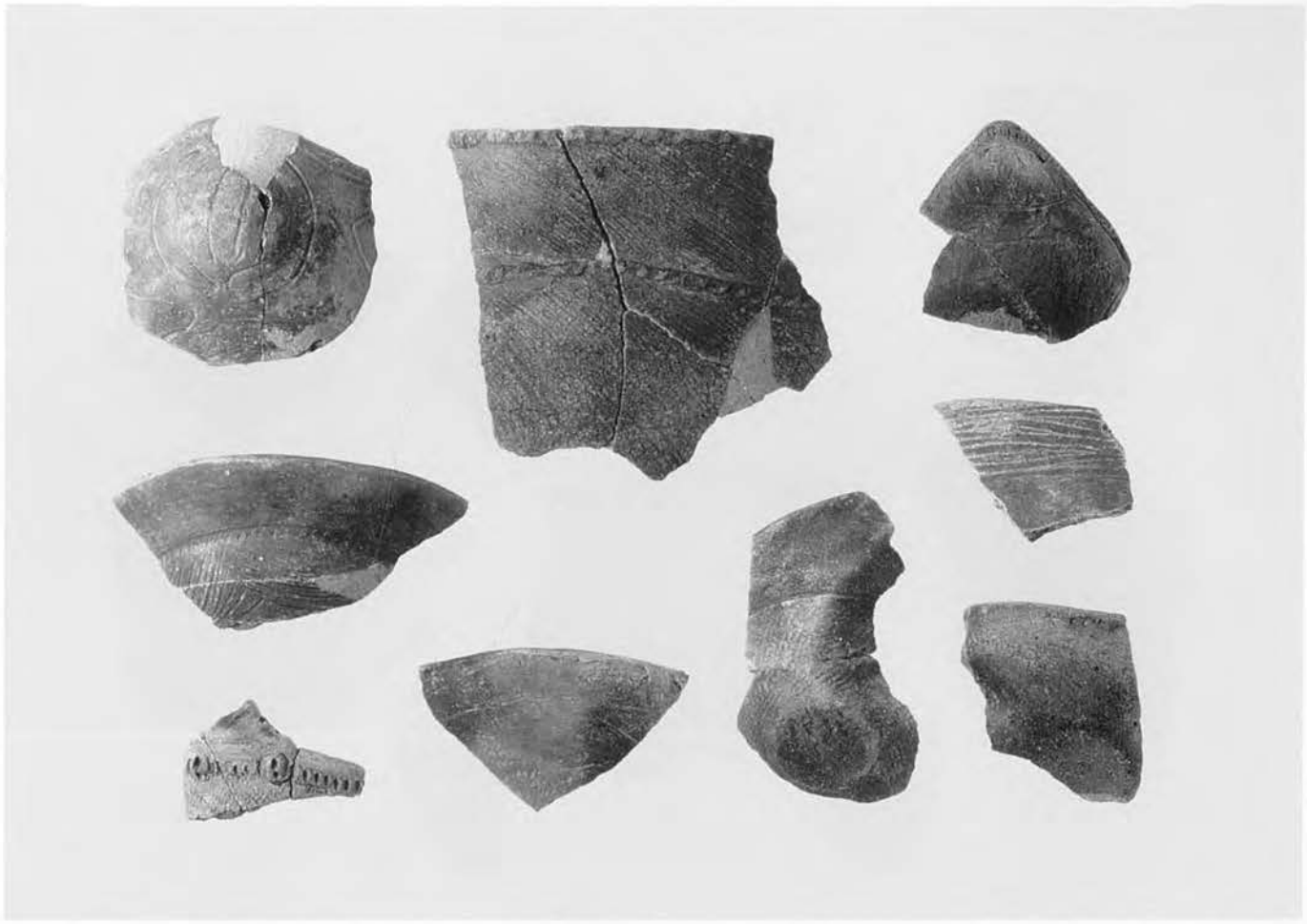


SX－001出土縄文土器（13）

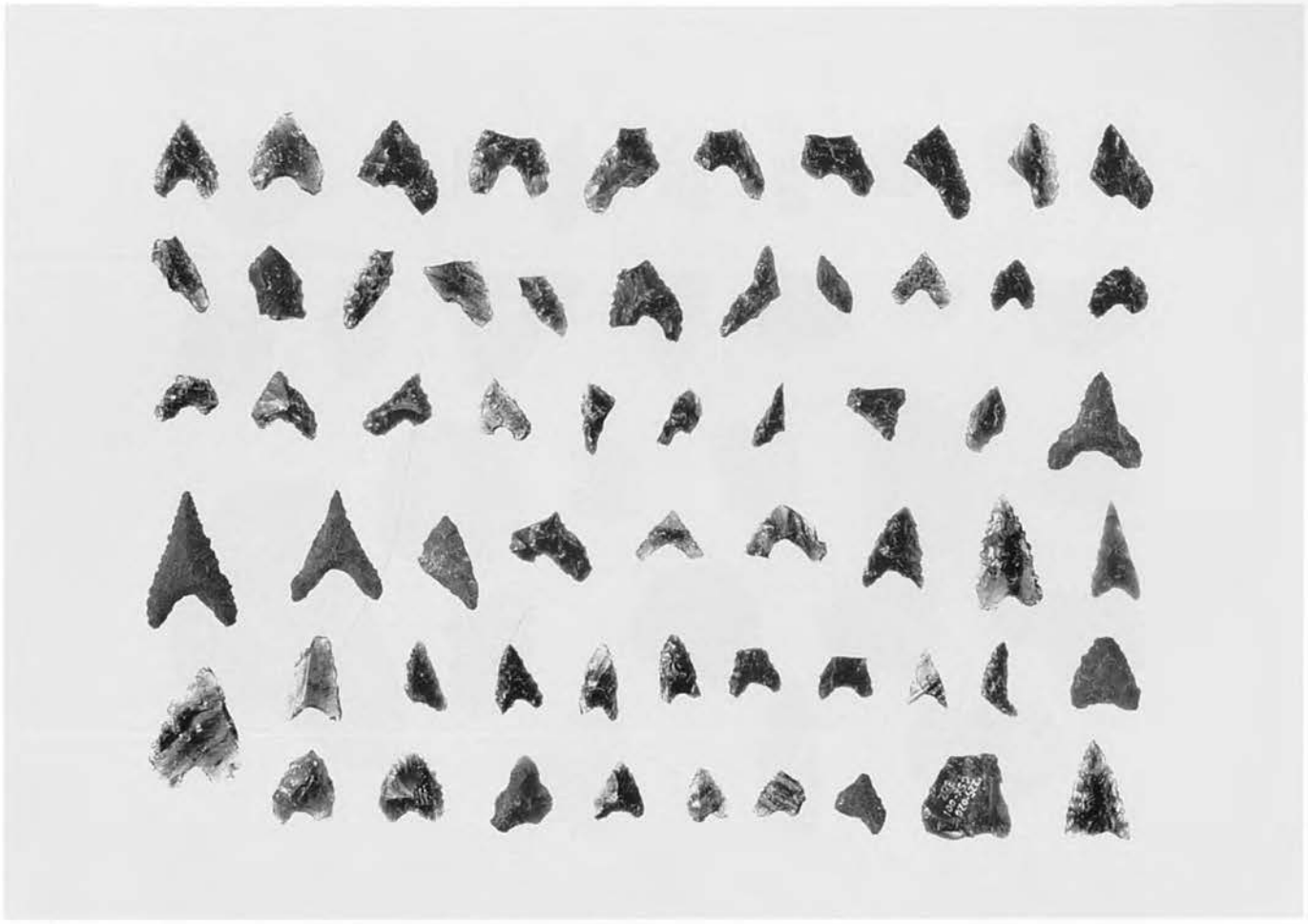


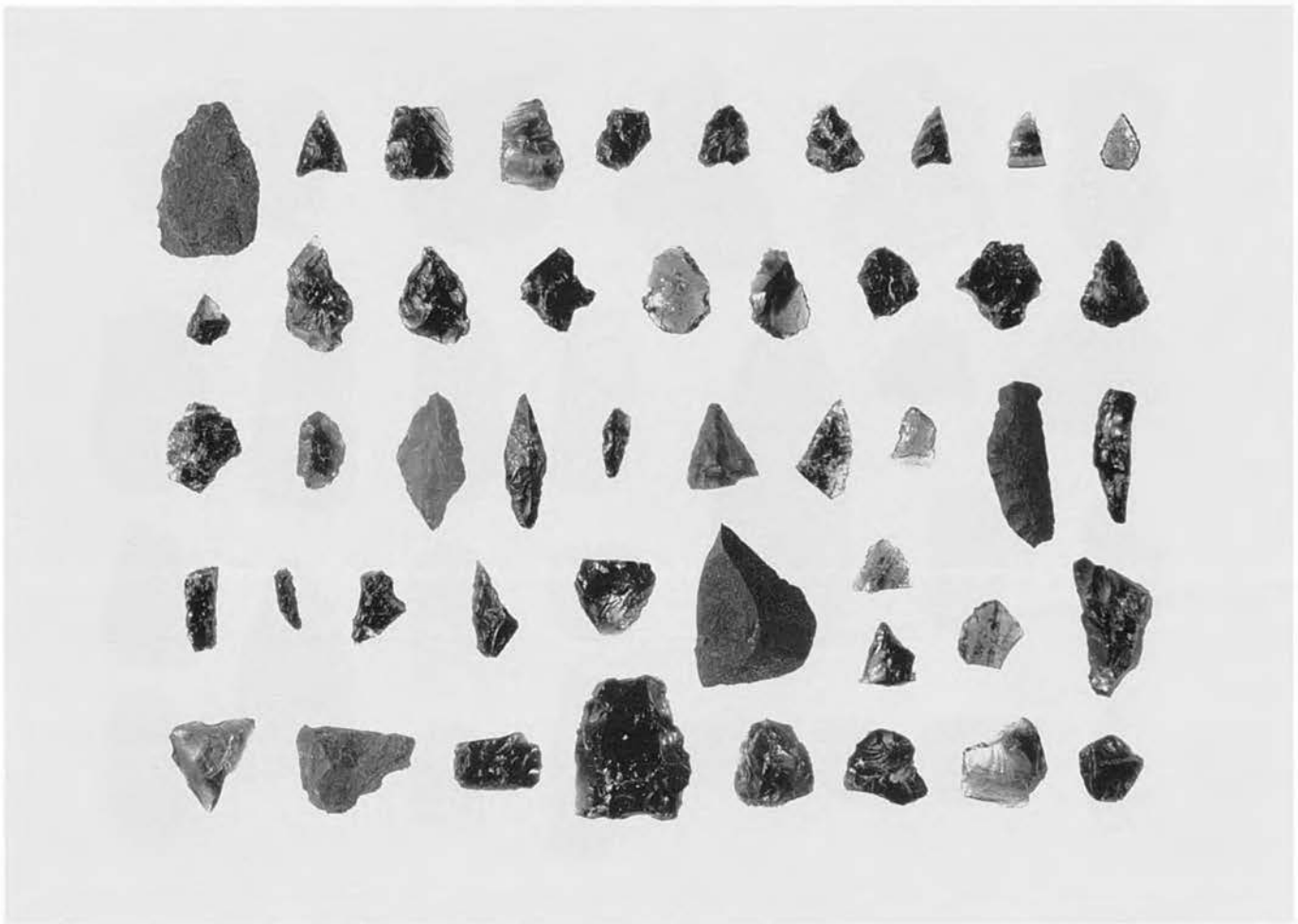


SX－001出土縄文土器（14）

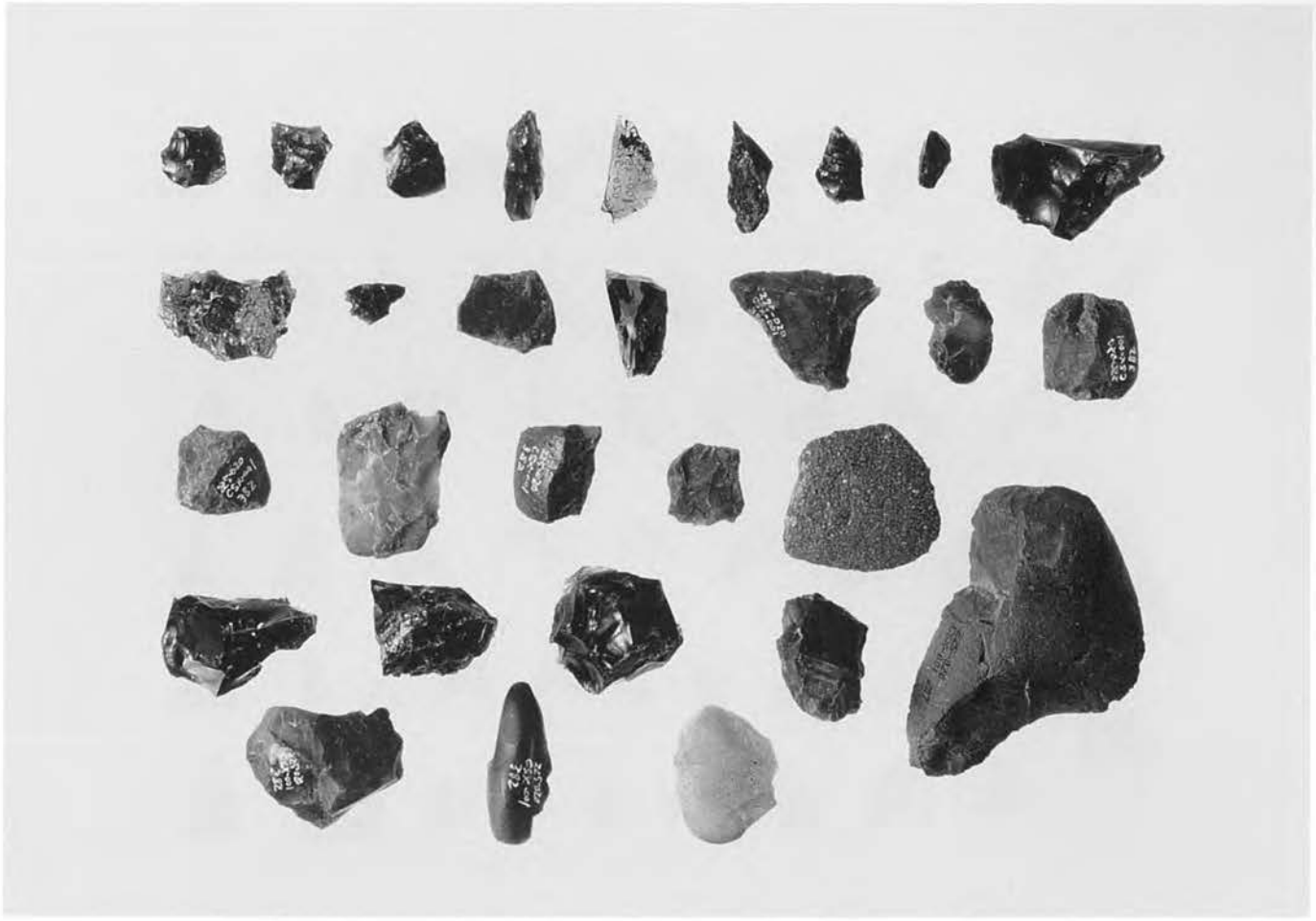


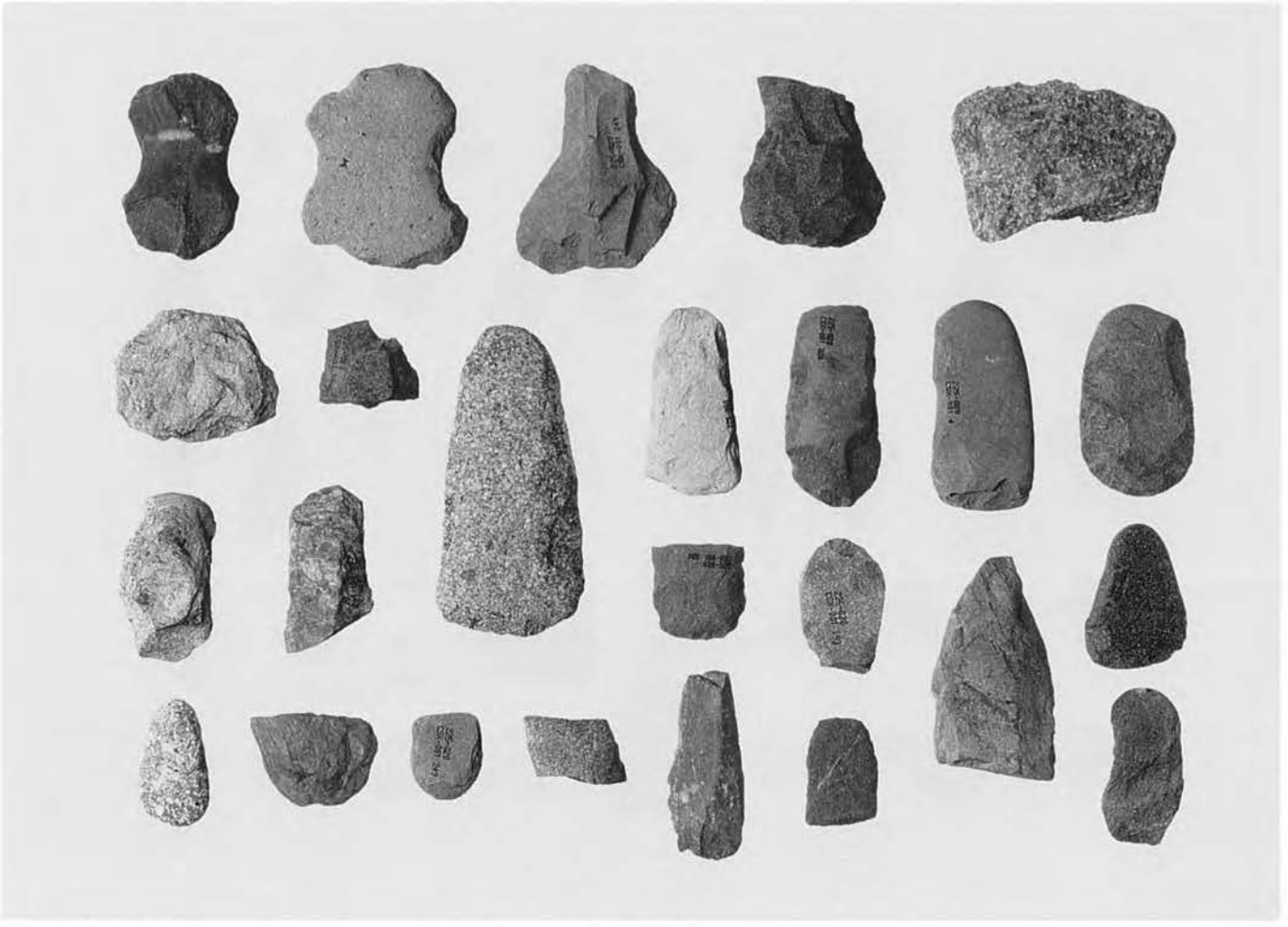
SX－001出土縄文土器（15）・土製品



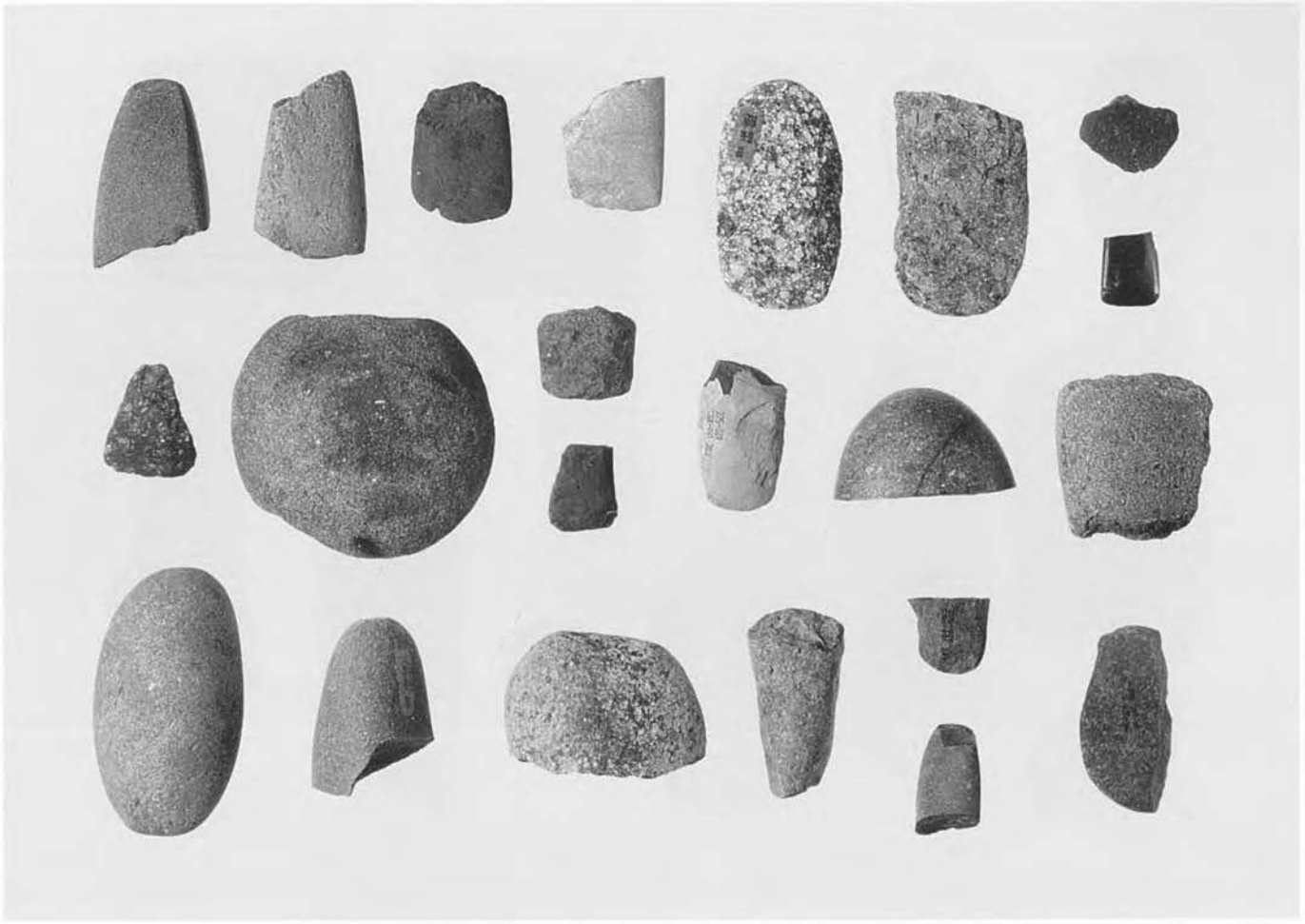


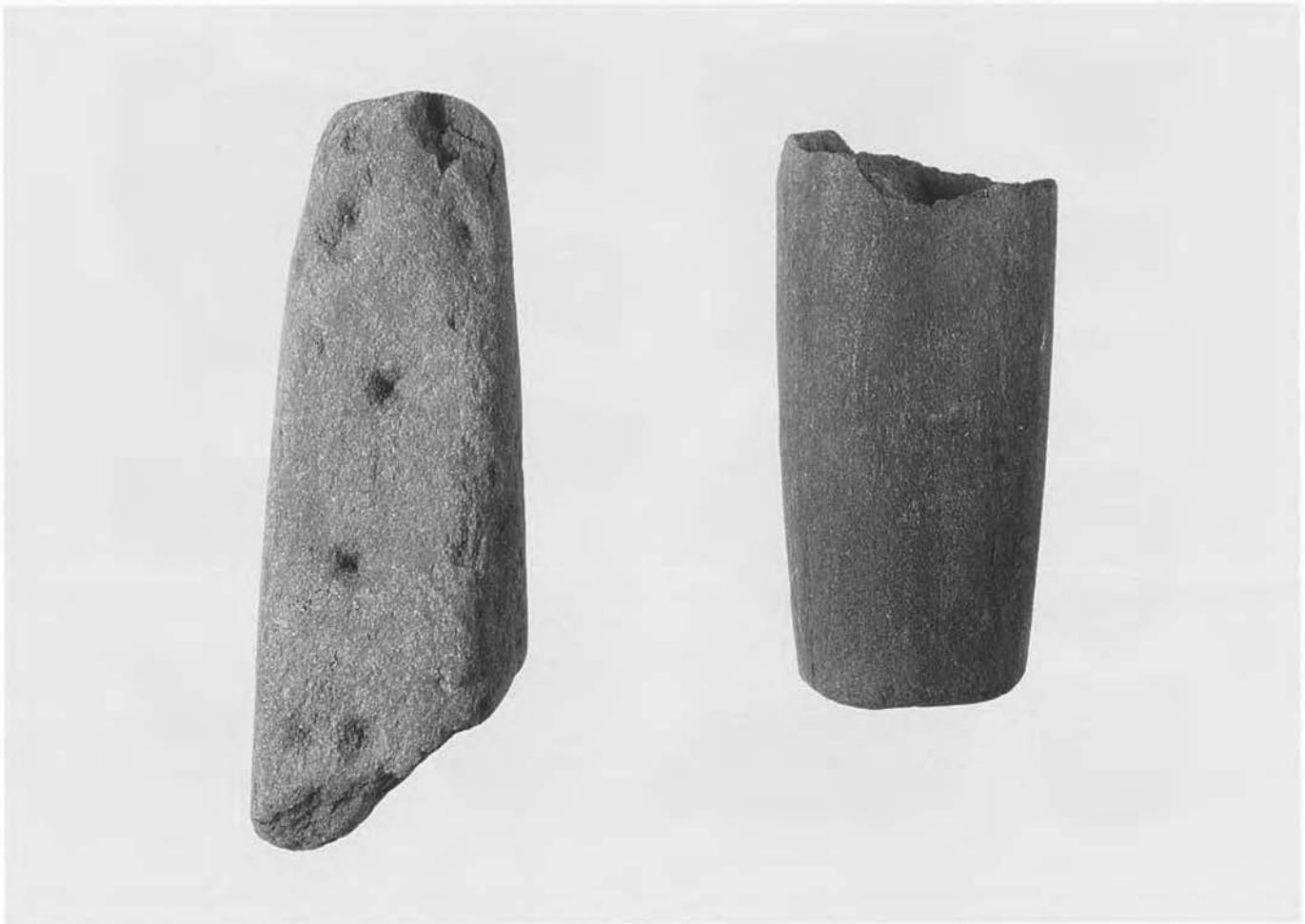
SX－001出土縄文石器（1）



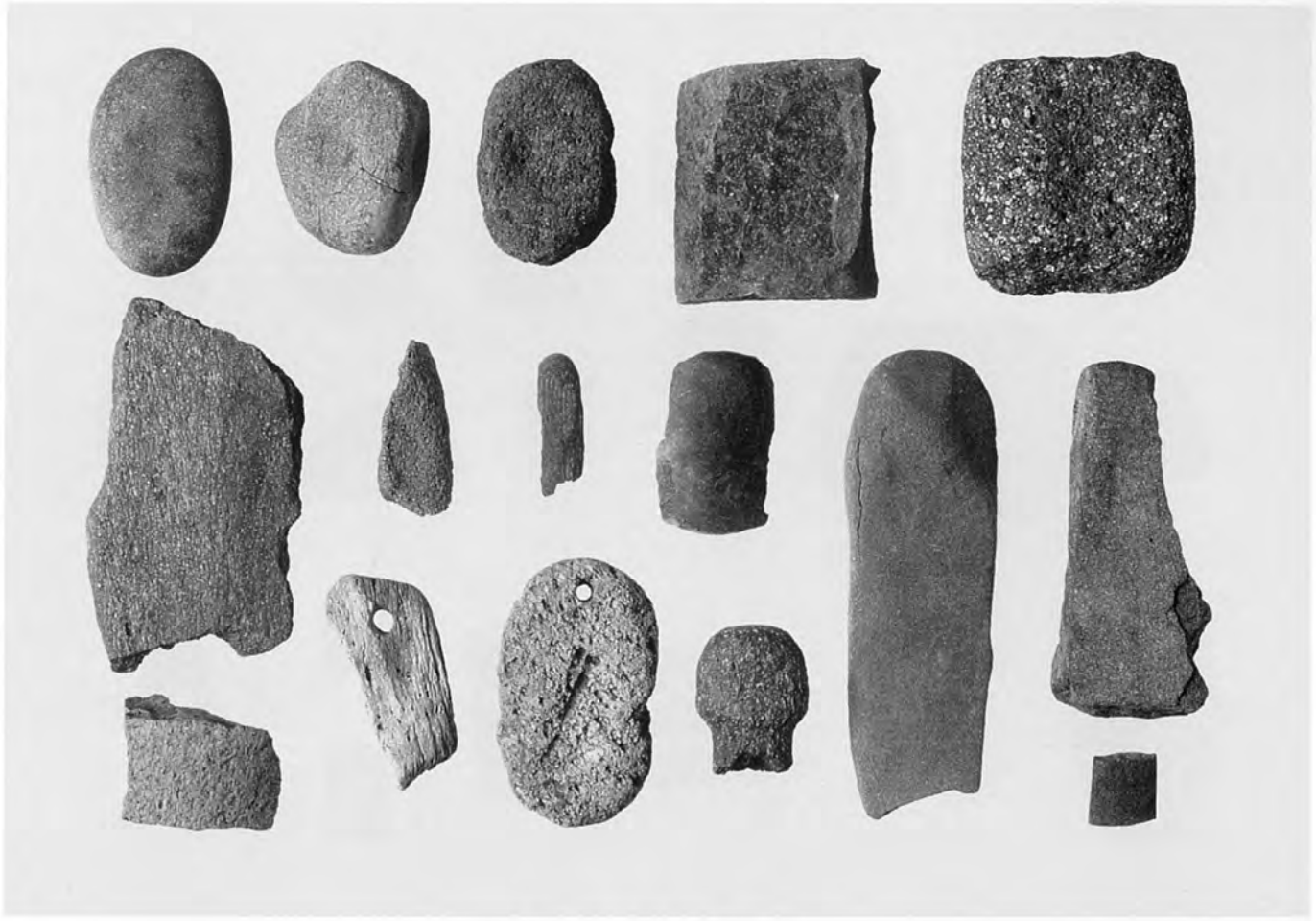


SX－001出土縄文石器（2）



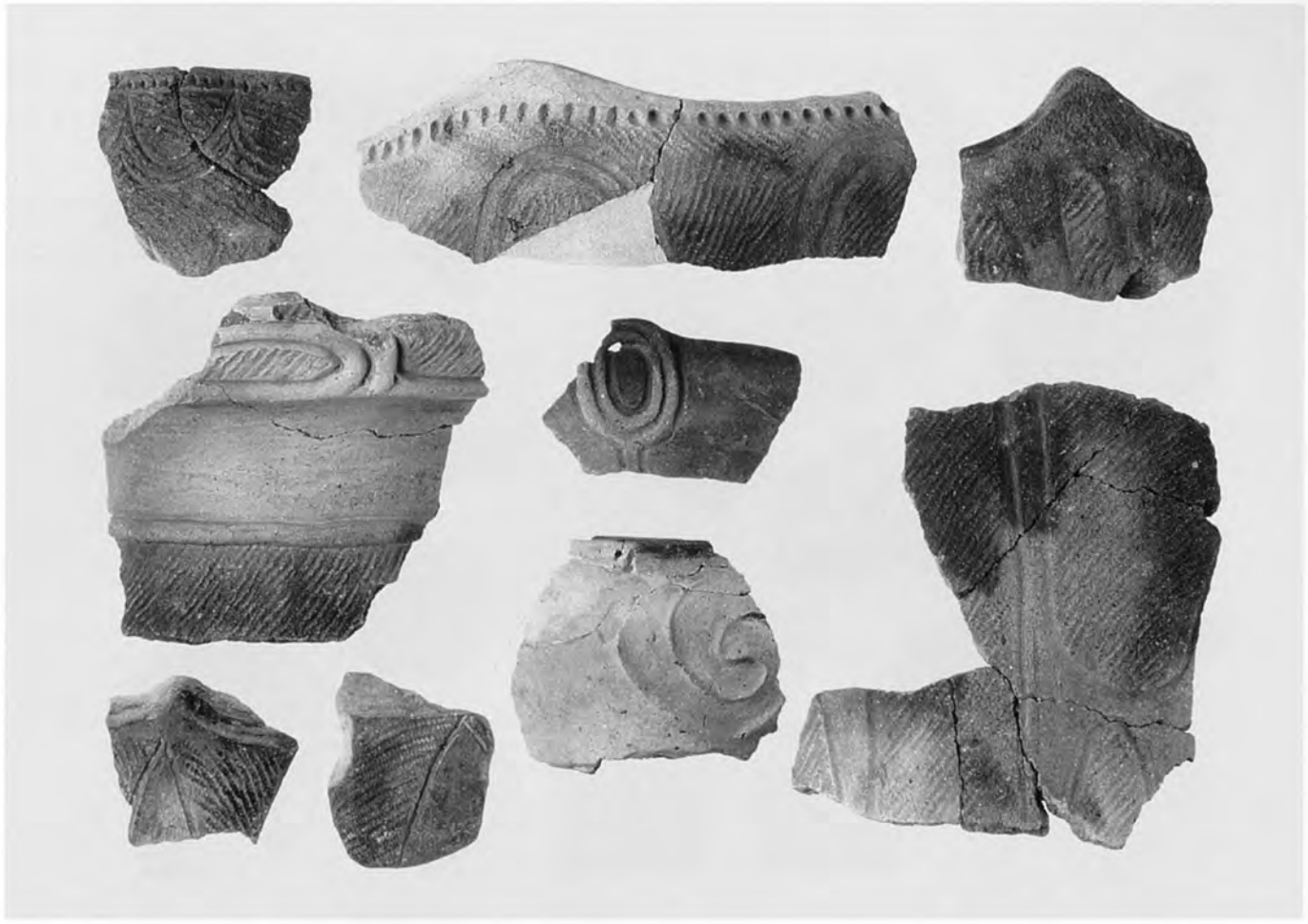


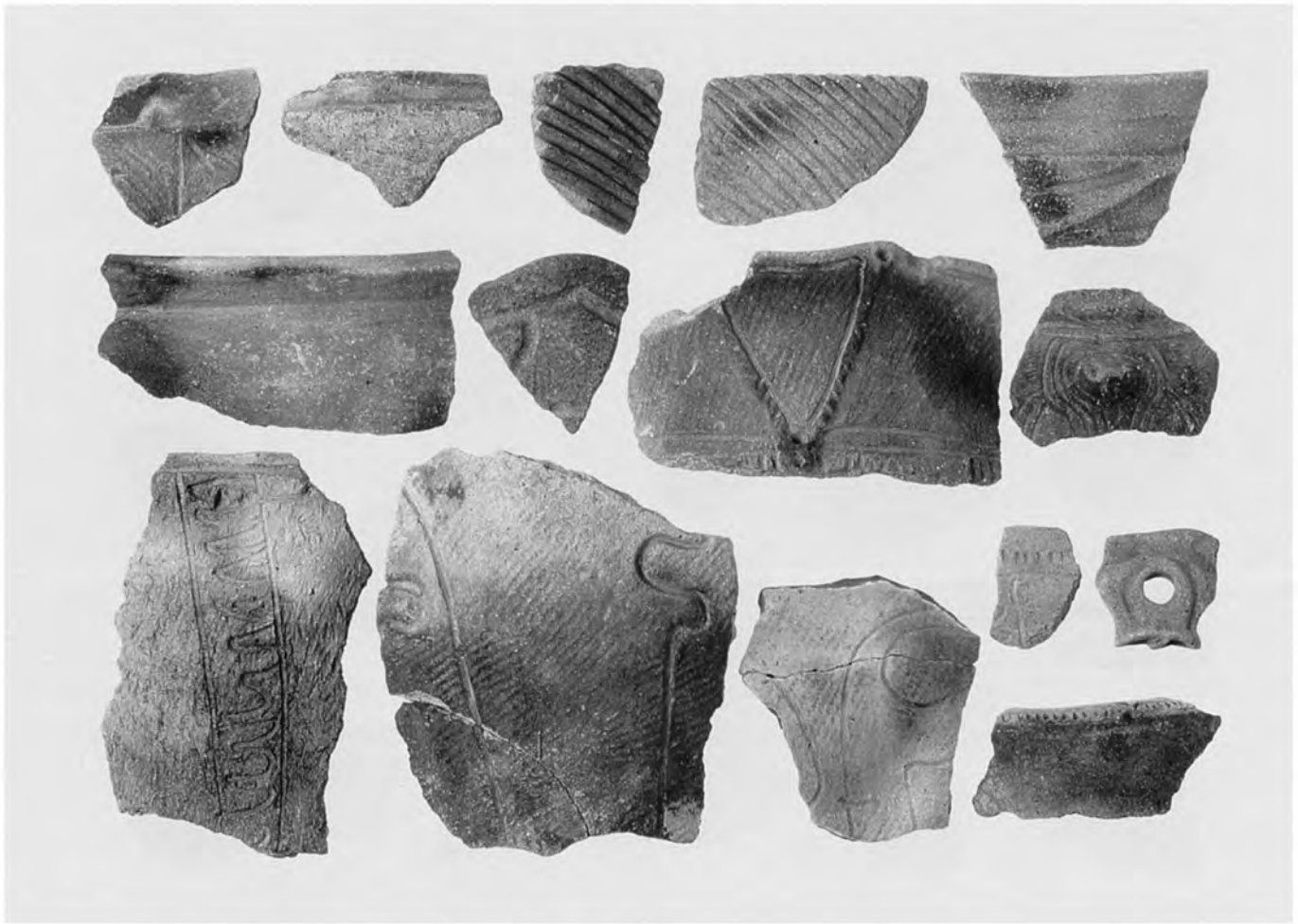
SX－001出土縄文石器（3）



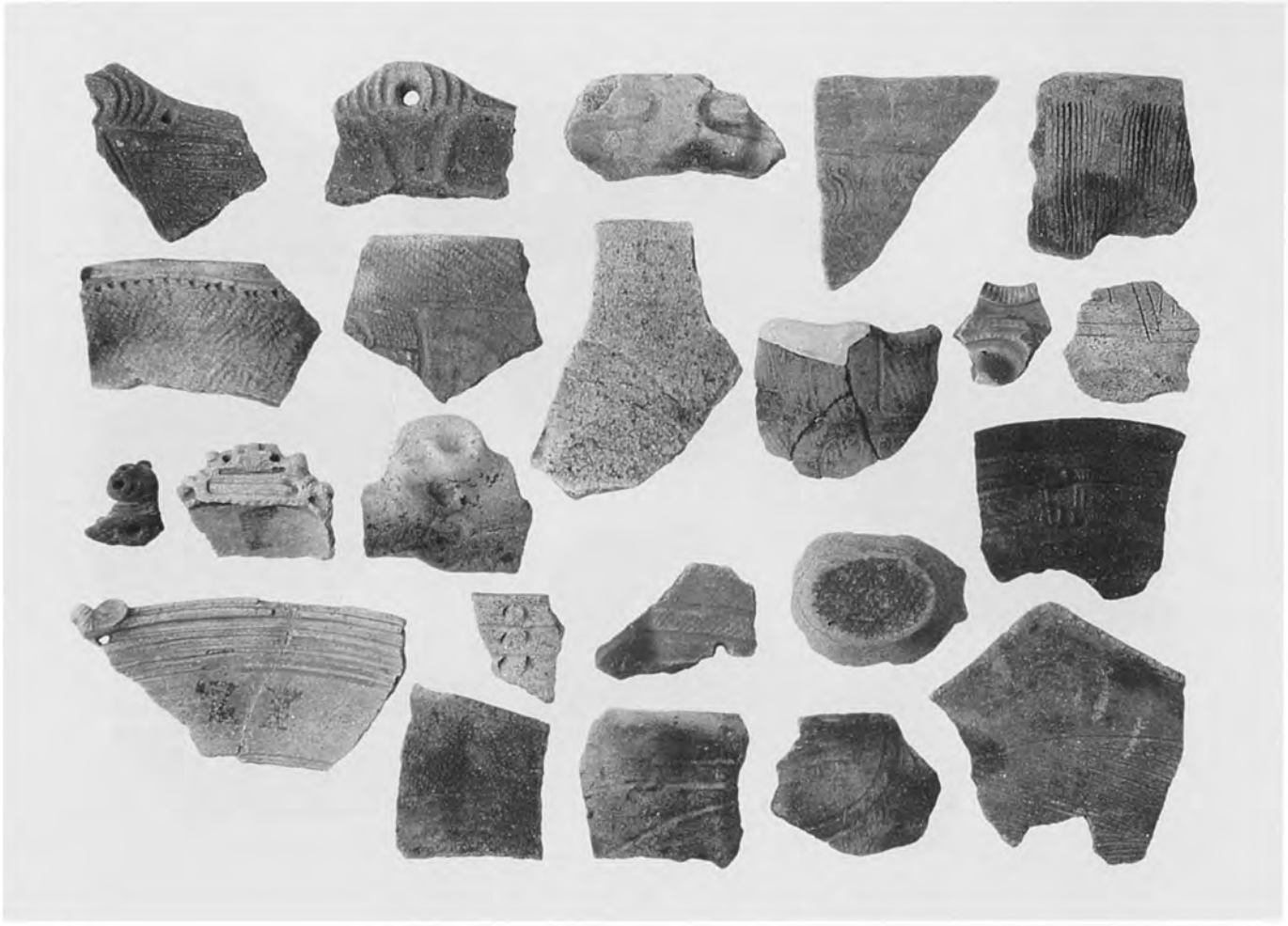
SX－001出土縄文石器（4）

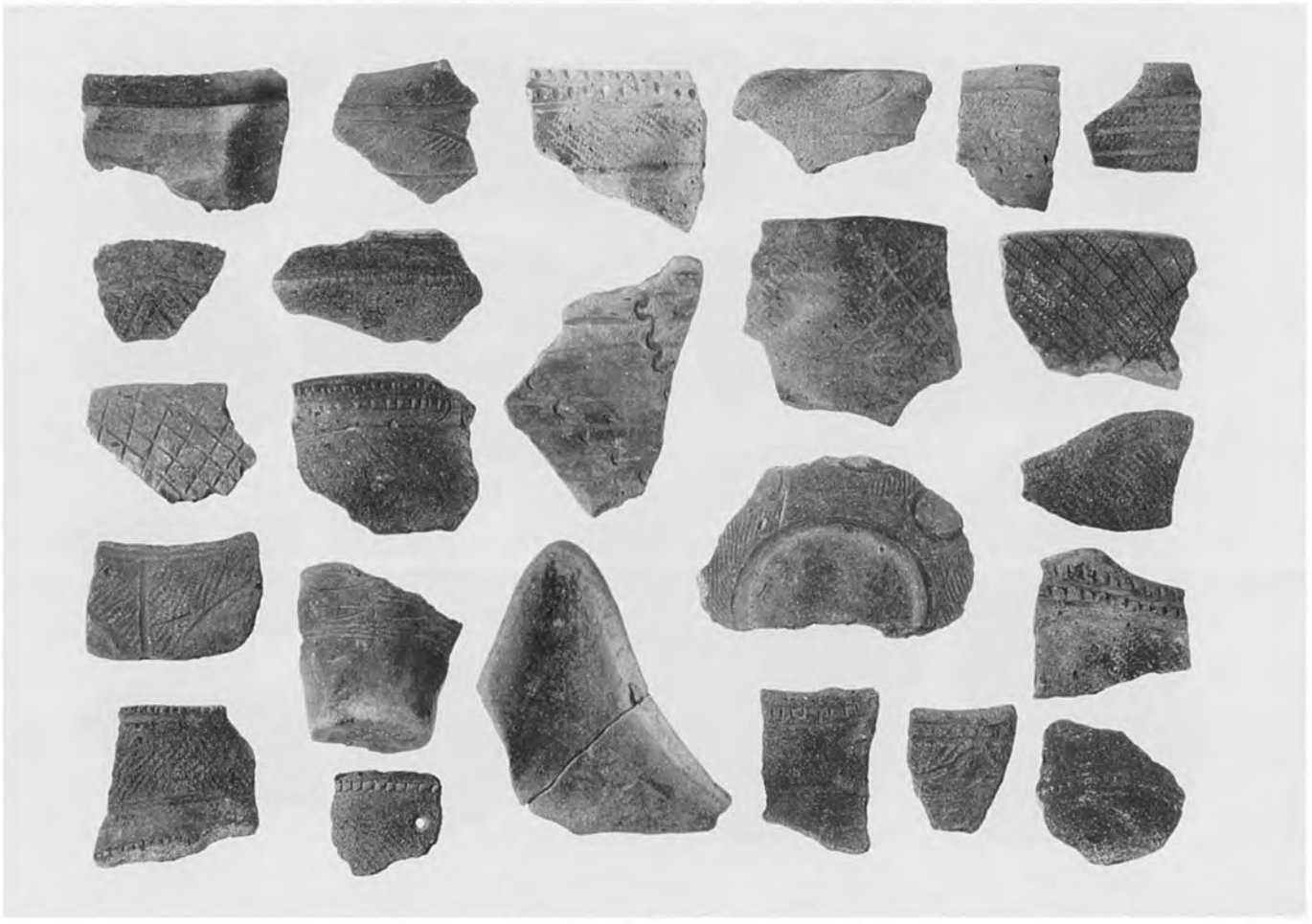
遺構外出土縄文土器（1）



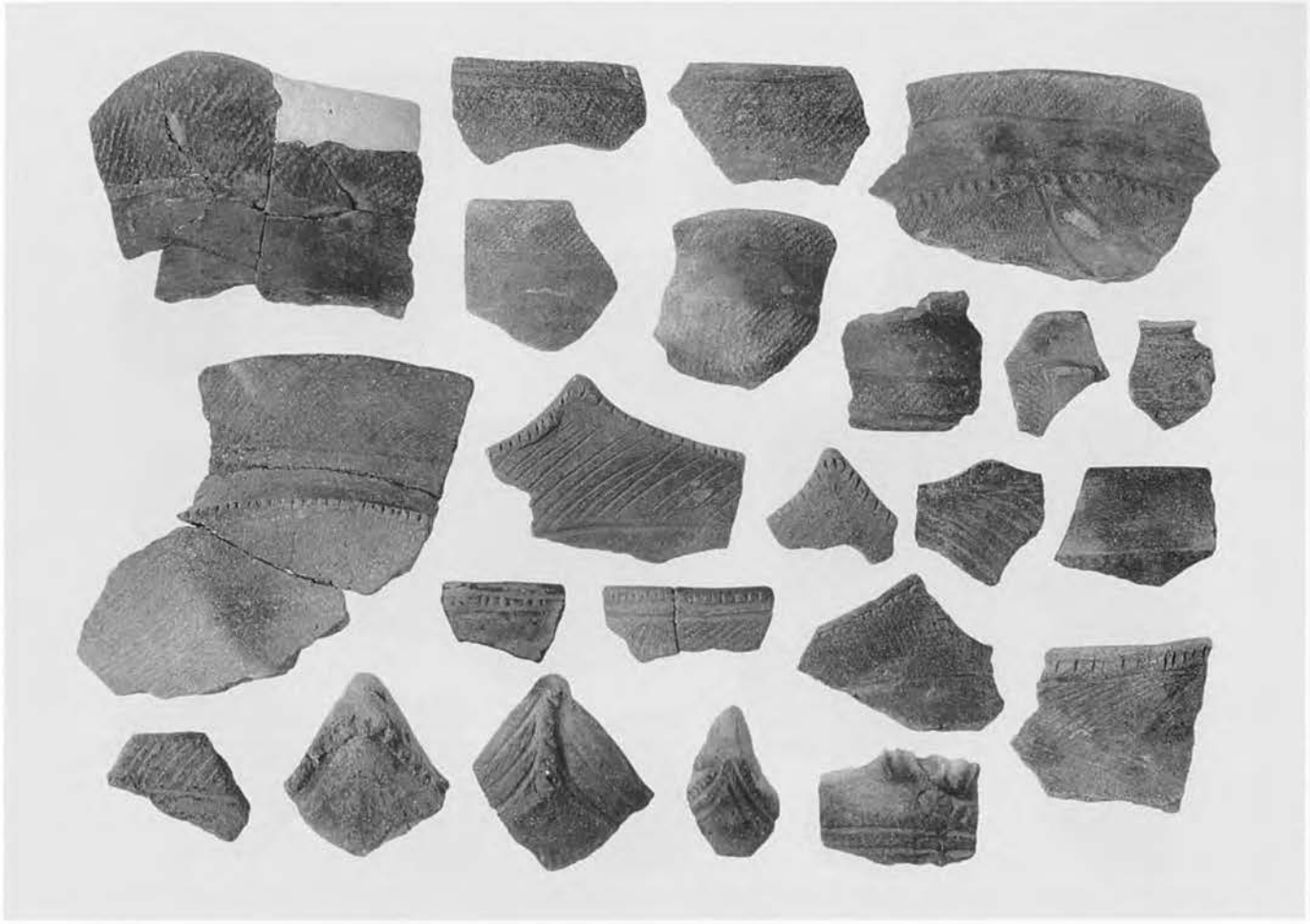


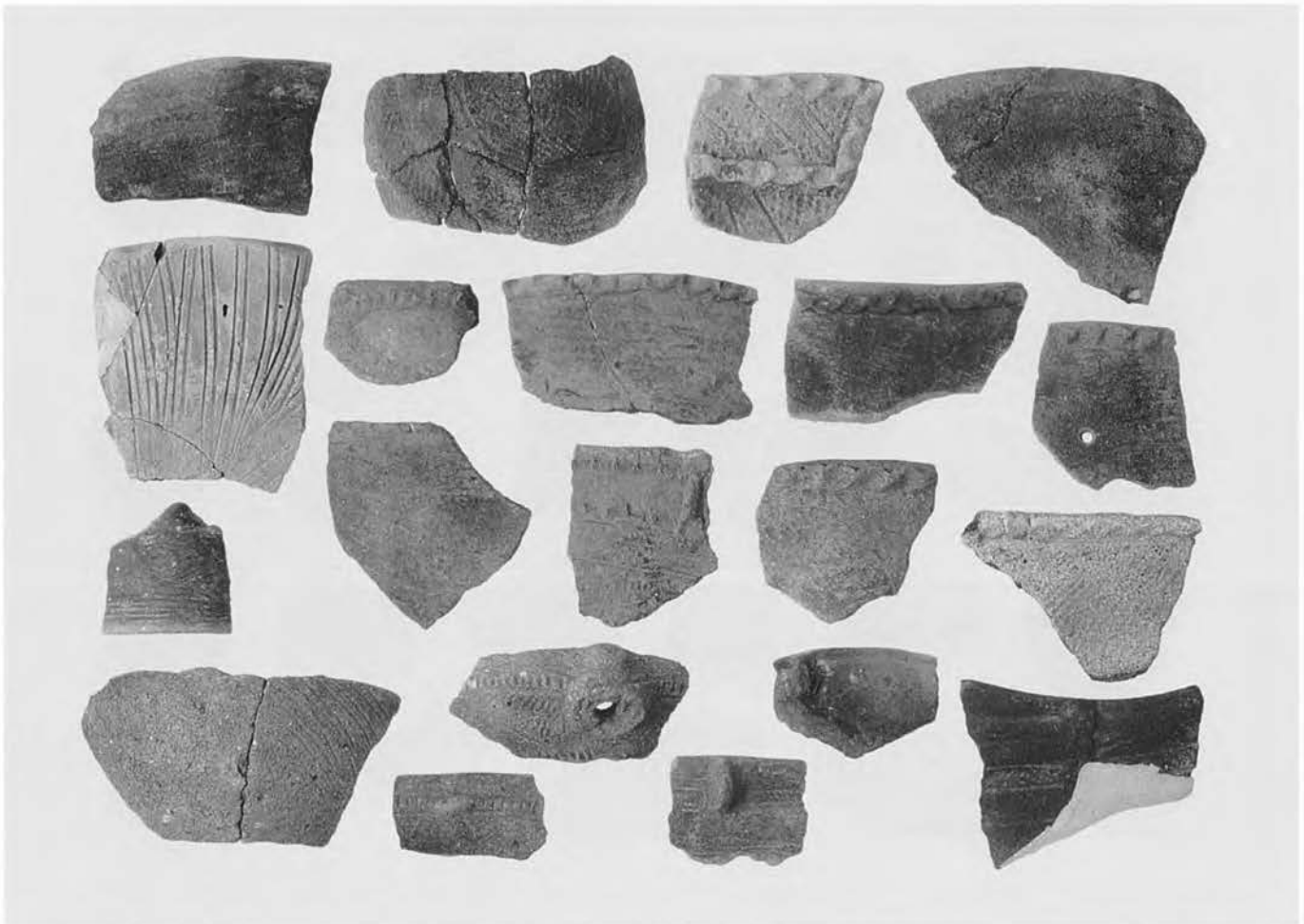
遺構外出土縄文土器（2）



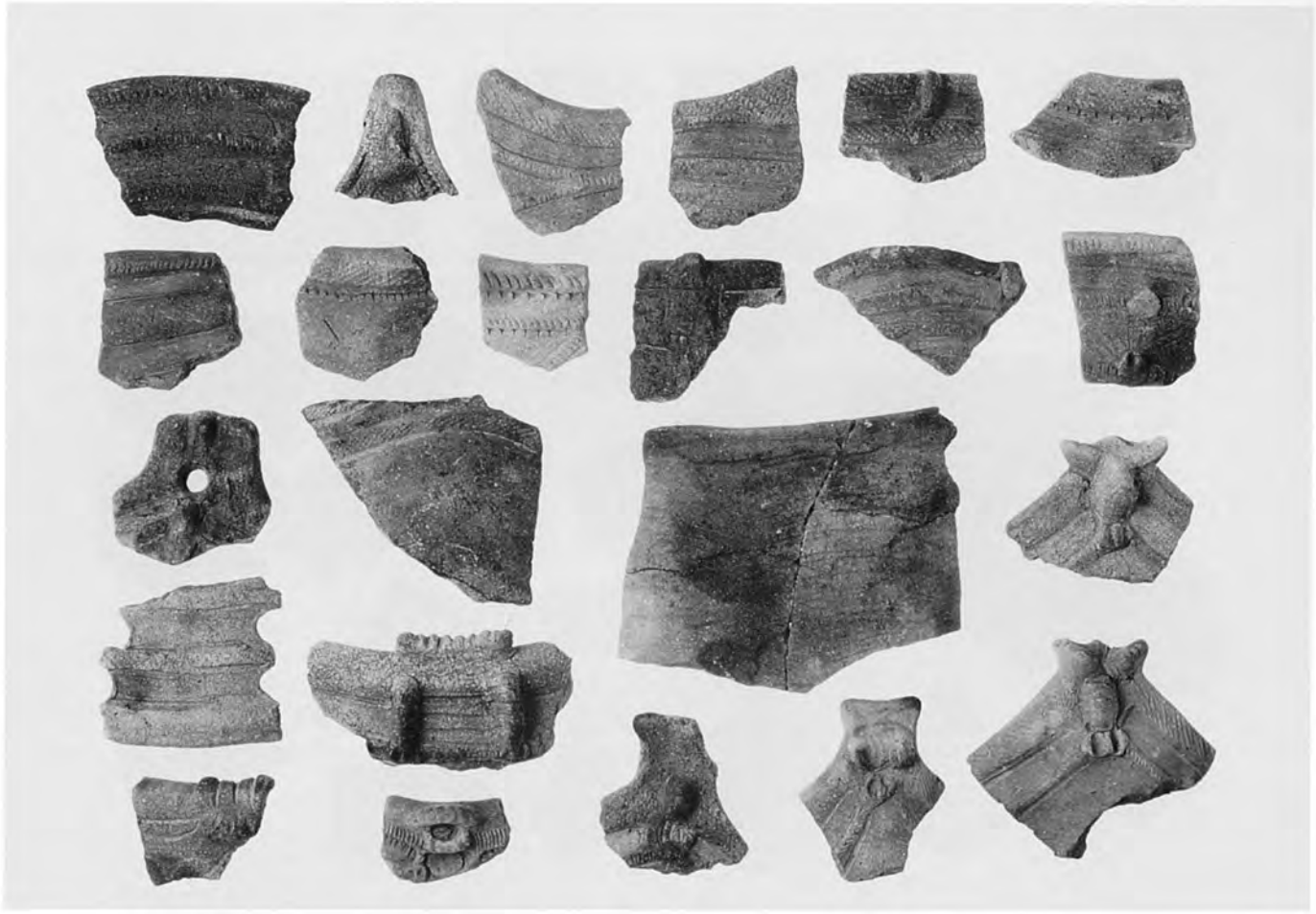


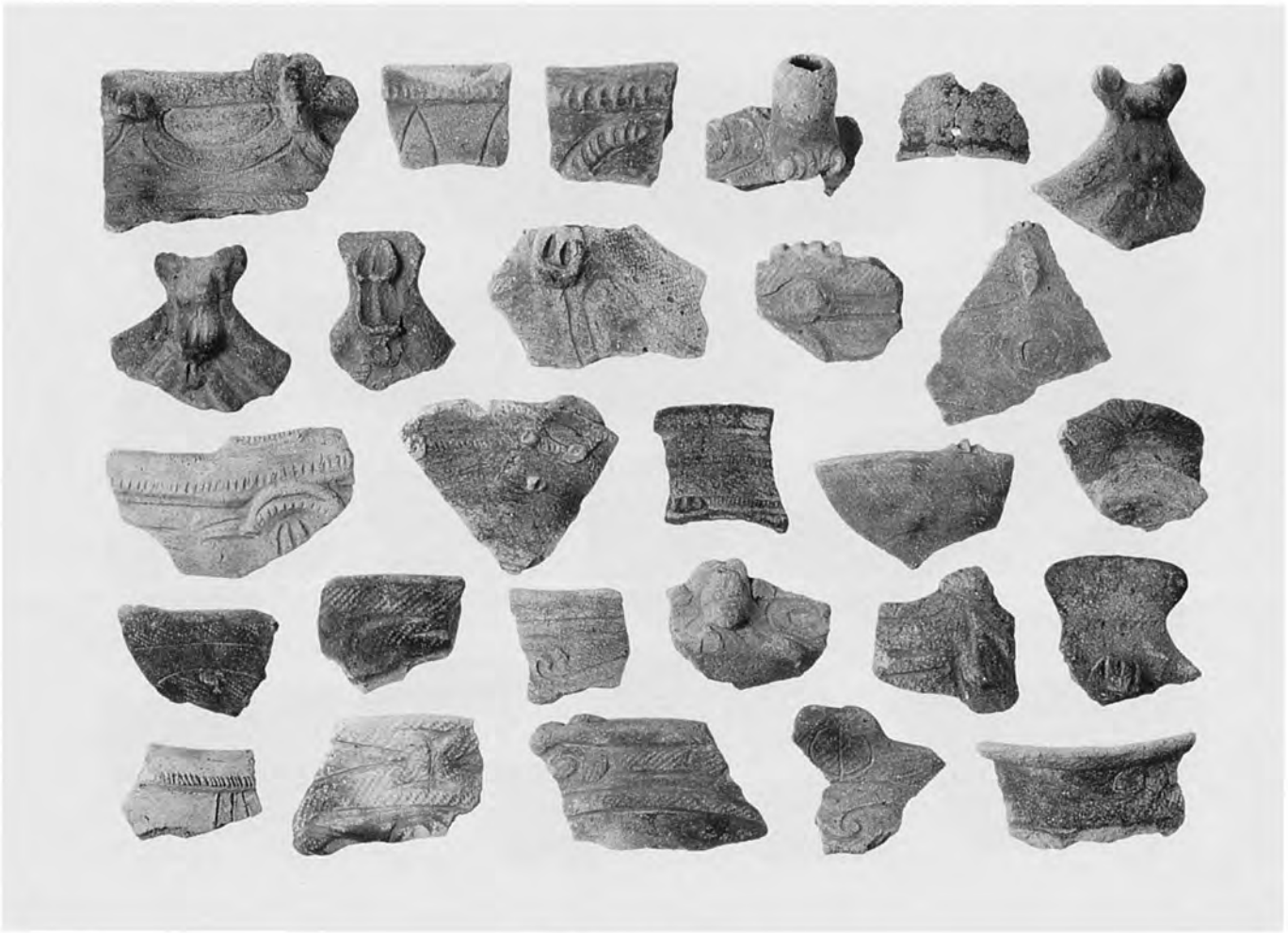
遺構外出土縄文土器（3）



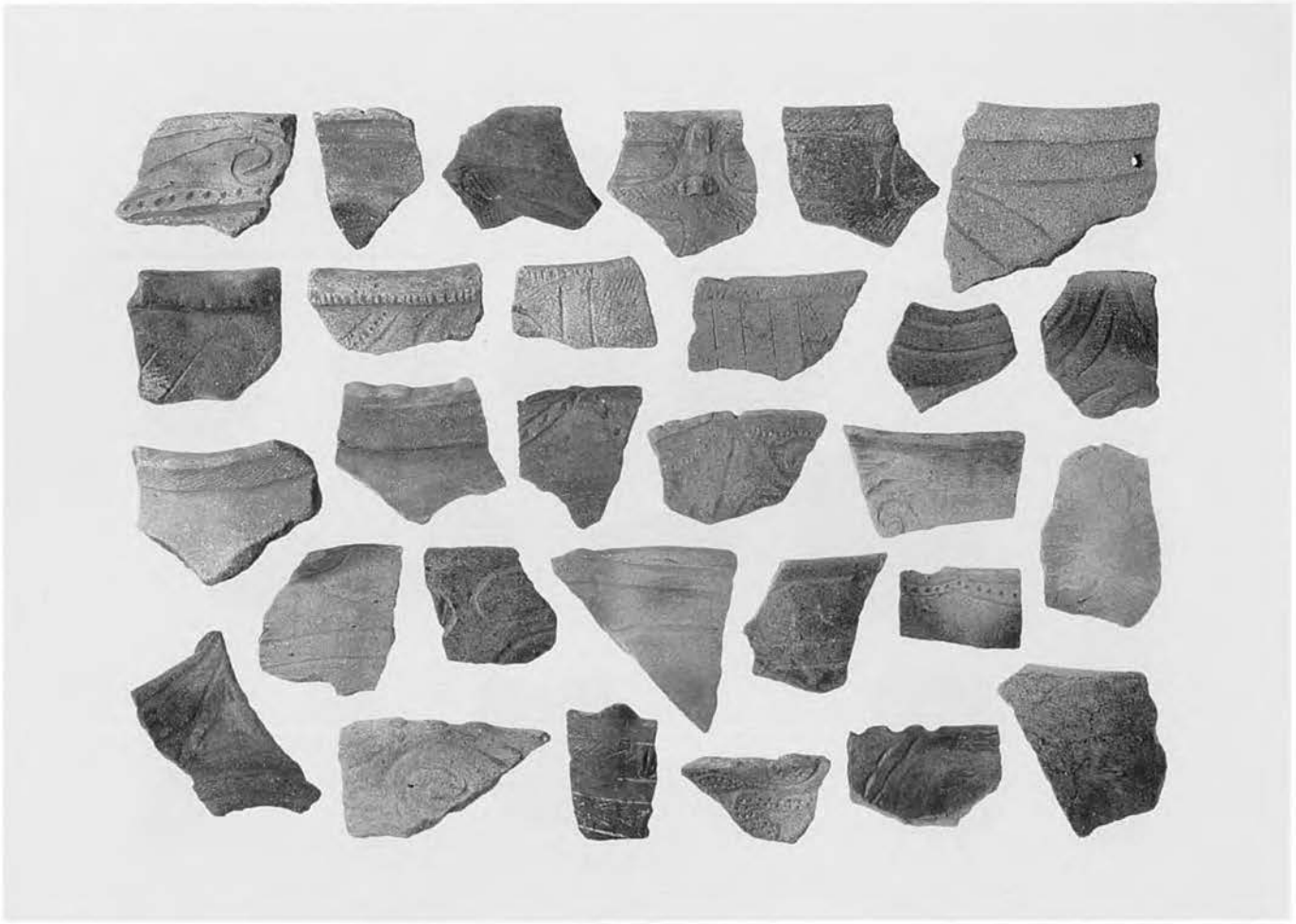


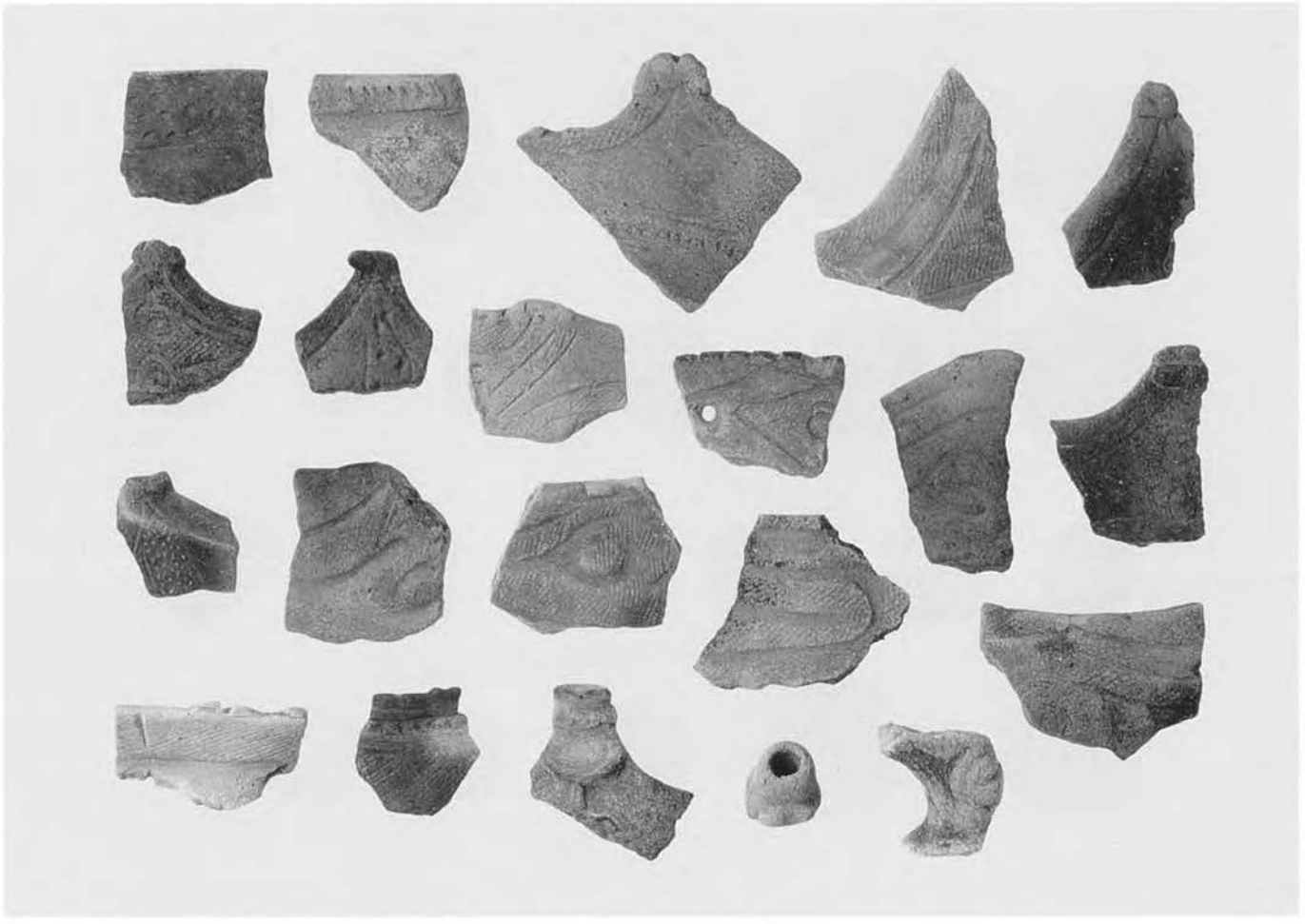
遺構外出土縄文土器（4）



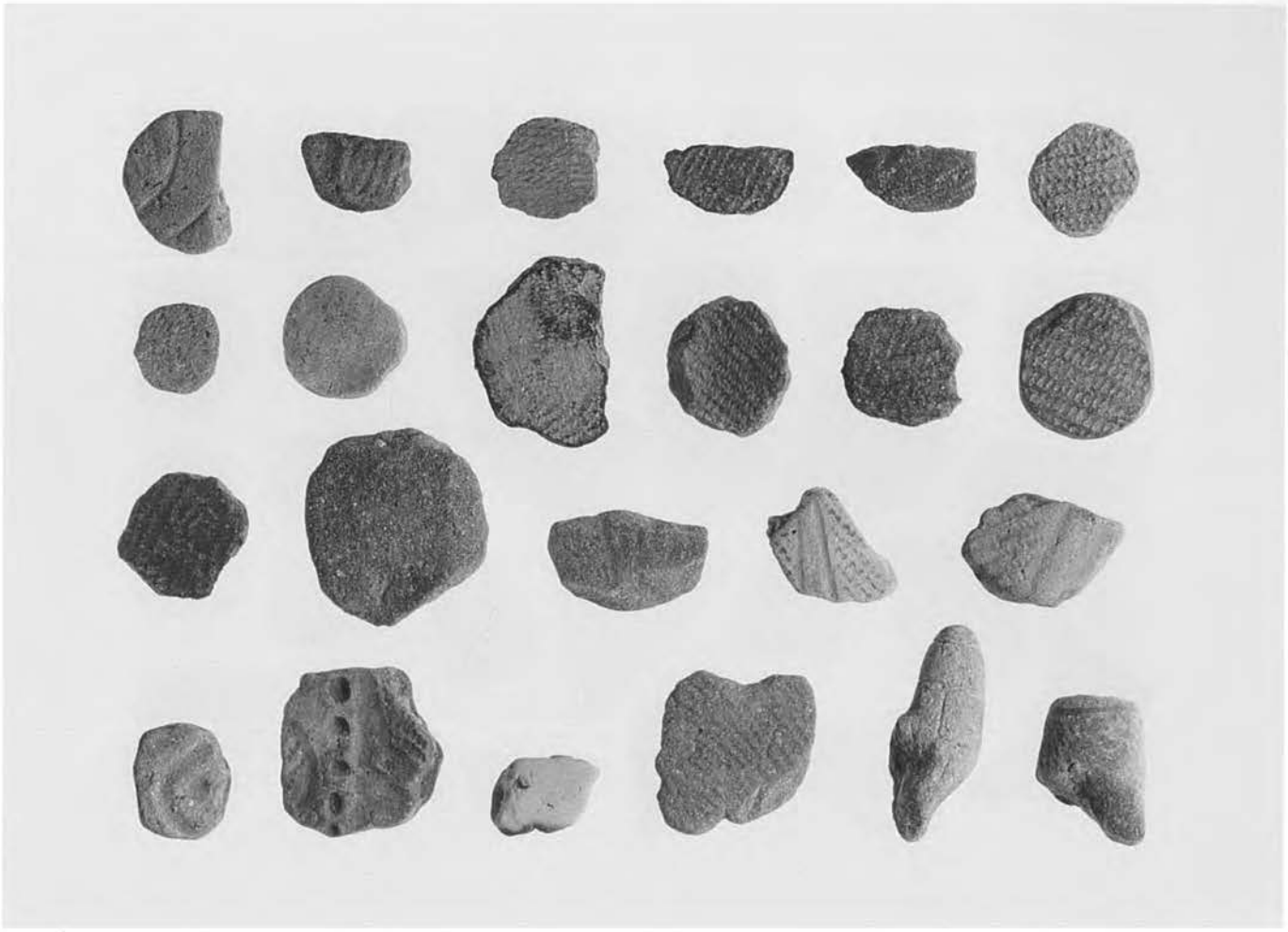


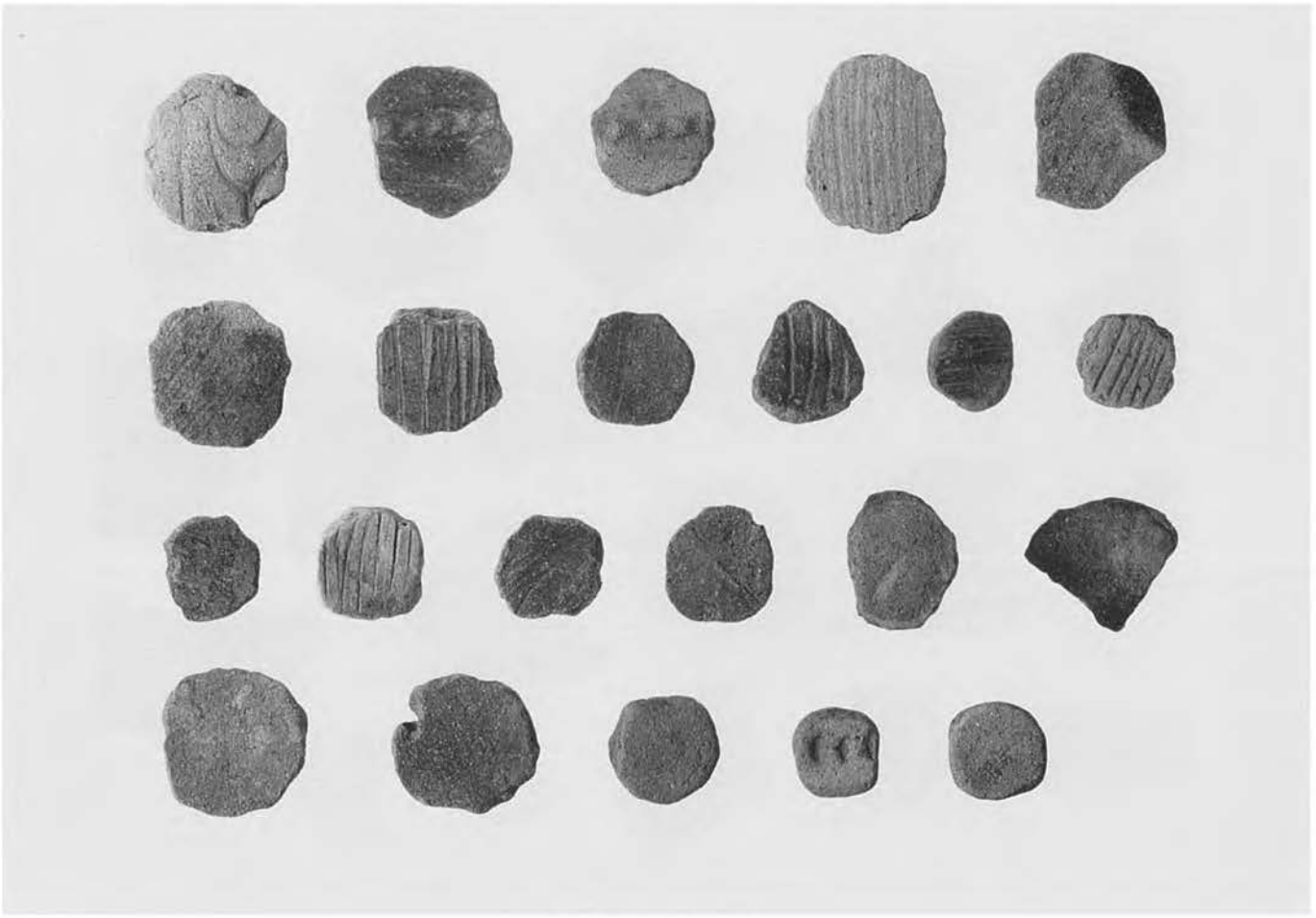
遺構外出土縄文土器（5）



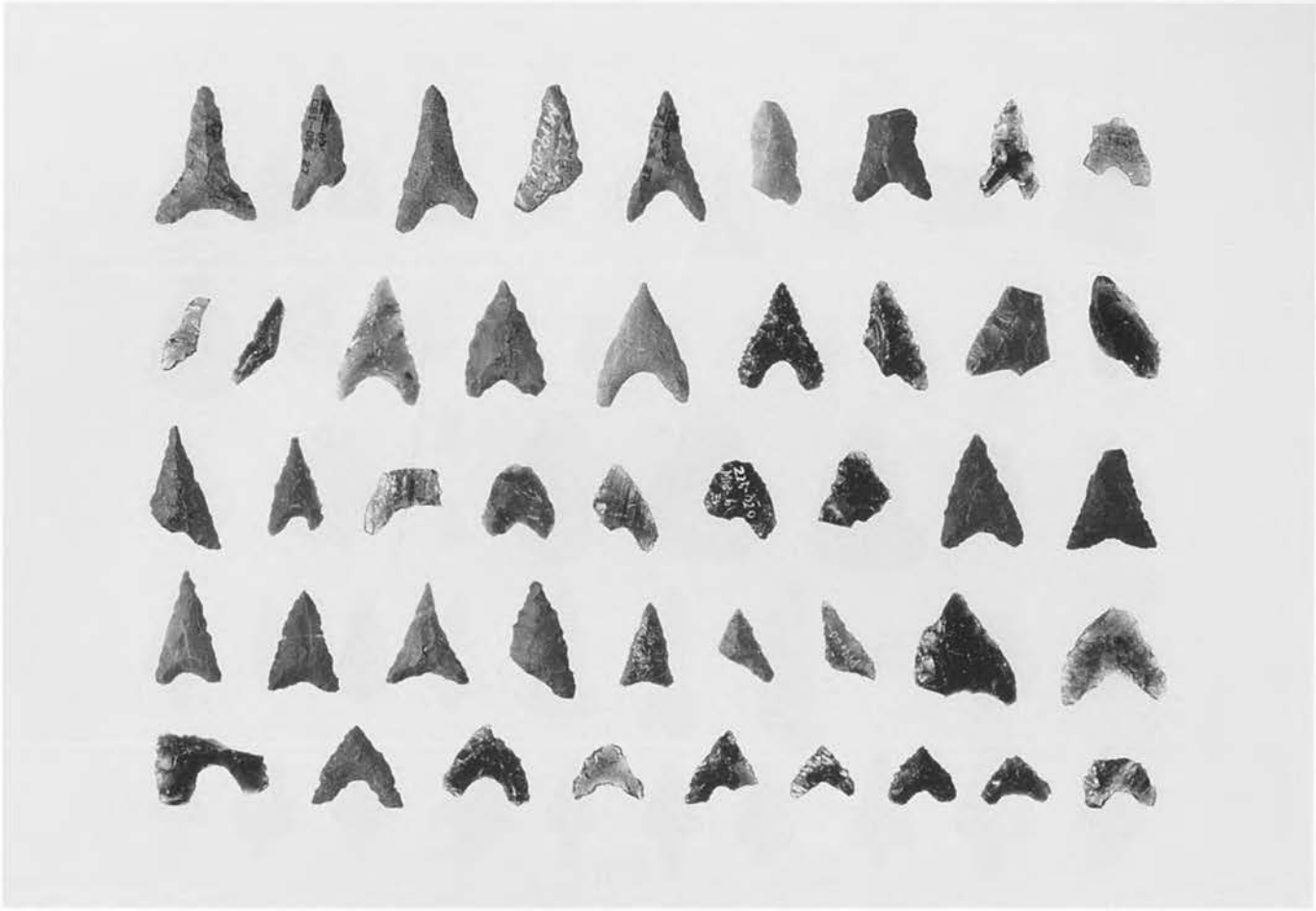


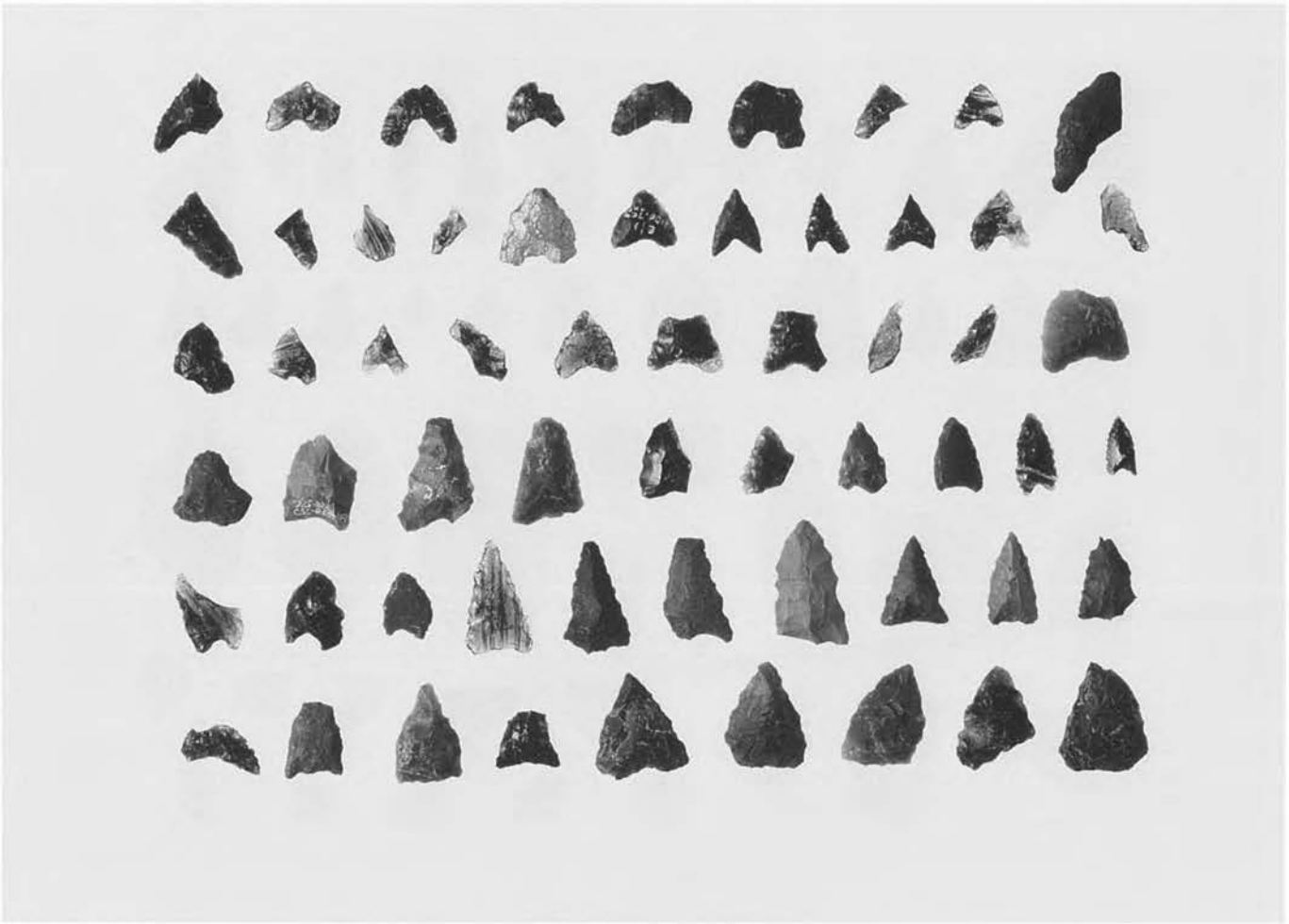
遺構外出土縄文土器（6）



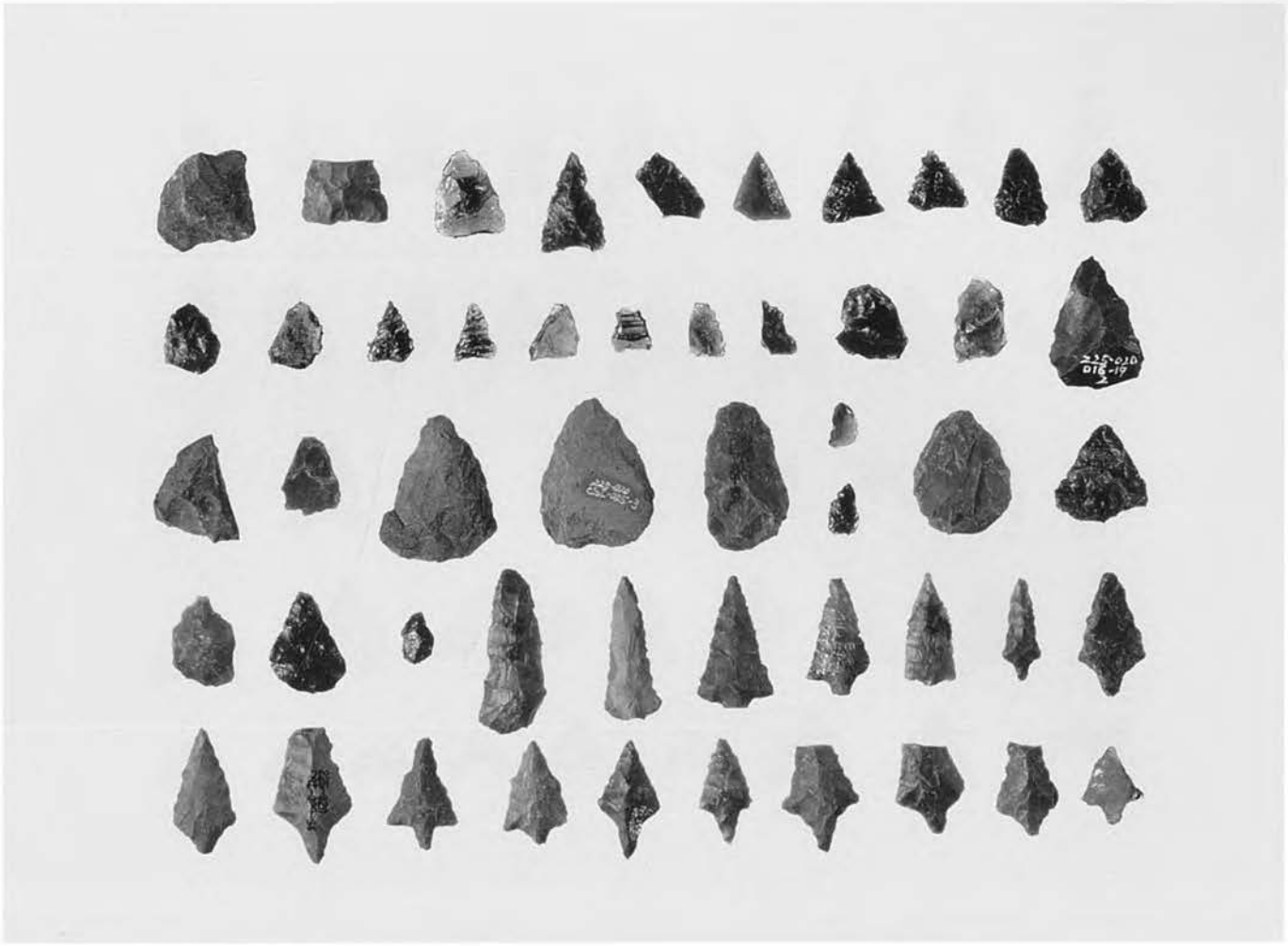


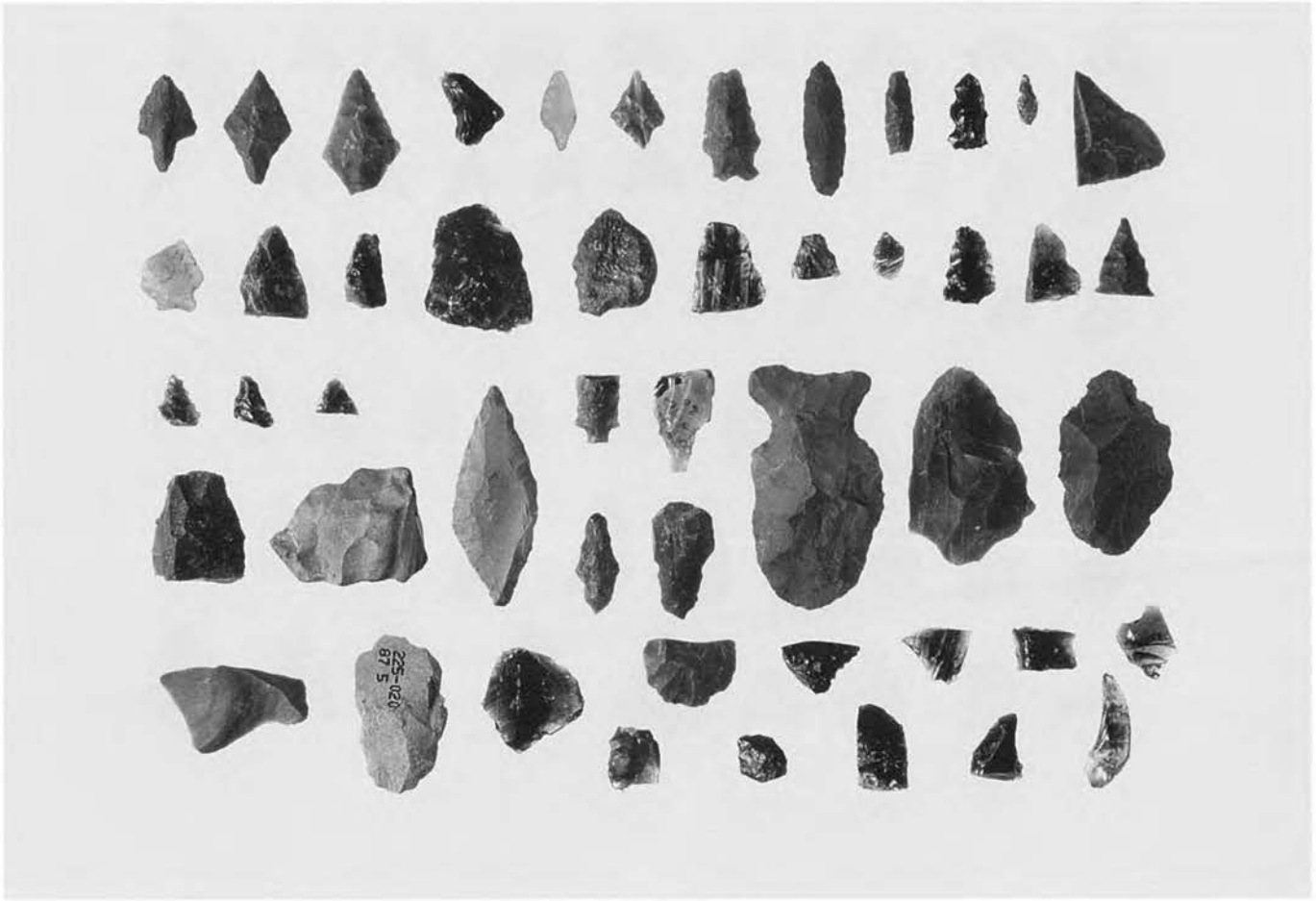
遺構外出土土製品



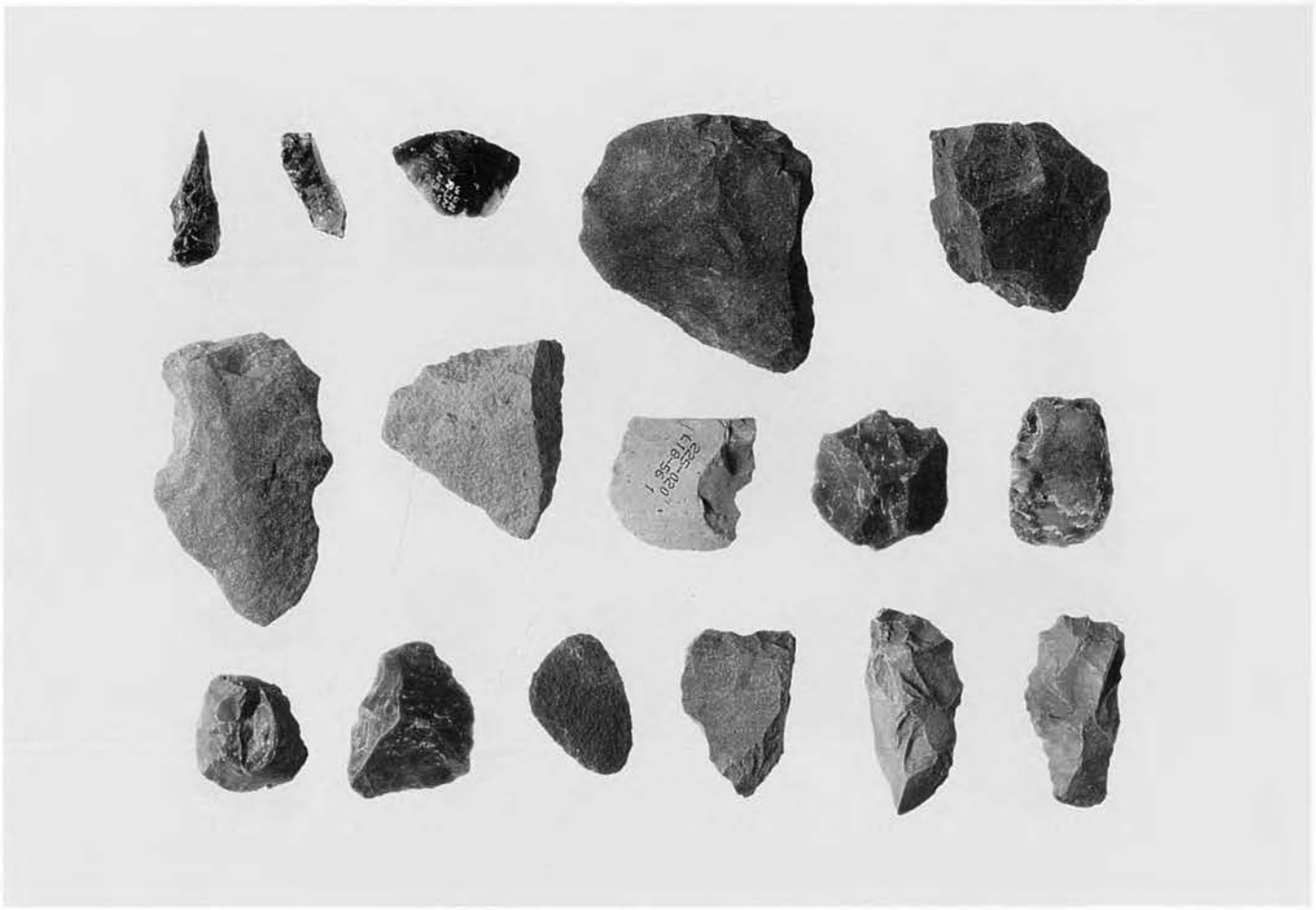


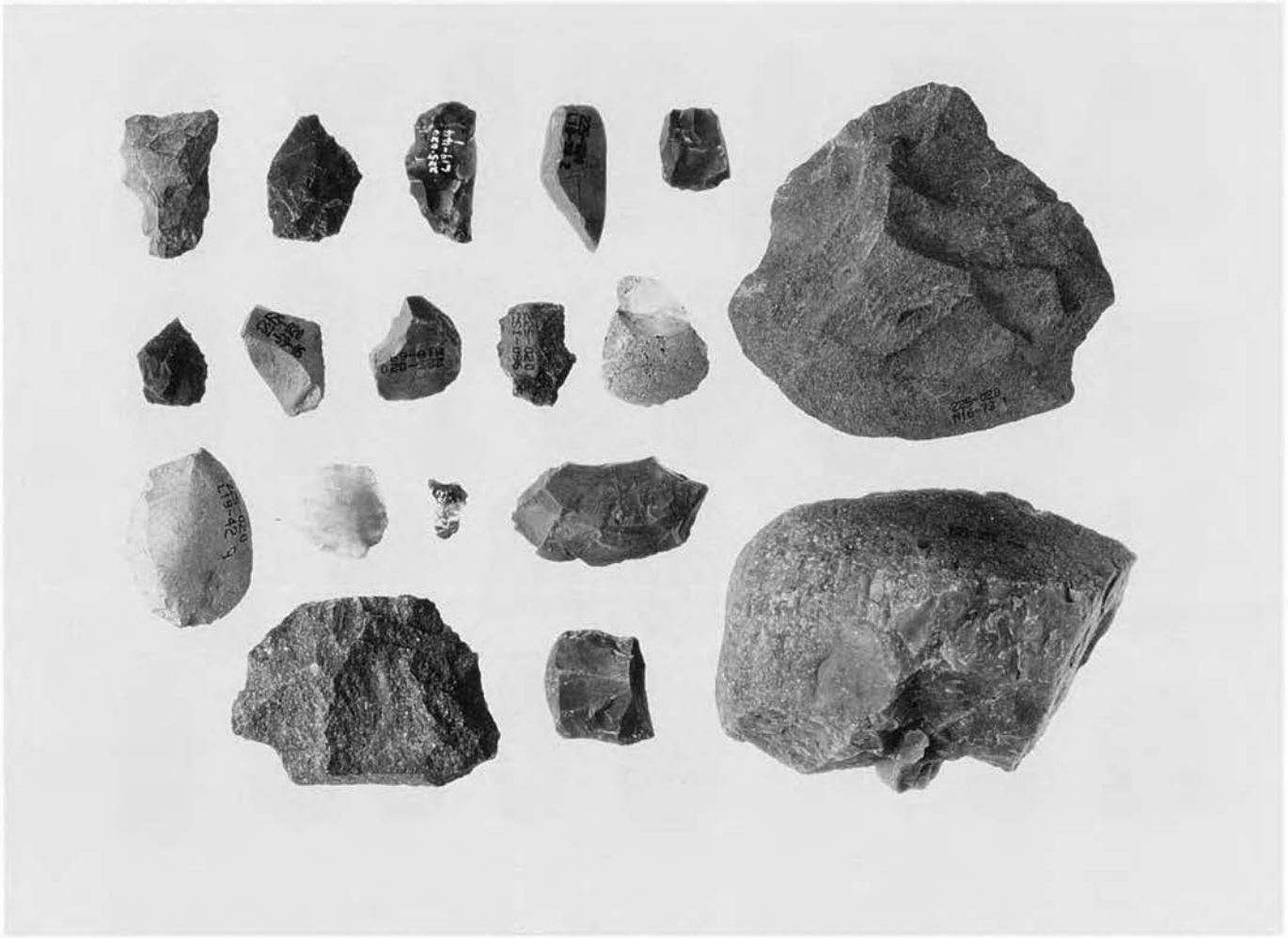
遺構外出土石器（1）



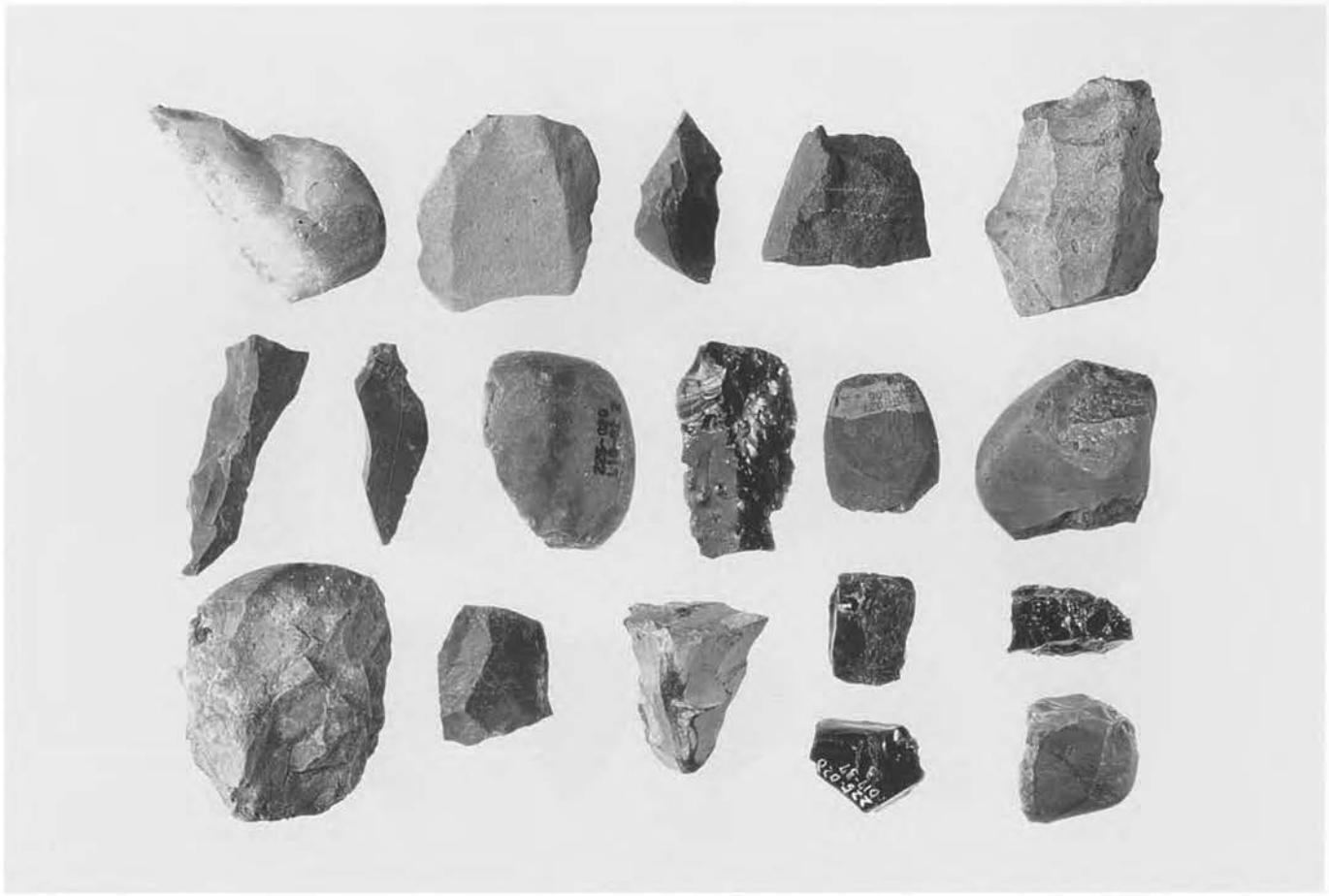


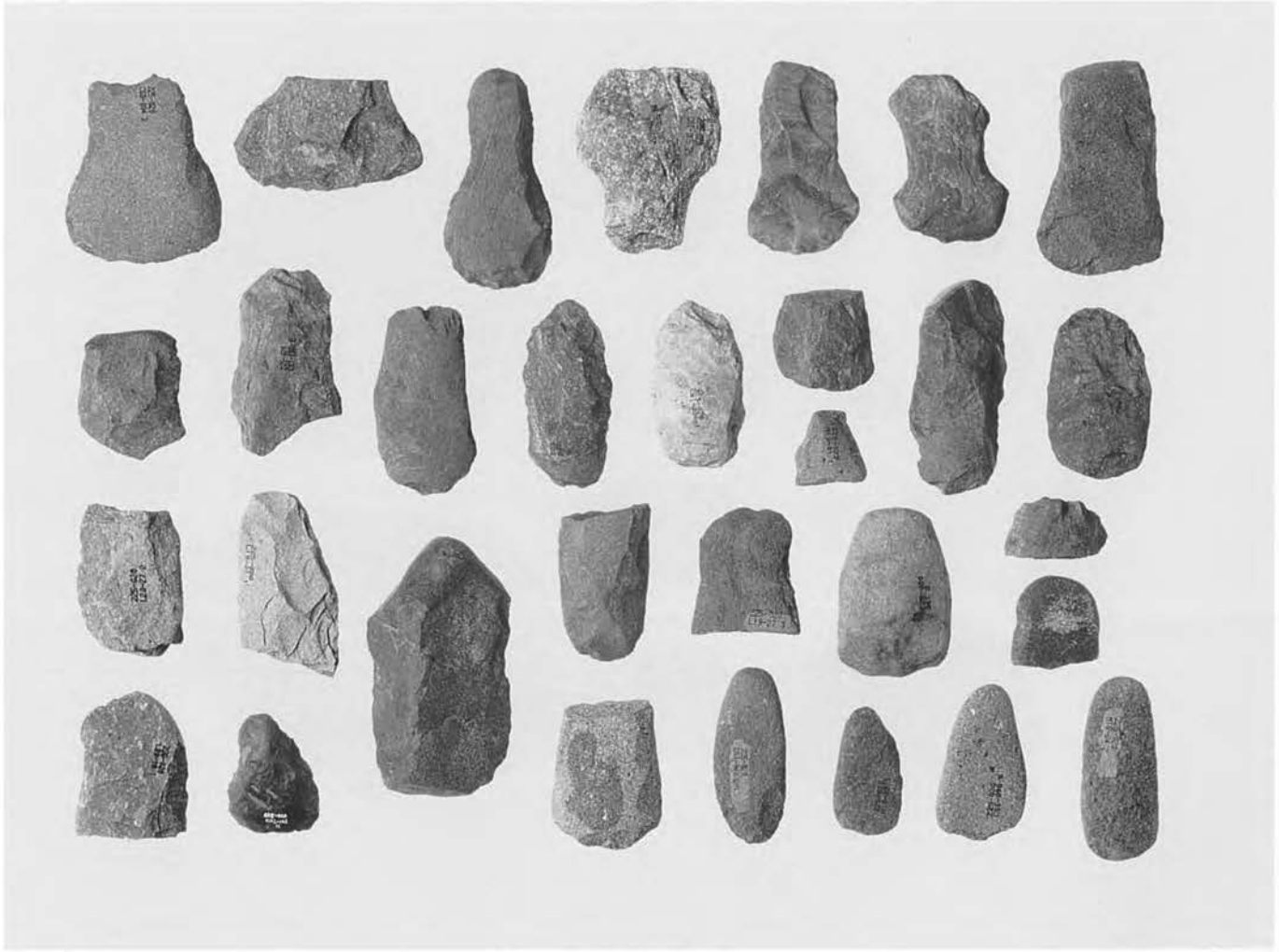
遺構外出土石器（2）



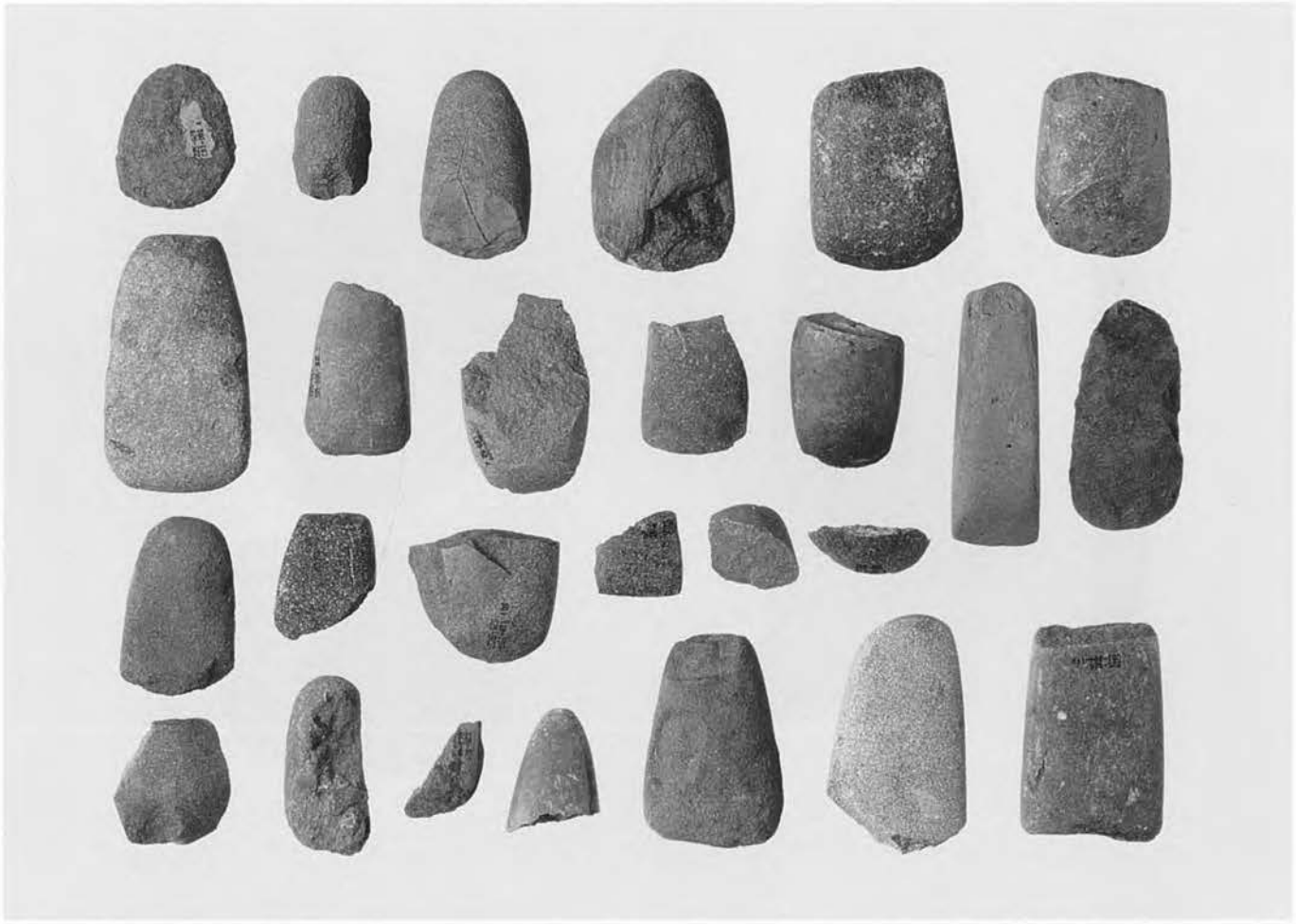


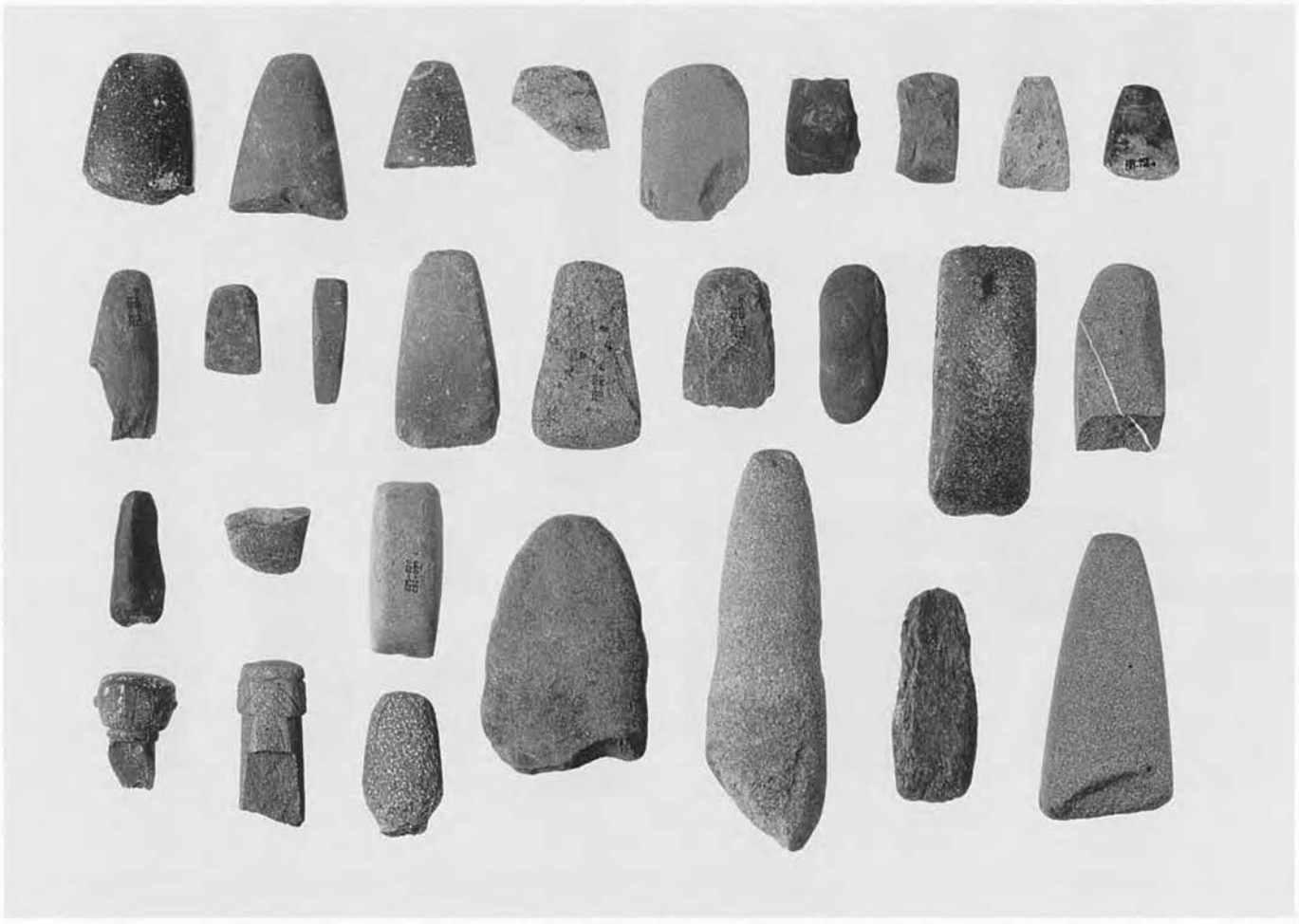
遺構外出土石器（3）



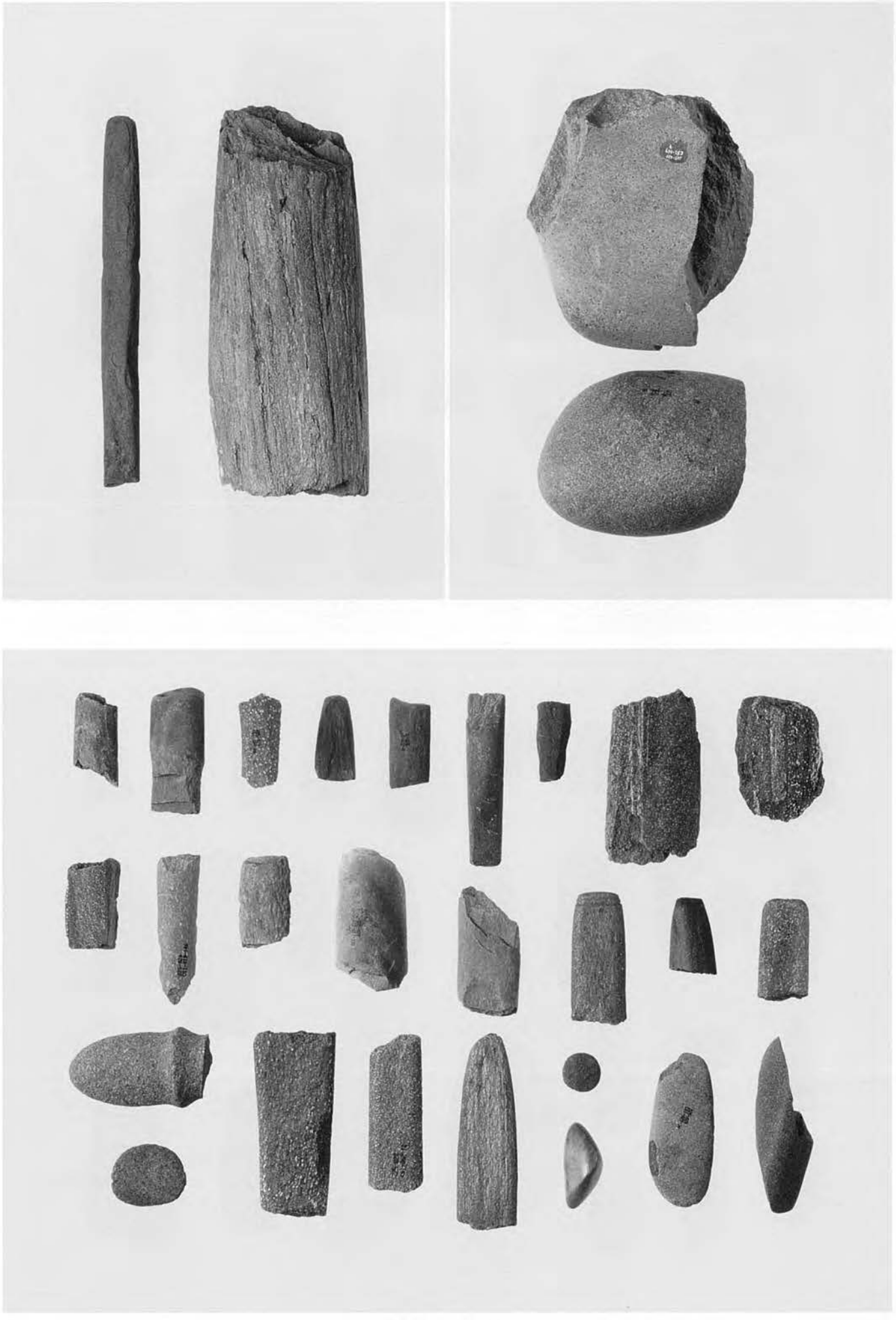


遺構外出土石器（4）

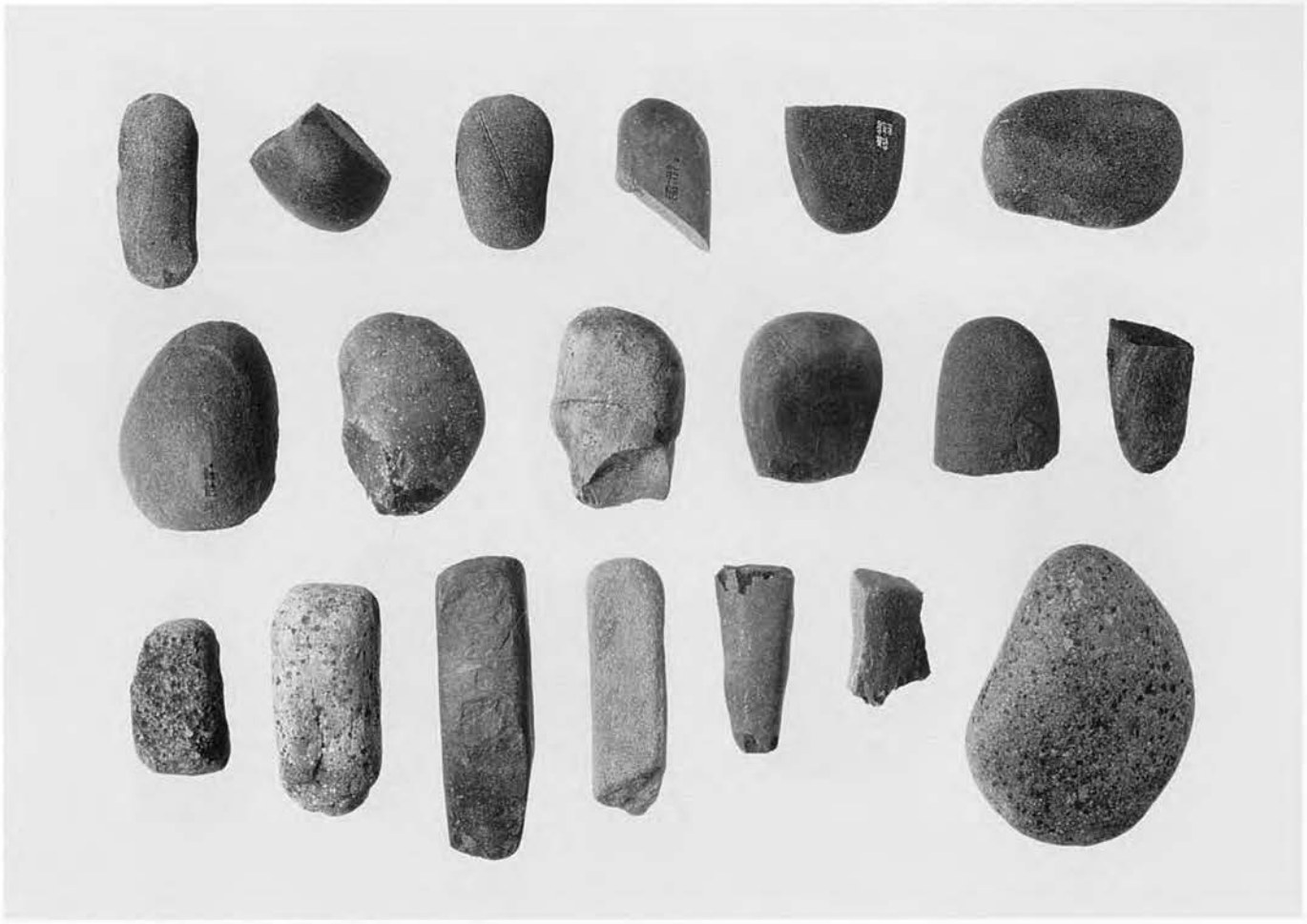


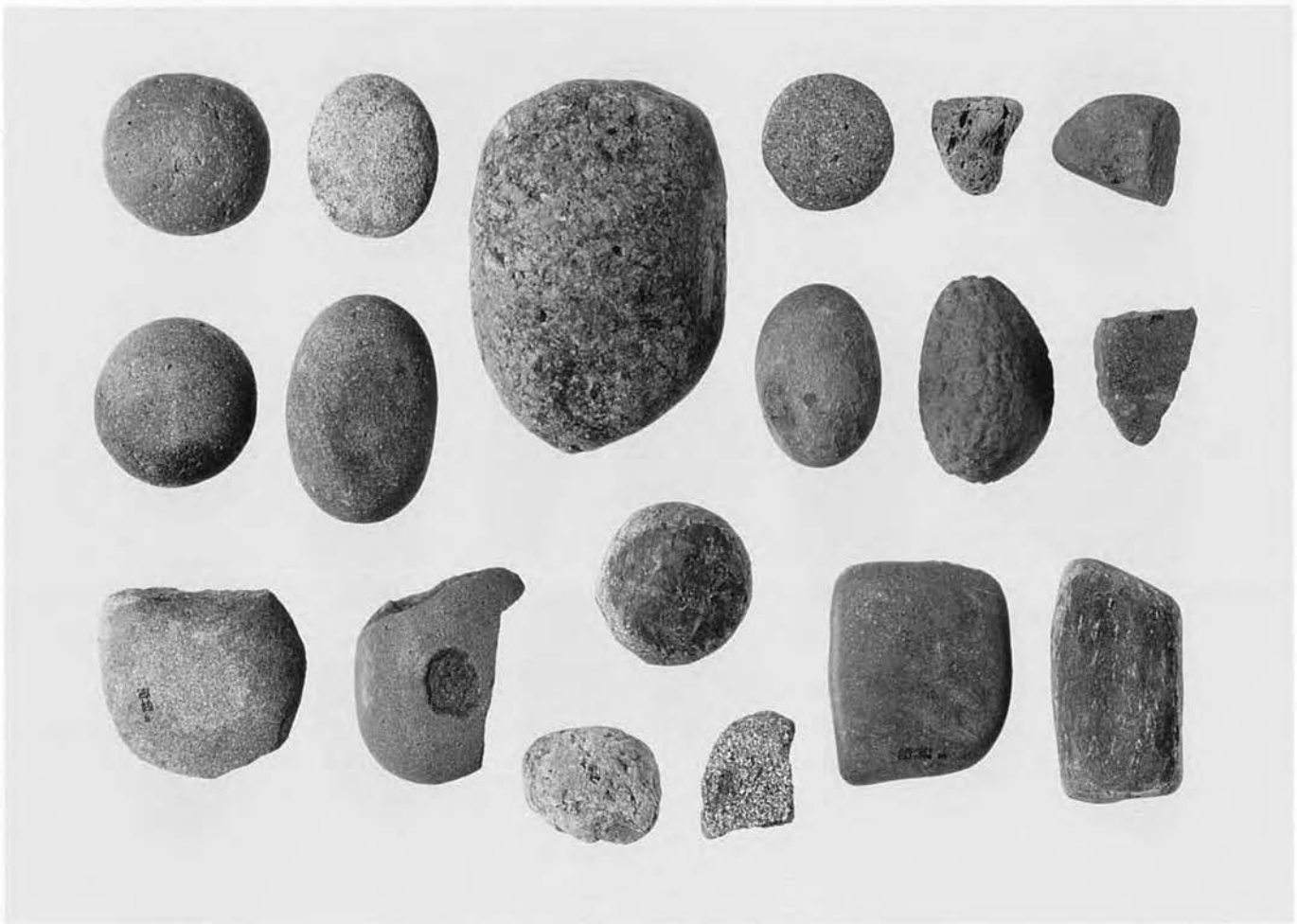


遺構外出土石器（5）

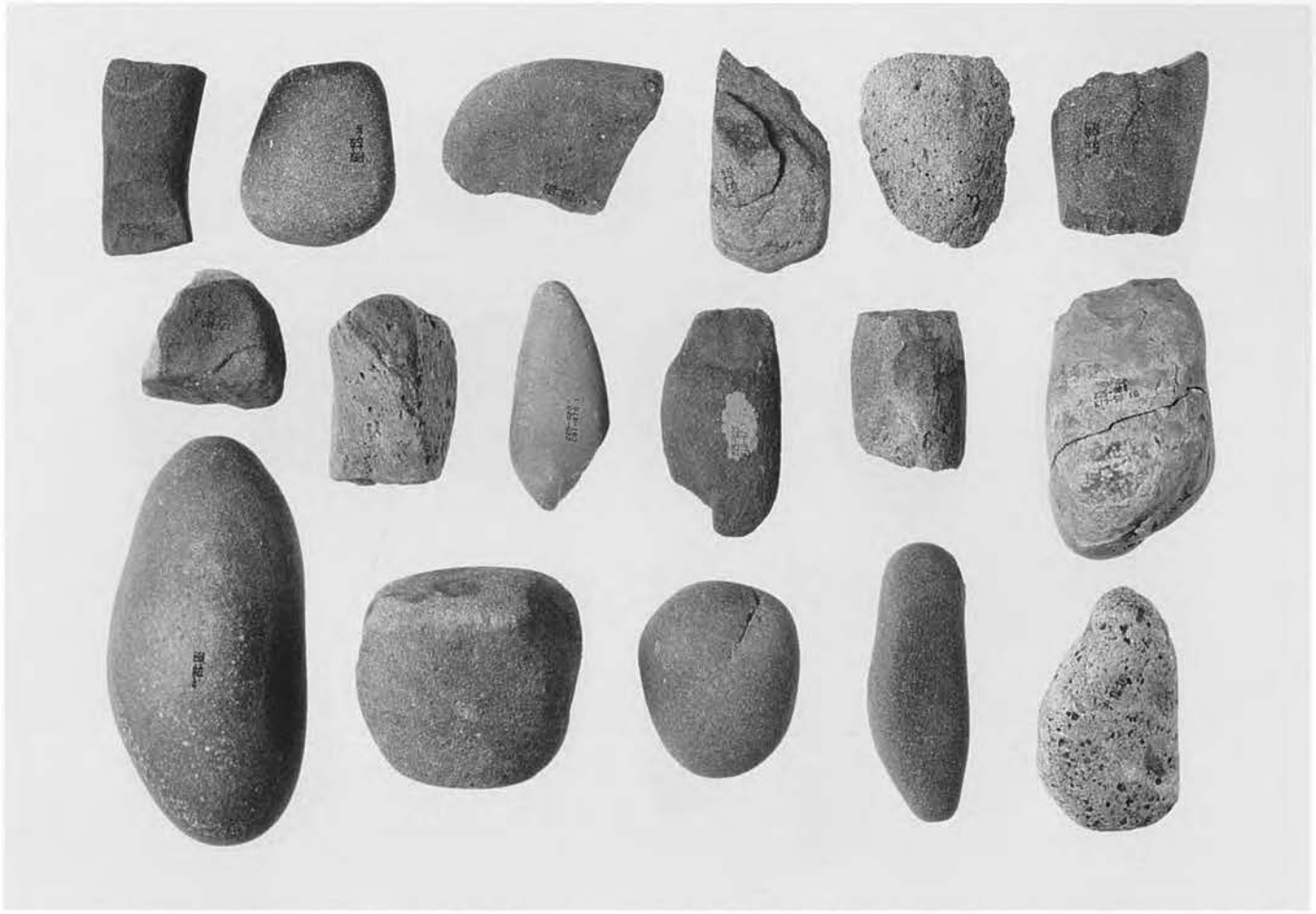


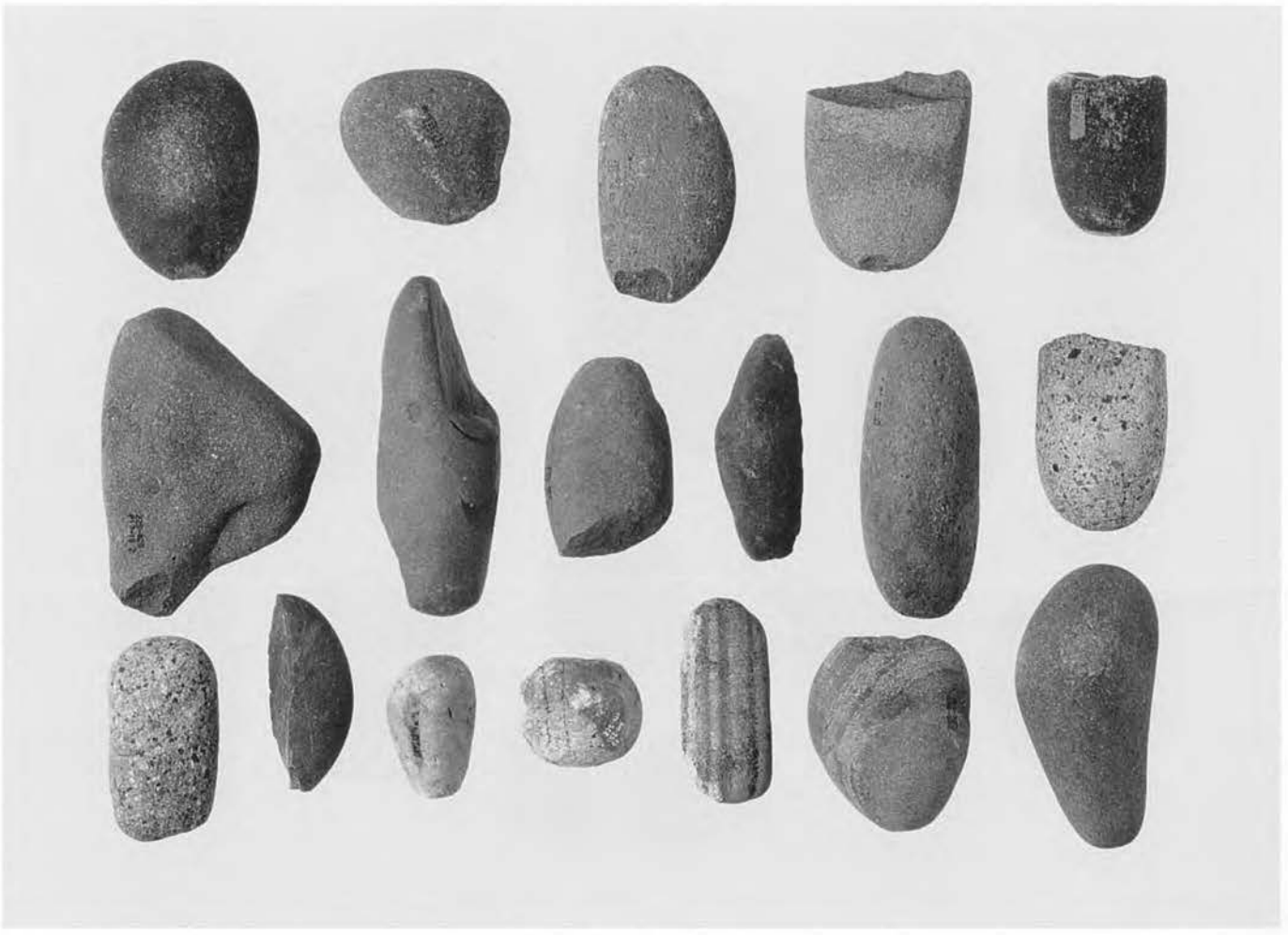
遺構外出土石器（6）



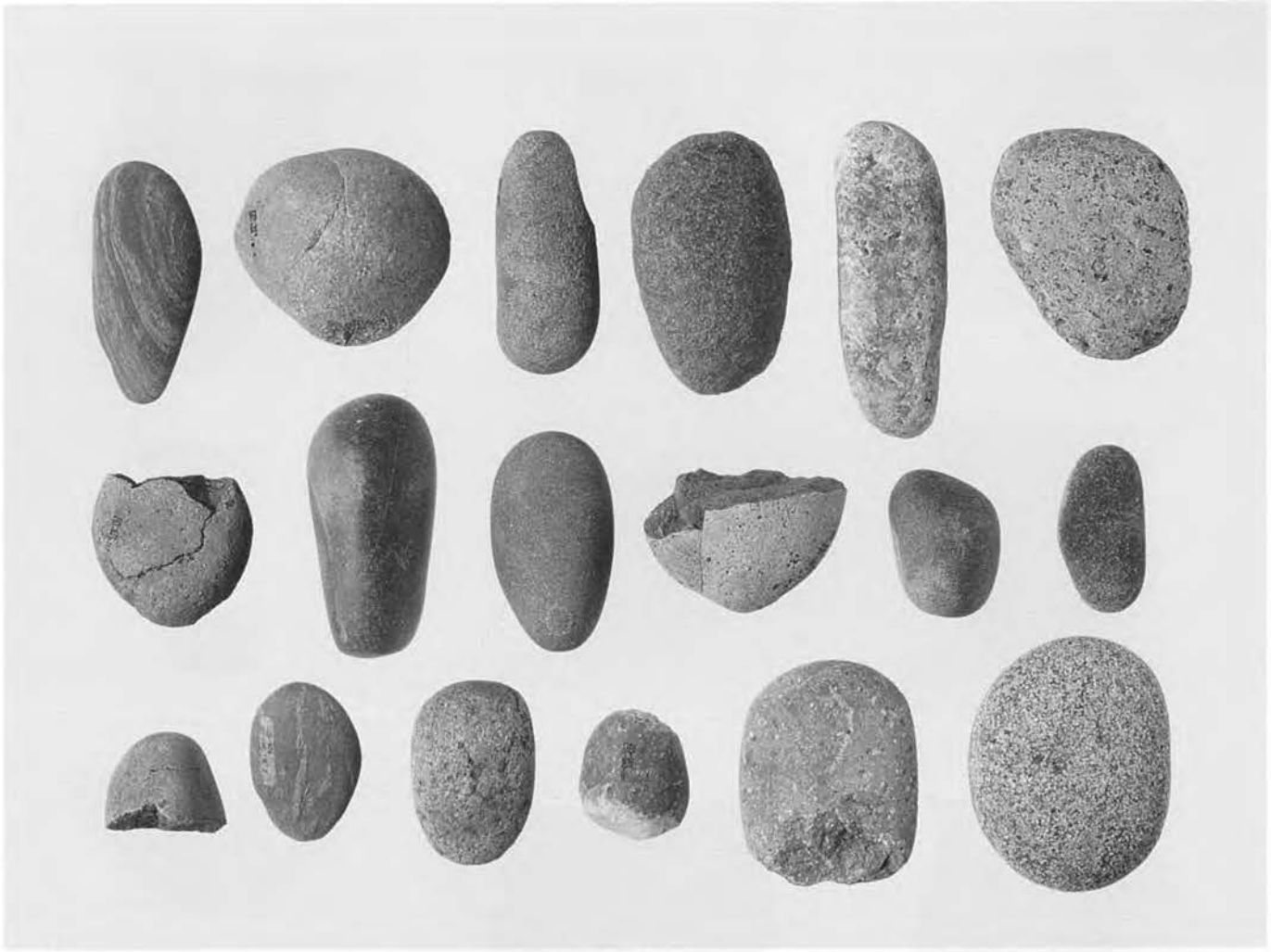


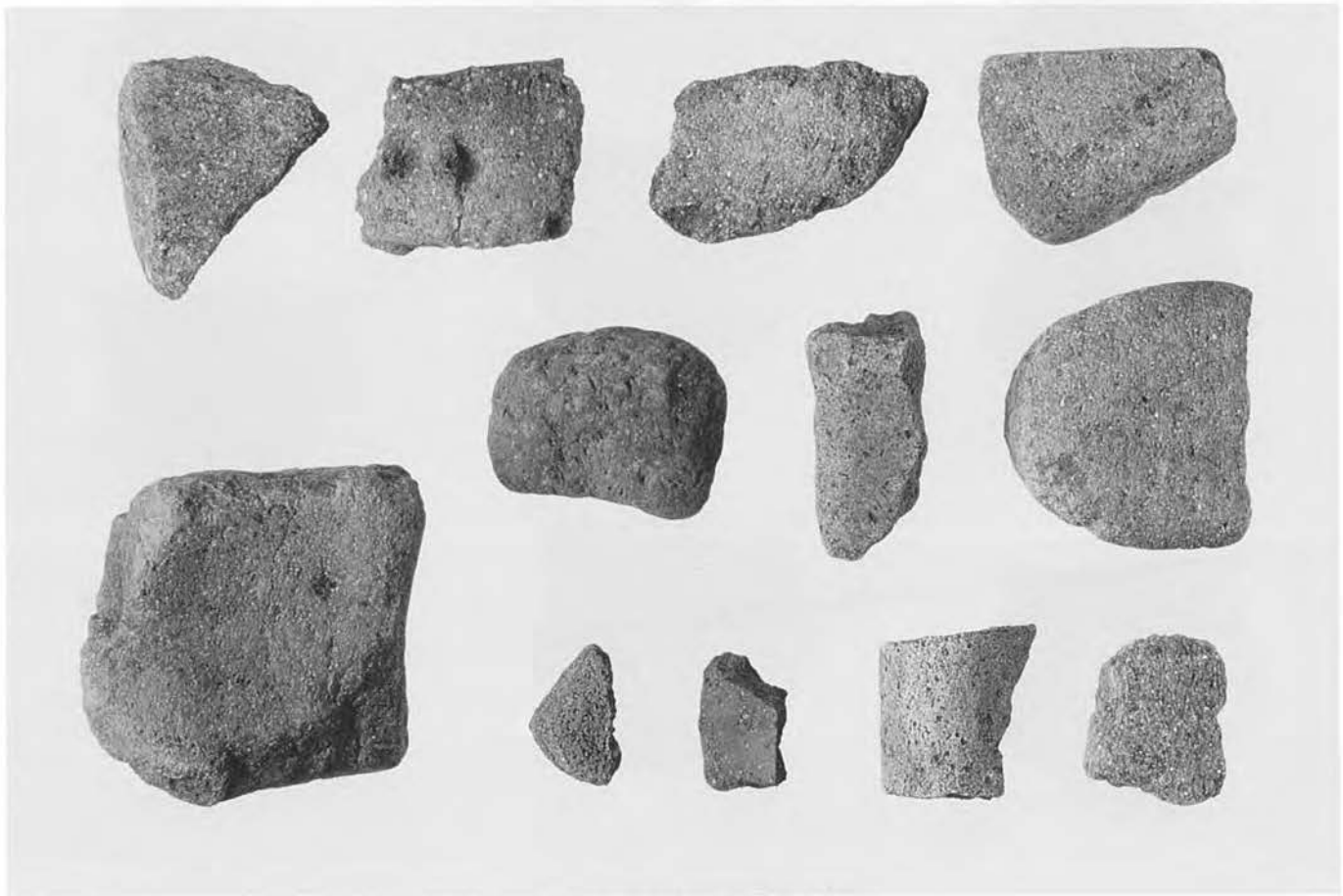
遺構外出土石器（7）





遺構外出土石器（8）





遺構外出土石器（9）

016－4

016－5

016－8

016－9

017－10

010－8

010－7

017－13

017－15

017－1

017－9

018－6

018－7

018－5

020－1

023－1

024－1

竪穴住居跡出土弥生土器（1）

024－2

024－4

036－1

037－4

037－5

037－10

037－3

037－12

037－13

043－1

037－11

037－15

043－10

037－20

043－12

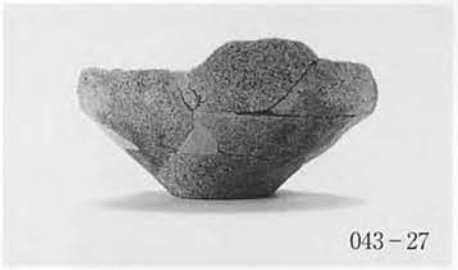
043－15

043－26

竪穴住居跡出土弥生土器（2）

043－28

043－31


043－27

043－46

043－47

043－32

043－33

043－49

043－52

043－59

043－45

043－55

043－60

050－2

054－1

043－63

048－3

043－64

竪穴住居跡出土弥生土器（3）

068－1

090－1

090－3

098－3

118－1

133－2

068－2

090－4

098－4

118－2

138－7

068－3

090－19

098－5

100－1

113－2

118－4

138－13

竪穴住居跡出土弥生土器（4）

138－23

138－24

138－27

138－28

138－29

138－35

138－31

157－2

138－49

138－48

138－47

138－50

157－1

SX002－1

SX003－1

外－33

外－30

外－39

竪穴住居跡出土弥生土器（5）・遺構外出土弥生土器

001－1

001－9

003－17

004－2

004－6

004－27

002－1

003－2

003－19

004－3

004－7

004－34

002－3

003－15

004－5

004－4

004－19

004－36

竪穴住居跡出土土師器（1）

004－38

004－44

004－52

004－39

004－41

004－61

004－62

005－3

005－5

005－4

005－7

005－8

005－9

005－10

005－11

005－12

005－13

005－14

005－15

竪穴住居跡出土土師器（2）

005－16

005－17

005－18

005－19

005－22

005－23

005－24

005－27

006－1

006－2

006－4

006－6

006－7

006－10

006－19

007－3

006－14

006－21

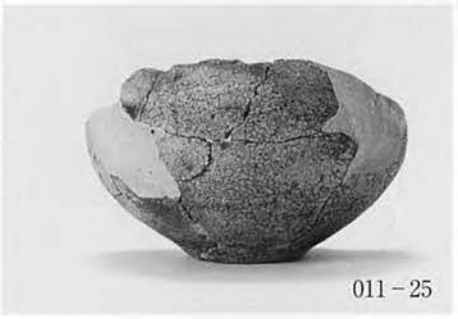
008－5

竪穴住居跡出土土師器（3）

011－3

011－12

011－13


011－25

011－26

011

011－28

011－31

011－23

011－30

011－35

011－29

011－37

011－42

011－36

011－41

竪穴住居跡出土土師器（4）

011－45

011－49

011－48

011－51

011－56

011－52

011－53

011－54

011－58

011－59

011－62

011－61

011－60

011－63

015－1

014－3

028－1

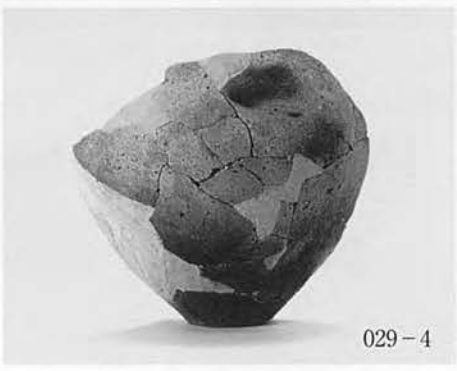
028－2

028－5

028－8

029－2

029－3


029－4

030－1

竪穴住居跡出土土師器（5）

030－3

038－14

040－1

044－1

045－1

032－1

035－1

035－5

038－11

040－2

044－4

038－18

044－5

038－20

024－1

038－3

038－4

038－5

040－3

040－4

竪穴住居跡出土土師器（6）

051－1

051－2

051－6

051－11

051－12

051－13

051－21

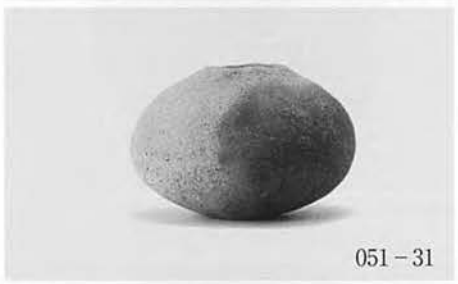
051－24

051－15

051－22

051－28

051－29


051－31

051－36

051－33

051－38

052－1

052－2

052－3

竪穴住居跡出土土師器（7）

052－5

052－6

052－8

052－11

052－10

052－9

057－1

059－2

053－1

059－8

059－3

064－3

065－8

059－17

059－15

059－18

062－5

069－4

066－1

竪穴住居跡出土土師器（8）

064－4

077－2

093－3

097－9

126－4

071－1

086－1

086－2

093－4

097－2

115－1

126－1

077－1

097－4

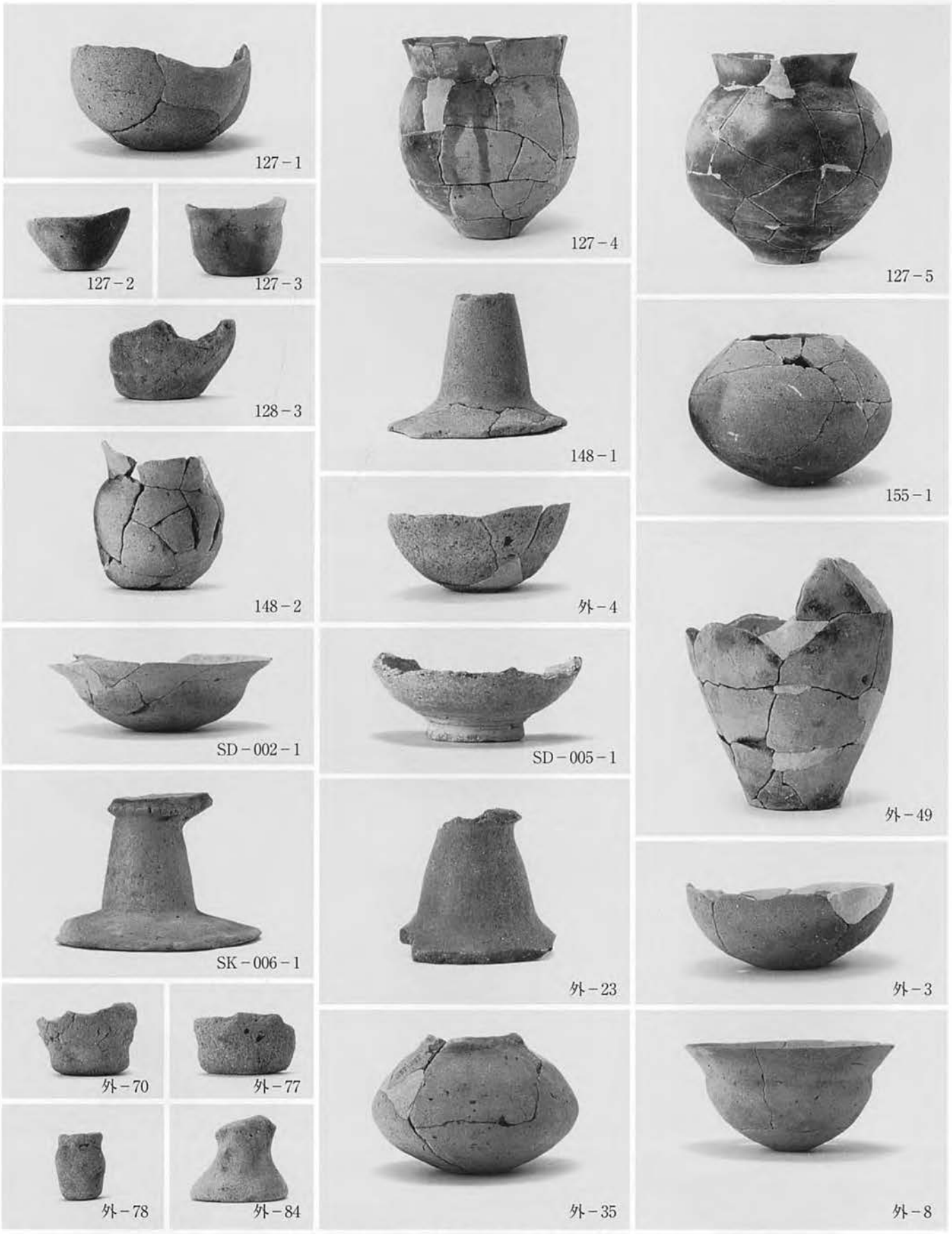
097－5

115－2

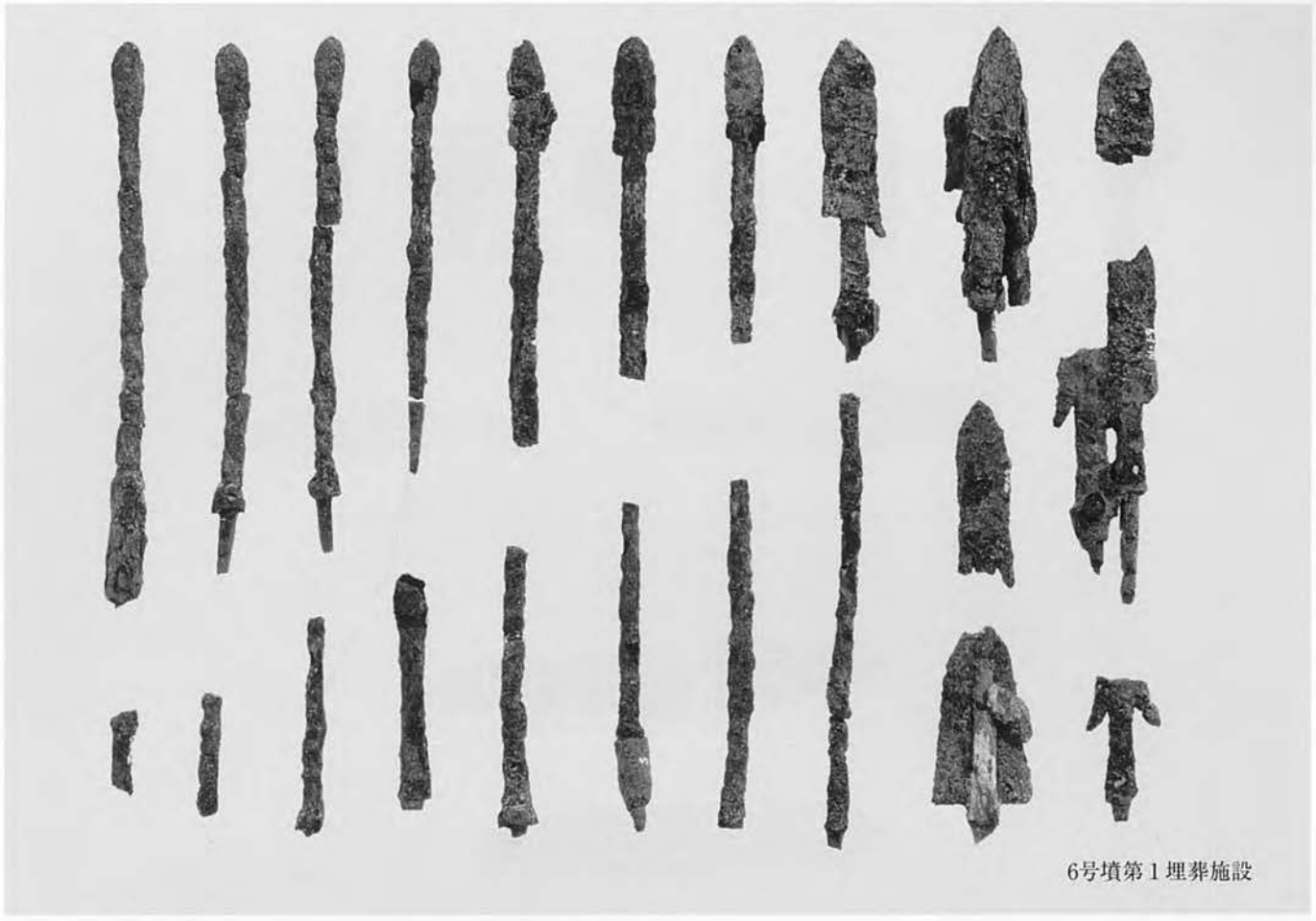
115－4

115－7

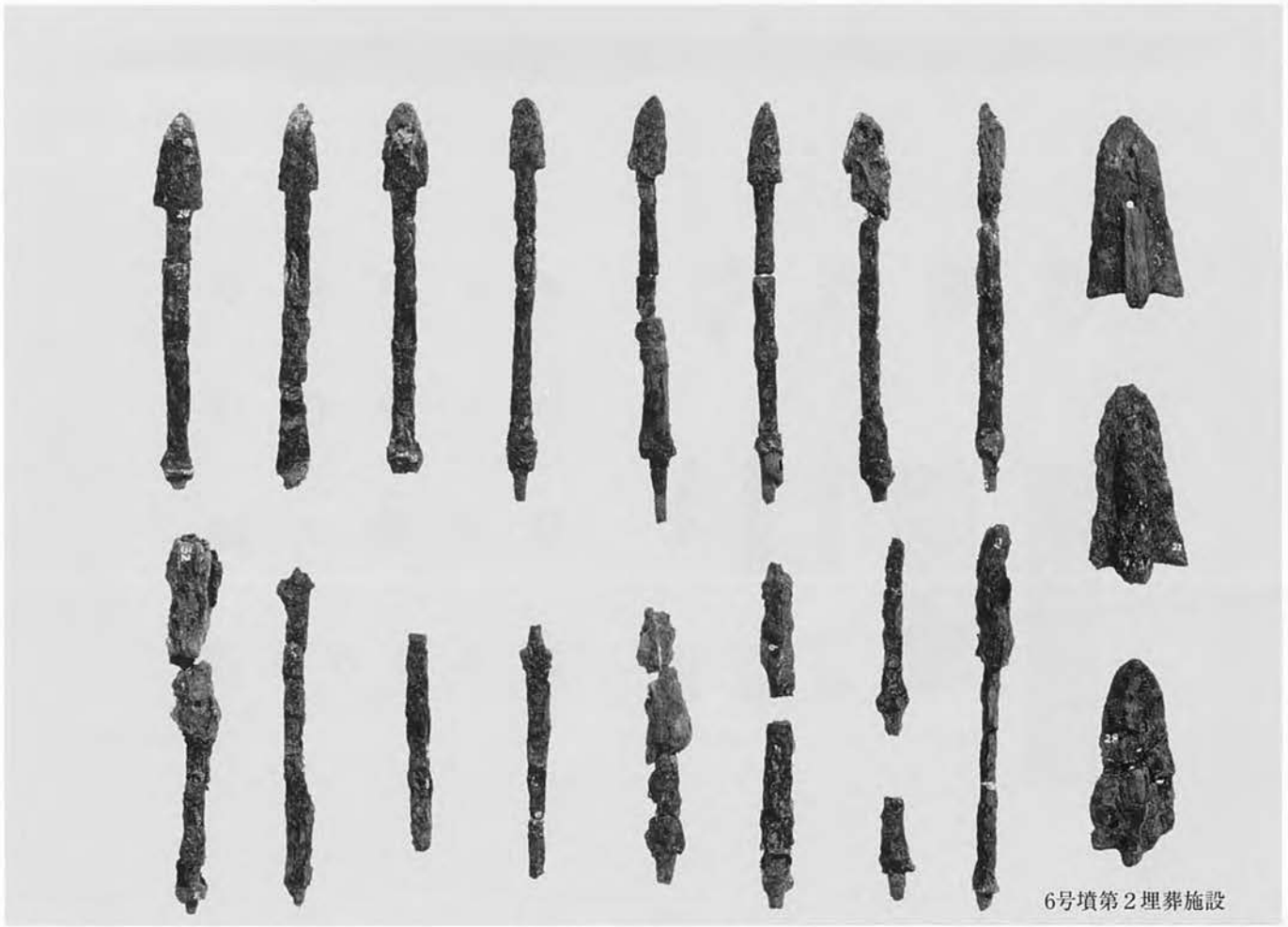
竪穴住居跡出土土師器（9）



竪穴住居跡出土土師器（10）・遺構外出土土師器

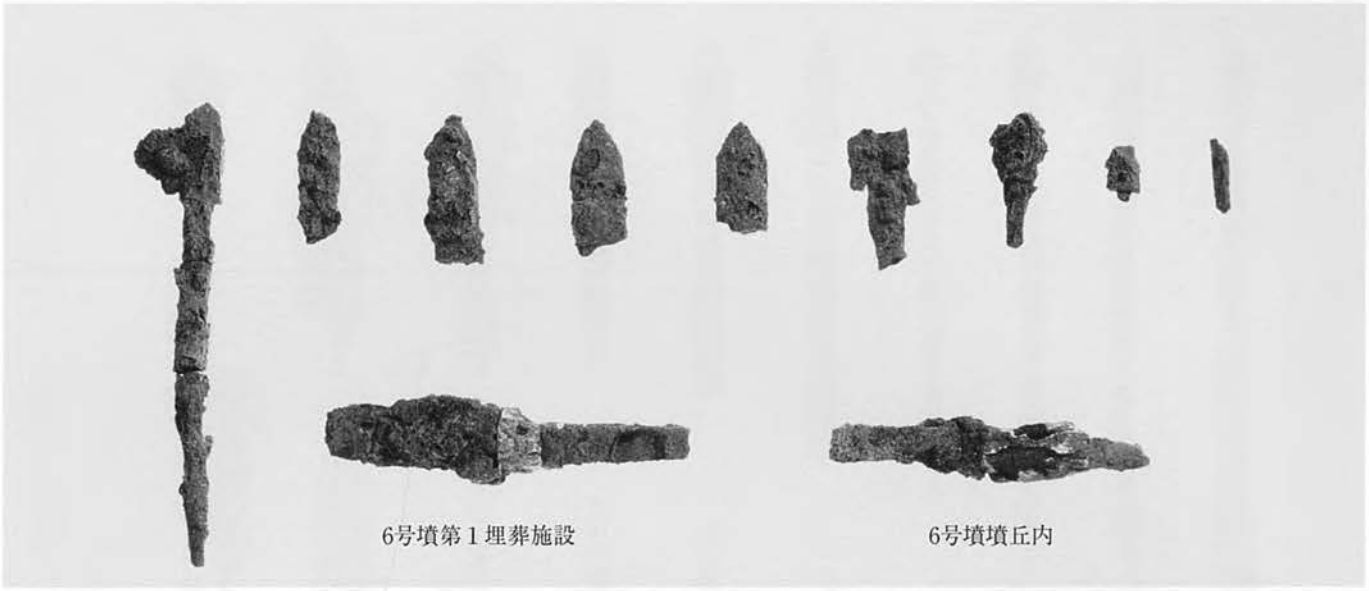


6号墳第１埋葬施設

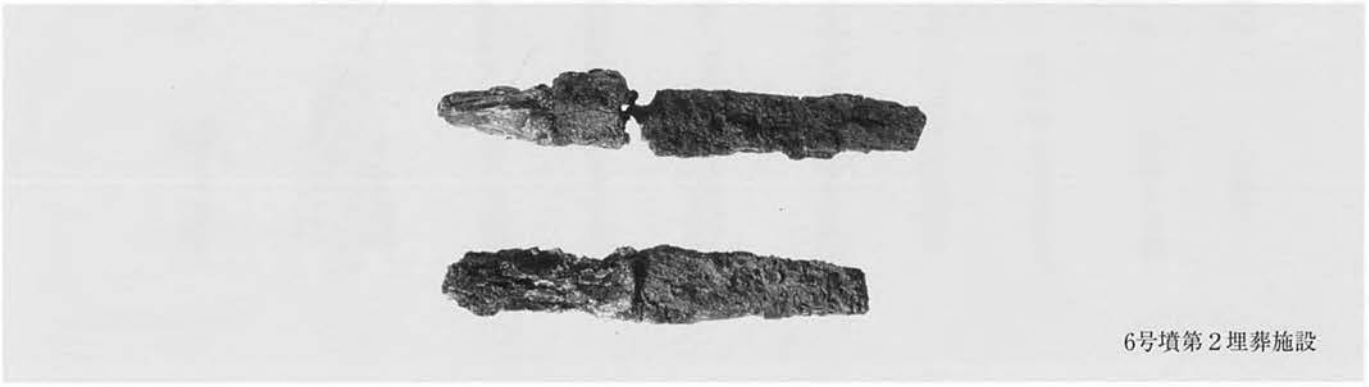


6号墳第２埋葬施設

古墳出土鉄製品（1）

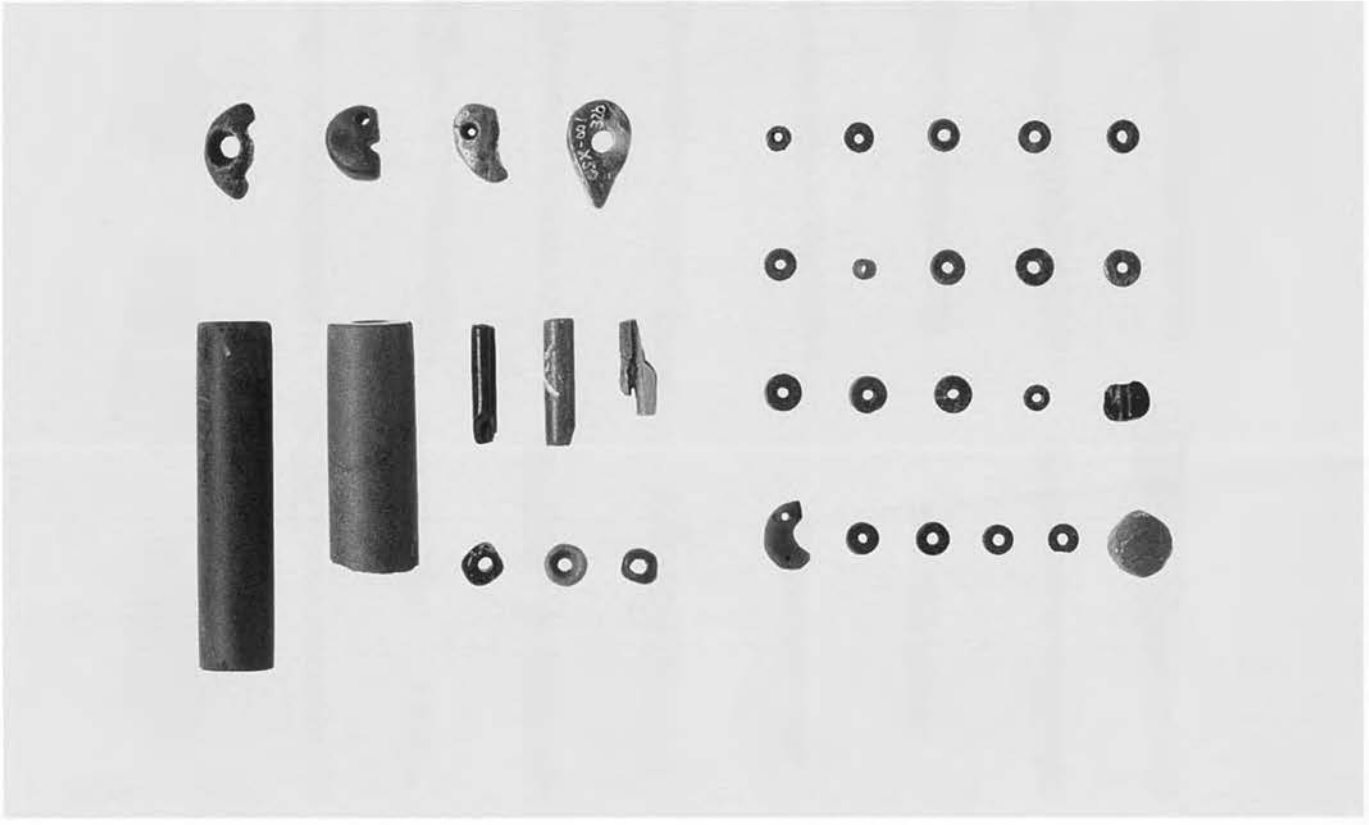


6号墳第１埋葬施設　　6号墳墳丘内



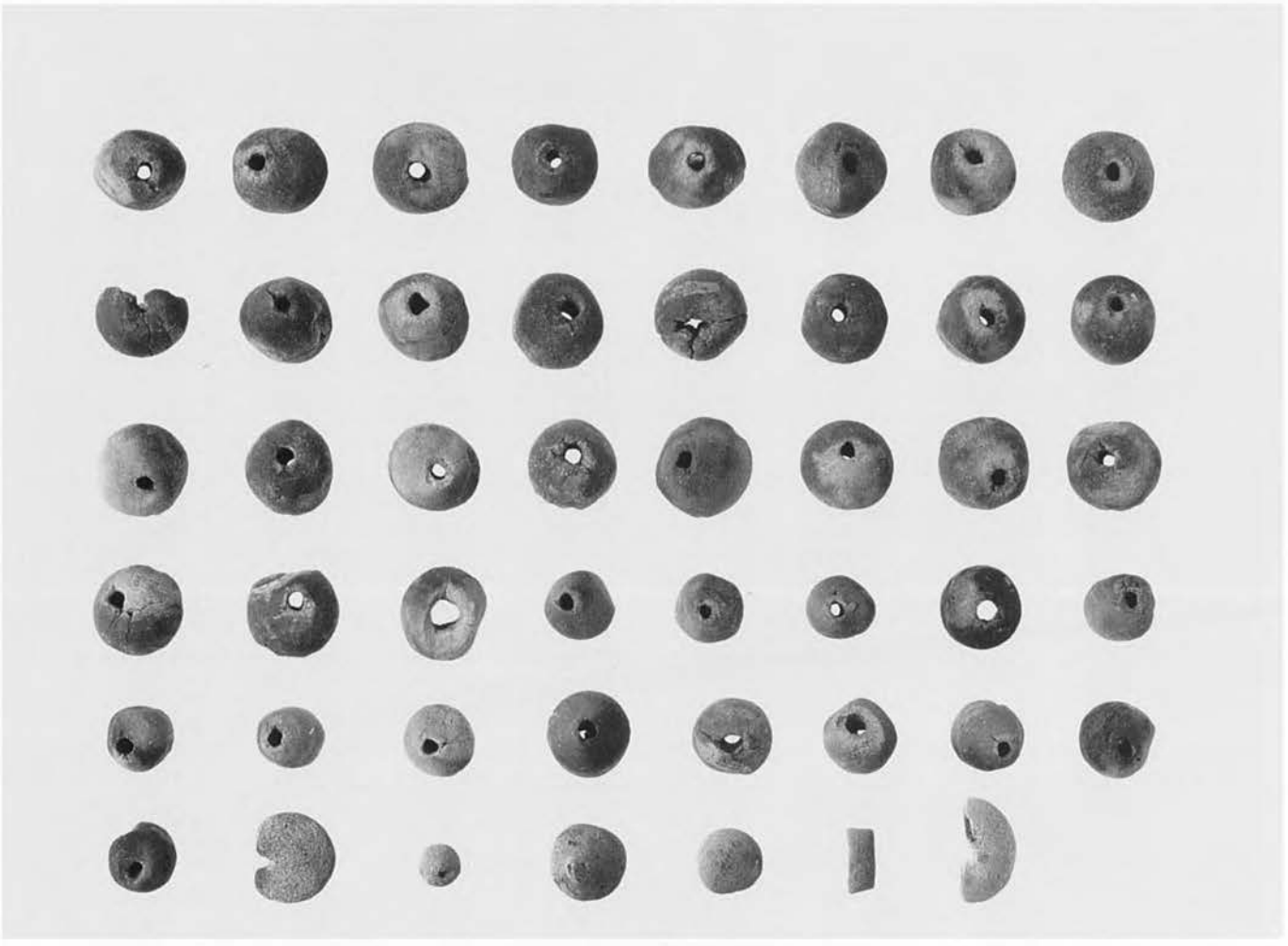
6号墳第２埋葬施設

6号墳第１埋葬施設



古墳出土鉄製品（2）・弥生時代・古墳時代玉類

石製模造品・紡錘車



土玉

報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう（きさらづ・ふっつせん）まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書
副書名	君津市鹿島台遺跡（C区）
巻次	12
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第614集
編著者名	栗田則久・安井健一・木島桂子
編集機関	財団法人　千葉県教育振興財団
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の２　TEL　043（424）4848
発行年月日	西暦2009年３月25日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
鹿島台遺跡（かしまだい）（C区）	君津市六手字鹿島台（きみつしむてあざかしまだい）761－1ほか	12225	020	35度17分42秒	139度56分28秒	20000405～20010330 20020402～20020930	7,210㎡ 古墳１基	道路建設に伴う埋蔵文化財調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
鹿島台遺跡（C区）	集落跡	縄文時代	遺物廃棄遺構	１基	縄文土器、石器、土偶	本調査区では、弥生時代中期から古墳時代中期にかけての大規模な集落が形成され、古墳時代中期以降は、集落が姿を消し、古墳群が営まれるようになる
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡	61軒	弥生土器、勾玉	
	古墳		土坑	２基		
		古墳時代	竪穴住居跡	60軒	土師器、石製模造品	
					土玉、玉類	
			土坑	２基		
			壷棺墓	３基		
		古墳時代	古墳	２基	直刀、鉄鏃、刀子	

要約	鹿島台遺跡C区の調査では、縄文時代の集落は確認されなかったものの、中期から後期を主体として遺物集中地点が１か所検出された。集落としては、弥生時代中期から古墳時代中期にかけての多くの竪穴住居跡が調査区全体に認められた。なかでは、古墳時代中期を主体とした石製模造品などの祭祀遺物がまとまって出土している。

千葉県教育振興財団調査報告第614集

東関東自動車道（木更津・富津線）
埋蔵文化財調査報告書12
－君津市鹿島台遺跡（C区）－

平成21年３月25日発行

編　集　財団法人　千葉県教育振興財団

発　行　東日本高速道路株式会社
関東支社
台東区北上野一丁目10番14号
財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印　刷　株式会社　エリート情報社[印刷出版局]
成田市東和田415－10